岐阜県文化財保護センター調査報告書　第66集

野笹遺跡 I

2000

財団法人　岐阜県文化財保護センター

野笹遺跡遠景

ＳＲ１　堰１と取水口

人面付土器片と土偶片

弥生時代中期初頭の土器

D区　ＳＢ３

D区　ＳＢ３　出土遺物

古墳時代後期　住居出土遺物

中国磁器

序

野笹遺跡のある美濃加茂市は、木曽川、飛騨川が合流する、開けた盆地です。ここは、縄文・弥生・古墳時代などの遺跡がたくさんあり、古くから人間の営みがなされた場所でした。また、東山道や中山道が通る場所で、交通の要所でした。

野笹遺跡は、木曽川のほとりの段丘上にある遺跡です。このたび、一般国道248号線の工事のため、遺跡を現状のまま残すことができなくなったため、発掘調査を実施しました。

今回の発掘調査によって、縄文時代、弥生時代、古墳時代、中世の住居跡や建物跡がたくさんの遺物とともに見つかりました。縄文時代では、表情豊かな土偶、千点を超える打製石斧などが出土し、当時の生活の一部を覗くことができました。弥生時代では、東日本で最古となる遠賀川式土器の出土や、松菊里型類似住居や壺棺墓の検出等、当時この地域の中心的な集落がここに存在していたことがわかりました。古墳時代では、24軒もの住居跡が密集して検出され、中世の、幅約十mの大溝に川原石をひいた配石遺構は、全国的に見てもあまり例のない貴重なものです。

なお、本報告書が刊行されるまでには、岐阜県可茂土木事務所や、美濃加茂市、美濃加茂市教育委員会、遺跡周辺の住民の皆様から、終始多大なご援助、ご協力を賜りました。深く感謝申し上げます。

平成12年12月

財団法人　岐阜県文化財保護センター
理事長　服　部　卓　郎

例　　言

1　本書は岐阜県美濃加茂市野笹町に所在する野笹遺跡（岐阜県遺跡番号21211-08845）の発掘調査報告書である。

2　本調査は、一般国道248号道路改良工事事業に伴うもので、岐阜県土木部から岐阜県教育委員会が委託を受けた。本発掘調査は財団法人岐阜県文化財保護センターが実施した。

3　発掘調査は、平成８・９年度に実施した。平成８年度は、故大参義一愛知学院大学教授の指導のもと千藤克彦・松岡千年が担当し、平成９年度は、千藤が担当した。

4　遺物の写真撮影は千藤が行った。

5　本書の執筆は、千藤が担当し、第５章についてはそれぞれ執筆者を明記した。石器の使用痕分析については原田　幹氏から玉稿を賜った。編集は千藤が行った。

6　地形測量は㈱イビソクに委託して行った。航空写真測量は、㈱イビソク・㈱アジア航測に委託した。

7　自然科学分析は、パレオ・ラボ、遺物分析研究所に委託して行った。

8　発掘調査及び報告書の作成にあたって次の方々や諸機関からご助言・ご指導をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。（敬称略・五十音順）

井川祥子　石川日出志　石黒立人　内堀信雄　宇野隆夫　遠藤邦彦　大熊茂弘　岡本直久
小野善裕　可児光生　金子健一　河合君近　後藤常明　佐藤由紀男　鹿野勘次　城ヶ谷和広
鈴木正貴　角南聡一郎　田崎博之　中野晴久　永井宏幸　野口哲也　原田　幹　深澤芳樹
藤澤良祐　藤根　久　宮腰健司　森　勇一　渡辺博人　藁科哲男
美濃加茂市教育委員会　美濃加茂市都市計画課　美濃加茂市野笹町２丁目自治会

9　本文中の座標は国土座標 第Ⅶ系に基づき、方位は座標北を表している。

10　土及び土器類の色調は、小山正忠・竹原秀雄（1996）『新版標準土色帖』による。

11　調査記録及び出土品は、財団法人岐阜県文化財保護センターで保管している。

目　　次

序
例言
目次
第１章　発掘調査の経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　発掘調査の経緯と方法 …… 2

第２章　遺跡の立地と環境 …… 4
　第１節　周辺の地形 …… 4
　第２節　歴史的環境 …… 4

第３章　基本層序 …… 6
　第１節　基本層序 …… 6
　第２節　遺跡の基盤の層序 …… 6

第４章　遺構と遺物 …… 9
　第１節　遺構と遺物の概要 …… 9
　第２節　遺構と遺物 …… 26
　第３節　包含層の遺物 …… 124

第５章　自然科学的手法による報告・検討 …… 197
　第１節　野笹遺跡出土石器の使用痕分析（原田　幹） …… 197
　第２節　縄文中期砂層堆積物の粒度組成（菱田　量・藤根　久） …… 202
　第３節　野笹遺跡のプラント・オパール（鈴木　茂） …… 205
　第４節　かまど石に使用された軟質岩石（今村美智子・藤根　久） …… 208
　第５節　弥生土器の胎土材料（藤根　久・今村美智子） …… 212
　第６節　弥生土器表面及び山茶碗内側に付着する赤色物（宮野義則・藤根　久） …… 221
　第７節　野笹遺跡出土サヌカイト製遺物、下呂石製遺物および
　　黒曜石製遺物の原材産地分析（藁科哲男） …… 223

第６章　考察とまとめ …… 240

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図 …… 1
第２図　調査区設定図 …… 3
第３図　地形区分と遺跡分布 …… 5
第４図　Ａ・Ｂ・Ｃ区、Ｄ区土層図 …… 7
第５図　遺構全体図（１） …… 12
第６図　遺構全体図（２） …… 13
第７図　遺構全体図（３） …… 14
第８図　遺構全体図（４） …… 15
第９図　遺構全体図（５） …… 16
第10図　遺構全体図（６） …… 17
第11図　遺構全体図（７） …… 18
第12図　遺構全体図（８） …… 19
第13図　遺構全体図（９） …… 20
第14図　遺構全体図（10） …… 21
第15図　遺構全体図（11） …… 22
第16図　遺構全体図（12） …… 23
第17図　遺構全体図（13） …… 24
第18図　遺構全体図（14） …… 25
第19図　ＳＢ14実測図 …… 27
第20図　ＳＢ14遺物出土状況 …… 28
第21図　ＳＢ14出土遺物 …… 29
第22図　ＳＢ14出土遺物 …… 30
第23図　ＳＢ14・16出土石器 …… 31
第24図　ＳＢ16、Ｐ413・1056、ＳＫ1185、ＳＵ１・３実測図 …… 32
第25図　ＳＵ１・３出土遺物 …… 33
第26図　ＳＢ27実測図 …… 35
第27図　ＳＺ３、ＳＫ381・1189、Ｐ851実測図 …… 36
第28図　ＳＢ27、ＳＺ１出土遺物 …… 37
第29図　ＳＺ１、ＳＫ381・1189、Ｐ851出土遺物 …… 38
第30図　Ｄ区ＳＢ１実測図 …… 40
第31図　Ｄ区ＳＢ１・２実測図・出土遺物 …… 41
第32図　Ｄ区ＳＢ３実測図・遺物出土状況 …… 42
第33図　Ｄ区ＳＢ３出土遺物 …… 43
第34図　ＳＢ１、ＳＫ1153実測図・遺物出土状況 …… 44
第35図　ＳＢ１、ＳＫ1153出土遺物 …… 45
第36図　ＳＢ２実測図・遺物出土状況 …… 54
第37図　ＳＢ３実測図 …… 55
第38図　ＳＢ４実測図・遺物出土状況 …… 56
第39図　ＳＢ２出土遺物 …… 57
第40図　ＳＢ２～４出土遺物 …… 58
第41図　ＳＢ４・５出土遺物 …… 59
第42図　ＳＢ５・６実測図・遺物出土状況 …… 60
第43図　ＳＢ７実測図（１） …… 61
第44図　ＳＢ７実測図（２）・遺物出土状況 …… 62
第45図　ＳＢ６・７出土遺物 …… 63
第46図　ＳＢ８・９実測図 …… 64
第47図　ＳＢ10実測図、ＳＢ８～10遺物出土状況 …… 65
第48図　ＳＢ８出土遺物 …… 66
第49図　ＳＢ８～10出土遺物 …… 67
第50図　ＳＢ11・12実測図（１） …… 68
第51図　ＳＢ11・12実測図（２）・遺物出土状況 …… 69
第52図　ＳＢ11・12出土遺物 …… 70
第53図　ＳＢ13・15実測図、ＳＢ13遺物出土状況 …… 71
第54図　ＳＢ17・18・22実測図 …… 72
第55図　ＳＢ19・20、ＳＸ１実測図 …… 73
第56図　ＳＢ13・15・17～20出土遺物 …… 74
第57図　ＳＢ20～23出土遺物 …… 75
第58図　ＳＢ21実測図・遺物出土状況 …… 76
第59図　ＳＢ23、ＳＸ２実測図・遺物出土状況 …… 77
第60図　ＳＢ24実測図・遺物出土状況 …… 78
第61図　ＳＢ25実測図・遺物出土状況 …… 79
第62図　ＳＢ26実測図・遺物出土状況 …… 80
第63図　ＳＢ28、ＳＫ684実測図・遺物出土状況 …… 81

第64図　ＳＢ23・24出土遺物 …… 82
第65図　ＳＢ24～26出土遺物 …… 83
第66図　ＳＢ26出土遺物 …… 84
第67図　ＳＢ26・28、ＳＫ684出土遺物…… 85
第68図　敷石遺構　大溝東（１） …… 96
第69図　敷石遺構　大溝西（２） …… 97
第70図　敷石遺構　土層実測図 …… 98
第71図　堰（ＮＲ１）実測図 …… 99
第72図　敷石遺構　遺物出土状況 ……100
第73図　Ｄ区ＳＤ１～９、Ｄ区Ｐ88、ＳＵ
２実測図・遺物出土状況 …… 93
第74図　ＮＲ１、Ｄ区Ｐ88、ＳＵ２出土遺物 …102
第75図　ＳＨ１～３、ＳＡ７・８実測図 ……103
第76図　Ｄ区ＳＨ１実測図 ……104
第77図　ＳＡ１～６・９～11実測図 ……105
第78図　ＳＤ１、３～９実測図 ……106
第79図　ＳＤ13～17、19・20実測図 ……107
第80図　Ｄ区ＳＤ11・12・15～17、ＳＡ１・
２、ＳＸ１～３実測図 ……108
第81図　Ｄ区ＳＤ18・21実測図 ……109
第82図　ＳＸ３、ＳＫ58・794・1205実測図……110
第83図　ＳＡ11、ＳＤ４～７・14・15出土遺物…111
第84図　ＳＤ13・18～21出土遺物 ……112
第85図　ＳＤ16出土遺物（１） ……113
第86図　ＳＤ16出土遺物（２） ……114
第87図　ＳＤ17出土遺物（１） ……115
第88図　ＳＤ17出土遺物（２）、ＳＤ16・
17銭貨出土状況 ……116
第89図　ＳＸ１～３、Ｄ区ＳＸ13、ＳＫ794
・1205出土遺物 ……117
第90図　ＳＫ58出土遺物 ……118
第91図　Ｐ325・357、ＳＵ４実測図・遺物
出土状況 ……119
第92図　包含層出土山茶碗の時期別分布状況 …120
第93図　近現代遺構・自然流路 ……121
第94図　近現代の遺物 ……122
第95図　流路出土土器 ……123
第96図　包含層遺物（１） ……136
第97図　包含層遺物（２） ……137
第98図　包含層遺物（３） ……138
第99図　包含層遺物（４） ……139
第100図　包含層遺物（５）……140
第101図　包含層遺物（６）……141
第102図　包含層遺物（７）……142
第103図　包含層遺物（８）……143
第104図　包含層遺物（９）……144
第105図　Ⅱ期　遺物出土状況……145
第106図　包含層遺物（10）……146
第107図　包含層遺物（11）……147
第108図　包含層遺物（12）……148
第109図　包含層遺物（13）……149
第110図　包含層遺物（14）……150
第111図　包含層遺物（15）……151
第112図　包含層遺物（16）……152
第113図　包含層遺物（17）……153
第114図　包含層遺物（18）……154
第115図　包含層遺物（19）……155
第116図　包含層遺物（20）……156
第117図　包含層遺物（21）……157
第118図　包含層遺物（22）……158
第119図　包含層遺物（23）……159
第120図　包含層遺物（24）……160
第121図　包含層遺物（25）……161
第122図　包含層遺物（26）……162
第123図　包含層遺物（27）……163
第124図　包含層遺物（28）……164
第125図　包含層遺物（29）……165
第126図　包含層遺物（30）……166
第127図　包含層遺物（31）……167
第128図　包含層遺物（32）……168
第129図　包含層遺物（33）……169
第130図　包含層遺物（34）……170
第131図　包含層遺物（35）……171
第132図　包含層遺物（36）……172

第133図　包含層遺物（37）……173
第134図　包含層遺物（38）……174
第135図　包含層遺物（39）……175
第136図　包含層遺物（40）……176
第137図　包含層遺物（41）……177
第138図　包含層遺物（42）……178
第139図　使用痕分布図・写真位置図……200
第140図　使用痕顕微鏡写真……201
第141図　粒度分布のヒストグラムと積算頻度曲線……204
第142図　歪度と平均粒径による環境区分……204
第143図　野笹遺跡のプラント・オパール分布図……206
第144図　野笹遺跡のプラント・オパール……207
第145図　カマド石の偏光顕微鏡写真……210
第146図　比較岩石の偏光顕微鏡写真……211
第147図　胎土分析試料採取土器……213
第148図　胎土中の粒子組成図……216
第149図　土器胎土中の粒子顕微鏡写真……220
第150図　赤色物の蛍光X線スペクトル図……222
第151図　黒曜石産地……229
第152図　サヌカイト及びサヌカイト様岩石の原産地 …… 229
第153図　遺構変遷図（1）……235
第154図　遺構変遷図（2）……237

表　目　次

第1表　野笹遺跡の時期区分 …… 9
第2表　各遺物の遺構別出土点数 …… 10
第3表　石鏃の各分類ごとの点数 ……129
第4表　剥片の石材別出土点数 ……131
第5表　遺物観察表（1）……179
第6表　遺物観察表（2）……180
第7表　遺物観察表（3）……181
第8表　遺物観察表（4）…… 182
第9表　遺物観察表（5）……183
第10表　遺物観察表（6）……184
第11表　遺物観察表（7）…… 185
第12表　遺物観察表（8）……186
第13表　遺物観察表（9）……187
第14表　遺物観察表（10）……188
第15表　遺物観察表（11）……189
第16表　遺物観察表（12）……190
第17表　遺物観察表（13）……191
第18表　遺物観察表（14）……192
第19表　遺物観察表（15）……193
第20表　遺物観察表（16）……194
第21表　遺物観察表（17）……195
第22表　遺物観察表（18）……196
第23表　使用痕分析結果一覧表 ……200
第24表　粒度分析による統計値（Φ単位）……203
第25表　試料1g当りのプラント・オパール個数 ……206
第26表　胎土材料の検討した土器 ……212
第27表　胎土中の粒子一覧表 ……216
第28表　弥生土器胎土の粘土と砂粒の特徴 ……216
第29表　赤色物または赤色顔料から検出された元素 ……221
第30表　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値（1）…230
第31表　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値（2）…230
第32表　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値（3）…231
第33表　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値（4）…231
第34表　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値（5）…232
第35表　各サヌカイトの原産地における原石

群の元素比の平均値と標準偏差値（1）…… 232
第36表　各サヌカイトの原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値（2）……233
第37表　原産地不明の組成の似た遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値 ……233
第38表　岩屋原産地からのサヌカイト原石66個の分類結果 ……234
第39表　和泉・岸和田原産地からのサヌカイト原石72個の分類結果 ……234
第40表　和歌山市梅原原産地からのサヌカイト原石21個の分類結果 ……234
第41表　野笹遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果（1） ……234
第42表　野笹遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果（2） ……234
第43表　野笹遺跡出土下呂石製剥片の非破壊の元素比分析結果（1） ……234
第44表　野笹遺跡出土下呂石製剥片の非破壊の元素比分析結果（2） ……235
第45表　野笹遺跡出土下呂石製剥片の非破壊の元素比分析結果（3） ……235
第46表　野笹遺跡出土下呂石製剥片のエアーブラシ処理後の元素比分析結果（1） ……235
第47表　野笹遺跡出土下呂石製剥片のエアーブラシ処理後の元素比分析結果（2） ……235
第48表　野笹遺跡出土下呂石製剥片のエアーブラシ処理後の元素比分析結果（3） ……236
第49表　野笹遺跡出土下呂石製剥片のエアーブラシ処理後の元素比分析結果（4） ……236
第50表　野笹遺跡出土安山岩製遺物の元素比分析結果 ……236
第51表　野笹遺跡出土の黒曜石石器、剥片の原材産地推定結果（縄文時代中期後葉～弥生時代）（1） ……237
第52表　野笹遺跡出土の黒曜石石器、剥片の原材産地推定結果（縄文時代中期後葉～弥生時代）（2） ……237
第53表　野笹遺跡出土の下呂石（黒）石片の原材産地推定結果（縄文時代中期後葉～弥生時代）（1） ……237
第54表　野笹遺跡出土の下呂石（黒）石片の原材産地推定結果（縄文時代中期後葉～弥生時代）（2） ……237
第55表　野笹遺跡出土の下呂石（黒）石片の原材産地推定結果（縄文時代中期後葉～弥生時代）（3） ……238
第56表　野笹遺跡出土の下呂石（黒）石片の原材産地推定結果（縄文時代中期後葉～弥生時代）（4） ……238
第57表　野笹遺跡出土の下呂石石片（エアーブラシ）の原材産地推定結果（縄文時代中期後葉～弥生時代）（1） ……238
第58表　野笹遺跡出土の下呂石石片（エアーブラシ）の原材産地推定結果（縄文時代中期後葉～弥生時代）（2） ……238
第59表　野笹遺跡出土の下呂石石片（エアーブラシ）の原材産地推定結果（縄文時代中期後葉～弥生時代）（3） ……239
第60表　野笹遺跡出土の下呂石石片（エアーブラシ）の原材産地推定結果（縄文時代中期後葉～弥生時代）（4） ……239
第61表　野笹遺跡出土の安山岩石器の原材産地推定結果（縄文時代中期後葉～弥生時代）（1） ……239
第62表　野笹遺跡出土の安山岩石器の原材産地推定結果（縄文時代中期後葉～弥生時代）（2） ……239

図　版　目　次

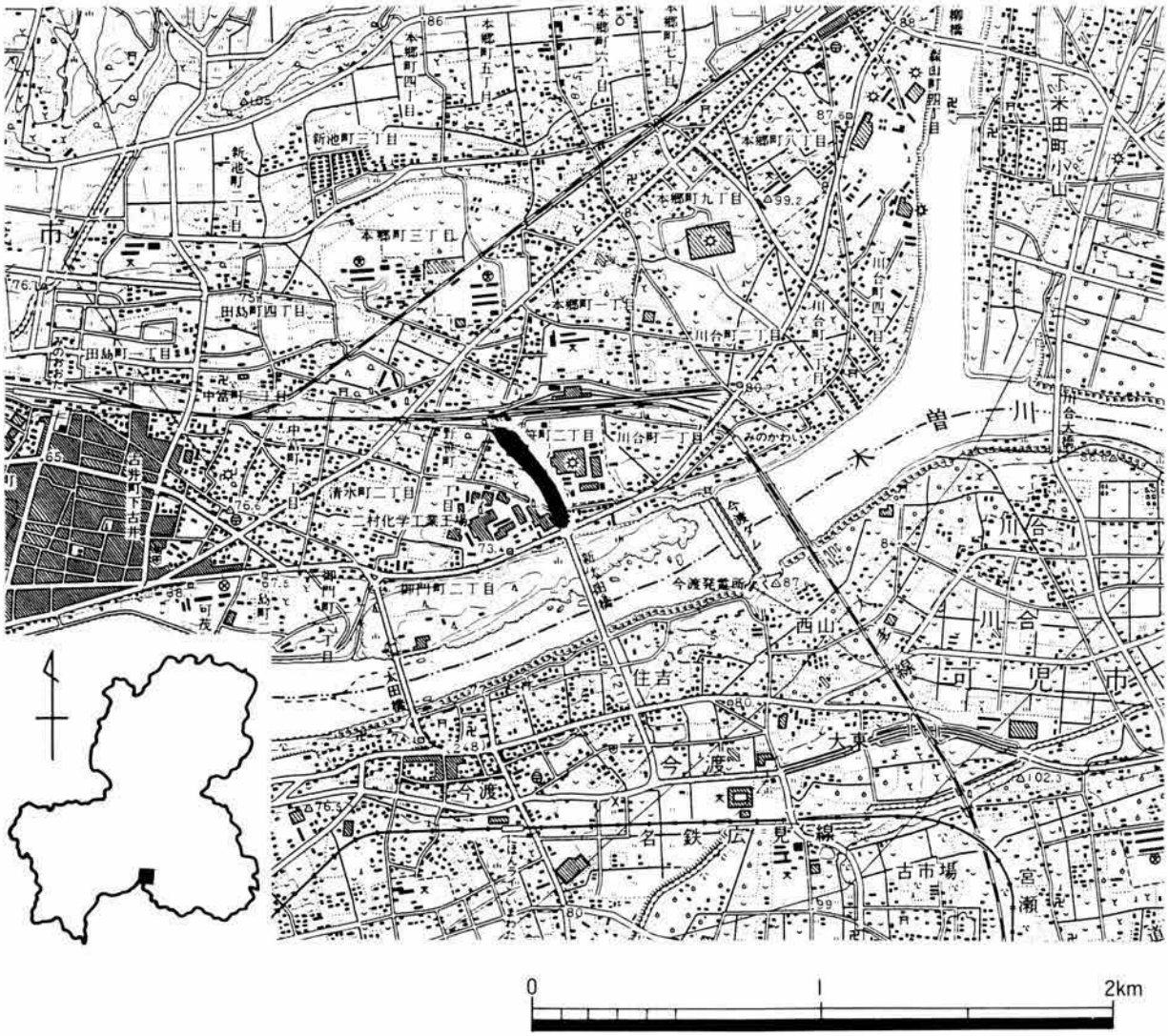
図版１　調査前状況・調査風景
図版２　完掘状況　Ａ・Ｃ区
図版３　完掘状況　Ｂ区
図版４　完掘状況　Ｄ区
図版５　トレンチ土層　礫堆・段丘礫層
図版６　縄文時代の遺構・遺物出土状況
図版７　弥生時代の遺構・遺物出土状況
図版８　古墳時代の遺構（１）
図版９　古墳時代の遺構（２）
図版10　古墳時代の遺構（３）
図版11　古墳・弥生時代の遺構
図版12　敷石遺構（ＳＲ１）全景
図版13　敷石遺構（ＳＲ１）
図版14　中世の遺構（１）
図版15　中世の遺構（２）
図版16　中世の遺構（３）
図版17　中世の遺構（４）
図版18　出土遺物（１）
図版19　出土遺物（２）
図版20　出土遺物（３）
図版21　出土遺物（４）
図版22　出土遺物（５）
図版23　出土遺物（６）
図版24　出土遺物（７）
図版25　出土遺物（８）
図版26　出土遺物（９）
図版27　出土遺物（10）
図版28　出土遺物（11）
図版29　出土遺物（12）
図版30　出土遺物（13）
図版31　出土遺物（14）
図版32　出土遺物（15）
図版33　出土遺物（16）
図版34　出土遺物（17）
図版35　出土遺物（18）
図版36　出土遺物（19）
図版37　出土遺物（20）
図版38　出土遺物（21）
図版39　出土遺物（22）
図版40　出土遺物（23）
図版41　出土遺物（24）
図版42　出土遺物（25）
図版43　出土遺物（26）
図版44　出土遺物（27）
図版45　出土遺物（28）
図版46　出土遺物（29）
図版47　出土遺物（30）
図版48　出土遺物（31）
図版49　出土遺物（32）
図版50　出土遺物（33）
図版51　出土遺物（34）
図版52　出土遺物（35）
図版53　出土遺物（36）
図版54　出土遺物（37）
図版55　出土遺物（38）
図版56　出土遺物（39）
図版57　出土遺物（40）
図版58　出土遺物（41）
図版59　出土遺物（42）
図版60　出土遺物（43）
図版61　出土遺物（44）
図版62　出土遺物（45）
図版63　出土遺物（46）
図版64　出土遺物（47）
図版65　出土遺物（48）
図版66　出土遺物（49）
図版67　出土遺物（50）
図版68　出土遺物（51）
図版69　出土遺物（52）
図版70　出土遺物（53）
図版71　出土遺物（54）
図版72　出土遺物（55）
図版73　出土遺物（56）
図版74　出土遺物（57）
図版75　出土遺物（58）褐鉄鉱

第１章　発掘調査の経緯

第１節　調査に至る経緯

本遺跡は、美濃加茂市野笹町２丁目に所在し、木曽川の低位の河岸段丘上に位置する。木曽川の低位の河岸段丘は５面確認されているが（鹿野　1990)、２番目に低いＬ４面と３番目に低いＬ３面に当たる。

当遺跡の発掘調査は、岐阜県土木部（現　基盤整備部）による国道248号道路改良工事に伴うものである。道路建設予定地は、周知の遺跡である裏迫間遺跡や中富遺跡などの縄文時代の遺跡や神明堂古墳や塚弓古墳が付近にあり、遺跡の分布密度の濃い場所であった。また、美濃加茂市教育委員会による遺跡分布調査により、野笹町一帯が遺跡である可能性が高い場所であることがわかっていた。そのため、平成７年度に岐阜県教育委員会が道路予定地を試掘したところ、縄文時代中期と晩期、中世の良好な遺物包含層を確認した。よって、新発見の遺跡として野笹遺跡と命名された。岐阜県土木部から岐阜県教育委員会が委託を受け、当センターが平成８～11年度に発掘調査を実施した。



第１図　遺跡位置図

第２節　発掘調査の経緯と方法

発掘調査範囲は、当初、Ｌ４面の段丘上の8,500㎡を予定し、平成８年度に4,500㎡、９年度に4,000㎡の調査を計画していた。

平成８年度の調査では、遺物・遺構が多量に出土して、当初調査対象外としたＬ３面の段丘にも遺跡が拡大することが予想されたため、Ｌ３面の段丘の方に500㎡調査面積を増やし5,000㎡の調査を実施した。

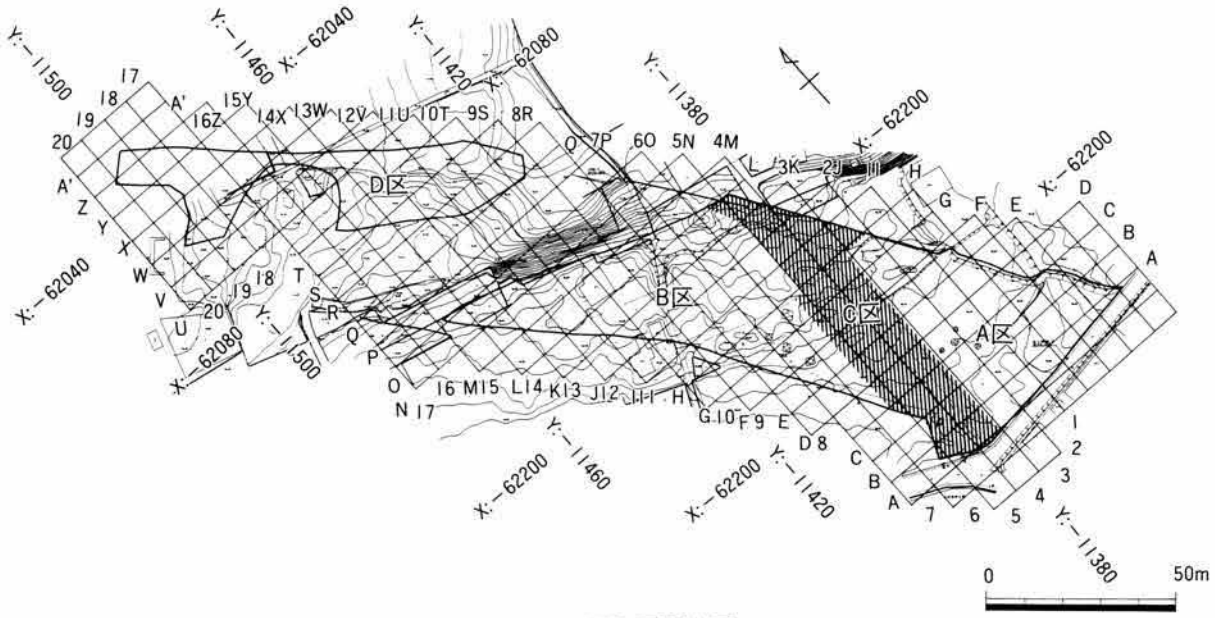
平成９年度は、調査対象地内にあった建設省岐阜国道工事事務所美濃加茂出張所の移転の関係で、その部分を除外した1,500㎡を調査する計画であった。しかし前年度調査面積を増やしたＬ３面の段丘上にさらに遺跡が拡大することが明らかになったため、1,000㎡調査面積を拡大して2,500㎡を調査した。発掘調査面積は合計7,500㎡となった。建設省岐阜国道工事事務所美濃加茂出張所のあった部分については、野笹Ⅱ区として平成11年度に発掘調査を行った。

調査区内は、国土座標に合わせて一辺８ｍの方形区画（グリッド）を設定した（第２図）。表土除去の際に、調査区の東端が、最近の土採りのために破壊されていることが確認されたため、その部分を除外して東から１～20、南からＡ～Ａ'とした。調査区画の呼称は西北角の杭番号を用いた。

調査は、周辺住民の生活道路の確保のため、Ａ～Ｄの調査区を設定した（第２図）。平成８年度はＡ区とＢ区を、９年度はＣ区とＤ区の調査を実施した。

平成７年度の試掘確認調査の結果、遺構面が複数ある可能性が指摘されたため、Ａ区の調査は、重機によって表土を除去し、以下はすべて人力で掘削した。その結果、中世・古墳時代・縄文時代の遺構面が確認されたが、それぞれの面と面の間の深さにあまり差が無く、ほとんど重なっていることがわかった。また、黄褐色砂の地山より上は、遺構の埋土もまわりの土も同じ黒褐色土で判別が難しいことと、遺構の数が多く攪乱された場所が多いことがわかった。これらのことからそれぞれの遺構面を正確に捉えることが困難であると判断されたため、Ｂ区の西側とＤ区は、地山近くまで重機によって土を除去し、以下は人力で掘削した。調査体制は下記の通りである。

調査部長	臼井　進（平成８年度）、山元敏治（平成９～11年度）
調査次長	小木曽文和（平成８年度）、高橋幸仁（平成９年～11年度）
調査第３課長	市原輝明（平成８～９年度）、飯沼暢康（平成10～11年度）
担当調査員	千藤克彦（平成８～11年度）、松岡千年（平成８年度）
調査補助員	河村千寿（平成８～９・11年度）
発掘作業員	今尾一明、大坪節子、小原るみ子、兼松賢三、川上さだ子、木下昭平、古野やえ子、酒向年雄、鈴木智美、鈴木吉彦、長谷川ヒロ子、平野百合子、吉岡夕紀子、渡辺秋子、三輪精一（平成８～９年度） 宇野京子、河合多美子、川瀬幸子、斉藤富雄、新藤実雄、高橋恭三、中嶌　茂、中島千年、中野青平、福田快彦、堀田煌子、吉田隆雄（平成８年度）
整理作業員	林　妙子、日比野紀子（平成９年度） 今尾さち子、岩田のり子、丹羽　伸枝、堀　孝浩（平成10～11年度）



第２図　調査区設定図

棚橋絹代、湯城里美（平成10年度）

小木曽美智、山田純子、堀　恵里奈（平成11年度）

平成８年度は、５月14日に調査始め式を行い、まずＡ区から調査に入った。

Ａ区の調査は、12月に終了した。８月までに、上の黒褐色土中にある遺構（近現代と判明）の調査を終え、地山である黄褐色砂の面上の遺構の検出を行った。10月までに敷石遺構のある大溝以外の遺構の検出、掘削がほぼ終了した。11月21日に航空測量を行った。11月30日には現地説明会を行い、129名の見学者があった。12月は、敷石遺構の下にある自然流路と段丘面の深掘り調査を行い、その後埋め戻しを行った。

Ｂ区は、９月中旬から調査に入り、平成９年３月末に終了した。野笹遺跡の土は砂質土で掘削が容易であるが、冬期は毎日のように霜柱が立つため、掘り上がった遺構が傷みやすいため苦労した。３月19日に航空測量を行い、３月27日に現場での作業を終了し埋め戻した。

平成９年度は、４月15日からＣ区の調査を開始した。北側から遺構の検出と掘削を行った。９月には、遺構の検出はほぼ終了し、10月からはＤ区の調査を併行して行った。11月13日にＣ区の航空測量を行った。11月15日に２回目の現地説明会を行い、132名の見学者があった。Ｄ区は１月上旬には遺構検出をほぼ終了し、１月21日にＤ区の航空測量を行った。そして１月30日にすべての現場作業を終了し、その後両区とも埋め戻しを行った。その後は、整理作業を行った。

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　周辺の地形

野笹遺跡の所在する美濃加茂市野笹町は、美濃加茂盆地内に位置する。美濃加茂盆地は、木曽川と飛騨川の合流地点から、加茂郡坂祝町で先行性河川となるまでの東西約17km、南北約10kmの広がりを持つ地域である。通称、太田盆地、可児盆地と呼ばれている。盆地の大半は主に木曽川が形成した河岸段丘からなり、その背後は新第三紀の定高性丘陵である。さらに中生層の山地がその周囲をとりまく形で存在する。盆地内の河岸段丘は、高位段丘２面、中位段丘２面、低位段丘５面に区分される。

第３図に、野笹遺跡周辺の地形分類と遺跡分布を示した。地形分類は関・木村（1969)、水谷・原（1983)、鹿野（1990）をもとにした。遺跡分布図の遺跡の範囲については宇野（1993）をもとにした[1)]。

野笹遺跡のＡ～Ｃ区は、木曽川の現河床からみて２番目に低い段丘上（Ｌ４面）にあり、Ｄ区は３番目に低い段丘上（Ｌ３面）に位置する。野笹遺跡Ａ～Ｃ区と木曽川現河床との比高は、約13ｍであり、Ａ～Ｃ区とＤ区との比高は約３ｍである。

第２節　歴史的環境

これまで知られている美濃加茂市内の遺跡の多くは、低位段丘上と、中位段丘にあたる加茂野台地上にある。近年、開発が高位段丘面に及ぶにつれ、従来知られていなかった場所で、新たに遺跡が発見される機会が増えた。このうち、野笹遺跡の周辺にある低位段丘上の遺跡を中心に、時代ごとに概観する。

旧石器時代の遺跡は、低位段丘上では確認されていないが、野笹遺跡の対岸の川合遺跡群では、ナイフ型石器、彫器等の旧石器の出土が報告されている。(可児市教育委員会　1994)

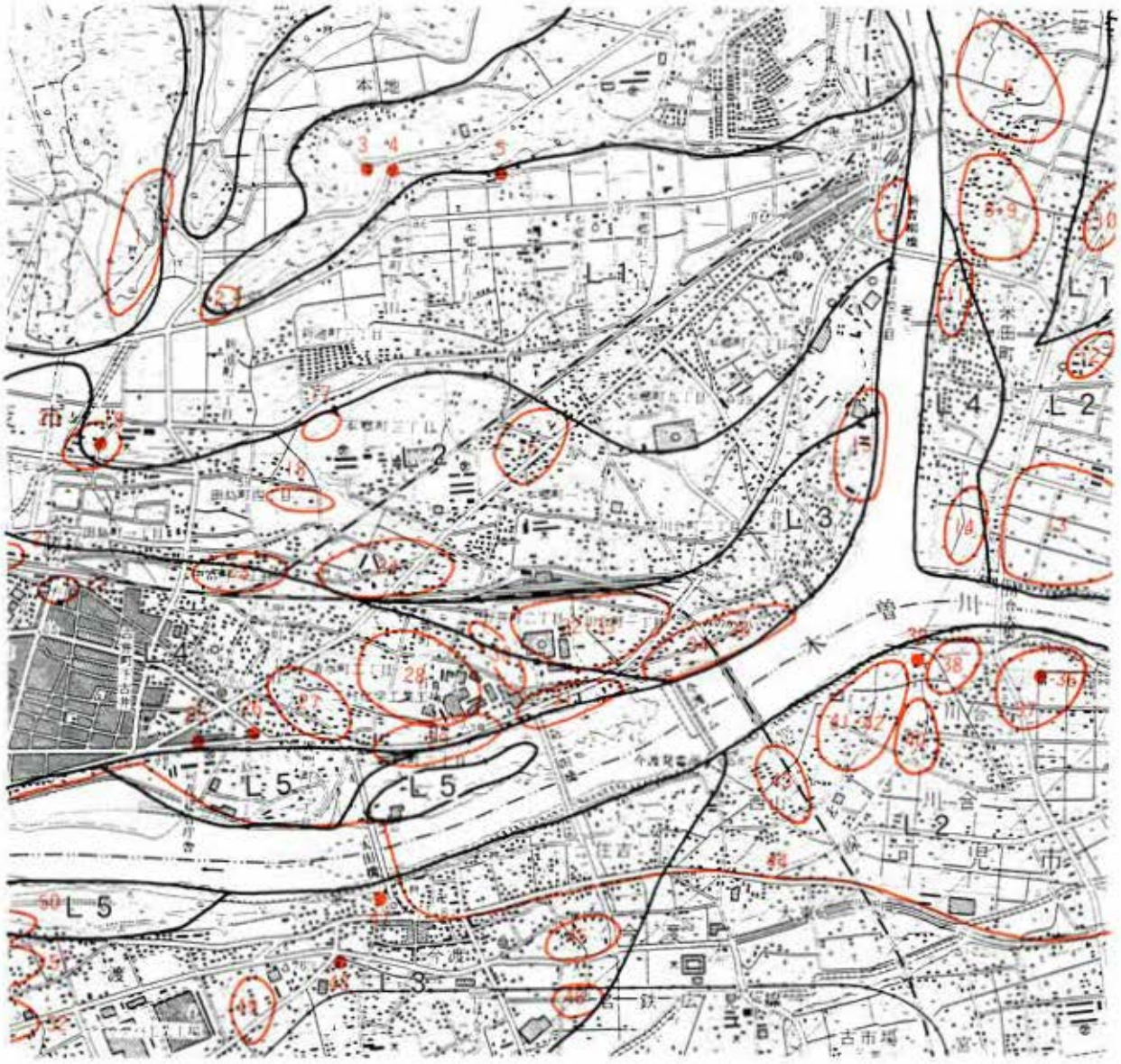
縄文時代では、早期の押型文土器が牧野小山遺跡の狭間地点で採集され、これ以降晩期までの遺物が採集されている。牧野小山遺跡の主体となる時期は中期後半で、大量な遺物と住居跡が報告されている。

弥生時代では、尾崎遺跡、牧野小山遺跡、今遺跡等で住居跡が検出されている。美濃太田駅前の後田遺跡では、弥生時代前期の遠賀川式土器の壺が出土している。本遺跡に隣接する亀淵遺跡では、弥生時代後期～古墳時代初頭のパレススタイル土器が出土している。また、本遺跡の東に隣接する二ツ塚遺跡では、弥生時代前期から中期の条痕文系土器が出土している。

古墳は、かつて後期の群集墳と思われるものが、美濃加茂市内各地で知られていたが、耕作や市街化により大部分が失われた。古代寺院については、瓦が採集されたり、伝承が残る例があるものの、いずれも正式な調査はされておらず実体は不明である。

中世の遺跡については、調査例が少なく今後の調査例の増加が待たれる。

1）ここで示した遺跡の範囲は、過去の文献等をもとに線引きされたもので、現在滅失したものも含まれ、必ずしも岐阜県や市町村で発行している遺跡地図とは一致しない。しかし、本遺跡と周辺の遺跡との関係を考える上でこの図は最もわかりやすいと判断し掲載した。



1．尾崎遺跡（弥生～中世）
2．一夜堀遺跡（弥生）
3．火塚男塚遺跡（古墳）
4．姫塚古墳（古墳）
5．光禅院寺跡（近世）
6．深渡遺跡群（縄文～弥生）
7．森山遺跡（弥生）
8．長福遺跡（弥生）
9．長福古墳群（古墳）
10．今遺跡（弥生～中世）
11．小山観音北遺跡（弥生）
12．狭間古墳群（古墳）
13．牧野小山遺跡（縄文～古代）
14．島崎遺跡（弥生）
15．川合東遺跡群（縄文～弥生）
16．本郷遺跡（弥生）
17．石坂遺跡（弥生）
18．仲迫間遺跡（縄文～近世）
19．大塚古墳（古墳）
20．大塚遺跡（弥生）
21．井口遺跡（弥生）
22．後田遺跡（弥生）
23．中富遺跡（縄文～弥生）
24．裏迫間遺跡（縄文～弥生）
25．神明堂古墳（古墳）
26．塚弓古墳（古墳）
27．火塚古墳群（古墳）
28．亀源遺跡（弥生）
29．亀源古墳群（古墳）
30．野笹遺跡（縄文～近世）
31．赤池古墳群（古墳）
32．二ツ塚遺跡（縄文～弥生）
33．二ツ塚古墳群（古墳）
34．川合西古墳群（古墳）
35．川合西遺跡群（縄文～弥生）
36．東畑古墳（古墳）
37．川合遺跡（縄文～古墳）
38．稲荷塚古墳群（古墳）
39．コダマ塚古墳（古墳）
40．次郎兵衛塚古墳群（古墳）
41．宮之脇遺跡群（縄文～中世）
42．宮之脇古墳群（古墳）
43．西野遺跡（古墳）
44．旧中山道（近世）
45．今渡遺跡（縄文～近世）
46．今渡金屋遺跡（近世）
47．今渡渡船場の跡（近世）
48．今渡下畑古墳（古墳）
49．土田東山古墳群（古墳）

第3図　地形区分と遺跡分布

第3章　基本層序

第1節　基本層序

野笹遺跡は、2つの段丘にまたがるため、それぞれの段丘で基本的層序が異なる。そこで、L4面のA・B・C区とL3面のD区のそれぞれで層序の概要を述べる。

A・B・C区

基本的に3層が確認できた。

Ⅰ層は表土で最も攪乱を受けているため、場所によって土の様相が異なる。

Ⅱ層とⅢ層はともに黒褐色砂質土で、Ⅲ層がやや黒いくらいの差しかないため、分層が困難である。本遺跡は近現代の土坑が多いため、各層の時期について遺物では判断できなかった。しかし、Ⅱ層の直下から中世後半以降の遺構が掘り込まれていることから、Ⅱ層直下は、中世後半以降の遺構検出面であり、Ⅱ層はその時代の遺物包含層と考えることができる。

Ⅲ層は、直下もしくはその途中から古墳時代後期の住居跡が掘り込まれていることから、古墳時代後期の遺構検出面がこの中に存在すると考えられる。

Ⅲ層の下が、明黄褐色の砂層で、いわゆる「地山」となる。地山の砂層は、流路の底など鉄分の沈着が多い場所ではにぶい黄色を呈するところもある。自然流路がある部分では、Ⅲ層の下にその覆土が存在する。地山直上が、縄文中期から弥生時代の遺構の検出面となる。

第4図の土層図を見るとわかるように、Ⅲ層は局所的にしかなく、Ⅲ層がない場所ではⅡ層にも中世後期より古い遺物が含まれている。また、縄文時代中期後半から現代に至る多くの遺構・攪乱があるため、層位が安定してあるところはほとんど存在しない。

D区

調査区の北側の13Uの杭付近の土層を第4図に示した。D区では4層確認したが、Ⅲ層、Ⅳ層はD区の中央当たりに局所的にしか存在しない。大部分の場所では、表土と黒褐色砂質土のⅡ層のみで、すぐ下はにぶい黄色砂の「地山」となる。Ⅱ層が弥生時代後期～中世の遺物包含層であるが、この層は調査区の南ほど薄くなり、北側ほど厚い。これは、南側に段丘崖があるため、流水が段丘崖の方に流れてしまうため、浸食されて薄くなったと考えられる。

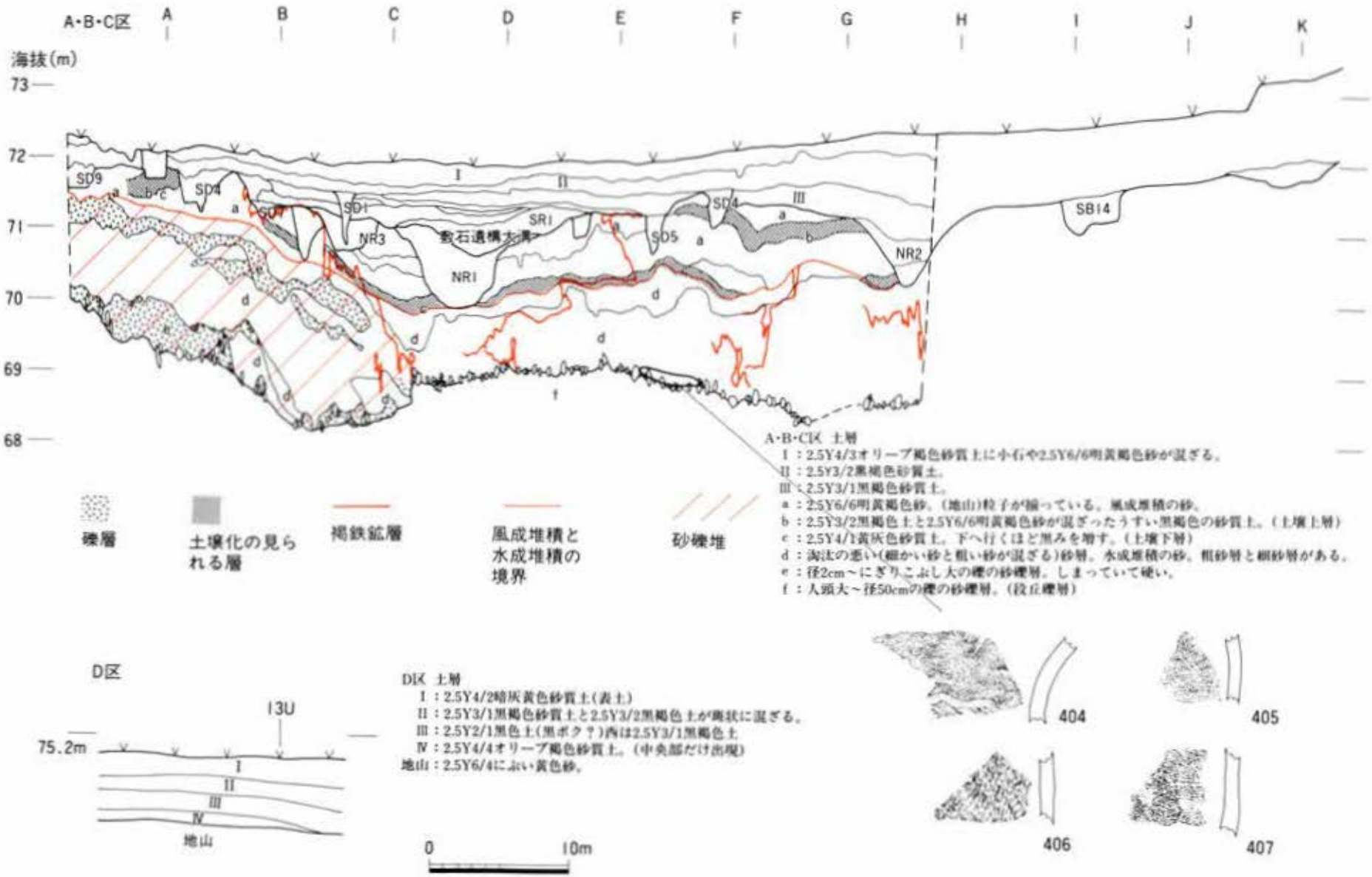
ここも、Ⅱ層直下、すなわち地山直上が弥生時代から近現代の遺構検出面となる。

第2節　遺跡の基盤の層序

A・B・C区において、「地山」とした明黄褐色砂層より下に遺物包含層があるのかを確認するため、グリッドの3列で段丘礫層まで堀り下げ、土層を観察した。その結果、地山直上から2mもの砂の堆積があることがわかった。結果的に地表から4mの大トレンチとなり、この遺跡の性格を考える上で重要な知見がいくつか得られたので報告する。また、これらについての考察は、6章で詳述する。

段丘礫直上より出土した縄文土器

トレンチを掘削する際に、3F付近の段丘礫の直上から縄文土器が4点出土した（404～407）。土



第4図　A・B・C区、D区 土層図

器はいずれも小片であるが、ローリングはほとんど受けていない。時期は特定するのは難しいが土器の厚さや縄文の形状から中期に属する可能性が高いと思われる。

砂礫堆の発見

トレンチの南側、Ａ～Ｃ区にかけては、砂層でなく砂礫層の堆積であった。この砂礫層は、北側の砂層と比べて大変しまっていて硬い。この砂礫堆が地山を構成しているため、本遺跡の東南端では、遺構の底面が砂礫層であった。

Ａ・Ｂ・Ｃ区の微地形は、南側の木曽川に近い方ほど高く、本区の真ん中あたりが一番低くなっている。そのため現在の用水路の水は、直接木曽川の方に南流しないで木曽川と平行に西に流れて、支流の加茂川に注いでいる。

仲迫間遺跡の報告（岐阜県文化財保護センター　1994）に掲載されている岐阜大学梶田教授による段丘面区分図によると、ちょうど野笹遺跡の南側の、建設省国道維持出張所から西の二村化学岐阜工場にかけて微高地が形成されていることがわかる。この微高地を形成しているのが、砂礫堆である可能性が高い。

この砂礫堆上も含めて地山直上では、砂層のみで礫が自然状態では存在しない。そのため、地山直上で礫があった場合はすべて人為的なものと考えて良い。

土壌化層と風成層の発見

砂礫堆より北側の砂層では、中にやや黒い帯状の層が２層観察された。これは、この砂層が、土壌化により植物質の有機物が混ざった層と考えられる。そこで上のｂ層を土壌上層、下のｃ層を土壌下層と呼ぶことにする。この土壌下層について、１Ｂ～Ｃ区のトレンチで採取した試料についてＣ^{14}年代測定を行ったところ、4,420±130yrBP（ＢＣ2470年）（PLD-157）という結果が得られた。

土壌化層が存在するということは、この層が生成されたのは水中でなく陸上であったことを物語る。土壌上層の上や、土壌上層と下層の間のａ層の砂層は、土壌化層との間に不整合が見られないことからこれも陸上での堆積と考えられる。このａ層の粒度組成の分析結果からも風成堆積であることが示唆されている（第５章第２節）。それに対し、土壌下層の下のｄ層は砂の粒子の淘汰が良くないため、水成堆積（この段丘面が木曽川の河床であった頃の堆積）と考えられる。

褐鉄鉱層の分布

褐鉄鉱（リモナイト）は微細粒～土状の鉄鉱物の集合体である。低湿地の遺跡では、俗に「たかすこぞう」と呼ばれる植物根のまわりにできるものを見かける。この遺跡では、地山上やその下の層で板状で硬くなったものが主にＡ・Ｂ・Ｃ区で観察された（写真図版75）。褐鉄鉱は地中に含まれる鉄分が雨水等によって溶けて移動し、土層や地下水の境界等に集積してでき、水の流動が大きい場所ほどできる褐鉄鉱の量は多い[1]。第４図の褐鉄鉱層の分布を見るとＳＤ７・ＮＲ１・ＮＲ２の下をとり囲むようにあり、これらの溝や流路の水の流動が大きかったことがわかる。

褐鉄鉱の分布の有無を調べることで、遺構が水つきで使用されていたのか乾燥状態で使用されていたかを特定できる可能性がある。

１）遠藤邦彦　日本大学教授のご教示による。

第４章　遺構と遺物

第１節　遺構と遺物の概要

(1)　時期区分

本報告では、記述の便宜上、時期区分を第１表のようにする。各時期の遺構、遺物の有無を○で示した。

第１表　野笹遺跡の時期区分

野笹	遺構	遺物	時　期	土器型式による細分
１期		○		咲畑・醍醐Ⅰ[2] 船元・里木Ⅴ[3] 加曽利ＥⅡ[4]
２期	○	○	縄文時代中期末期	咲畑・醍醐Ⅱ　加曽利ＥⅢ
３期	○	○		咲畑・醍醐Ⅲ　加曽利ＥⅣ
４期		○	縄文時代後期	称名寺[5]～加曽利Ｂ[6]、福田ＫⅡ[7]～緑帯文系[8]
５期		○	縄文時代晩期[9]	
６期		○	弥生前期	遠賀川[10]
７期	○	○	弥生中期前葉	朝日
８期		○	弥生中期中葉	貝田町
９期			弥生中期後葉	高蔵
10期	○	○	弥生後期	山中
11期	○	○	弥生終末期	欠山・廻間Ⅰ
12期	○	○	古墳時代前期	
13期	○	○	古墳時代後期[11]	
14期	○	○	古　代	
15期	○	○	中世前期	山茶碗　第３型式～６型式[12]
16期	○	○	中世後期	山茶碗　第７型式～11型式
17期	○	○	近世・明治期	

(2) 遺構の概要

本遺跡では、竪穴住居跡31軒、掘立柱建物跡４軒、墓１基、溝42条、敷石遺構と取水施設のある大溝が１条、ピット・土坑が約1,500基検出された。そのうち、時期がわかるものについて概要を述べる。なお遺構の番号は、Ａ・Ｂ・Ｃ区とＤ区では立地する段丘面が異なるためそれぞれで１番からつけ、Ｄ区の遺構については最初にＤ区と表記した。

それぞれの遺構を便宜上アルファベットの記号で表記した。それぞれの記号は次の通りである。

住居跡：ＳＢ　掘立柱建物跡：ＳＨ　墓：ＳＺ　溝：ＳＤ　敷石遺構のある大溝：ＳＲ

柵列：ＳＡ　遺物集中地点：ＳＵ　性格不明遺構：ＳＸ

ピット・土坑については両方とも通し番号をつけ、ピットの場合は最初にＰを、土坑の場合は最初にＳＫと表記した。

２期では、竪穴住居跡が１軒とピットと土器集積（ＳＵ）が数基検出された。もう１軒縄文時代の住居跡と考えられる遺構が検出された。

７期では、竪穴住居跡が１軒と土器棺墓（ＳＺ１）１基、ピット・土坑が数基検出された。また、この時期に存在したと思われる自然流路（ＮＲ２・４）から、土器が良好な状態で大量に出土した。

10期では、Ｄ区から竪穴住居跡が３軒検出された。

11期では、竪穴住居跡が１軒検出された。

12期では、土坑１基が検出された。

13期では、竪穴住居跡が24軒検出された。すべてＡ・Ｂ・Ｃ区からで、調査区全体にわたって検出されたにもかかわらず、Ｄ区にはこの時期の遺構が全く見られなかった。

14期では、土坑１基が検出された。

15期は、明らかにこの時期と考えられるのは、敷石遺構と取水施設のある大溝である。また、Ｄ区の東側で屋敷の区画溝と考えられる溝が検出された。

16期は、大部分の溝や、ピットがこの時期になると思われる。掘立柱建物や柵列などが検出されている。

17期は、近世の土坑と明治期の道路の暗渠が検出されている。

他に、近現代の芋穴や肥料の貯蔵等に使用されたと考えられる土坑が大量に検出されている。

(3) 遺物の概要

第２表　各遺物の遺構別出土点数

遺構	石器	中近世	山茶碗	土師質皿	須恵器	土師器	弥生土器	縄文土器	灰釉陶器	土師鍋	土錘
SB	259	33	393	34	87	1045	479	1089			
P・SK	816	551	3364	149	130	136	1698	1170			
SD	503	821	1792	88	68	82	965	314	4		
NR	9903	86	999	69	141	59	5774	15100			
その他	579	632	2082	137	191	220	775	498			
グリッド	6442	1782	15100	628	897	658	8637	6249	45	16	8
総計	18502	3905	23730	1105	1514	2200	18328	24420	49	16	8

本遺跡から出土した遺物の総数は、93,700点あまりである。その種類と出土位置別点数を第２表に示した。ここで示した遺構出土の遺物の中には、明らかに混ざり込んだものと考えられるものもかなりの量存在する。そのため、必ずしも遺構に伴うものばかりではない。各遺物については、第３節で解説する。

注）

１）各遺物の分類や編年観について次の方々からご指導・ご教示いただいた。（敬称略、五十音順）
井川祥子、石黒立人 、内堀信雄、岡本直久、小野善裕、小野木学、春日井亘、川瀬実浩、
城ヶ谷和広、中野晴久、永井宏幸、成瀬正勝、野口哲也、藤沢良祐、藤田英博、三島　誠、
宮腰健司

２）泉　拓良（1988）咲畑・醍醐式土器様式．縄文土器大観３　中期Ⅱ．小学館

３）泉　拓良（1988）船元・里木式土器様式．縄文土器大観３　中期Ⅱ．小学館

４）鈴木保彦・山本暉久（1988）加曽利Ｅ式土器様式．縄文土器大観２　中期Ⅰ．小学館
縄文時代中期末の土器については他に次の文献をもとにした。
末木　健（1988）曽利式土器様式．縄文土器大観３　中期Ⅱ．小学館
三上徹也（1988）唐草文系土器様式．縄文土器大観３　中期Ⅱ．小学館

５）中島庄一（1989）称名寺式土器様式．縄文土器大観４　後期・晩期・続縄文．小学館

６）西田泰民（1989）堀之内・加曽利Ｂ式土器様式．縄文土器大観４　後期・晩期・続縄文．小学館

７）玉田芳英（1989）中津・福田ＫⅡ式土器様式．縄文土器大観４　後期・晩期・続縄文．小学館

８）泉　拓良（1989）縁帯文土器様式．縄文土器大観４　後期・晩期・続縄文．小学館

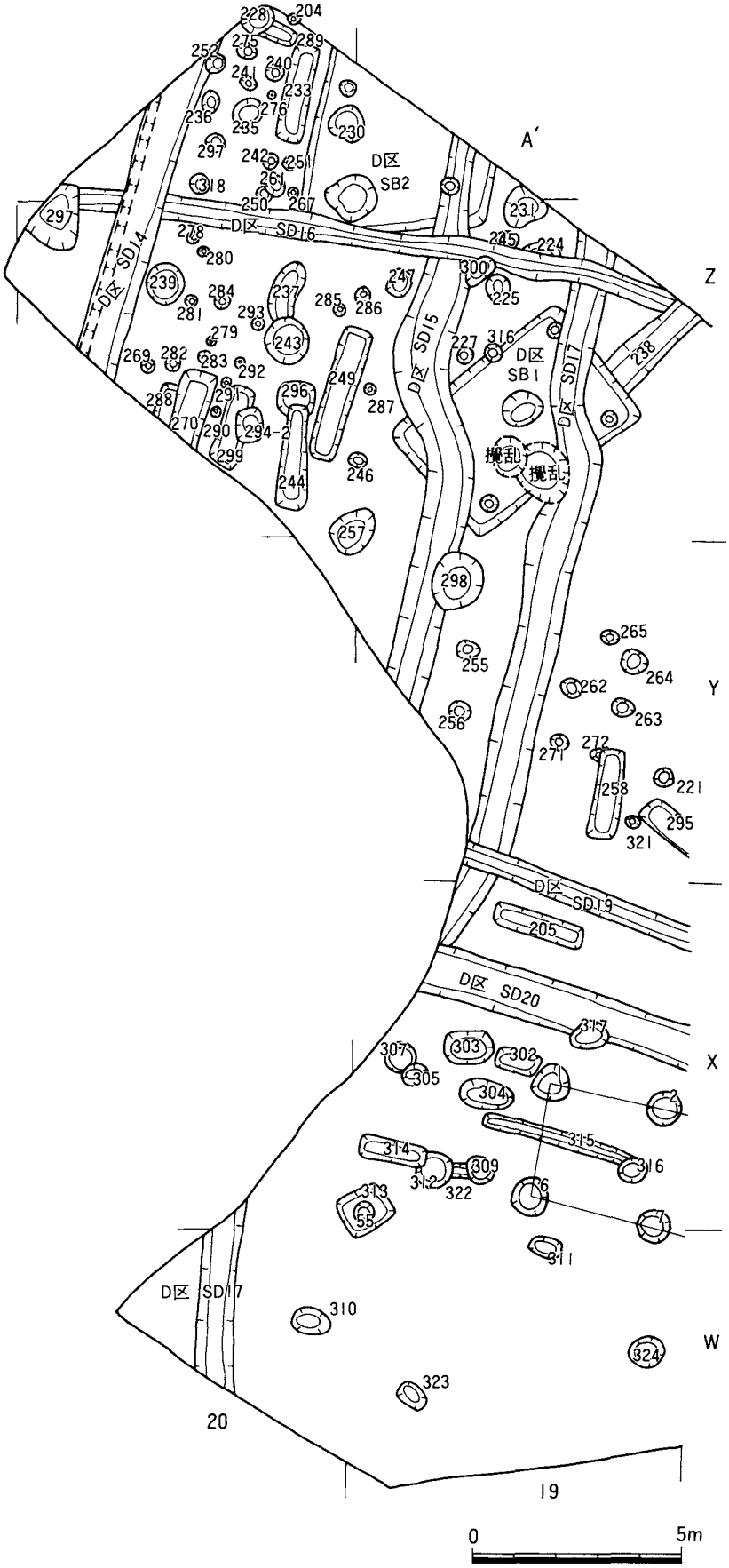
９）次の３つの文献をもとにした。
泉　拓良・山崎純男（1989）突帯文系土器様式．縄文土器大観４　後期・晩期・続縄文．小学館
中島栄一・渡辺朋和（1989）浮線網状文土器様式．縄文土器大観４　後期・晩期・続縄文．小学館
南　久和（1989）北陸晩期土器様式．縄文土器大観４　後期・晩期・続縄文．小学館

10）弥生土器全体については、愛知県教育委員会（1994）朝日遺跡Ｖ土器編を参考にした。

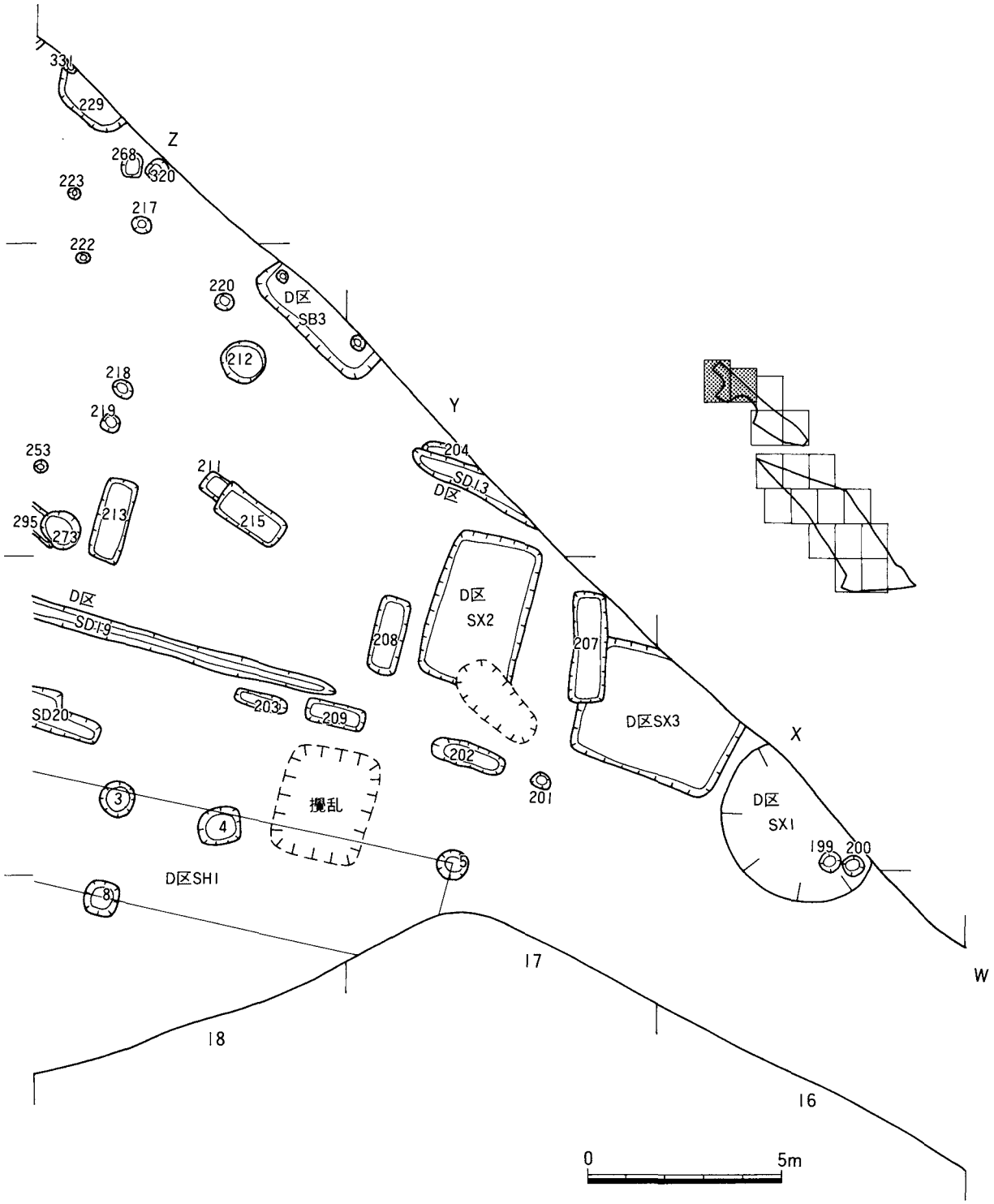
11）土師器：内堀信雄・井川祥子（1996）美濃における古代土師器煮炊具の様相．第４回東海考古学フォーラム「鍋と甕そのデザイン」東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会．
須恵器：斉藤孝正・後藤健一（1995）須恵器集成図録　第３巻　東日本編．雄山閣．

12）山茶碗：藤沢良祐（1994）山茶碗研究の現状と課題．研究紀要第３号．三重県埋蔵文化財センター
古瀬戸陶器：藤沢良祐（1996）中世瀬戸窯の動態．古瀬戸をめぐる中世陶器の世界～その生産と流通～資料集．瀬戸市教育委員会．（財）瀬戸市埋蔵文化財センター
大窯製品：藤沢良祐（1986）瀬戸大窯発掘調査報告書．瀬戸市歴史民俗博物館研究紀要Ｖ．
常滑甕：中野晴久（1994）赤羽・中野「生産地における編年について」．全国シンポジウム「中世常滑焼をおって」資料集．日本福祉大学知多半島総合研究所．
土師質皿：井川祥子（1997）15世紀後半から16世紀前葉の土師質皿―中濃地域を中心として―．美濃の考古学　第２号
小野木学（1997）美濃地方における中世前期の土師質皿の様相．美濃の考古学　第２号
中国磁器類：小野正敏（1985）出土陶磁より見た15・16世紀における画期の素描．MUSEUM No.416
横田賢次郎・森田　勉（1978）太宰府出土の輸入陶磁器について―型式分類と編年を中心にして―．九州歴史資料館研究論集４．

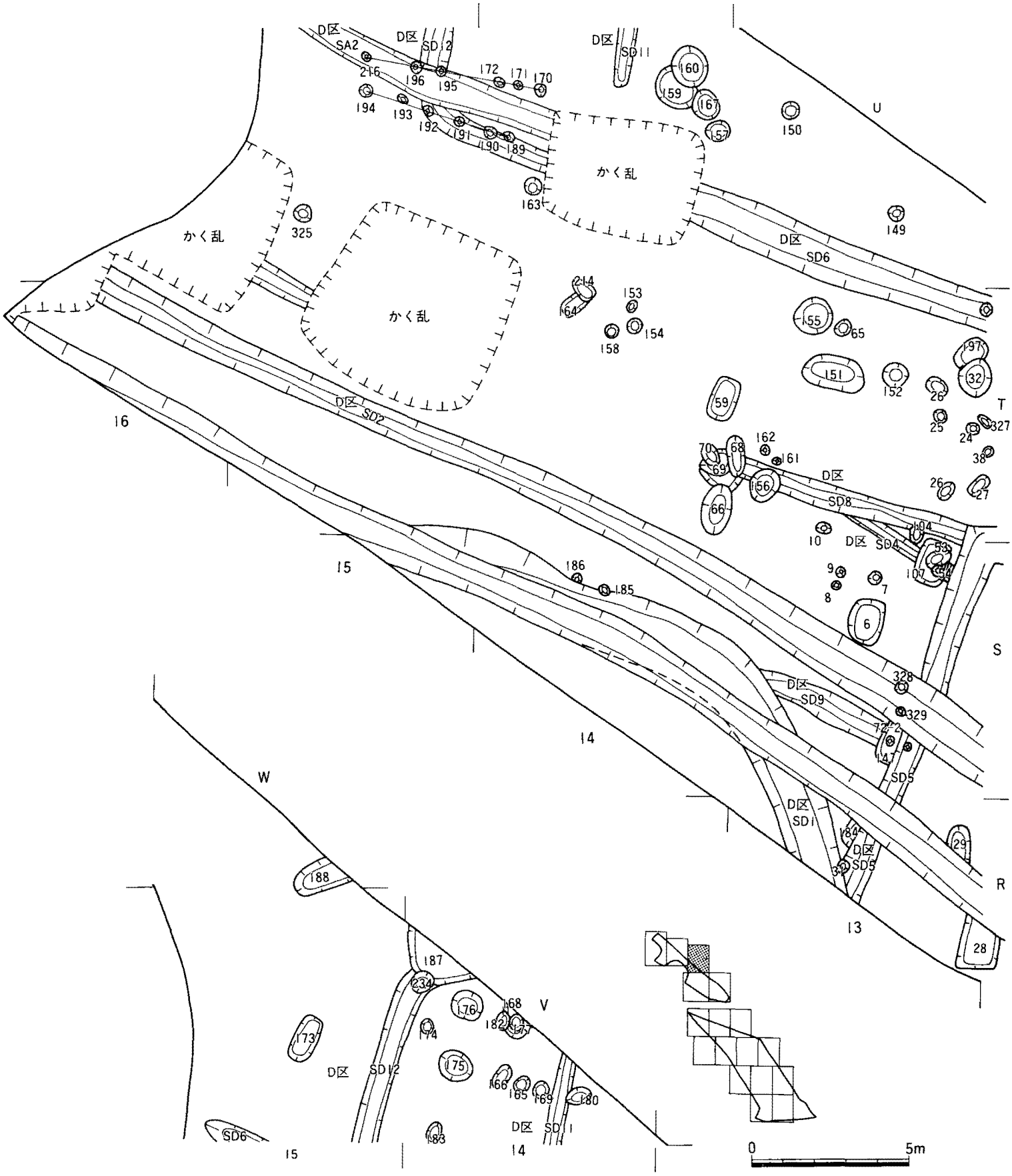
13）それぞれの編年の対応は、小野木　学（1997）第２節遺構・遺物概要．堀田城之内遺跡．岐阜県文化財保護センター第30集をもとにした。


D区 SB2
D区 SB1
D区 SD14
D区 SD15
D区 SD16
D区 SD17
D区 SD19
D区 SD20
撹乱
A′
Z
Y
X
W
20
19
0
5m

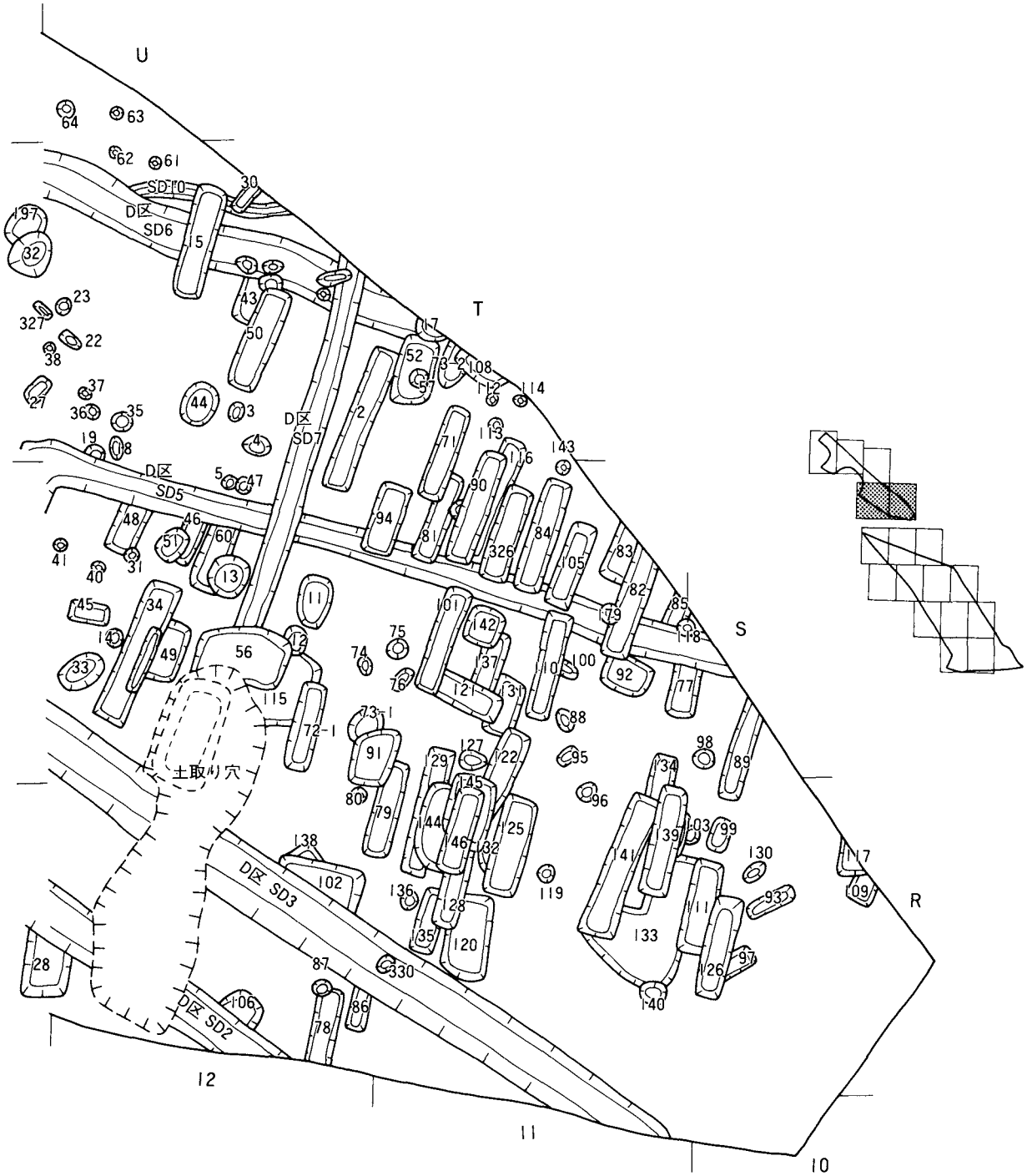
第5図　遺構全体図(1)


331
229
Z
268
320
223
217
222
220
D区
SB3
212
218
219
Y
253
211
204
SD13
D区
295
273
213
215
D区
SD19
D区
SX2
208
207
SD20
203
209
D区SX3
X
202
201
撹乱
3
4
D区
SX1
199
200
5
D区SH1
8
17
W
18
16
0
5m

第6図　遺構全体図(2)


D区
SA2
D区
SD12
D区
SD11
216
196
195
172
171
170
194
193
192
191
190
189
160
159
167
157
150
U
かく乱
163
325
かく乱
かく乱
149
D区
SD6
214
153
164
154
158
155
65
97
151
152
32
26
25
24
327
38
T
16
D区
SD2
59
162
70
68
161
69
156
D区
SD8
26
27
66
10
D区
SD4
104
53
107
54
15
186
185
9
8
7
6
S
D区
SD9
328
329
72
42
41
SD5
14
W
D区
SD1
184
D区
SD5
34
29
R
188
13
28
187
234
176
168
182
177
V
174
173
D区
SD12
175
166
165
169
180
D区
SD11
183
SD6
15
14
0
5m

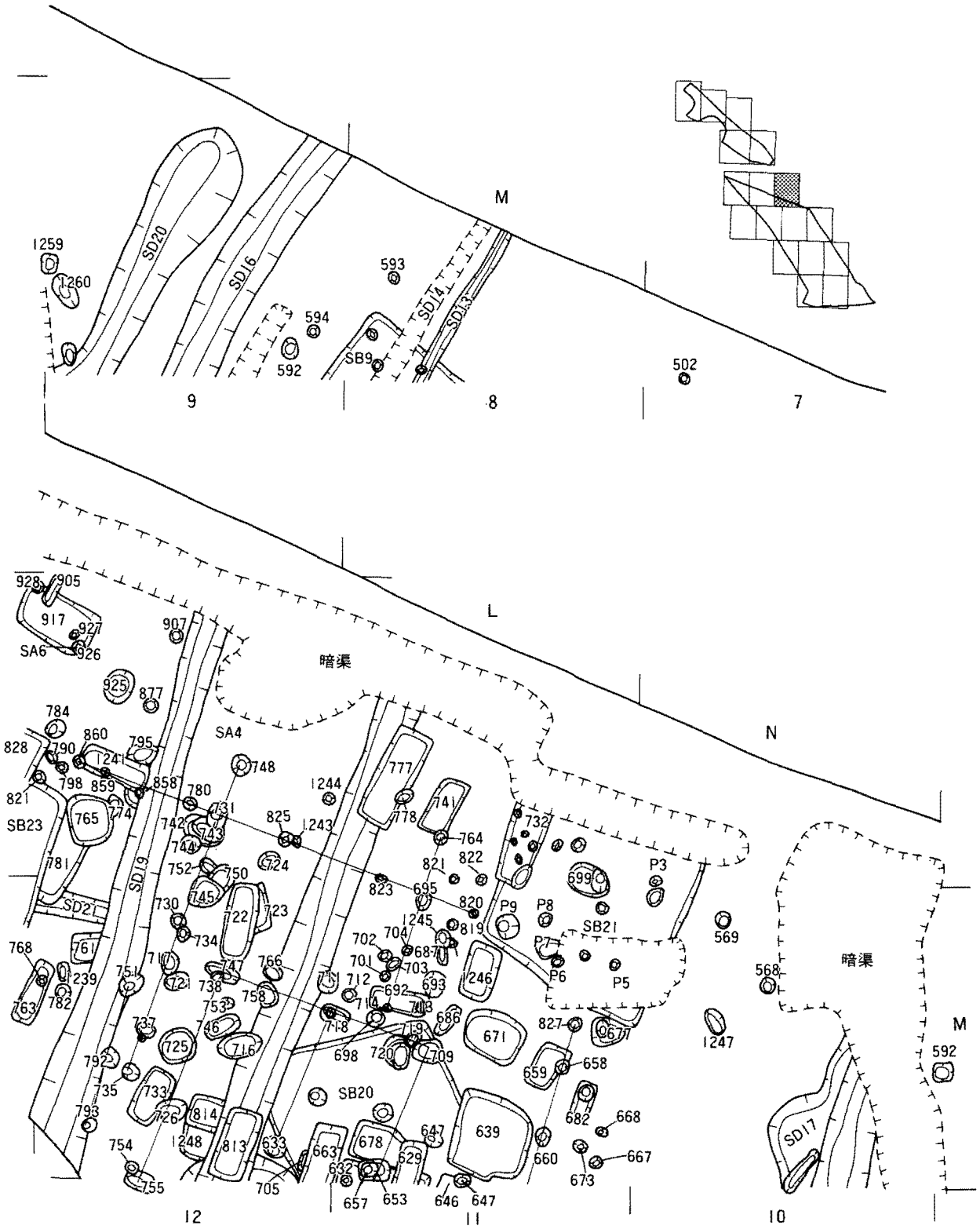
第7図　遺構全体図(3)



第8図　遺構全体図(4)

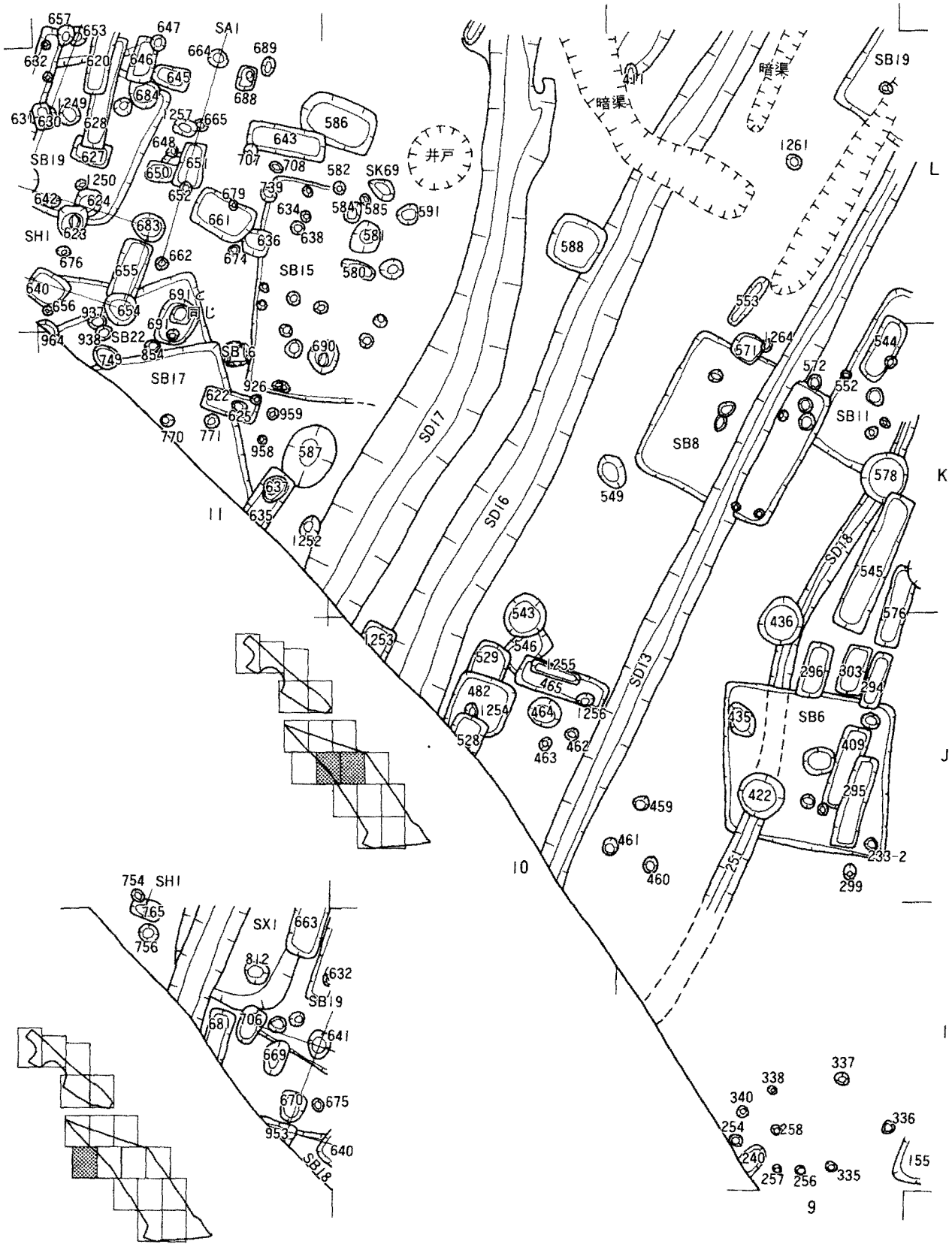
0　5m

第9図　遺構全体図(5)



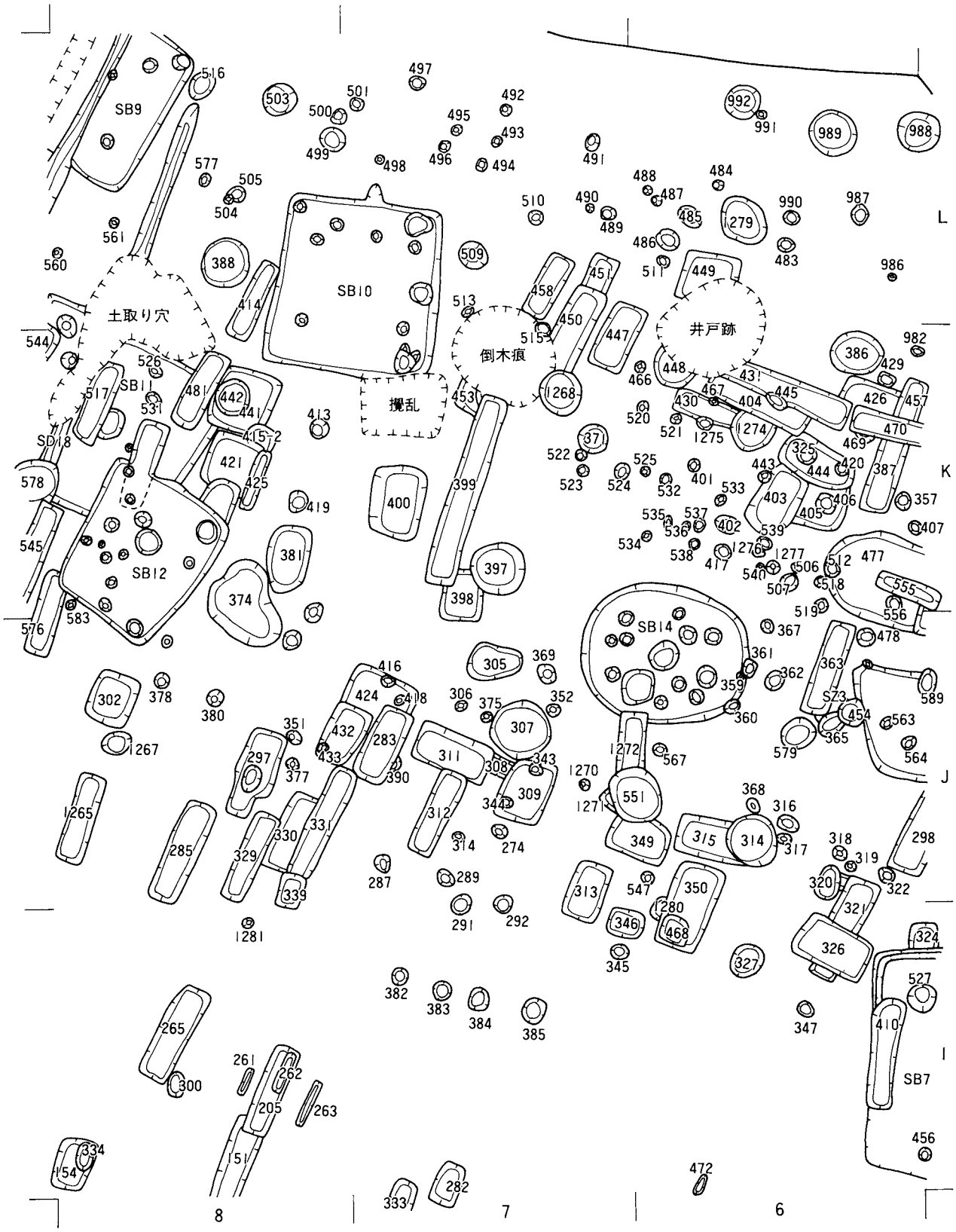
第10図　遺構全体図(6)

0　5m



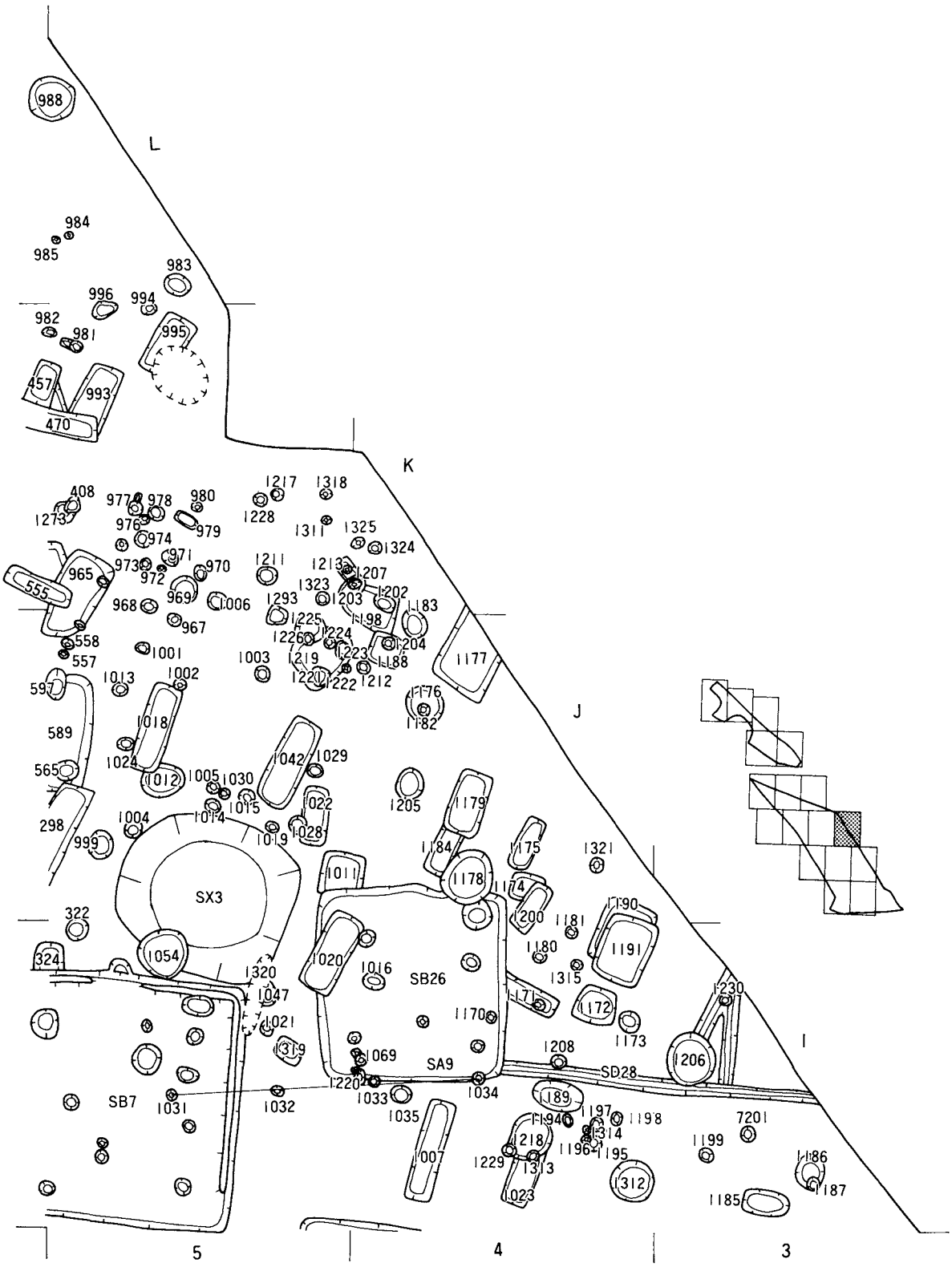
第11図　遺構全体図(7)

0　5m

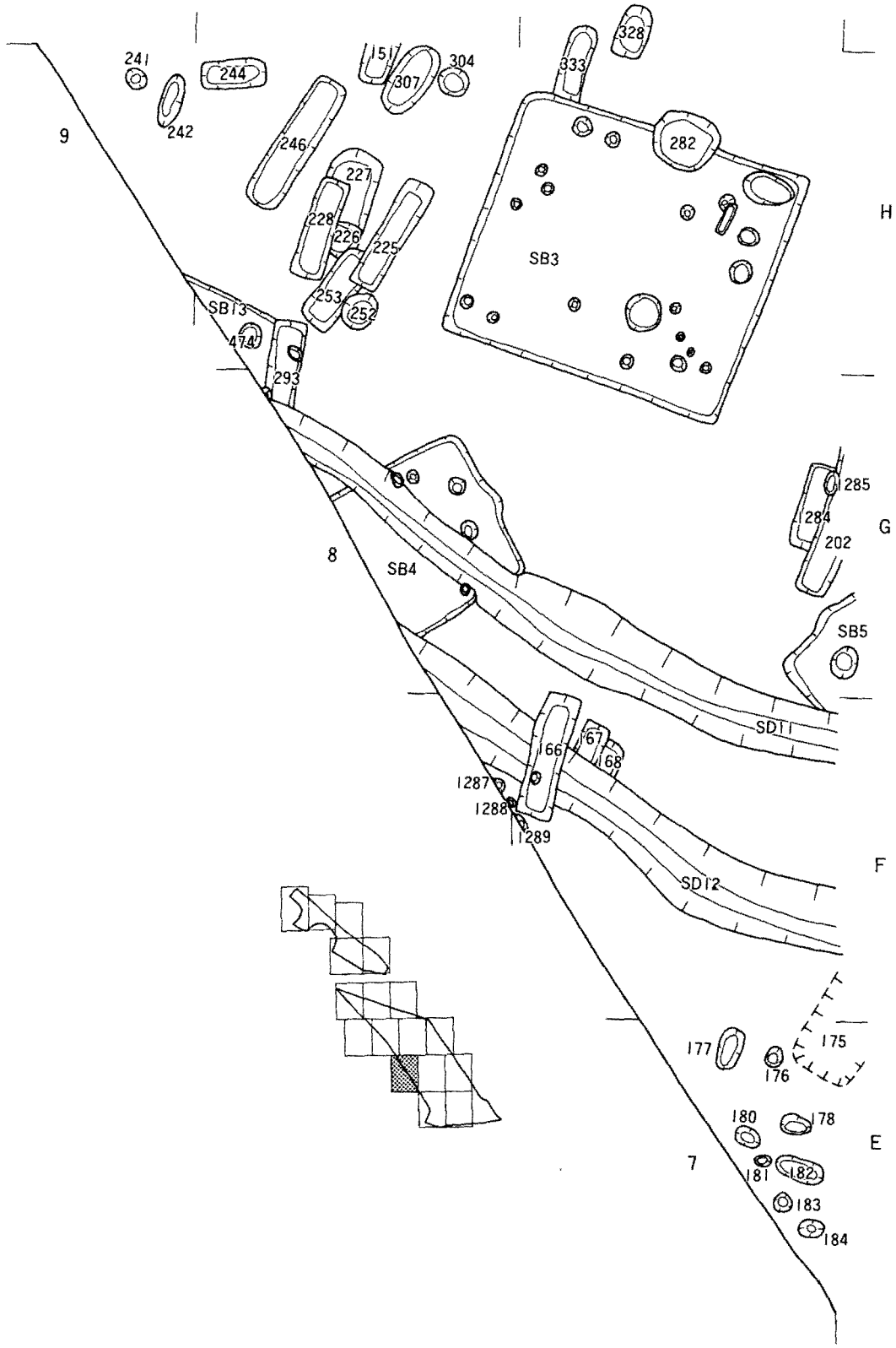


第12図　遺構全体図(8)

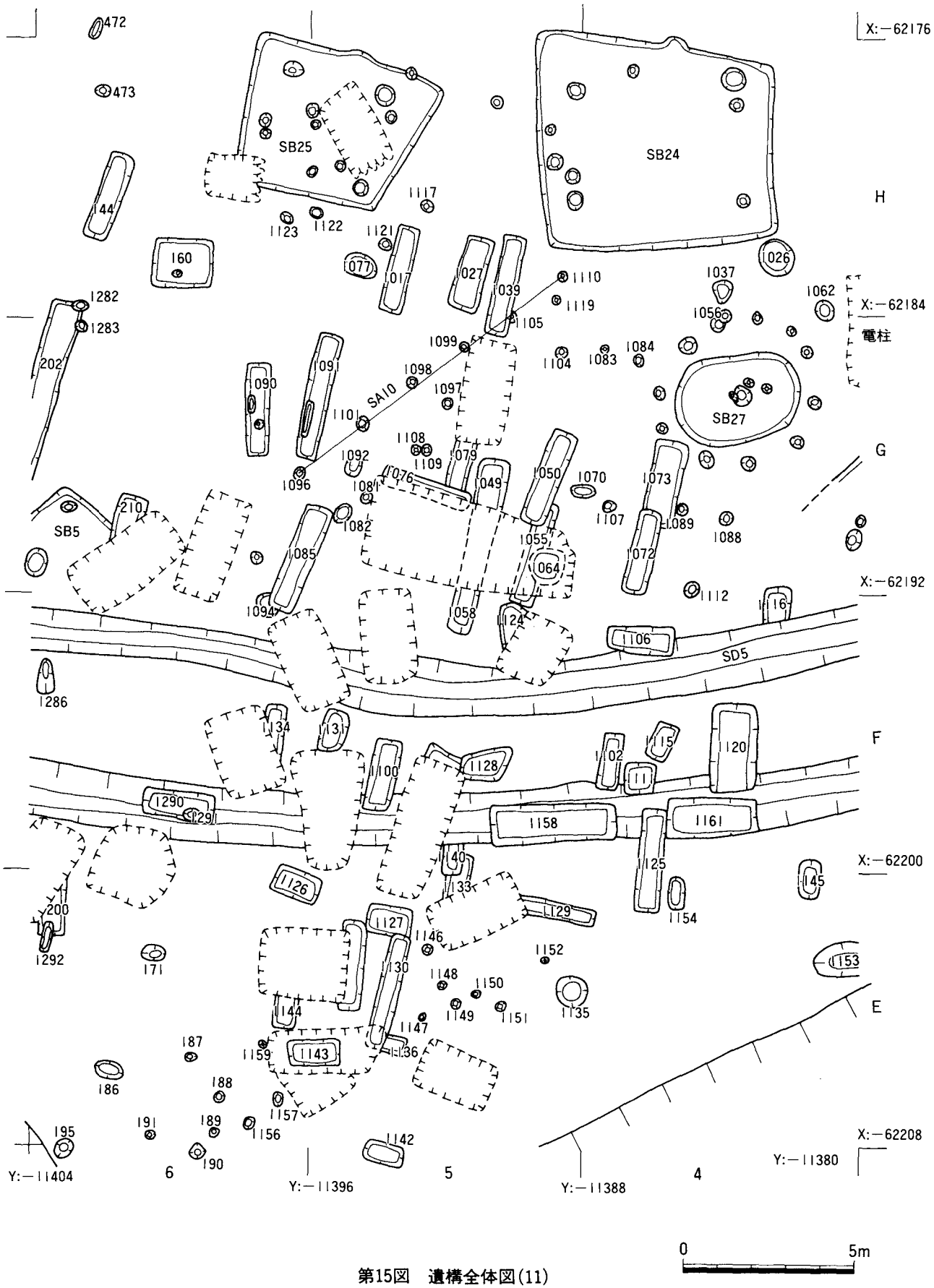
0　5m


L
K
J
I
5
4
3
SX3
SB26
SA9
SB7
SD28
988
984
985
983
996
994
982
981
995
457
993
470
408
977
978
980
1273
976
979
974
973
971
970
972
965
969
968
967
555
558
557
1001
1006
1217
1318
1228
1311
1325
1324
1211
1213
1207
1323
1202
1293
1203
1183
1225
1198
1226
1224
1204
1219
1223
1188
1003
1220
1222
1212
1177
1176
1182
597
1013
1002
589
1018
1024
565
1012
1005
1030
1042
1029
1015
1022
298
1004
1014
1019
1028
999
1205
1179
1184
1175
1321
1011
1178
1174
1190
322
1054
1200
1181
1180
1191
324
1020
1016
1315
1320
1047
1171
1172
1230
1021
1170
1173
1319
1069
1208
1206
1220
1033
1034
1189
1031
1032
1035
1194
1197
1198
7201
1218
1314
1196
1199
1007
1229
1313
1195
1186
1312
1023
1185
1187
0
5m

第13図　遺構全体図(9)

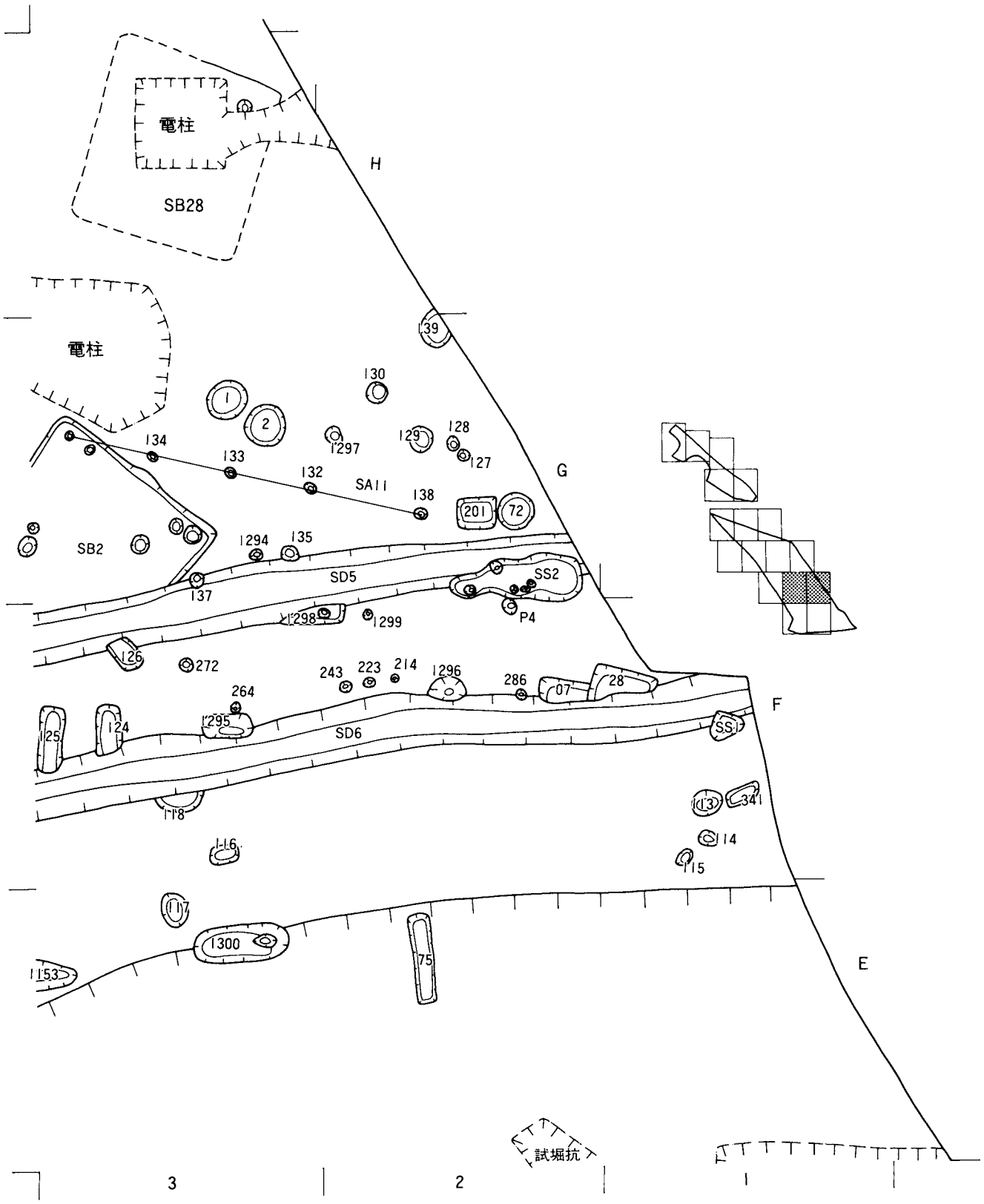


第14図　遺構全体図(10)　0　5m

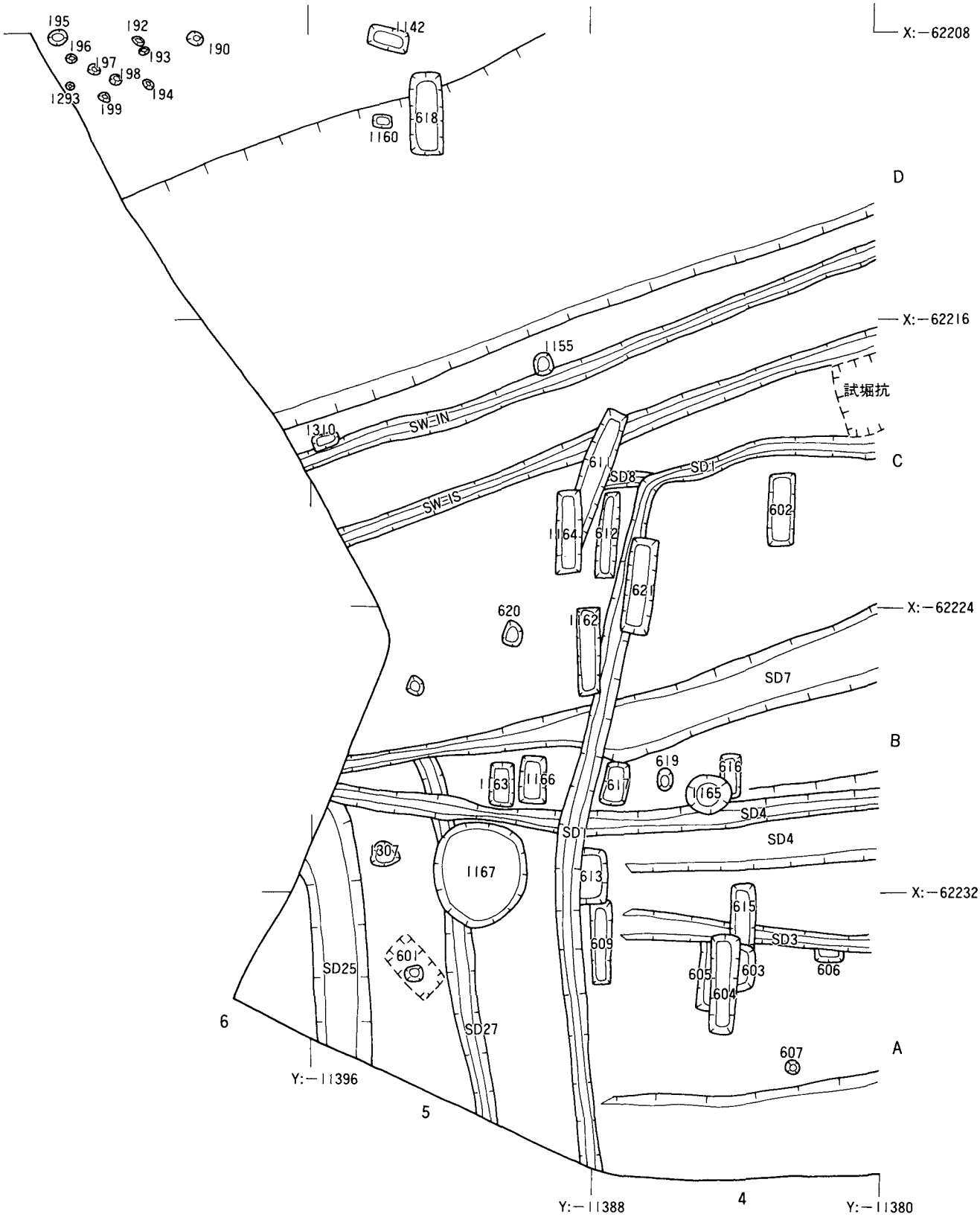


0　5m

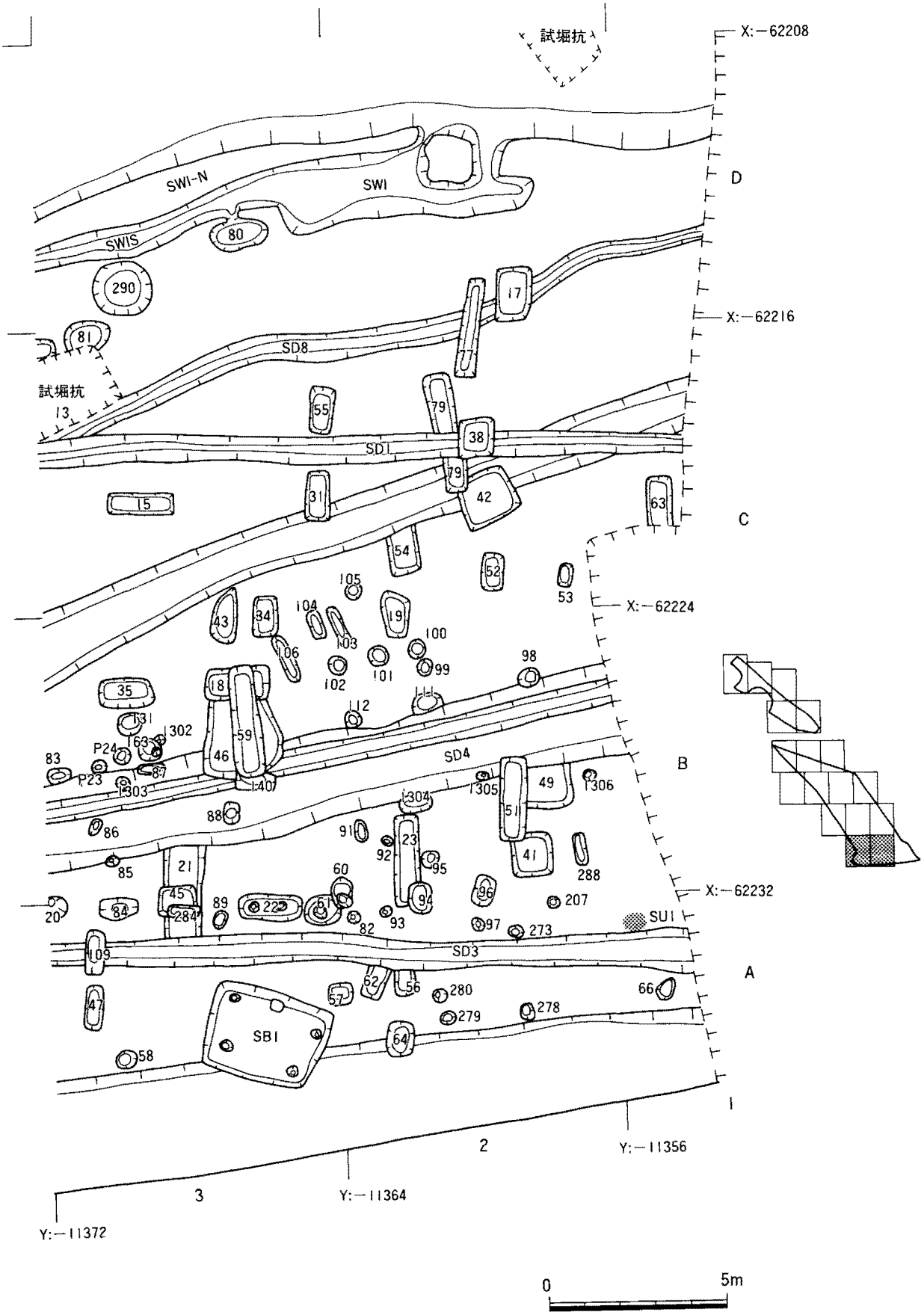
第15図　遺構全体図(11)



第16図　遺構全体図(12)



第17図　遺構全体図(13)



第18図　遺構全体図(14)

第２節　遺構と遺物

(1)　２～３期の遺構

ＳＢ１４

・位置　　６Ｊ区　・平面形　円形　・主軸方位　？　・規模(m)　長径 4.5　短径 3.8

・時期　　２期

Ａ・Ｂ・Ｃ区のほぼ中央あたりで検出した。覆土が地山の黄褐色砂と酷似しているため、全体形をとらえるのが困難であった。遺物の広がりをもとに検出した。

炉跡は、住居のほぼ中央で検出した。浅いくぼみ状で、石は使用していない。くぼみの壁面の南半分が、少し赤く焼けている。またこの部分の覆土にも焼土が少し含まれていた。

ピットは11個検出した。そのうちＰ１、Ｐ２、Ｐ３、Ｐ４、Ｐ７、Ｐ８、Ｐ９は深さが５～10cmで底の面が硬くしまっていた。また、Ｐ10も横の壁に硬い部分が見られた。これらのピットは柱穴の可能性が高いと思われる。またＰ12も深く掘りこまれており、柱穴の可能性が高い。

遺物は、床面よりも上層の覆土からレンズ状に大量に土器が出土する、いわゆる「吹上パターン」である。４の鉢のみ床直上から出土している。埋甕等は見られなかった。出土した土器から、この住居の時期は２期と考えられる。

石器は、石鏃３点（19～21)、泥岩を使用した剥片石器１点（26)、打欠石錘２点（23,24)、打製石斧の折れたもの２点、破片と思われるもの２点、使用痕のある剥片３点（22,25)、剥片２点の計11点が出土した。

ＳＢ１６

・位置　　11Ｋ区　・平面形　不明　・主軸方位　不明　・規模(m)　不明

・時期　　２～３期？

石囲みの炉の部分だけ検出した。両端には、13期のＳＢ15、ＳＢ17、ＳＢ22がほとんど接するように存在する。そのため、ＳＢ16の掘り込みや床面等は、削平されてほとんど残っていないと考えられる。これらの住居等で検出したピットの位置を見ると、炉のまわりを囲むようにまわるピットも存在する。これらのピットのいくつかは、ＳＢ16の柱穴になる可能性がある。

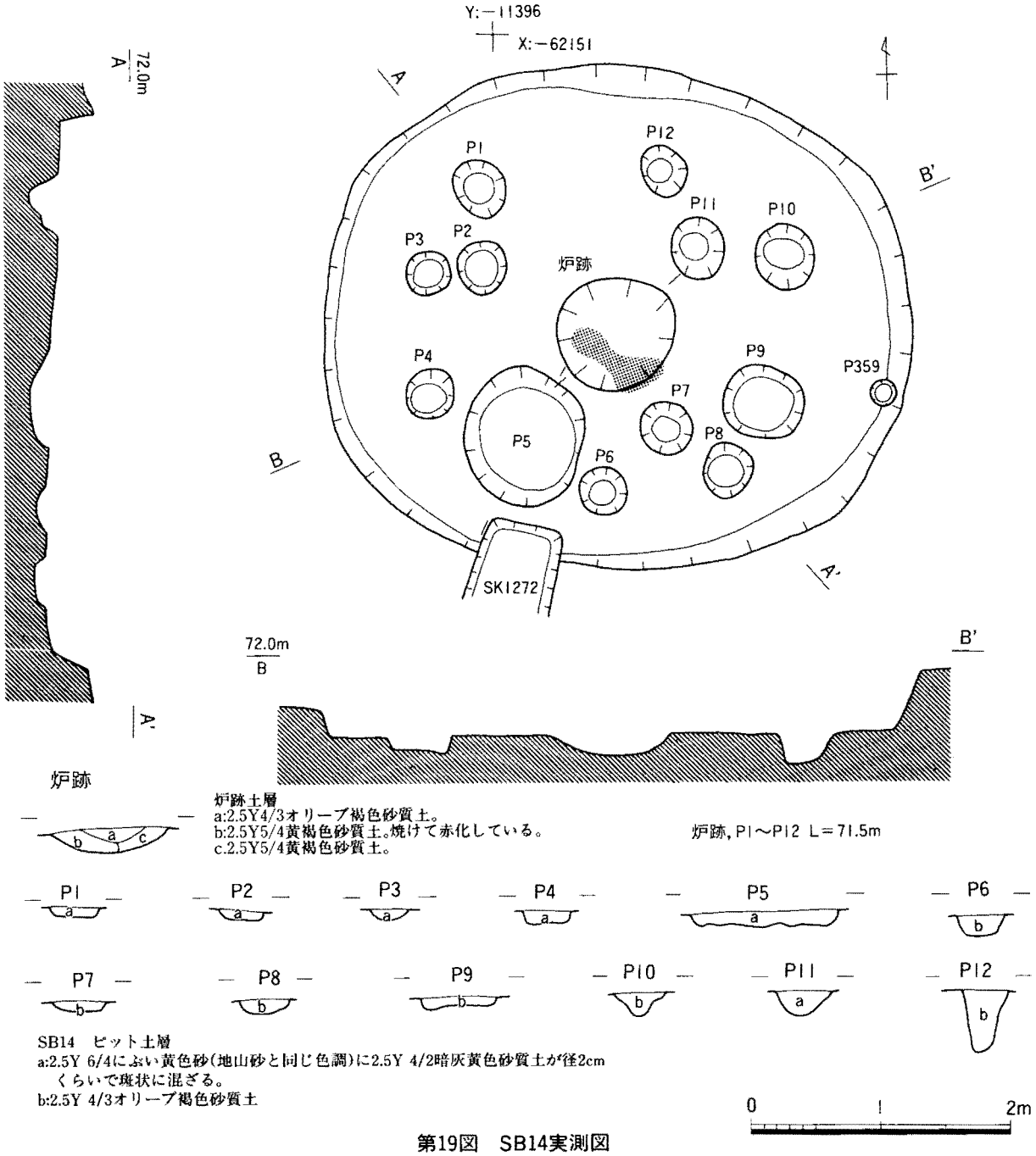
炉は、直径約90cm、深さ約30cmの穴に、長径が20～50cmの大きな河原石５個を穴の周囲を囲むように並べて作られている。炉の底の砂質土が焼けて赤くなっており、炉石にも熱を受けて破損した跡が見られる。

遺物は、炉の付近で黒曜石製の使用痕のある剥片（27）が１点出土しているが、土器等は炉穴の中からも出土していない。しかし炉の形態から縄文時代のものと考えられる。詳しい時期はわからない。

ＳＵ１

調査区の南端の１Ａ杭付近から検出された土器集積である。直径約40cmの範囲に土器片が集中して固まっている。その周辺でも土器が分散して出土するが、後世の撹乱によって原位置を保っていないと考えられる。土器片の集中する部分に、掘りこみ等は見られなかった。

土器は、２個体の破片があった。どちらも２～３期の土器である。



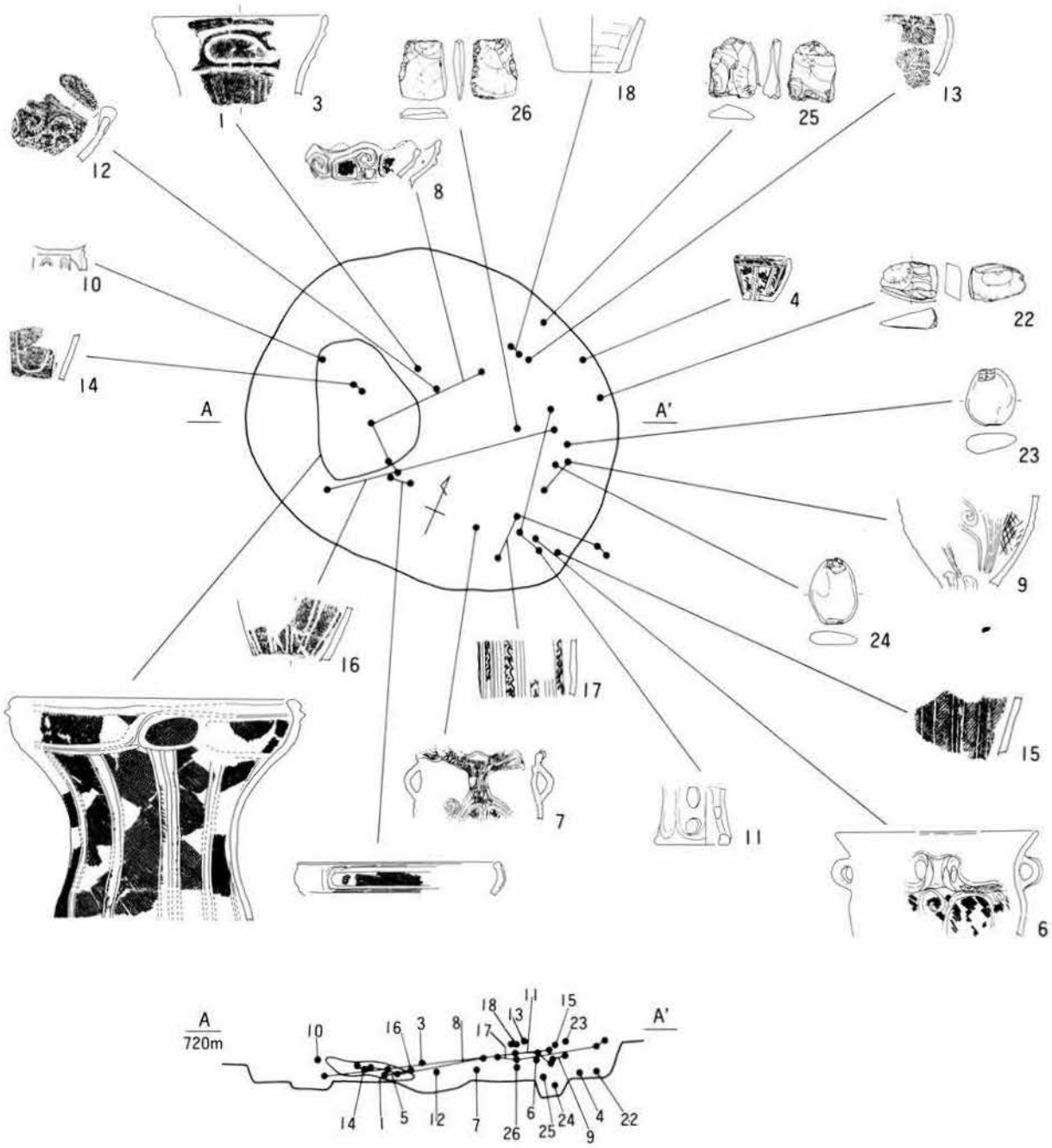
第19図　SB14実測図

ＳＵ３

調査区の北東端の１Ｆ杭付近から検出された土器集積である。１個体の破片のみであった。土器の文様や形態から３期のものと考えられる。

Ｐ413

８Ｋ区のＳＢ10の南側で検出された。長径約50cm、短径約40cmのやや楕円をしたピットで、深さは地山面から約40cmである。底から縄文土器と打製石斧が出土している。他の時代の遺物は出土しておらず、縄文時代に掘られた可能性が高い。



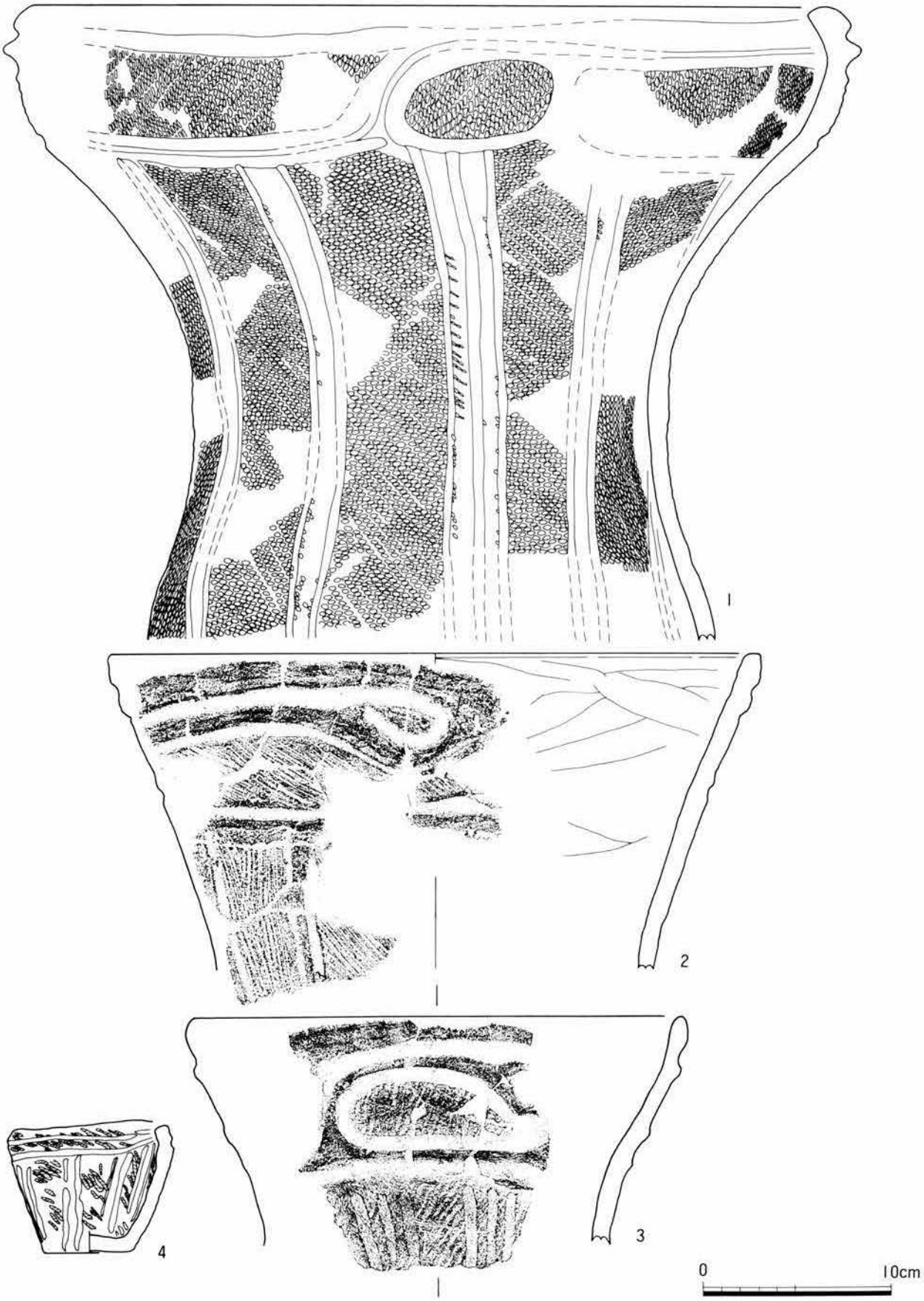
第20図　SB14遺物出土状況

P 1056

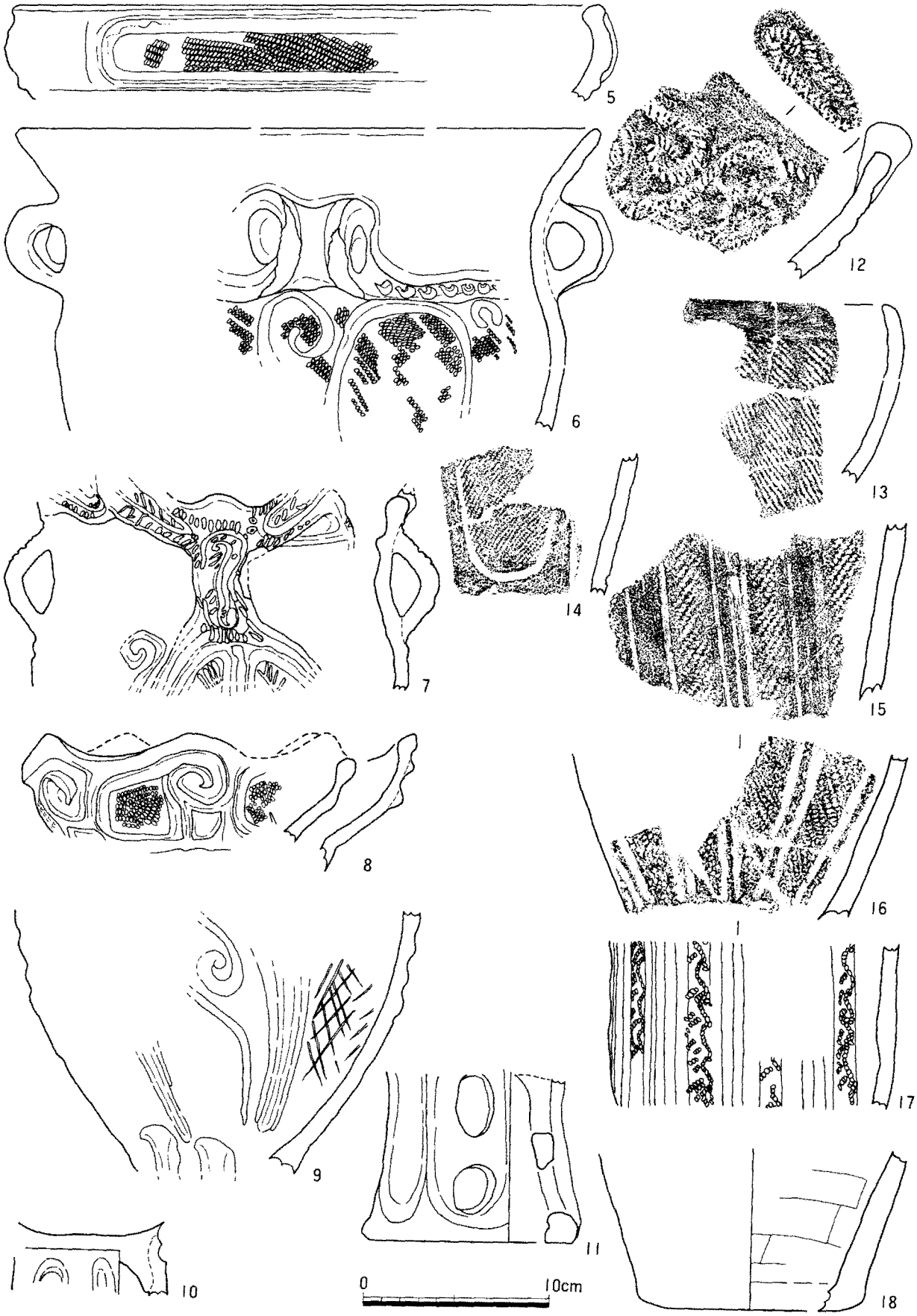
４Ｇ区のＳＢ27の周囲のピットと重なって検出された。径約35cmの円形のピットで深さは地山面から約70cmと深い。遺物は、約40cmの深さから縄文土器の深鉢の底部１点が出土している。また、地山面から約20cmの深さから拳大の円礫が８点ほど集中して出土している。

ＳＫ1185

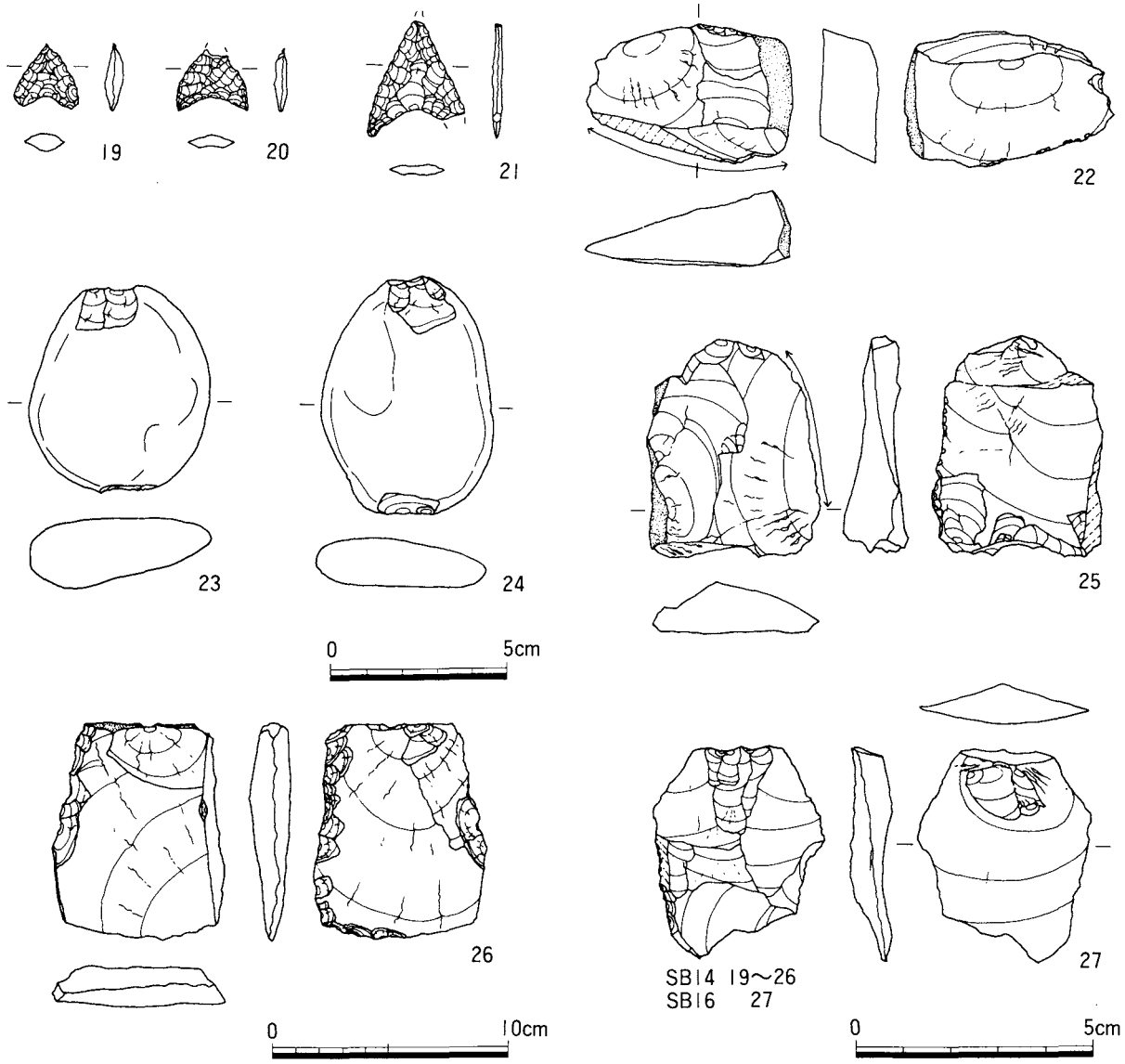
３Ｉ区で検出された。自然流路ＮＲ２の北側の岸にあたる位置である。底から２期の深鉢の破片１点が出土している。



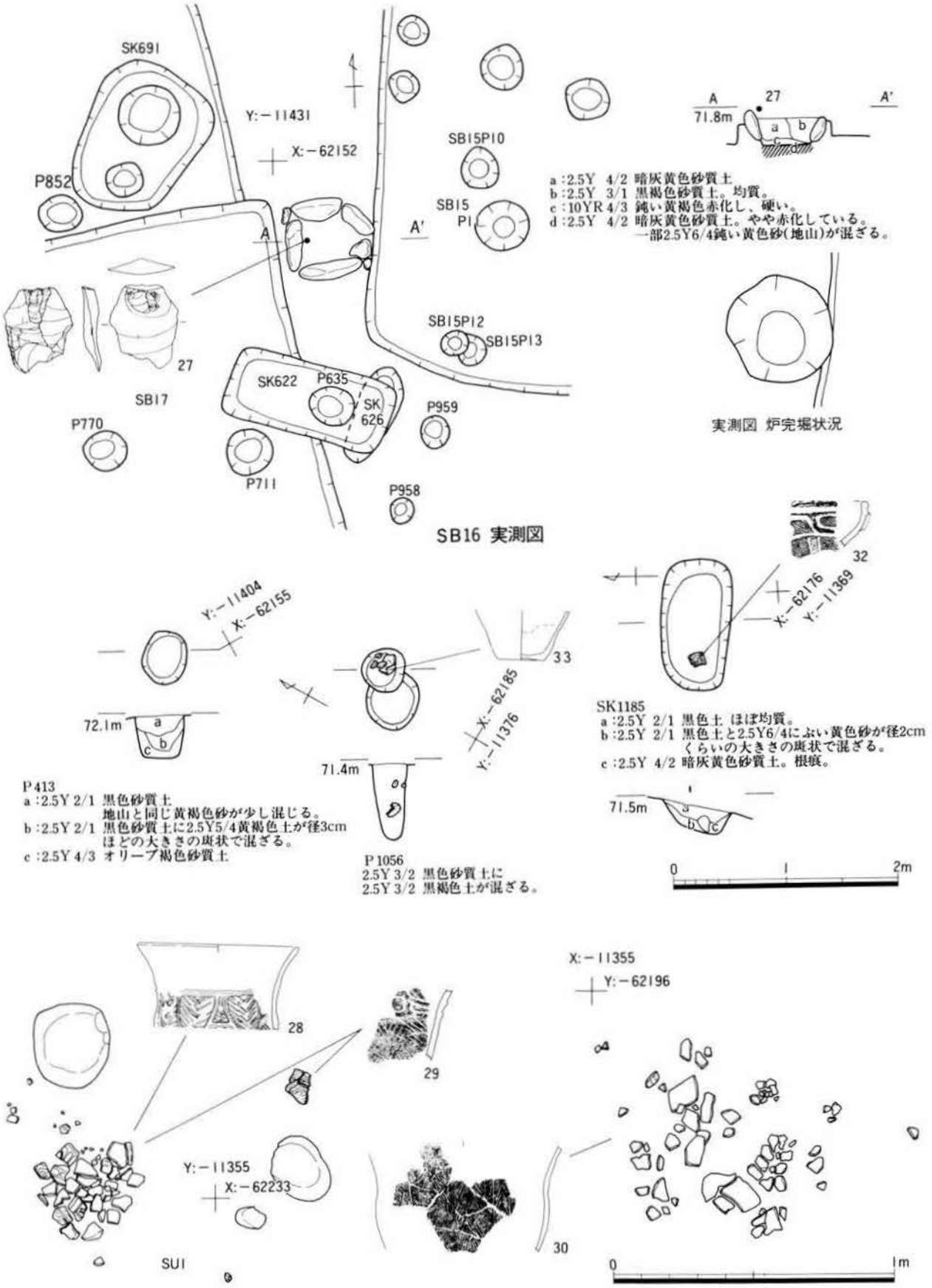
第21図　SB14出土遺物



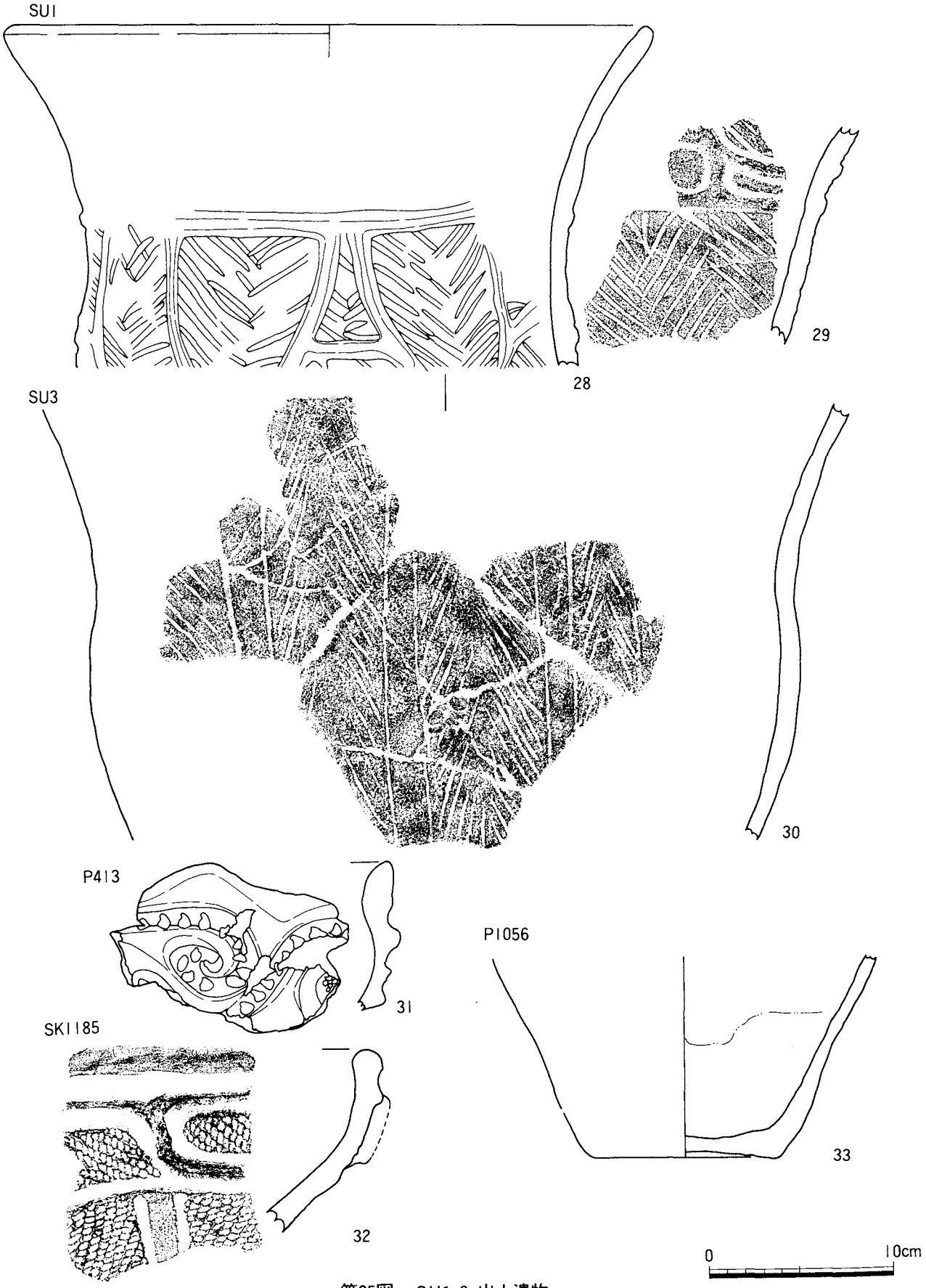
第22図　SB14出土遺物



第23図　SB14・16 出土石器



第24図　SB16, P413・1056, SK1185, SU1・3 実測図



第25図　SU1・3 出土遺物

(2)　７期の遺構

ＳＢ27

・位置　　４Ｇ区　　・平面形　　楕円形　竪穴の周囲に柱穴をめぐらせる。

・主軸方位　不明　・規模(ｍ)　長径　3.7　短径　2.5

楕円形の竪穴の中央に深さ約50cmの深いピットがあり、竪穴の周囲を取り囲むように11個のピットがある。周囲のピットは、どれも深さが検出面から10～20cmと浅く、底が丸い。この平面形から、中央に中心となる支柱を建て、竪穴の周囲のピットから中心の支柱に向けて梁をめぐらせた構造の住居であったと推定できる。

炉跡は見つからなかったが、覆土から土器や石器の他、焼けて赤化したこぶし大の礫が出土している。出土した土器から時期は７期と考えられる。

ＳＺ１　壷棺墓

６Ｊ区から１基のみ検出された。後世の３つの土坑やピットに一部が壊されている。そのため、はっきりしない点もあるが、直径約80cmの円形の穴に大型の壷を直立させて置いている。深さは地山面から約60cmである。壷棺の中には砂質土や土器片が入っていたが、骨等の確認はしていない。壷の内側のほぼ中央あたりから、43の条痕文系壷の上半部が倒立した状態で出土している。この土器は壷棺墓に伴うものと考えられるが、後世の攪乱によって原位置から動いている可能性があり、もともと壺の中にあったのかは不明である。

壷棺に使われた大型壷の口縁等や中に入っていた中型壷の胴・底部の破片は、壷棺墓を切っている３つの土坑や付近の包含層から出土している。特にＳＫ365から破片がバラバラの状態で大量に出土している。大型壷は口縁全体の約半分ほどの破片が見つかっているが、口縁部と下部が明確に接合する箇所は見られなかった[1)]。

この壷棺の時期は、壷の頸部の横線がに条痕によってつけられていることから７期と考えられる。

1）奈良大学大学院　角南聡一郎氏のご教示によると、この時代の壷棺墓は壷の口縁部を割って蓋としてかぶせる例が多いという。口縁部の破片が多く見つかっているのに接合箇所がないことは、この壷棺も口縁部を蓋としている可能性を示していると思われる。

ＳＫ381

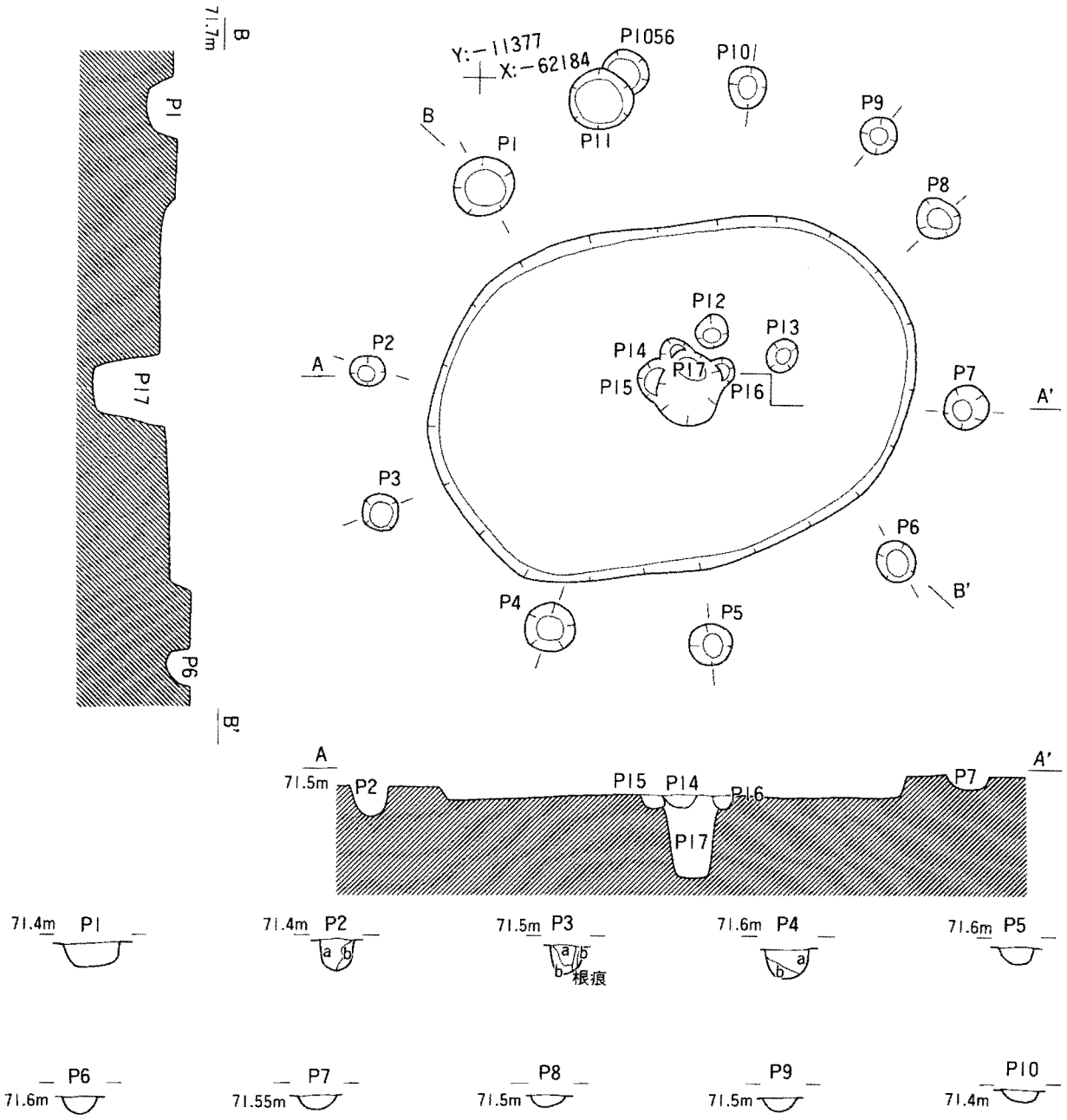
８Ｋ区から検出された。長径1.8ｍ、短径1.1ｍの楕円形を呈する。深さは検出面から20cmほどで、底は平らで壁は急に立ち上がる。覆土から弥生土器の破片がバラバラの状態で出土している。

Ｐ851

下の調査区の西端の14Ｎ区から検出された。口径約30cm、深さ約30cmのピットで、覆土の中程から弥生土器の甕の底部の破片が出土した。出土した破片は２個体あり、どれも底部しかない。この周辺で弥生土器の出土する遺構は他になく、包含層からもほとんど出土していない。

ＳＫ1189

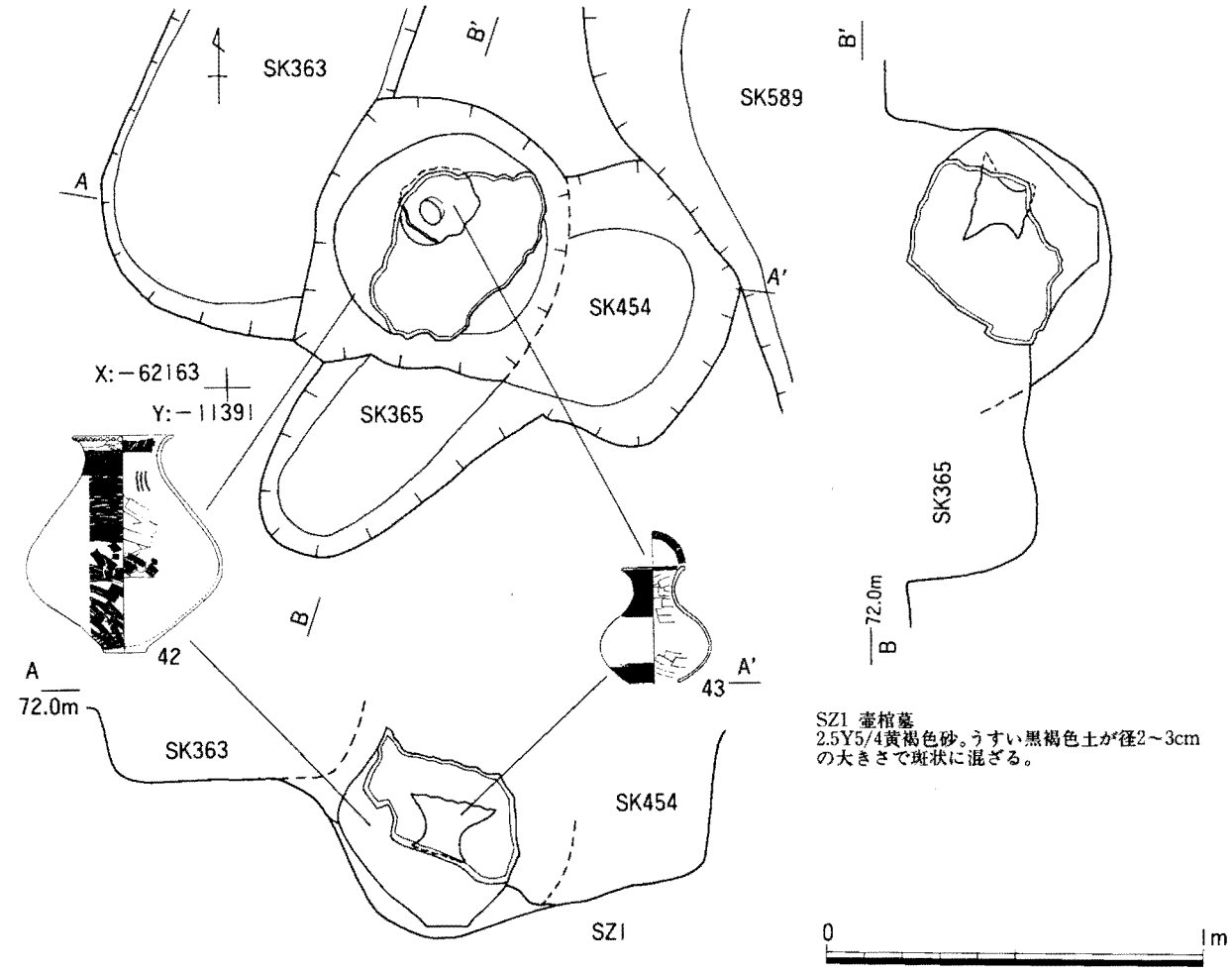
４Ｉ区から検出された。自然流路ＮＲ２の北側の岸辺にあたる。長径1.3ｍ、短径0.7ｍの楕円形で、底は深さ約30cmと浅く、底の断面形は丸いお椀形をしている。遺物は弥生土器が覆土の上方から中程にかけてバラバラに出土している。細かい破片がほとんどである。



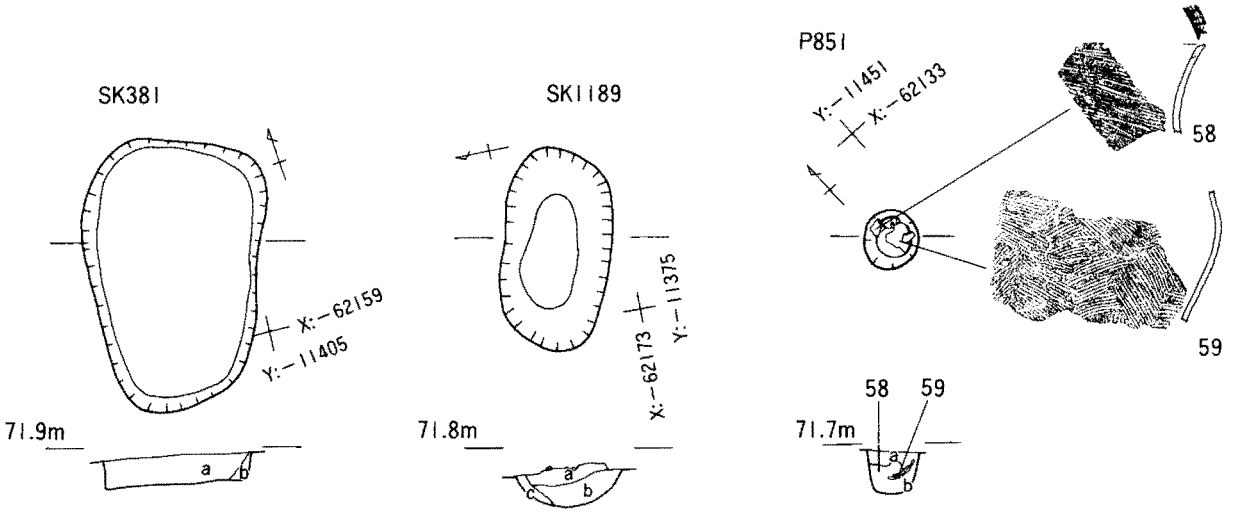
SB27
P 1
2.5Y4/2暗灰黄色砂質土に2.5Y2/1黒色土が径3～5cmの斑状に混ざる。
P 2
a：2.5Y3/2黒褐色土と2.5Y6/4にぶい黄色砂質土と2.5Y2/1黒色土が径3～5cmの斑状に混ざる。
b：2.5Y3/2黒褐色土と2.5Y6/4にぶい黄色砂質土が混ざる。
P 3
a：2.5Y3/1黒褐色砂質土。
b：2.5Y3/1黒褐色砂質土に2.5Y5/4黄褐色砂が径3cmの斑状に混ざる。
P 4
a：2.5Y3/1黒褐色砂質土に2.5Y5/4黄褐色砂が混ざる。
b：2.5Y5/4黄褐色砂に2.5Y3/1黒褐色砂質土がわずかに混ざる。
P 5
2.5Y3/1黒褐色砂質土に2.5Y5/4黄褐色砂が混ざる。
P 6
2.5Y3/1黒褐色砂質土に一部2.5Y5/4黄褐色砂が混ざる。
P 7
2.5Y3/1黒褐色砂質土。均質。
P 8
2.5Y3/1黒褐色砂質土に2.5Y5/4黄褐色砂が混ざる。
P 9
2.5Y3/1黒褐色砂質土に2.5Y5/4黄褐色砂が混ざる。
P 10
2.5Y3/1黒褐色砂質土に2.5Y5/4黄褐色砂が混ざる。

0　1　2m

第26図　SB27 実測図



SZ1 壷棺墓
2.5Y5/4黄褐色砂。うすい黒褐色土が径2～3cmの大きさで斑状に混ざる。



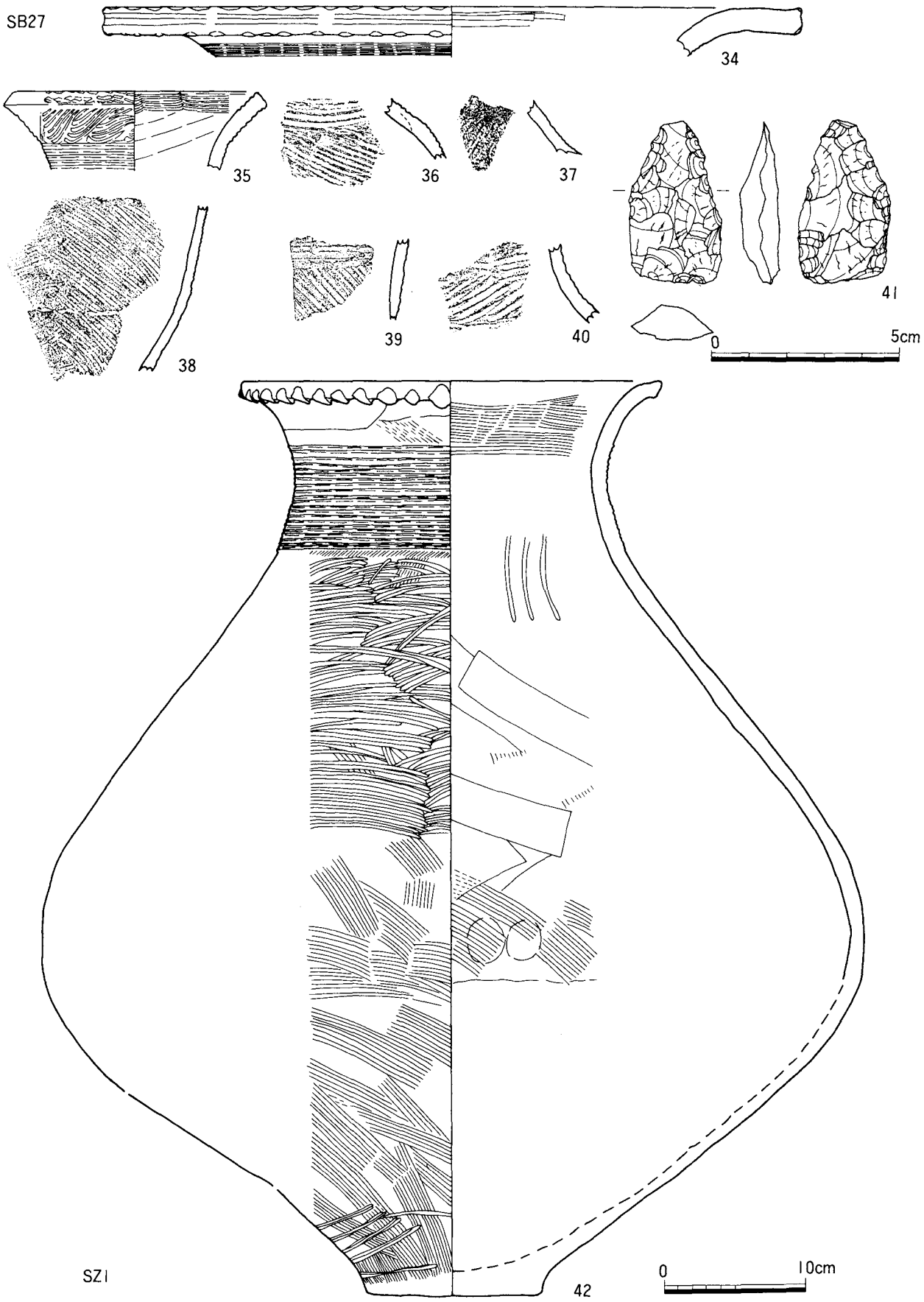
SK381
a：2.5Y3/1黒褐色砂質土、上方ほど2.5Y1/2黒色に近くなり、下方ほど2.5Y5/4黄褐色砂質土に近くなる。
b：2.5Y5/4黄褐色砂に黒色土が全体にうすくラミナ状に混じる。

P851
a：2.5Y3/1黒褐色砂質土、わずかに2.5Y6/4にぶい黄色砂が径2cmの斑状に混ざる。
b：2.5Y4/2暗灰黄色砂質土。均質。

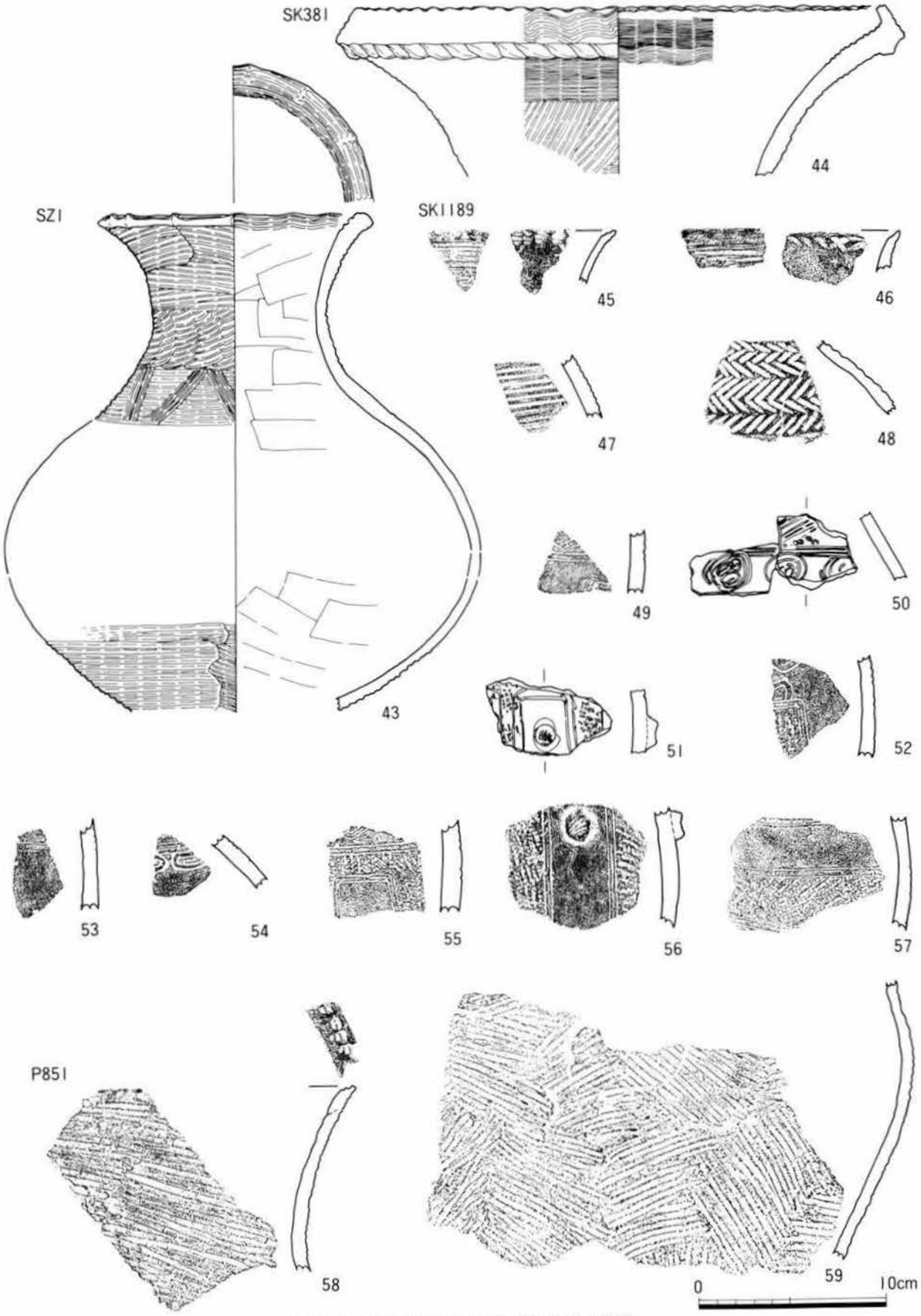
SK1189
a：2.5Y3/2黒褐色土。均質。
b：2.5Y2/1黒色土、わずかに2.5Y6/4にぶい黄色砂や2.5Y3/1黒褐色土が混ざる。
c：2.5Y6/4にぶい黄色砂に2.5Y3/1黒褐色土が混ざる。

0　1　2m

第27図　SZ1, SK381・1189, P851 実測図



第28図　SB27, SZ1 出土遺物



第29図　SZ1, SK381・1189, P851 出土遺物

ＳＫ392

８Ｊ区の近現代の芋穴の穴の底から検出された。直径40cm弱のやや楕円形をしたピットである。底から弥生土器片が出土しており、他の時代の遺物は出土していない。

(3) 10期の遺構

D区ＳＢ１

・位置　19Ｚ区　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－34°－Ｗ　・規模(m)　4.9×3.3

・面積(㎡)　16.1　・時期　10期

Ｄ区の西端で検出された。真上に道路遺構の溝が２本通っており、撹乱等で一部壊されているが、きれいな方形の住居である。中央に炉のピットがあり、四角に柱穴と思われるピットが検出された。特にＰ４は、後世の道路遺構の溝ＳＤ15の底から検出された。床は、住居のほぼ中央の炉のまわりに硬化した部分が見つかった。貼り床と考えられる。

遺物は土器片が住居跡の床や覆土から出土している。出土した土器から、この住居は10期のものと思われる。

D区ＳＢ２

・位置　19・20Ａ'、19・20Ｚ区　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－11°－Ｅ

・規模(m)　4.5×　?　・面積(㎡)　不明　・時期　10期

住居の北側は調査区外にある。また南側の竪穴の辺は、後世の溝（ＳＤ16）とほぼ重なっている。そのため全体形ははっきりしないが、方形の住居跡と考えられる。床面からはピットが４つ検出された。そのうちのＰ１、Ｐ２、Ｐ４の３つが柱穴と考えられる。全体としては、竪穴の四隅に４つの柱穴を持つ建物と考えられる。

床面のほぼ中央部におよそ40cm四方にわたって硬化した部分が検出された。炉跡らしきものは検出されなかった。

遺物は、高坏の脚部が１点出土している。

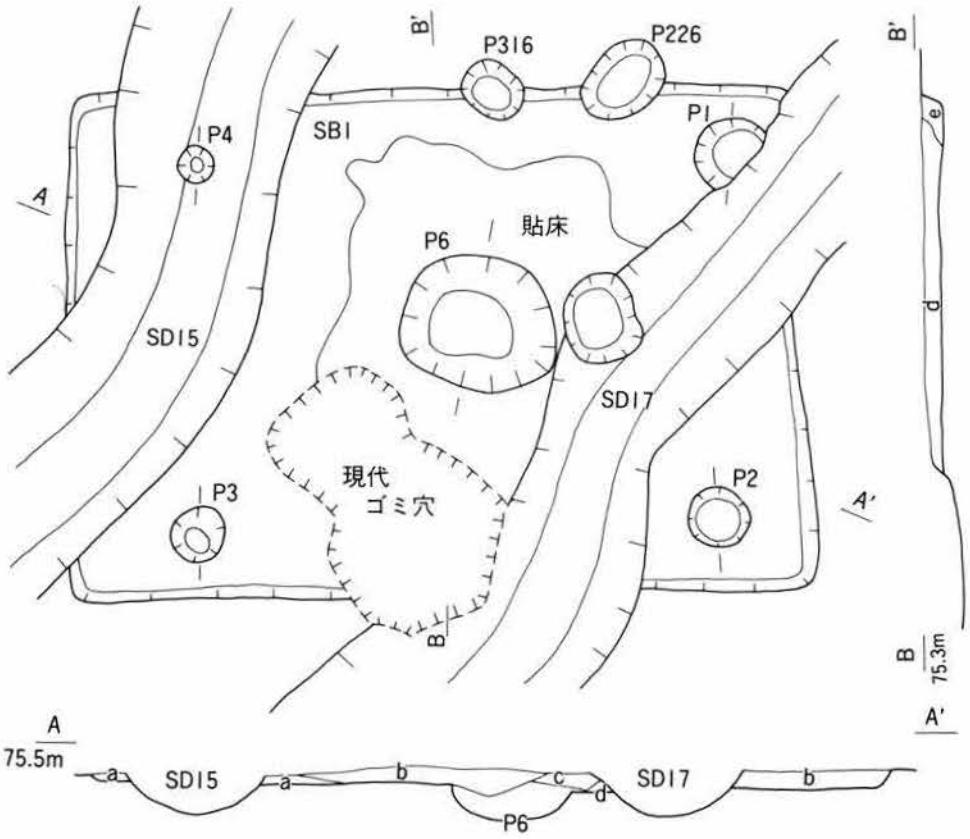
D区ＳＢ３

・位置　18Ｙ区　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－49°－Ｅ

・規模(m)　3.7×　?　・面積(㎡)　不明　・時期　10期

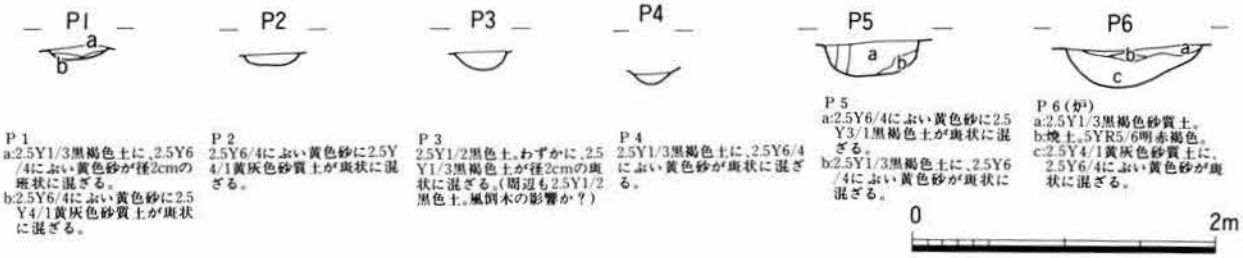
住居の南側の１／４ほどが検出された。残りの部分は調査区外にある。検出された部分から考えて方形の住居になると考えられる。角の部分からピットが検出されており、Ｄ区ＳＢ２やＤ区ＳＢ３と同じように竪穴の角に柱穴を持つと考えられる。検出された床面のほぼ全面が硬くしまっており、貼床と考えられる。

この住居からは、床面から完形の高坏１点と甕１点がそのままの形で潰れた状態で出土したほか、パレス壷口縁２点、高坏２点、壷胴部２点、鉢１点が良好な状態で出土した。これらの土器は10期のものと考えられる。１つの住居のわずか１／４からこのように土器が大量に残りの良い状態で出土したことから、この住居は特殊な性格を持ったものと考えられる。



D区SB1 ベルトセクション
a：2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質土。
b：2.5Y1/2黒色土。
c：2.5Y2/5暗灰黄色砂質土に、2.5Y3/1黒褐色土が径2～3cmの斑状に混ざる。
d：2.5Y6/4にぶい黄色砂。
e：2.5Y1/2黒色土に少し2.5Y6/6明黄褐色砂が混ざる。
f：2.5Y6/6明黄褐色砂（地山）。

P1～P6 L＝75.3m



P 1
a:2.5Y1/3黒褐色土に、2.5Y6/4にぶい黄色砂が径2cmの斑状に混ざる。
b:2.5Y6/4にぶい黄色砂に2.5Y4/1黄灰色砂質土が斑状に混ざる。

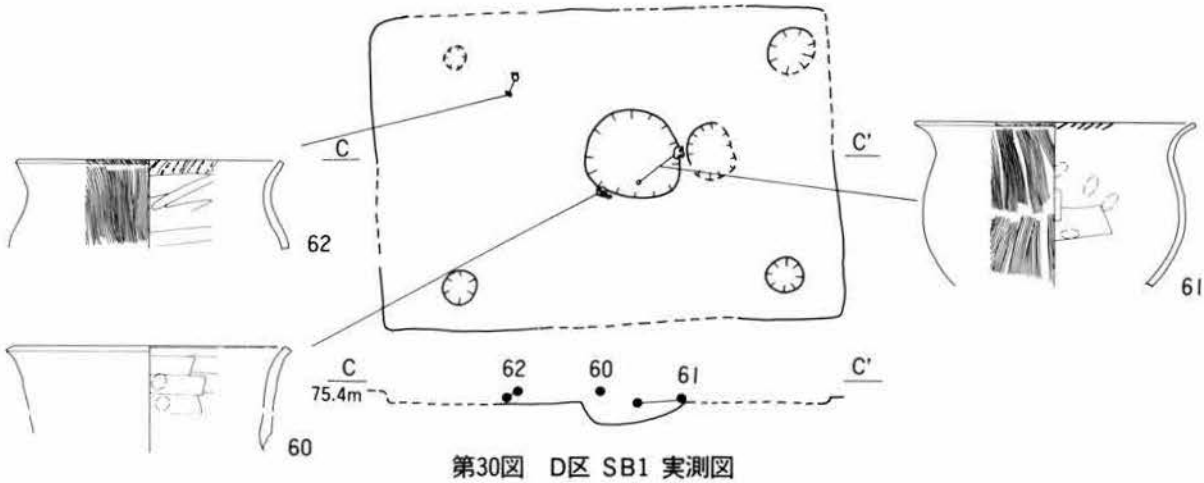
P 2
2.5Y6/4にぶい黄色砂に2.5Y4/1黄灰色砂質土が斑状に混ざる。

P 3
2.5Y1/2黒色土。わずかに、2.5Y1/3黒褐色土が径2cmの斑状に混ざる。（周辺も2.5Y1/2黒色土。風倒木の影響か？）

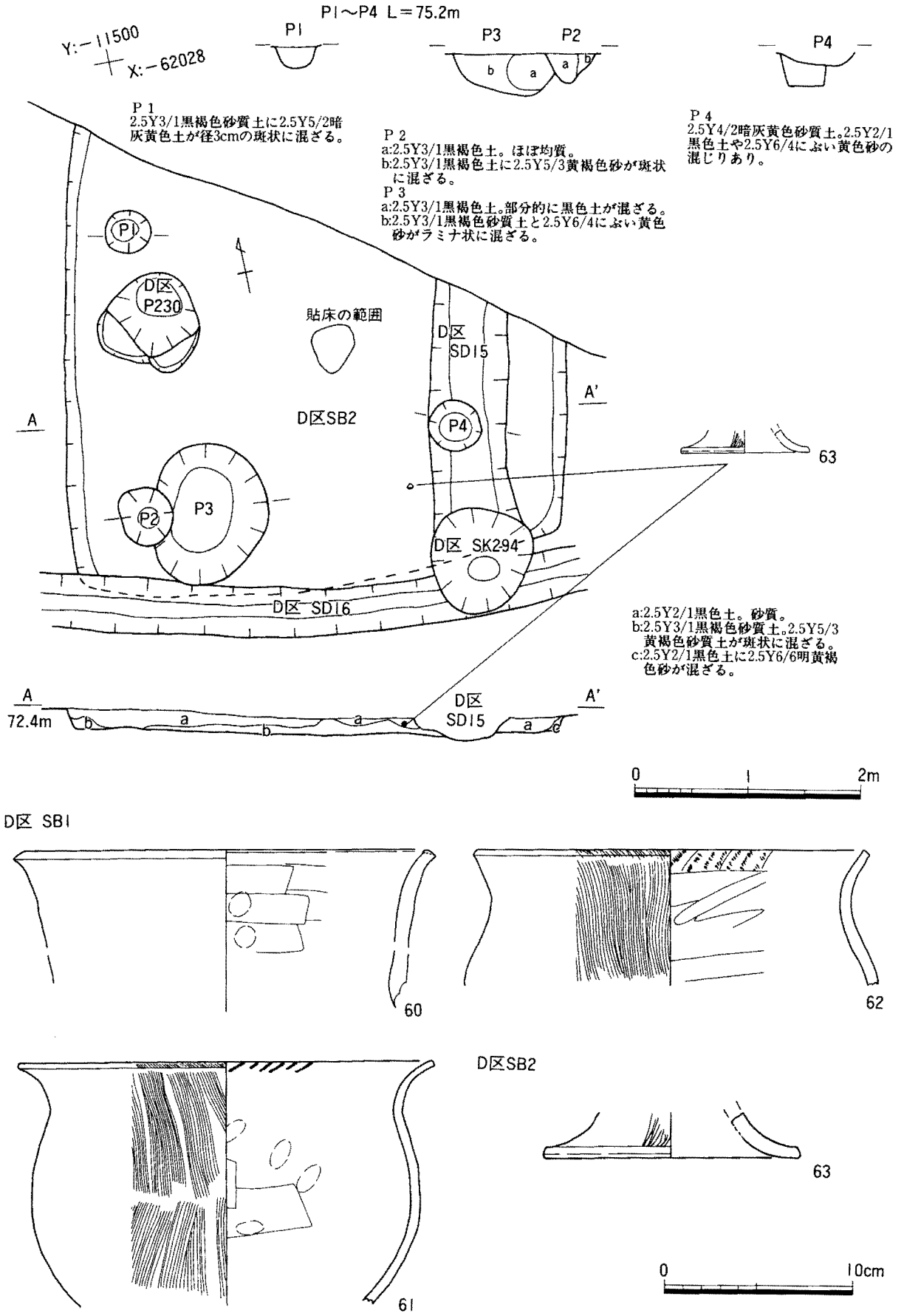
P 4
2.5Y1/3黒褐色土に、2.5Y6/4にぶい黄色砂が斑状に混ざる。

P 5
a:2.5Y6/4にぶい黄色砂に2.5Y3/1黒褐色土が斑状に混ざる。
b:2.5Y1/3黒褐色土に、2.5Y6/4にぶい黄色砂が斑状に混ざる。

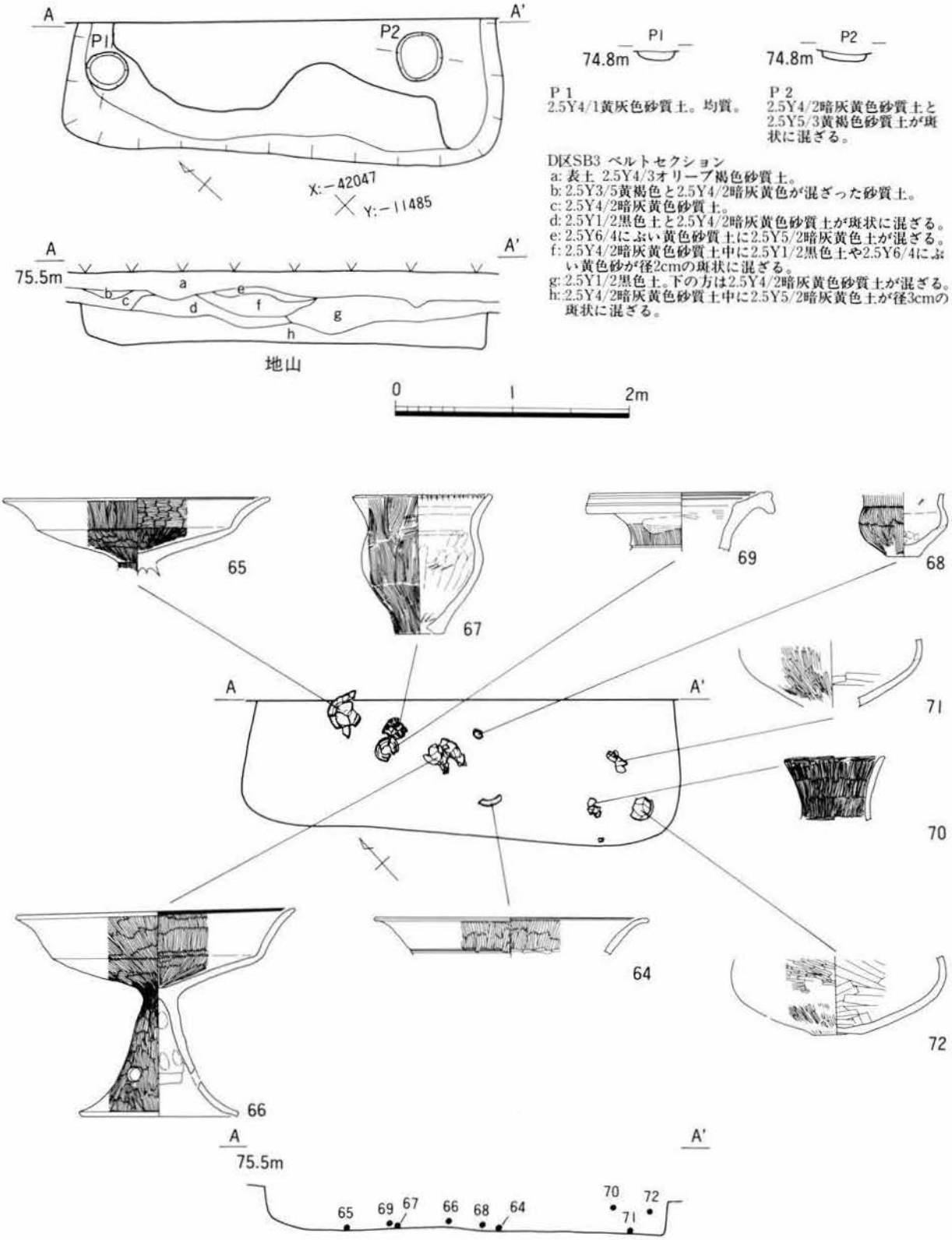
P 6（ガ?）
a:2.5Y1/3黒褐色砂質土。
b:焼土。5YR5/6明赤褐色。
c:2.5Y4/1黄灰色砂質土に、2.5Y6/4にぶい黄色砂が斑状に混ざる。



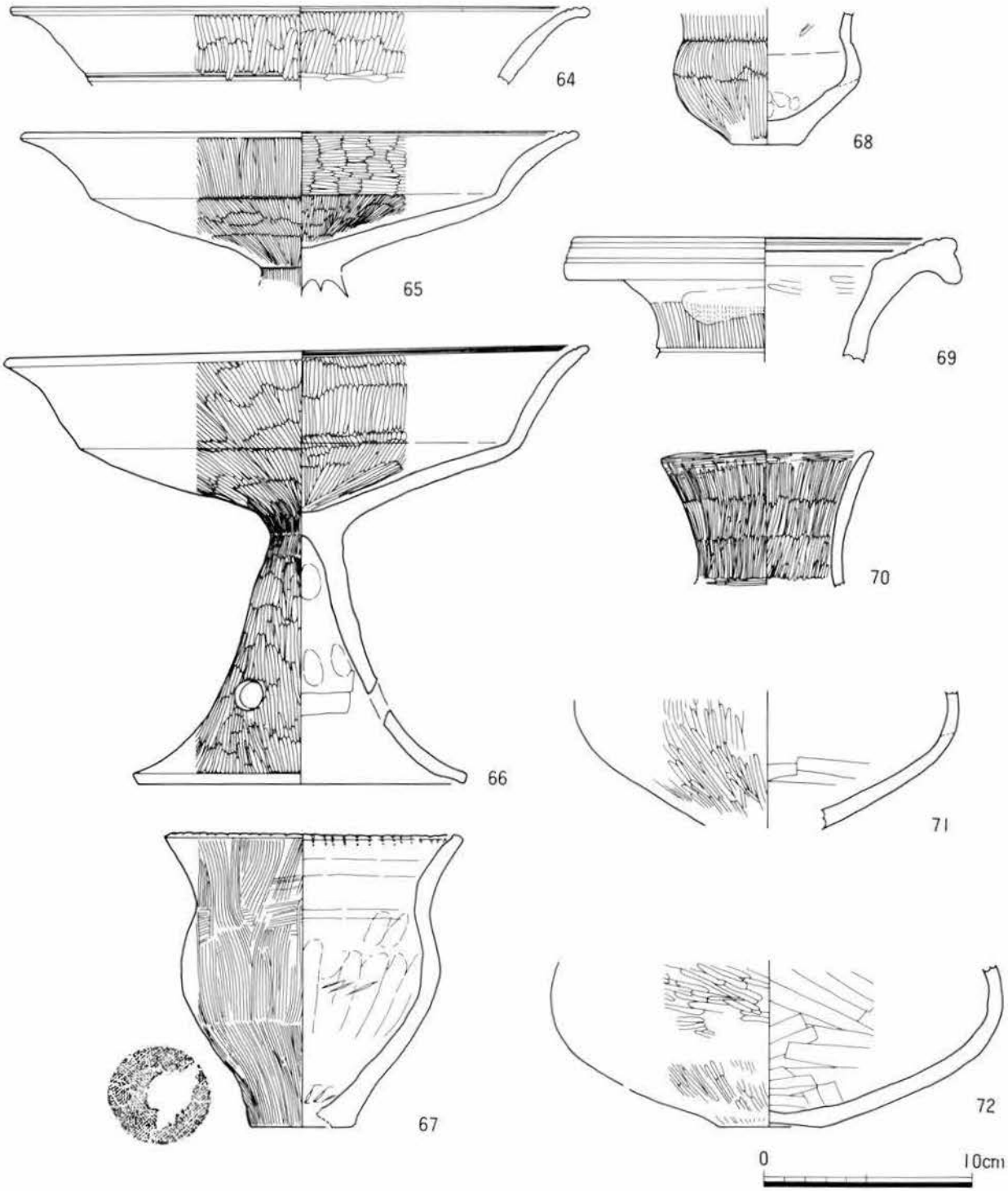
第30図　D区 SB1 実測図



第31図 D区SB1・2 実測図・出土遺物



第32図　D区SB3 実測図 遺物出土状況



第33図　D区SB3 出土遺物

(4)　11期の遺構

ＳＢ１

・位置　３Ａ区　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－22°－Ｅ　・規模(ｍ)　3.5×(2.6)

・面積(㎡)　89.3　・時期　11期

調査区の南端で検出された。南側の上部は近世の溝ＳＤ26に切られている。床面の４つの隅から径20～25cmのピットが検出され、柱穴と考えられる。炉跡等、床面で火を使った痕跡は発見できなかった。

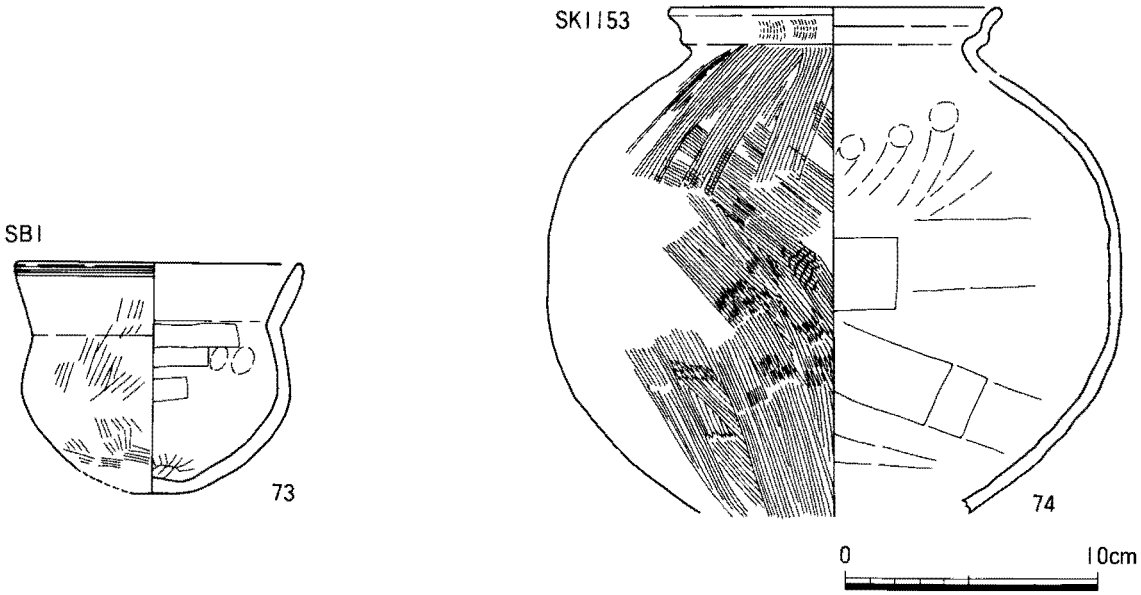
竪穴の北壁のほぼ中央で、床面から約20cm上に縦35cm、横28cmのテラス状の硬化した部分が検出された。この部分は、黒色土と黄褐色の地山と同じ砂が薄い層を作り、大変硬い。明らかに人為的なものである。この部分が住居が使われていたときに伴うのか後世に埋没する過程で作られたのかは、テラス状の部分の下の土と住居の覆土がよく似ており、判別ができなかったため不明である。

遺物は、弥生時代末～古墳時代前期の鉢がほぼ完形で出土している。そのため、この住居の時期は11期と考えられる。

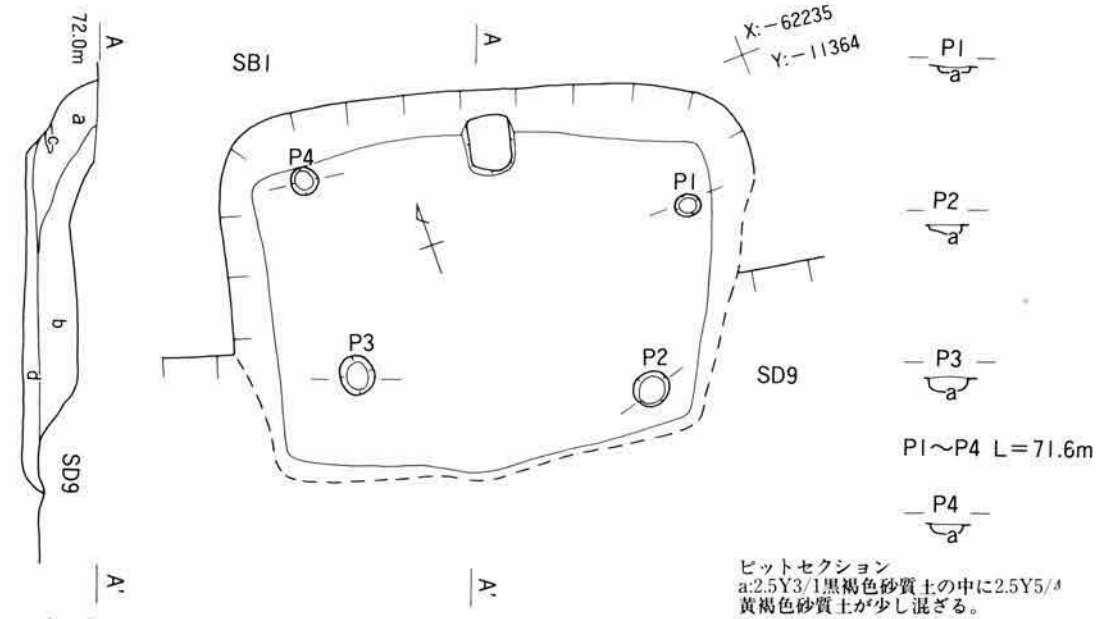
(5)　12期の遺構

ＳＫ1153

３Ｅ区から検出された。土層確認のためのトレンチにまたがって検出されたため全体形ははっきりしないが、東西に細長い不定形な形をしていると思われる。トレンチの土層で確認すると、中世の敷石遺構のある大溝に上が削平されていることがわかった。ここからは、Ｓ字状口縁台付甕１個体が良好な状態で出土している。それ以外の遺物は出土していない。



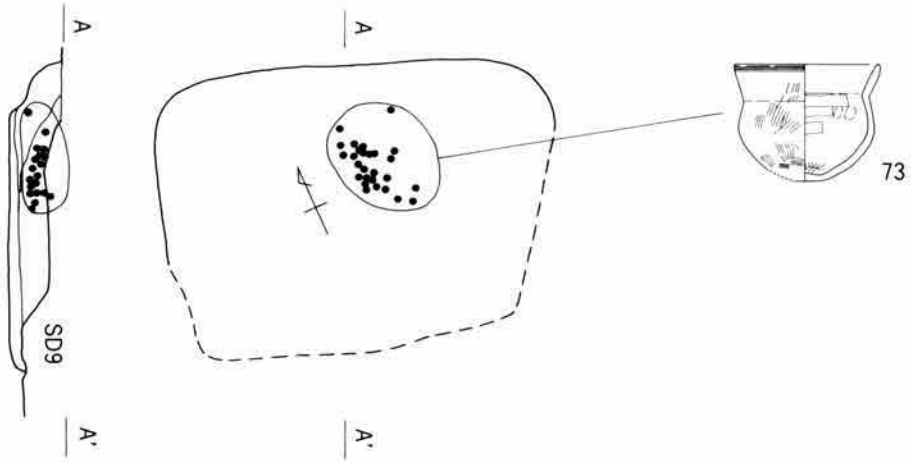
第34図　SB1, SK1153 出土遺物

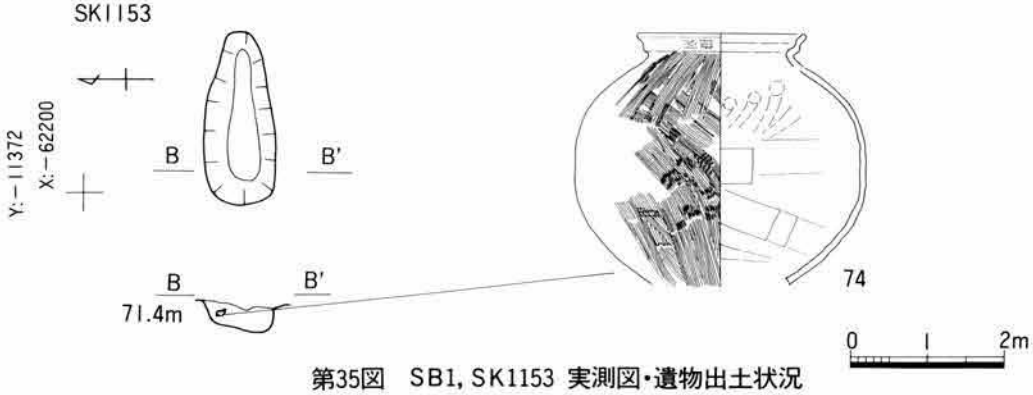


ベルトセクション
a:10YR3/2黒褐色砂質土、締まりややあり。
b:10YR2/1黒色土。部分的に10YR3/1黒褐色土が混ざる。しまり弱く、粘り無し。
c:10YR2/1黒色砂質土に2.5Y7/6明黄褐色の砂が少し混じる。締まりがあり、とても硬い。人為的に固められたものの可能性あり。
d:10YR2/1黒色と10YR4/1褐灰色が混ざった砂質土。

ピットセクション
a:2.5Y3/1黒褐色砂質土の中に2.5Y5/4黄褐色砂質土が少し混ざる。

0　1　2m





第35図　SB1, SK1153 実測図・遺物出土状況

(6) 13期の遺構

ＳＢ２

・位置　３Ｇ区　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－41°－Ｅ　・規模(ｍ)　5.5×　？

・面積(㎡)　？

平面プランを検出する前に土師器や須恵器の破片が大量に出土した。土器を取り上げ、精査した際にプランが捉えられ、検出面から床面まで浅かったことからこの住居の上部は後世に削平されている可能性がある。

南側半分はＳＤ５に切られていて残存していない。

竪穴の北東の側壁のほぼ中央に竈がある。竈の東側の袖にあたる位置に直径約20㎝の偏平な河原石が縦に立った状態で出土したが、竈のレベルよりやや高い位置にあるため、この竈に伴うものでないと判断した。竈の袖の芯として使われたと考えられる凝灰質砂岩が１つ残っている。煙道部は緩やかに凹んでいる。

床面からピットが５つ検出されている。大きさと位置から、Ｐ４とＰ６は柱穴である可能性が高い。

ＳＢ３

・位置　７Ｈ区　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－20°－Ｅ　・規模(ｍ)　7.1×6.4

・面積(㎡)　45.4

規模の大きな住居である。床面は張ってなく、砂地で面が捉えにくい。ピットが12基検出されているが明確に柱穴と言えるものは確認できなかった。

南東の角で、竈の芯に利用したと思われる被熱した軟らかな凝灰質砂岩がまとまって出土したが、その付近で焼土は検出されなかった。住居の北側にあるＳＫ328の南側の壁から、平たい河原石が立った状態で出土し、石の付近に被熱して赤化したと思われる土が残っている。そのため、この住居の竈は北側の側壁のほぼ中央にあり、後世の土坑ＳＫ328によって破壊された可能性が高い。また、この平たい河原石は、竈の袖の芯として利用されていた可能性がある。

遺物は、土師器や須恵器がバラバラに住居の床面から出土しているが量は多くない。

ＳＢ４

・位置　８Ｇ区　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－62°－Ｅ　・規模(ｍ)　3.9×？

・面積(㎡)　？

住居のほぼ中央をＳＤ11によって切られている。また南西側は調査区外に出ているが、検出された部分の形から見て方形の住居跡と思われる。ピットはどれも浅く、深さは５～10㎝程度である。ＳＤ11の肩に沿っていくつかのピットが検出されているが、どれも断面形がすり鉢状で、ＳＤ11に関係するものと考えられる。

住居の北東部の側壁中央に竈が作られている。袖部の芯の石と袖に渡したと思われる天井石が下に落ちた状態で検出された。立柱石は発見されなかった。

遺物は、竈の付近から土師器の甕１個体が潰れた状態で出土している。

ＳＢ５

・位置　６・７Ｆ・Ｇ区　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－45°－Ｗ　・規模(ｍ)　3.3×3.2

・面積(㎡)　10.6㎡

住居の南東側は、ＳＤ11・ＳＫ210・ＳＫ211・現代の土取り穴に切られている。

北西の側壁中央に竈がある。立柱石と左右の袖の芯の石、袖にかかる天井石が残っていた。立柱石は円柱状の河原石を、袖の芯には平たい河原石をそれぞれ使用している。天井石は凝灰質砂岩が使用され、袖石からはずれて落ちた状態で出土した。他の住居と比べて立柱石の位置が側壁よりも奥にあるため、竈だけ突出した平面形になる。

床面は砂地で張っていない。ピットが５基検出されている。

遺物は竈付近や北西の側壁に沿って土師器や須恵器が大量に出土している。

ＳＢ６

・位置　９Ｊ区　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－10°－Ｅ　・規模(ｍ)　4.2×4.7

・面積(㎡)　19.7

溝ＳＤ18や、８つの近現代の貯蔵穴等の土坑が住居の上にあり、検出が困難であった。竈部分は、袖石や袖の天井石がほぼ原位置上で検出された。近現代の貯蔵穴のＳＫ296の下からも竈の袖石と考えられる石が検出された。これらは、原位置をとどめていると考えられ、ＳＫ296の底よりも深い位置にあったものは、破壊されなかったものと思われる。

床面からは３つのピットが検出された。このうちＰ２は竈のすぐ前に位置し、断面型が浅いすりばち状で黄褐色の粘土が残っている。そのため、竈を補修する等の用途に用いた粘土の貯蔵穴と考えられる。柱穴と思われるものは検出されなかった。

ＳＢ８

・位置　９Ｋ区　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－28°－Ｅ　・規模(ｍ)　4.2×4.2

・面積(㎡)　17.6

住居のほぼ中央を、溝ＳＤ13が主軸方向に切っている。竈の袖石が立った状態で残っており、ＳＤ13が造られた時この袖石は破壊されなかったものと思われる。この袖石は、住居の側壁とほぼ同じ位置にあり、袖石が原位置をとどめているとすると竈の部分が住居から突出する形になる。掘方を見ると竈の部分が側壁より約40㎝前方に突出する形になり、突出した竈を持った住居と考えられる。

床面からは８つのピットが検出されたが、柱穴にあたると思われるのはＰ１のみで、他は不明である。

遺物は、土師器片が住居の覆土からバラバラの状態で出土している。

ＳＢ９

・位置　８・９Ｌ・Ｍ区　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－33°－Ｅ　・規模(ｍ)　4.6×4.4

・面積(㎡)　20.2

住居の中央を南北の主軸方向に、ＳＤ13と現代の攪乱（通水管跡）が切っている。そのため、竈の部分が破壊されて残っていなかった。わずかに焼土と考えられるものが残っている。住居の中心部に４つのピット（P2. P4. P6. P7）が正方形の形に検出され、柱穴と考えられる。Ｐ１は貯蔵穴の可能性がある。

遺物は、土師器の甕が覆土からバラバラに出土している。また、ＳＤ13の竈の位置付近で土師器の甕の破片がまとまって出土している。

ＳＢ７

・位置　５Ｉ区・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－４°－Ｗ　・規模（ｍ）　6.5×6.5

・面積（㎡）　42.3

Ｂ区とＣ区にまたがって検出された。住居の南半分は、覆土と判別が困難な自然流路ＮＲ２の黒褐色砂質土に掘り込まれていたため、Ｂ区では南側のプランがうまく検出できなかった。

壁溝を持つ住居で北側と東側の溝ははっきりしている。南側は一部で検出された。壁溝を持つ住居は、野笹遺跡の今回の調査ではこの住居のみである。

床面から11個のピットが検出された。そのうち９個が柱穴と考えられる。柱穴は東側に南北に４つの柱穴がほぼ一直線に並ぶ。西側は三つの柱穴があり、真ん中の柱穴（Ｐ10）がやや住居の内側に位置する。また、竈の焚き口の前にやや小さいピットが左右に一対あり、これも柱穴と考えられる。

竈に向かって右側にあるやや大きめで深いピット（Ｐ１）は貯蔵穴と思われる。竈の前には、やや大きめで断面形がすり鉢状のピット（Ｐ３）がある。ここには粘土が残っており、粘土を貯蔵するピットと思われる。

竈には袖石や立柱石がほぼ原位置と思われる位置で検出された。竈の土層セクションでは、袖石の外側に接した埋土が両側とも熱をうけていないため、袖石の側面には粘土等が貼っていなかったと考えられる。立柱石は、ほぼ袖石の中央付近に位置しており、この竈には天井石はなかったものと思われる。煙道部は平面形がＵ字形で、側壁の中段あたりから掘り込まれて造られている。

遺物は、竈の立柱石付近から小型の土師甕がほぼ完形で出土している。

ＳＢ10

・位置　７ＫＬ・８ＫＬ　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－９°－Ｗ　・規模（ｍ）　4.7×4.3

・面積（㎡）　20.2

住居跡のほぼ中央で貼り床が検出された。ピットは11基検出された。そのうちＰ４・Ｐ７・Ｐ10・Ｐ13は柱穴と考えられる。竈の前の左右にあるＰ２・Ｐ５も柱穴の可能性が高い。竈部分は石が抜き取られ、焼土がわずかに残っているだけであった。石の抜き取り痕は見つからなかった。煙道は平面形が長方形で、側壁のほぼ中央あたりで掘り込まれ住居の後ろに伸びている。煙道の形態や、竈前の柱穴の位置など、ＳＢ７と共通する特徴が見られる。

遺物は竈跡付近から土師器の甕の破片が出土している。

ＳＢ11

・位置　８・９ＫＬ　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－27°－Ｅ　・規模（ｍ）　5.1×6.0

・面積（㎡）　30.6

ＳＢ８とＳＢ11に切られる形で検出された。また、ＳＫ544・517・479・481といった近現代の芋穴跡や、ＳＤ18やＳＫ578やＰ526・531などに切られている。また、小型重機による土取り穴の攪乱も入っている。

竈部分は石の境まで土取りの攪乱があるが、石を避けて土取りしている様子が見られるため、石そのものは原位置を保っていると思われる。両側の袖石がほぼ完全に残っており、袖石の上に乗る天井石も割れてはいるがほぼ原位置と思われる。袖石も天井石もやわらかな凝灰質砂岩を使用しているが、西側の袖石に一点だけ平たい川原石を使用している。立柱石は検出されなかった。竈の内部から

たくさんの土師器片が出土した。これらは、竈の廃棄の際、ここに捨てられたものと思われる。

煙道部分は破壊されていてどのような構造になっていたかわからない。

床面から8つのピットが検出された。そのうちＰ２・Ｐ５・Ｐ８が柱穴になるものと考えられる。柱穴の配置から考えて、住居の南側にもう一つ柱穴があった可能性が高いが、ＳＢ12と切り合った部分にあたり検出されなかった。

Ｐ７は、断面を見るとピットの底に粘土の層が浅いすり鉢状に見られ、粘土の貯蔵穴と考えられる。粘土の層は2層見られ、平面プランでも2つのピットが重なり合っている状態が観察されることから、一度作り直しされているものと思われる。

ＳＢ12

・位置　８Ｋ　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－34°－Ｅ　・規模（ｍ）4.0×3.5

・面積（㎡）14.0

ＳＢ11の南東部を切っている。中近世～現代の土坑（芋穴？）のＳＫ479・ＳＫ508が、住居の北側を切っているが、この土坑の底は、住居の床面までは達していなかった。

竈は、北東側の側壁のほぼ中央に位置し、袖石と立柱石が残っている。そのうち東側の袖石は、原位置になく、住居のほぼ中央に散乱して検出された。西側の袖石は、奥の部分にやわらかな凝灰質砂岩があり、焚き口に近い部分に丸く平たい川原石が倒れた状態で出土した。天井石は検出できなかった。煙道は、側壁の底から立ち上がり後方に緩やかにくぼむ。

床面からは、13基のピットが検出できた。そのうちＰ３・Ｐ13は柱穴になると思われる。Ｐ14は竈に向かって右奥に位置し、柱穴に比べてやや大きいことから貯蔵穴と思われる。ここからは、床面からやや下がったところで、土師器の小型甕がほぼ完形で出土した。この甕は底だけ欠損している。

Ｐ15は、竈の焚き口のすぐ前にあること、断面形がすり鉢状で浅いこと、底から粘土が出土していることなどから、竈補修用の粘土ピットと考えられる。

遺物は、Ｐ14から完形の甕が出土しているほかは破片がバラバラに出土している。

ＳＢ13

・位置　８Ｈ　・平面形　方形？　・主軸方位　Ｎ－28°－Ｅ　・規模（ｍ）不明

・面積（㎡）不明

住居の北東端のみ検出され、他の部分は調査区外にある。新しい土坑のＳＫ293やＳＫ389に切られている。特にＳＫ293に住居の角を切られているため、北の側壁しか検出されなかった。しかし、竈部分と土師器片が、大量に出土していることから住居跡と認定した。

竈は、調査区の壁の部分で検出されたため、焼土と大量の土師器片が確認されただけで、竈の構造などはわからなかった。煙道については、側壁の底から立ち上がり、後方に緩やかにくぼむ形のものと思われる。

ＳＢ15

・位置　10・11Ｋ・Ｌ　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－５°－Ｅ　・規模（ｍ）6.0×？

・面積（㎡）不明

ちょうど西半分だけ検出された。東側にはＳＤ16があり、地山の高度がＳＤ16に向かって下がって

いる。それで、東半分は削平されてなくなったものと考えられる。

竈がある住居で、北側の側壁に竈があったものと考えられるが、削平されていてそれらしい痕跡は残されていない。住居の中央のやや北西あたりに焼土の混じった土とともに、竈で使用したとみられる焼けた凝灰岩が出土している。

床面からはピットが13基検出された。そのうちＰ３・Ｐ６・Ｐ９・Ｐ10・Ｐ11は柱穴である可能性が高い。ただこれらを柱穴とすると、配置に規則性がみられない。

遺物は、土師器片が散らばって出土しており量も多くない。

ＳＢ17

・位置　11Ｋ　・平面形　方形？　・主軸方位　Ｎ－28°－Ｅ　・規模（ｍ）不明

・面積（㎡）不明

ＳＢ18・22を切る形で検出された。北側の側壁のほぼ中央と思われる位置に、竈に使用していたと考えられる柔らかな凝灰質砂岩が床面上に散乱した形で検出された。これらの石の付近に竈があったと思われるが、焼土や煙道等は新しい土坑（ＳＫ749）もあり、わからなかった。床面からはピット等は検出できなかった。遺物も土師器の甕の破片が若干出土しているだけである。

ＳＢ18

・位置　11・12Ｌ　・平面形　方形？　・主軸方位　Ｎ－７°－Ｗ　・規模（ｍ）不明

・面積（㎡）不明

ＳＢ17・22に切られている。北側の側壁部分のみ検出された。検出された側壁のほぼ中央に焼けて赤化したと思われる土が見られ、竈に使用されたと見られる焼けた凝灰質砂岩の破片が出土している。しかしＳＫ640があり、竈の大部分は破壊されていると思われる。床面ではピット等は検出できなかった。

ＳＢ19

・位置　11・12Ｌ　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－24°－Ｅ　・規模（ｍ）4.6×不明

・面積（㎡）不明

ＳＢ20に切られた形で検出された。竈は北側の側壁上にあったと思われるが、ちょうどＳＢ20によって切られて破壊されており残存していない。

多くの新しい時代の土坑やピットに切られているが、床面上で６つのピットが検出できた。そのうちＰ２～５は深さがどれもおよそ40㎝で住居の中で四角くつながり、柱穴であると思われる。Ｐ６は住居のほぼ中央に位置し、やや大きめのピットで断面形は浅いすり鉢状になっている。中からは粘質土が出土しており、粘土の貯蔵穴であると考えられる。

遺物は、土師器の甕の破片がわずかに出土しているのみである。

ＳＢ20

・位置　11・12Ｍ　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－66°－Ｗ　・規模（ｍ）4.8×4.5

・面積（㎡）21.6

ＳＢ19を切っている。西側は新しい時代の溝ＳＤ14に切られている。

竈は、両側の袖の石が原位置で立った状態で出土し、中心からは立柱石が同じく立った状態で検出された。煙道は側壁からわずかに後ろにくぼむ形状をしている。床面からは４つのピットが検出され

た。そのうちＰ１・４・９は、深さがどれも40cmくらいで底は平坦にならず、断面形が尖った形をしている。これらは柱穴と考えられる。３つの柱穴は住居の角のやや内側に位置しており、新しい時代のピットであるＳＫ729にも柱穴があったとするときれいに正方形に柱穴が並ぶことになる。そのため、ＳＫ729の位置にも４つ目の柱穴があった可能性が高い。

Ｐ６は住居のほぼ中央にあり、柱穴よりもやや大きく浅いすり鉢状の断面形であることから、粘土の貯蔵穴であると思われる。

遺物は床面上に土師器の甕の破片が散在して出土している。

ＳＢ21

・位置　10・11Ｍ　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－23°－Ｅ　・規模（ｍ）4.8×？

・面積（㎡）　？

段丘崖の近くの11Ｍ・10Ｍで検出された。ちょうど自然流路ＮＲ４の真上にあるため、当初、プランは見えなかった。近現代の芋穴であるＳＫ732の脇から土師器が良好な状態で出土し、住居の南西角が検出されたことから住居跡とわかった。北側は現代の暗渠に切られ、南東側のほとんどが重機による新しい攪乱に壊されてしまっている。

出土した土器から竈を持った住居であると考えられるが、現代の暗渠によって壊されている。柱穴は、中央部から４本検出された。重機によって壊された部分からも柱穴の下方の部分が検出された。

ＳＢ22

・位置　11Ｌ　・平面形　方形？　・主軸方位　Ｎ－24°－Ｅ　・規模（ｍ）不明

・面積（㎡）不明

ＳＢ18を切り、ＳＢ17に切られている。北と東の側壁の一部が検出された。北の側壁のほぼ中央部に焼けた土があり、竈がそこにあったと考えられる。しかし竈の東半分は、新しい土坑ＳＫ654によって破壊されている。竈部分には、焼けて赤化した土が集中しているが、竈石は出土していない。煙道の平面形は、はっきりしなかったが、縦断のセクションで見ると側壁の中段あたりから煙道部が造られていることが確認できた。遺物は竈付近から土師器の甕の細かい破片が出土している。

ＳＢ23

・位置　13Ｍ・Ｎ　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－27°－Ｅ　・規模（ｍ）5.9×？

・面積（㎡）　？

調査区の西側から検出された。南東側は、中世の性格不明土坑ＳＸ２によって切られている。西側は、現代の土採り穴とみられる攪乱によって切られている。

竈のほぼ中心に後世のピットＰ784があり、その部分は破壊されている。しかしそれ以外は竈の袖石や天井石が良好な形で残っている。煙道は住居の側壁がわずかにくぼむ形のものである。

床面からは、ＳＸ２の部分も含めて６つのピットが検出された。そのうちＰ１、Ｐ３は、その位置から柱穴と思われる。Ｐ５は、浅いすり鉢状をしていて底に粘土が残っていることから、粘土の貯蔵穴と思われる。Ｐ６は竈の右脇に位置することと、深くやや大きなピットであることから貯蔵穴と思われる。

遺物は、竈の周辺から土師器甕が３点、甑の口縁の破片が１点出土している。貯蔵穴の直上からは、須恵器の提瓶が１点出土している。

ＳＢ24

・位置　４Ｈ　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－６°－Ｅ　・規模（ｍ）5.8×6.8

・面積（㎡）39.4

Ｃ区のやや北側で見つかった。自然流路ＮＲ２のほぼ真上に位置しており、掘り込んだ土と埋土が同じ黒褐色土であるため、プランの検出が困難であった。床面のピットも検出が困難であったが、竈の向かって右側に貯蔵穴と思われるやや大型のピットが、住居の四隅から柱穴になると思われるピットが見つかっている。竈は、向かって右側の袖石と立柱石が良好に残存していた。どちらも凝灰質砂岩を用いている。煙道は、側壁の途中から階段状に細長く外に伸びる形のものである。

遺物は、竈から土師器甕や須恵器蓋が出土した。住居のほぼ中央あたりでは須恵器の高坏と坏、坏蓋がそれぞれ１点ずつ出土している。

ＳＢ25

・位置　５・６Ｈ　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－20°－Ｗ　・規模（ｍ）4.4×5.0

・面積（㎡）22.0

Ｂ区とＣ区との境で検出された。すぐ北側には、ＳＢ７が接するように位置している。住居のほぼ中央と西南角に、重機による攪乱が入っていた。Ｐ２・Ｐ３・Ｐ７・Ｐ９が柱穴になるものと思われるが、この４つの穴を結んだ線と住居の平面形とでは、若干の歪みが生じる。Ｐ１は貯蔵穴になるものと思われる。竈は袖石と横に渡した石の一部が残っていた。どれも凝灰質砂岩である。煙道は住居の側壁がわずかにくぼむ形のものである。

遺物は、竈の中から土師器甕がほぼ完形で出土し、須恵器と砥石が住居内から出土した。

ＳＢ26

・位置　４Ｉ・Ｊ　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ　・規模（ｍ）5.0×5.1

・面積（㎡）25.5

Ｃ区の一番北側で検出された住居跡である。Ｐ３・Ｐ５・Ｐ６・Ｐ２が柱穴になると思われるが、どれも堀り込みが浅い。Ｐ４が貯蔵穴、Ｐ10が粘土貯蔵穴になると思われる。竈は立柱石のみ現状をとどめた形で検出され、袖石や横に渡した石はなかった。立柱石は、砂岩の川原石を用いている。煙道は住居の側壁がわずかにくぼむ形のものである。

遺物は、土師器の甕と須恵器の提瓶と高坏が竈を中心に住居に破片が散らばる形で出土した。176の提瓶の破片の一部はＳＢ24からも出土している。貯蔵穴と思われるＰ４の中からも高坏が出土している。

ＳＢ28

・位置　４Ｈ　・平面形　方形　・主軸方位　Ｎ－24°－Ｅ　・規模（ｍ）4.5×4.8

・面積（㎡）39.4

Ａ区とＣ区の境から検出された。住居の中央に電柱の支線があり、調査できなかった。また、ちょうど自然流路ＮＲ２の真上にあり、ＳＢ24と同様に検出が困難であった。南側がＡ区、北側がＣ区と二つの調査区にまたがっており、北側の竈が検出されて初めて住居跡と認定できた。これらのことから、プランのほとんどが推定でしかわからず、床面のピット等も不明である。

竈は、袖石と立柱石が良好な形で検出された。ともに砂岩の川原石を用いている。煙道は住居の側

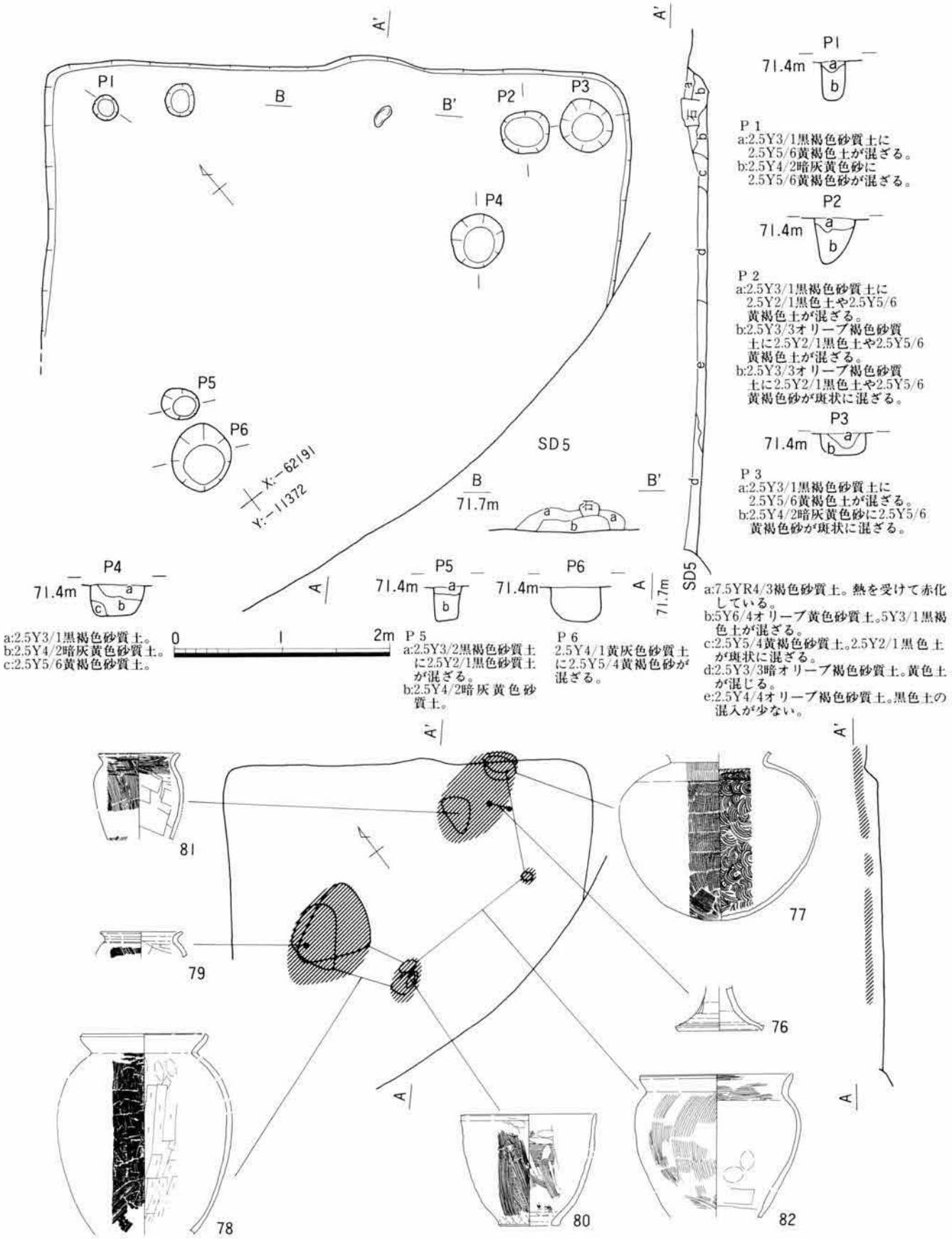
壁がわずかにくぼむ形のものである。

遺物は竈付近から、須恵器の坏と坏蓋が出土している。また、住居の南側で土師器甕（187）が出土した。この甕は、すぐ南に位置するＳＢ２からも破片が出土している。このほか土師器の小型鉢も出土している。

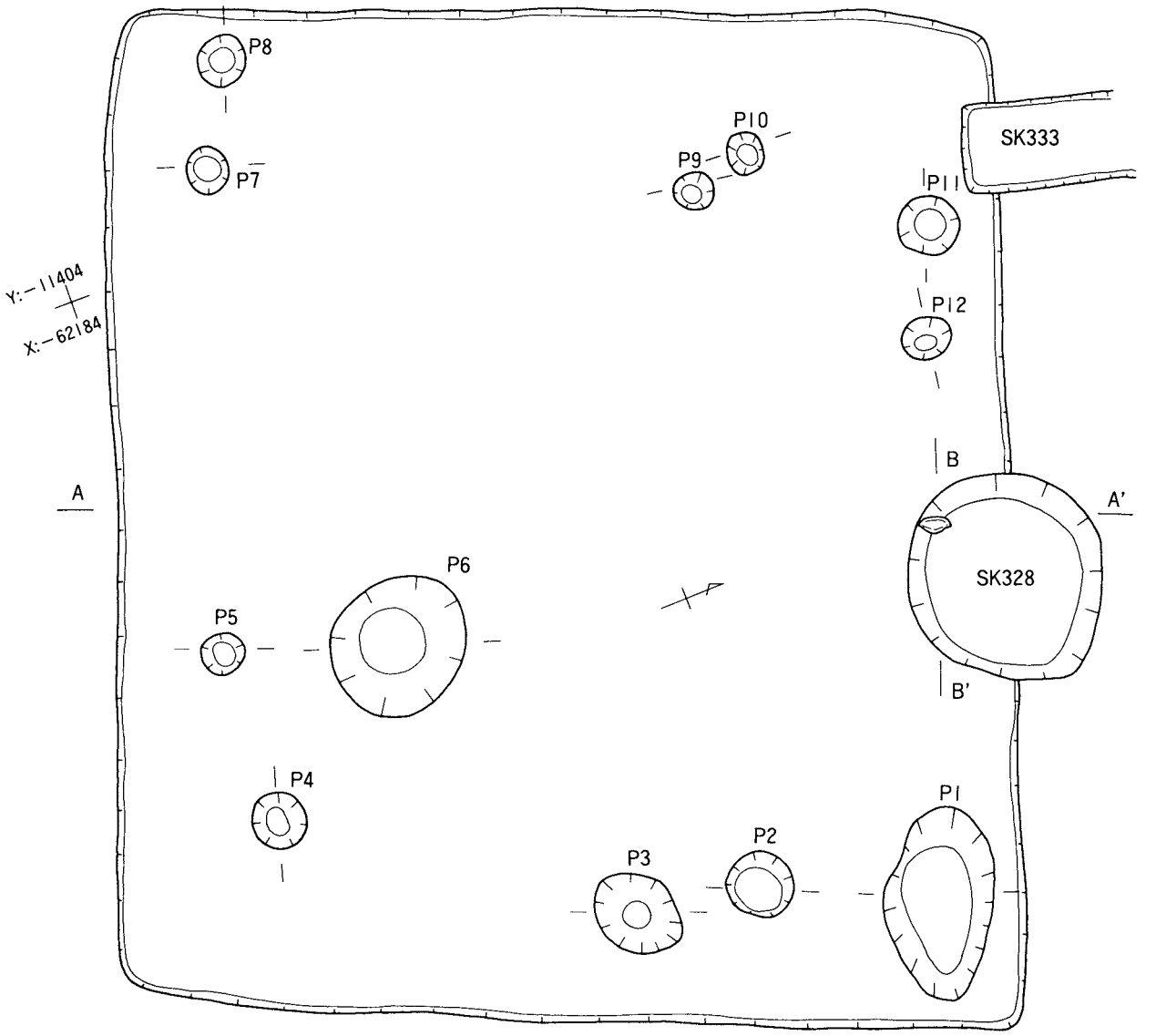
(7)　14期の遺構

ＳＫ684

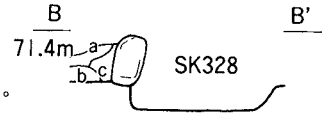
11Ｌ区のＳＢ19の上から検出された。直径約0.9ｍのほぼ円形の平面形をしており、断面形は、すり鉢状をしている。覆土はあまりしまりが見られなかった。土坑のほぼ中央から須恵器蓋（191）が１点のみ出土している。



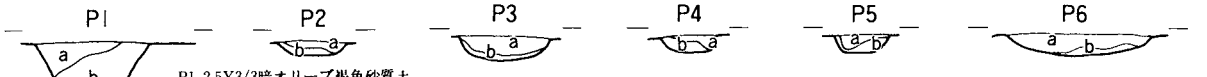
第36図　SB2 実測図・遺物出土状況



SB3 ベルトセクション
a:2.5Y3/2黒褐色砂質土。均質。
b:2.5Y4/4オリーブ褐色砂質土に2.5Y3/2黒褐色砂質土が混ざる。
c:2.5Y4/4オリーブ褐色砂質土。(地山？)
d:7.5YR4/6褐色砂質土(被熱しているため赤化した？)に2.5Y3/2黒褐色砂質土が混ざる。



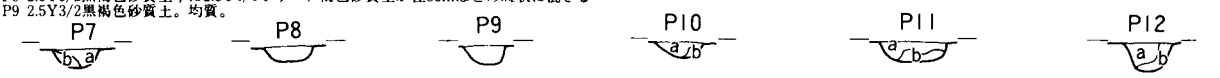
P1〜P12 L=71.1m



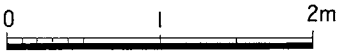
P1 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質土。
P2 a:2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質土。均質。
b:2.5Y5/6黄褐色砂質土。
P3 a:2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質土。
b:2.5Y5/6黄褐色砂質土。

P4 a:2.5Y3/2黒褐色砂質土に2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土が混ざる。
b:2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土。均質。
P5 a:2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質土。
b:2.5Y5/6黄褐色砂質土に2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質土が斑状に混ざる。
P6 a:2.5Y4/4オリーブ褐色砂質土。
b.2.5Y5/6黄褐色砂質土。

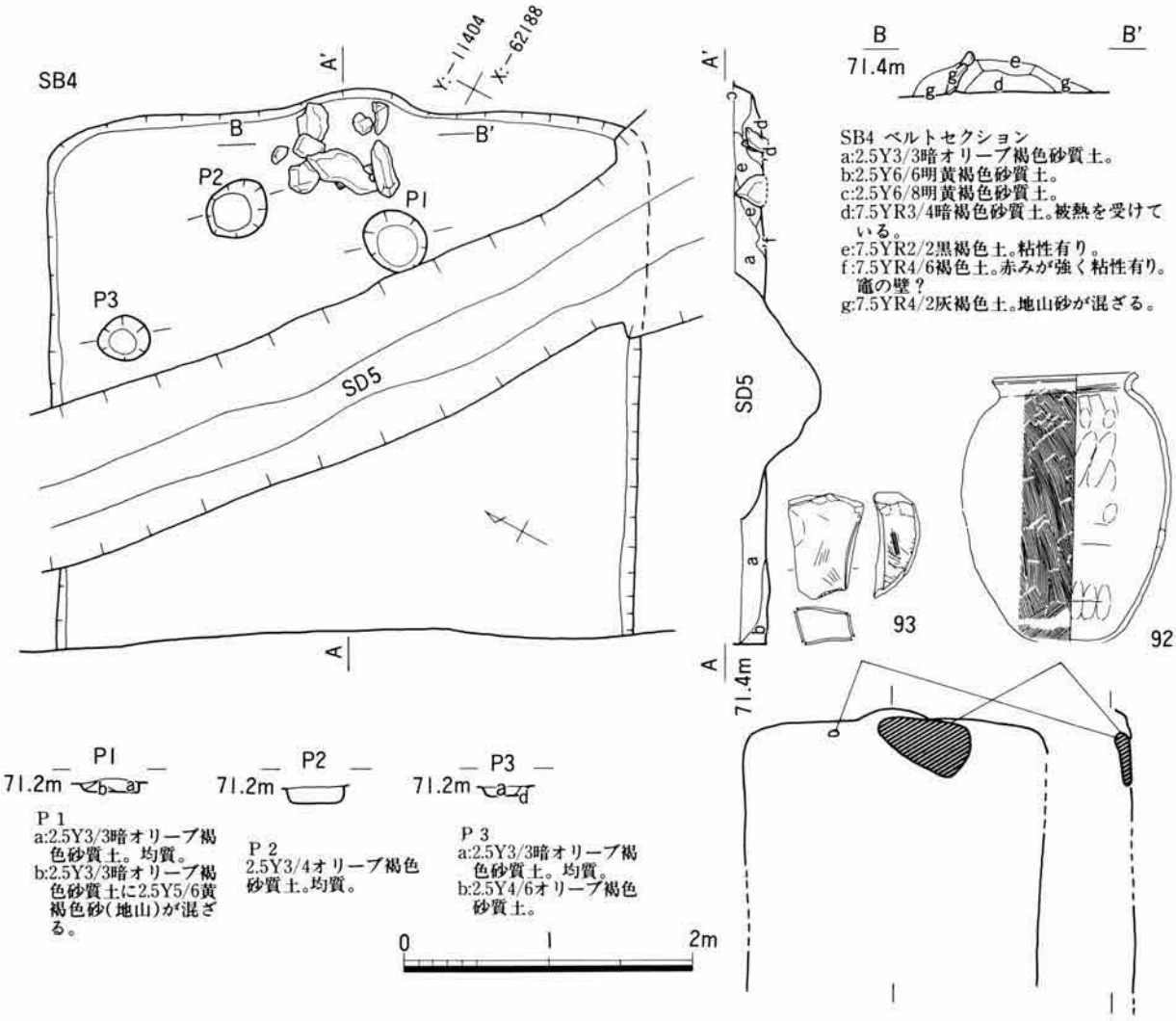
P7 a:2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質土中に2.5Y6/6明黄褐色砂が径2cmの斑状に混ざる。
b.2.5Y6/6明黄褐色砂、中に2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質土が混ざる。
P8 2.5Y3/2黒褐色砂質土中に2.5Y4/4オリーブ褐色砂質土が径3cmほどの斑状に混ざる
P9 2.5Y3/2黒褐色砂質土。均質。

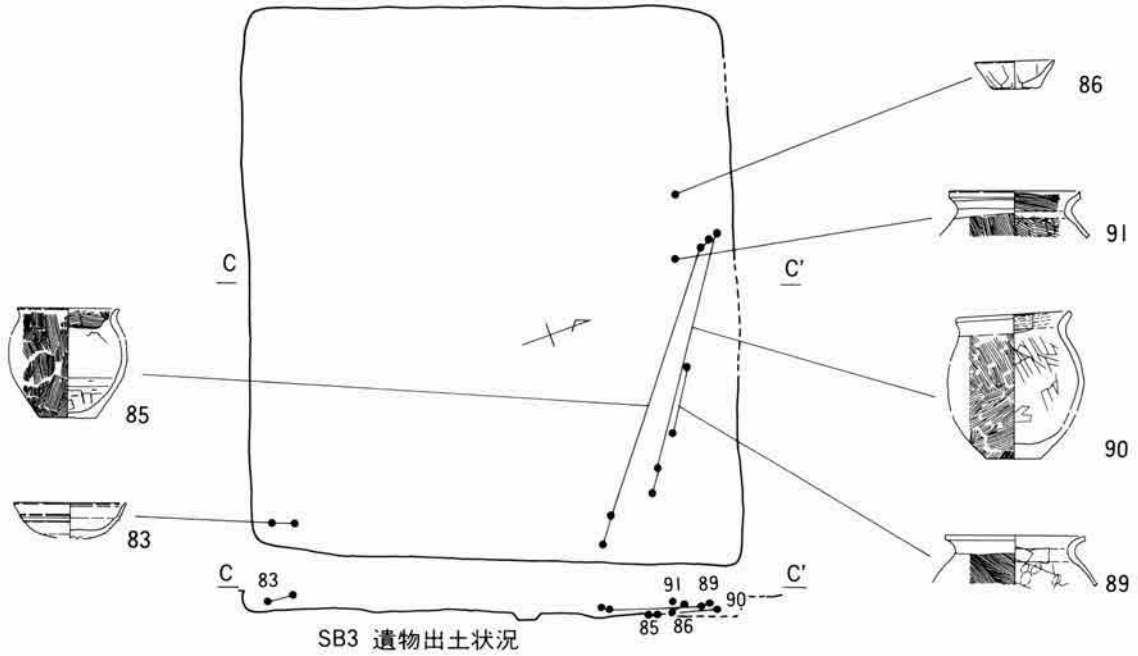


P10 a:2.5Y3/2黒褐色砂質土。均質。
b:2.5Y3/2黒褐色砂質土に2.5Y6/6明黄褐色砂が混ざる。
P11 a:2.5Y3/2黒褐色砂質土。均質。
b:2.5Y3/2黒褐色砂質土に2.5Y6/6明黄褐色砂が混ざる。
P12 a:2.5Y3/2黒褐色砂質土。均質。
b:2.5Y3/2黒褐色砂質土に2.5Y6/6明黄褐色砂が混ざる。

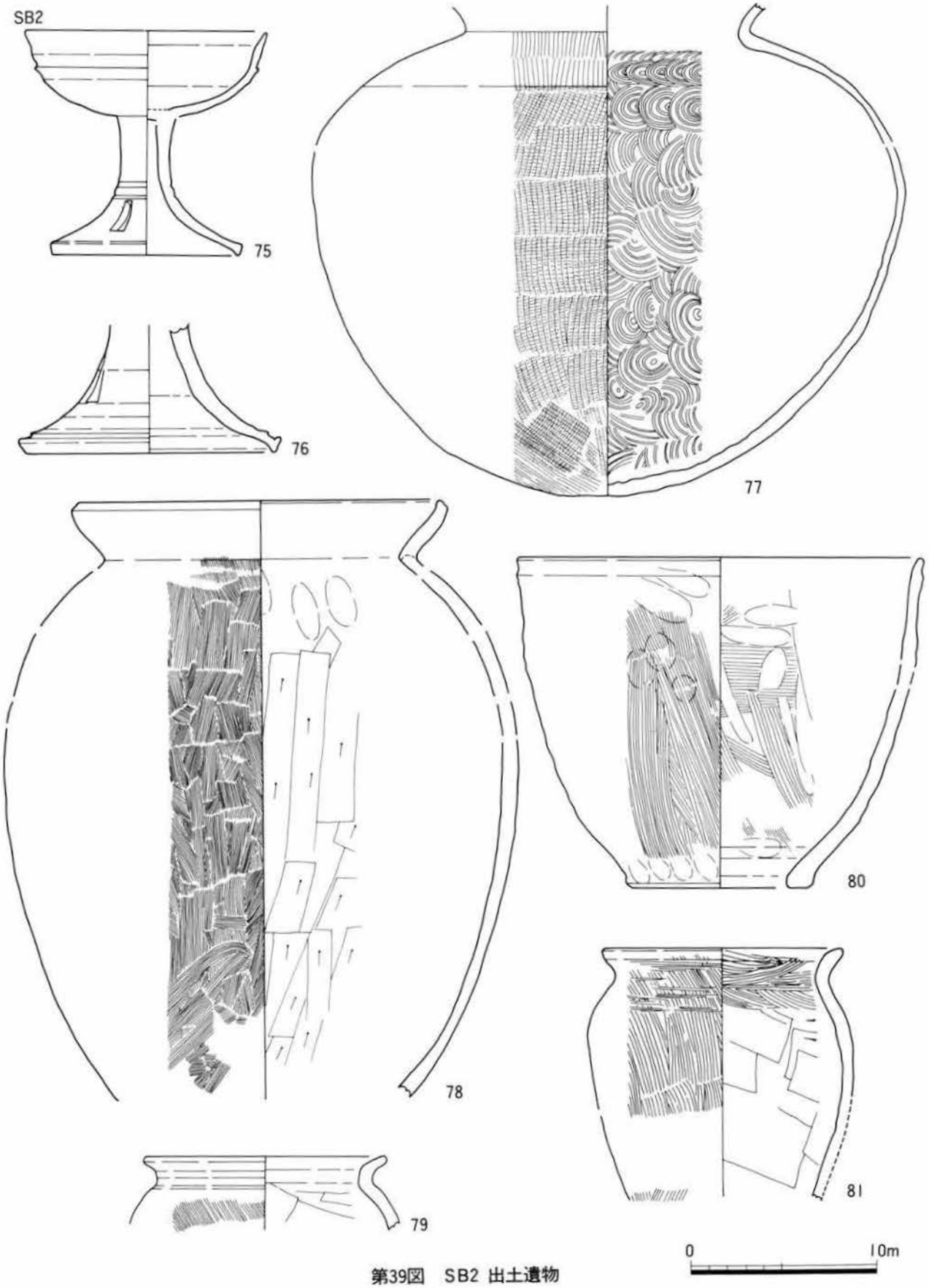


第37図　SB3 実測図

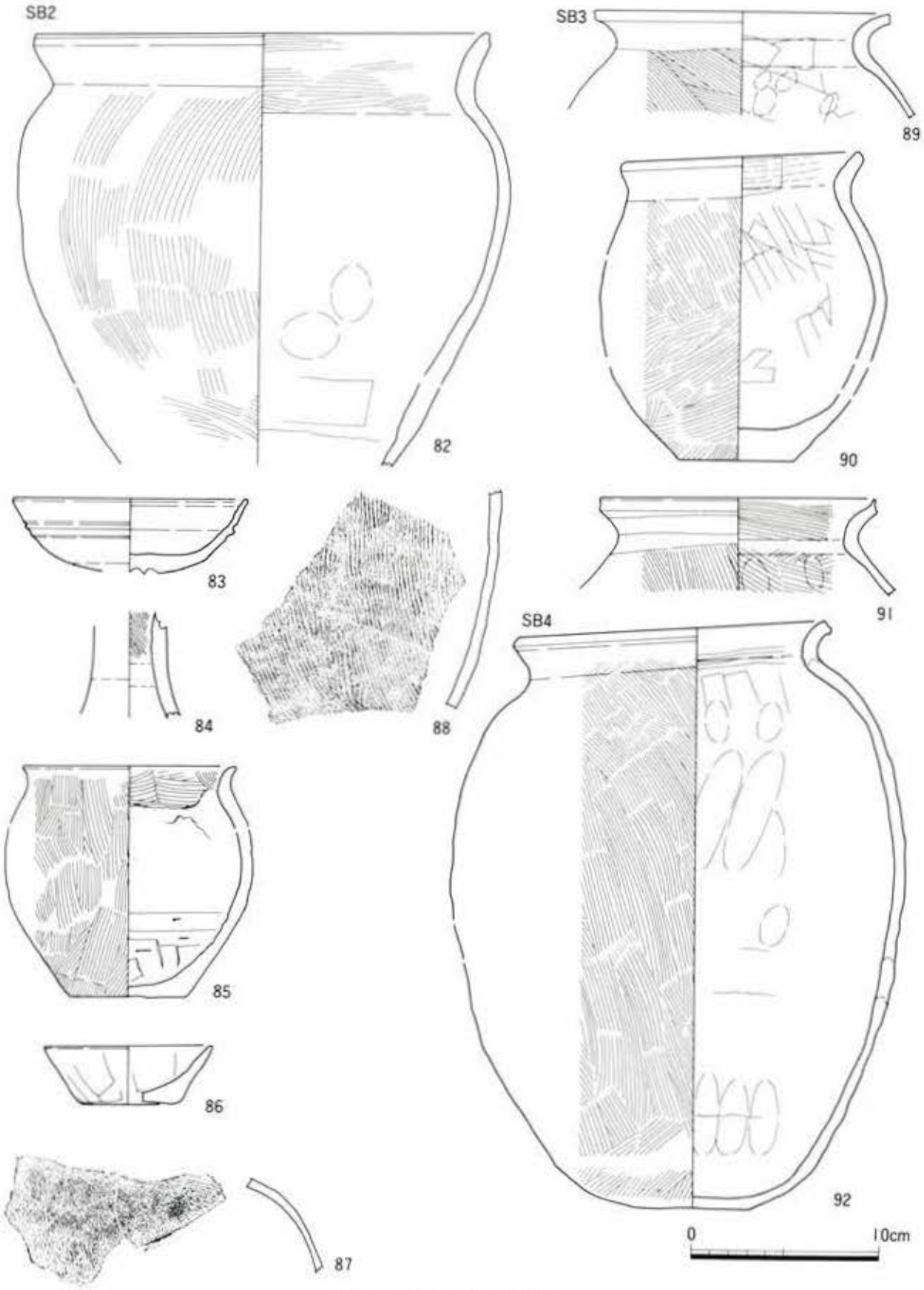




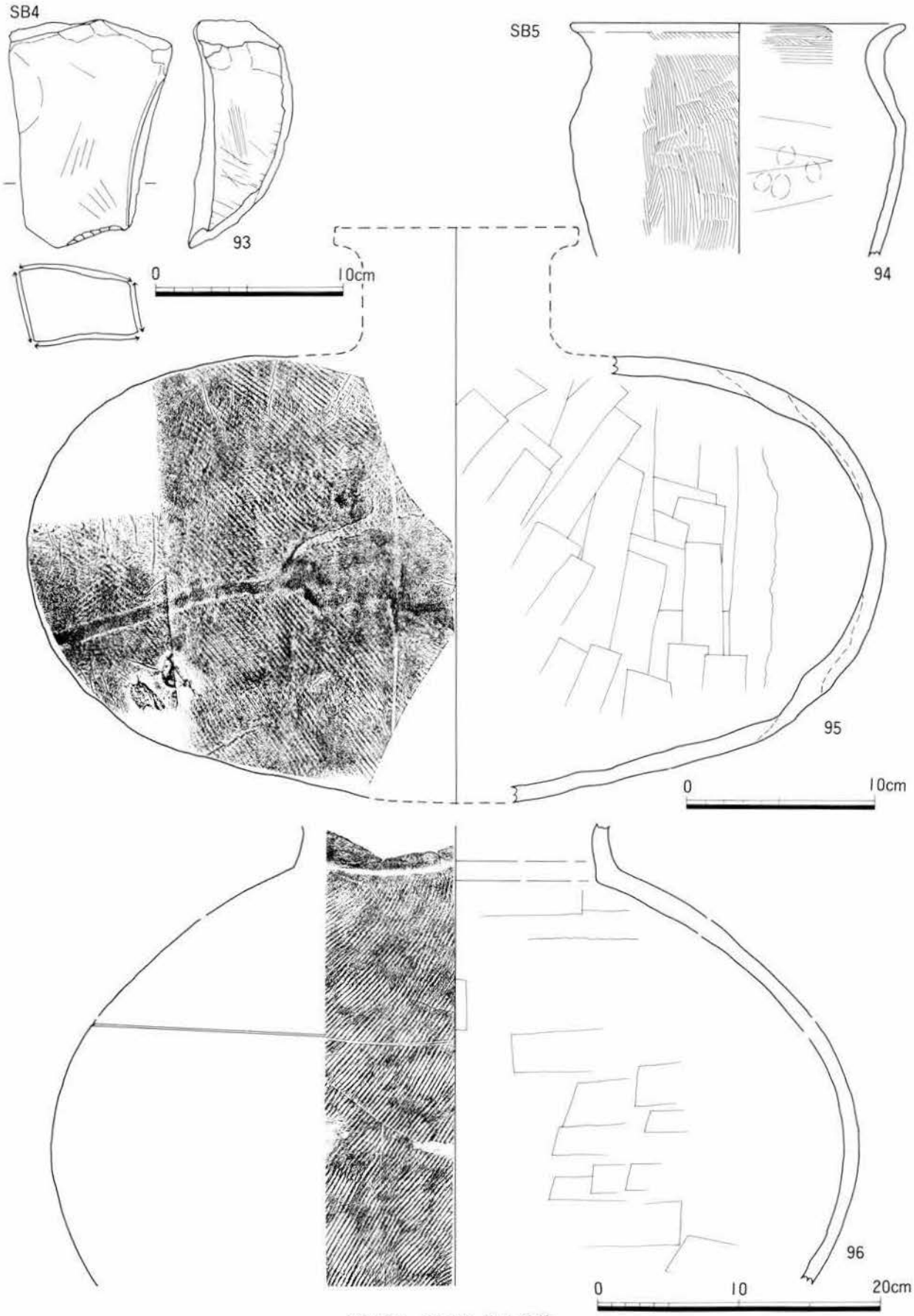
第38図　SB4 実測図・SB3・4 遺物出土状況



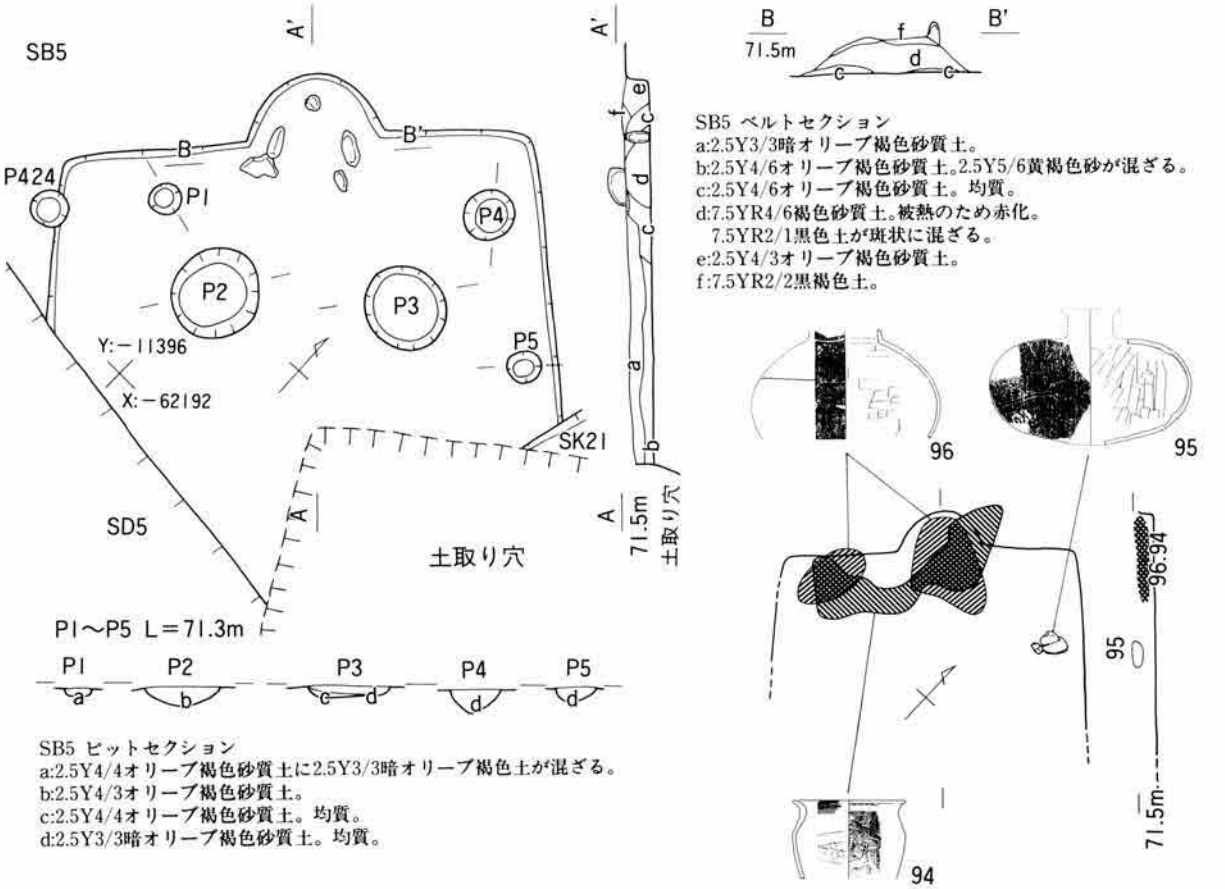
第39図　SB2 出土遺物

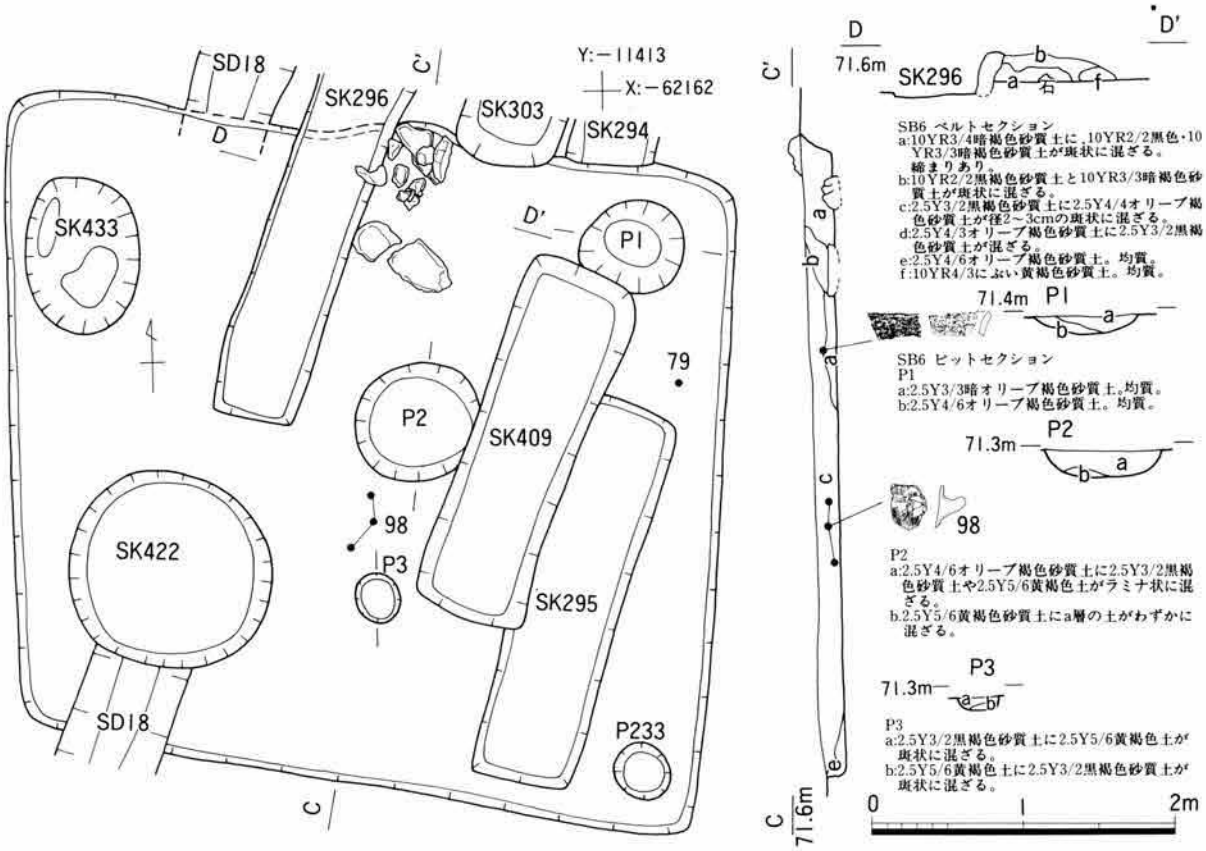


第40図　SB2～4 出土遺物

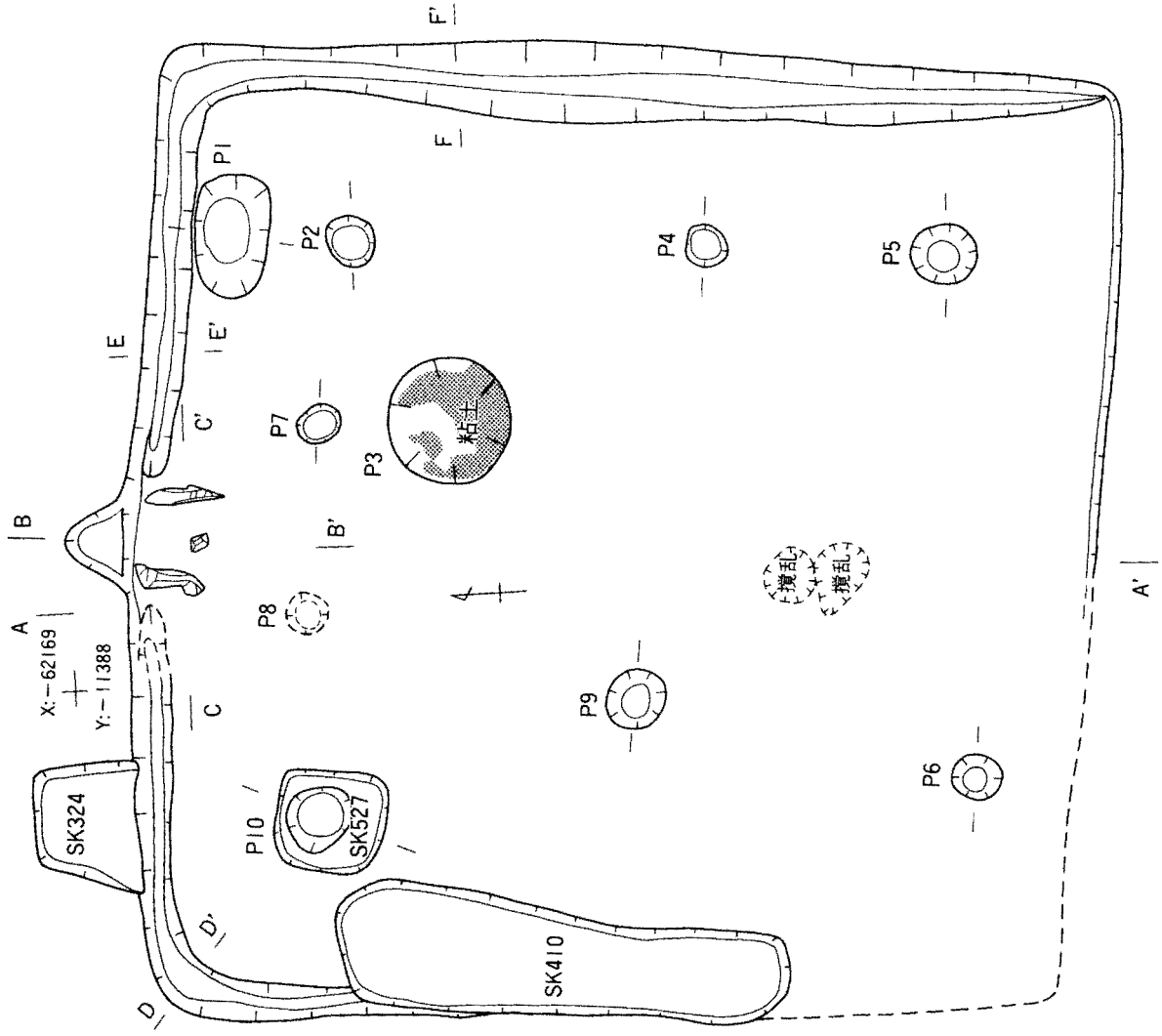


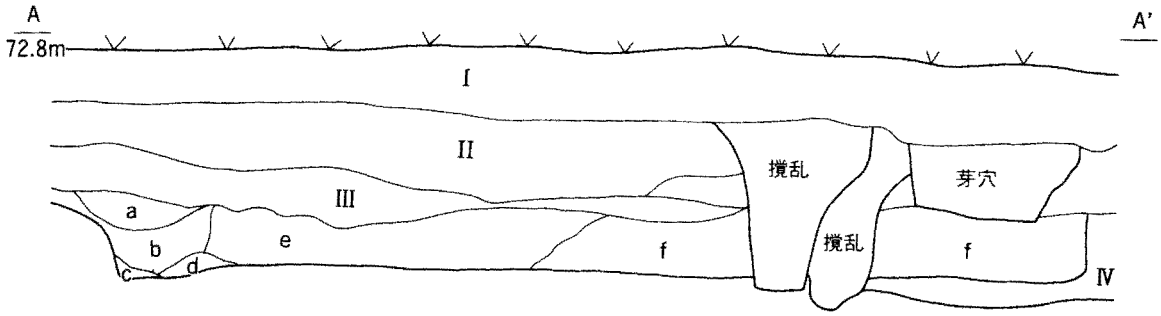
第41図　SB4･5 出土遺物

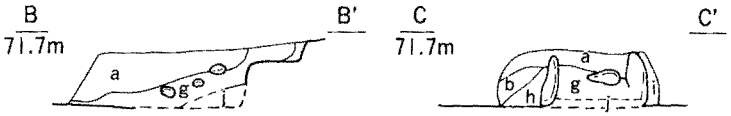




第42図　SB5・6 実測図・遺物出土状況



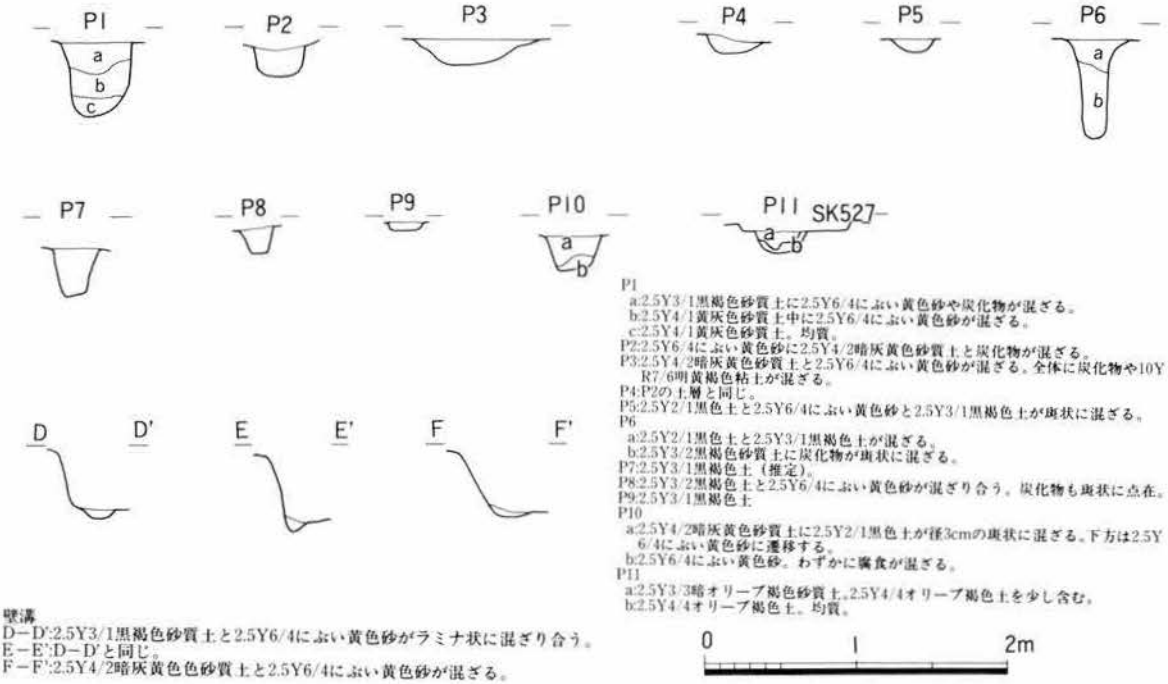




SB7 ベルトセクション
包含層
Ⅰ表土:2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土に小石や2.5Y6/6明黄褐色砂などが混ざる。
Ⅱ:2.5Y3/2黒褐色砂質土。小石等が混ざる。
Ⅱ':2.5Y3/1黒褐色砂質土。草木の根により多孔質な土。
Ⅲ:2.5Y3/1黒褐色砂質土。
Ⅳ:2.5Y3/1黒褐色砂質土＝NR2覆土
SB7覆土
a:2.5Y2/1黒色土に2.5Y3/1黒褐色土が混ざる。
b:2.5Y3/1黒褐色砂質土中に2.5Y2/1黒色土や2.5Y7/4浅黄色砂がもや状に混ざる。
c:2.5Y2/1黒色土と2.5Y7/4浅黄色砂が径2～3cmの斑状に混ざる。
d:10YR4/3にぶい黄褐色砂質土に2.5Y2/1黒色土が混ざる。焼けて赤化している。
e:2.5Y3/2黒褐色土に2.5Y7/4浅黄色砂や2.5Y2/1黒色土が塊となって混ざる。
f:2.5Y2/1黒色砂質土。均質。
g:7.5YR4/4褐色土。赤化している。黒色土や焼土粒がわずかに混ざる。
h:2.5Y4/2暗灰黄色土。
i:2.5Y4/2暗灰黄色土と2.5Y4/1黄灰色土が混ざる。
j:2.5Y6/4にぶい黄色砂(地山の崩れ？)

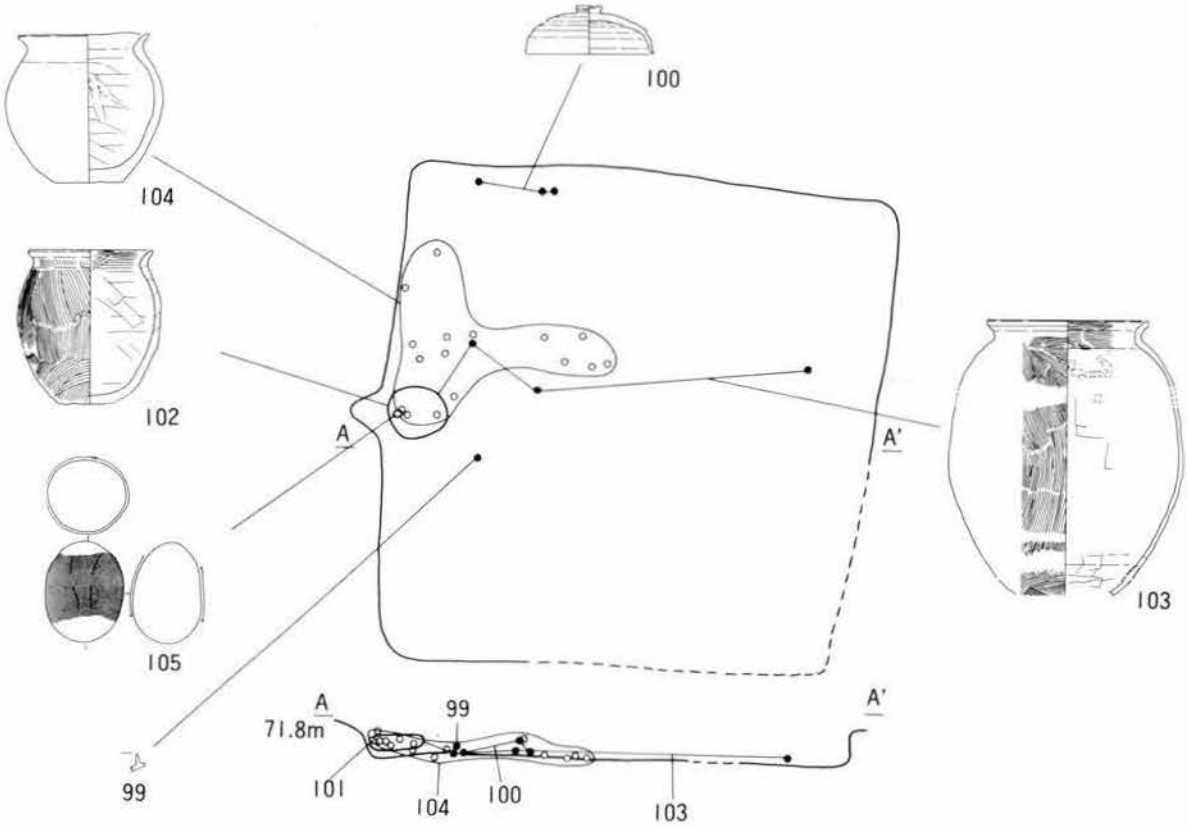
0　1　2m

第43図　SB7 実測図(1)

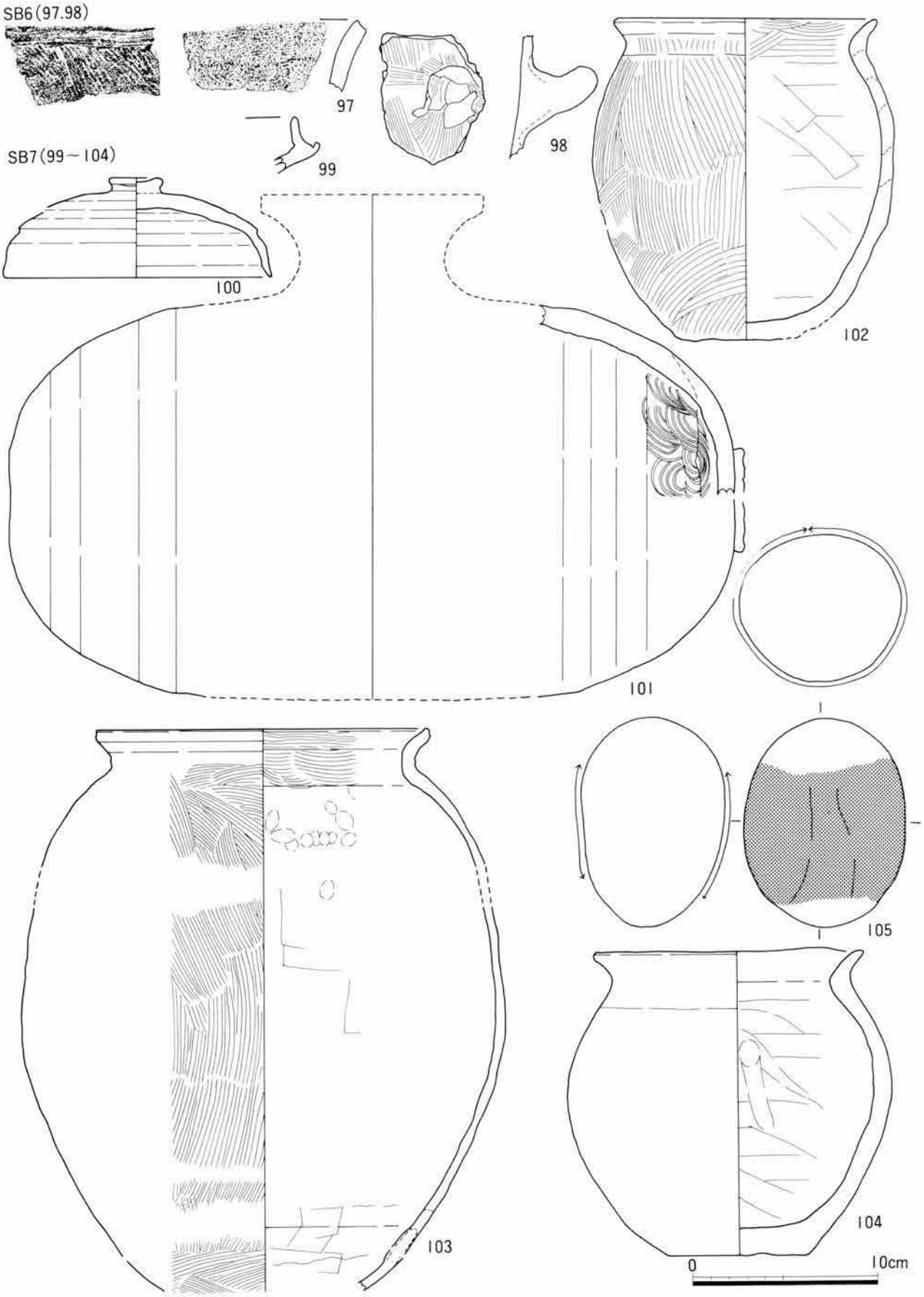


P1
a:2.5Y3/1黒褐色砂質土に2.5Y6/4にぶい黄色砂や炭化物が混ざる。
b:2.5Y4/1黄灰色砂質土中に2.5Y6/4にぶい黄色砂が混ざる。
c:2.5Y4/1黄灰色砂質土。均質。
P2:2.5Y6/4にぶい黄色砂に2.5Y4/2暗灰黄色砂質土と炭化物が混ざる。
P3:2.5Y4/2暗灰黄色砂質土と2.5Y6/4にぶい黄色砂が混ざる。全体に炭化物や10YR7/6明黄褐色粘土が混ざる。
P4:P2の土層と同じ。
P5:2.5Y2/1黒色土と2.5Y6/4にぶい黄色砂と2.5Y3/1黒褐色土が斑状に混ざる。
P6
a:2.5Y2/1黒色土と2.5Y3/1黒褐色土が混ざる。
b:2.5Y3/2黒褐色砂質土に炭化物が斑状に混ざる。
P7:2.5Y3/1黒褐色土（推定）。
P8:2.5Y3/2黒褐色土と2.5Y6/4にぶい黄色砂が混ざり合う。炭化物も斑状に点在。
P9:2.5Y3/1黒褐色土
P10
a:2.5Y4/2暗灰黄色砂質土に2.5Y2/1黒色土が径3cmの斑状に混ざる。下方は2.5Y6/4にぶい黄色砂に遷移する。
b:2.5Y6/4にぶい黄色砂。わずかに腐食が混ざる。
P11
a:2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質土。2.5Y4/4オリーブ褐色土を少し含む。
b:2.5Y4/4オリーブ褐色土。均質。

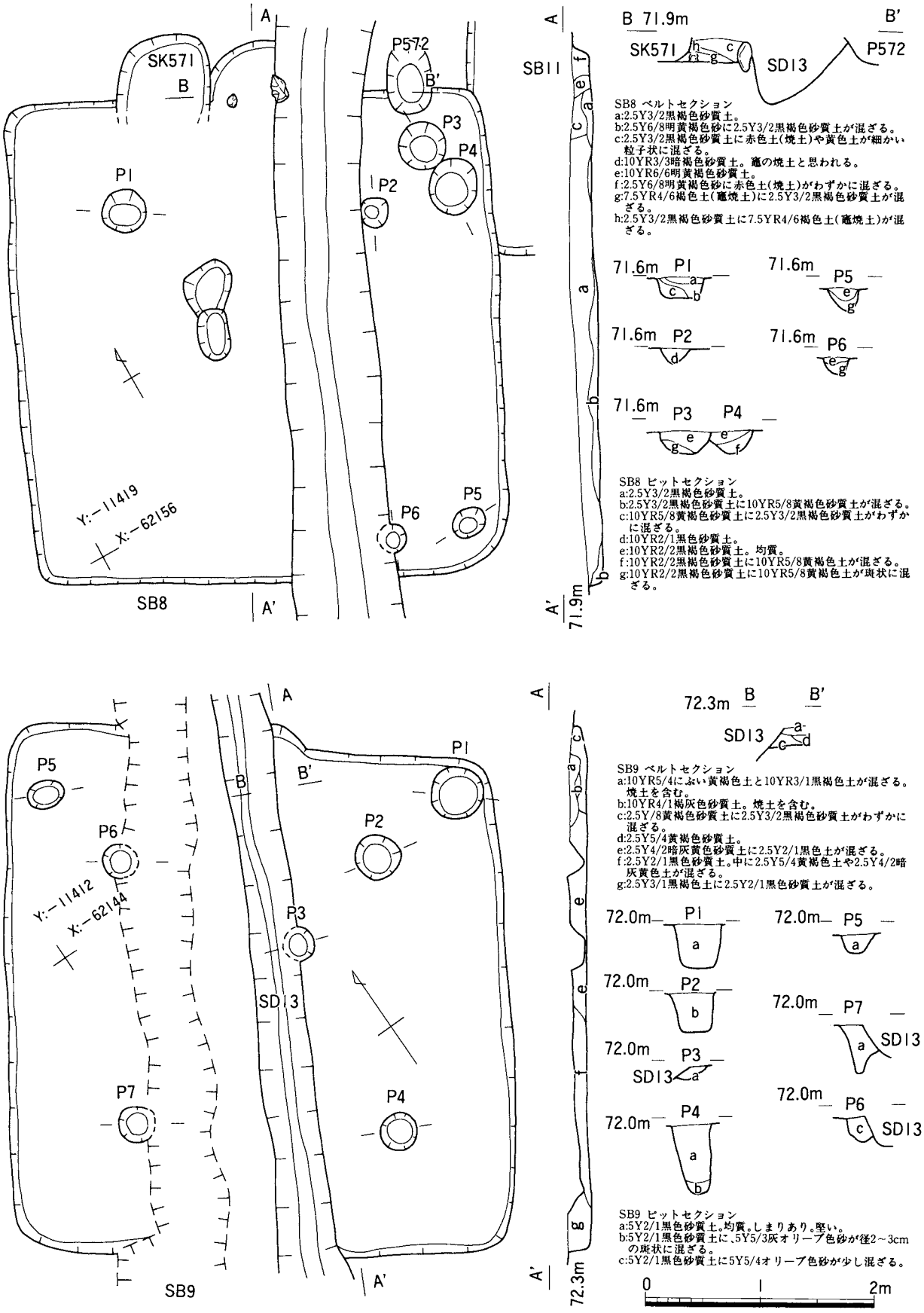
壁溝
D−D':2.5Y3/1黒褐色砂質土と2.5Y6/4にぶい黄色砂がラミナ状に混ざり合う。
E−E':D−D'と同じ。
F−F':2.5Y4/2暗灰黄色色砂質土と2.5Y6/4にぶい黄色砂が混ざる。



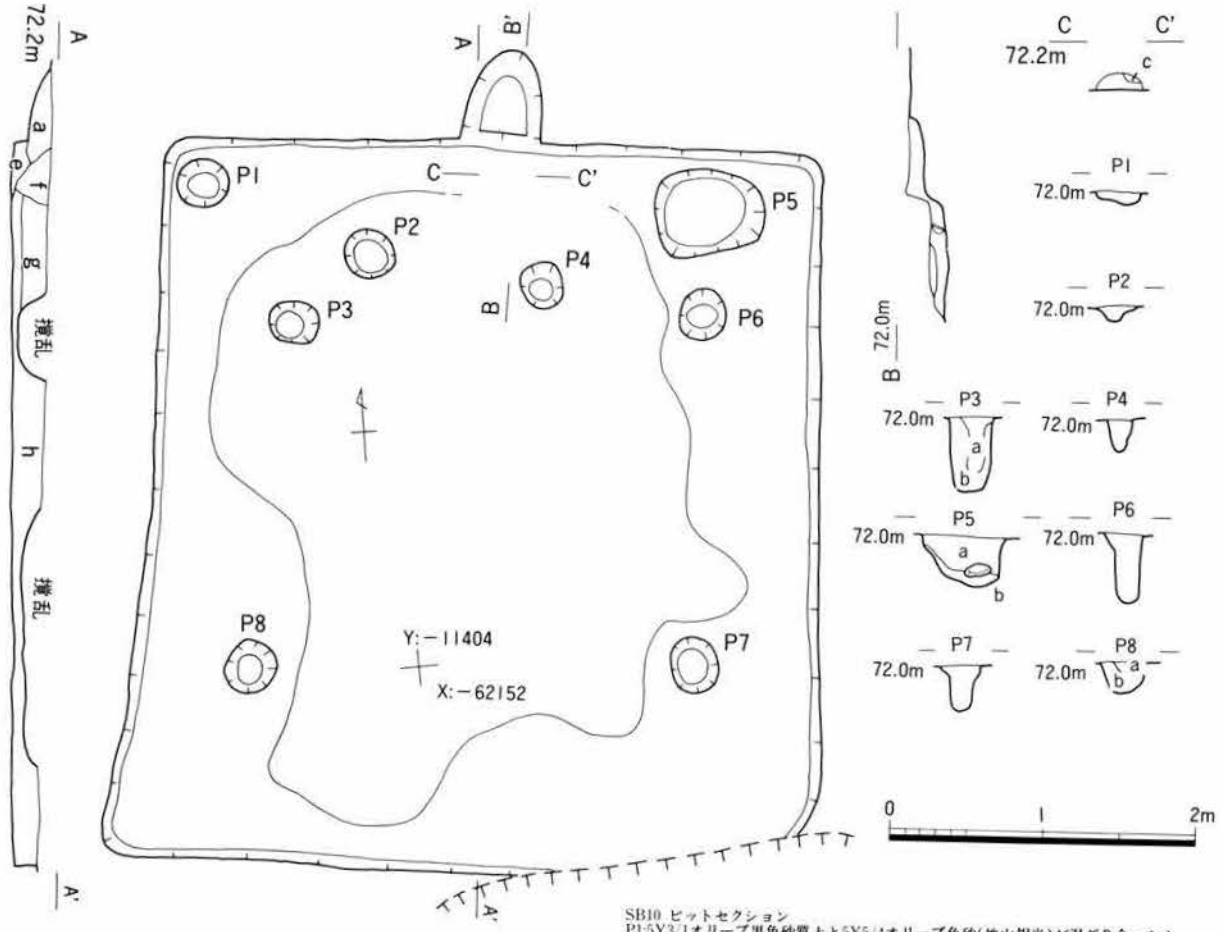
第44図　SB7実測図(2)・遺物出土状況



第45図　SB6･7 出土遺物

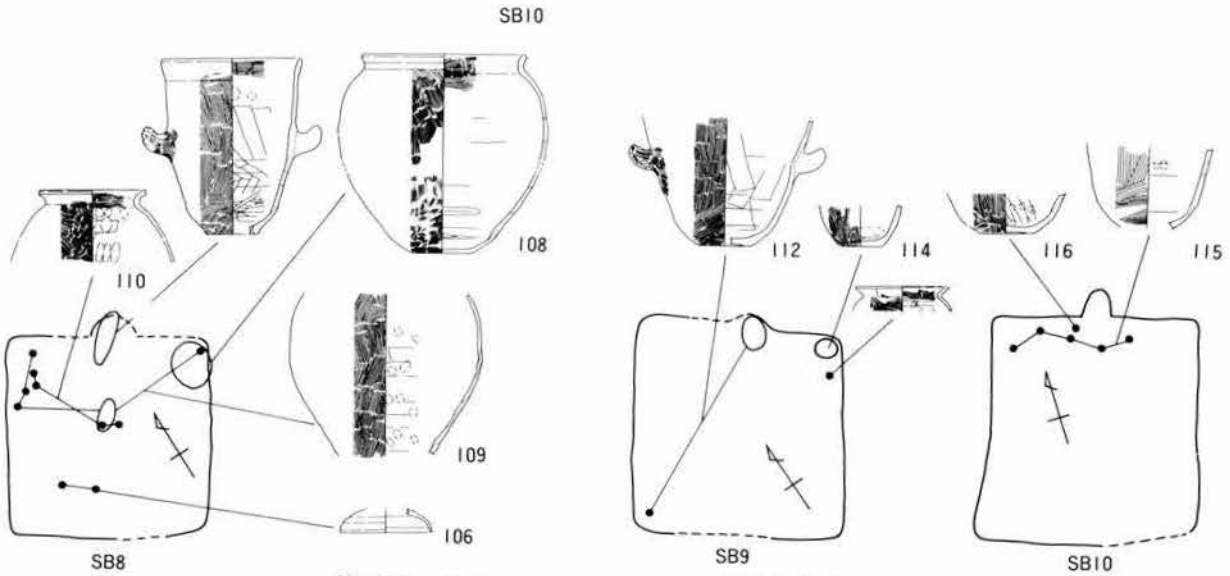


第46図　SB8・9 実測図

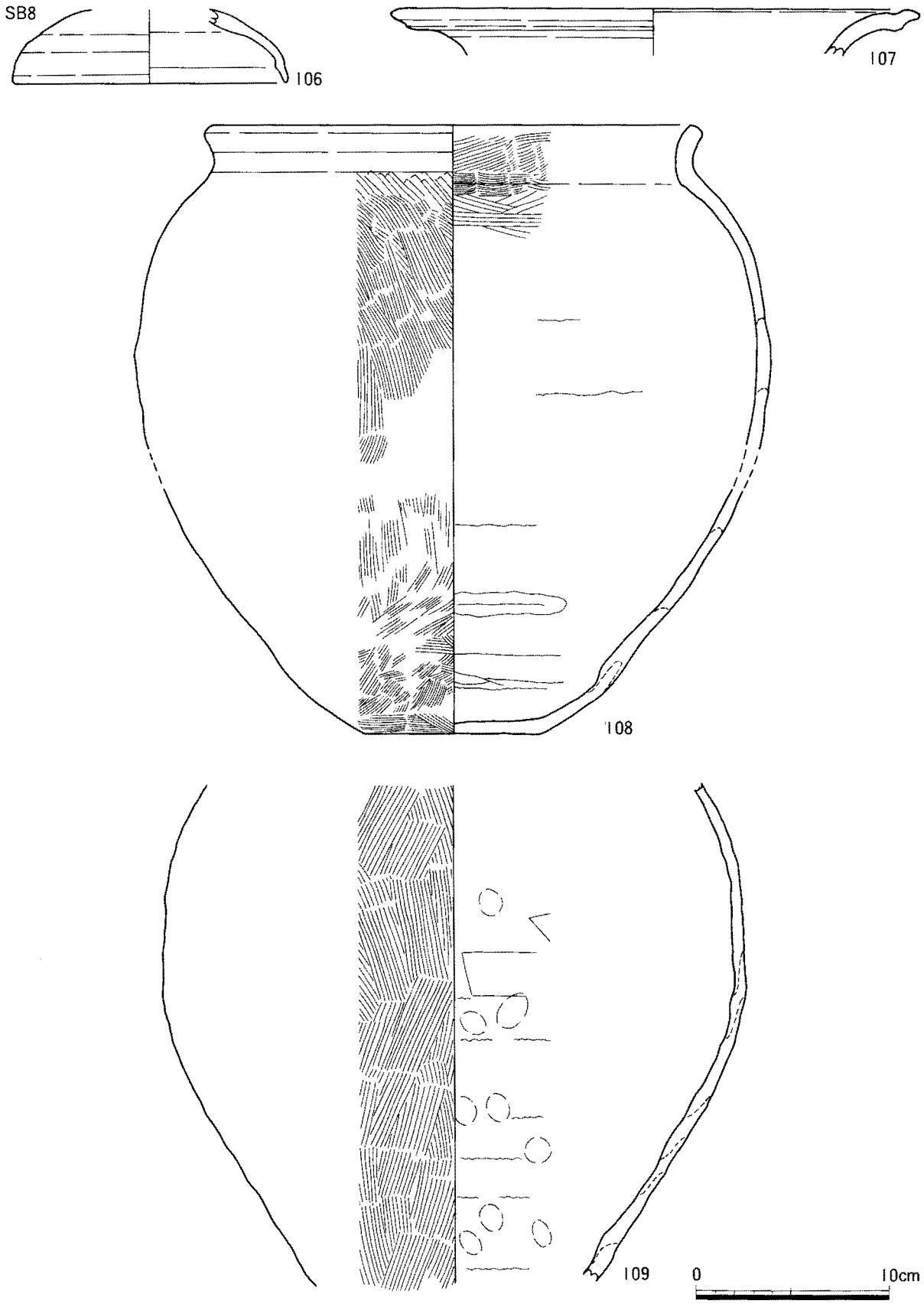


SB10 ベルトセクション
a:2.5Y2/1黒色砂質土下部で2.5Y4/2暗灰黄色砂(地山に相当)が混ざる。
b:2.5Y3/1黒褐色砂質土
c:7.5YR4/4褐色砂質土焼けて赤化している。焼土粒が含まれる。
d:2.5Y2/1黒色砂質土均質。
e:10YR4/2灰黄褐色砂質土。焼土らしき粒を含む。
f:10YR1.7/1黒色砂質土。黄褐色砂が径0.5～1cmの塊で混ざる。
g:10YR2/1黒色砂質土に2.5Y3/3暗オリーブ褐色や10YR5/1褐灰色や2.5Y6/4にぶい黄色の砂が部分的に混ざる。
h:2.5Y3/1黒褐色砂質土。部分的に2.5Y2/1黒色土がわずかに混ざる。

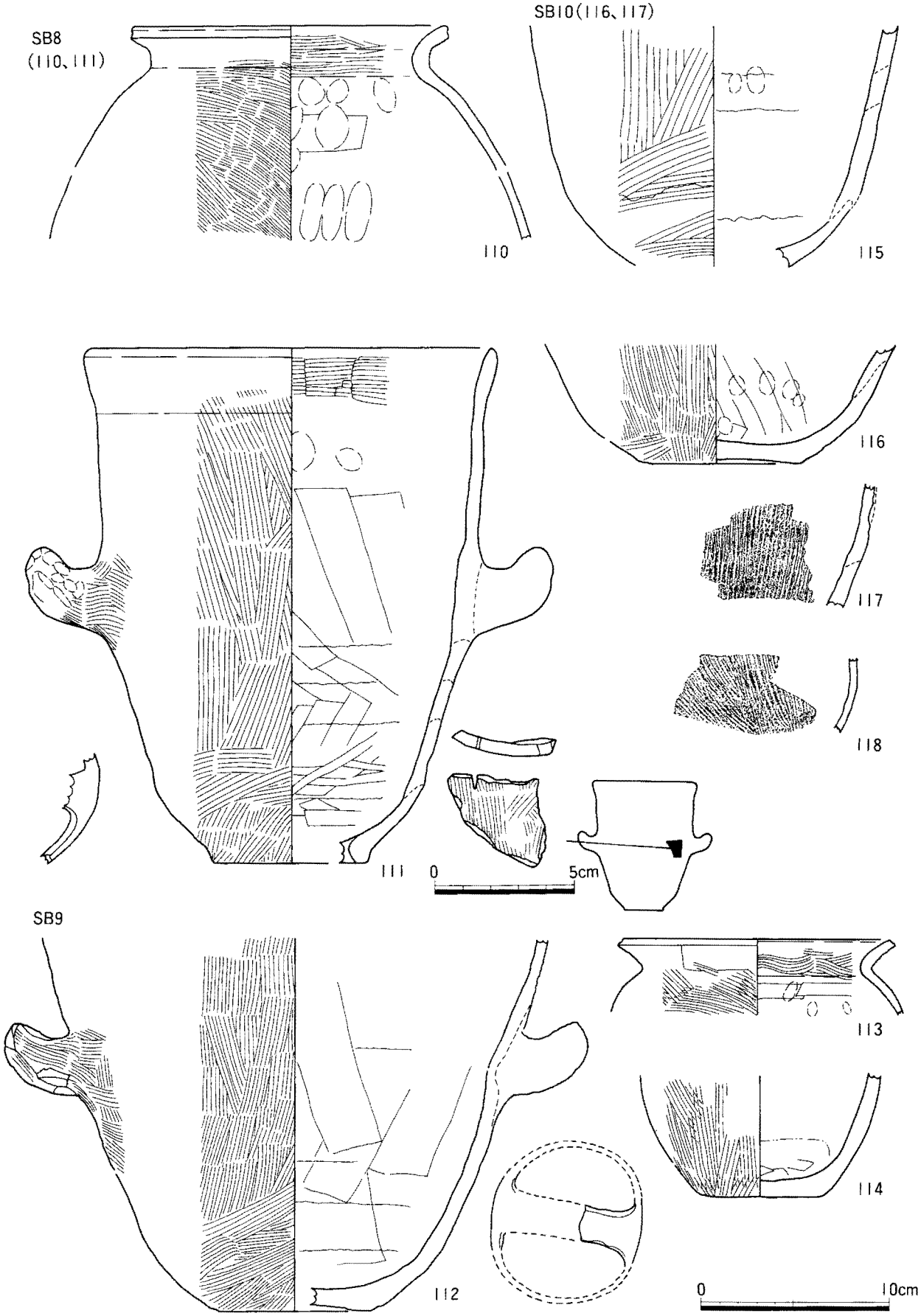
SB10 ピットセクション
P1:5Y3/1オリーブ黒色砂質土と5Y5/4オリーブ色砂(地山相当)が混ざり合った土。
　底はしまりあり、かたい。
P2:5Y2/1黒色砂質土に5Y5/4オリーブ色砂が下層で混ざる。
P3
　a:5Y3/1オリーブ黒色砂質土に5Y6/4オリーブ黄色砂が混ざる。
　b:5Y6/4オリーブ黄色砂に5Y2/1黒色砂質土が全体に1:9の割合で斑状に混ざる。
P4:5Y2/1黒色砂質土。均質。
P5
　a:5Y2/1黒色砂質土。ほぼ均質。
　b:5Y2/1黒色砂質土に5Y6/4オリーブ黄色砂がほぼ8:2の割合でまんべんなく混ざる。
P6:5Y2/1黒色砂質土に5Y6/4オリーブ黄色砂がわずかに混ざる。
P7:2.5Y3/1黒褐色土と5Y6/4オリーブ黄色砂が斑状に混ざる。
P8
　a:5Y2/1黒色砂質土と5Y5/4オリーブ色砂が斑状に混ざる。
　b:5Y4/2灰オリーブ色砂質土と5Y5/4オリーブ色砂が斑状に混ざる。



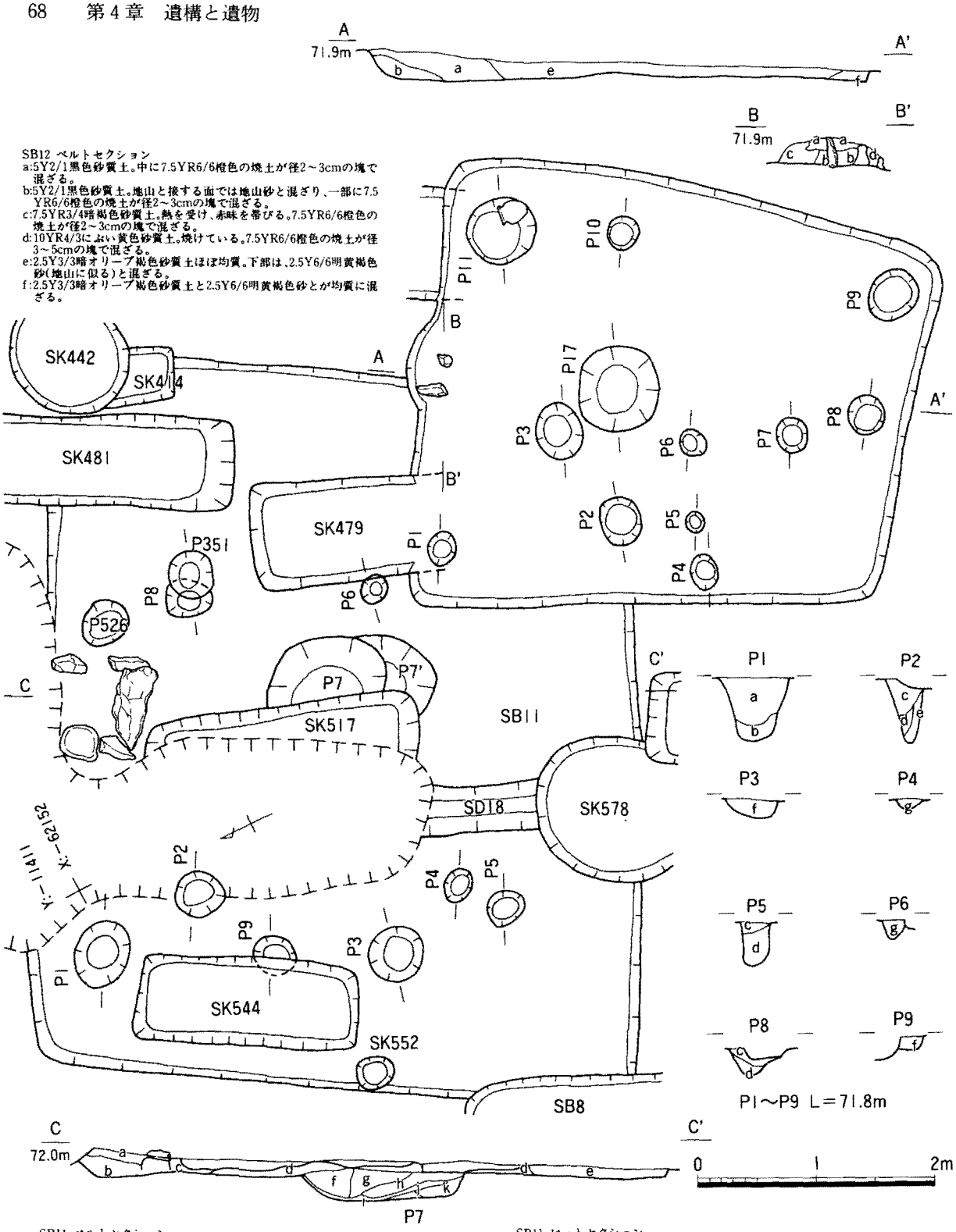
第47図　SB10 実測図、SB8～10 遺物出土状況



第48図　SB8 出土遺物



第49図　SB8～10 出土遺物

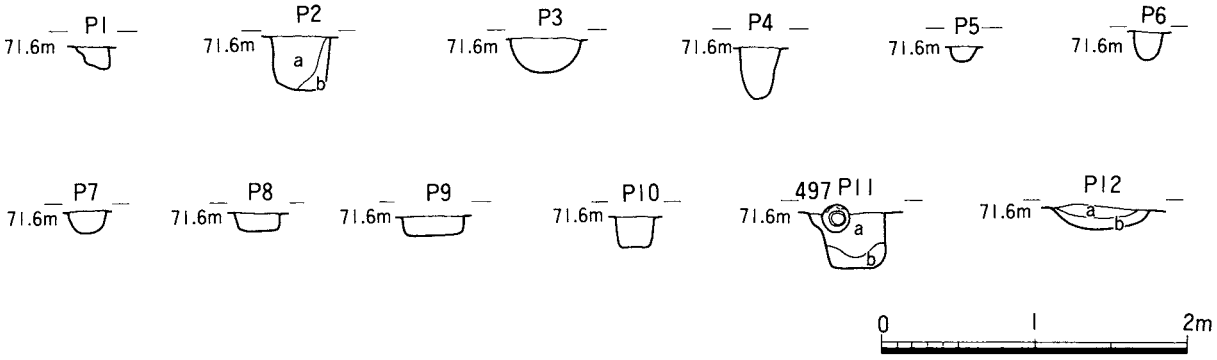


SB12 ベルトセクション
a:5Y2/1黒色砂質土。中に7.5YR6/6橙色の焼土が径2～3cmの塊で混ざる。
b:5Y2/1黒色砂質土。地山と接する面では地山砂と混ざり、一部に7.5YR6/6橙色の焼土が径2～3cmの塊で混ざる。
c:7.5YR3/4暗褐色砂質土。熱を受け、赤味を帯びる。7.5YR6/6橙色の焼土が径2～3cmの塊で混ざる。
d:10YR4/3にぶい黄色砂質土。焼けている。7.5YR6/6橙色の焼土が径3～5cmの塊で混ざる。
e:2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質土ほぼ均質。下部は、2.5Y6/6明黄褐色砂(地山に似る)と混ざる。
f:2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質土と2.5Y6/6明黄褐色砂とが均質に混ざる。

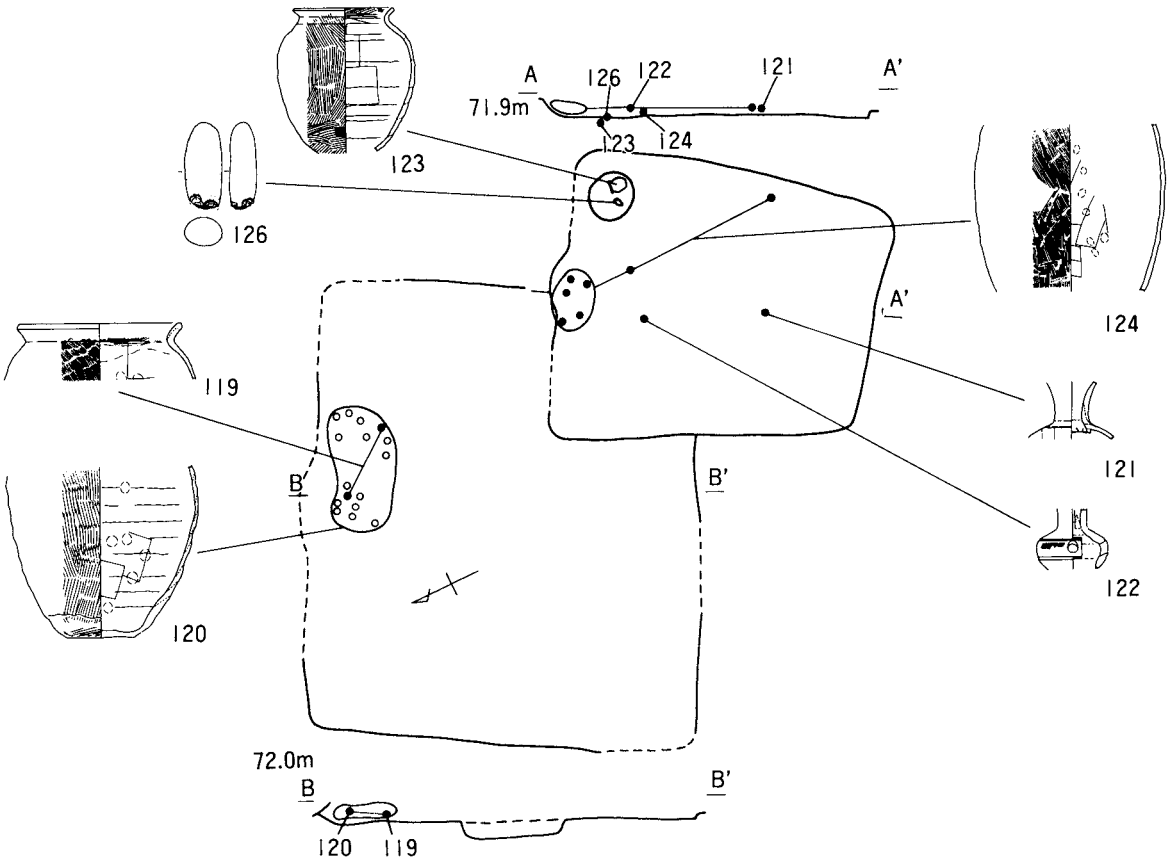
SB11 ベルトセクション
a:5Y3/1オリーブ黒色砂質土中に7.5YR6/6橙色焼土や炭化物が径2～8mmの粒で混ざる。
b:7.5Y3/2黒褐色砂質土aよりもやや赤みが強い。焼土や炭化物が混ざる。
c:5Y2/1黒色砂質土に5Y5/4オリーブ色砂が混ざる。
d:5Y5/3灰オリーブ色砂に5Y2/1黒色砂質土が径2cmほどの斑状に混ざる。
e:5Y2/1黒色土。5Y5/4オリーブ色砂が8:2の割合で混ざる。
f:5Y3/2オリーブ黒色砂質土。5Y6/4オリーブ黄色砂が径2～3cmでモヤ状に混ざる。
g:5Y3/2オリーブ黒色砂質土。中に5Y2/1暗色土が径2cmの斑状に混ざり、5Y6/4オリーブ黄色砂も混ざる。
h:5Y3/2オリーブ黒色砂質土。
i:2.5Y6/4にぶい黄色粘土と5Y5/4オリーブ色砂(地山と同じ)が混ざる。
j:2.5Y5/4オリーブ色砂
K.5Y3/2オリーブ黒色質土。5Y5/4オリーブ色砂が径1～2cmの斑状に混がる。

SB11 ピットセクション
a:5Y2/1黒色砂質土しまり弱い。
b:5Y3/2オリーブ黒色砂質土。5Y6/4オリーブ黄色砂(地山と同じ)と半々の割合で混ざる。
c:5Y3/1オリーブ黒色砂質土。炭化物や黒色土が部分的に混ざる。
d:5Y3/1オリーブ黒色砂質土。
e:5Y4/2灰オリーブ色砂。
f:5Y3/2オリーブ黒色土と5Y5/3灰オリーブ色砂が斑状に混ざる。
g:5Y2/1黒色砂質土しまり弱い。

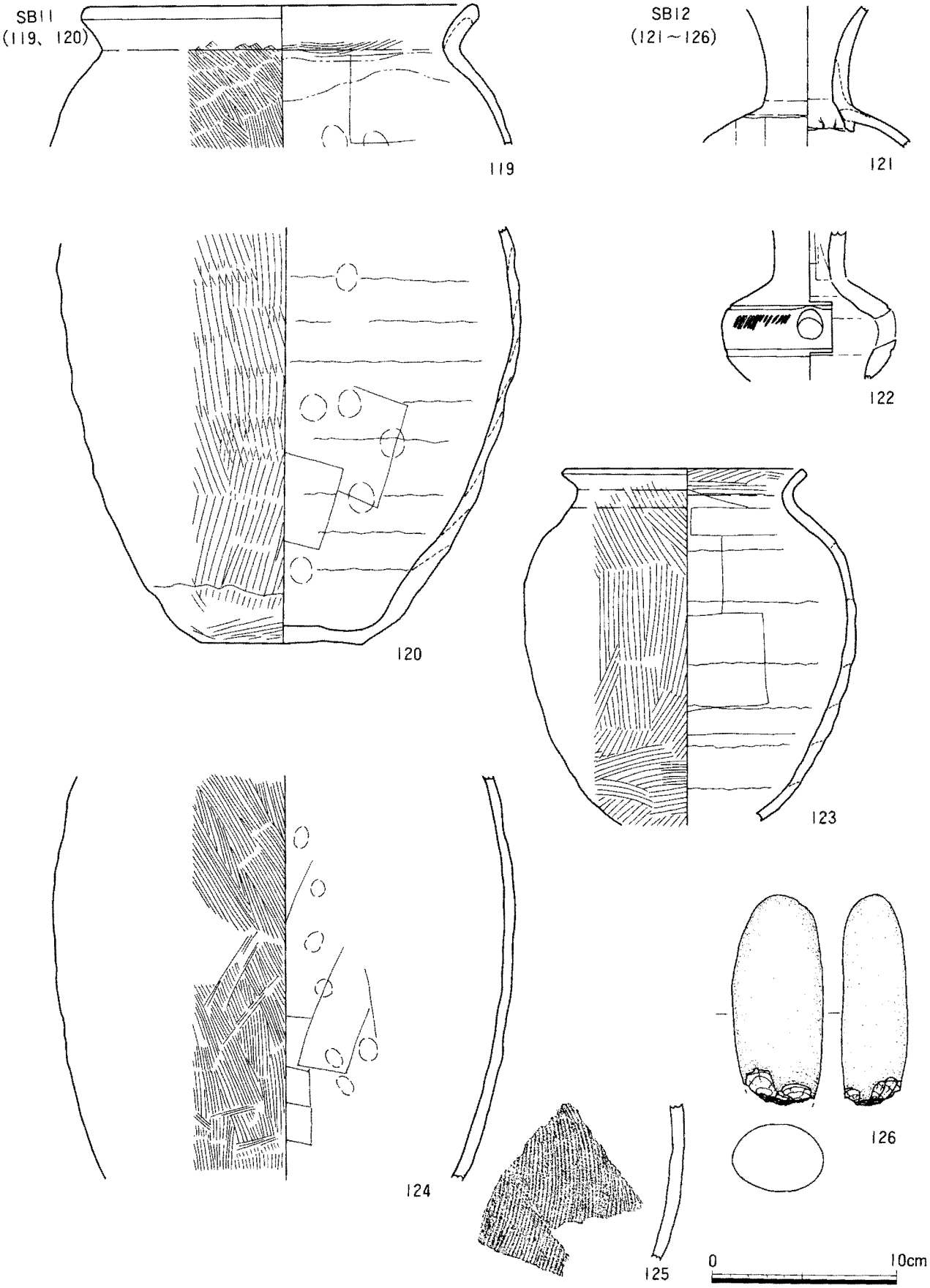
第50図　SB11・12 実測図(1)



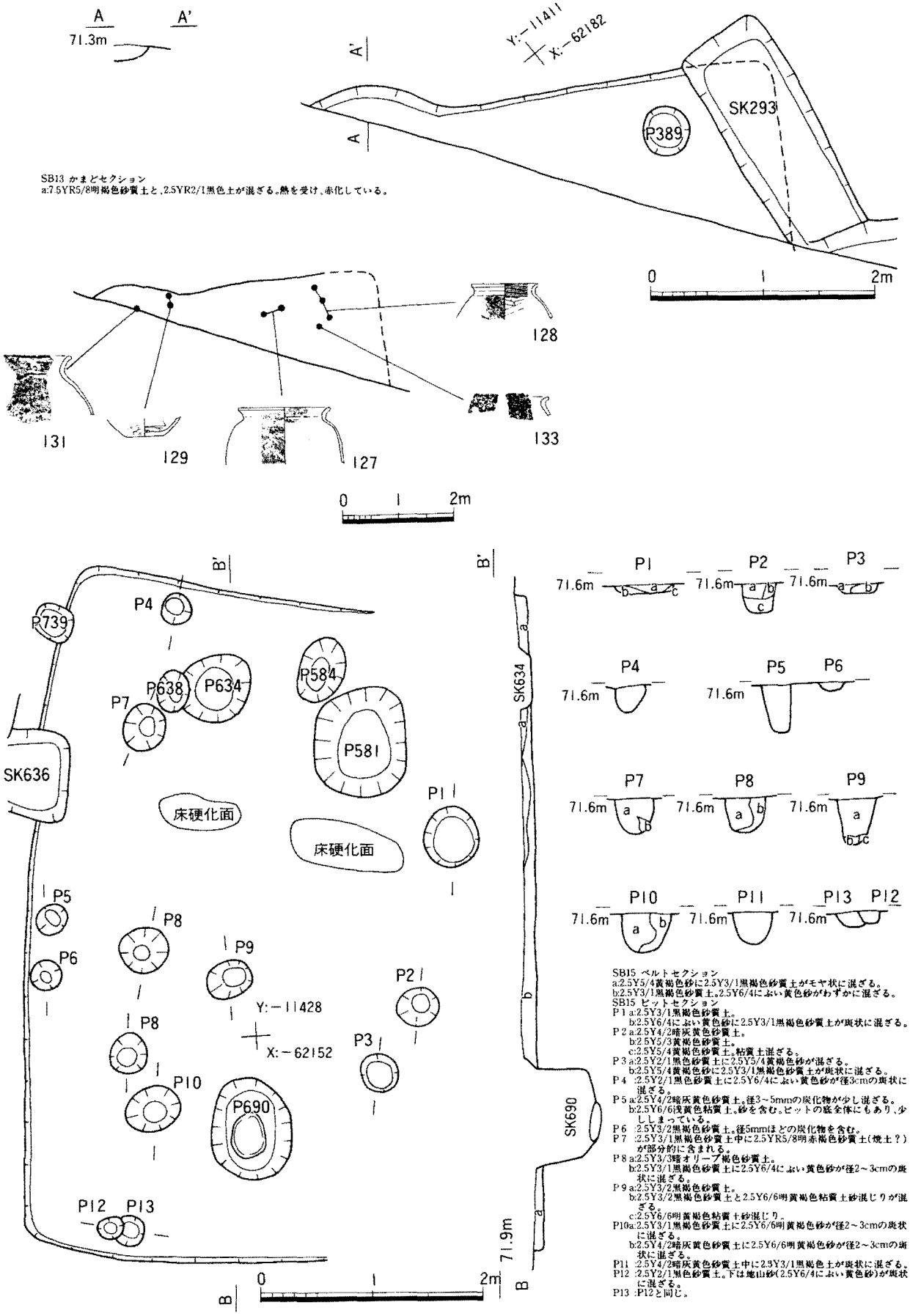
SB12 ピットセクション
P１:5Y3/1オリーブ黒色砂質土に5Y5/4オリーブ色砂(地山に似る)が2～3cmのまるい斑状に混ざる。
P２a:5Y3/1オリーブ黒色砂質土中に5Y2/1黒色土や5Y5/4オリーブ色砂が径3～4cmの斑状に混ざる。
　b:5Y4/4オリーブ色砂。
P３:5Y4/1灰色砂質土。底は地山に遷移的に変わる。
P４:2.5Y2/1黒色砂質土に2.5Y4/2暗灰黄色砂がモヤ状に混ざる。
P５:P4と同じ。
P６:P4と同じ。
P７:P4と同じ。
P８:5Y3/1オリーブ黒色砂質土に5Y5/4オリーブ色砂がモヤ状に混ざる。
P９:5Y2/1黒色砂質土に5Y5/4オリーブ色砂がモヤ状に混ざる。
P10:5Y3/2オリーブ黒色砂質土がモヤ状に5Y2/1黒色砂質土や5Y5/4オリーブ色砂と混ざる。
P11a:2.5Y3/1黒褐色砂質土。2.5Y6/4にぶい黄色砂が径2～3cmの斑状に混ざる。
　b:2.5Y4/1黄褐色砂質土。2.5Y6/4にぶい黄色砂が径2～3cmの斑状に混ざる。
P12a:2.5Y4/2灰オリーブ色砂質土。10YR5/4にぶい黄褐色の粘土を含む。
　b:2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘土と砂が混ざる。10YR5/4にぶい黄褐色の粘土を含む。



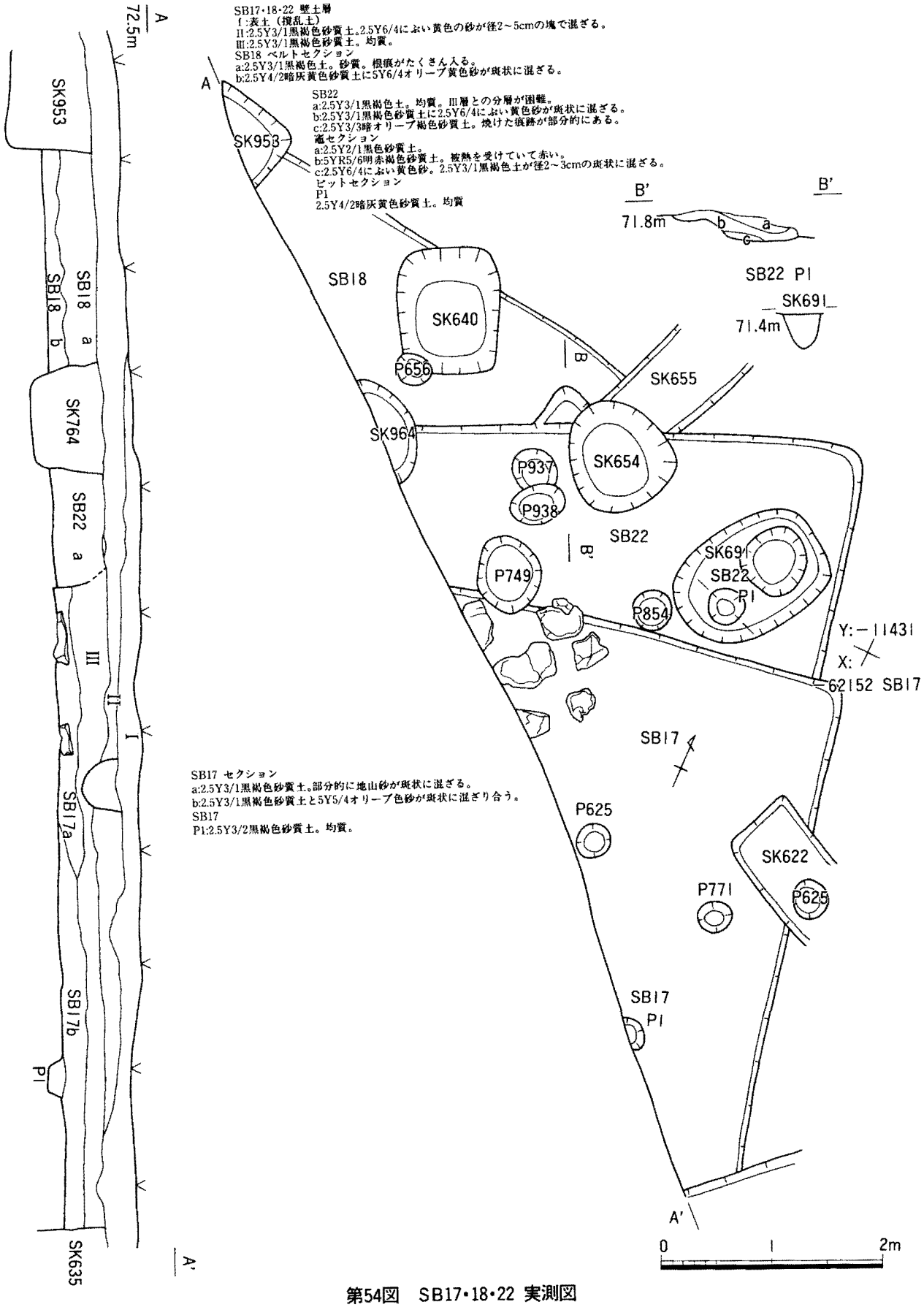
第51図　SB11・12 実測図(2) 遺物出土状況



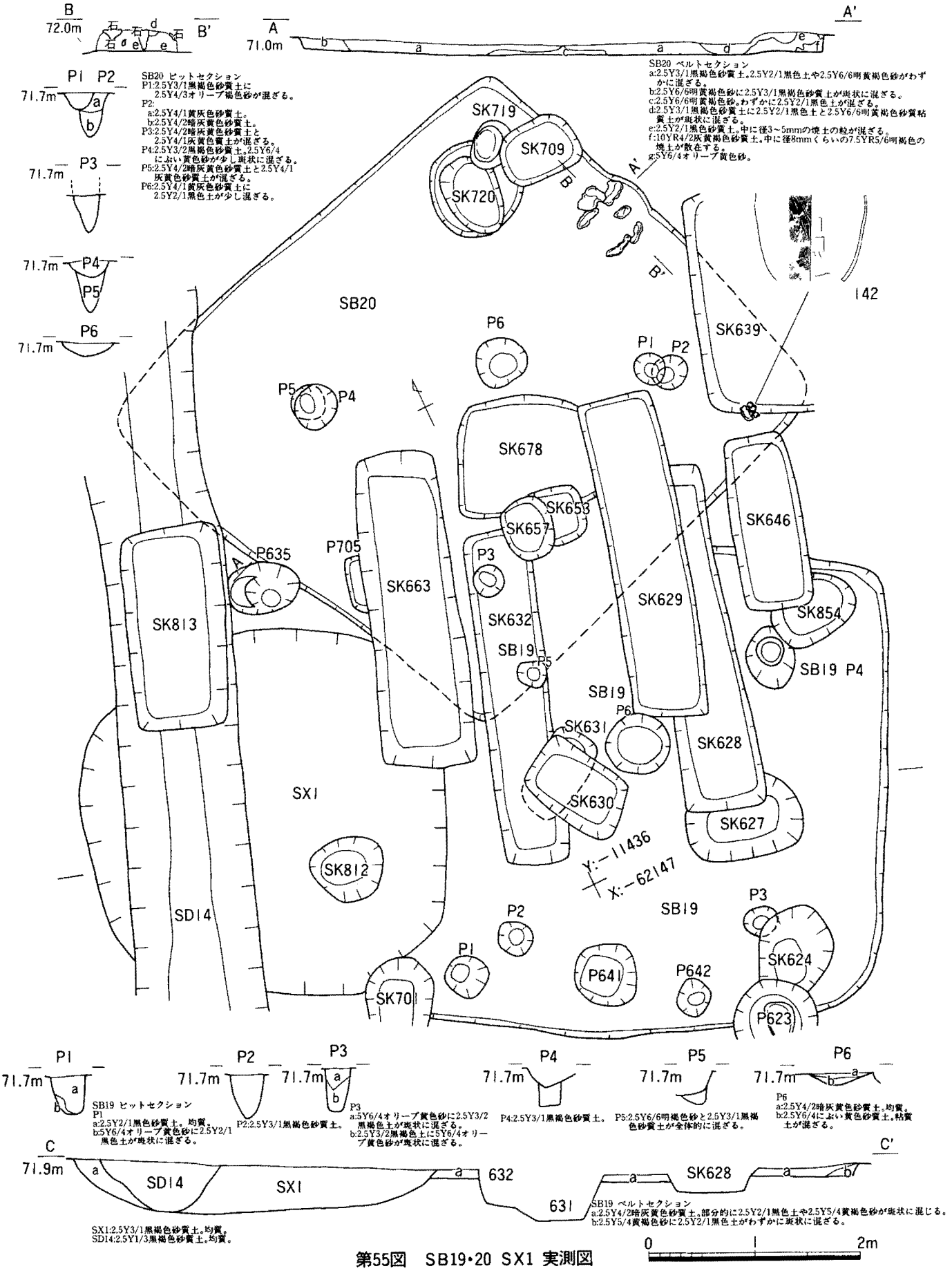
第52図　SB11～12 出土遺物



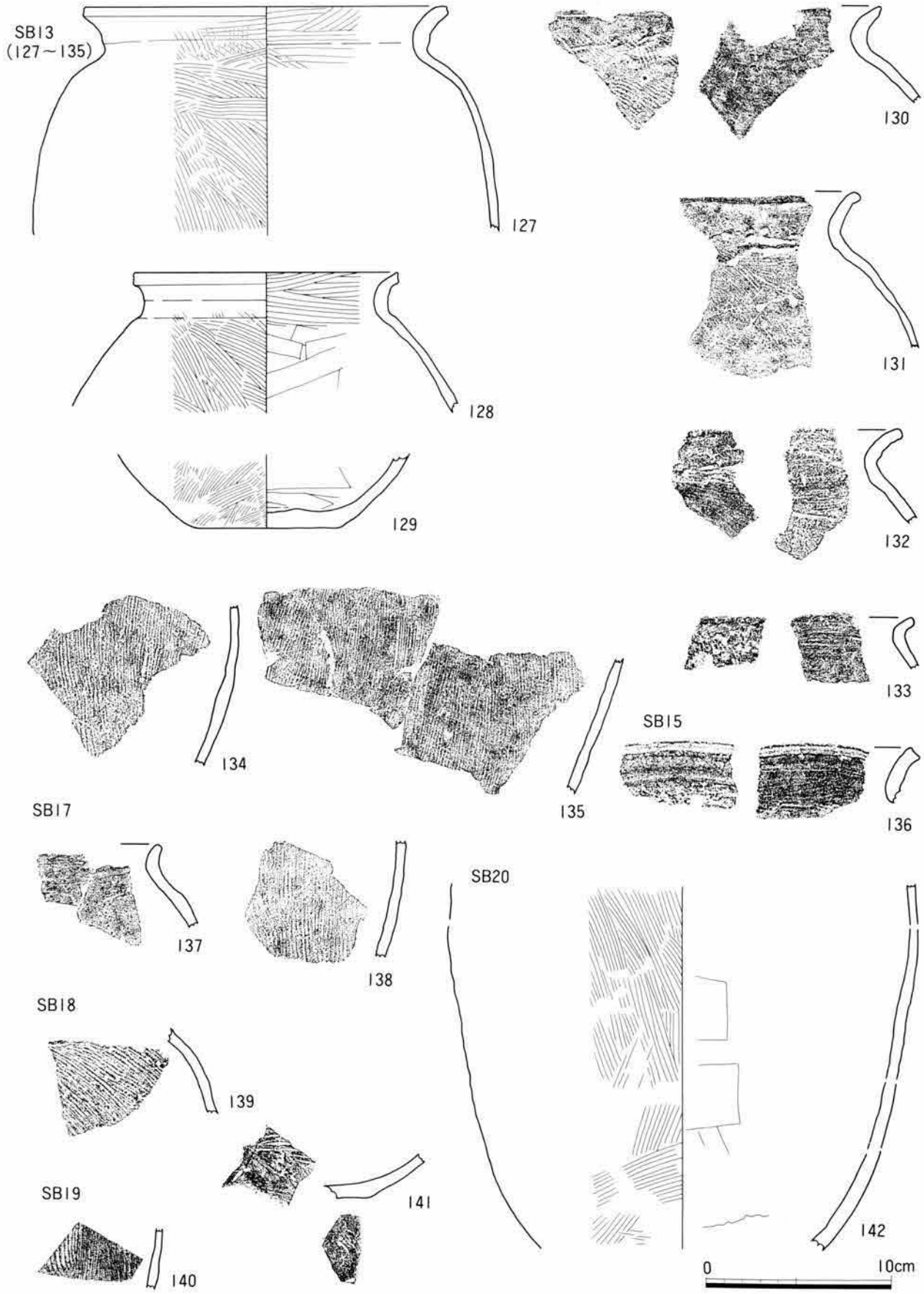
第53図　SB13・15 実測図 SB13 遺物出土状況



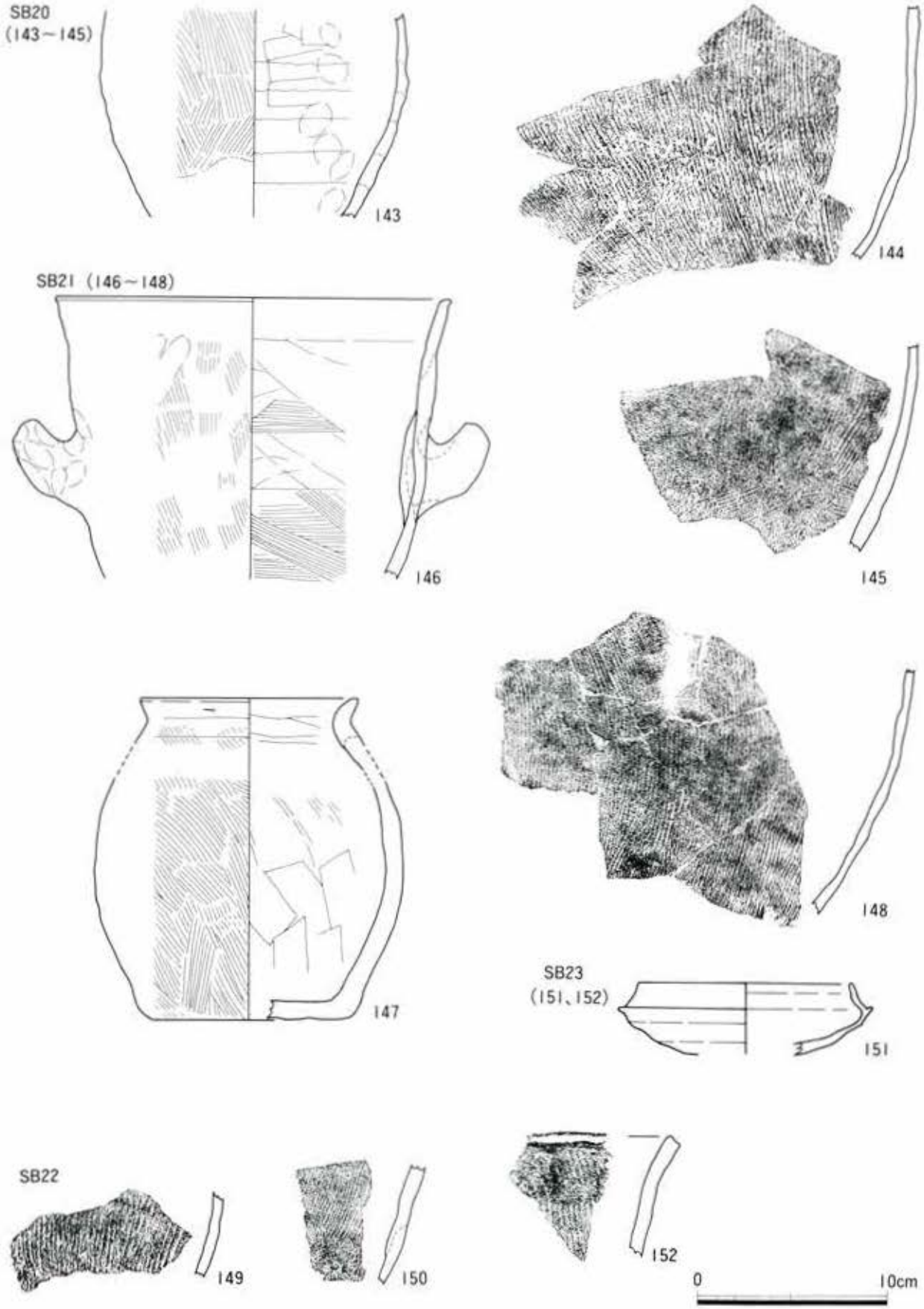
第54図　SB17・18・22 実測図



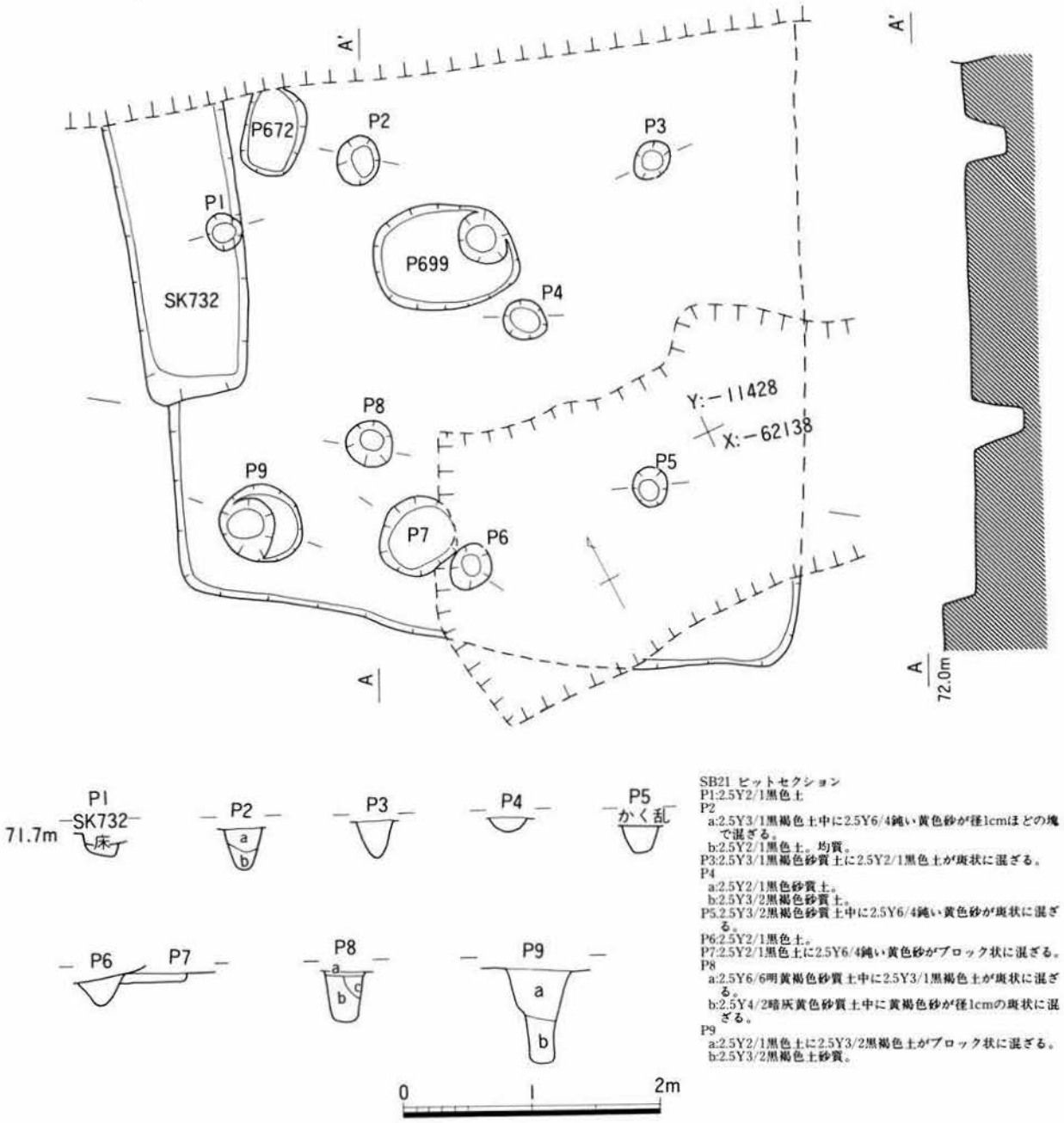
第55図　SB19・20 SX1 実測図



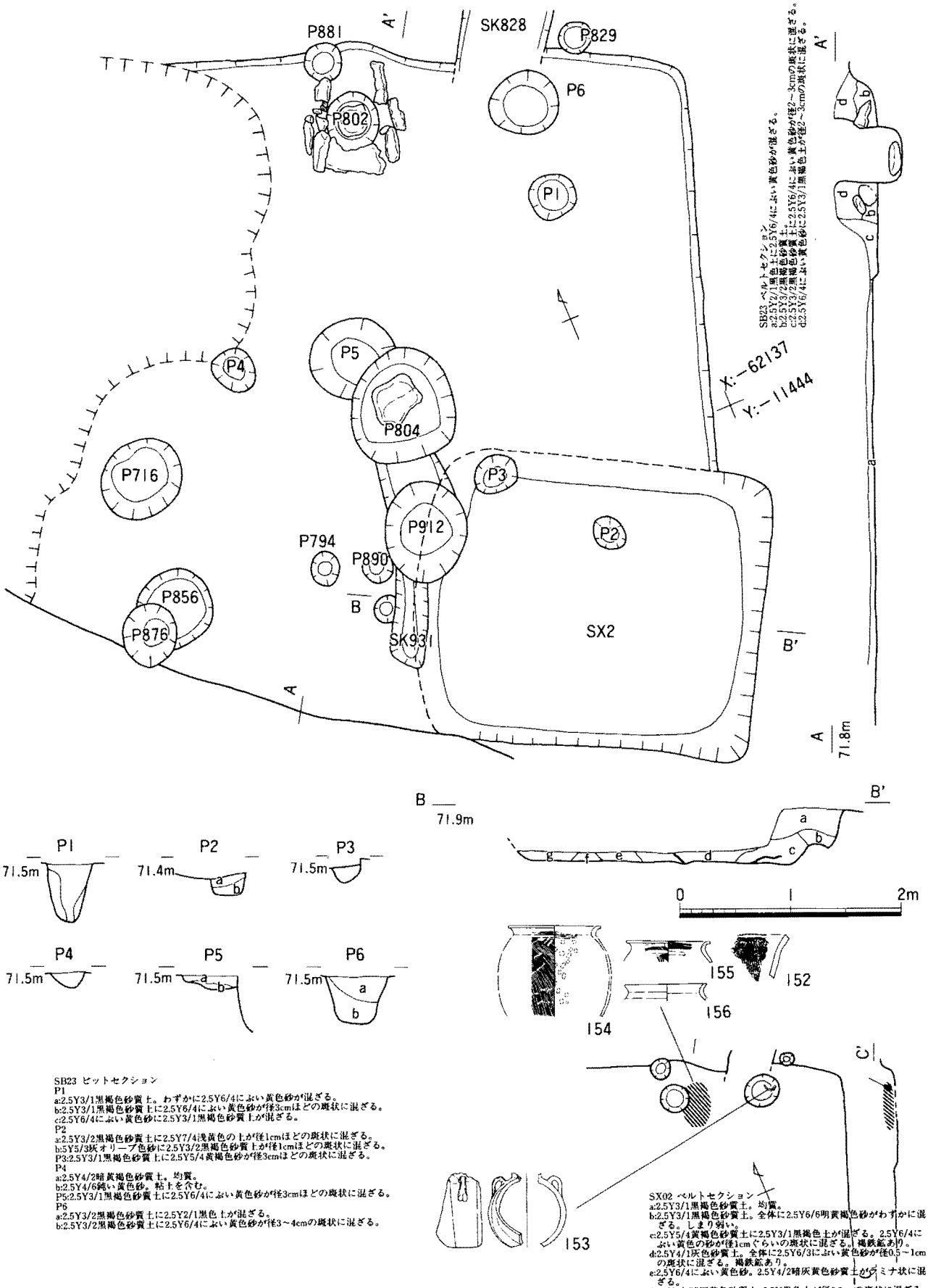
第56図　SB13・15・17～20 出土遺物



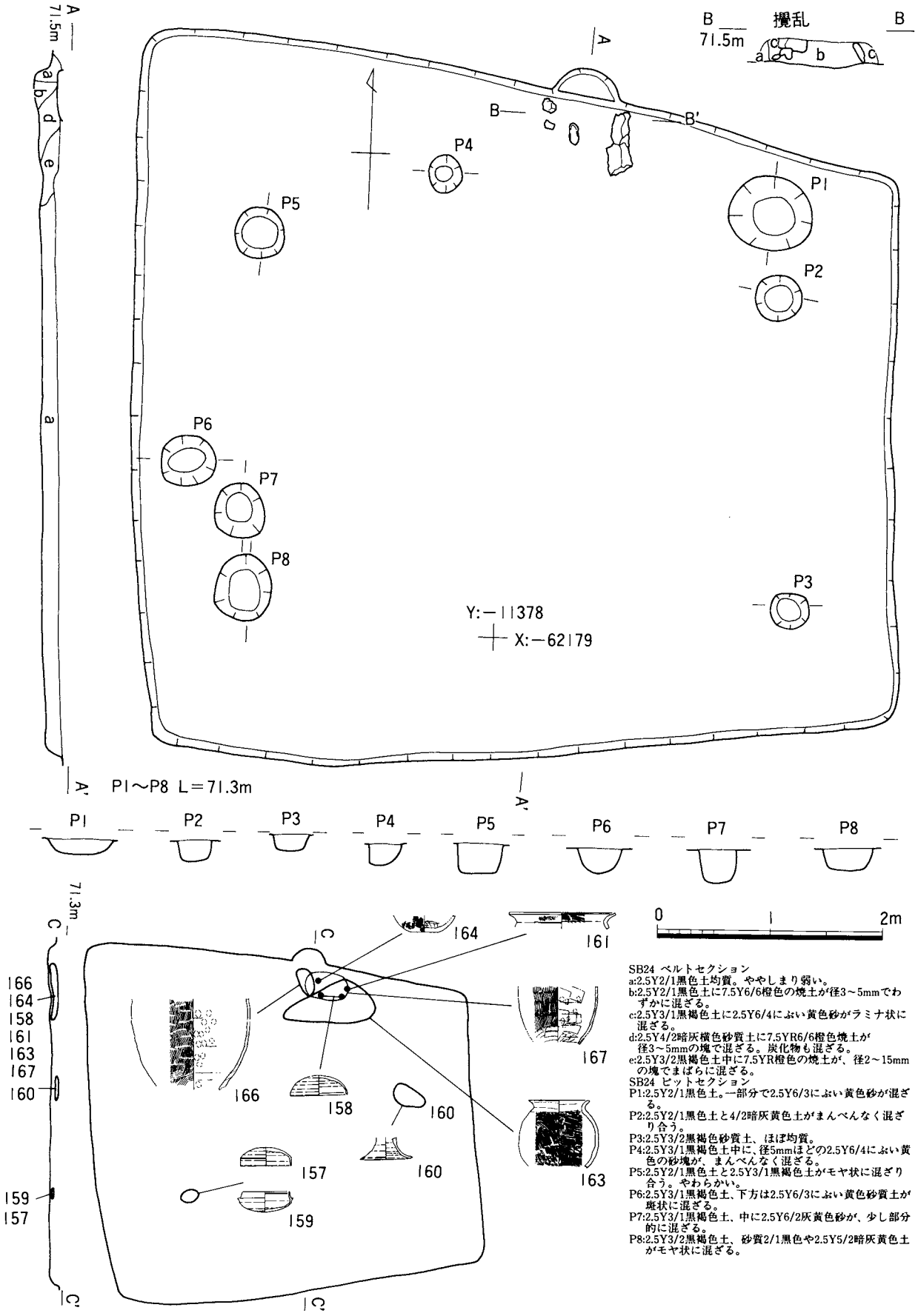
第57図　SB20～23 出土遺物



第58図　SB21 実測図・遺物出土状況

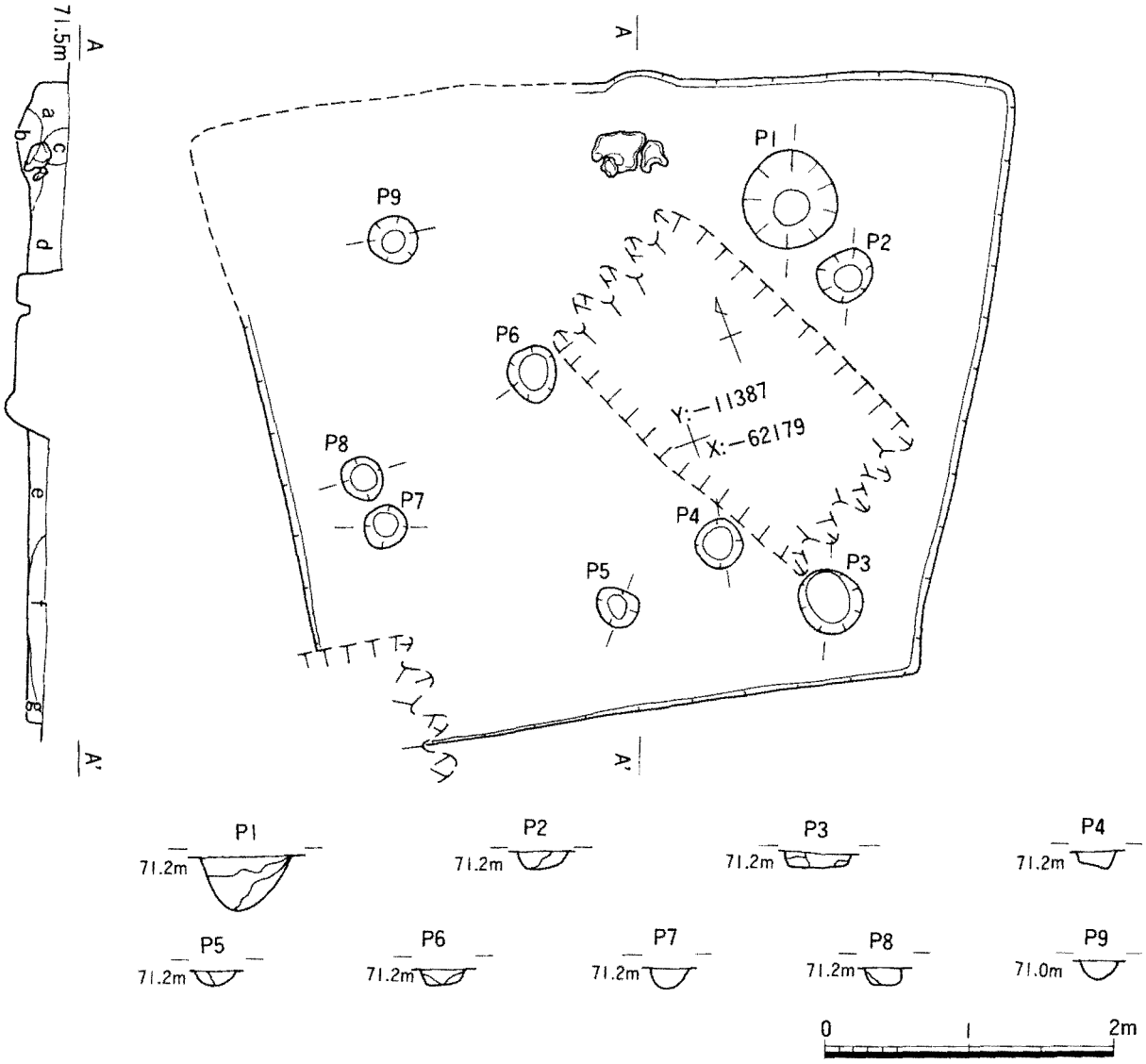


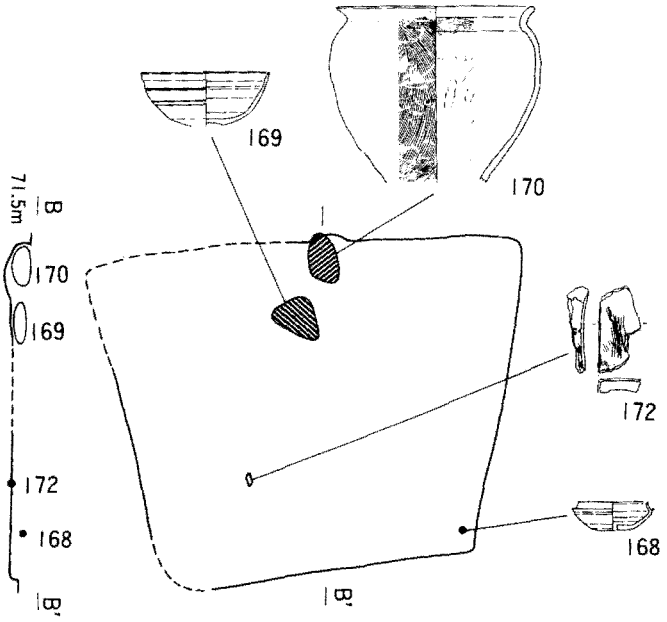
第59図　SB23，SX2 実測図・遺物出土状況



SB24 ベルトセクション
a:2.5Y2/1黒色土均質。ややしまり弱い。
b:2.5Y2/1黒色土に7.5Y6/6橙色の焼土が径3～5mmでわずかに混ざる。
c:2.5Y3/1黒褐色土に2.5Y6/4にぶい黄色砂がラミナ状に混ざる。
d:2.5Y4/2暗灰横色砂質土に7.5YR6/6橙色焼土が径3～5mmの塊で混ざる。炭化物も混ざる。
e:2.5Y3/2黒褐色土中に7.5YR橙色の焼土が、径2～15mmの塊でまばらに混ざる。
SB24 ピットセクション
P1:2.5Y2/1黒色土。一部分で2.5Y6/3にぶい黄色砂が混ざる。
P2:2.5Y2/1黒色土と4/2暗灰黄色土がまんべんなく混ざり合う。
P3:2.5Y3/2黒褐色砂質土、ほぼ均質。
P4:2.5Y3/1黒褐色土中に、径5mmほどの2.5Y6/4にぶい黄色の砂塊が、まんべんなく混ざる。
P5:2.5Y2/1黒色土と2.5Y3/1黒褐色土がモヤ状に混ざり合う。やわらかい。
P6:2.5Y3/1黒褐色土、下方は2.5Y6/3にぶい黄色砂質土が斑状に混ざる。
P7:2.5Y3/1黒褐色土、中に2.5Y6/2灰黄色砂が、少し部分的に混ざる。
P8:2.5Y3/2黒褐色土、砂質2/1黒色や2.5Y5/2暗灰黄色土がモヤ状に混ざる。

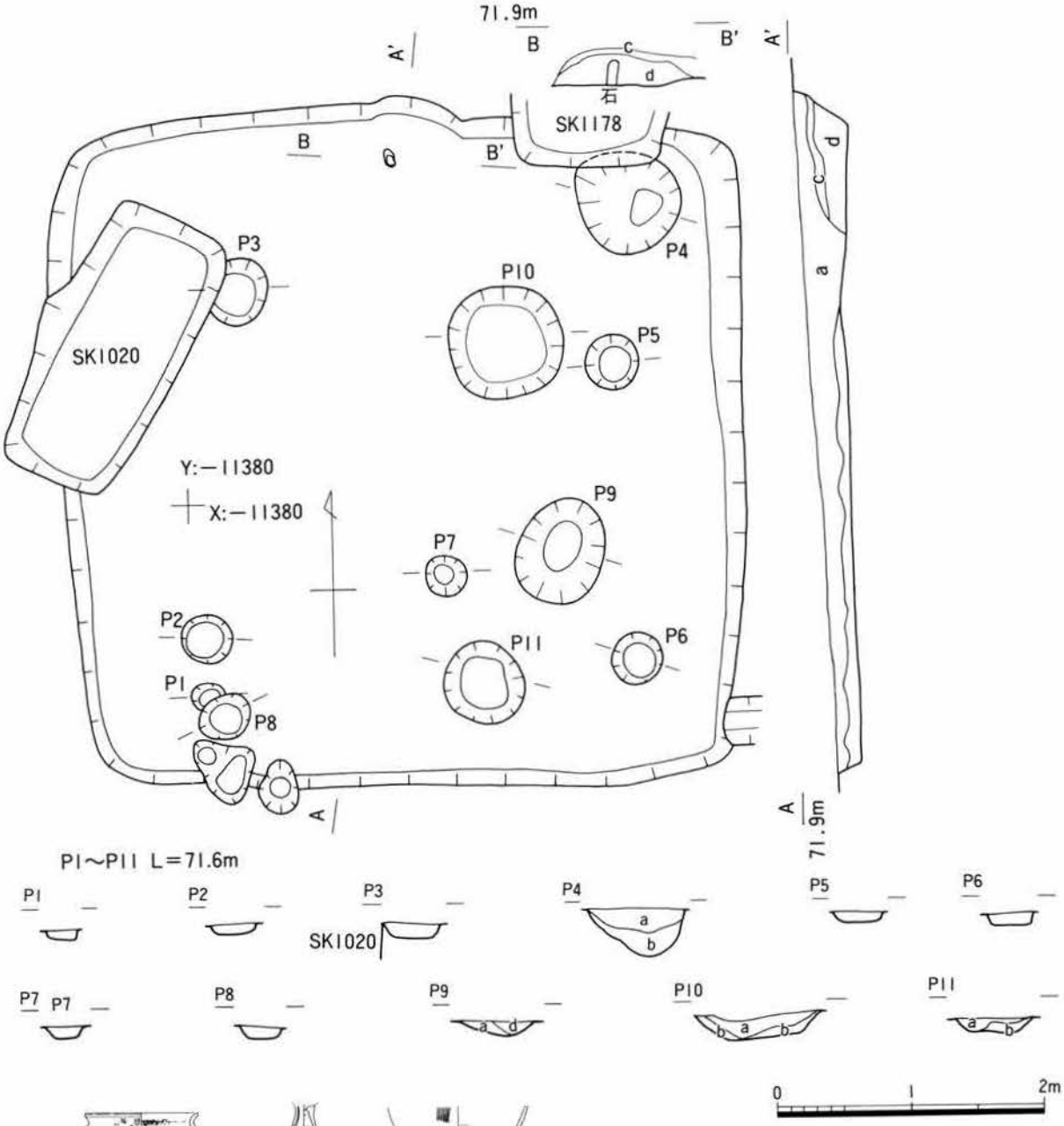
第60図　SB24 実測図・遺物出土状況

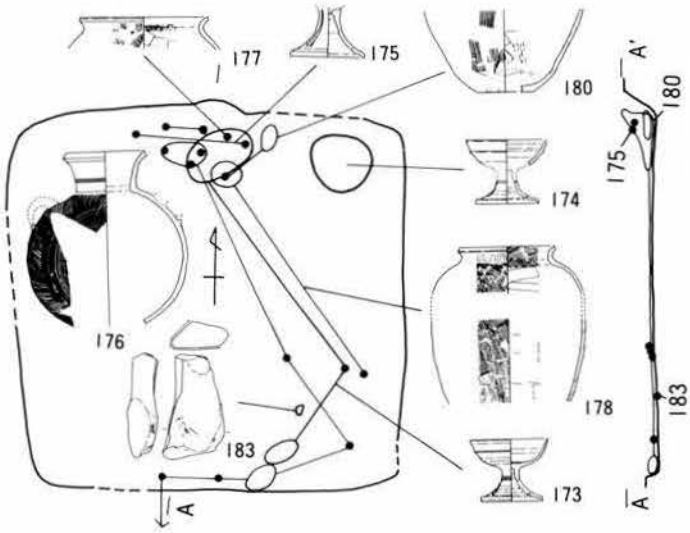




SB25 ベルトセクション
a:2.5Y3/1黒褐色砂質土に10YR5/4にぶい黄色土が斑状に混ざる。
b:10YR5/4にぶい橫褐色土。(熱による赤化？)
c:2.5Y3/1黒褐色砂質土、10YR5/4にぶい橫褐色土がわずかに混ざる。
d:2.5Y3/1黒褐色砂質土。均質。
f:2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質土。
g:2.5Y6/4にぶい黄色砂に2.5Y3/1黒褐色土が全体に混ざる。
SB25 ピットセクション
P1
a:2.5Y2/1黒色砂質土。
b:2.5Y2/1黒色土に、2.5Y4/2暗灰黄色質土がまんべんなく混ざる。
c:2.5Y6/6明黄褐色砂質土、部分的に2.5Y2/1黒色土や2.5Y5/6黄褐色土が混ざる。
P2
a:2.5Y3/1黒褐色土に2.5Y6/4にぶい黄色砂が一部混ざる。
b:2.5Y6/4にぶい黄色砂に、2.5Y3/1黒褐色土が混ざる。
P3
a:2.5Y3/1黒褐色砂質土。
b:2.5Y7/6明黄褐色砂に、2.5Y3/1黒褐色土がうすく混ざる。
c:2.5Y2/1黒色土に、2.5Y5/3黄褐色砂が斑状に混ざる。
d:2.5Y6/4にぶい黄色砂。
P4
a:2.5Y6/4にぶい黄色砂。
b:2.5Y3/1黒褐色砂質土に、2.5Y6/4にぶい黄色砂が一部斑状に混ざる。
P5
a:2.5Y6/4にぶい黄色砂、2.5Y3/1黒褐色土がわずかに混ざる。
b:2.5Y3/1黒褐色砂質土に、2.5Y6/4にぶい黄色砂が斑状に混ざる。
P6
a:2.5Y3/1黒褐色土と2.5Y6/4にぶい黄色砂が斑状に混ざる。
P7
a:2.5Y2/1黒色土と2.5Y6/4にぶい黄色砂が混ざる。
b:2.5Y4/2暗灰黄色砂。
P8:2.5Y2/1黒色土に2.5Y6/6明黄褐色砂が、4:6の割合でラミナ状に混ざる。
P9
a:2.5Y6/4にぶい黄色砂に2.5Y2/1黒色土がわずかに混ざる。
b:2.5Y2/1黒色土砂質土、2.5Y6/4にぶい黄色砂が混ざる。
P10
a:2.5Y3/2黒褐色土と、2.5Y4/2暗灰黄色土と、2.5Y6/4にぶい黄色土が斑状に混ざる。

第61図　SB25 実測図・遺物出土状況



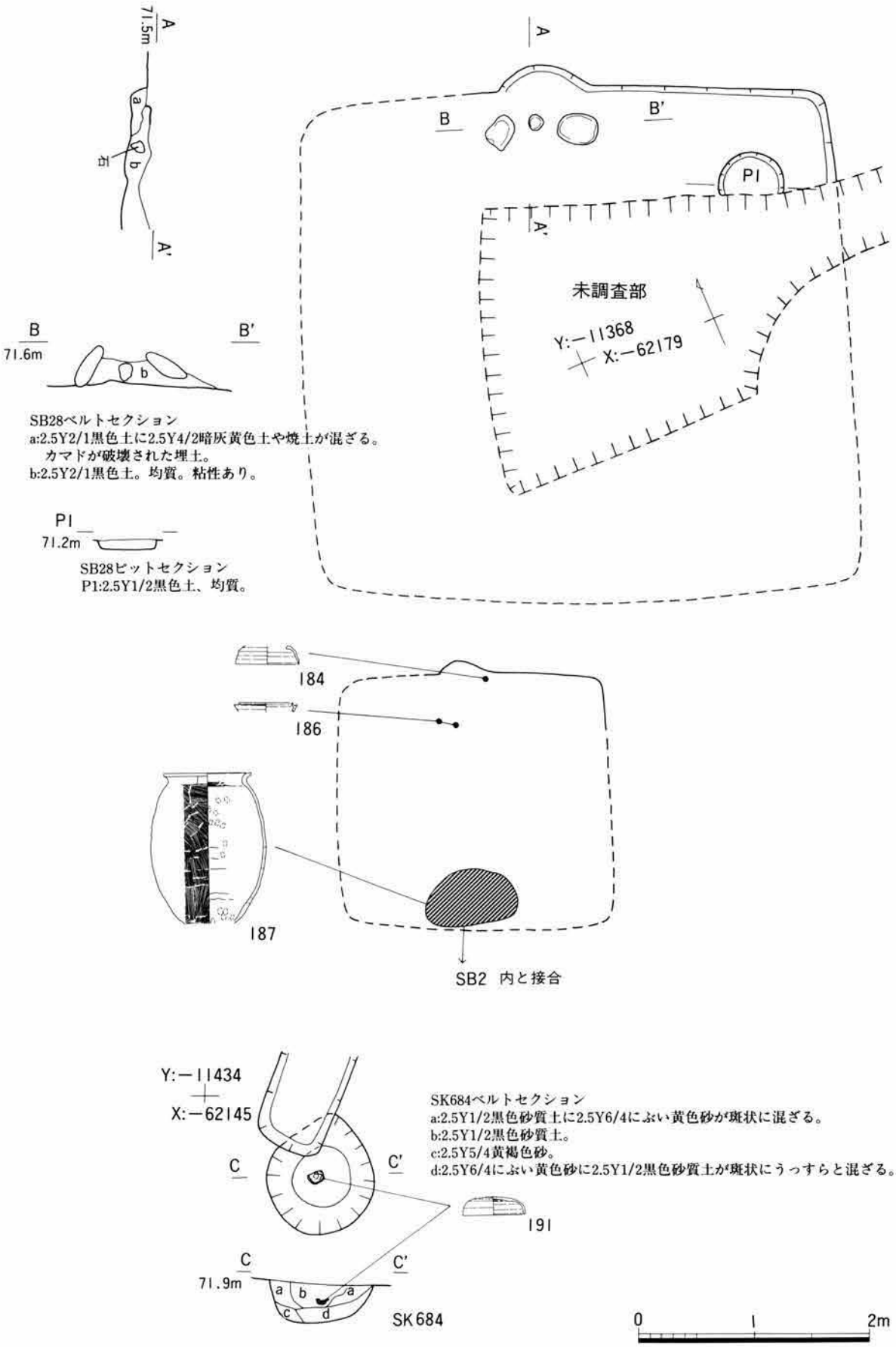


SB26 セクション
a:2.5Y3/1黒褐色土、わずかに2.5Y4/2暗灰黄色砂質土が混ざる。
b:2.5Y4/2暗灰黄色砂質土、2.5Y3/1黒褐色土や2.5Y6/4にぶい黄色砂が、径3cmの斑状に混ざる。
c:2.5Y2/1黒色土に、7.5YR5/4にぶい褐色土(焼土)が斑状に混ざる。
d:10YR5/6黄褐色砂質土(焼けた土)。

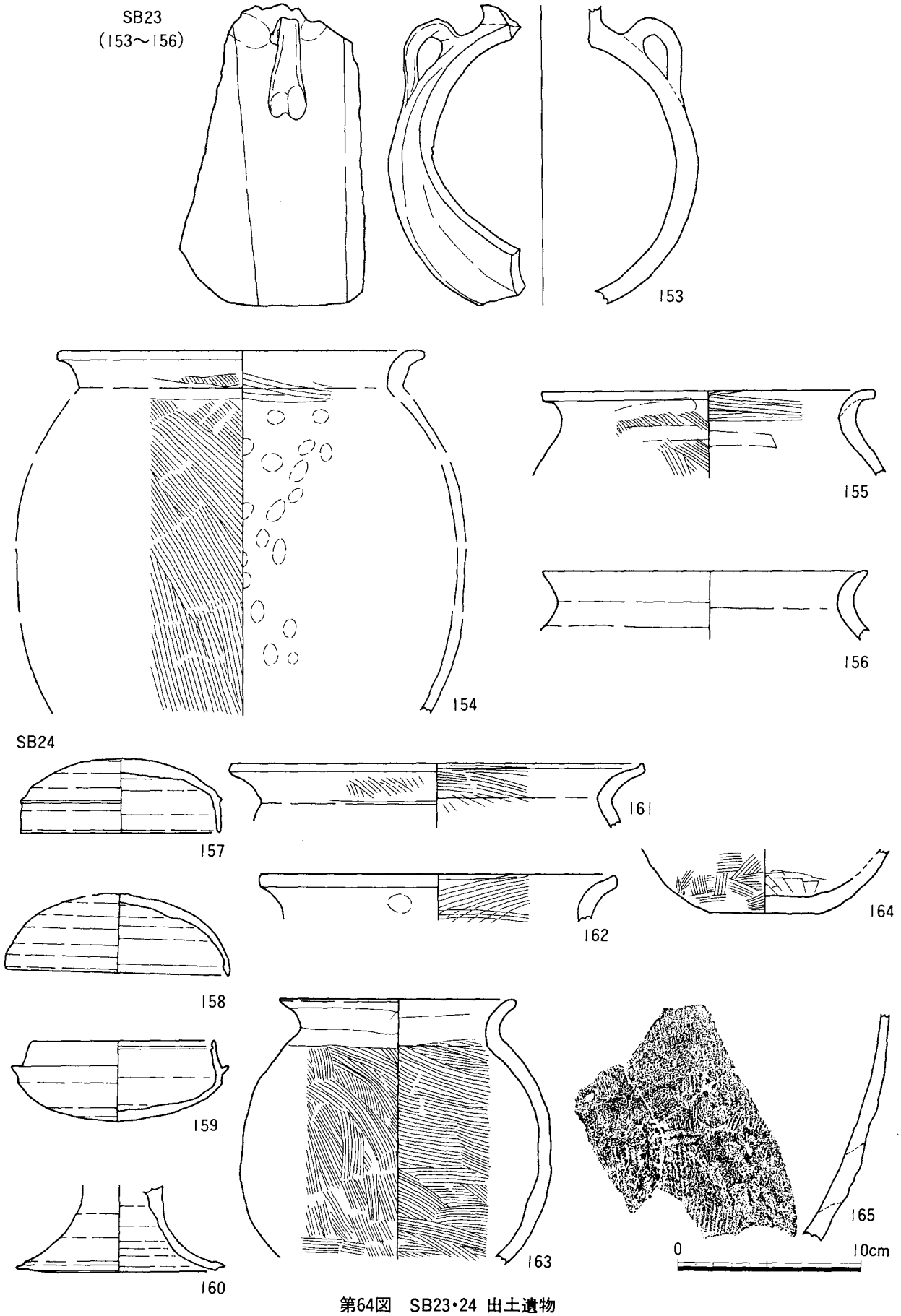
SB26 ピットセクション
P1:2.5Y2/1黒色土、下方は2.5Y6/4にぶい黄色砂が混ざる。
P2:2.5Y2/1黒色土下方は2.5Y6/4にぶい黄色砂が混ざる。
P3:2.5Y4/2暗灰黄色砂質土、2.5Y3/2黒褐色土と2.5Y2/1黒褐色土が混ざる。
P4
a:2.5Y2/1黒色砂質土中に2.5Y6/2灰黄色砂が径2～3cmの斑状に混ざる。
b:2.5Y3/2黒褐色砂質土中に2/1黒色土や6/2灰黄色砂質土が斑状に混ざる。
P5:2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質土中に2.5Y2/1黒色土や2.5Y6/4にぶい黄色砂が斑状に混ざる。
P6:2.5Y2/1黒色土、2.5Y2/3暗オリーブ褐色砂質土、2.5Y6/4にぶい黄色砂が混ざり合う。
P7:2.5Y3/2黒褐色砂質土、2.5Y6/4にぶい黄色砂がわずかに混ざる。
P8
a:2.5Y2/1黒色土と2.5Y6/4にぶい黄色砂が斑状に混ざり合う。
P9
a:2.5Y6/4にぶい黄砂に2.5Y4/2暗灰黄色砂質土が径2cmほどの斑状に混ざる。
b:2.5Y4/2暗灰黄色砂質土。
P10
a:2.5Y6/4にぶい黄色粘土と2.5Y5/3黄褐色砂がブロック状に混ざり合う。
b:aと同質だが、粘土の割合が高い。
P11
a:2.5Y4/2暗灰黄色砂質土ほぼ均質。
b:2.5Y6/4にぶい黄色砂に2.5Y4/2暗灰黄色砂質土が混ざる。

SB24

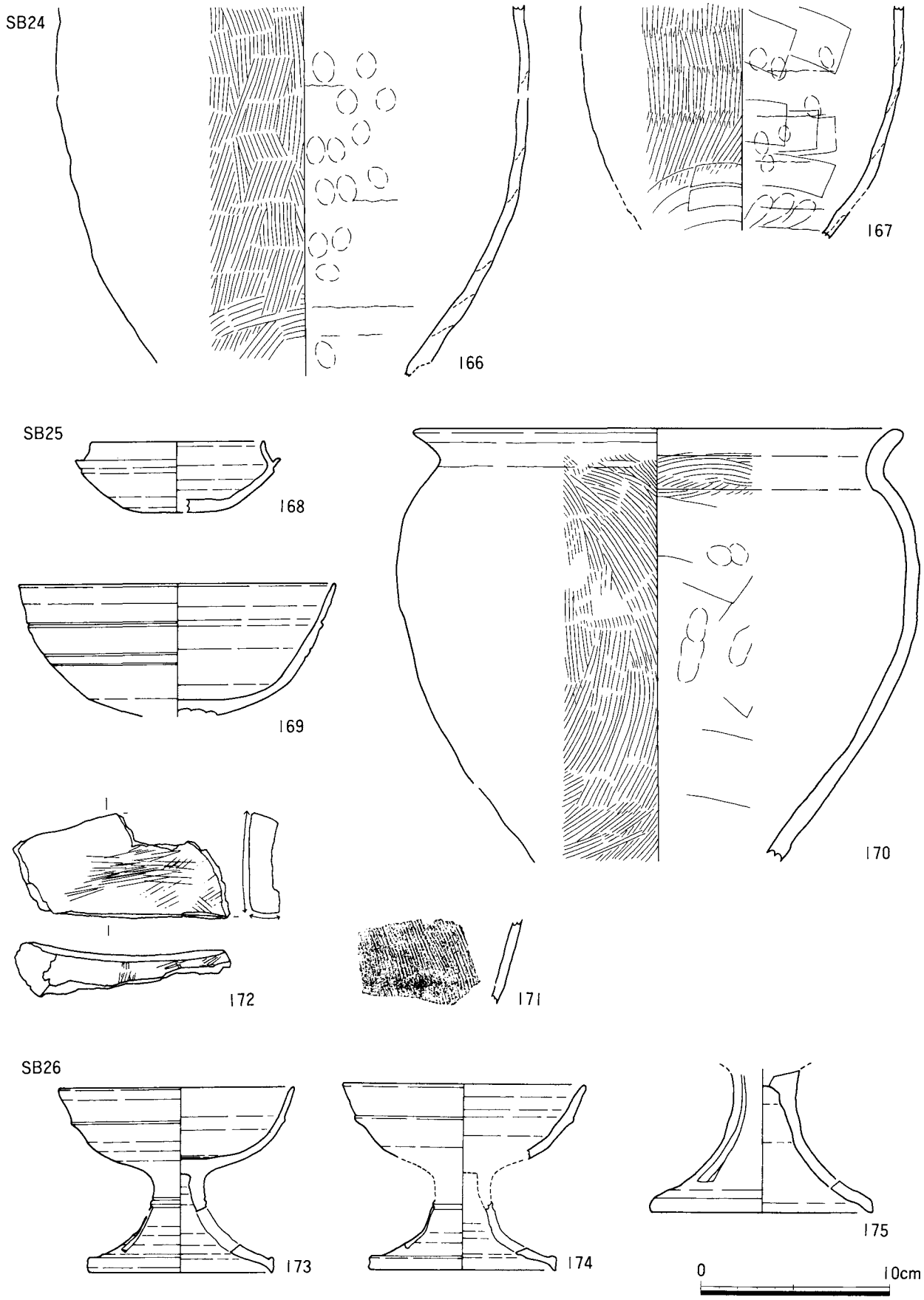
第62図　SB26 実測図・遺物出土状況



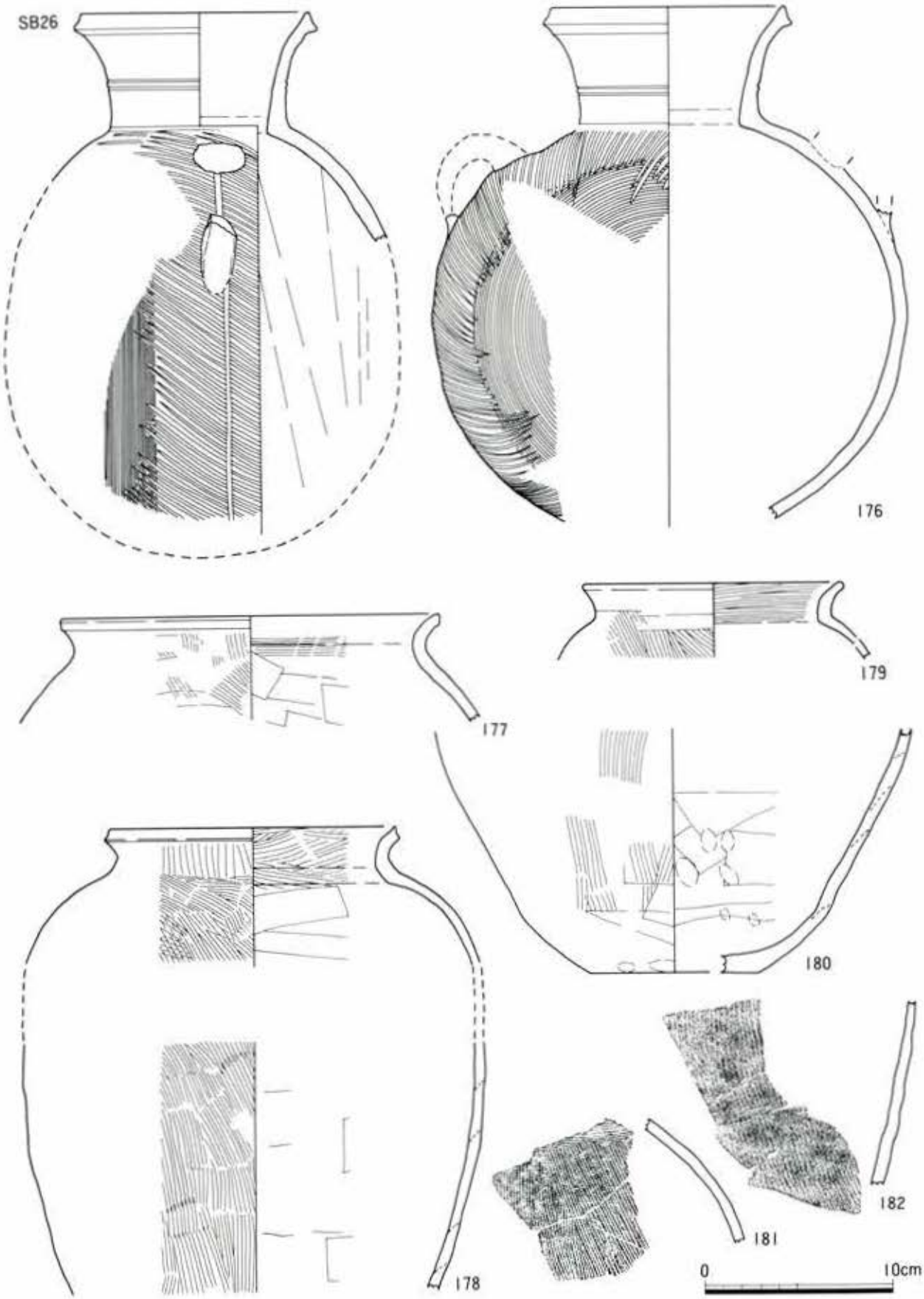
第63図　SB28，SK684 実測図・遺物出土状況



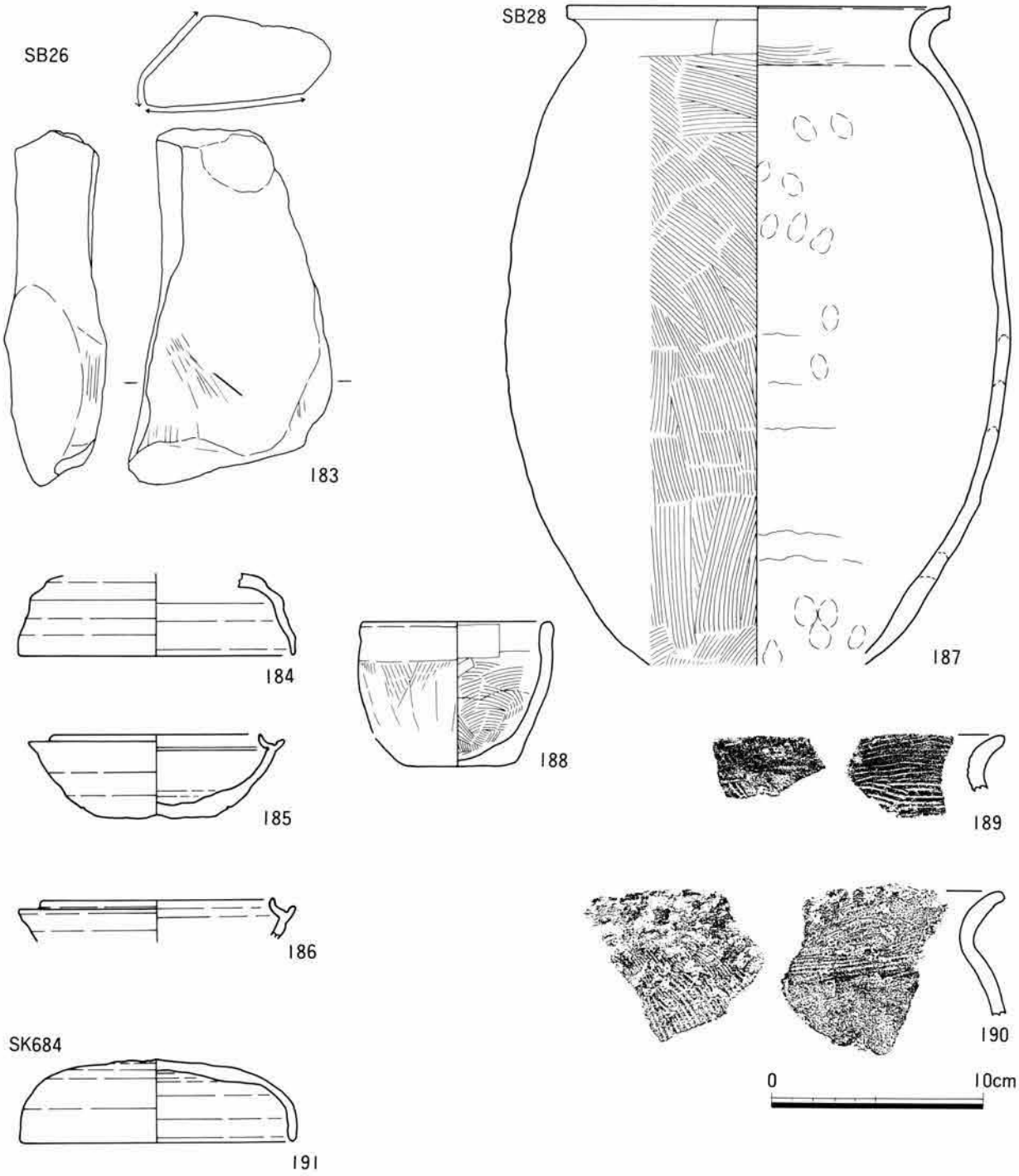
第64図　SB23・24 出土遺物



第65図　SB24～26 出土遺物



第66図　SB26 出土遺物



第67図　SB26・28，SK684 出土遺物

(8)　15期の遺構

敷石遺構と取水施設のある大溝（ＳＲ１）（第68～72図）

ＳＲ１は、Ａ区のほぼ中央あたりとＣ区の南側から検出された。幅９～10ｍ、深さ約0.5ｍの大溝で、断面形は浅いすり鉢状である。この溝から堰が２つ、取水施設が１箇所、底から敷石遺構が検出された。

敷石遺構

溝の中央部を中心に人頭大～径50㎝の川原石が大量に床面から出土した。この石は、床面直上で、石が重ならずに出土していること。石の上の高さがほぼ一定していることなどから、人為的に敷いたものと考えられ、敷石遺構とした。敷石遺構は、大溝全体で見られたが、特に堰の上流側で密にあり、堰の下流側でまばらになる様子が観察された。この遺構は、堰で水を貯めて、ある程度水深のある中で、何らかの作業を行う際の足場のようなものと考えられる。

敷石遺構で使われている石材は、木曽川で見られるものである。その中で花崗岩に、風化の激しいものが見られた。現河床から持ち込んだ花崗岩では、ここまで風化が進行しないと考えられることから、この石材は、Ｄ区のある段丘との境の段丘崖に路頭している段丘礫層から抜き取られ、持ち込まれたものと考えられる[1]。

ＳＲ１の真下には、自然流路ＮＲ１がある（第70図）。ＮＲ１の上層では、５～14期の遺物が見られることから、ＳＲ１は自然流路（ＮＲ１）をそのまま利用してつくられたものと考えられる。ただし、検出した下流部では、両者が若干ずれて、ＮＲ１がやや南側にずれる。そのため、ＳＲ１の下流部の南側の遺構検出面は地山でなく、黒褐色土上となる。この黒褐色土や、ＳＲ１の埋土の土層は、ブロック状の混ざりが観察され、人為的な盛り土である可能性が高い。

堰１

ＳＲ１のほぼ中央あたりの３Ｄ、Ｅ区から検出された。川原石を上下に２重にし、２列の石組みで、幅約1.2ｍ、長さ約６ｍの帯状に、ＳＲ１を横断するように造られている。堰の平面形は、中心が下流に下がったＶ字型になっている。

断面形を見ると、Ｃ―Ｃ'の断面で川原石の真下に垂直に土層が切られるのが観察された。同じ土層の切れは他の断面では確認できず、この部分の平面形もはっきり確認できなかったが、水を堰き止める際に、木の板等を川原石の下に渡していた可能性がある。

堰２

堰１のおよそ11ｍ下流から検出された。やや大きめの川原石を幅0.6ｍ、長さ6.5ｍにわたって１列に直線状に並べている。堰１と比べて構造が簡単で、一部抜けている石もある。

取水施設

堰１の約５ｍ上流の南側から検出された。取り入れ口は２箇所あるが、上流側のものが下流のものよりも古く、付け替えが行われたものと考えられる。

上流側の取水口の奥からは、幅１～２ｍ、長さ７ｍの細長い土坑状の遺構が検出された。一部溝が切り合うのではっきりしない部分があるが、この遺構からさらに他の場所に水を流した跡は確認できなかった。

下流側の取水口からは、幅約0.5ｍの溝が下流方向に流れており、上流側の取水口からの土坑を切

っている。この溝は下流に行くと２本になる（ＳＷ１-Ｓ、ＳＷ１-Ｎ)。１本から２本に変わる部分は、黒褐色土上に掘り込まれていたが、調査時にその認識がなかったため検出できなかった。この２本の溝の埋土中の砂は、流水による堆積と考えられる。

遺　物

第72図に溝の底から、ほぼ完形な状態で出土した遺物の出土位置を示した。破片の状態のものは、大量に溝の底や埋土から出土している。

出土したものは、第３～５段階の山茶碗で、特に第５段階のものが多い。

取水口のある前で小碗が大量に出土していることがわかる。また、同じ部分から山茶碗の子持ち器台（207）も出土している。そのため、取水口付近で何らかの祭祀が行われていた可能性がある。

埋　土

ＳＲ１の埋土はしまりがあり、硬い。また、全体的に均質であるが部分的にブロック状の混ざり土がある。そのため、ＳＲ１は人為的に埋められた可能性がある。この埋土から出土する遺物は、第３～５段階の山茶碗で、新しい遺物は１点も見つからなかった。

第70図のＢ－Ｂ'、Ｃ－Ｃ'の土層では、ＳＲ１の埋土の直上には水平な土層が続いており、褐鉄鉱の含まれる層も見られ、水田土壌に様相が似ていることが観察された。そこで、水田の有無を確認するため、Ｃ－Ｃ'のｂ～ｅ層でプラント・オパール分析を行い、大量なイネのプラントオパールがどの層にも含まれることが確認された（第５章第３節)。

これらのことから、ＳＲ１は15期内で、造られ、廃棄されたものと思われる。さらに、廃棄が水田開発のために行われた可能性がある。

1）岐阜県博物館　鹿野勘次氏ご教示による。

Ｄ区ＳＤ５（第73図）

Ｄ区の東側で検出された。幅約0.7ｍ、検出面からの深さ約0.5ｍの溝で、断面形はほぼ方形である。調査区の北東端から段丘崖にほぼ平行に、東南東―西北西にのび、途中で南南西方向に直角に曲がる。

溝の内部のつくりがきれいで、途中で直角に曲がることなどから、屋敷の区画溝の可能性が高い。

直角に曲がる角でＳＤ８とつながり、ＳＤ８はそのまままっすぐに西北西にのびている。さらに、北側には、ＳＤ５・８と平行にＳＤ６がのびる。そのため、ＳＤ５・６・８は、何らかの関連があると思われる。

遺物は、ほとんど出土していないが、第３～５型式の山茶碗片が出土している。

Ｄ区ＳＤ６（第73図）

Ｄ区の東側で検出された。幅約1.3ｍ、検出面からの深さ約0.2ｍで、断面形は逆三角形～底の角が丸い逆台形をしている。底には部分的に小さいピットがある。ＳＤ５・８の北側で検出され、これらの溝とほぼ平行に東南東―西北西にのびる。遺物はほとんど出土しておらず、わずかに第７～11期の山茶碗の破片が出土しているが、攪乱から混ざり込んだ可能性が高い。ＳＤ５・８との関連性が考えられることから15期のものと思われる。

D区ＳＤ８（第73図）

Ｄ区の東側で検出された。幅約0.6m、検出面からの深さ約0.2mで、断面形は底の角が丸い逆台形をしている。ちょうどＳＤ５が、直角に曲がる角から始まり、ＳＤ５と一直線で西北西にのびる。途中、自然流路や、攪乱で溝が消える部分があるが、同じ線上で続きが確認されている。遺物はほとんど出土していないため、遺物からの時期の推定はできないが、ＳＤ５と関連する遺構と考えられ、15期のものと思われる。

D区Ｐ88（第73図）

Ｄ区の東側のＳＤ５の南東側で検出された。0.5m×0.3mの楕円形で、深さ約0.2mである。中から山茶碗片や美濃須衛産広口壺がまとまって出土した。出土した山茶碗（214、215）は２個体で、どれも第５型式に比定される。出土遺物から15期と考えられる。

ＳＵ２（第73図）

Ｂ区のほぼ中央あたりの６Ｉ区で検出された。ちょうど自然流路ＮＲ２の直上にあり、黒褐色土を掘り下げている途中で、完形の鉢が径10～20cmの礫と一緒に出土した。鉢は横向きの状態で出土し、中には土以外に何も入っていなかった。礫は明らかに人為的に置かれたもので、鉢とあわせて三角形を作るような形で検出された。黒褐色土中だったため、土抗などの掘込みの跡は確認できなかったが、上から土抗が掘り込まれて、底に置かれたものである可能性が高いと思われる。鉢は三口鉢（217）で、その形状と胎土等から美濃須衛産と思われる。時期は15期と考えられる。

(9)　16期の遺構

ＳＨ１（第75図）

Ｂ区の西側の11・12Ｋ・Ｌから検出された。長径0.8m、短径0.5mの楕円形のピットが南北方向に三列並ぶ。列の方向は、Ｎ－20°－Ｅである。列の間隔はそれぞれ約３mである。東西方向には、ピットの間隔は3.5～２mとばらつきがある。ちょうど掘立建物の中に入る位置にＳＸ１がある。そのため、ＳＨ１内にＳＸ１があった可能性がある。ＳＨ１の南側は、東側に１列柱穴が検出された。そのため、建物がＬ字状に建てられていた可能性がある。ピット内から出土した土器から16期と考えられる。

ＳＨ２（第75図）

Ｂ区の西端の14Ｏから検出された。ピットが集中して検出された場所で、直径約0.5mで深さが0.5mを越える深いピットが、１間×２間で並んでいる。南北の間隔は、およそ2.5m、東西の間隔は、およそ1.8mである。ピット内から出土した土器から16期と考えられる。

ＳＨ３（第75図）

ＳＨ２の内側から検出された。細長く掘られたピットが１間×１間で並んでいる。南北の間隔は、およそ2.5m、東西の間隔は、およそ1.8mである。ちょうど調査区の端なので、西南側に柱列が伸びる可能性がある。ピット内から出土した土器から16期と考えられる。

Ｄ区ＳＨ１（第76図）

Ｄ区の西側の18・19W・Ｘで検出された。浅いすり鉢状のピットが、１間×５間で並ぶ。ピットの中には拳大の礫がびっしりとつまっている。ただ、ピットが浅く、柱の立った痕跡が確認されていないので掘立建物の柱穴でない可能性もある。ピット内から出土した土器から16期と考えられるが、この遺構の下から15～16期と考えられる溝ＳＤ18・20が検出されているので、17期になる可能性もある。

ＳＡ１（第77図）

ＳＨ１の東隣で検出された。南北方向にＳＨ１とほぼ平行にピットが並ぶ。

ＳＡ２（第77図）

ＳＨ１のすぐ北から検出された。南北方向にピットが並ぶ。その方向はＳＨ１とほぼ同じである。

ＳＡ３（第77図）

ＳＨ１の北から検出された。東西方向にピットが並ぶ。その方向はＳＨ１とほぼ同じである。

ＳＡ４（第77図）

ＳＨ１の西側から検出された。南北方向にピットが並ぶ。その方向はＳＨ１とほぼ同じである。

ＳＡ５（第77図）

ＳＡ４の西隣から検出された。方向もＳＡ４とほぼ同じである。３つのピットともちょうどＳＤ19の溝の東方に位置しており、ＳＤ19に伴うものである可能性もある。

ＳＡ６（第77図）

ＳＡ３、４の西側で検出された。東西方向にピットが並ぶ。ＳＨ１やＳＡ１～５とは並ぶ軸がずれている。

ＳＡ７（第75図）

ＳＨ２、３の西側で検出された。ＳＡ８が0.6ｍの間隔をおいて同じ方向で並ぶ。列の方向はＥ－16°－Ｓである。ピットの深さは0.2～0.3ｍと浅いものと、0.6ｍほどの深いものとがある。

ＳＡ８（第75図）

ＳＨ２、３の西側で検出された。ＳＡ７がすぐ北側で0.6ｍの間隔をおいて同じ方向で並ぶ。ピットの深さは0.2～0.3ｍと浅い。

ＳＡ９（第13、77図）

Ｃ区の北側の４、５Ｉ区から検出された。方向はＥ－５°－Ｓで、ほぼ東西である。径が0.3ｍほどのピットで、約2.7ｍの間隔で並ぶ。

ＳＡ10（第15、77図）

Ｃ区のほぼ中央の５・６Ｇ・Ｈから検出された。方向は、Ｎ－53°－Ｅである。径0.3ｍのピットが、1.7～2.4ｍの間隔で並ぶ。

ＳＡ11（第77図）

Ａ区の北側の３Ｇ区から検出された。方向は、Ｅ－13°－Ｓである。径0.3ｍのピットが2.3～3.2ｍの間隔で並ぶ。西端のピットから、第７型式（明和）の山茶碗（218）が出土している。

ＳＤ１（第78図）

Ａ区の南側から検出された。東西に走る溝で、西側で直角に曲がり南下する。溝の断面形は途中に段のあるＶ字状である。この溝のみ黒褐色土中から検出された。毎度も同じ黒褐色土だがプランがはっきり確認できた。遺物は、第７～11型式の山茶碗が出土しており、それよりも新しい時代の遺物はない。

ＳＤ３（第78図）

Ａ区の南側から検出された。東西に走る溝で、西側は地山面が下がるため消失する。溝の断面形はＵ字状である。遺物は、第７～11型式の山茶碗が出土している。

ＳＤ４（第78図）

Ａ区の南側から検出された。東西に走る溝で、西側は地山面が下がるため消失する。溝の断面の土層から、この溝は少なくとも３回造り替えられていると考えられる。遺物は、第７～11型式の山茶碗が出土している。

ＳＤ５・ＳＤ６（第78図）

Ａ・Ｂ・Ｃ区のほぼ中央を東西に横切る形で検出された。ＳＤ５とＳＤ６は、間隔が約３ｍでほぼ平行に並んでいる。そのため、道路の側溝の用途が考えられる。ただし、２本の溝が平行に並んであること以外に、この遺構が道路であることを肯定する事実は見つかっていない。２本とも溝の断面形はＶ字状で、溝の底は平坦でなく、小さなピットが所々に存在する。遺物は、第７～11型式の山茶碗が出土している。

ＳＤ７（第78図）

Ａ区の南側から検出された。東西に走る溝で、西側は地山面が下がるため上部が消失する。溝の断面形は浅いすり鉢状である。溝の底は一面褐鉄鉱に覆われており、かなり堅い。また、溝の底には流水により流されてきた砂が残っている。これらのことから、この溝はかなりの量の水が流れていたと考えられる。遺物は、第７～11型式の山茶碗が出土している。

ＳＤ８（第78図）

Ａ区の南側から検出された。東西に走る溝で、西側は地山面が下がるため上部が消失する。検出面上で、幅約0.3m、深さ約0.1mの小規模なものである。埋土に流水により流されてきた砂が少し残っている。遺物は、第７～11型式の山茶碗が出土している。

ＳＤ９（第78図）

Ａ区の南端から検出された。東西に走る溝で、西側は地山面が下がるため上部が消失する。溝の南側の肩は調査区外にあり、全体の幅は不明であるが、検出した部分だけで３m以上の幅があり、大規模なものである。溝の底にわずかながら褐鉄鉱の層があり、堅い。このことから、この溝に水が流れていた可能性が高い。

ＳＤ13（第79図）

Ｂ区の中央部で検出された。段丘崖から南下する幅約0.6m、深さ約0.3mの溝である。検出時にこの溝の南端には、径10～20cmの円礫がびっしりと詰まっていた。円礫の間や埋土から、第10～11型式の山茶碗や古瀬戸天目茶碗や緑釉古皿が出土している。また、海産の巻貝の一種であるアカニシ *Rapana venosa*（Valeciennes）も出土した。

ＳＤ14・19（第79図）

Ｂ区の西側から検出された。段丘崖から平行に南下する。間隔は約２mである。ＳＤ５・６と同じように道路の側溝の用途が考えられる。溝の断面形は二つともすり鉢状である。遺物は第11型式の山茶碗、土師質皿、古瀬戸擂鉢、常滑甕等が出土している。

ＳＤ15（第79図）

Ｂ区の中央部で検出された。段丘崖から南下する幅約0.3m、深さ約0.1mの溝である。断面を観察すると１回造り替えられている。遺物は、第７～11型式の山茶碗が出土している。

ＳＤ16（第79図）

Ｂ区の中央部で検出された。段丘崖から南下する幅約１m、深さ約0.8mの溝である。断面形は、逆台形である。埋土の真ん中あたりから人頭大の円礫や、遺物が大量に出土している。遺物は第９～11型式の山茶碗、片口鉢、古瀬戸の皿や鉢、常滑甕等で、青磁の碗も出土している。渡来銭も１枚出土している。また、海産の巻貝の一種であるアカニシ *Rapana venosa*（Valeciennes）も出土した。

ＳＤ17（第79図）

Ｂ区の中央部で検出された。段丘崖から東よりに南下する幅約２m、深さ約0.8mの溝である。断面形は、片側が急に深くなり、反対側は緩やかに立ち上がる形となっている。溝の途中が近現代の暗渠によって攪乱されているが、途中でＳＤ20とつながっている。埋土中から遺物が大量に出土している。遺物は第８～11型式の山茶碗と小皿、古瀬戸の皿や擂鉢、ろくろ土師質皿、土師質皿、打欠円盤

等が出土している。また、溝の底から、渡来銭が６枚出土している（第88図）。

ＳＤ18（第11、12図）

Ｂ区の中央部で検出された。ＳＤ13の東側に位置する。段丘崖から南下する幅約0.4ｍ、深さ約0.2ｍの溝である。断面形は、逆台形である。遺物は、第11型式の山茶碗、古瀬戸擂鉢、釜が出土している。

ＳＤ20（第79図）

Ｂ区の中央部で検出された。段丘崖から南下する幅約１ｍ、深さ約0.5ｍの溝である。断面形は、すり鉢形である。途中でＳＤ17とつながる。遺物は、第11型式の山茶碗のほか、古瀬戸擂鉢、青磁碗が出土している。古瀬戸擂鉢はＳＤ17から、青磁碗はＳＤ16から出土した破片とそれぞれ接合した。

ＳＤ21（第79図）

Ｂ区の西端で検出された。幅0.4ｍ、深さ約0.2ｍの小さな溝で、ＳＤ19に直角に接し、西側にのびている。遺物は山茶碗片が出土しており、ＳＤ19と関連がある溝と考えられる。

Ｄ区ＳＤ１（第73図）

南東部で検出された。東西にのびる溝で、Ｄ区ＳＤ２を切る。幅1.5ｍ、深さ0.3ｍの浅い溝である。遺物は中濃または東濃産の甕と常滑甕が出土している。

Ｄ区ＳＤ２・Ｄ区ＳＤ３（第73図）

南東部で検出された。東西にのびる溝で、Ｄ区ＳＤ１を切る。この２つの溝は２ｍの間隔で平行に走っており、ＳＤ５・６、ＳＤ14・19と同じように道路の側溝の用途が考えられる。遺物はＤ区ＳＤ２から古瀬戸天目茶碗（268）が出土している。

Ｄ区ＳＤ15・Ｄ区ＳＤ17（第80図）

西端で検出された。南北の溝で、約２ｍの間隔で平行に走る。Ｄ区ＳＤ２・Ｄ区ＳＤ３と同じように道路の側溝の用途が考えられる。遺物は、第７～11型式の山茶碗が出土している。

ＳＸ１（第55図）

Ｂ区の西側から検出された。ＳＢ19を切っており、ＳＤ14に切られる。直径が約３ｍのほぼ円形をしており、断面形はすり鉢状である。底の面はしまっている。ＳＨ１がこの遺構を取り囲むような位置にあるため、関連性も考えられるが、不明である。関市の重竹遺跡（関市教育委員会 1984）などで報告されている、中世の「たまや」と考えられる遺構と類似している。

ＳＸ２（第59図）

Ｂ区の西側から検出された。13期の住居跡ＳＢ23を切り、16期の山茶碗第11型式期の土抗ＳＫ794

に切られる。縦約３ｍ、横約2.5ｍの隅丸方形で、底は褐鉄鉱が沈着して固い。褐鉄鉱の沈着がみられることから、水の貯水等に利用していた可能性が高い。時期は15期～16期の前期と考えられる。

ＳＸ３（第82図）

Ｃ区の北側から検出された。縦約４ｍ、横約4.7ｍの隅丸方形を呈している。断面形は浅いすり鉢状で、底には褐鉄鉱の沈着が少し見られ、しまっている。形状からＳＸ１と同じ用途に用いられたと考えられる。

Ｄ区ＳＸ１（第80図）

西側から検出された。直径約２ｍの円形で、断面形は浅いすり鉢状である。遺物は、第６～８型式の山茶碗、小皿、おろし目入りの山茶碗、美濃須恵産の四耳壺（340～345）が出土している。

Ｄ区ＳＸ２（第80図）

Ｄ区ＳＸ３の西隣で検出された。隅丸方形で、断面形もほぼ長方形である。遺物は第７型式の山茶碗と第６型式の小皿（347、348）が出土している。

Ｄ区ＳＸ３（第80図）

Ｄ区ＳＸ１とＤ区ＳＸ２の間から検出された。検出面が覆土と同じ黒褐色なため、検出が困難であった。隅丸方形で、断面形もほぼ長方形である。遺物は、砥石（360）が１点出土している。

ＳＫ794（第82図）

Ｂ区の西側から検出された。縦約1.6ｍ、横約２ｍの隅丸方形の土抗で、断面形も長方形である。中からは人頭大の石と、完形の山茶碗７点、土師質皿１点、古瀬戸擂鉢の口縁片１点、すぐ脇から古瀬戸片口小瓶（358）の破片が１点出土している。

ＳＫ1205（第82図）

Ｃ区の北側から検出された。直径約0.8ｍの円形である。遺物は第８～10型式の山茶碗や小皿（336～339）、常滑甕の破片等がまとまって出土している。

Ｄ区ＳＫ58（第８図、写真図版14）

東側で検出された。重機による攪乱の下から検出されたため、上部は破壊されている。底にはこぶし大～人頭大の円礫がびっしりと詰まっている。円礫の範囲から考えて縦約２ｍ、横約1.5ｍの方形の土抗と思われる。遺物は、６～11型式の山茶碗・古瀬戸の擂鉢・尊式花瓶・盤類等（361～383）が、円礫の間から大量に出土している。

ＳＵ４（第91図）

Ｂ区の中央部で検出された。自然流路ＮＲ２の直上に位置していたため、検出面の土と埋土が同じ

黒褐色土で、上の面では検出できなかった。山茶碗の破片とこぶし大の円礫、海産巻貝の貝殻が集中して出土している。一番下にこぶし大の円礫があり、その上に海産巻貝の貝殻が乗り、さらにその上に山茶碗の破片が大量に乗っている。円礫は表面に熱を受けた痕跡があり、ぼろぼろになっている。海産巻貝は、アカニシ *Rapana venosa*(Valeciennes)という種で、ＳＤ13、ＳＤ16で出土した貝と同じ種である。このアカニシの貝殻も熱を受けている可能性が高い。山茶碗は第８～10型式で、接合の結果、山茶碗が８点、小皿が２点あることがわかった。しかし完形で出土した394の小皿以外はすべて接合しても完形にはならなかった。394の小皿には赤色顔料が付着しており、蛍光Ｘ線分析により、ベンガラであることがわかった（第５章第６節)。この小皿は、ほぼ中央部から裏返しの状態で出土し、その上に山茶碗の破片がきれいに覆うように出土していることから、意図的に並べた可能性が高い。

この遺構は、ゴミを廃棄したピットまたは土抗の可能性が考えられる。また、何らかの祭祀の跡である可能性もある。

Ｐ325（第91図）

Ｂ区の東側から検出された。直径約0.3ｍのピットで、上部は近現代の芋穴と思われる土坑によって破壊されている。埋土から第９型式の山茶碗の破片（384）が出土している。

Ｐ357（第91図）

Ｂ区の東側から検出された。直径約0.3ｍのピットである。埋土から第８型式の山茶碗が完形で出土している。

その他の16期の遺構

検出されたピットの大部分がこの時期のものと思われる。また、方形の土坑で、縦の長さが1.5～２ｍの土坑も、15～16期のものと考えられる。15期、16期の山茶碗の底部残存率による分布状況（第92図）を見るとＢ区の西側やＣ区の北側が特に山茶碗の分布密度が高いことがわかる。この部分では、ピットが集中して検出されており、この時期の何らかの遺構の存在が考えられる。

⑽　17期の遺構

Ｄ区ＳＫ298（第５図）

西端から検出された。直径１ｍ強のほぼ円形の土坑で断面形はすり鉢状である。埋土から連房摺絵皿がほぼ完形で３点出土している（202～204)。江戸期のものと思われる。

Ｄ区ＳＤ20（第93図）

西端から検出された。細長い溝に円礫や近現代陶磁器類、瓦等がびっしりと入っていた。近現代陶磁器類は、連房擂鉢(399)、施釉土器の鍋(400)、連房縁鉢(401)等で、明治期より新しいものは見られなかった。そのため、この遺構は明治期に造られたと考えられる。この遺構やいくつかの細長い土坑は、市道の直下から検出されていることから、この市道の排水等の施設として造られたと考えられる。

その他の17期の遺構

検出された土坑のうち、縦の長さが２ｍ以上あるものは近現代の芋穴と考えられる。これらの芋穴は、大部分は長軸が南北方向に造られている。

また、直径約１ｍの円形の土坑も近現代のものと考えられる。断面形は長方形で、ちょうど円柱がきれいに入る形をした土坑である。用途としては、肥料の貯蔵等に用いたものと考えられる。

他に現代の暗渠や溝が検出されている。

⑾　自然流路

流路のうち、肩がなだらかで、底と地山の境が遷移的なものを自然流路とした。Ａ・Ｂ・Ｃ区では５つの自然流路（ＮＲ）が検出された。どれも段丘崖と木曽川と平行な東から西方向に流れている。

Ｄ区では２つの浅い谷が確認されている。２つとも段丘崖と垂直に交わり、下の段丘に流水が流れた際に下刻されてできたものと考えられる。

Ａ・Ｂ・Ｃ区の流路が直接木曽川に注ぎ込まないのは、トレンチ調査で明らかになった南側にある砂礫堆が関係していると考えられる（第３章第２節）。

出土した遺物から各自然流路の流れていた時期は次のように考えられる。

ＮＲ１

底からは１～３期の土器しか出土してなく、この時期に流れていたと考えられる。この上面の15期の大溝であるＳＲ１の底からは４～14期の遺物が出土している。このことから、１～３期に下の部分は流れており、いったん埋まった後、再び４～14期に流れていて、15期に人為的に手を加えられ、ＳＲ１ができたものと考えられる。なお、４～14期の間にも人為的に改修されている可能性があるが、その痕跡は確認できなかった。

ＮＲ２

底から４期の深鉢（403）が良好な状態で出土している。また、上面では７期の土器が良好な状態で出土している（第105図）。このことから４～７期にかけて流れていたと考えられる。

ＮＲ３

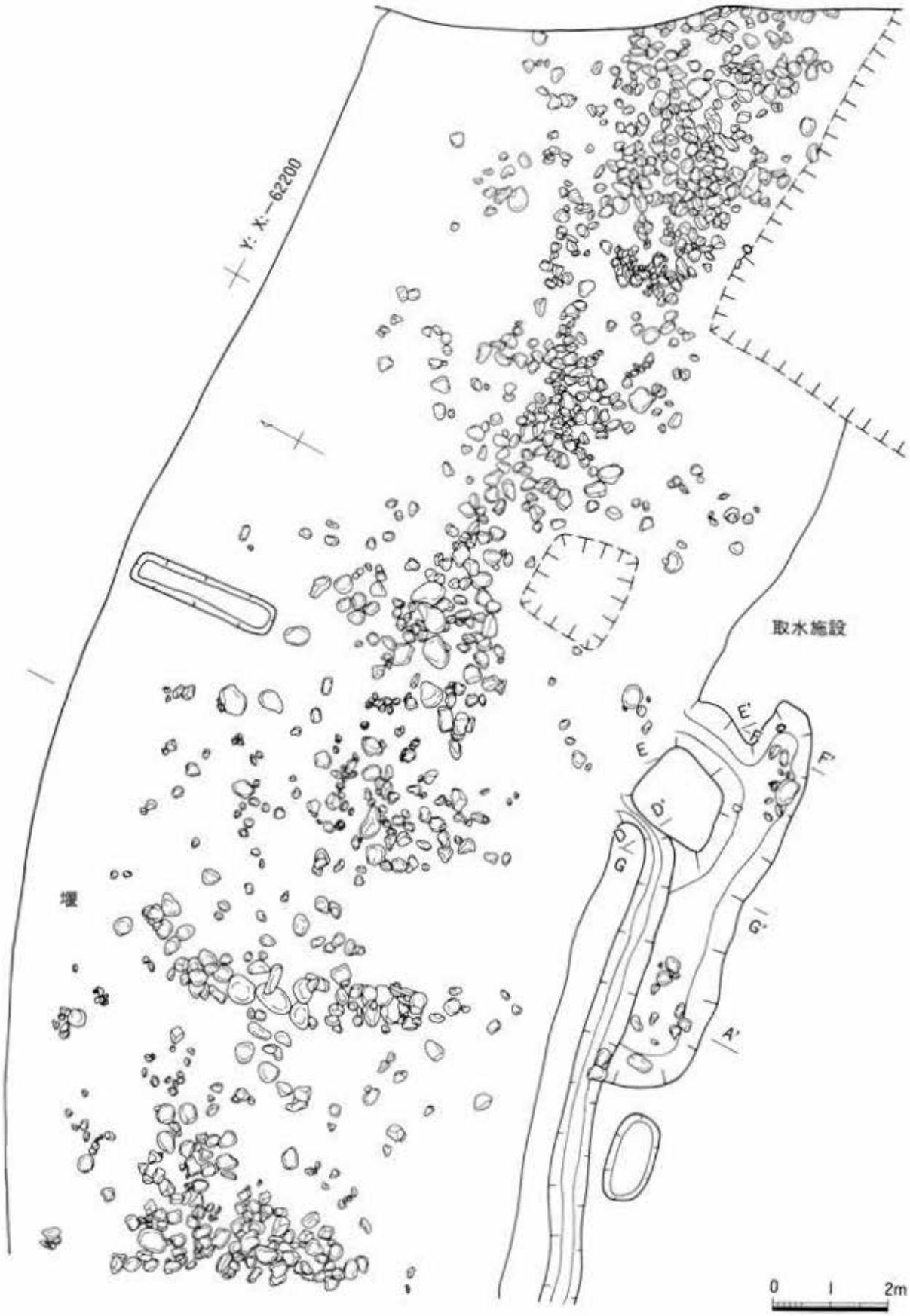
４期の土器片がわずかに出土している。他の時期の遺物は出土しておらず、この時期のものである可能性が高い。

ＮＲ４

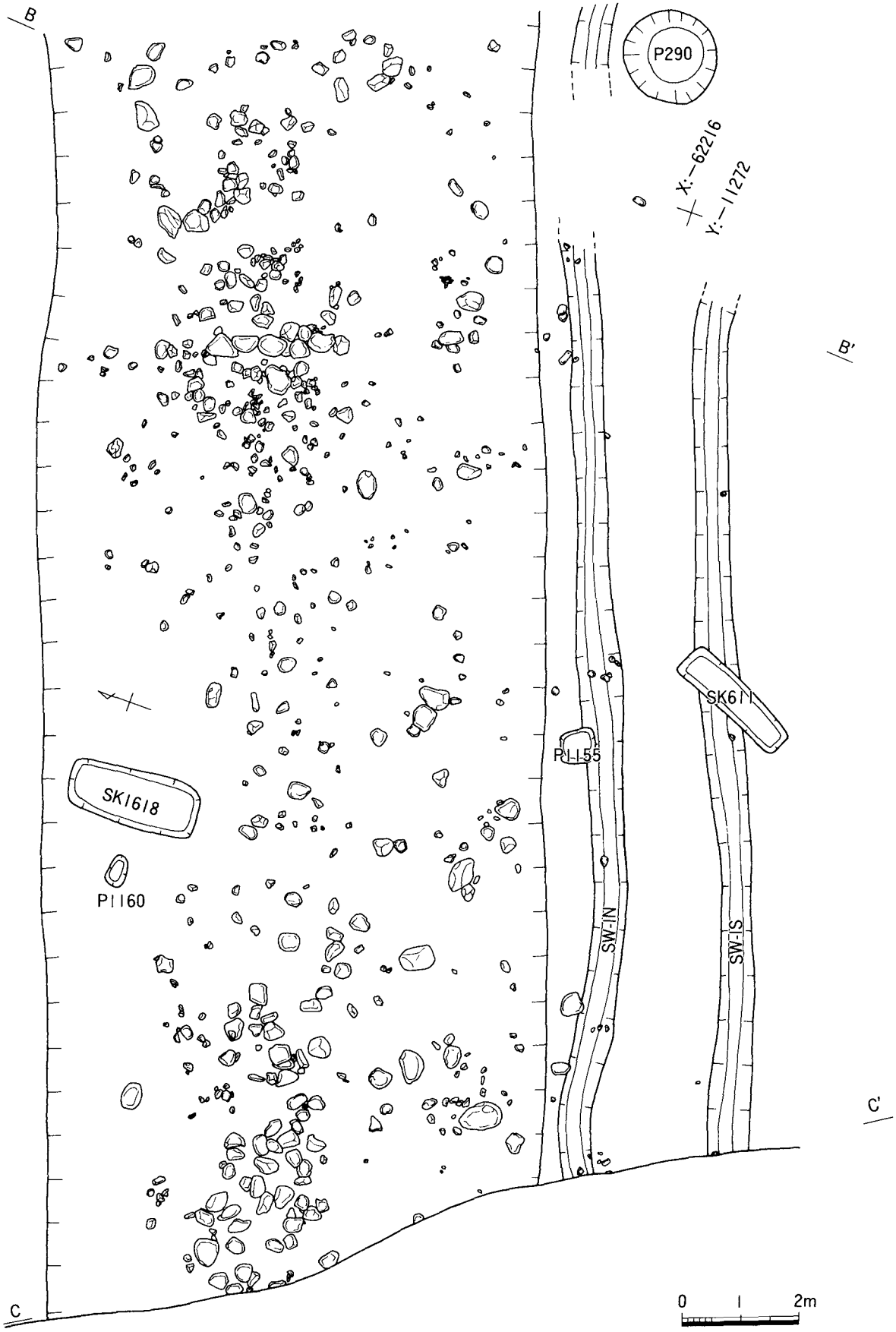
７期の土器が良好な状態で出土している（第105図）。

ＮＲ５

５期の土器（402）が良好な状態で出土している。

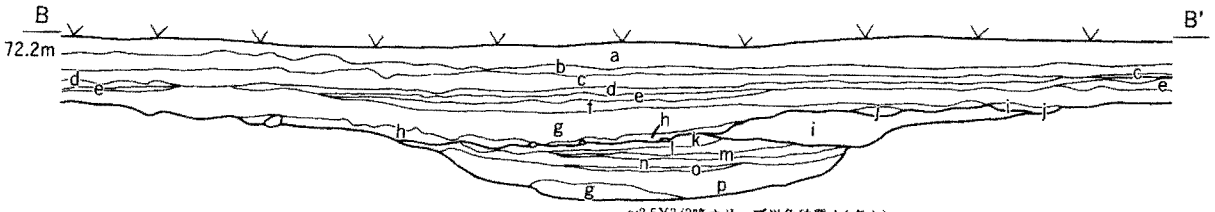


第68図　敷石遺構大溝東(1) SR1

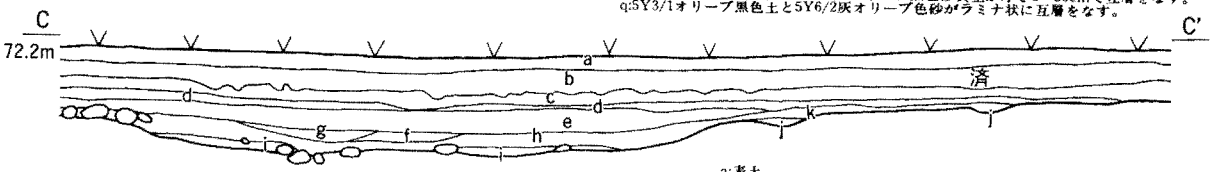


第69図　敷石遺構大溝西(2)

a:5Y3/1オリーブ黒色砂質土
b:2.5Y3/2黒褐色砂質土に、砂が30%位の割合でラミナ状に入る。
c:2.5Y3/1黒褐色土、均質。
d:bと同じだが、砂の入りかたが斑状。(攪乱的？)
e:5Y4/2砂乾くと白くなる。しまり弱い。黒褐色土がラミナ状に入る。
f:2.5Y3/1黒褐色砂質土、5Y4/2灰オリーブ色の砂が部分的にラミナ状に入る。
g:5Y3/1オリーブ黒色砂質土。
h:2.5Y3/1黒褐色砂質土
i:5Y5/2灰オリーブ色砂質土、しまり弱く乾くと白くなる。



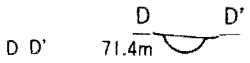
a:2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質土(表土)
b:2.5Y3/1黒褐色砂質土
c:2.5Y4/2暗灰黄色砂質土。
d:2.5Y4/1黄灰色砂質土。粘性、しまりあり。
e:2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質土。
f:2.5Y3/1黒褐色砂質土。
g:5Y3/1オリーブ黒色砂質土。均質。(敷石遺構大溝覆土)
h:2.5Y3/1黒褐色砂質土。(盛土？)
i:2.5Y5/2暗灰黄色砂中に2.5Y2/1黒色土がラミナ状に混ざる。
j:5Y5/3灰オリーブ色砂
K2.5Y4/1黄灰色砂質土。粘性あり。
l:5Y6/4オリーブ黄色砂。
m:5Y4/1灰色砂。
n:5Y5/2灰オリーブ砂
o:2.5Y3/1黒褐色砂質土。
p:5Y6/3オリーブ黄色砂と5.0Y3/1オリーブ黒色砂質土が厚さ8～20cmで互層をなす。
q:5Y3/1オリーブ黒色土と5Y6/2灰オリーブ色砂がラミナ状に互層をなす。



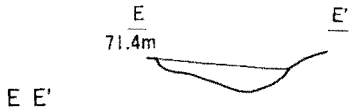
a:表土。
b:2.5Y3/1黒褐色砂質土。わずかに小石が混ざる。
c:2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質土中に細かい炭の粒が少し混ざる。
d:2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質土褐鉄鉱が混ざる。
e:2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質土。均質。砂粒子も均質。
f:2.5Y3/1黒褐色砂質土。
g:2.5Y3/1黒褐色土と2.5Y6/3にぶい黄色砂がラミナ状に混ざる。
h:10YR2/2黒褐色砂質土。わりと均質。
i:2.5Y7/2灰黄色砂。しまりなし。縄文～弥生土器石器が大量に出土。
j:2.5Y5/2暗灰黄色砂中に2.5Y2/1黒色土がラミナ状に混ざる。
k:2.5Y2/1黒色土に2.5Y5/2暗灰黄色砂がブロック状に混ざる。

取水口1　　取水口2

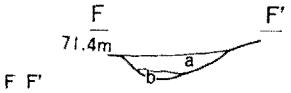
0　1　2m



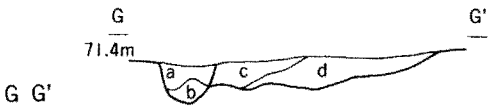
5Y3/1オリーブ黒色砂質土に砂がラミナ状に混ざる。



5Y3/1オリーブ黒色砂質土。細かなラミナ状の模様あり。



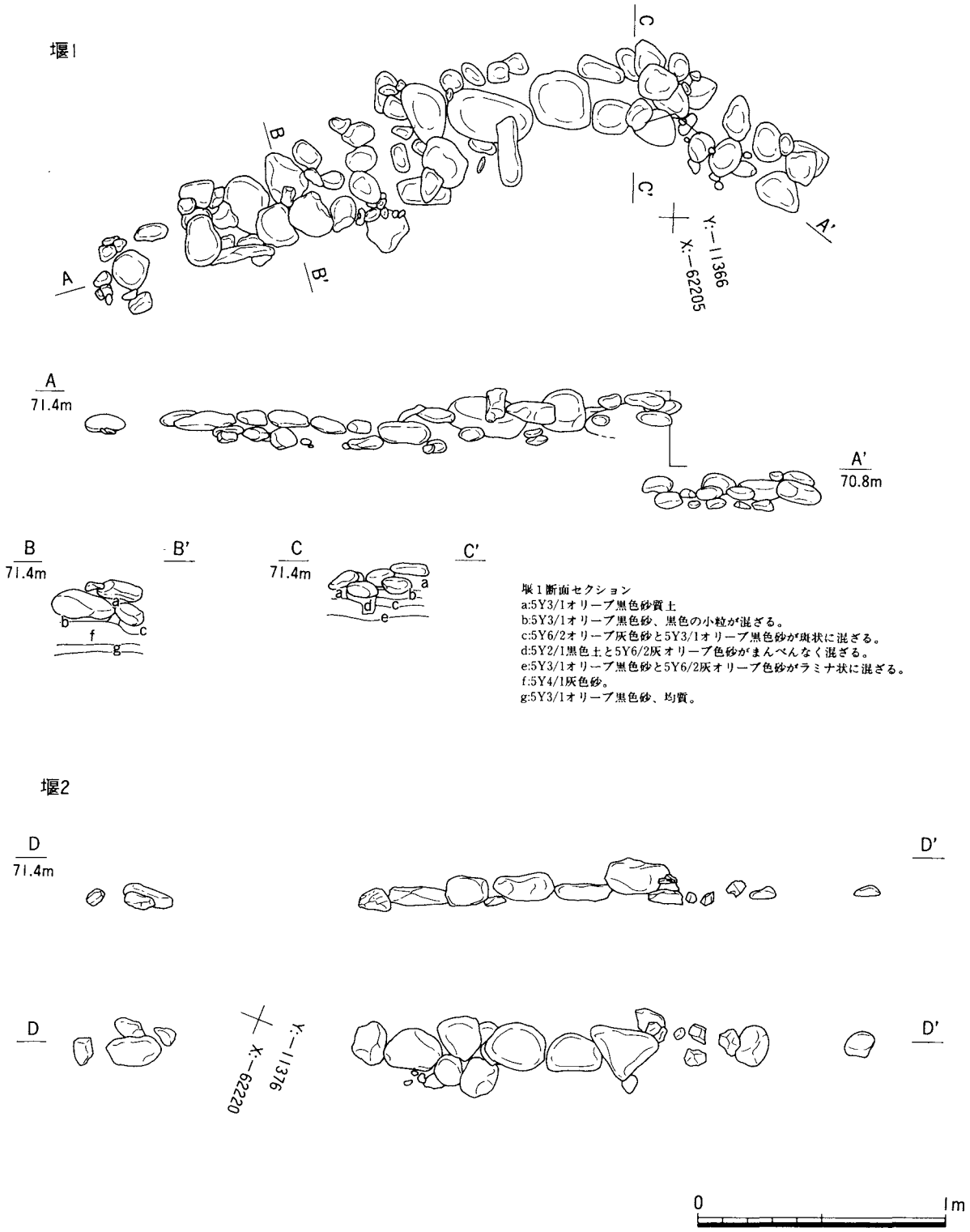
a:5Y3/1オリーブ黒色砂質土に砂がラミナ状に混ざる。
b:5Y5/2灰オリーブ色砂。



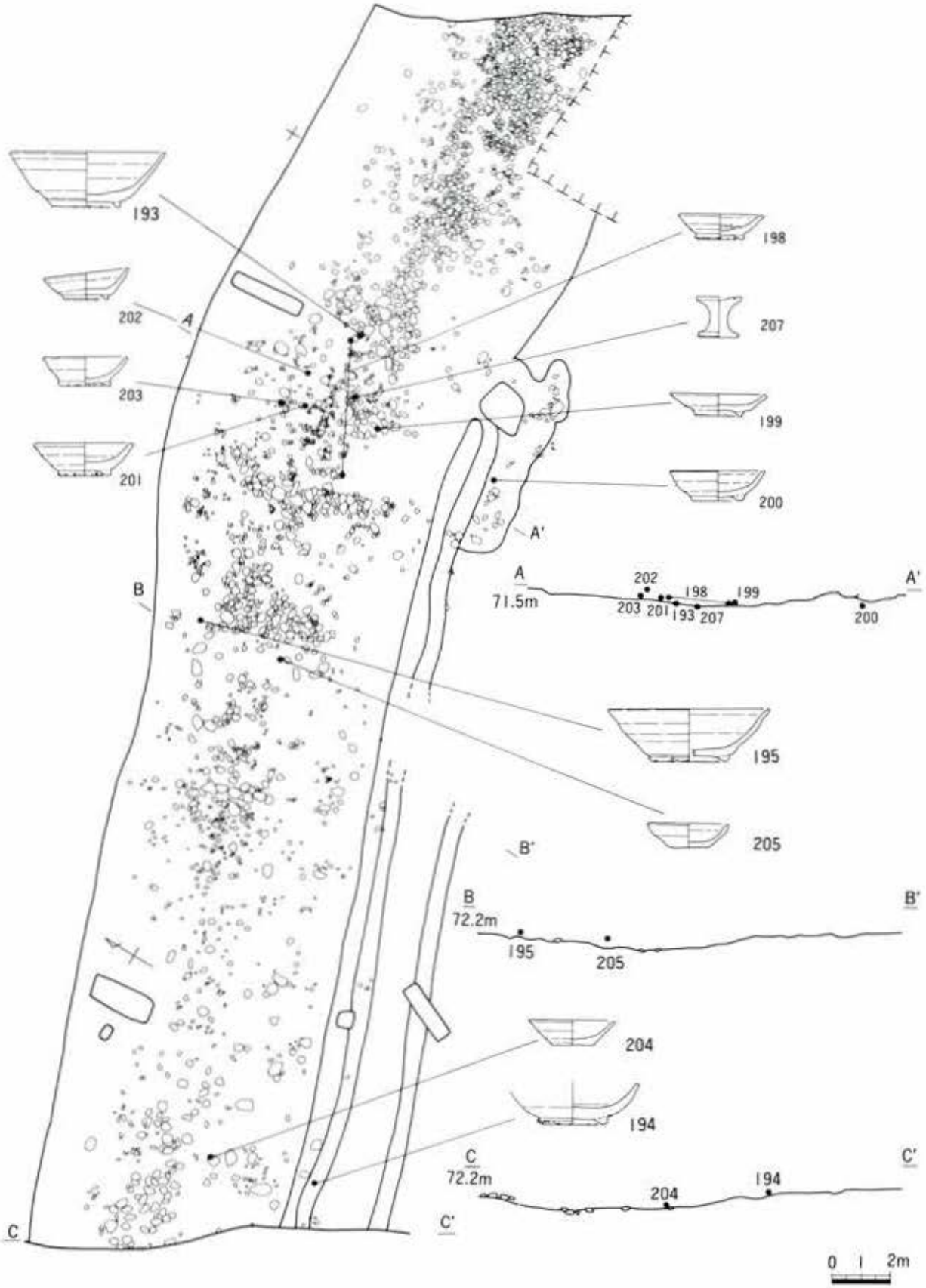
a:5Y3/1オリーブ黒色砂質土と5Y4/1灰色砂質土等が混ざる。
b:5Y3/2オリーブ黒色砂質シルト。
c:5Y3/2オリーブ黒色砂質土。径3～4cmの灰白色の斑がはいる。
d:5Y4/1灰色砂質土の中に5Y6/4オリーブ黄色砂が径2～3cmの斑となって混ざる。

0　1　2m

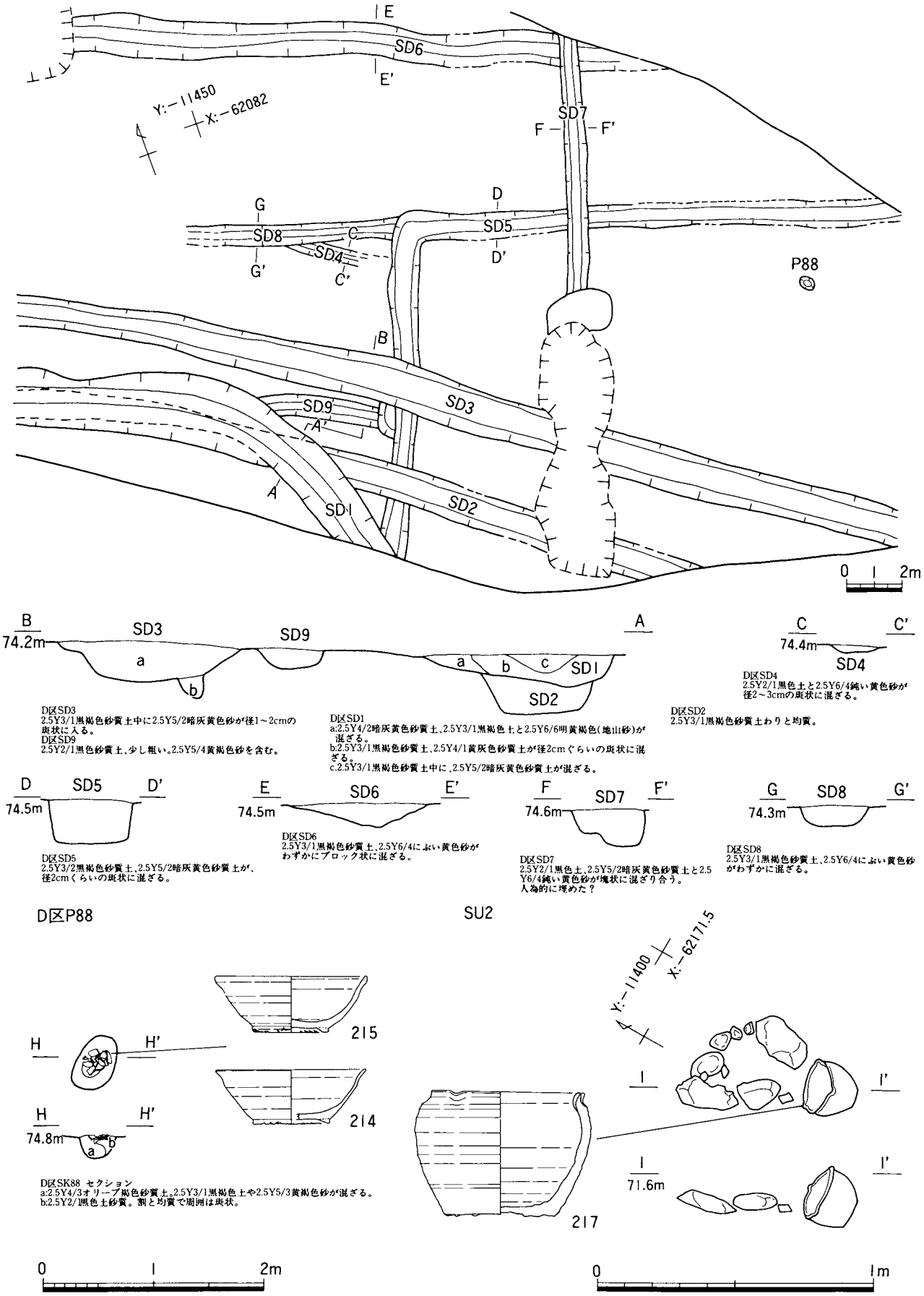
第70図　敷石遺構土層実測図



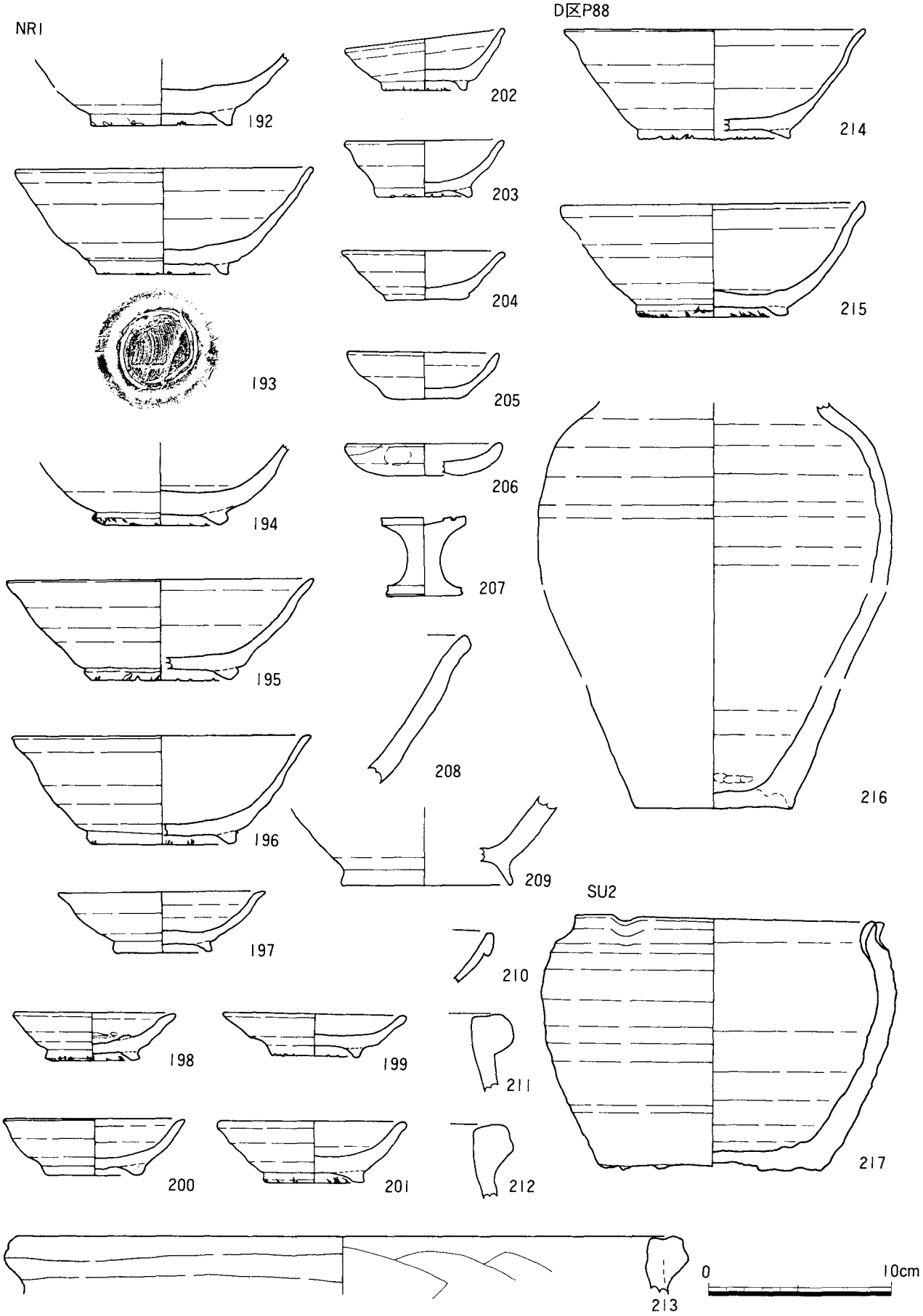
第71図　堰NR1 実測図



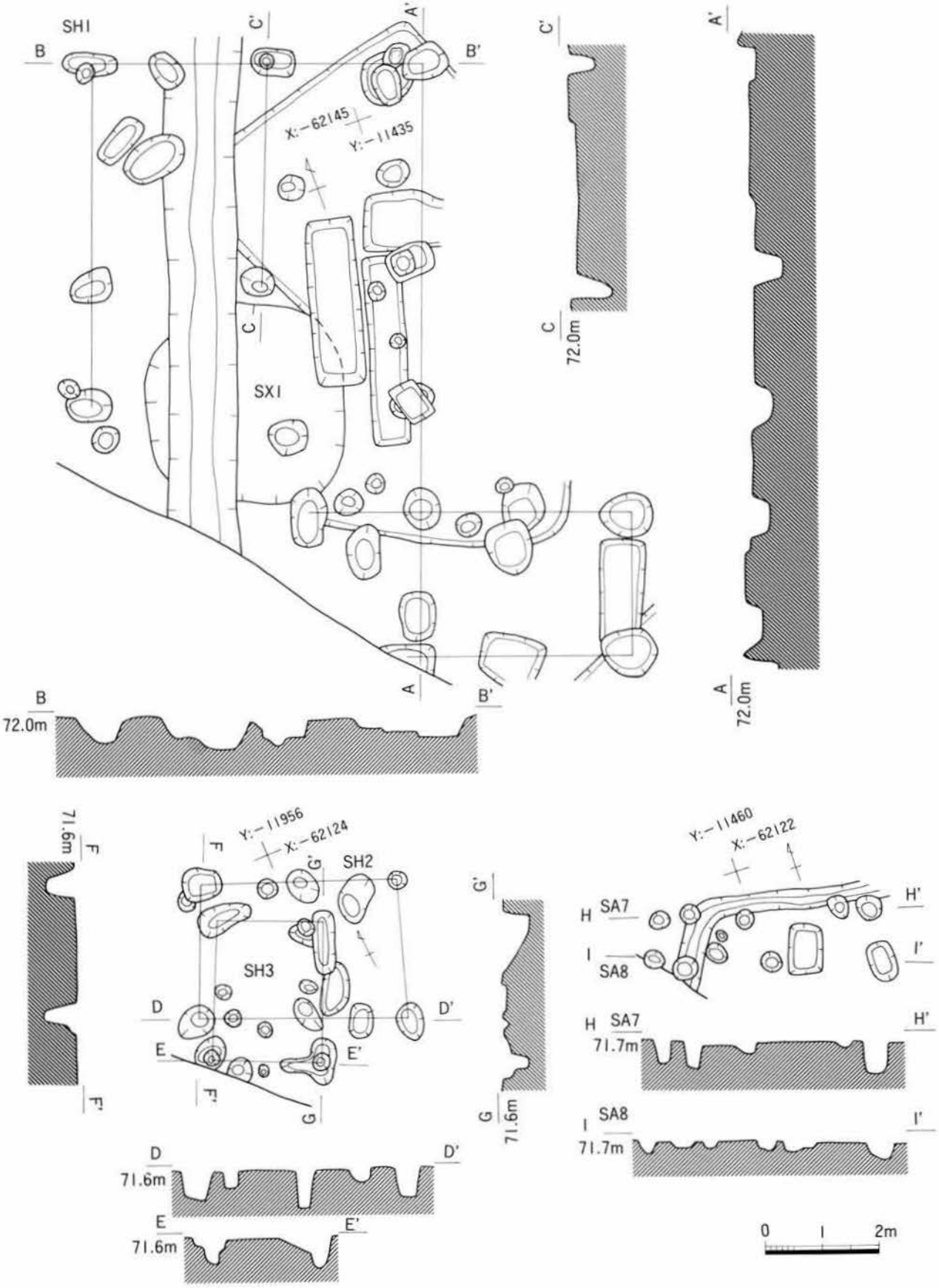
第72図　敷石遺構 遺物出土状況



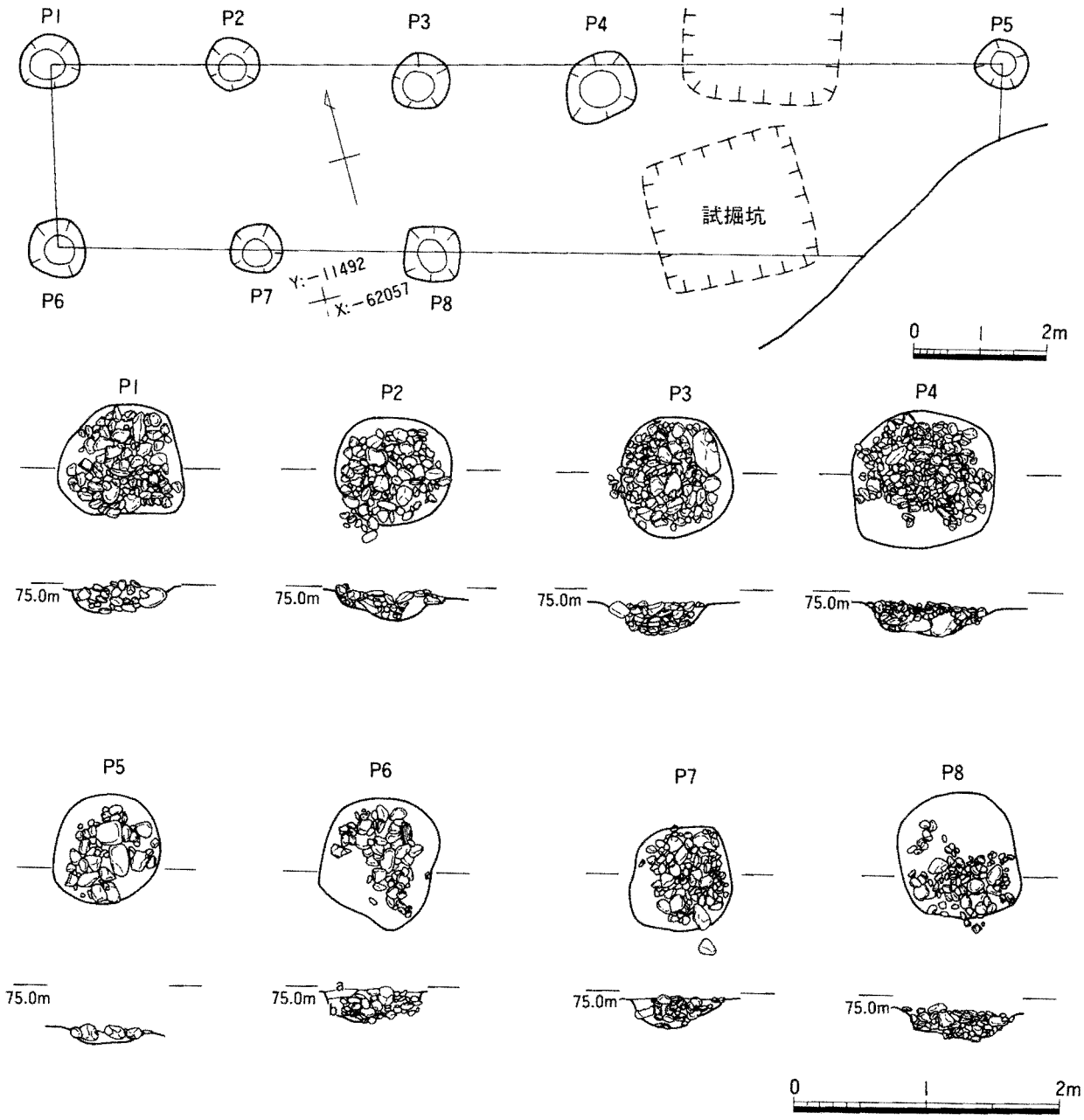
第73図　D区SD1～9、D区P88、SU2 実測図・遺物出土状況



第74図　NR1、D区P88、SU2 出土遺物

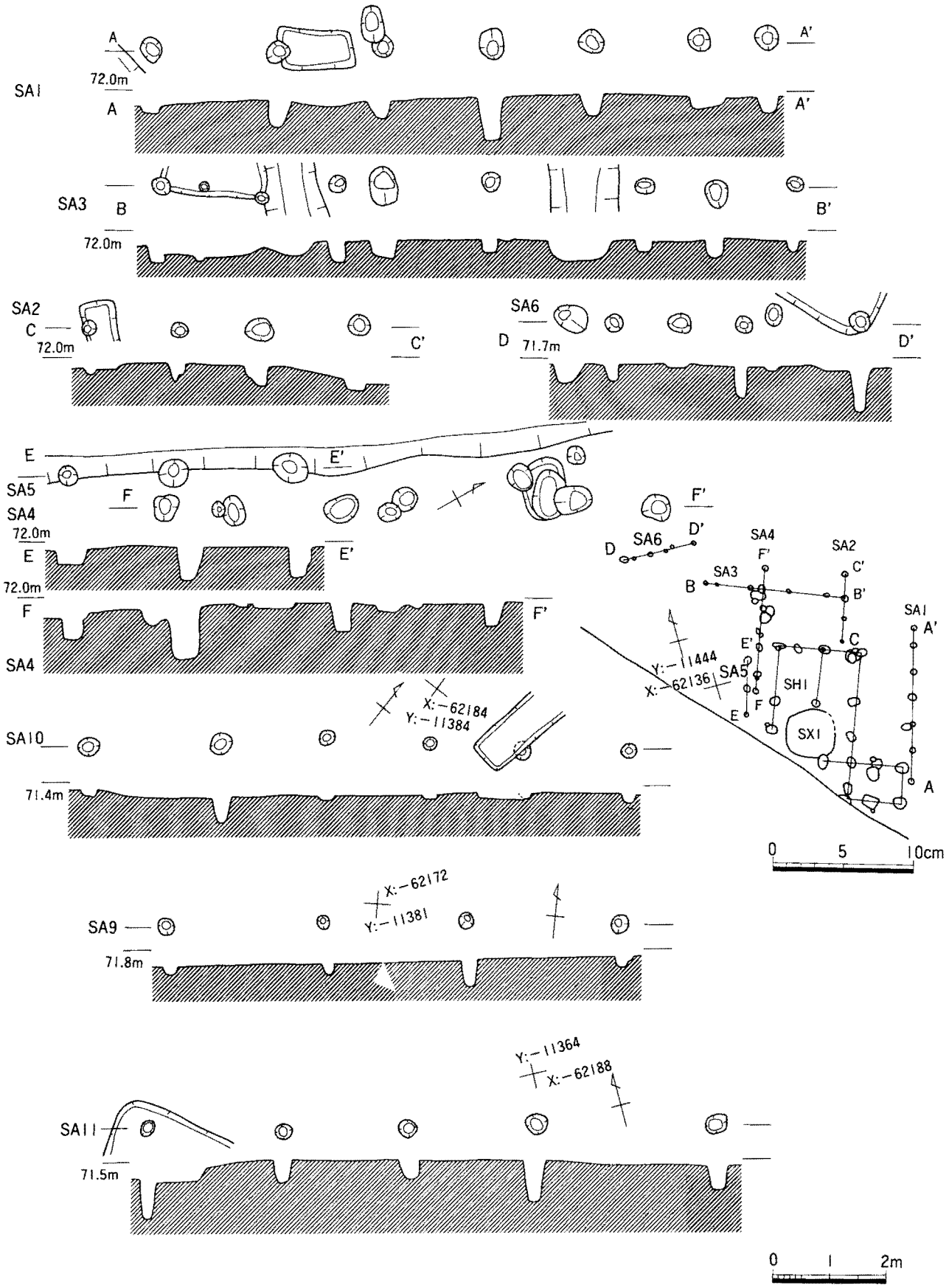


第75図　SH1～3、SA7・8 実測図

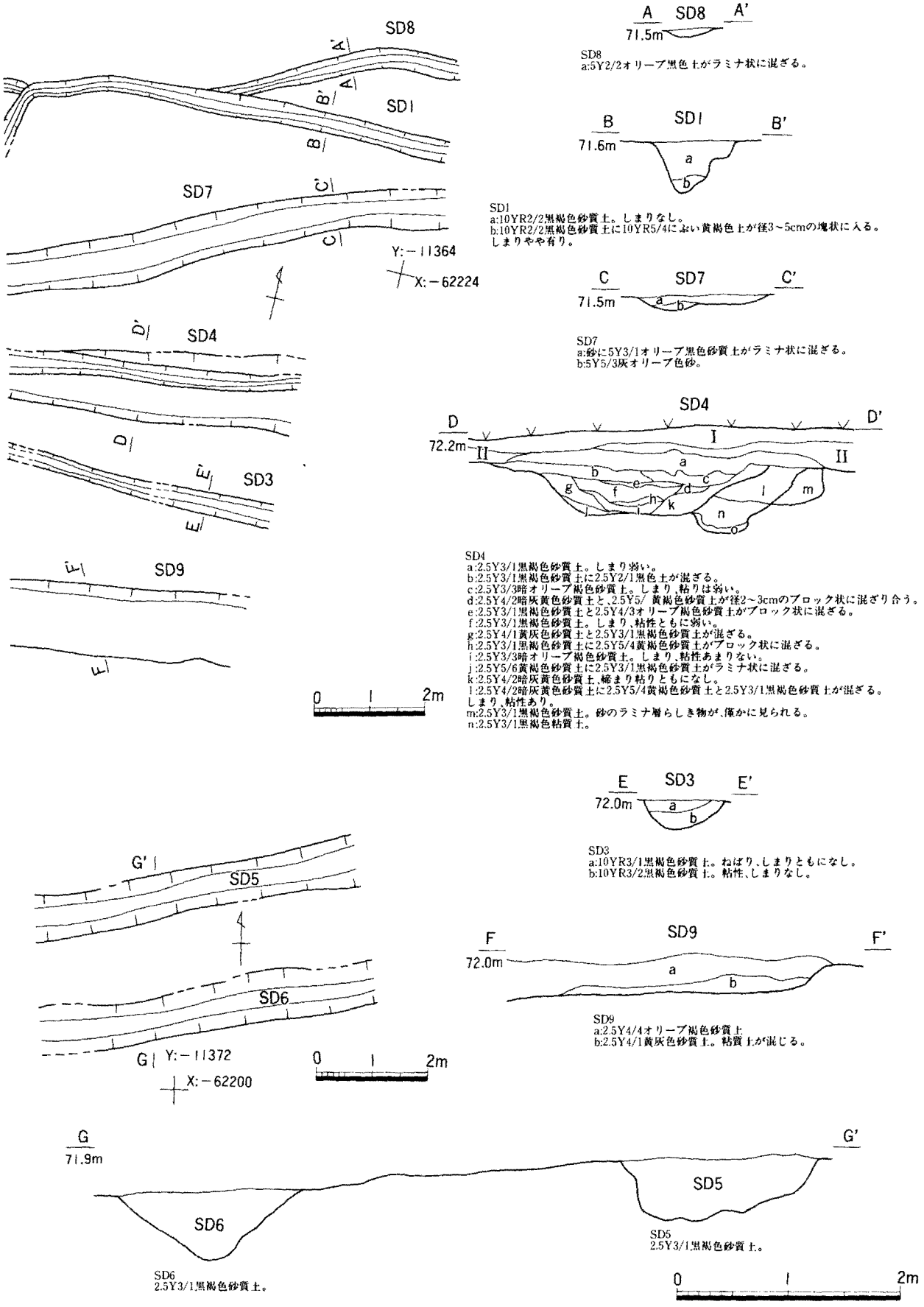


SH1 ピット セクション
P1:2.5Y3/2黒褐色砂質土。
P2:2.5Y4/2暗灰黄色砂質土。
P3:2.5Y3/2黒褐色砂質土。
P4:2.5Y3/2黒褐色砂質土。
P5:2.5Y4/2暗灰黄色砂質土。
P6
　a:2.5Y5/4黄褐色砂と一部2.5Y3/1黒褐色土が混ざる。
　b:2.5Y3/1黒褐色砂質土。
P7:2.5Y4/3暗灰黄色砂質土と5/4黄褐色土が細かい粒で混ざる。
P8:2.5Y3/2黒褐色砂質土。

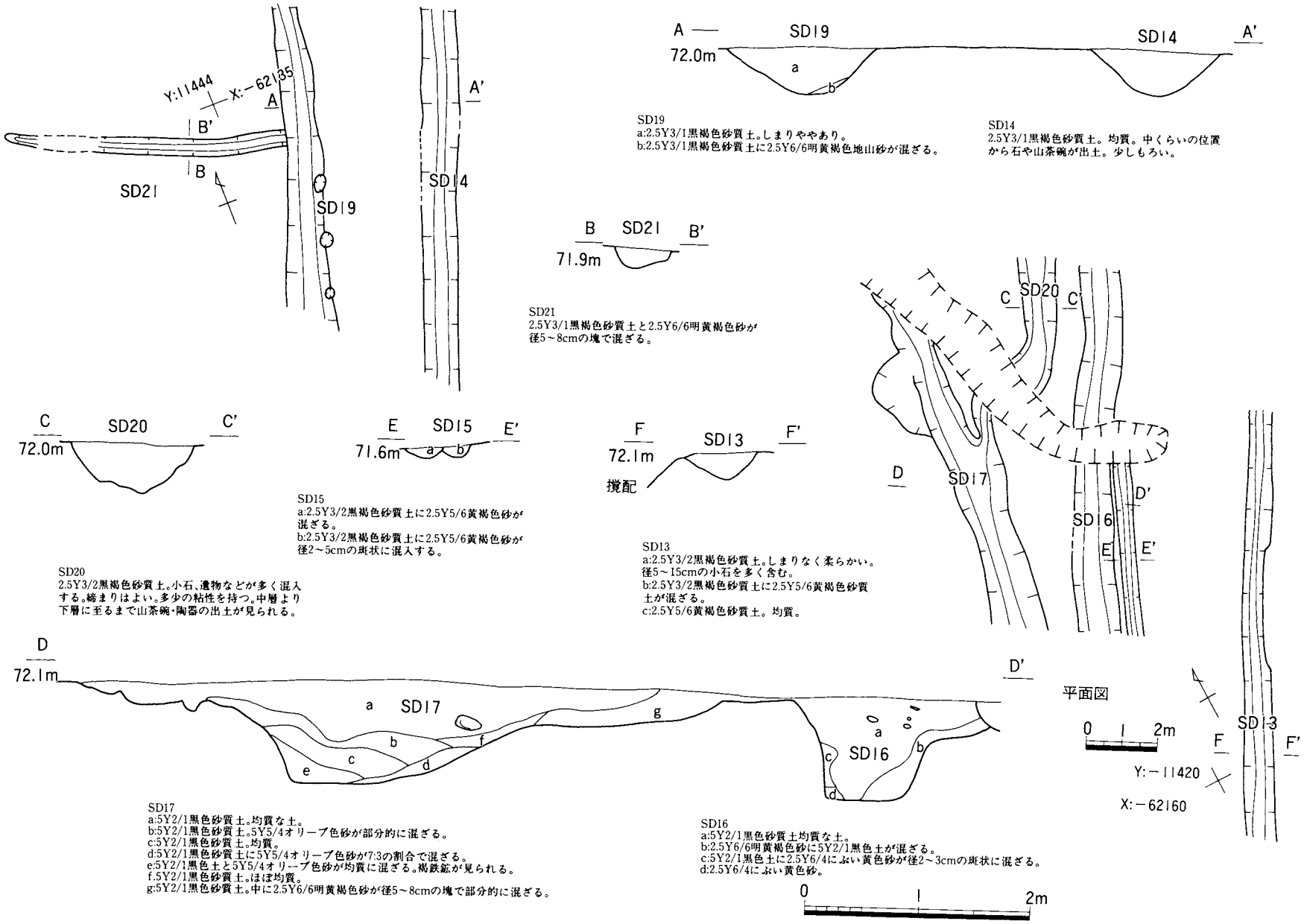
第76図　D区 SH1 実測図



第77図　SA1～6、9～11 実測図



第78図　SD1、3～9 実測図



SD19
a:2.5Y3/1黒褐色砂質土。しまりややあり。
b:2.5Y3/1黒褐色砂質土に2.5Y6/6明黄褐色地山砂が混ざる。

SD14
2.5Y3/1黒褐色砂質土。均質。中くらいの位置から石や山茶碗が出土。少しもろい。

SD21
2.5Y3/1黒褐色砂質土と2.5Y6/6明黄褐色砂が径5～8cmの塊で混ざる。

SD20
2.5Y3/2黒褐色砂質土。小石、遺物などが多く混入する。締まりはよい。多少の粘性を持つ。中層より下層に至るまで山茶碗・陶器の出土が見られる。

SD15
a:2.5Y3/2黒褐色砂質土に2.5Y5/6黄褐色砂が混ざる。
b:2.5Y3/2黒褐色砂質土に2.5Y5/6黄褐色砂が径2～5cmの斑状に混入する。

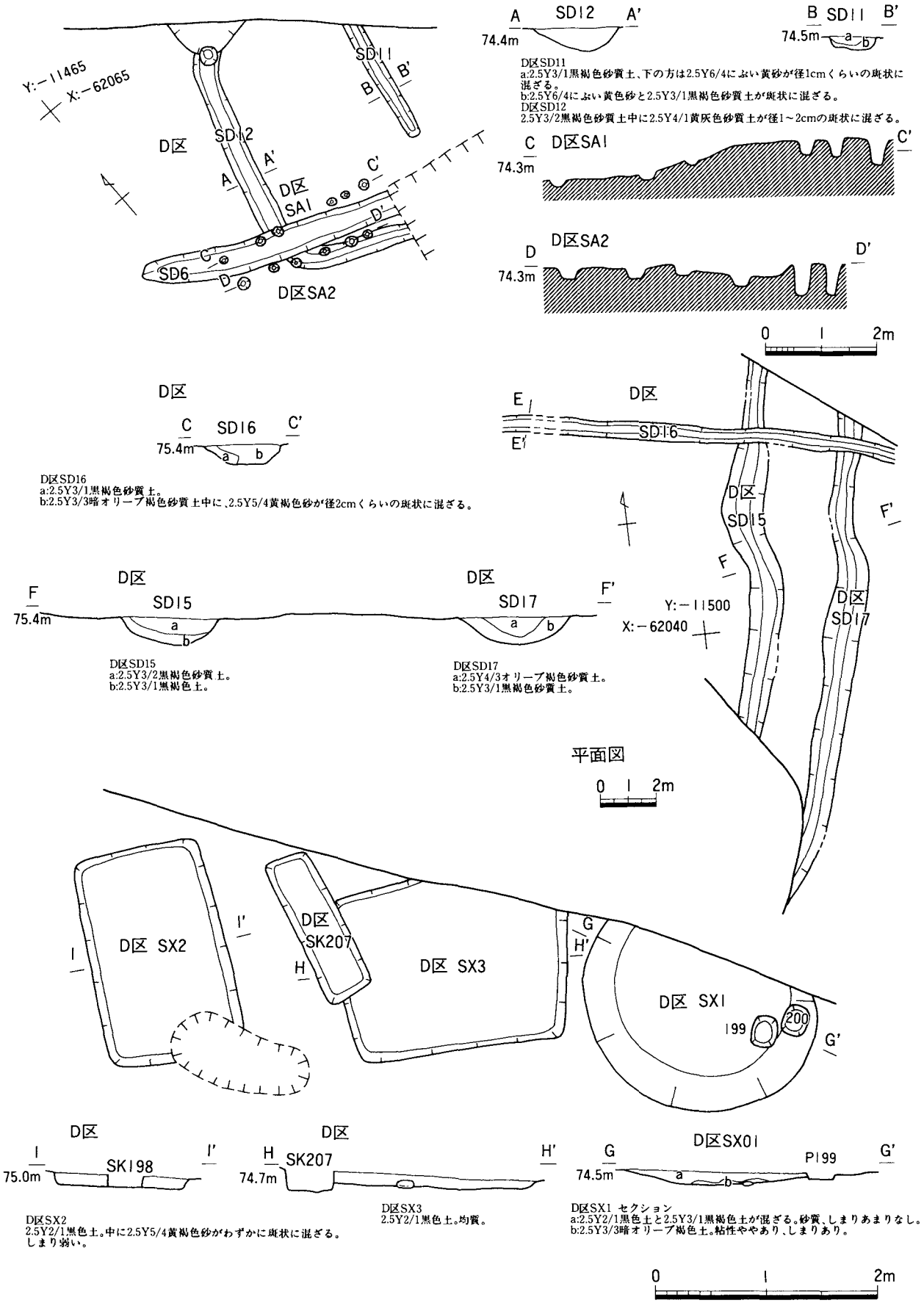
SD13
a:2.5Y3/2黒褐色砂質土。しまりなく柔らかい。径5～15cmの小石を多く含む。
b:2.5Y3/2黒褐色砂質土に2.5Y5/6黄褐色砂質土が混ざる。
c:2.5Y5/6黄褐色砂質土。均質。

SD17
a:5Y2/1黒色砂質土。均質な土。
b:5Y2/1黒色砂質土。5Y5/4オリーブ色砂が部分的に混ざる。
c:5Y2/1黒色砂質土。均質。
d:5Y2/1黒色砂質土に5Y5/4オリーブ色砂が7:3の割合で混ざる。
e:5Y2/1黒色土と5Y5/4オリーブ色砂が均質に混ざる。褐鉄鉱が見られる。
f:5Y2/1黒色砂質土。ほぼ均質。
g:5Y2/1黒色砂質土。中に2.5Y6/6明黄褐色砂が径5～8cmの塊で部分的に混ざる。

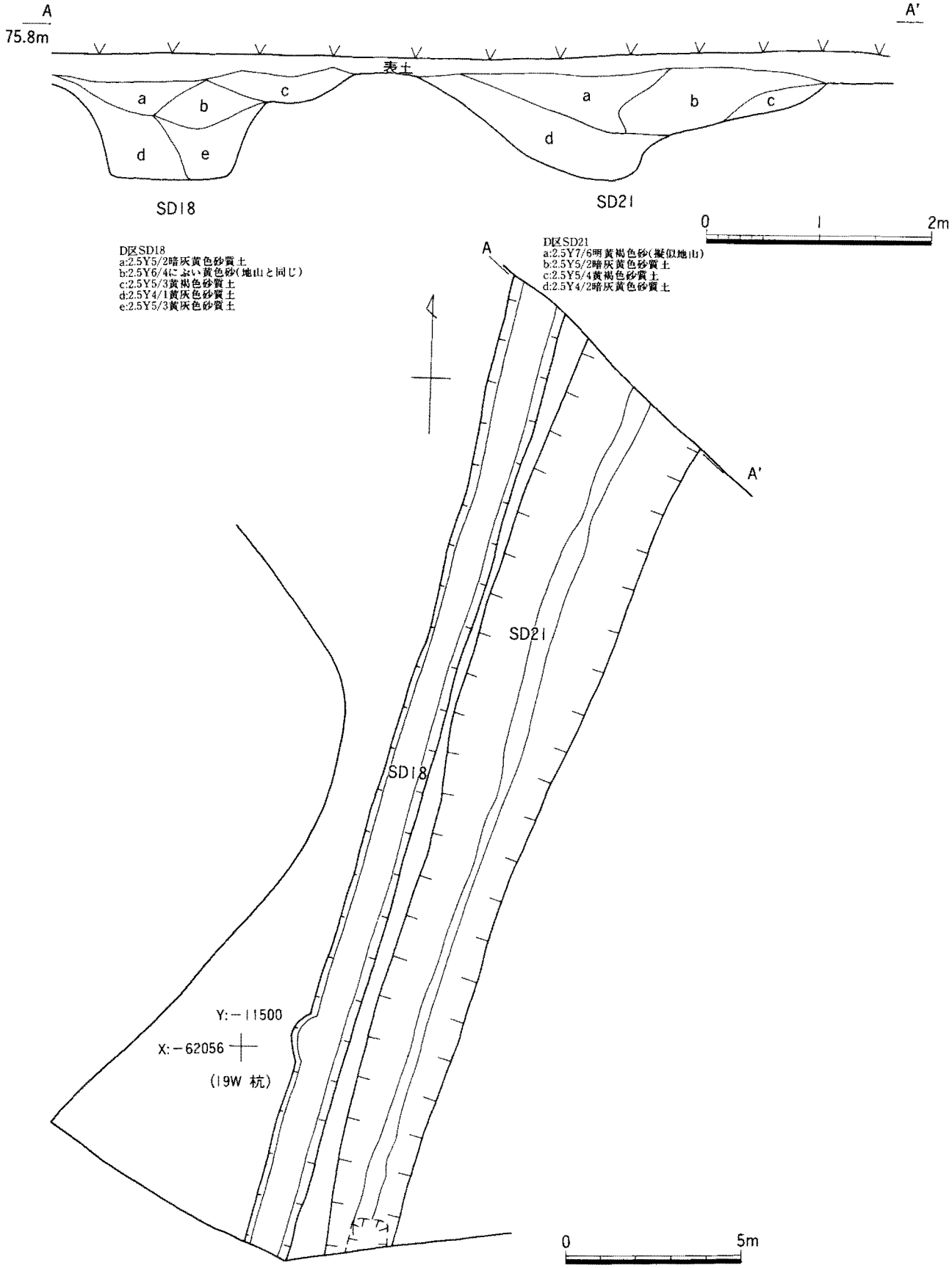
SD16
a:5Y2/1黒色砂質土均質な土。
b:2.5Y6/6明黄褐色砂に5Y2/1黒色土が混ざる。
c:5Y2/1黒色土に2.5Y6/4にぶい黄色砂が径2～3cmの斑状に混ざる。
d:2.5Y6/4にぶい黄色砂。

0　1　2m

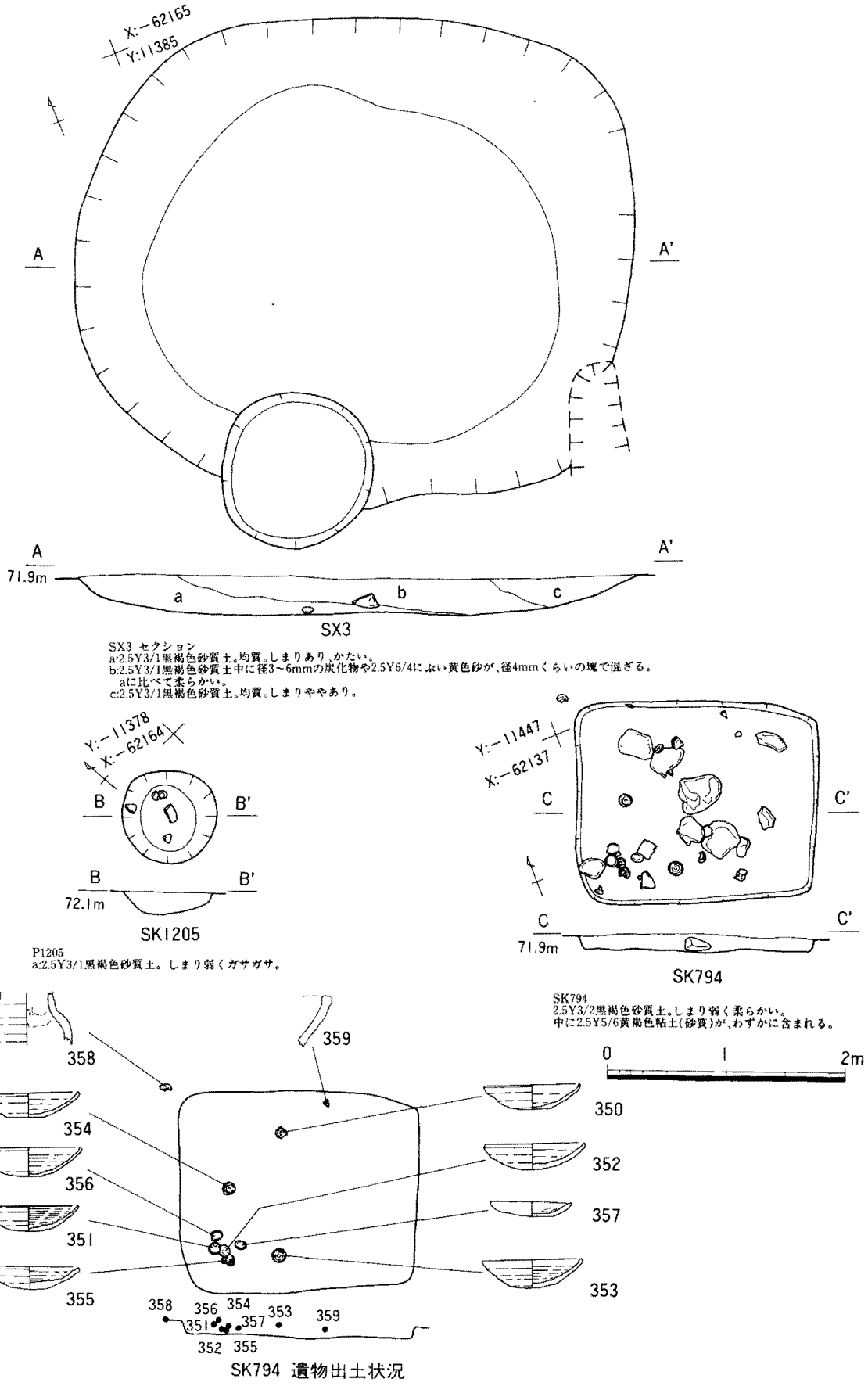
第79図　SD13～17、19・20 実測図



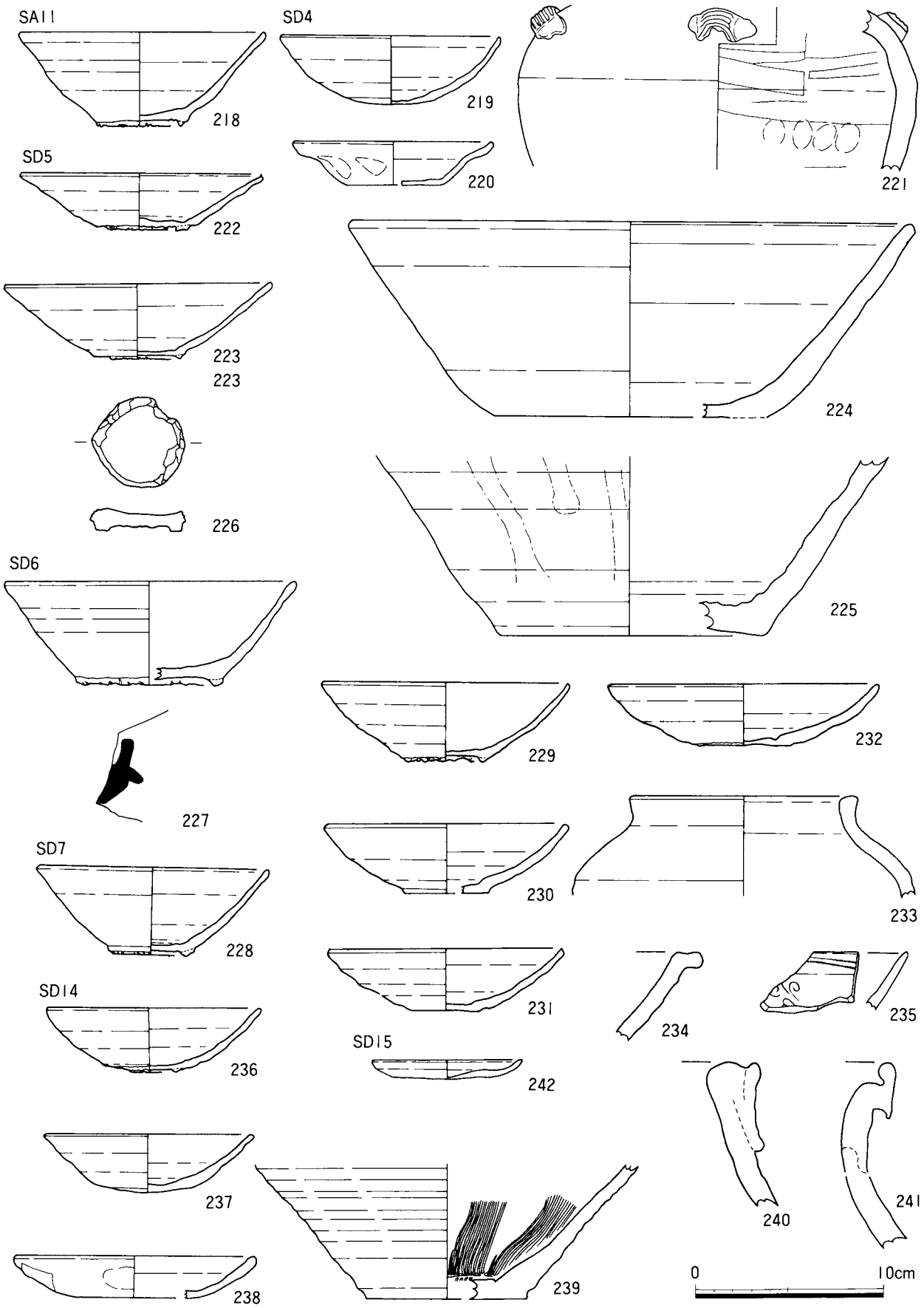
第80図　D区 SD11・12・15～17、SA1・2、SX1～3 実測図



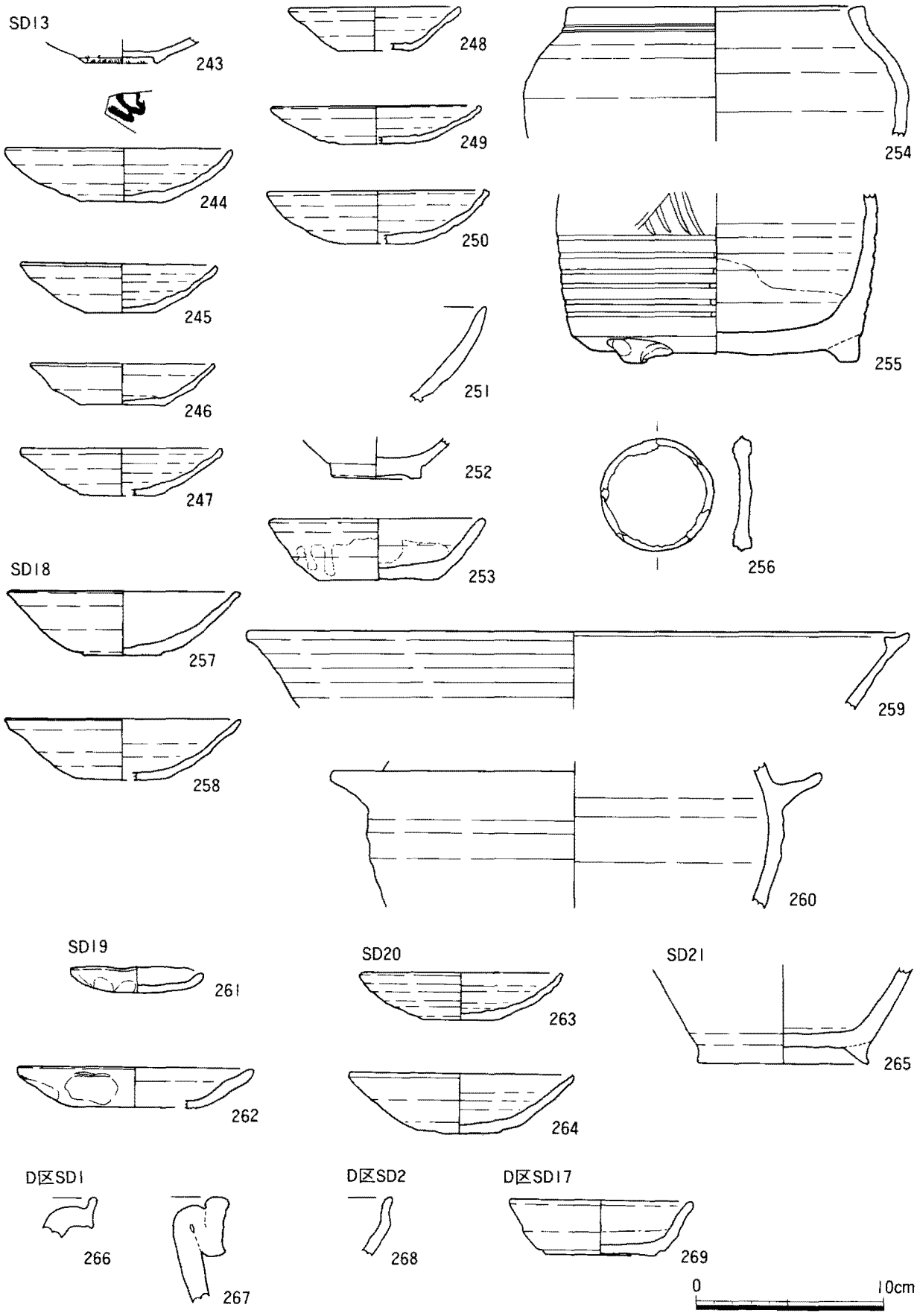
第81図　D区 SD18・21 実測図



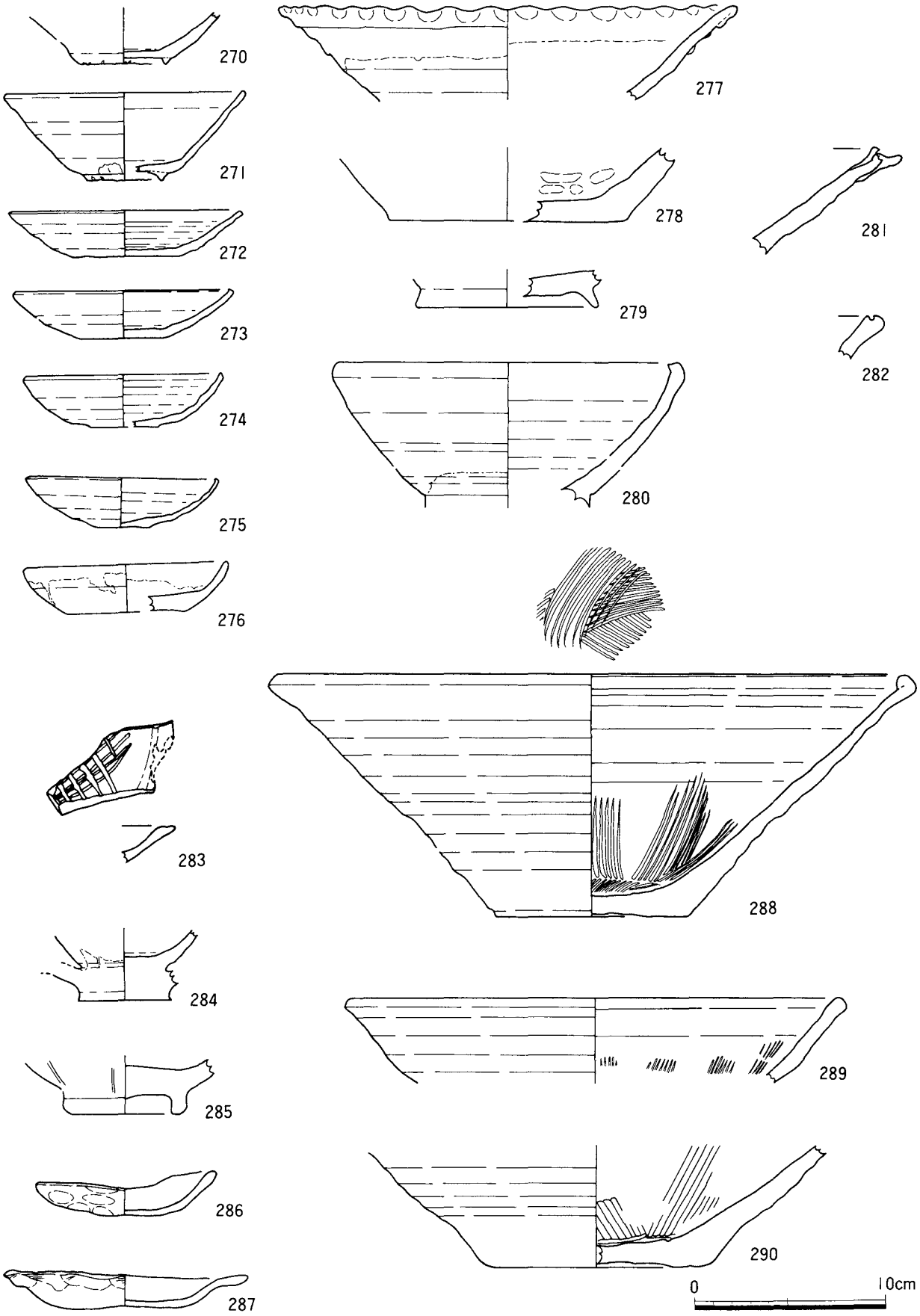
第82図　SX3、SK58・794・1205 実測図



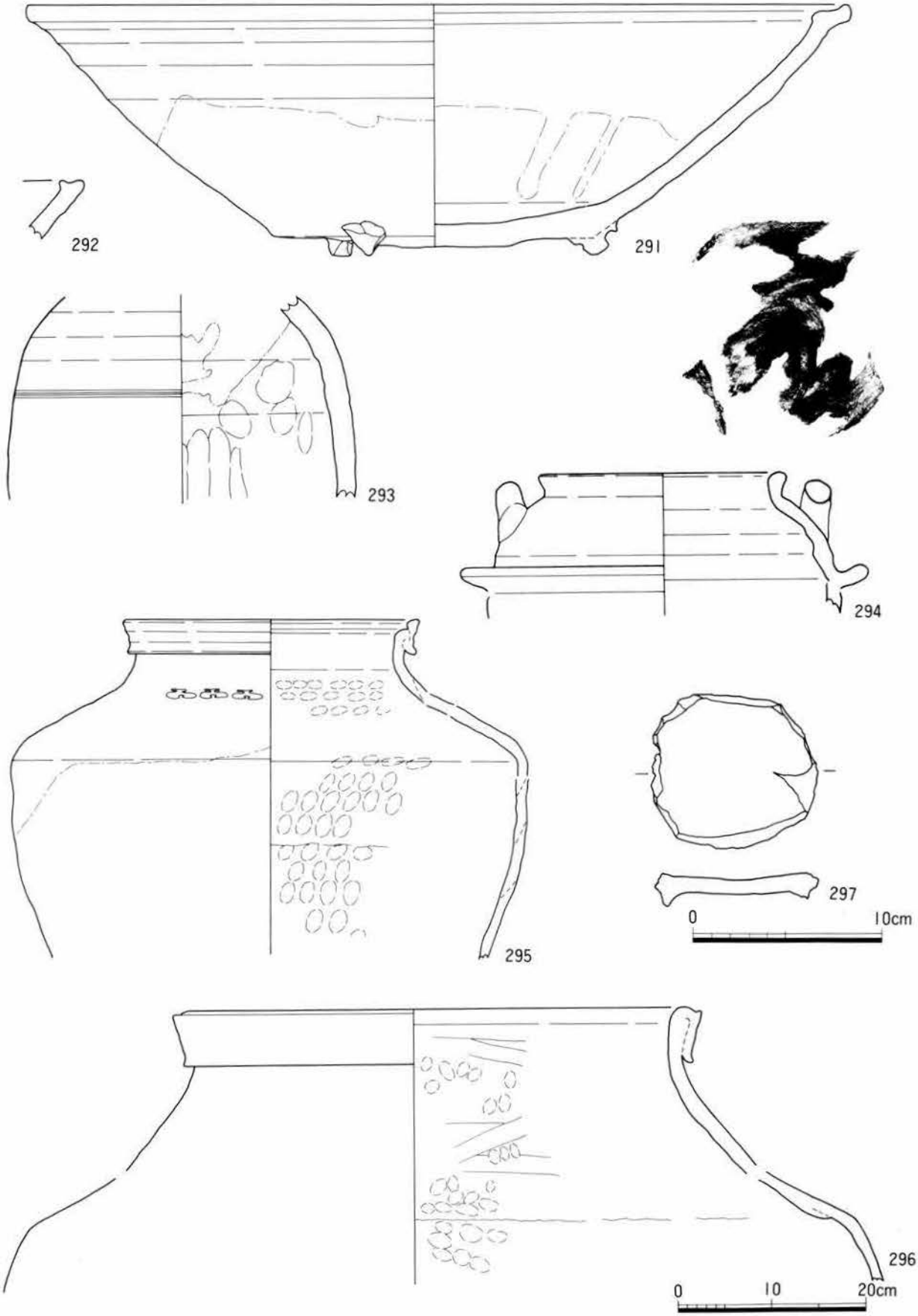
第83図　SA11、SD～7・14・15 出土遺物



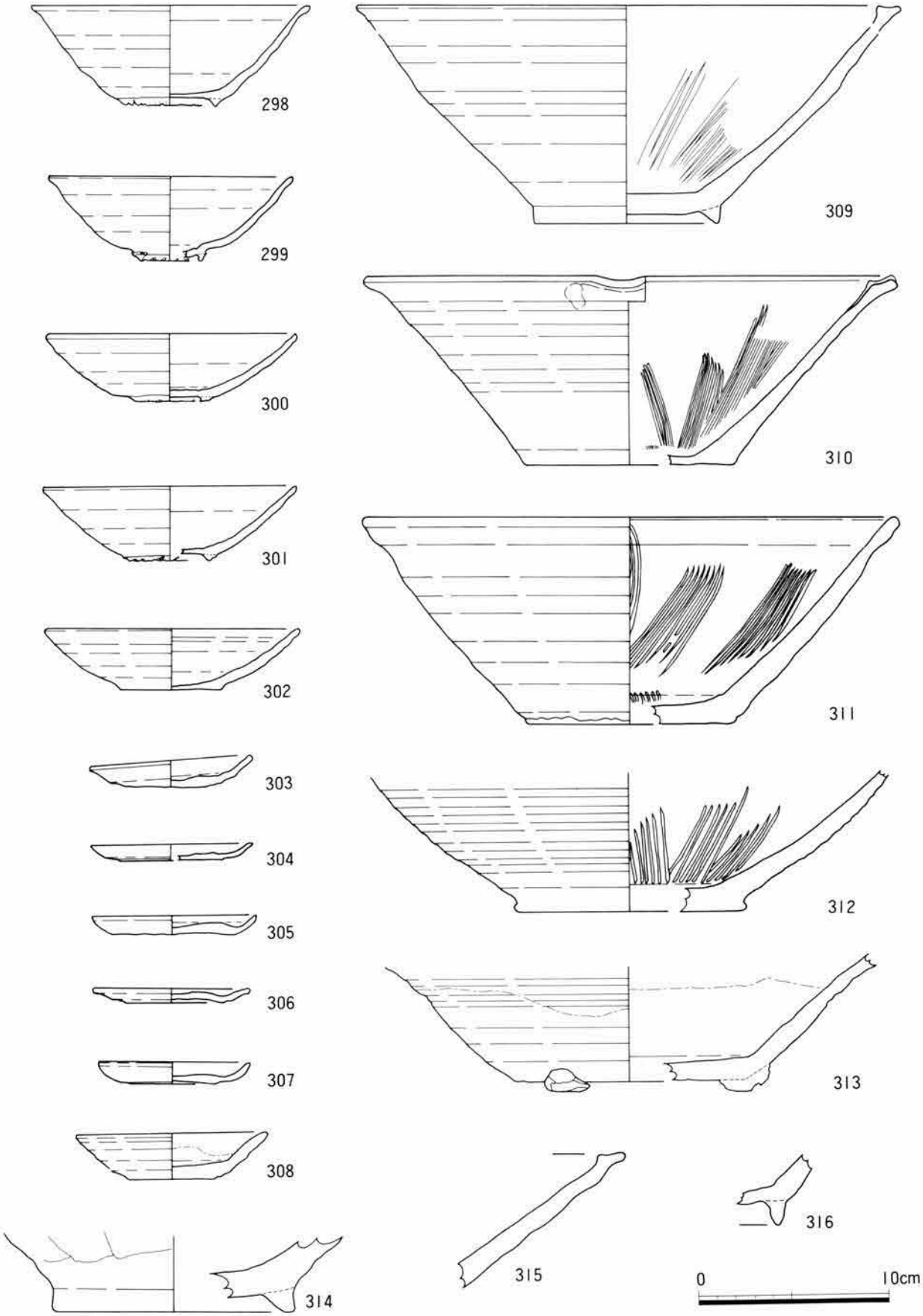
第84図　SD13・18－21 出土遺物



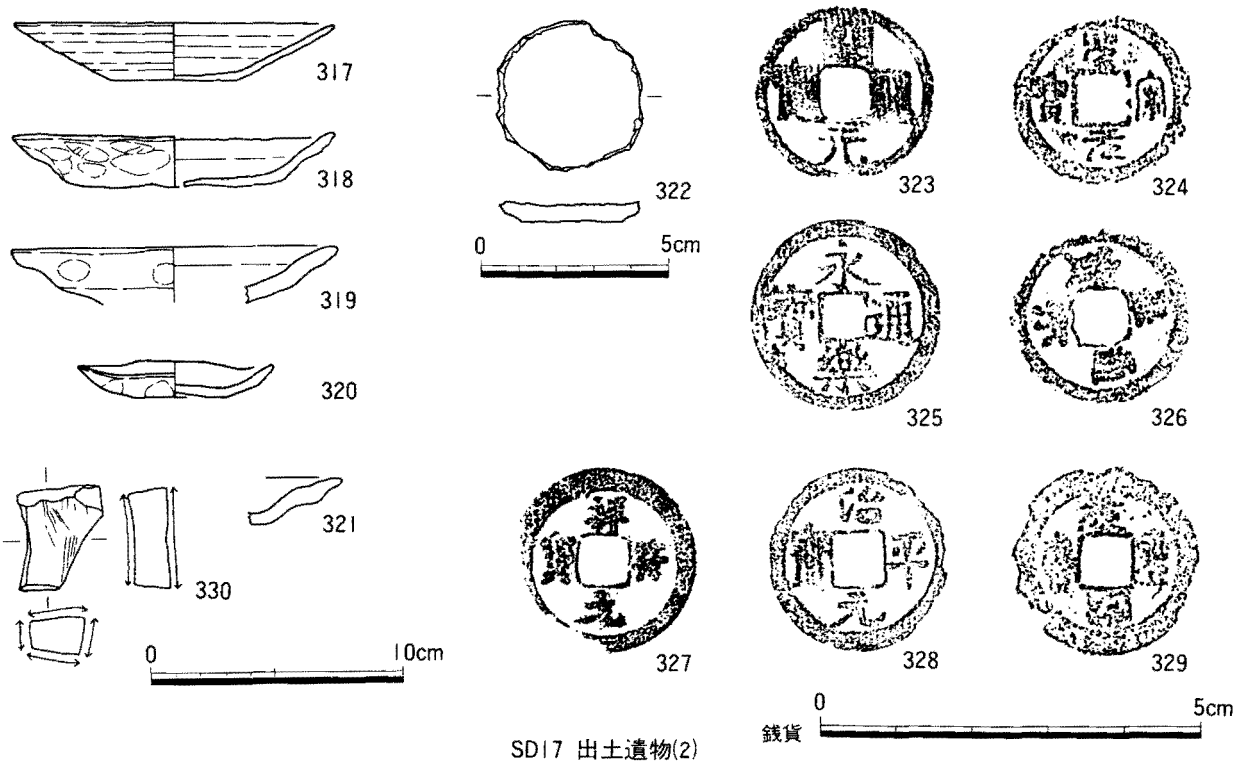
第85図　SD16 出土遺物(1)

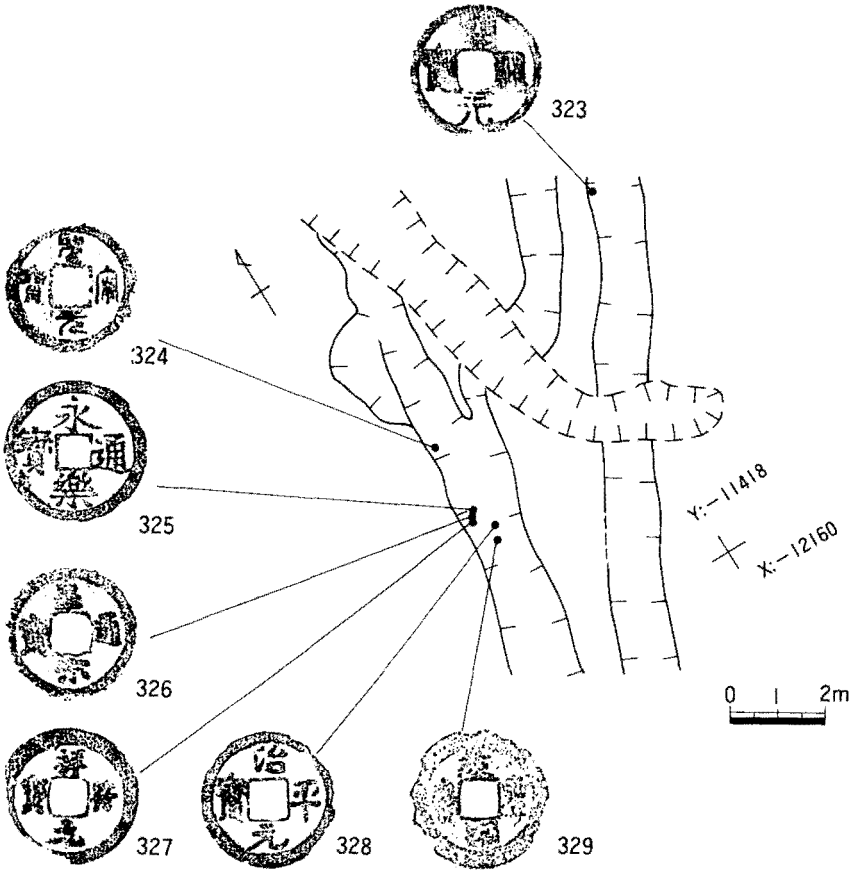


第86図　SD16 出土遺物(2)

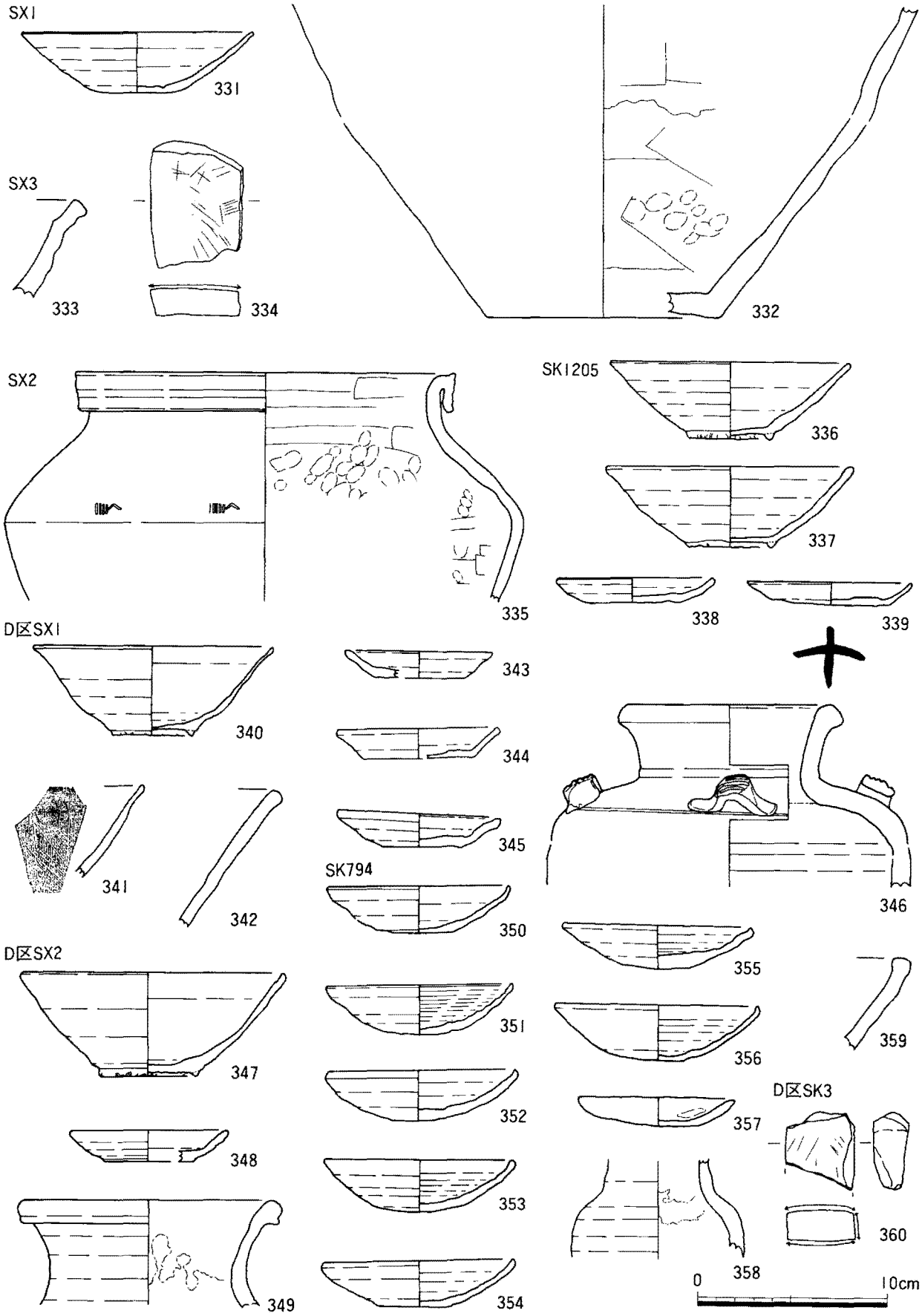


第87図　SD17 出土遺物(1)

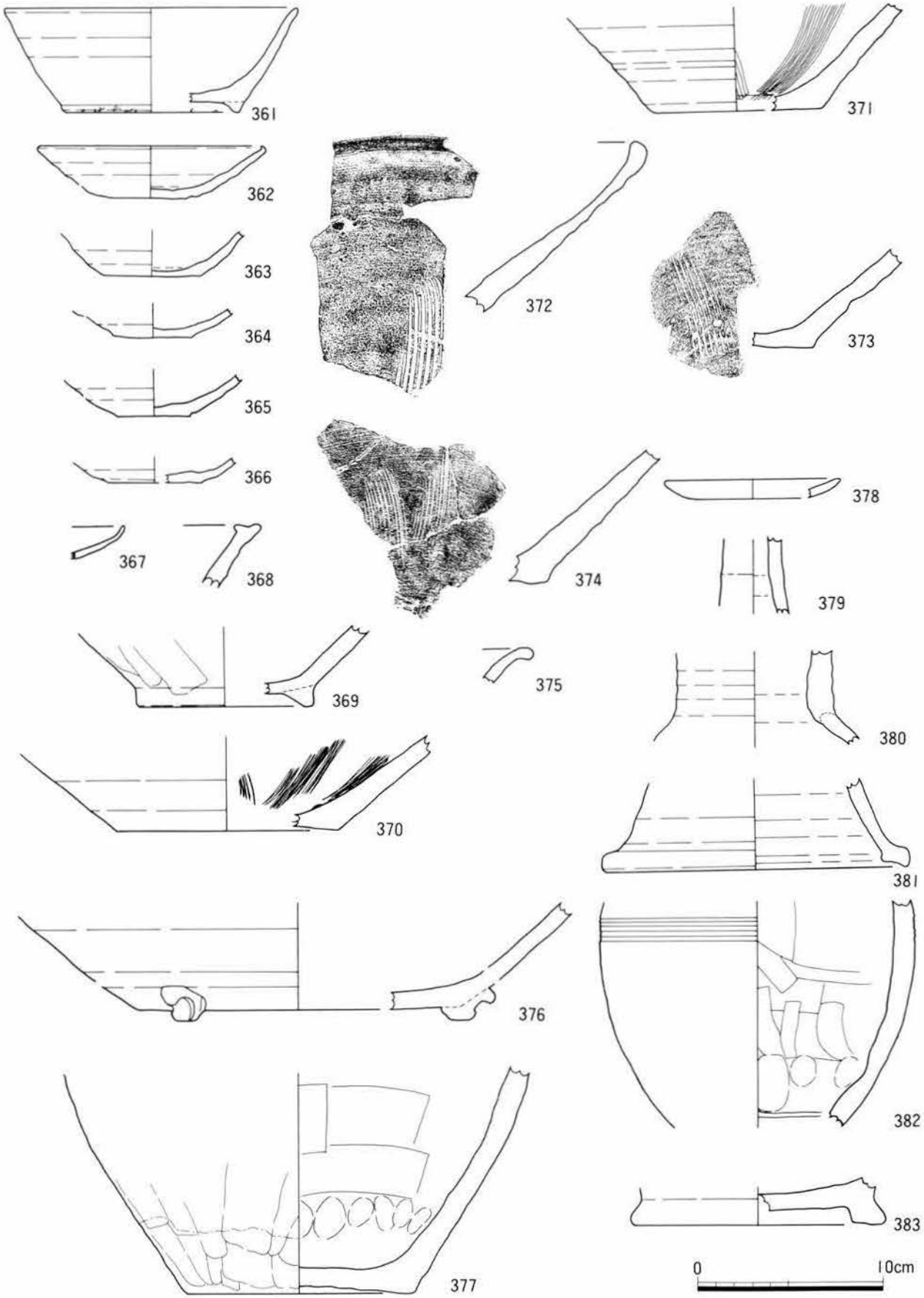




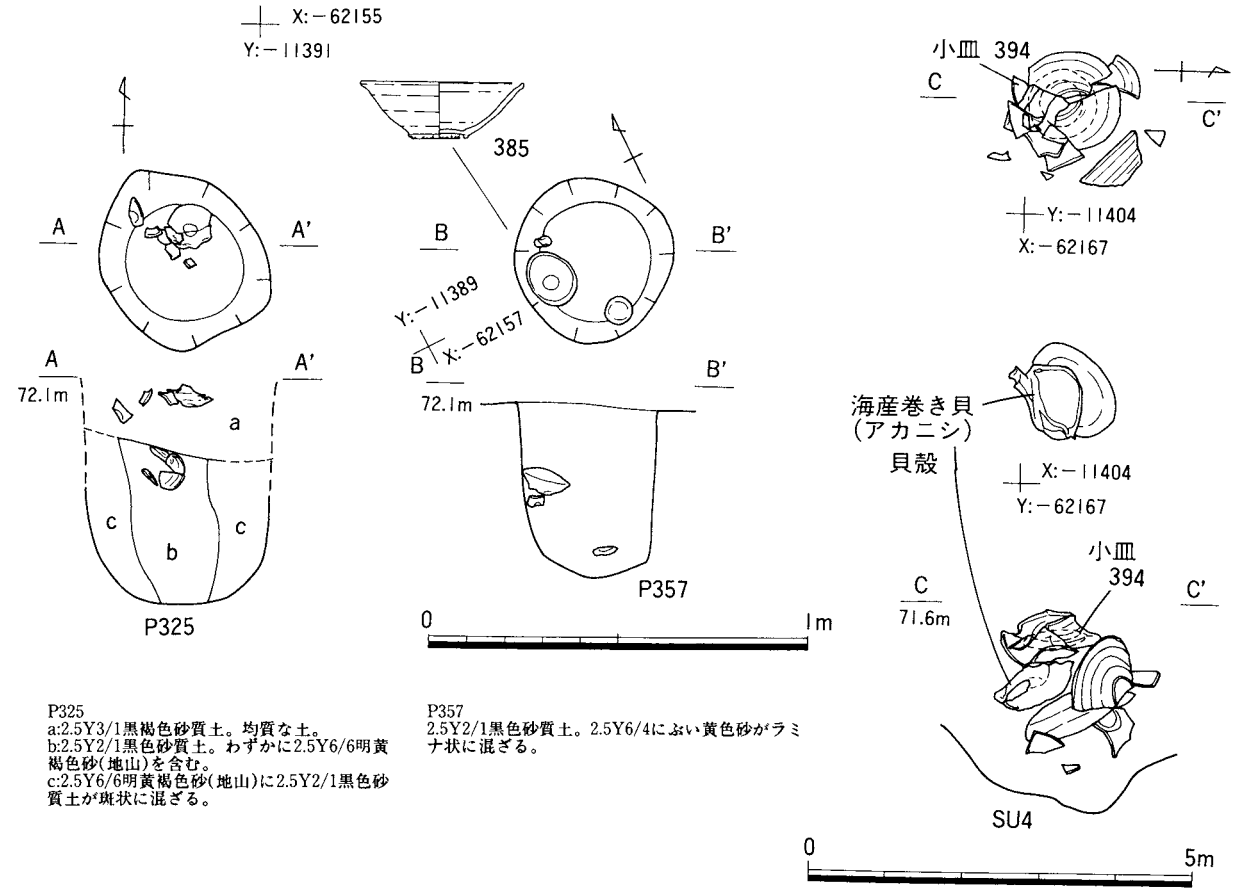
第88図　SD17 出土遺物(2)、SD16・17銭貨出土状況



第89図　SX1～3、D区SX13、SK794・1205 出土遺物

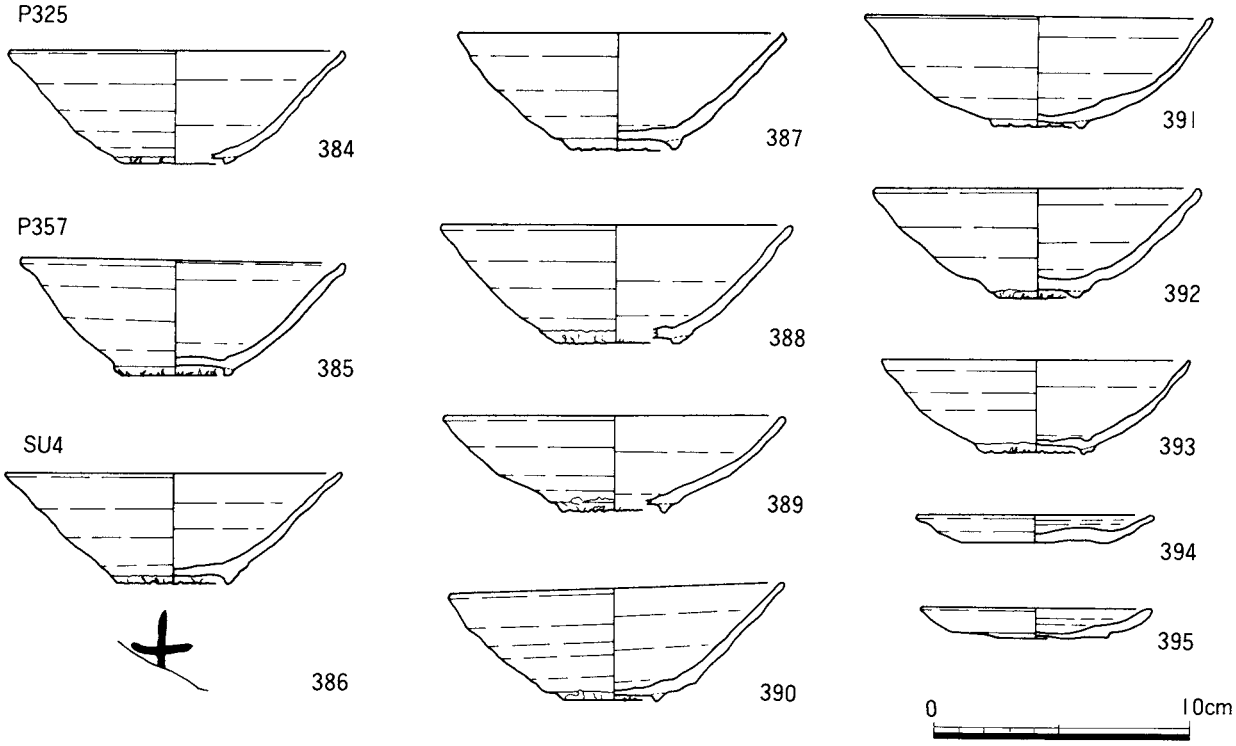


第90図　SK58 出土遺物

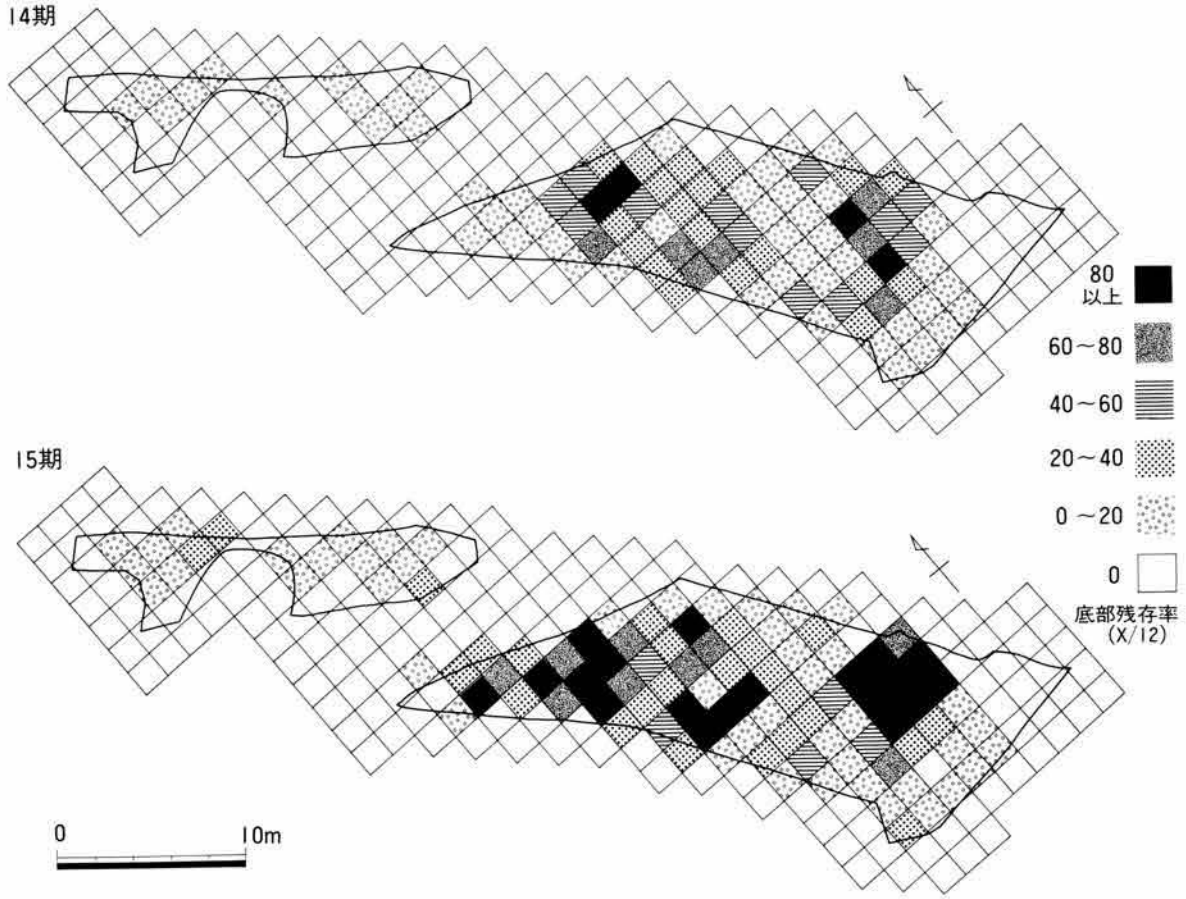


P325
a:2.5Y3/1黒褐色砂質土。均質な土。
b:2.5Y2/1黒色砂質土。わずかに2.5Y6/6明黄褐色砂(地山)を含む。
c:2.5Y6/6明黄褐色砂(地山)に2.5Y2/1黒色砂質土が斑状に混ざる。

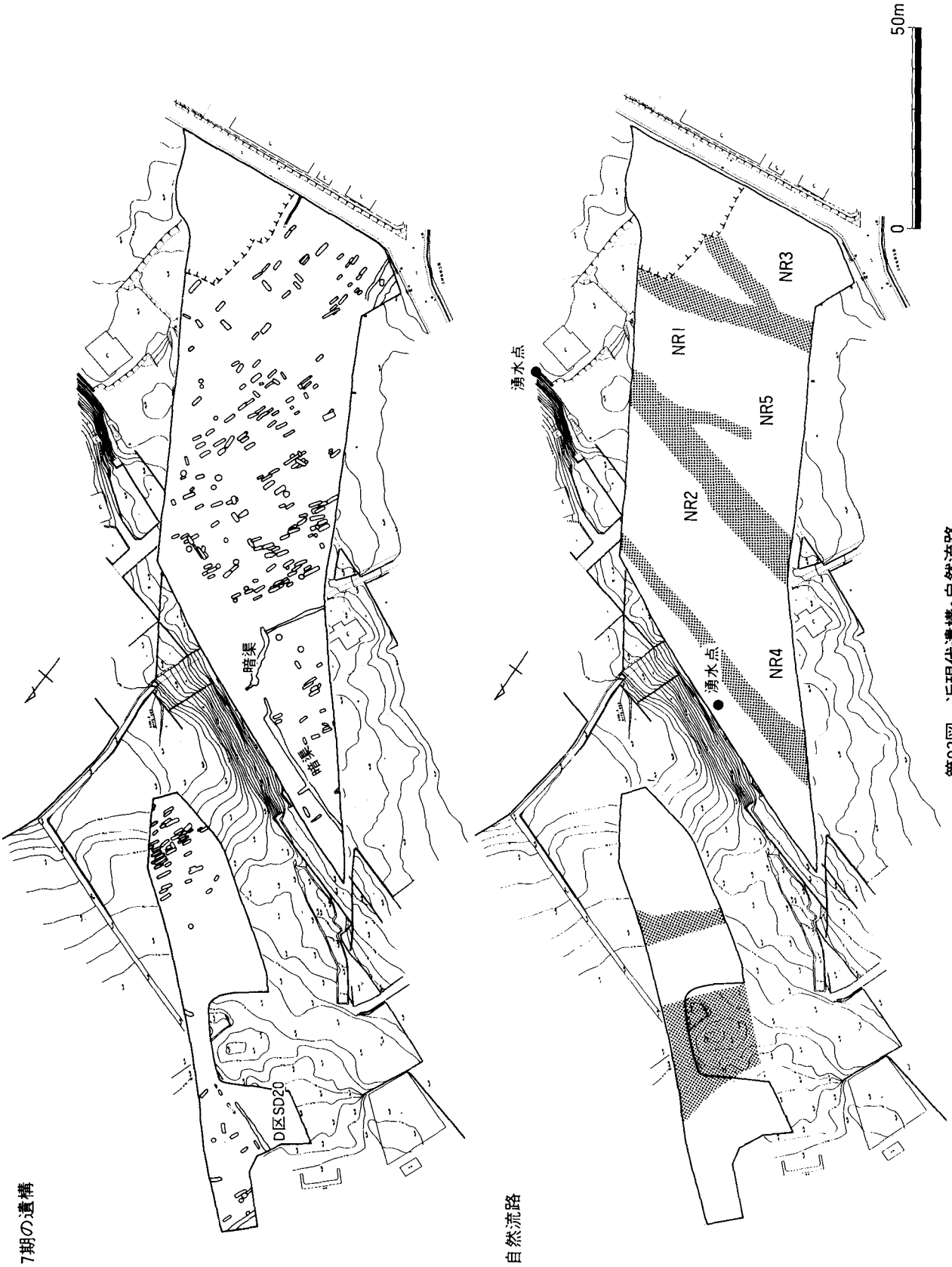
P357
2.5Y2/1黒色砂質土。2.5Y6/4にぶい黄色砂がラミナ状に混ざる。



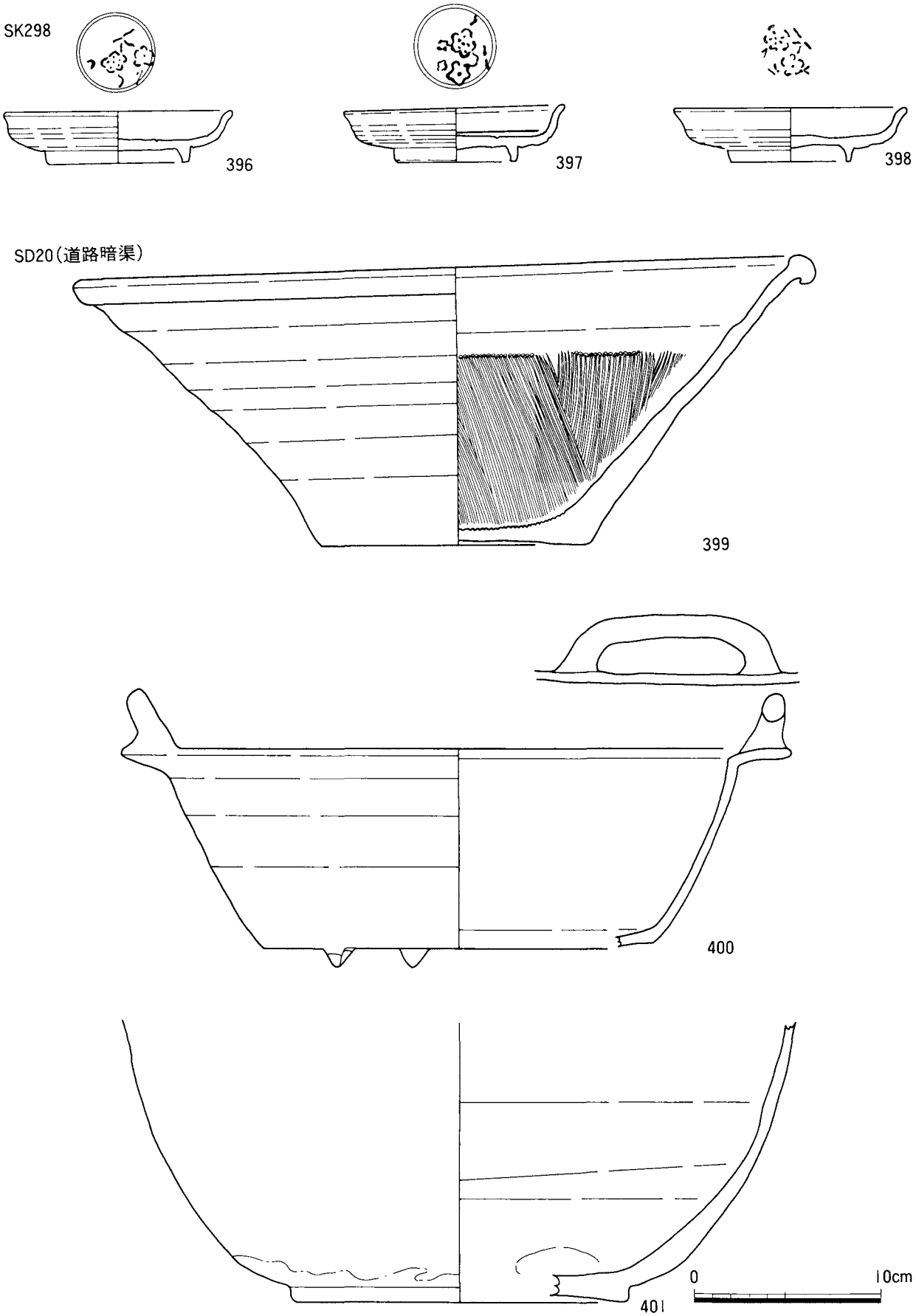
第91図　P325・357 、SU4 実測図・遺物出土状況



第92図　包含層出土山茶碗の時期別分布状況

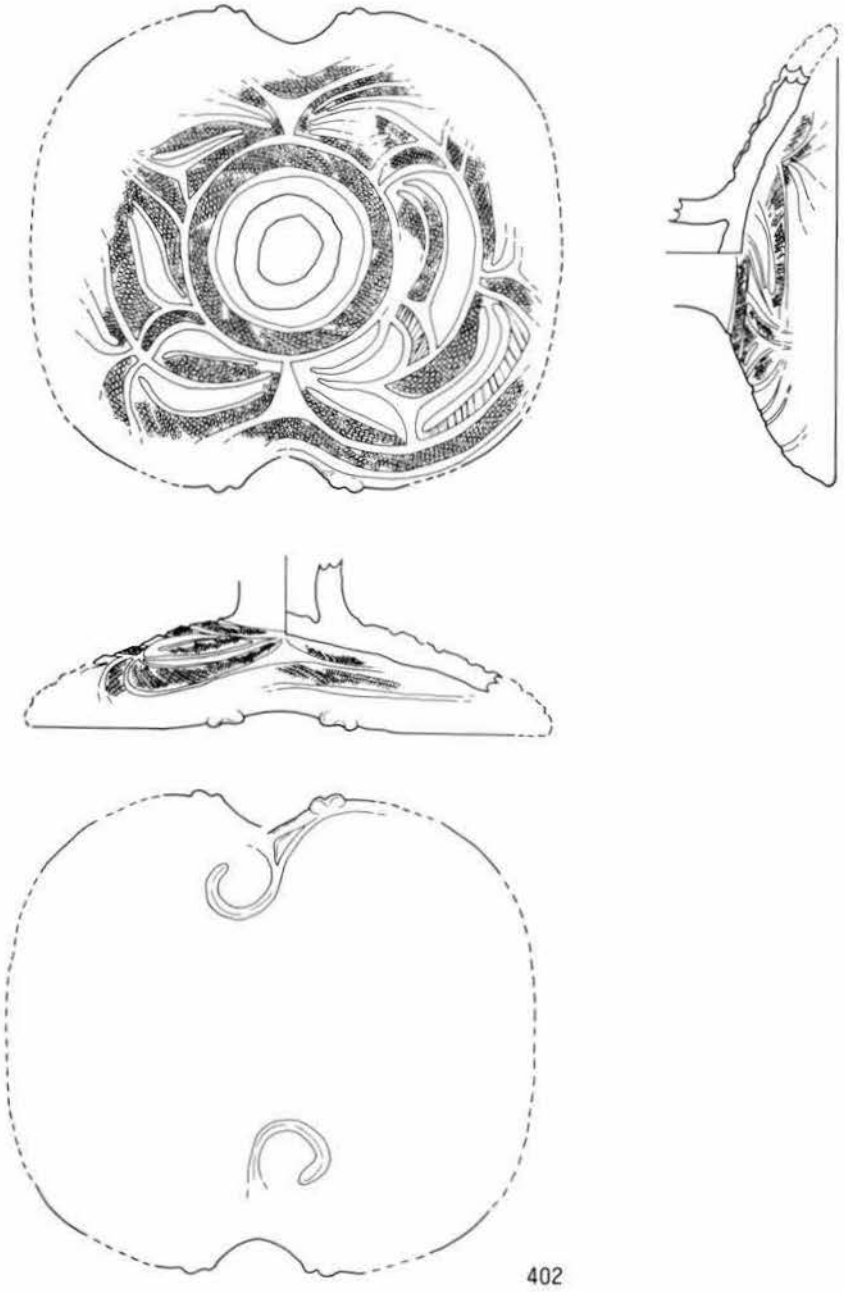


第93図　近現代遺構・自然流路

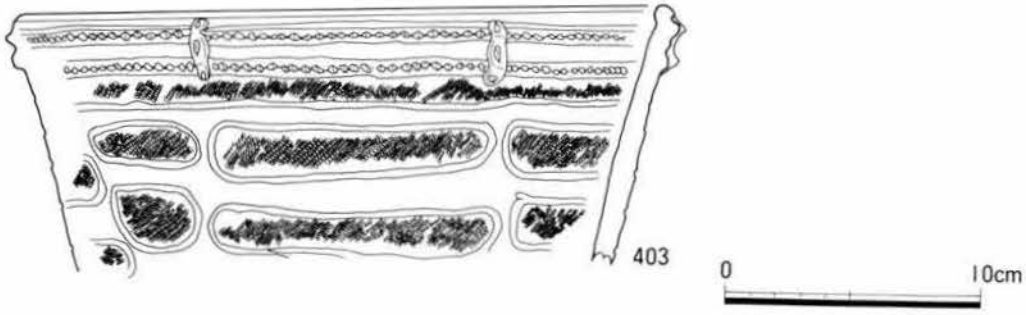


第94図　近現代の遺物

NR5



NR2底



第95図　流路出土遺物

第３節　包含層の遺物

(1)　縄文土器

中期後半から晩期までの土器が出土している。それ以前と考えられるものは１点も出土していない。全体的には、遺構のあった中期の土器が最も多い。また、自然流路ＮＲ１の底の部分（ＮＲ１下層）からも時期的にまとまって出土している。

後期の土器は、称名寺式、堀之内・加曽利Ｂ式から縁帯文土器様式までほぼ連続して出土している。

晩期の土器は、石器と同じようにほとんどが、ＮＲ１の上層から出土している。晩期の土器もほぼ前葉から末葉まで連続して出土しているが、五貫森式期と思われる土器が見られない。

段丘礫層直上出土の土器（404～405）

４点出土した。層位的に本遺跡でもっとも古い土器で、段丘の形成時期を考える上で重要な手がかりになる。いずれも小片で時期を決めるのは困難であるが、厚さや縄文の文様から、縄文時代中期後半のものである可能性が最も高いと思われる。

１期の土器

408は、深鉢の口縁で、キャリパーが強い。咲畑・醍醐土器様式の第１様式ｂ～ｃに比定される。１点しか抽出されていない。

409～412は撚り糸文を施文した土器で、船元里木土器様式の第５～６様式に比定される。抽出されたのはこの４点のみである。

413～415は、口縁部のカーブが強く、沈線や隆帯で施文されているもので、船元・里木様式の一群の可能性が高いと思われる。抽出されたのは３点のみである。

２～３期の土器

417～422は、キャリパー型の深鉢で、口縁部付近に隆帯や沈線で区画され、中に縄文が充填される。加曽利Ｅ式第３様式併行と考えられる。

423～435は、キャリパーがやや甘くなり、口縁部の区画が沈線でなされ、中も沈線で文様が充填された一群である。

436～447は、口縁部の文様帯がなくなり、形状もバケツ状になる深鉢の口縁で、胴部の文様帯が上まで来る。加曽利Ｅ式第４様式併行と考えられる。

448～450は、口縁部に沈線や隆帯で渦巻き等の文様がある深鉢で、この時期のものと考えられる。

451～454は信州系の土器群で、451は唐草文系土器様式のⅡに当たると考えられる。452・453は曽利式土器様式の無文口縁部、454はその頸部と考えられる。

455・456はこの時期の東海系の土器と考えられる。

457～462は頸部に取手や突起の付く土器である。この一群の土器の出土量はそれほど多くない。

463～482は、深鉢の胴部片にあたる。463～478は、隆帯や沈線で縦に区画され、間に縄文や沈線で綾杉文が施文される。賀曽利Ｅ式系土器の胴部と考えられる。479～482はこの時期の東海系の土器と

考えられる。

483～485は双耳壺の胴部片と考えられる。加曽利Ｅ式第４様式併行と考えられる。

486、487は浅鉢の口縁部と考えられる。

４期の土器

488は沈線で施文された深鉢で、後期初頭の土器と考えられる。489は口縁が外反するアサガオ型の深鉢で、堀之内２式併行のものと考えられる。491は堀之内２式に特徴的な８の字状の突起である。

492～520は、縁帯文土器様式の深鉢の口縁と考えられる。492～497は、口縁端部に沈線が１本横に巡らされるもので、この期の前半の北白川上層式のものと思われる。520は、東海系の蜆塚式と呼ばれているものである。

521は、この期の深鉢口縁部に付く突起。522～535、538、539はこの期の深鉢のものと考えられる胴部片である。536、537は注口付き土器の破片である。

５期の土器

540～565は粗製無文土器の口縁である。540～543は、口縁が外反し、端部が肥厚する。晩期初頭のものと考えられる。544～551は外反する口縁を持つもの。552～554は口縁が内傾するもので、壺型土器のものと思われる。555、556は口縁が直口するものである。

557～561は、外反する口縁端部に刻みが入るもの、562～565は口縁上端部に沈線が１条巡るものである。

566～590は突帯文土器である。567～581、585、586は、深鉢型土器の口縁のすぐ下に突帯が付くもので、突帯は２枚貝等で押し引きが施される。583、584は「伊勢タイプ」と呼ばれる素文突帯文土器の口縁である。この土器は突帯が２条あり、587～590の突帯のある胴部片は、この土器の下の突帯部分にあたるものと思われる。これらの突帯文土器は馬見塚式下り松段階になるものと思われる。

591～593は亀ヶ岡式土器である。591は、半精製土器で、晩期後半のものと思われる。

594～603は浮線網状文系土器である。

604～617は分類不明だがこの期の土器と思われるものである。

時期不明の縄文土器

618、619は口縁の内傾が強く、無頸壺のような器形になると思われる。620、621は口縁部に突起状の文様が付く。

縄文土器底部

622～625は胴部が沈線や隆帯で縦に区画され、間に縄文が施されるもので、２～３期のものと思われる。649～651は粗いナデ調整の土器で、５期のものと思われる。

底に網代痕が付く土器が多く、全体の半分以上を占める。また、植物の葉の跡が付くものもある。

土製品

652～658は土偶の破片である。全部で７点出土している。659は土版の破片で、５期のものと考えられる。660は用途不明で、時期も縄文時代以外の可能性がある。661、662は打欠円盤で２～３期の土器片を使っている。

(2)　弥生土器

６期の土器

663は、遠賀川系の大型の壺型土器の口縁である。口縁の形状から瀬戸内地域の東側に分布している初期の段階のものと考えられる。畿内でも見られない[1]初期の段階の土器が東海地方の内陸に入ったこの地域で見つかったことは特筆に値する。664は遠賀川系の甕の口縁部である。口縁の下に沈線が４条入るものである。

１）愛媛大学　田崎博之氏ご教示による。

７期の土器

弥生土器群の中で最も多くまとまっている。一部６期の後半と思われるものも出土しているが、それらもここに含めて報告する。ＮＲ２やＮＲ４といった自然流路から、完形の状態で出土している土器が多い（第105図）。

665～671は、条痕系の単純口縁壺である。672、676～680は遠賀川系の単純口縁壺である。673はこの期の壺型土器で、胎土が橙色で焼成が悪く、在地のものと考えられる。674は胎土から搬入品と考えられる。681は沈線文系の壺型土器である。682～685は条痕系袋状口縁壺である。やや大型の壺が多く、686、687はその胴部と考えられる。688～693は条痕系無頸壺である。

694～703は条痕系の甕である。704～710はこの期の土器の底部である。704はハケ調整で遠賀川系の甕の底部と思われる。底の裏には、布目の圧痕が付いているものと、葉脈痕がついているものがある。

711～731は壺の口縁や胴部片である。716～723は、頸部に突帯や沈線が巡るもので、６期の末のものの可能性がある。726～728は頸部に沈線で横線を引き、中に縄文や沈線文を施すもので、７期の後半～８期のものと考えられる。

732～765は沈線文系土器の破片である。全部で50点ほど出土しており、一遺跡から出土する量としては多い。754は浮線網状文土器の底部でこの期のものと考えられる。760～765は沈線で区画した中に、板状工具で擬縄文を施したものである。

766～773は条痕系甕の口縁である。

774は、口縁端部を折り返した、無文の甕で、朝鮮無文土器に類するものと思われる。

795は、薄い土器の表面に人間の顔を表現したもので、人面土器の破片と考えられる。776は、条痕調整された筒形の土製品で、ひょうたん型を呈すと思われる。

８期の土器

出土量はわずかである。777は大型の壺の胴部でこの時期のものと考えられる。なお、９期の土器と思われるものは見られない。

10期の土器

Ｄ区を中心にまとまった出土をしているが、量はそれほど多くない。包含層からの出土は多くない。778～782は壺の口縁である。779、780、792はパレスタイル土器の口縁で、780は11期のものである。783～786、793は甕で、櫛条痕の調整が縦方向に入る。787は鉢で、縦方向に櫛条痕調整がなされ、底部に布目圧痕が見られる。788は器台、789、790は蓋、791は高坏である。

11期の土器

ＳＢ１の土器(73)や780のパレス壺がこれに当たる。他にこの時代のものと思われるものは少ない。

(3)　古墳時代

12期の土器

Ｓ字口縁台付き甕や高坏の破片が出土しているが、数は多くない。794～796はＳ字口縁台付き甕の口縁で、Ｃ類に分類されるものと思われる。797はその脚部である。

13期の土器

須恵器

包含層出土の須恵器は、ＳＲ１の底を中心にわずかであるが良好な状態で出土している。住居跡出土の須恵器は６～７世紀のものばかりであったが、包含層出土のものは８～９世紀と考えられるものも出土している。

土師器

817～820、828～830は長胴で平底の大型の甕の口縁。大型甕は内堀・井川分類のＢ２類に当たる。同分類のＢ３類に当たるものは、遺構からも包含層からも確認されていない。821～827、831、832は小型平底甕である。小型平底甕は調整や形態が多様である。824はつまみ上げ口縁小型平底甕で、胎土も他のものと異なっており、伊勢方面からの搬入品と考えられる。833～835は小型平底甕の底部である。835の底部はクズの葉の葉脈痕が付いている。

(4)　古代以降

14期の土器

灰釉陶器の碗や壺がわずかであるが出土している。ＳＲ１から出土したものがほとんどである。すべて東濃窯で、すべて虎渓山１号窯式期のものと考えられる。

15期・16期の土器

山茶碗と、古瀬戸、常滑甕、土師質皿、土師質鍋、中国磁器等が出土している。器種と分類は観察表に示した。

注）山茶碗の分類は岡本直久氏、古瀬戸陶器類は藤沢良祐氏、常滑甕は中野晴久氏、土師質皿は小野木学、井川祥子氏にお願いした。

17期の土器

２節で述べた遺構から出土したものの他はほとんど出土していない。特に近世の土器類がほとんど出土していないのが特徴的である。

(5)　時期不明の土器

1039、1040は土師質の土器だが、類例がなく、時期不明である。

(6)　土錘

10点ほど出土している。時期は不明である。

(7)　鉄製品

鉄鏃が１点、和釘が４点出土している。鉄鏃は古墳時代のものと考えられる。和釘は14～17期のものと考えられる。

(8)　銭貨類

包含層からは６点出土している。すべて渡来銭で、近世以降のものは１点も出土していない。

(9)　石器類

石器類としたものは、石器、石製品、剥片、石核等である。これらの石器類の大部分は、縄文時代から弥生時代に製作・使用・廃棄されたものと考えられる。ただし、砥石については古墳時代や中世のものも含まれる。

石器の大部分は、敷石遺構のある大溝（ＳＲ１）の底部分で、自然流路ＮＲ１の上層からである。この部分は、共伴した土器から５～７期のものと考えられる。ここからは、打製石斧と下呂石の円礫の石核が、ともに千点以上という膨大な量が出土している。

１．石　鏃

300点出土した。内30点図示した。(19～21、1081～1107)

石鏃の属性について、刺突能力に関わる先頭部の形態と、矢柄との装着方法に関わる基部の形態とで下記のように分類した。折損品以外の各分類ごとの出土点数は、第３表に示した。

使用石材は、下呂石229点（76.4%）、サヌカイト11点（3.6%）、黒曜石１点（0.3%）、チャート50点（16.7%）安山岩９点（3.0%）で、下呂石が圧倒的に多い。下呂石の内、表皮がほとんど風化していないきれいな石材を使用しているもの（下呂石黒）が58点で、下呂石のだいたい４分の１の割合を占める。

尖頭部

１類：鋭角な尖頭部を持つもの。

2類：鋭角な尖頭部を持ち、全長が長い（全幅の2倍以上）もの。

3類：鈍角な尖頭部を持つもの。

4類：先端が尖り、側縁部の肩が張った形状を持つ、いわゆる飛行機鏃と呼ばれるもの。

5類：先端が丸く、尖らないもの。

基　部

A類：中心が逆U字状に抉られたもの。

B類：わずかに抉られるもの。

C類：深く抉られるもの。

D類：平らなもの。いわゆる平基鏃。

E類：わずかにふくらむもの。

F類：舌状に中心部が張り出すもの。いわゆる有茎鏃。

第3表　石鏃の各分類ごとの出土点数

	A類	B類	C類	D類	E類	F類
1類	3	51	10	17	9	48
2類	1	11	0	4	6	15
3類	0	9	4	0	0	4
4類	0	3	4	0	0	34
5類	0	0	0	0	0	5

2．石鏃未製品

素材となる剥片の大きさや、調整方法などから石鏃の制作途中と思われるもの、石鏃の制作を途中で断念したと考えられるものを石鏃未製品とした。20点抽出された。

3．石　錐

形状から穿孔する機能を有すると思われる石器を石錐とした。69点出土した。そのうち4点図示し

た。

使用石材は下呂石55点（79.4%）、サヌカイト１点（1.4%）、チャート13点（18.8%）で、下呂石が全体の８割を占める。下呂石の内、下呂石黒は２点である。

形態と先頭部の数より、次のように分類した。

１類：不定型な剥片を素材とし、その一端に簡単な調整を加え、機能部を作出したもの。

２類：錐部作出のための調整が１類より進み、つまみ部を有し、錐部と基部が分かれるもの。

３類：ほぼ全面に調整剥離が施され、細身棒状に仕上げられたもの。

そのうち、錐部が一つのものをａ類、二つのものをｂ類とした。それぞれの出土点数は１ａ類20点、１ｂ類１点、２ａ類24点、２ｂ類８点、３ａ類10点、３ｂ類６点である。

４．削　器

剥片の周囲を２次的に加工して定型化し、刃部を持つ石器を削器とした。いわゆるサイドスクレイパーで、エンドスクレイパー（掻器）は１点も抽出されていない。18点出土し、そのうち14点を図示した。使用石材は、下呂石12点、チャート３点、サヌカイト１点、安山岩２点である。

５．ヘラ形石器（1126～1131）

剥片の両側を折るなどして細長いヘラ状の形にし、一端に刃部を持つものをヘラ形石器とした。21点抽出された。そのうち６点図示した。使用石材は、下呂石が14点、チャートが６点、サヌカイトが１点である。1129は石核からの転用だと考えられる。

６．二次加工のある剥片（ＲＦ）、使用痕のある剥片（ＵＦ）、抉りのある剥片（1132～1134）

使用痕のある剥片（ＵＦ）145点のうち、抉り状の使用痕がある剥片が33点あった。使用石材は、普通のＵＦが下呂石83点、チャート27点、サヌカイト１点、安山岩１点であるのに対し、抉り状のＵＦは、下呂石20点、泥岩11点、凝灰岩１点、チャート１点で、抉り状のＵＦには泥岩も多く使われているのが特徴的である。1134は下呂石製の小型のもので、異形石器である可能性もある。

７．石核、残核、ピエス・エスキーユ

石核は1342点抽出された。そのうち、1265点（94.3%）が下呂石である。下呂石の石核のうち1082点は、円礫の表皮が残っている。残っている表皮のカーブからもとの礫の大きさを推定すると、だいたい直径10cm前後の礫が多いと考えられる。これらの円礫は、本遺跡の近くの木曽川から採取されたものと考えられる。残る178点は、円礫の表皮を持っていないもので、表皮が角張っていて、風化があまり進行していない。この円礫起源でないものは、下呂石の産地である、岐阜県益田郡下呂町の湯が峰の露頭やすぐ下流の河原等で採集されたものと思われる。

円礫起源と、円礫起源でないものとでは、石核の形状や石材の材質に違いが認められる。すなわち、円礫起源の下呂石では1135、1139～1145のような上下両端がつぶれ状を呈するものが526点と円礫起

源全体の48.6%を占める。この中にはピエス・エスキーユも含まれ、1141～1145はピエス・エスキーユである可能性が高い。一方、円礫起源でないものは1129、1137、1138などがあり、形状は様々である。そのうち両端がつぶれ状を呈するものは58点あり、円礫起源でないもの全体の32.6%と少ない。1146は大きな残核で16期以降の集石遺構の石の一つとして出土した。

両端につぶれが見られる石核の、つぶれ間の長さを測定すると、最長のもので89mm、最短のもので18mmであるが、30～50mmのものが大部分を占める。両側につぶれのある円礫からの一次剥片でも、最小のものは18mmで、この大きさが目的とされる剥片の最小の大きさと考えられる。

石材の材質の違いでは、肉眼による観察では、円礫起源のものは、割れ面も白く風化しているのに対し、円礫起源でないものは、割れ面が黒く風化の度合いが低い。これはほとんどすべてが例外なく同じ傾向を示しており、石材の割られた時期による差とは考えにくい。そのため、円礫起源でないものは、円礫起源のものよりも質の良い下呂石を持ち込んでいるものと思われる。

下呂石以外の石材としては、チャート57点、泥岩15点、安山岩5点である。

8．剥片類

出土した剥片は、どの石材のものもすべて取り上げた。石材別にみた1辺が2cm以上の剥片の数と細片も含めた総重量は第4表の通りである。

第4表　剥片の石材別出土点数

石　材	点　数	重量(g)	石　材	点数	重量(g)
下呂石（風化大）	8,443	44,556	安山岩	71	967
下呂石（風化小）	270	1,175	凝灰岩	53	992
チャート	755	5,908	緑色岩	15	252
黒曜石	45	1,355	濃飛流紋岩	13	404
泥　岩	317	6,995	花崗岩	2	137
砂　岩	139	2,748			

9．打製石斧（1147～1157）

1148点抽出された。後述する粗製剥片石器と区別が困難なものがあるが、打製石斧としたものは、刃部側縁が摩耗していることが多く、この部分に摩耗痕が見られるものは打製石斧とした。

使用石材は泥岩が1082点（94.3%）で圧倒的に多い。他は、砂岩32点（2.8%）、頁岩14点（1.2%）、凝灰岩7点（0.6%）、安山岩6点（0.5%）、緑色岩4点（0.3%）、濃飛流紋岩3点（0.3%）で、どの石材も野笹遺跡付近の木曽川の河原で普通に見られる石材である。

打製石斧の形状は、すべて胴部が平行ないわゆる短冊形か、やや基部に向かって収束するいわゆるバチ形である。

打製石斧のうち、完形のものは249点（21.7%）で、折れた状態のものが899点（78.3%）と圧倒的に多い。折れたものについて折れの部位によって次のように分類した。それぞれの点数と全体からの割合は、次の通りである。

a類：先端部が残存。	409点（35.6%）
b類：基部が残存。	228点（19.9%）
c類：先端も基部も欠落して、胴部のみが残存。	216点（18.8%）
d類：部位が特定できないもの。	46点（ 4.0%）

10. 磨製石斧（1156～1164）

17点出土した。1158～1160は大型の石斧である。基部の側面も面が作られており、縄文時代のものである可能性が高い。1161は扁平片刃石斧で、弥生時代のものと思われる。1162は十分定型化されていないが、全体が磨かれており、磨製石斧の折損品と思われる。1163、1164は小型のもので縄文時代のものである可能性が高い。

使用されている石材は、ヒン岩1点、緑色岩5点、凝灰岩4点、結晶片岩5点、泥岩2点である。

折れたものは13点あり、折れの部位によって次のように分類した。それぞれの点数と全体からの割合は、次の通りである。

a類：先端部が残存。	6点
b類：基部が残存。	2点
c類：先端も基部も欠落して、胴部のみが残存。	4点
d類：先端部の一部のみ残存。	1点

11. 打欠石錘

円礫に、数枚の剥離を施すことにより、紐掛かり部を作出した石器を打欠石錘とした。19点抽出された。使用されている円礫の形状や剥離の位置により、次の4種類に分類した。

a類：小型の楕円礫の長軸側両端に紐掛かり部を作出したもの。（1165～1168）

b類：泥岩などの薄く平たい円礫を使用したもの。（1169～1171）

c類：小型の楕円礫が半分に割れたものを使用したもの。（1172～1174）

d類：やや大きい円礫を細長く割り、長軸側の両側面に紐掛かり部を作出したもの。（1175、1176）

それぞれの点数と重量の範囲は次の通りである。

a類：10点　16～75g

b類：4点　18～54g

ｃ類：３点　17～90ｇ

ｄ類：２点　113～240ｇ

使用されている石材は、砂岩７点、泥岩９点、凝灰岩２点、安山岩１点である。

12. 切目石錘

小型の楕円礫の長軸両端に、切り目を施すことにより紐掛かり部を作出した石器を切り目石錘とした。５点出土した。重量の範囲は７～72ｇである。使用石材は、泥岩３点、安山岩と凝灰岩が１点ずつである。

13. 砥　石

25点出土した。砥石は縄文時代から近現代まで存在するので、包含層出土のものは時期が特定できない。住居等の遺構から出土したものは、その遺構の時期のものと考えられる。石材は、砂岩９点、泥岩２点、凝灰岩11点、頁岩３点で、古墳時代以降の遺構から出土しているものはすべて凝灰岩製である。

14. 磨石・凹石類

主に円礫を素材とし、その表面に凹み、敲打痕、磨面が認められるものを磨石・凹石・叩石類とした。全部で38点抽出された。これらは、１つの石器で複数の機能を持つものが多いのでまとめて扱い、それぞれの機能ごとに分類した。

(1)　磨石

磨面の判定は、困難を極めた。ここでは、明らかに磨っているものを磨石とし、可能性はあるが断定しかねるものは除外した。また、表面がかなりつるつるな状態でも、流水等の作用によるものと思われるものも除外した。そのため、除外したものの中に磨石として使われていたものがある可能性は否定できない。25点抽出した。

磨面の種類と位置について次のように分類し、それぞれの組み合わせで分類した。

磨面の種類

１類：自然面を加工しないでそのまま磨面としたもの。つるつるした表面となる。

２類：敲打等によって一定の面を作出した後で使用されたもの。

磨面の位置

Ａ類：表裏面の片面もしくは両面のほぼ全面。

Ｂ類：表裏面の片面もしくは両面の一部。

Ｃ類：短軸方向の側面。

Ｄ類：礫の表面全面。

それぞれの磨石の点数は、１Ａ類23点、１Ｂ類１点（その裏面は１Ａ類）、２Ｃ類１点、１Ｄ類１点（105）である。

(2)　凹石

主に円礫を素材とし、表裏面の片面もしくは両面に人為的な凹みが確認されるものを凹石とした。

27点抽出した。

凹みの形状と位置について次のように分類し、それぞれの組み合わせで分類した。

凹みの形状

Ⅰ類：細かい敲打痕が集中しているもの。

Ⅱ類：細かい敲打痕が分散しているもの。

Ⅲ類：細長く深い凹みのもの。たいていの場合、右上がりに凹みがつけられている。

凹みの位置

ａ類：ほぼ中央にあるもの。

ｂ類：中央からずれているもの。

ｃ類：２つ以上の凹みが重なっているもの。

ｄ類：２つ以上の凹みが重なっているもの。

ｅ類：３つ以上の凹みが不規則にあるもの。

それぞれの凹石の点数は、Ⅰａ類５点、Ⅰｂ類12点、Ⅰｃ類１点、Ⅰｄ類１点、Ⅰｅ類１点、Ⅱａ類１点、Ⅲａ類４点、Ⅲｂ類３点、Ⅲｄ類１点である。表と裏で凹みの種類が違う場合は、それぞれの面で点数を数えている。表と裏で凹みの種類が違う場合の組み合わせは、ⅠａとⅠｂ、１ａと１ｃ、１ａと３ａ、１ｂと１ｅ、１ｂと２ａ、１ｂと３ｂがそれぞれ１点ずつあった。

これらの内、磨石と凹石両方に使用されていたものは14点である。使用石材は、花崗岩６点、安山岩10点、流紋岩１点、濃飛流紋岩３点、凝灰岩１点、礫岩６点、砂岩10点である。

14. 叩石（1190、1191）

細長い円礫の長軸側端部に敲打痕が集中するものを叩石とした。４点抽出した。1191は側面にも敲打痕が見られる。使用石材は、砂岩３点、濃飛流紋岩１点である。

15. 火打ち石？（1188、1192）

1188、1192はチャートを使用し、円礫の側面全面に敲打痕がある。通常の叩石とは使用石材や叩く部位が異なり、これは火打ち石である可能性が高い。３点抽出された。

16. 礫器（1193～1197）

扁平な円礫を素材とし、その一端に数回の剥離を施して刃部を作出した石器を礫器とした。７点抽出し、５点図示した。使用石材は、泥岩３点、砂岩３点、濃飛流紋岩１点である。

17. 粗製剥片石器（1198～1226）

泥岩や砂岩などの緻密でない石材の円礫を素材とし、自然面を残した剥片にそれほど加工を加えていない石器を粗製剥片石器とした。この石器は単なる粗雑な剥片と区別が付かないものや、打製石斧と区別が困難なものがある。76点抽出したが、前述の理由により、見落としの可能性は否定できない。使用石材は、泥岩70点、砂岩４点、緑色岩１点、珪化木１点で、泥岩が圧倒的に多い。どの石材も近くの木曽川で簡単に手に入るものである。

この石器の用途としては穂摘みや穂刈りなどが考えられる。これらの石器10点について使用痕分析を愛知県教育委員会の原田幹氏にお願いしたところ、3点から使用痕が観察された（第5章第1節）。

18. 有肩扇状石器（1227、1228）

粗製剥片石器や打製石斧と同じ石材を用い、刃部と基部が肩を持ってはっきりしており、刃部が外湾している打製石器を有肩扇状石器とした。打製石斧の撥形によく似ているが、刃部の厚さが薄く、調整がされていないことで区別した。2点抽出した。ともに泥岩製である。この2点も使用痕分析をお願いしたが、使用痕は確認されなかった。

19. 靴形石器（1229～1233）

打製石斧と一見同じであるが、基部を持ち、基部は体部に対して斜めになっているものを靴形石器とした。5点抽出した。すべて泥岩製である。

靴形石器と有肩扇状石器の用途は、土掻き具と想定されている（神村　1985）が、今後使用痕からの検討が課題となっている。

20. 磨製石包丁（1234～1236）

3点出土した。1234は完形で出土したが、孔が無いため未製品かと思われた。しかし使用痕分析により使用痕が確認され、この状態で使用されていたことが明らかになった。1236も使用痕が確認されている。3点とも泥岩製である。

21. 磨製石製品（1237）

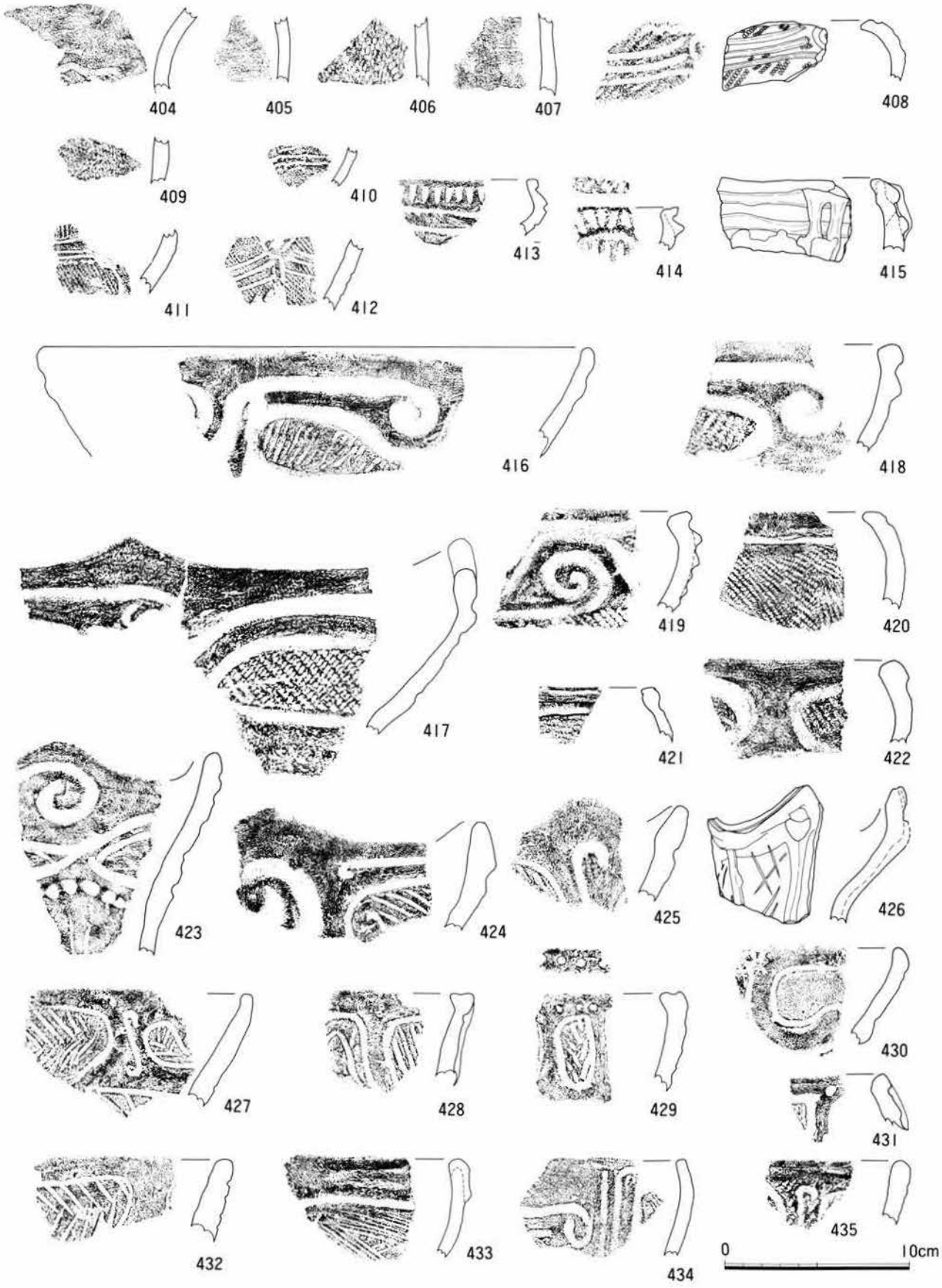
1237は破片がバラバラの状態で出土したが、接合の結果、大型の磨製石製品となることがわかった。外形がわかる部分がほとんどないため、全体形は不明であるが大型の磨製石包丁である可能性がある。

22. 磨製石包丁未製品（1238）

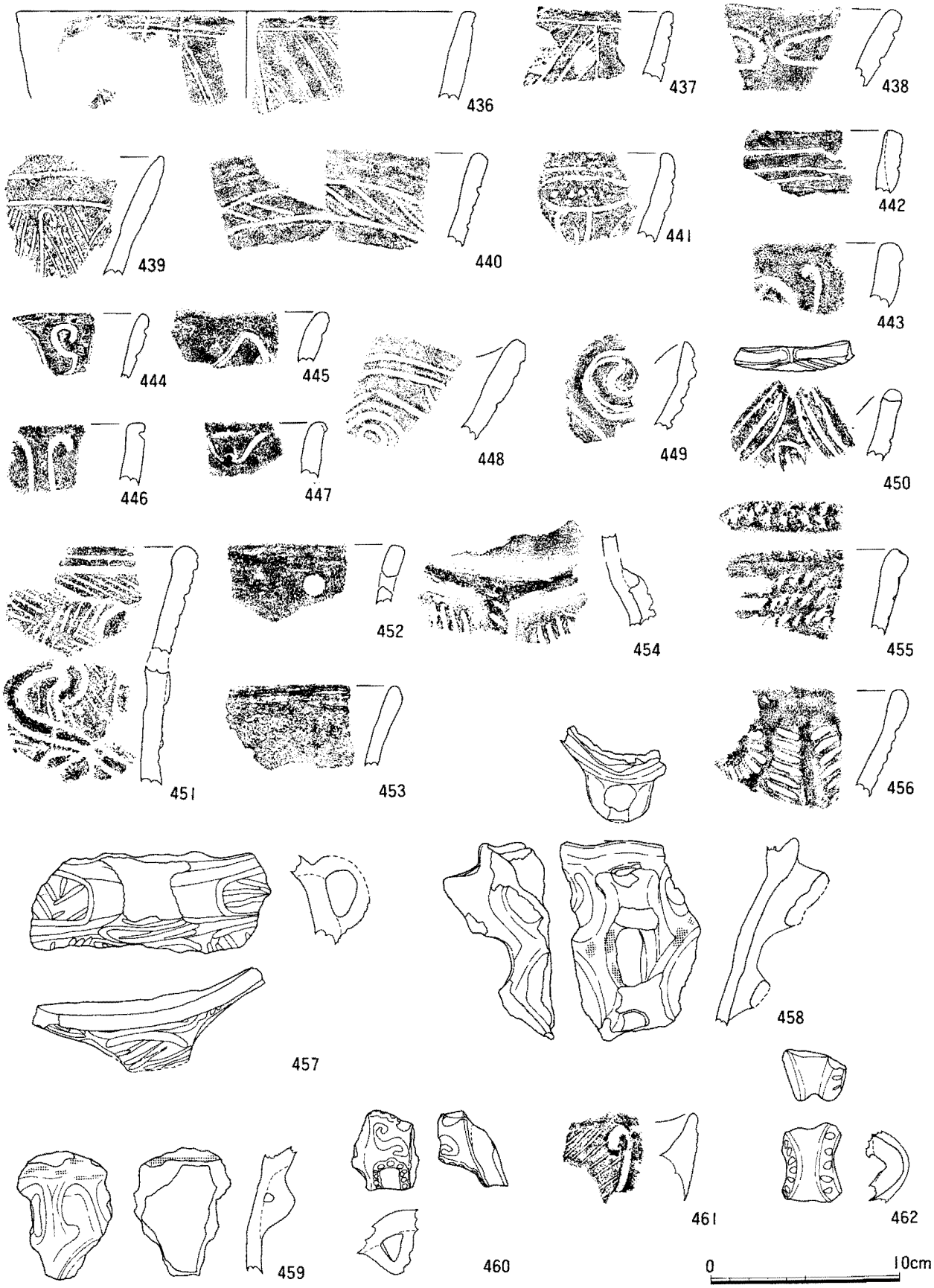
1238は、側面が磨られて刃が潰されて直線状になっており、磨製石包丁の製作過程の途中のものと思われる。

23. 石製品

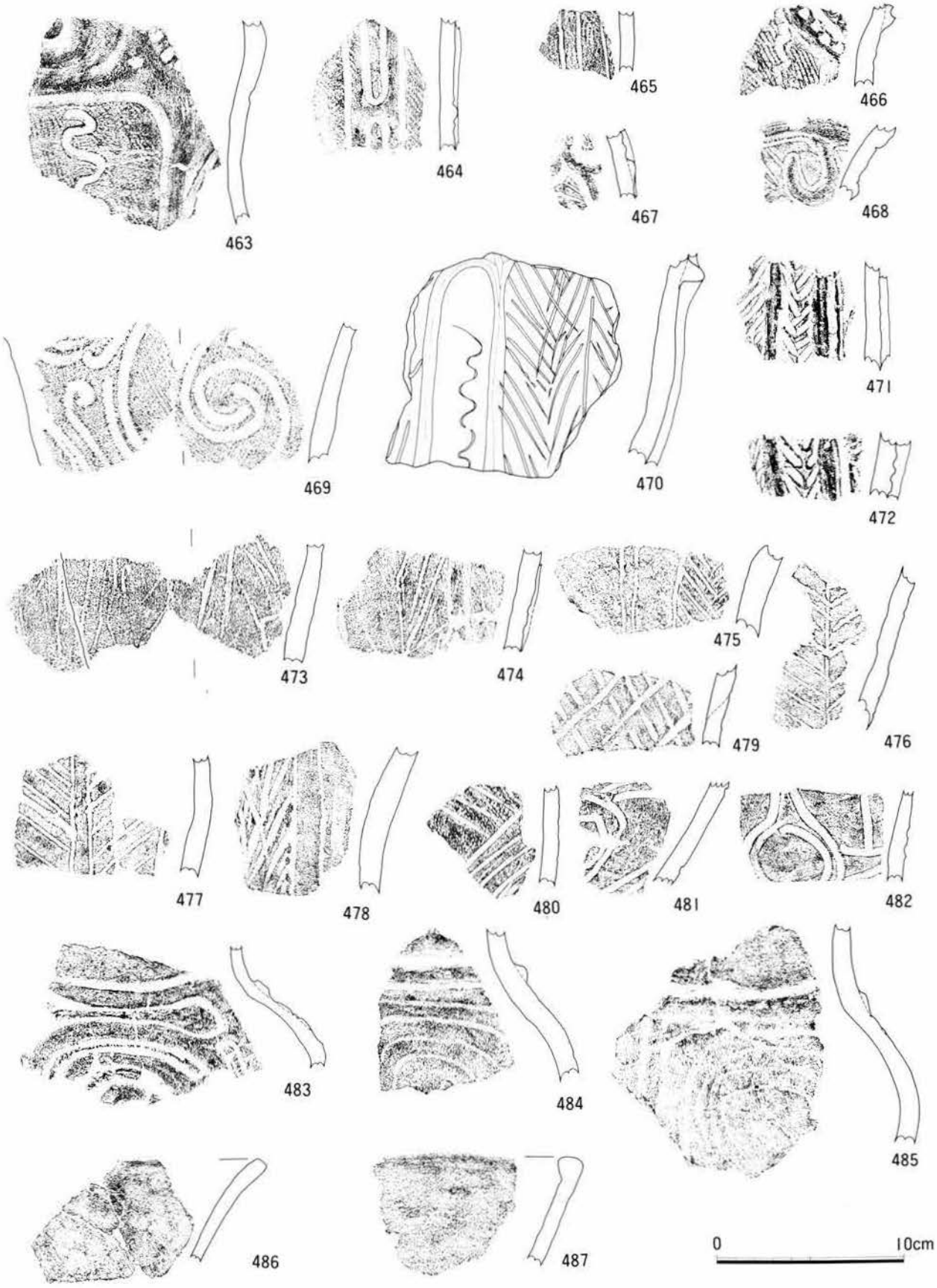
1239は管玉の破片である。緑色岩製で、割れ面から両側から穿孔されたことが確認できる。1240は勾玉で、新しい土坑から出土した。結晶片岩製である。


404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
0
10cm

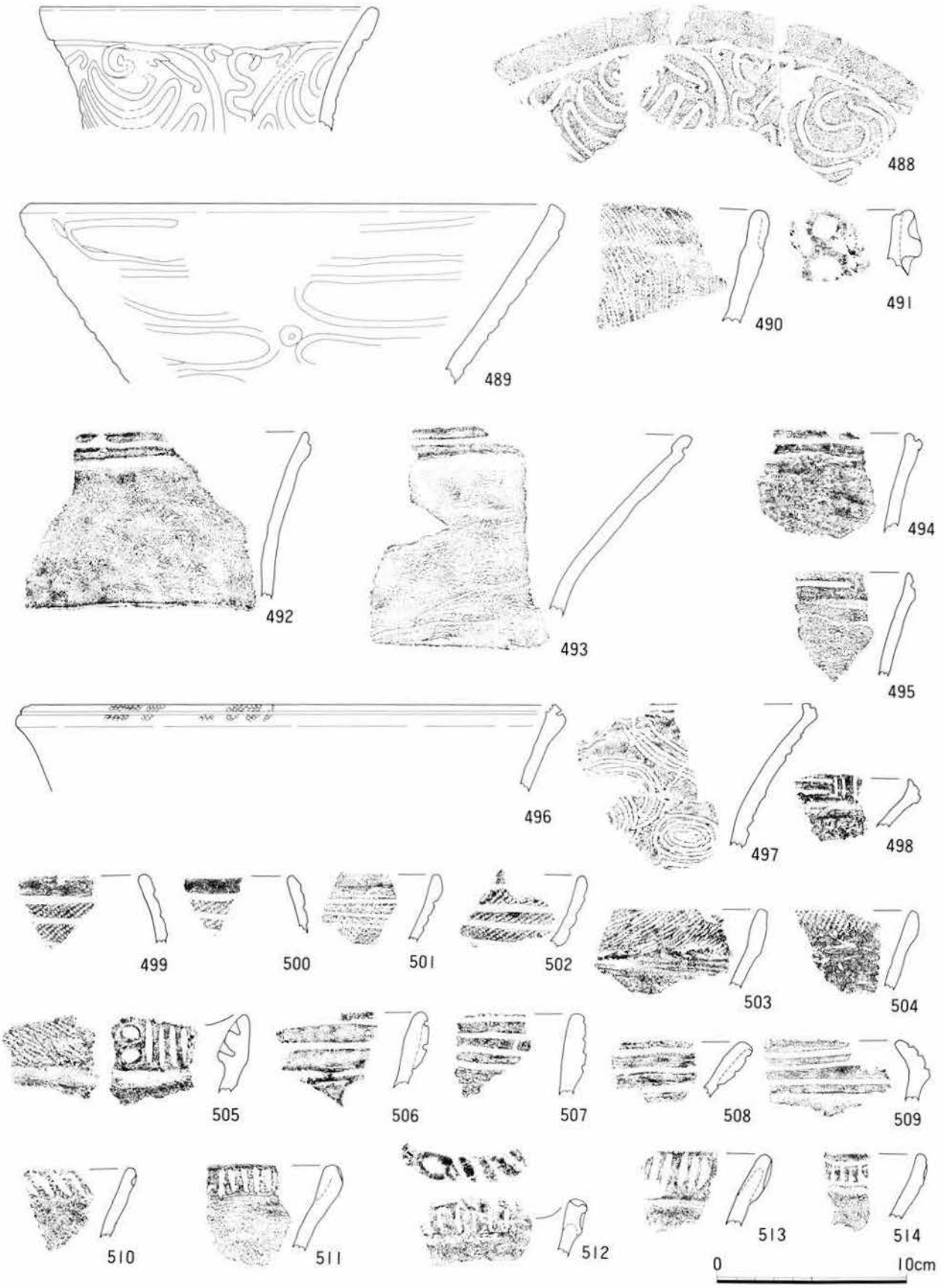
第96図　包含層遺物(1)


436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
0
10cm

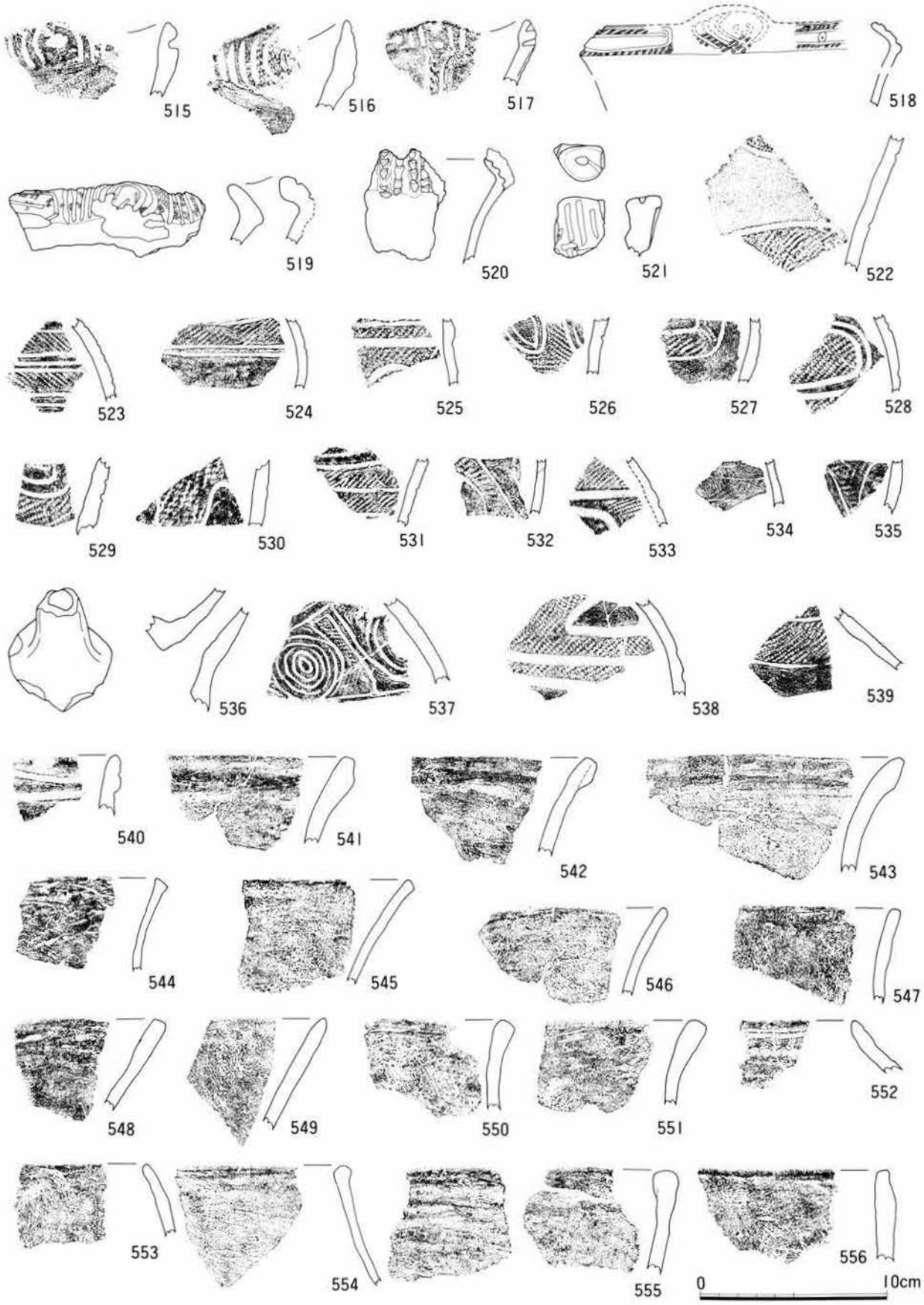
第97図　包含層遺物(2)


463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
0
10cm

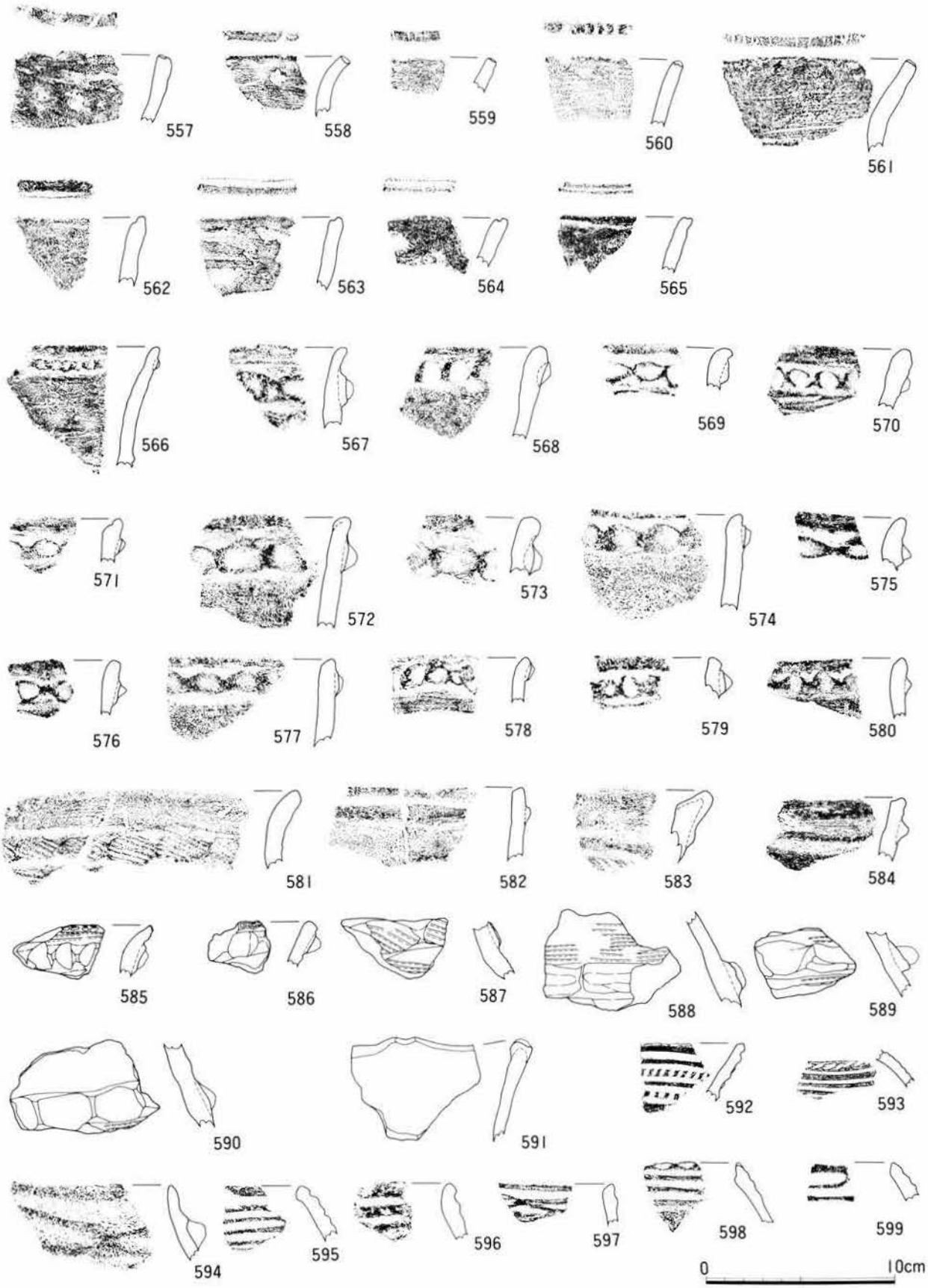
第98図　包含層遺物(3)


488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
0
10cm

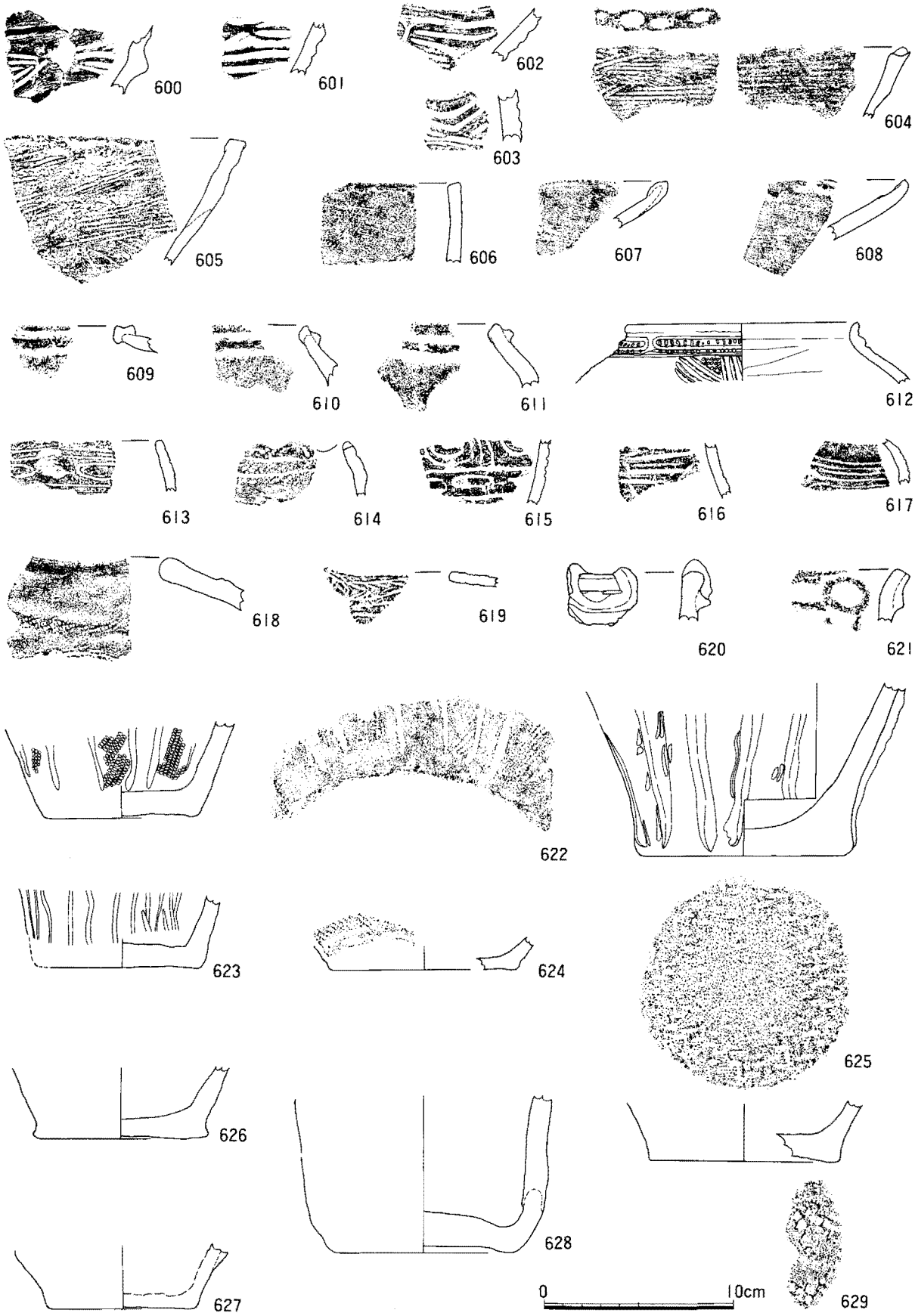
第99図　包含層遺物(4)



第100図　包含層遺物(5)

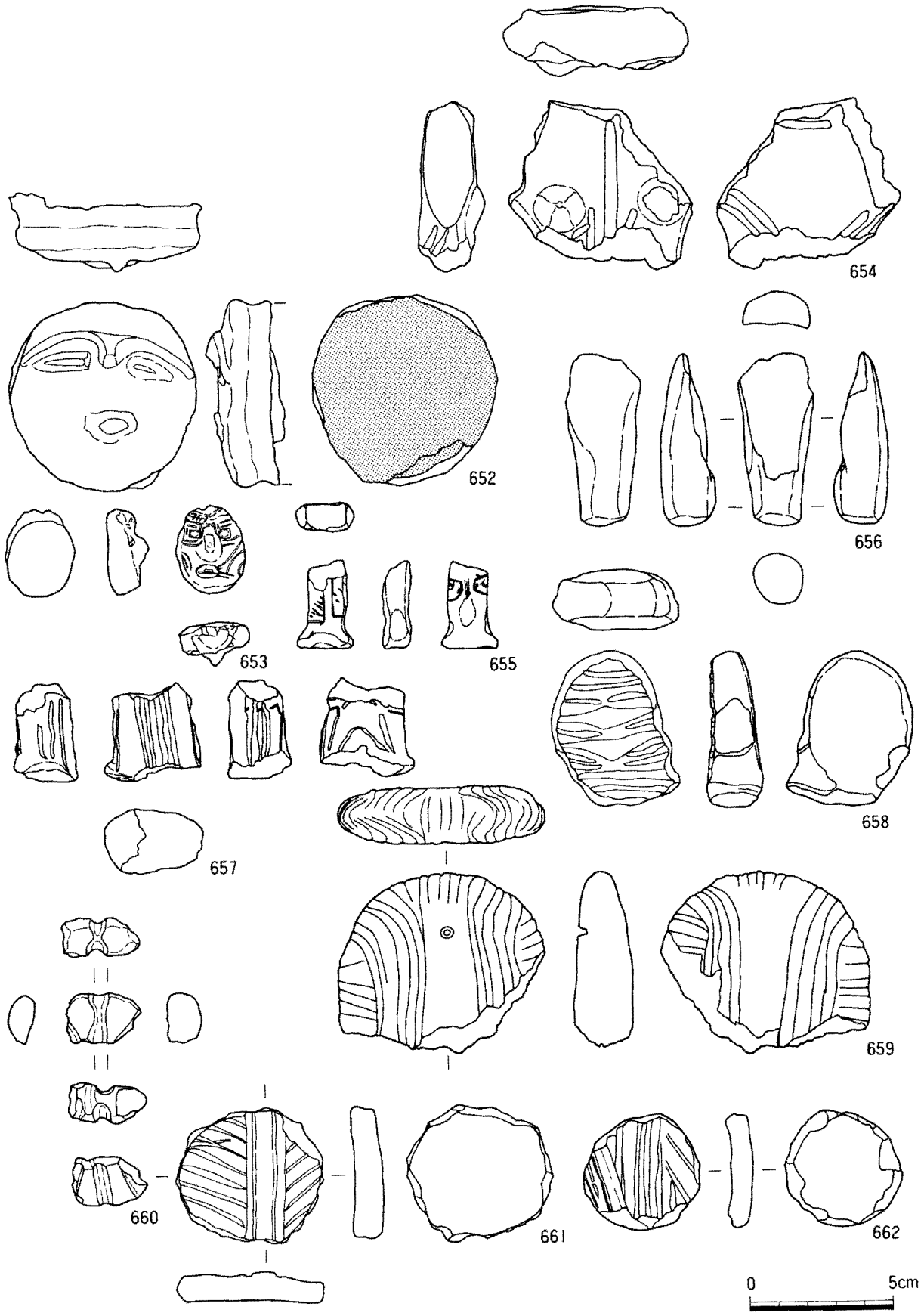


第101図　包含層遺物(6)

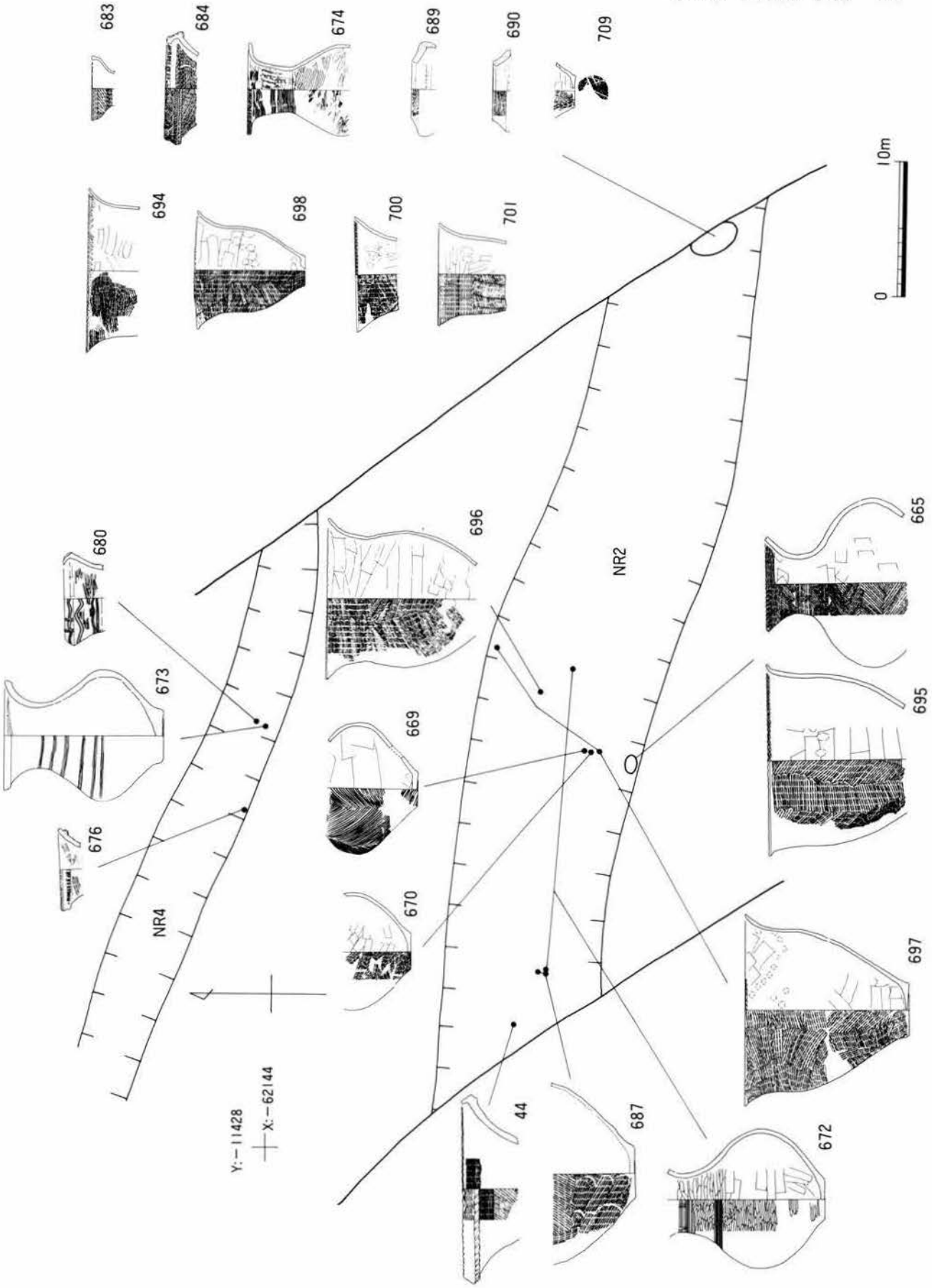


第102図　包含層遺物(7)

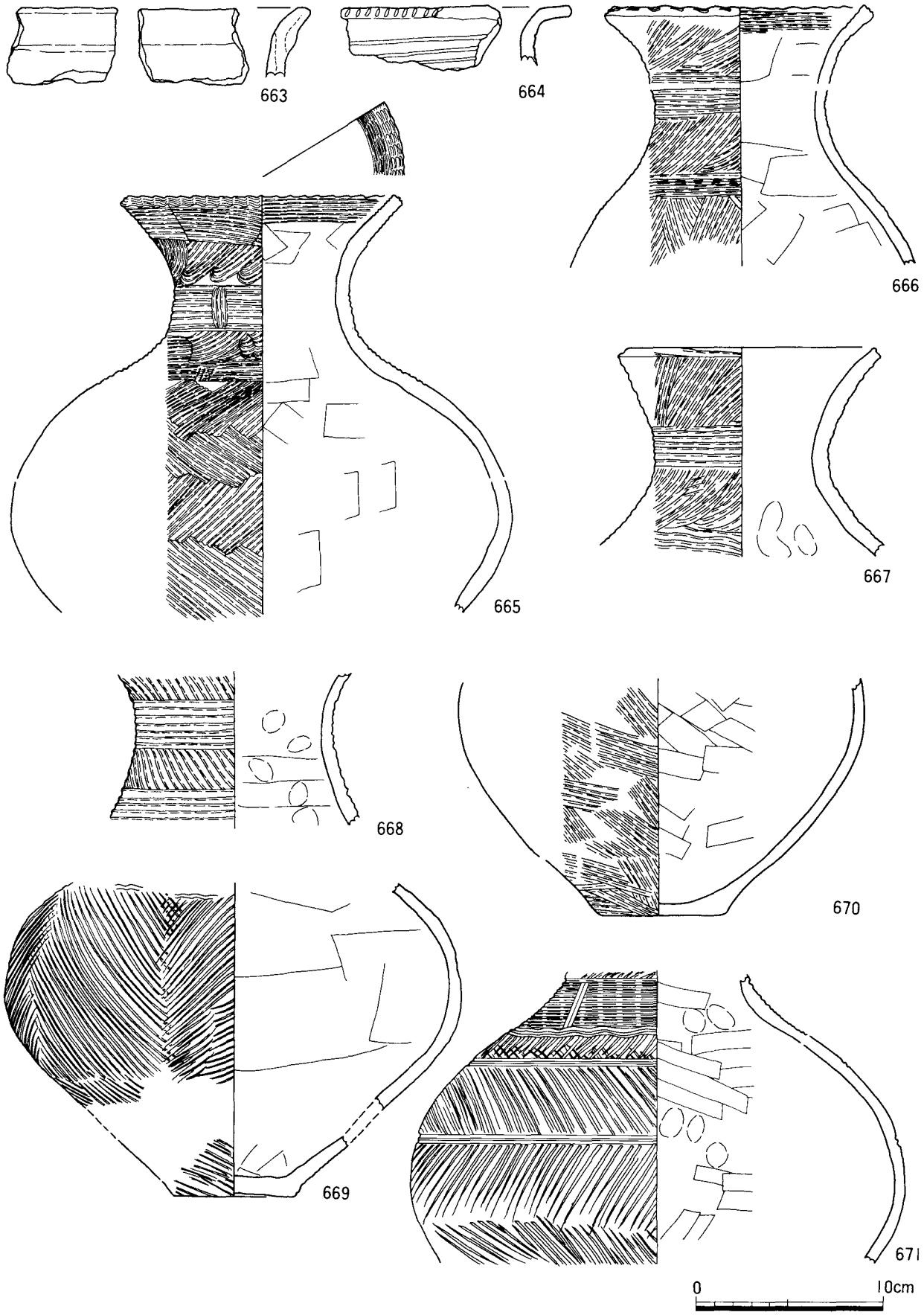
第103図　包含層遺物(8)



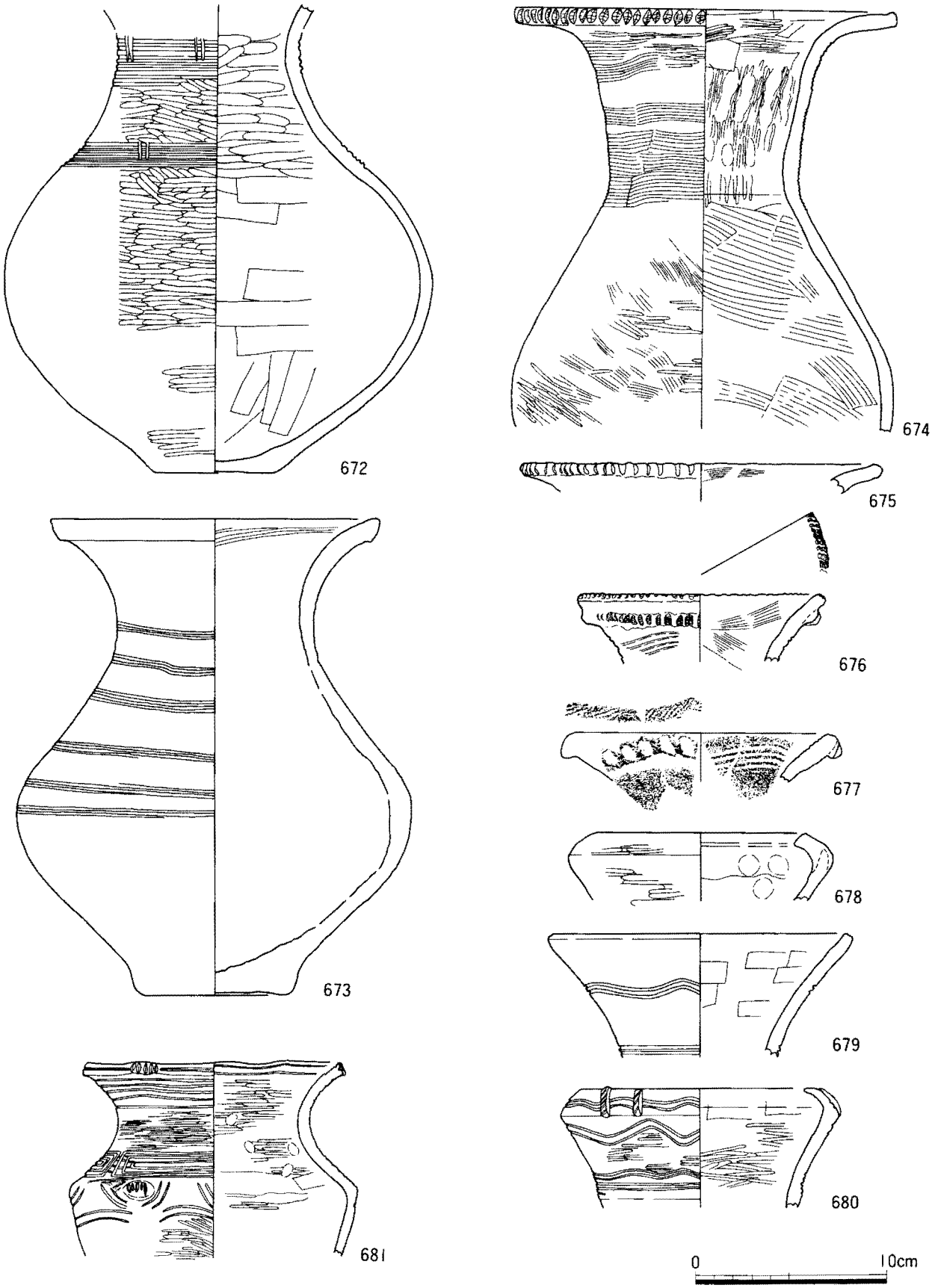
第104図　包含層遺物(9)



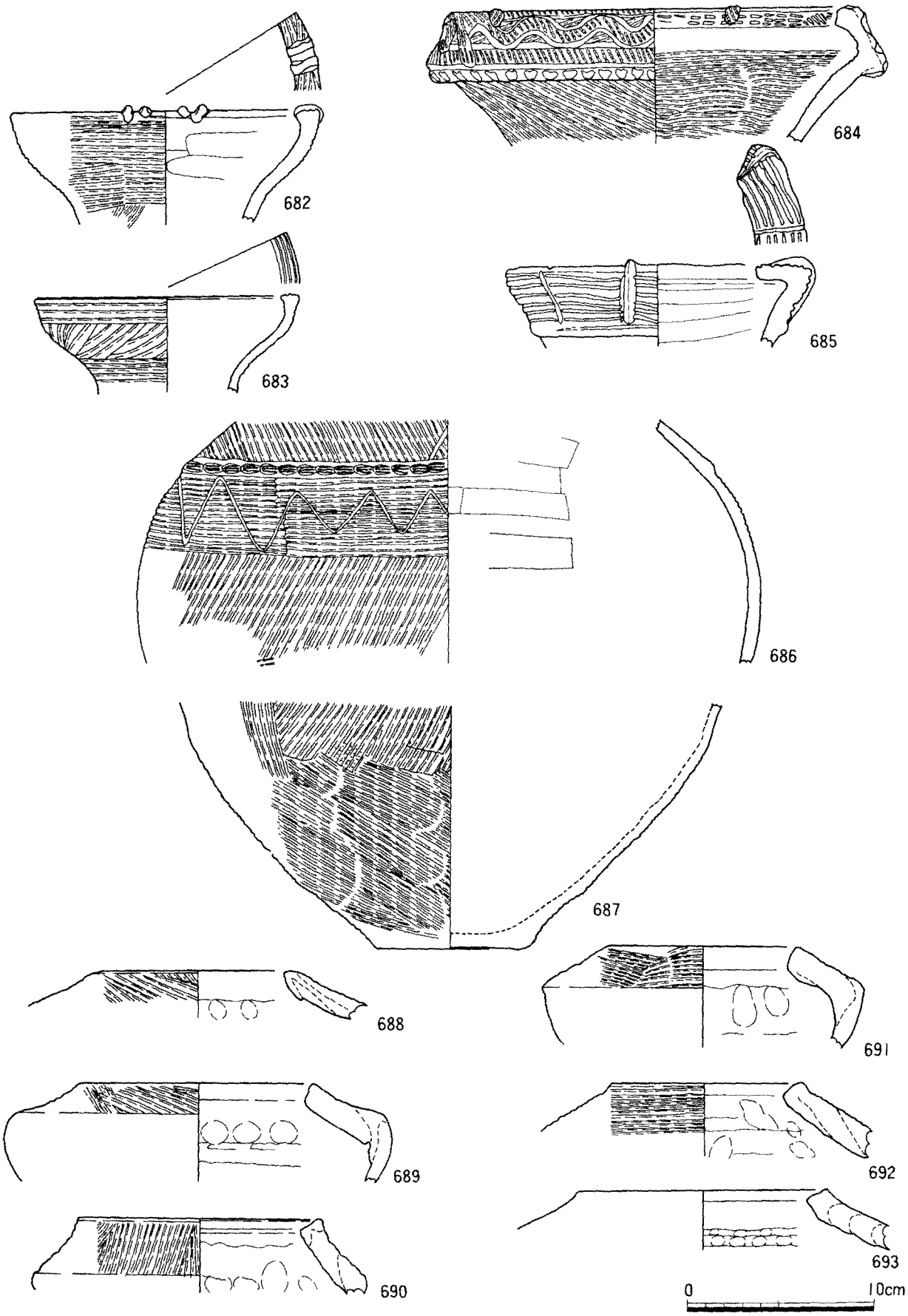
第105図　II期 遺物出土状況



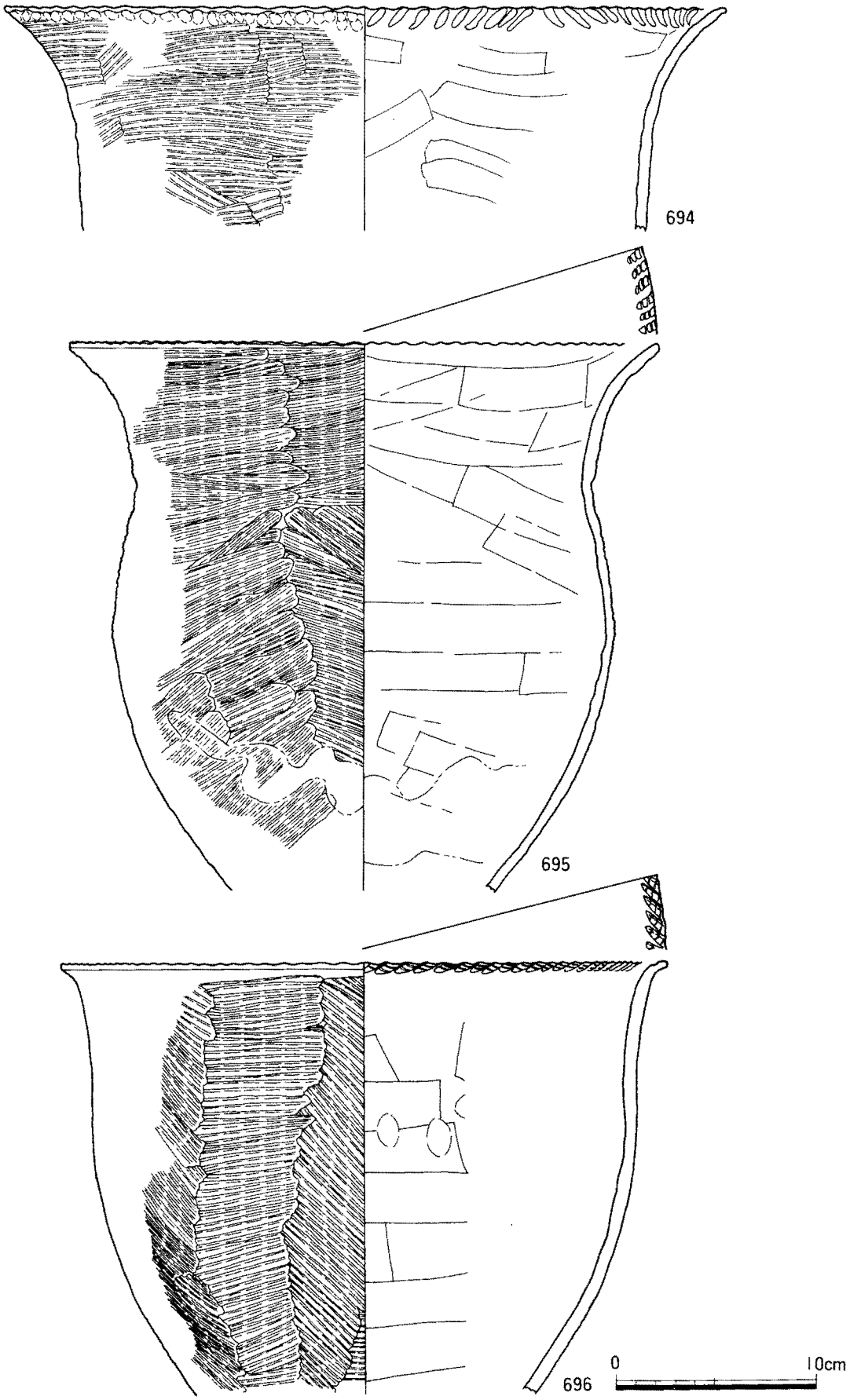
第106図　包含層遺物(10) 弥生土器



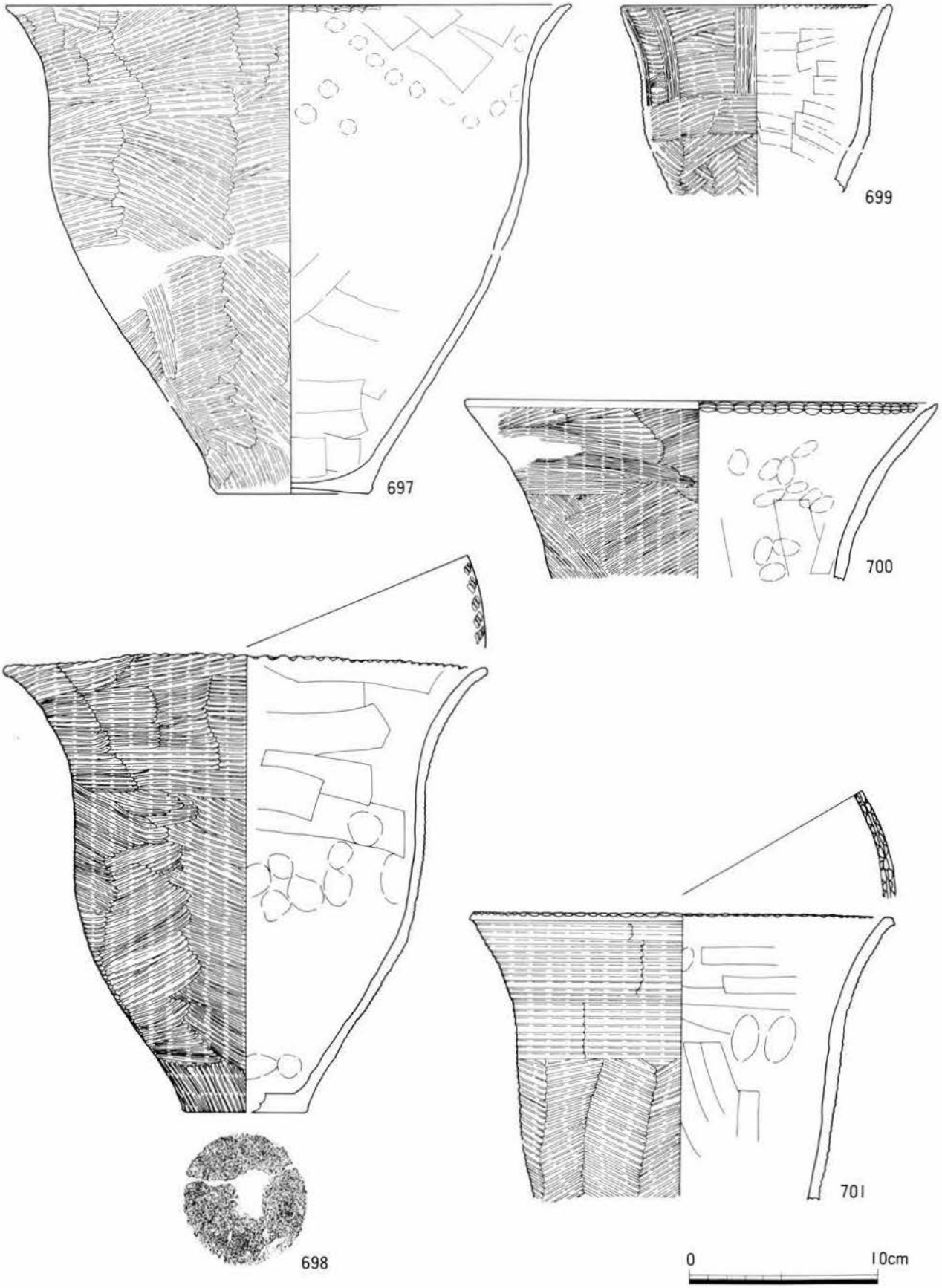
第107図　包含層遺物(11)



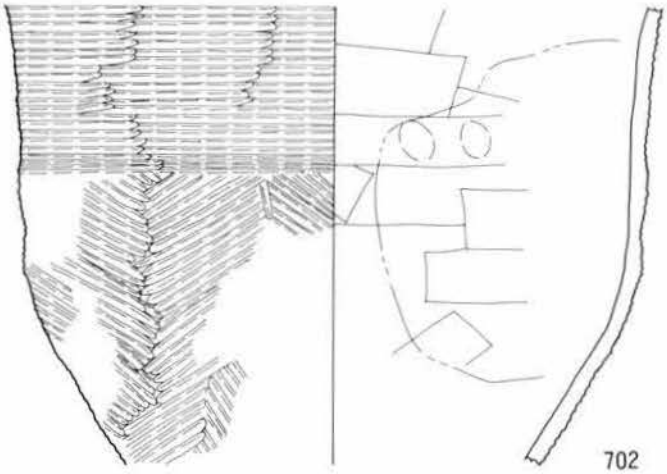
第108図　包含層遺物(12)

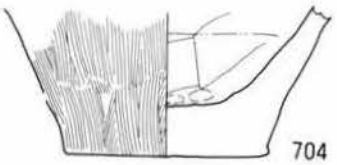


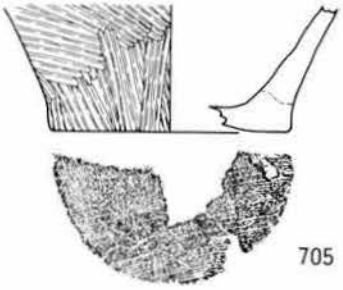
第109図　包含層遺物(13)

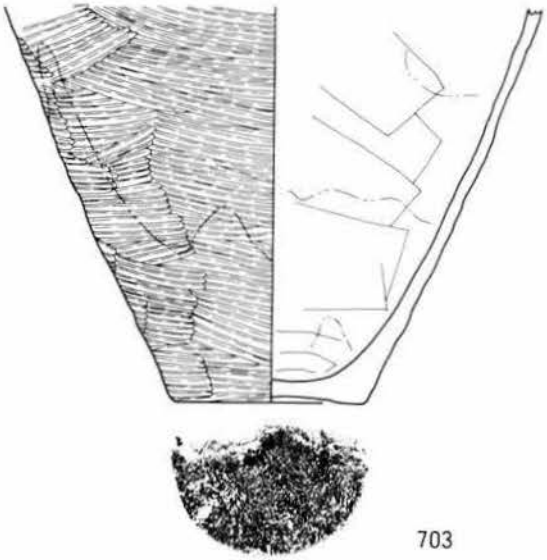


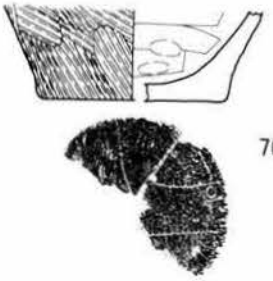
第110図　包含層遺物(14)

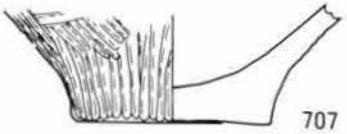


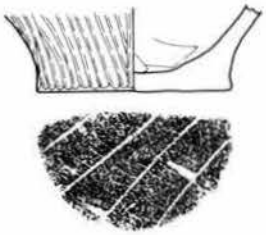


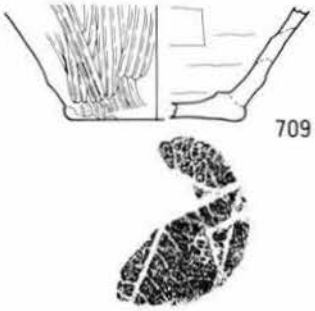


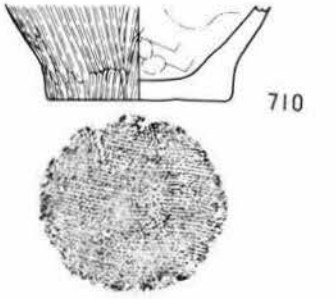




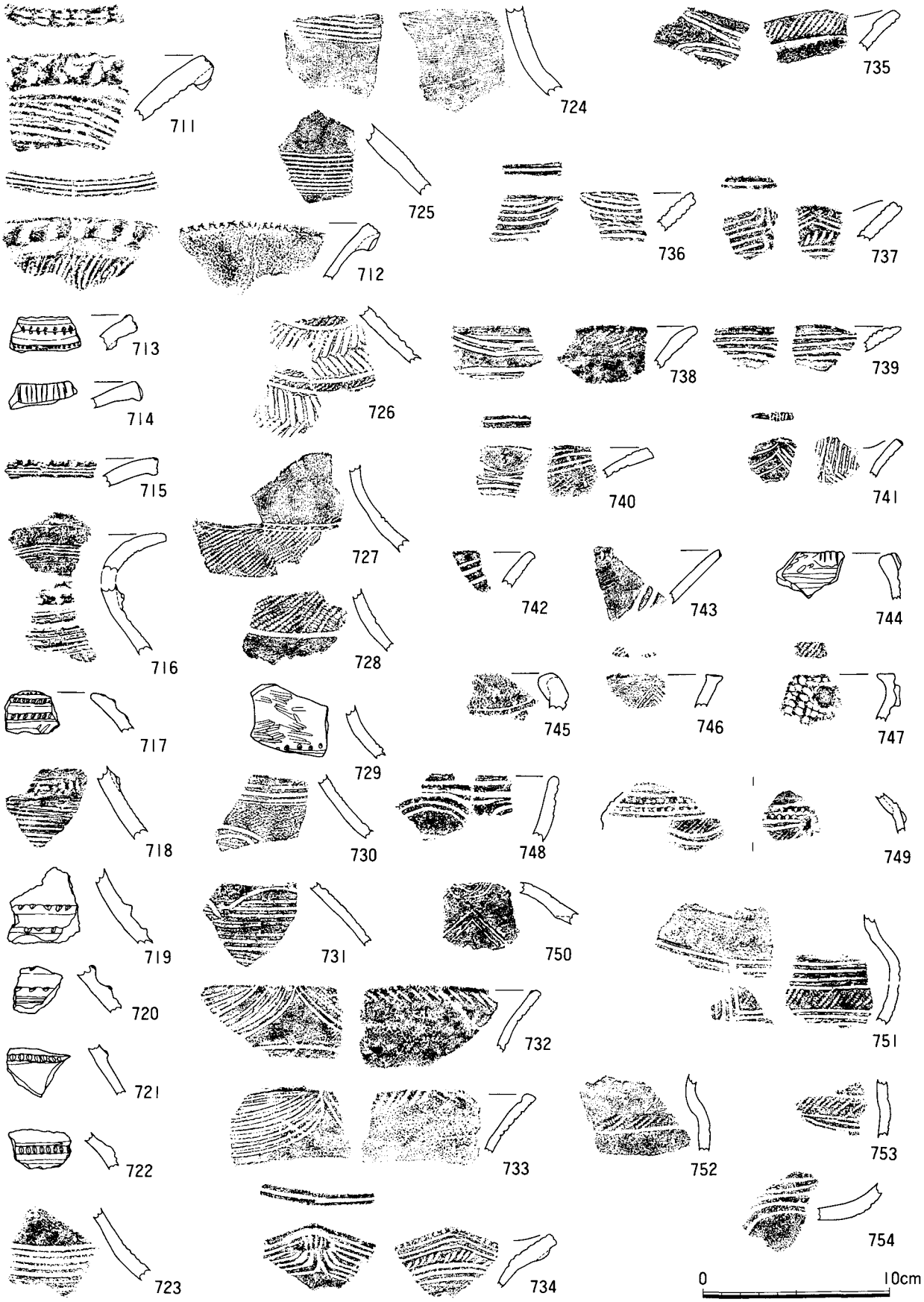




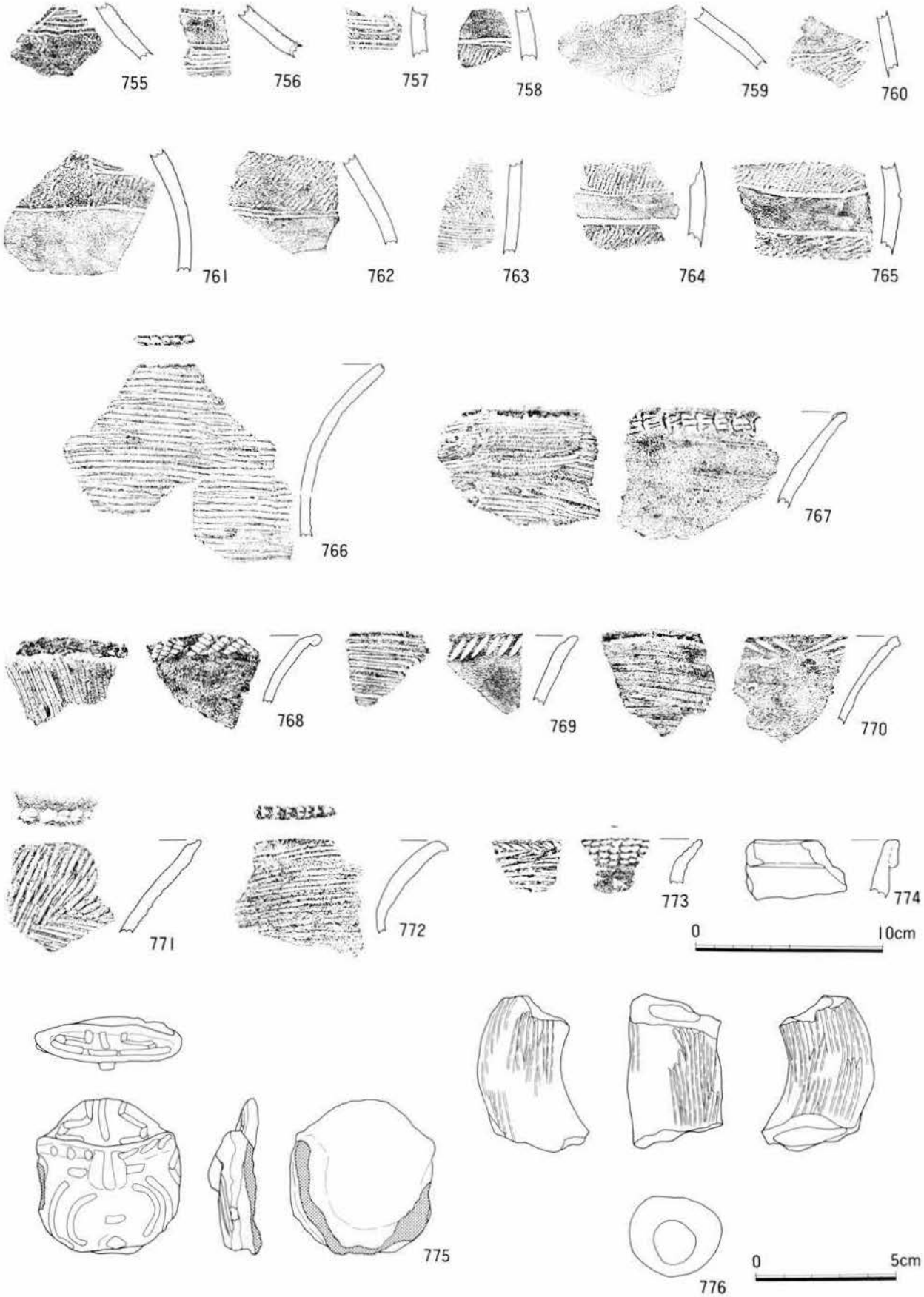




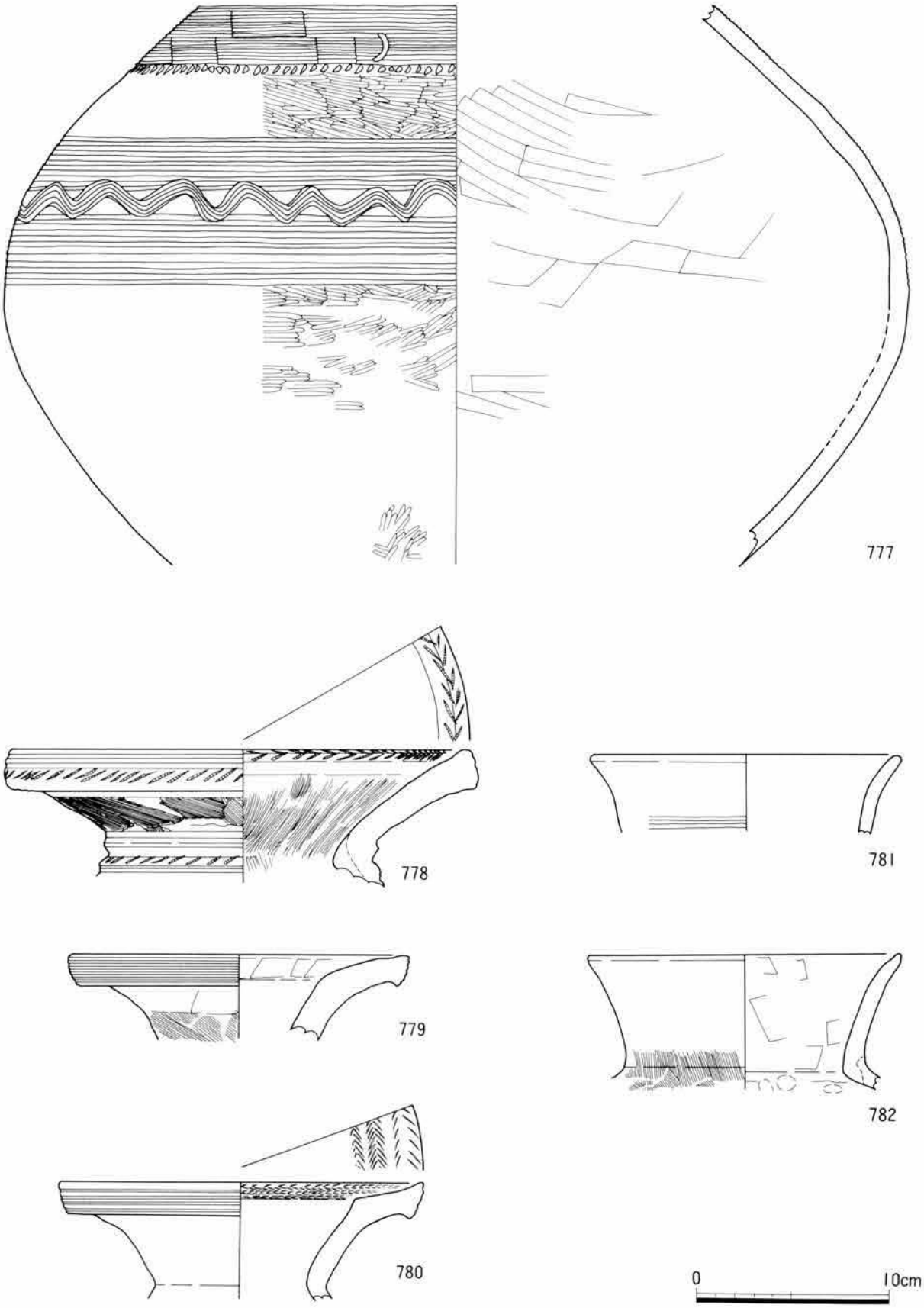
第111図　包含層遺物(15)



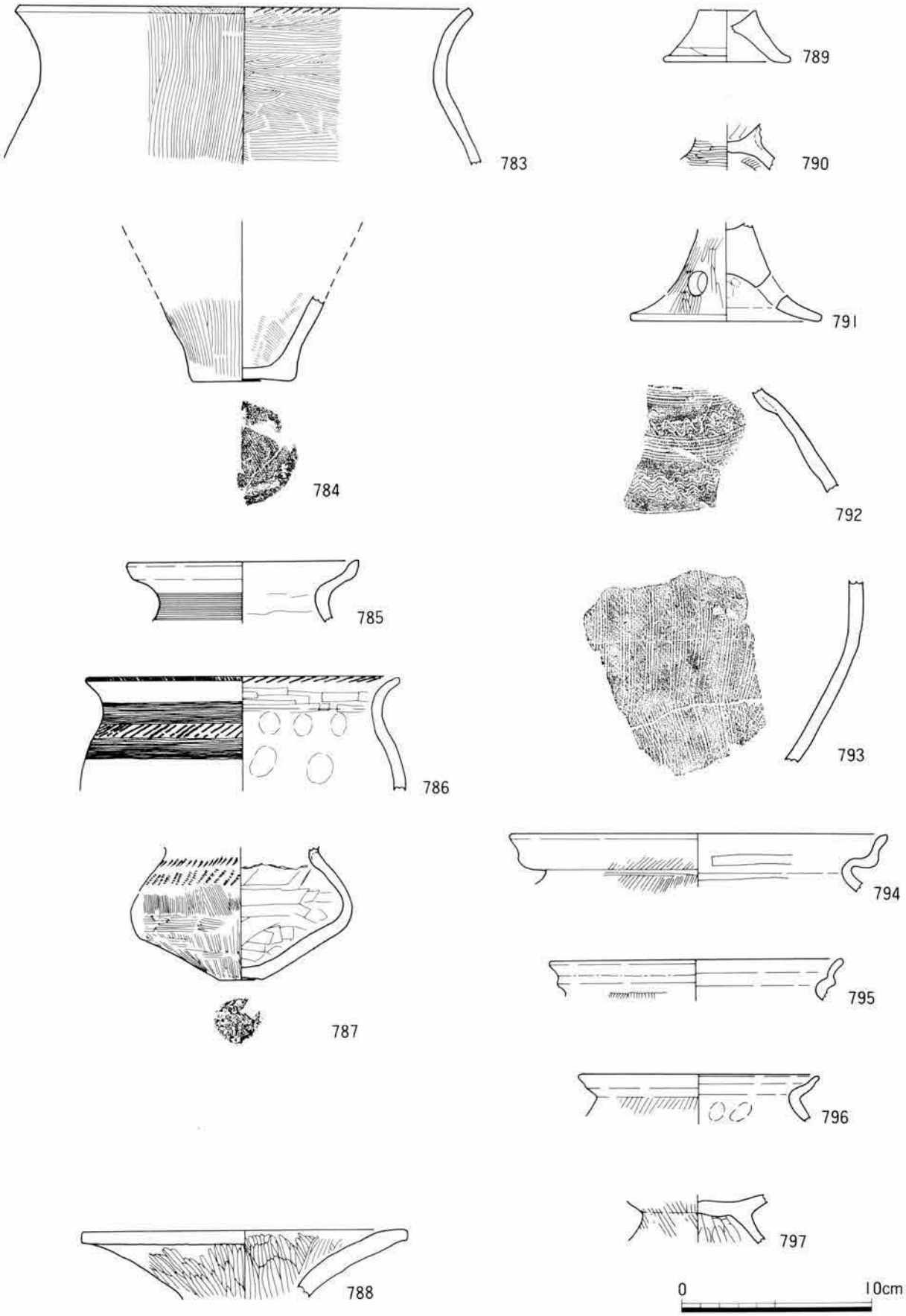
第112図　包含層遺物(16)



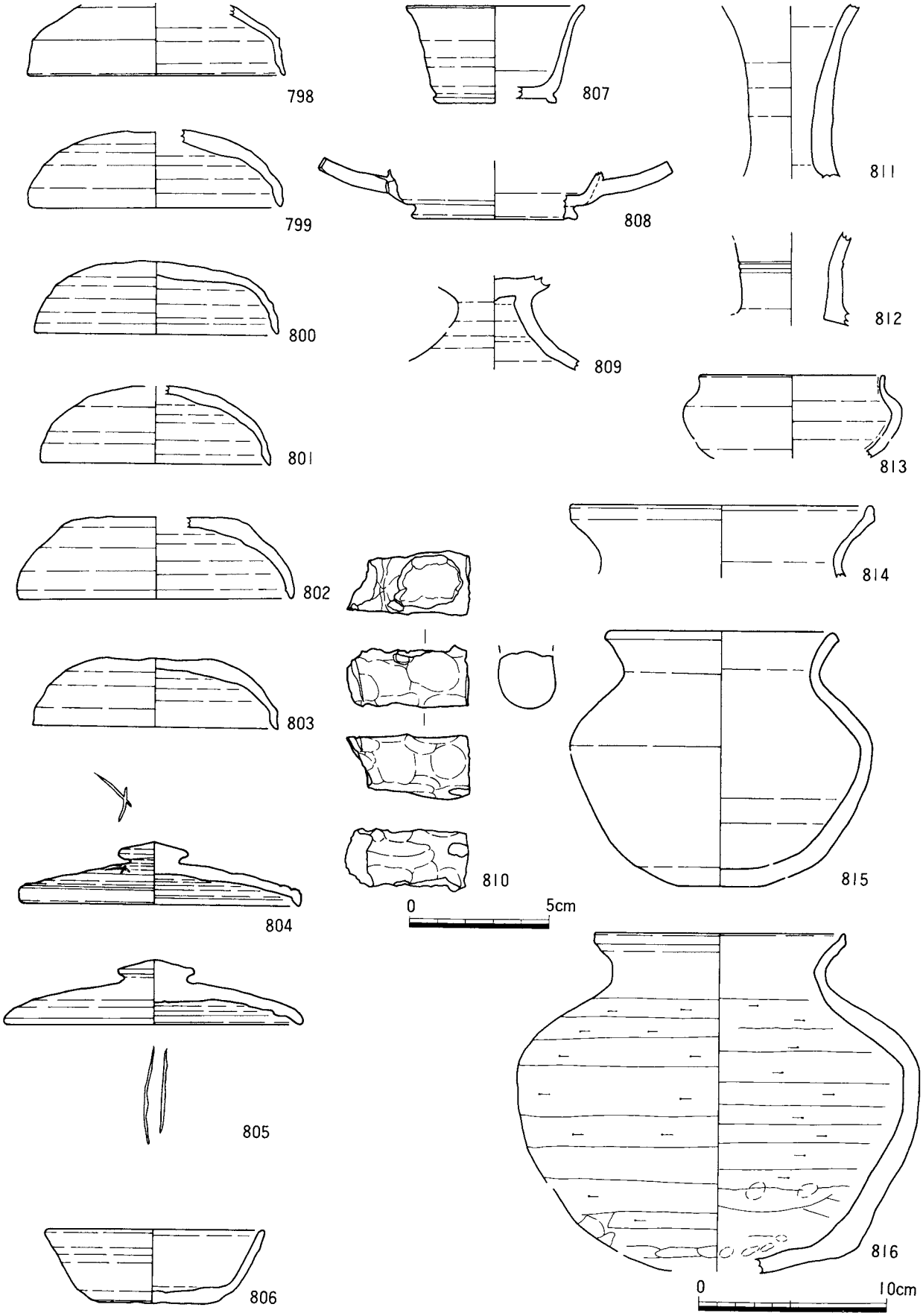
第113図　包含層遺物(17)



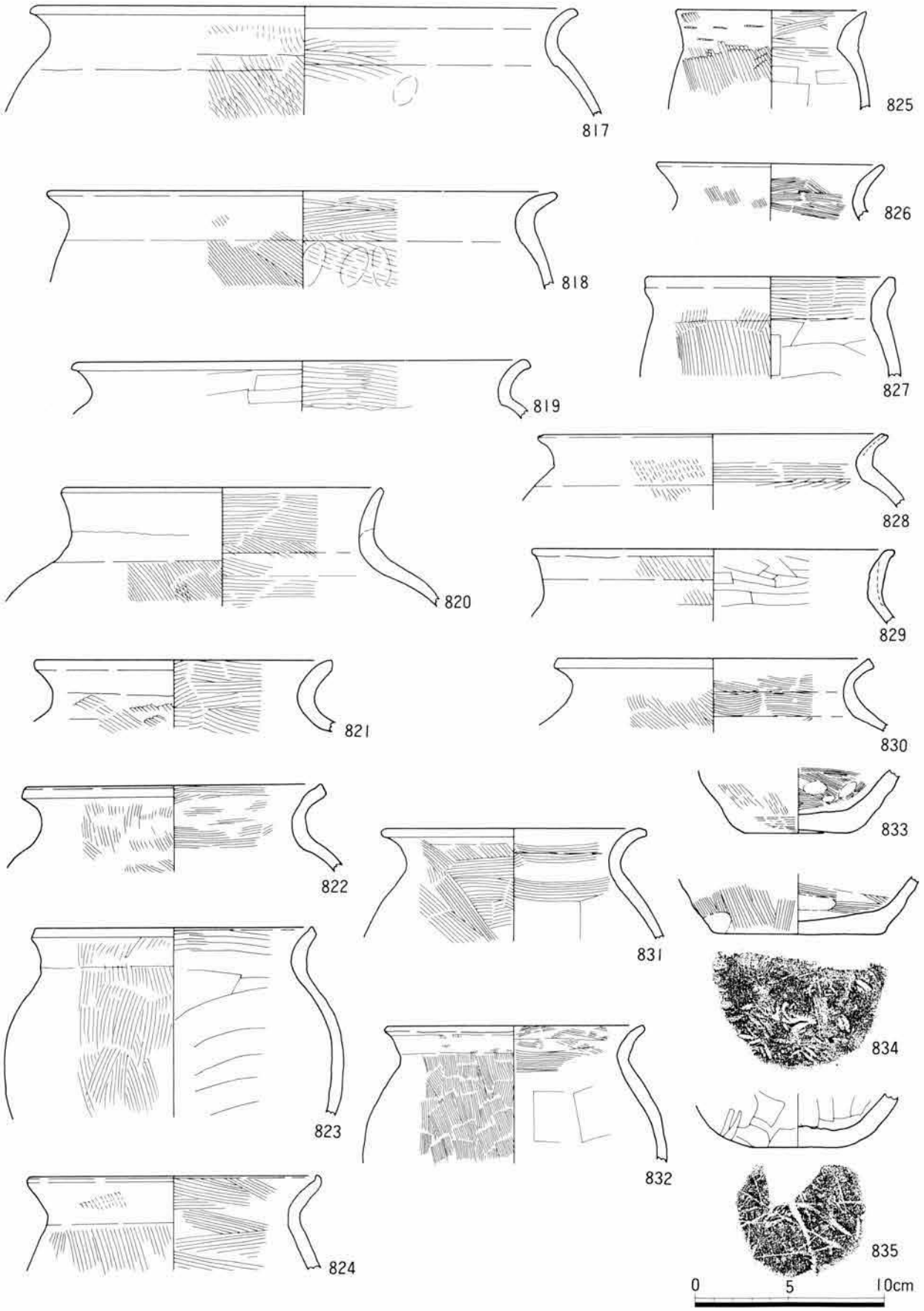
第114図　包含層遺物(18)



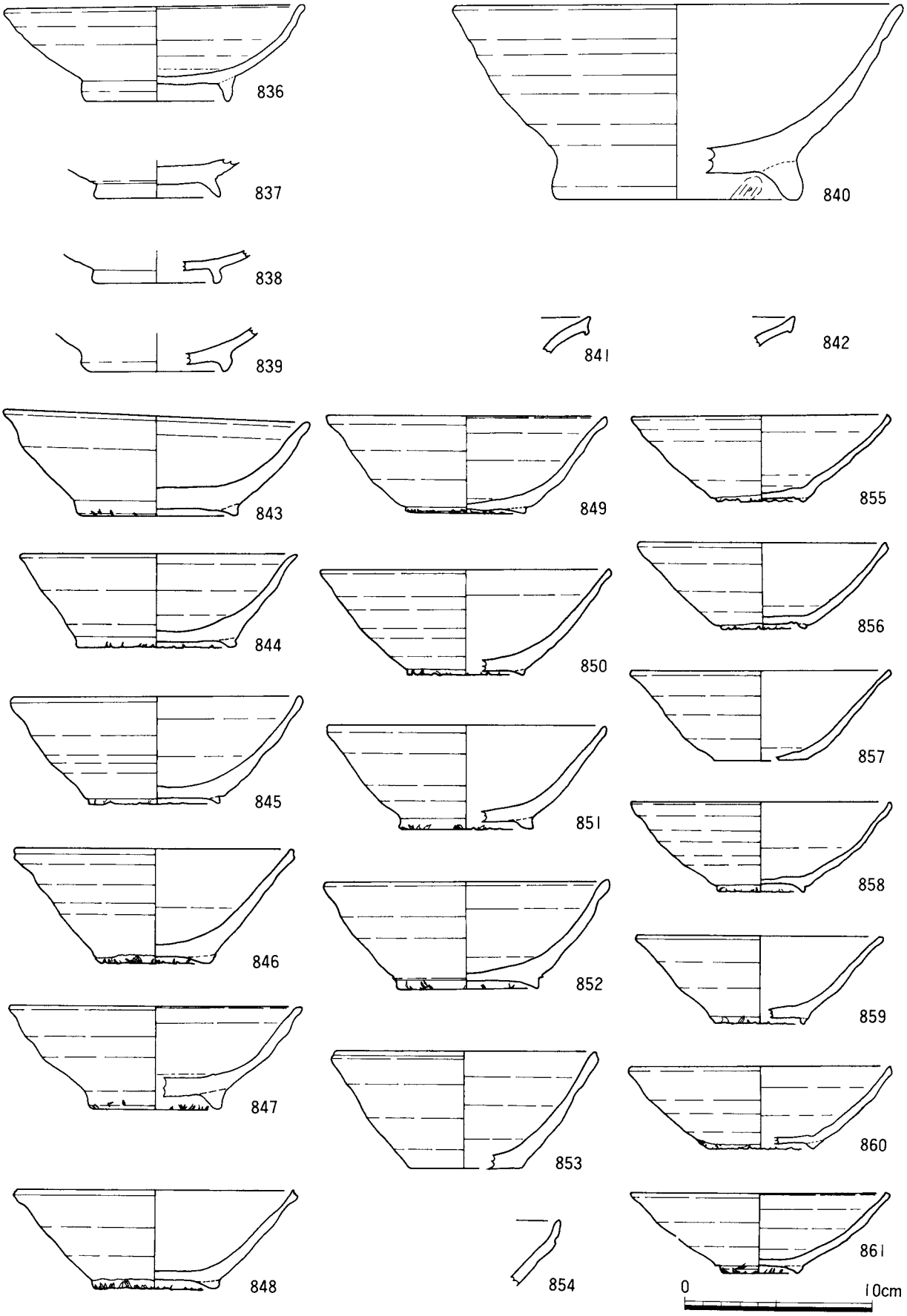
第115図　包含層遺物(19)



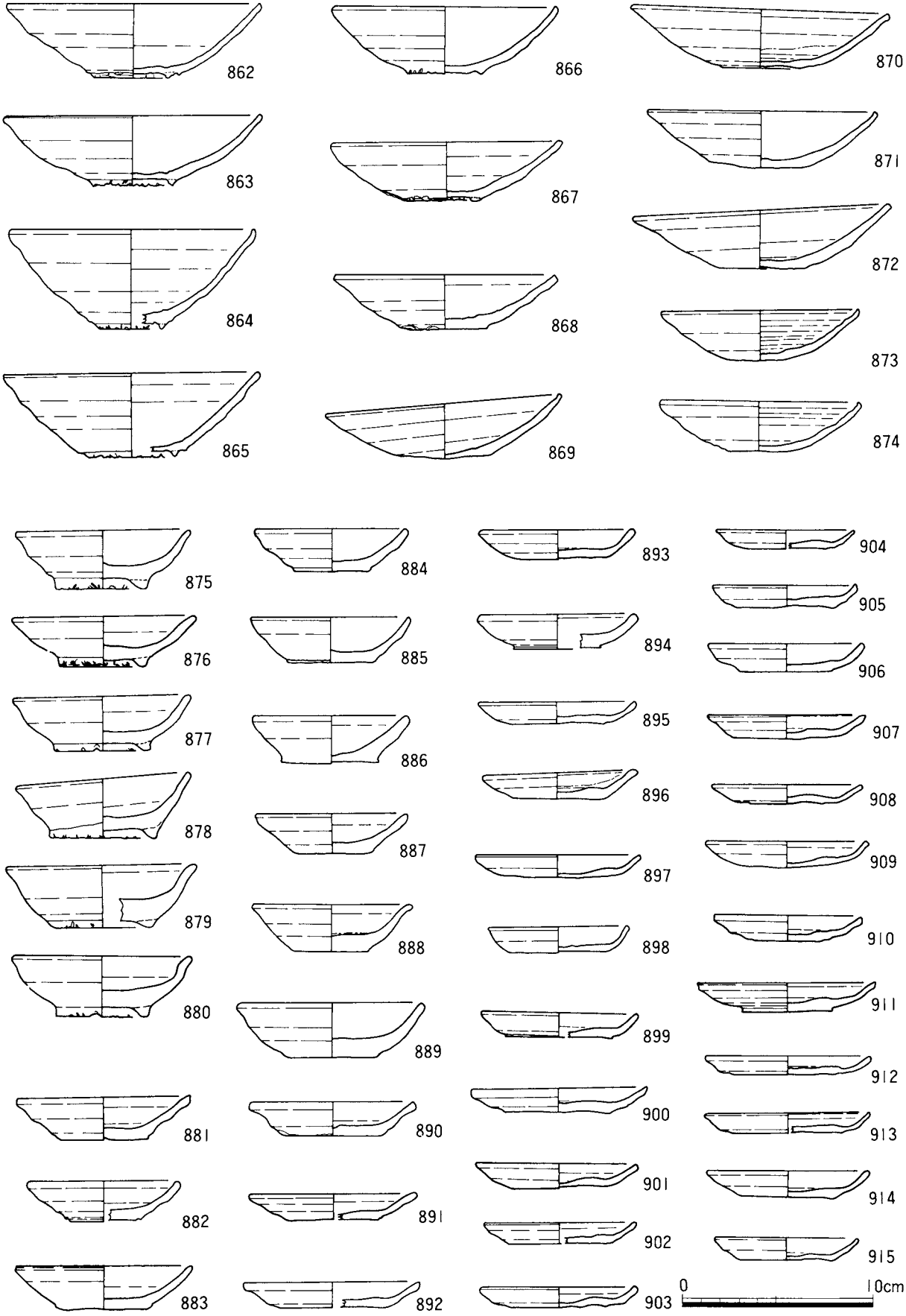
第116図　包含層遺物(20)



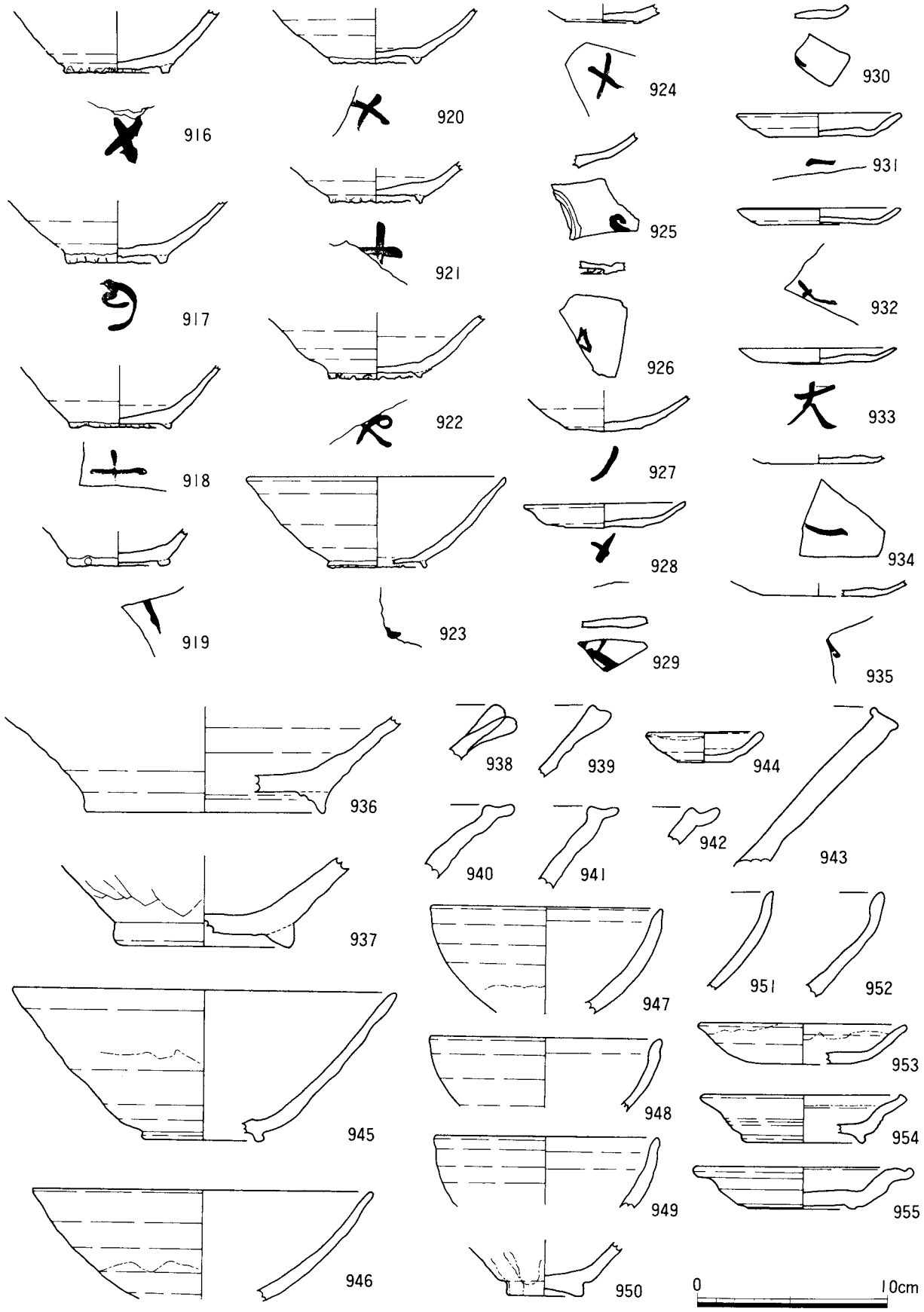
第117図　包含層遺物(21)



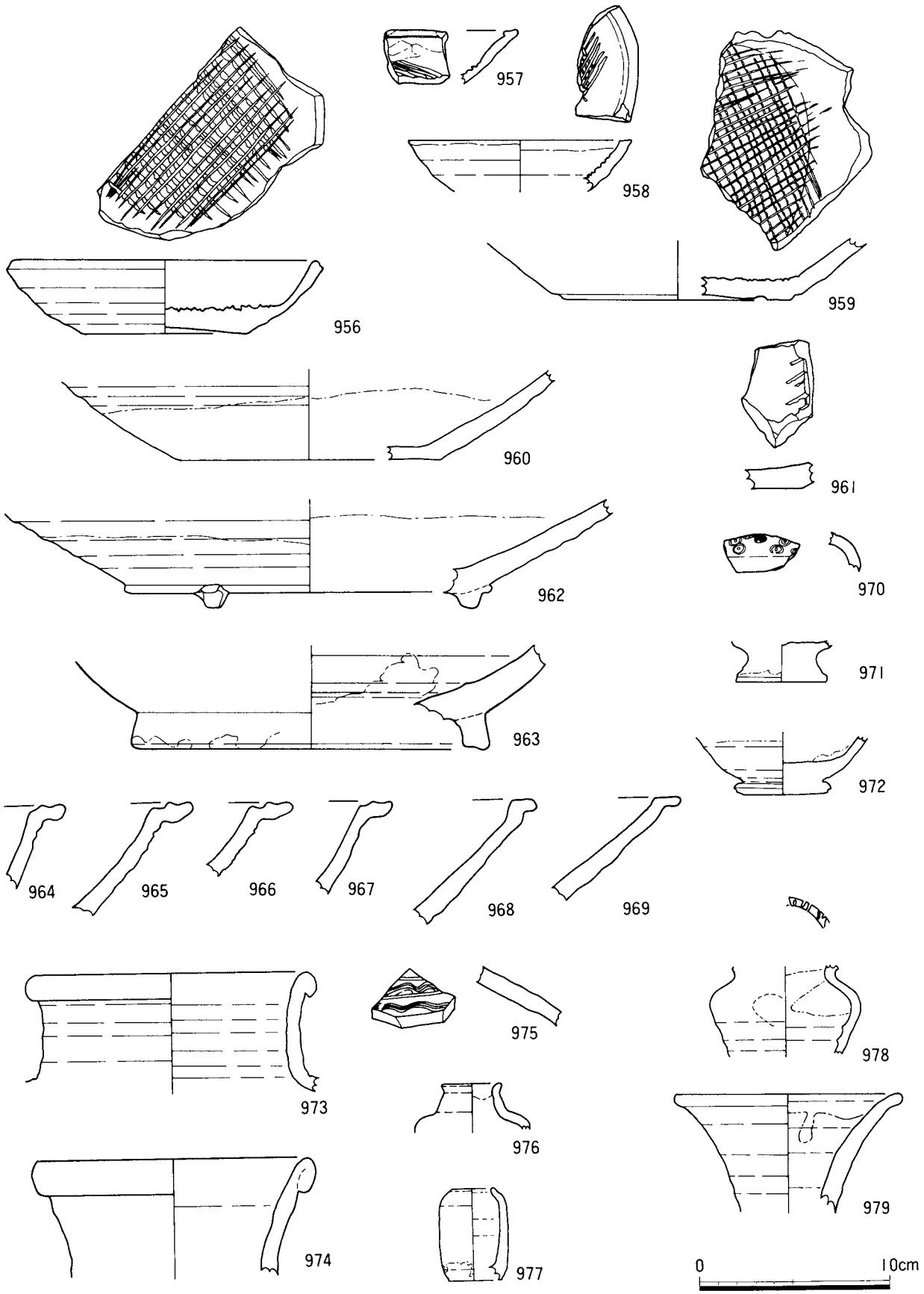
第118図　包含層遺物(22)



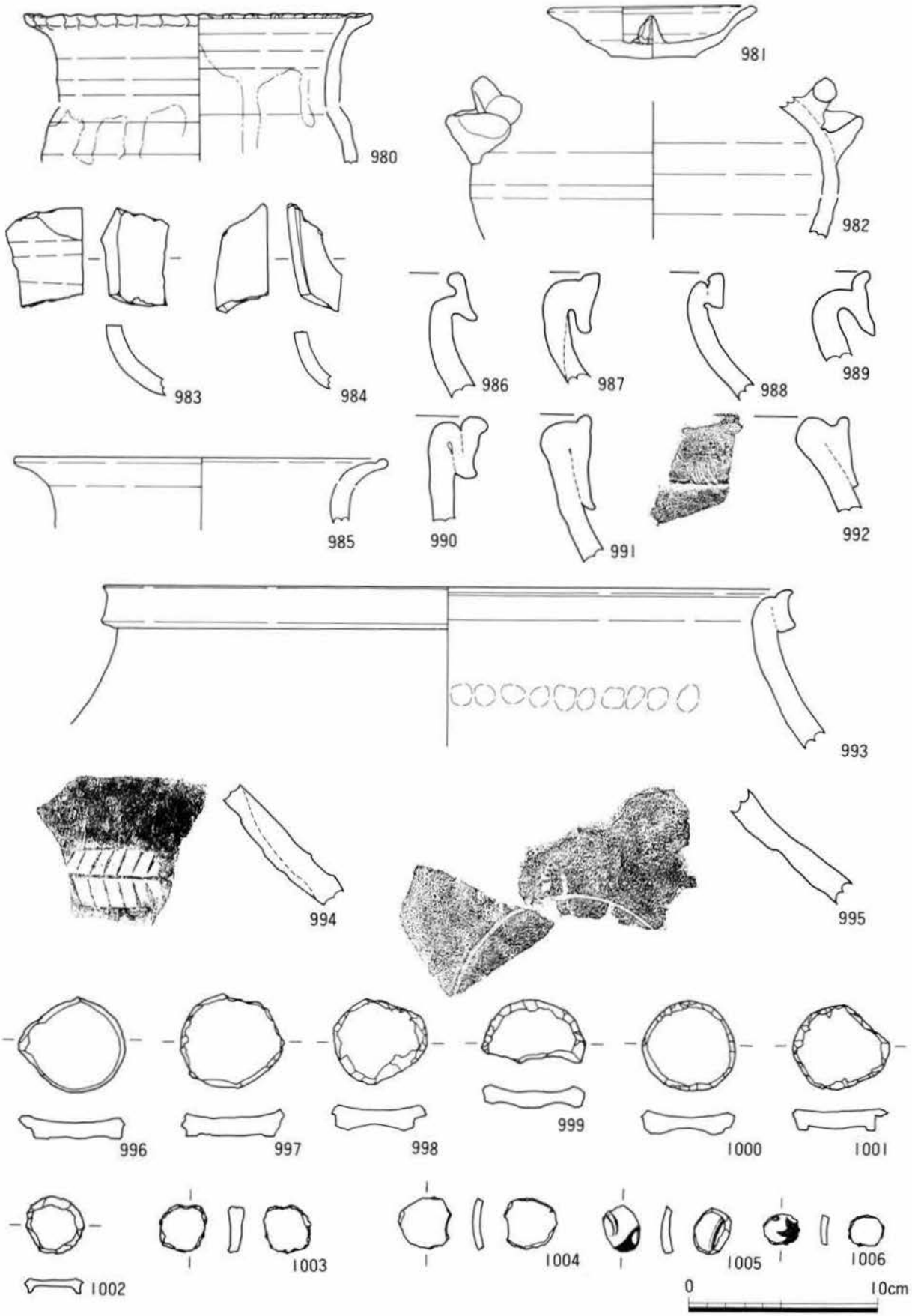
第119図　包含層遺物(23)



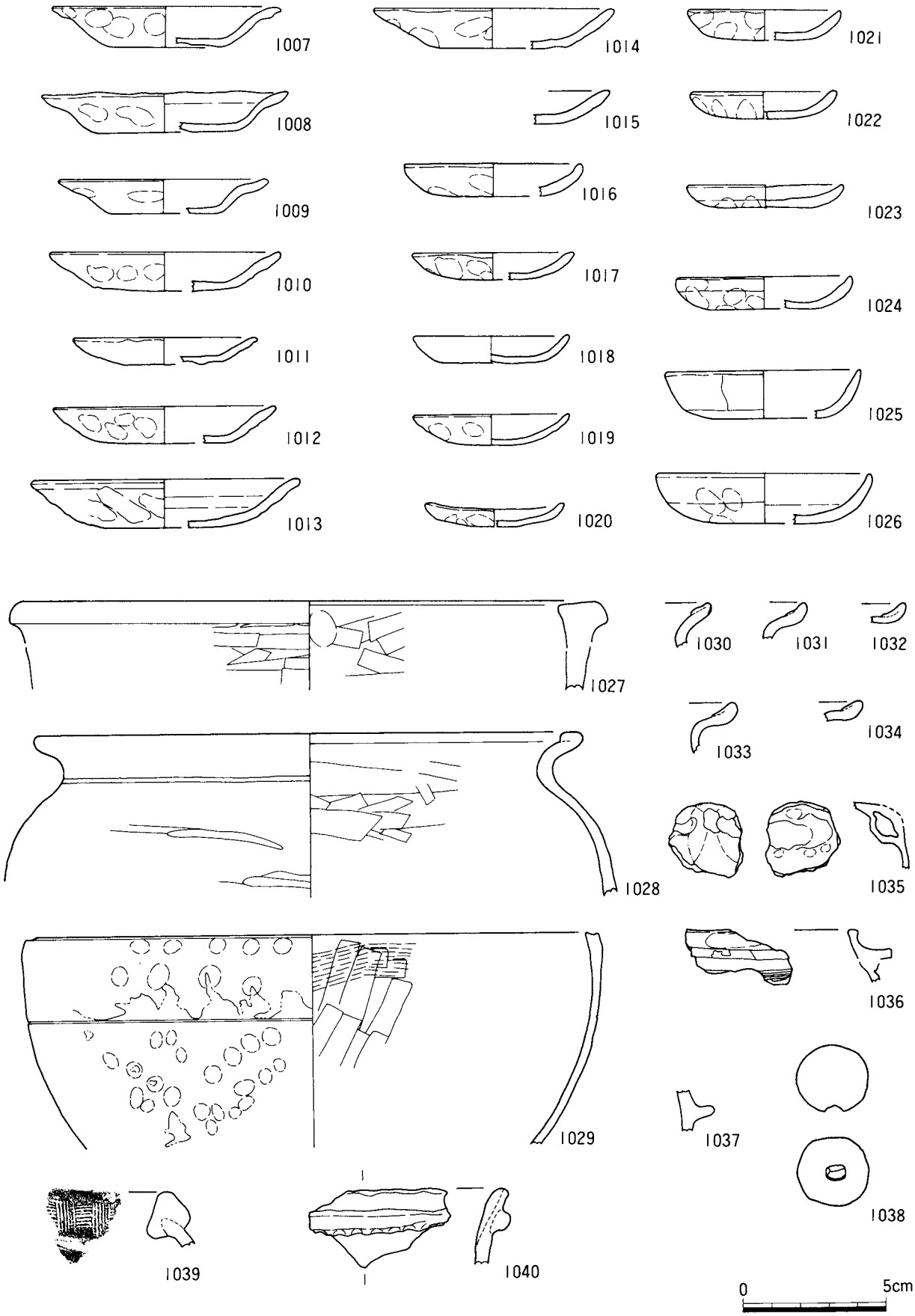
第120図　包含層遺物(24)



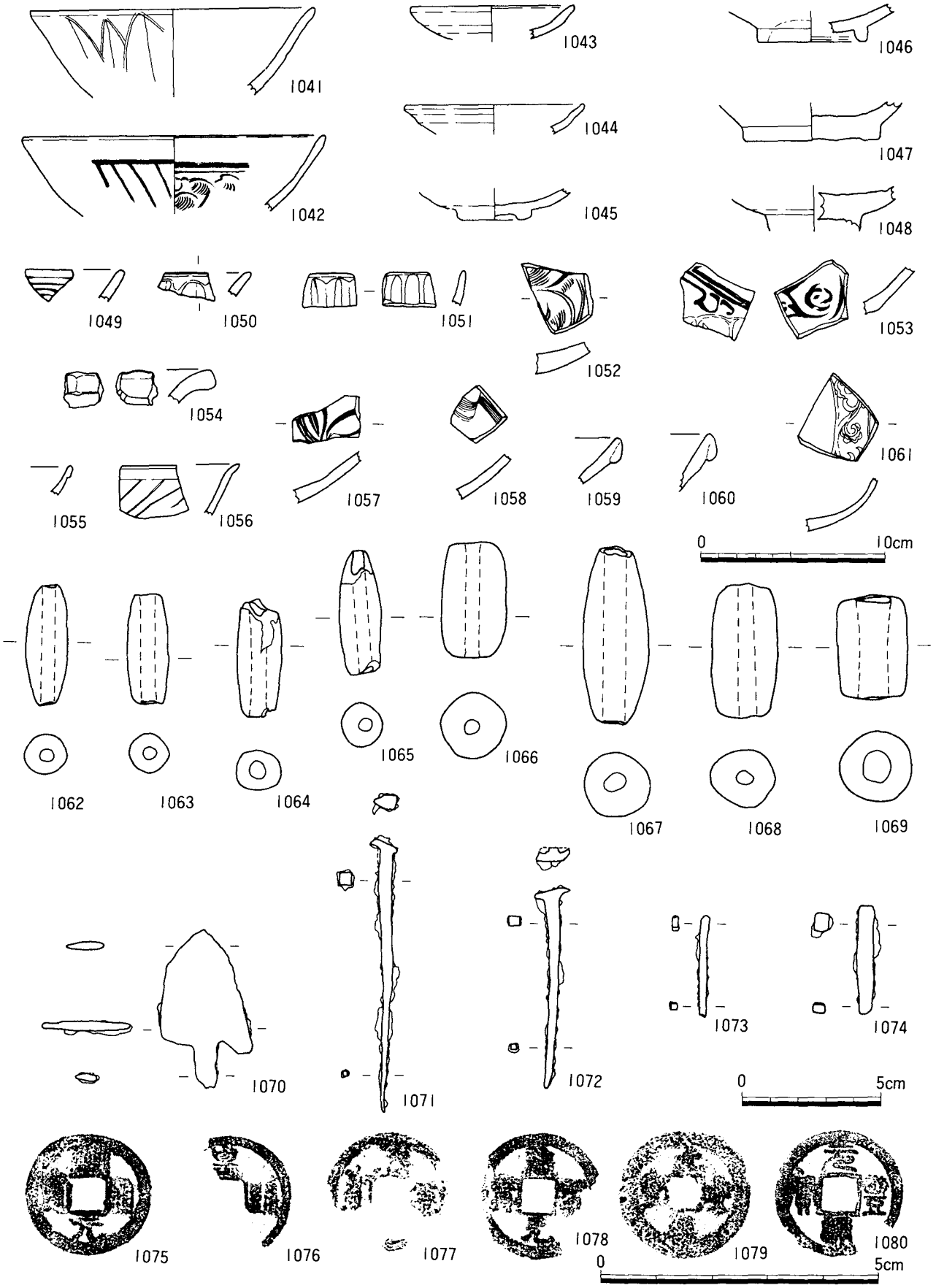
第121図　包含層遺物(25)



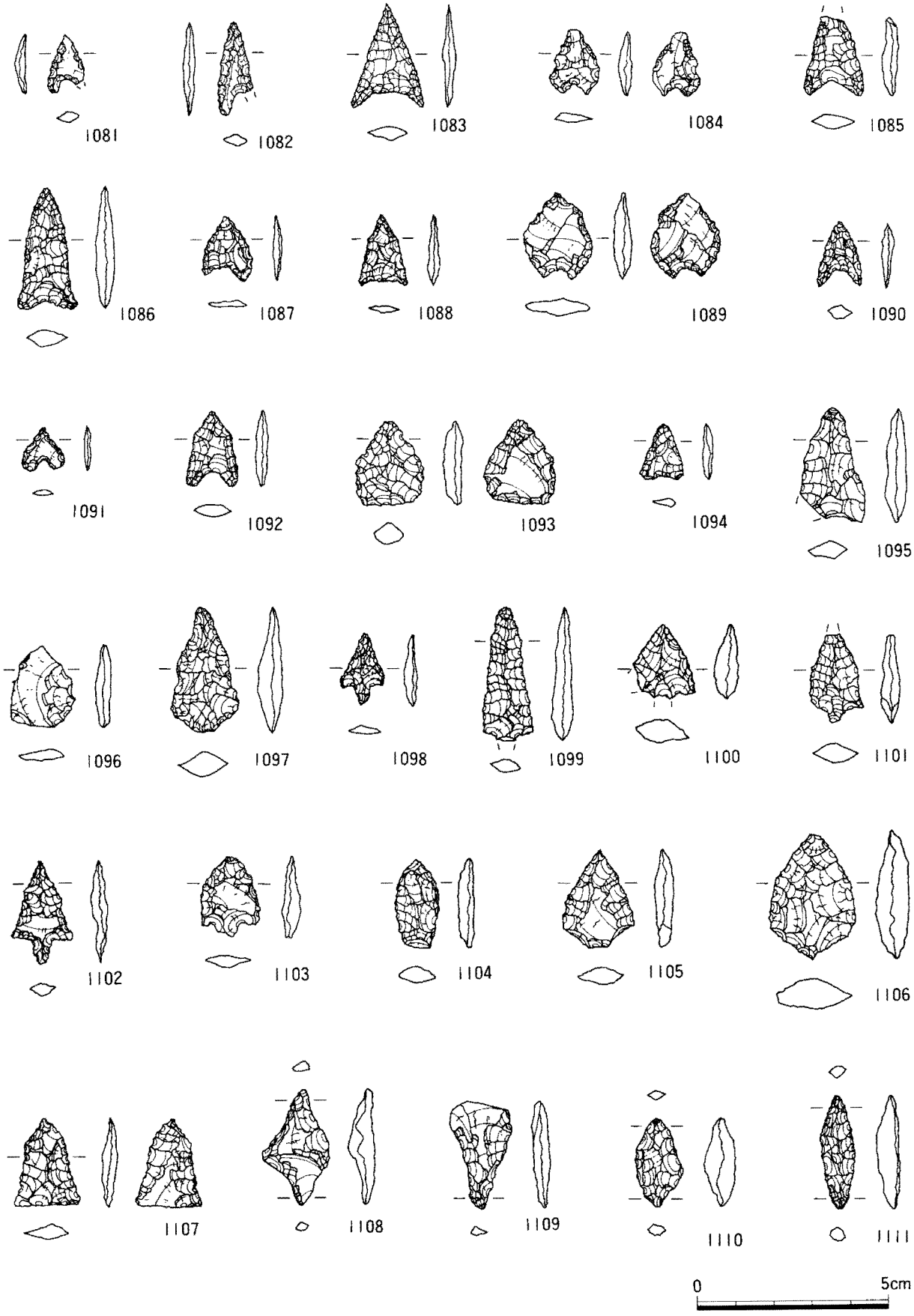
第122図　包含層遺物(26)



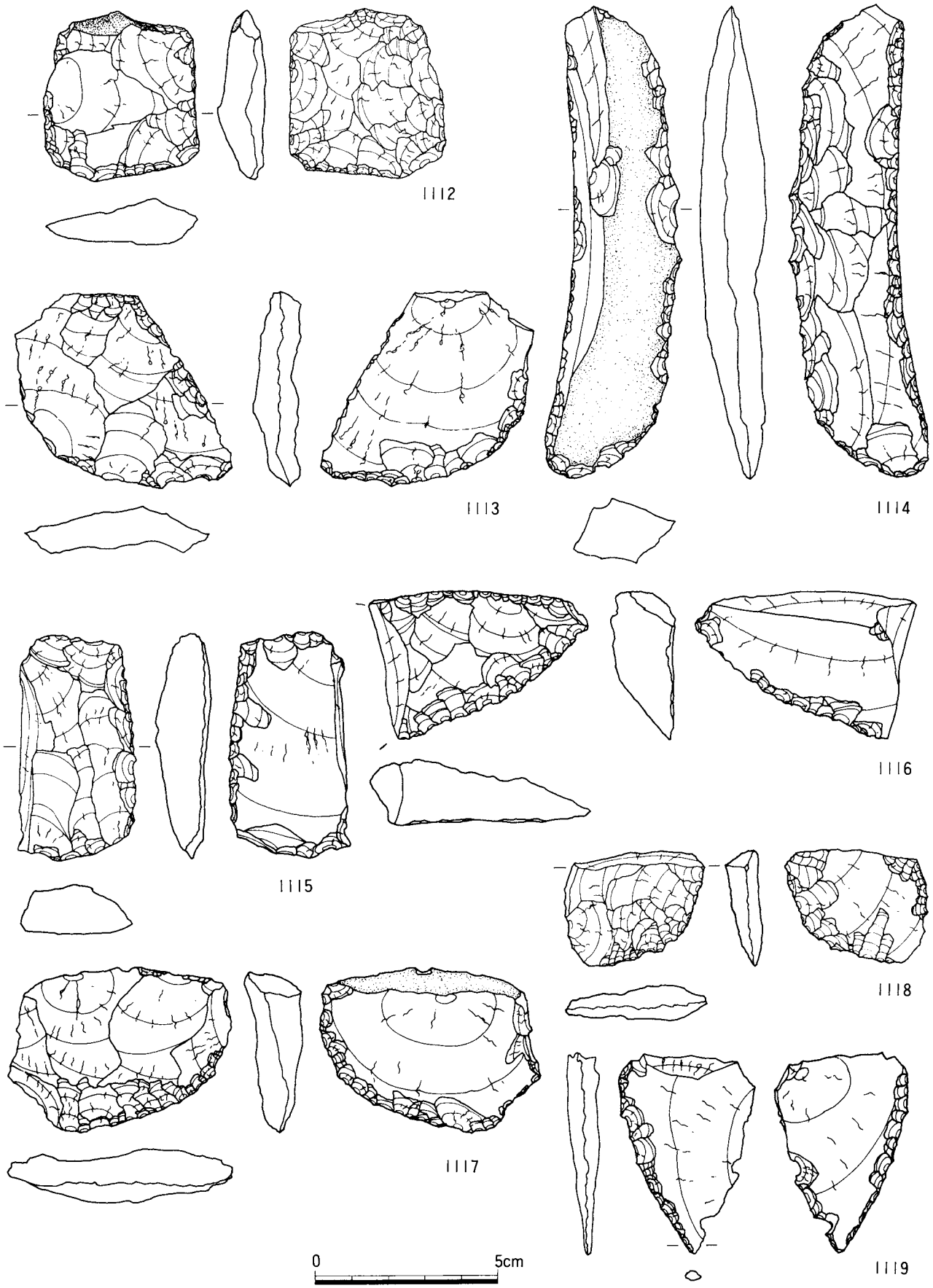
第123図　包含層遺物(27)



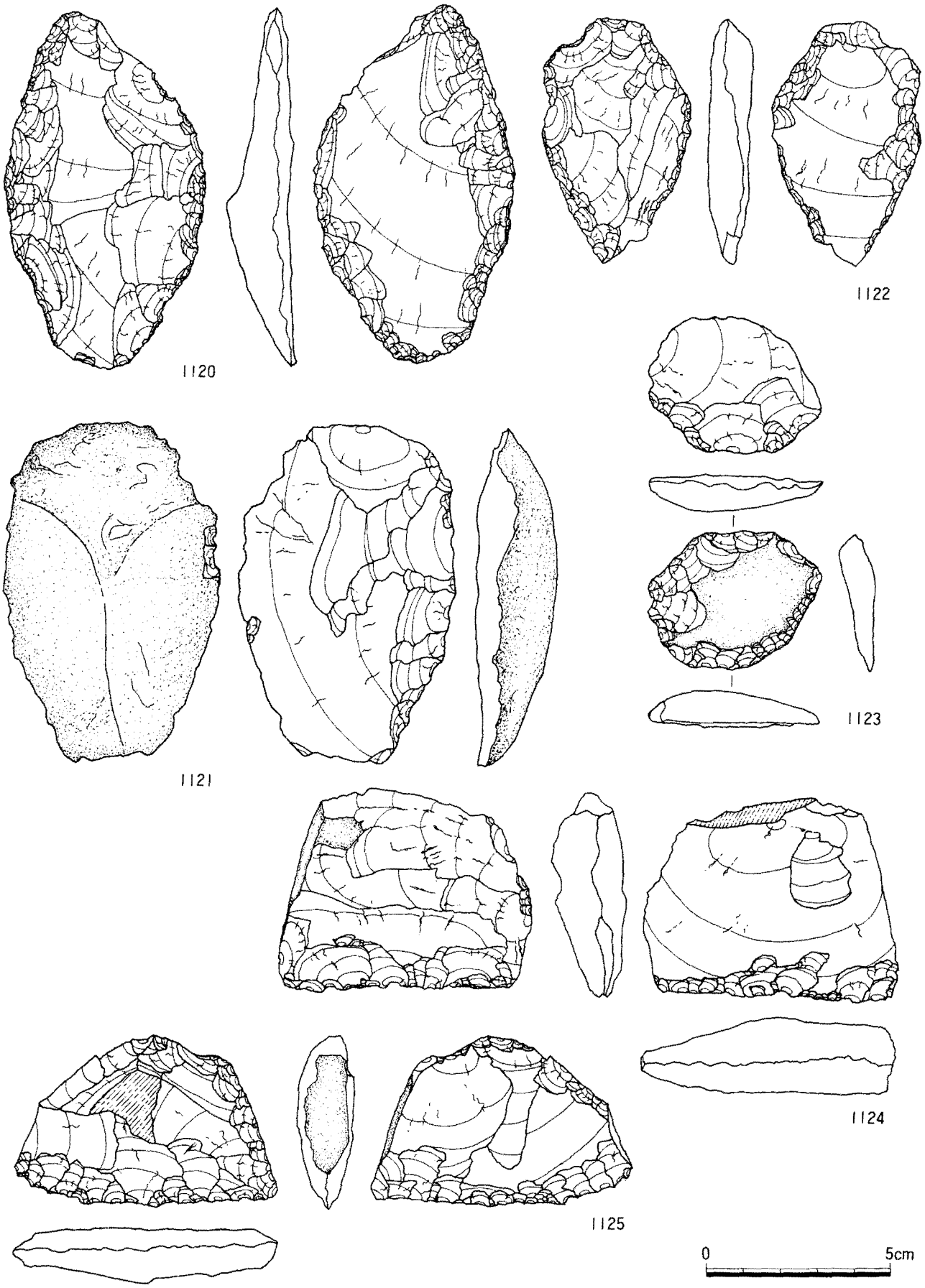
第124図　包含層遺物(28)



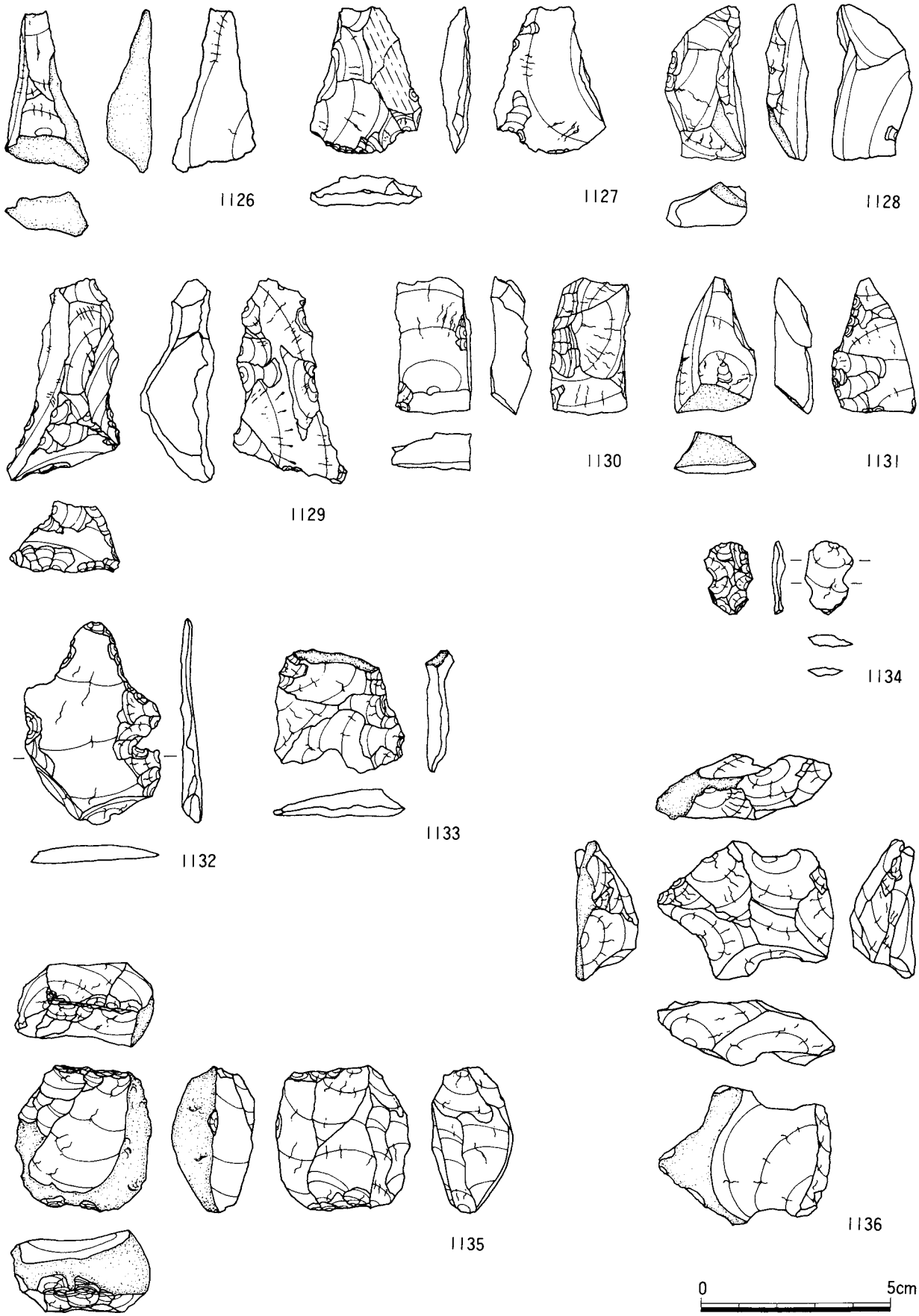
第125図　包含層遺物(29)



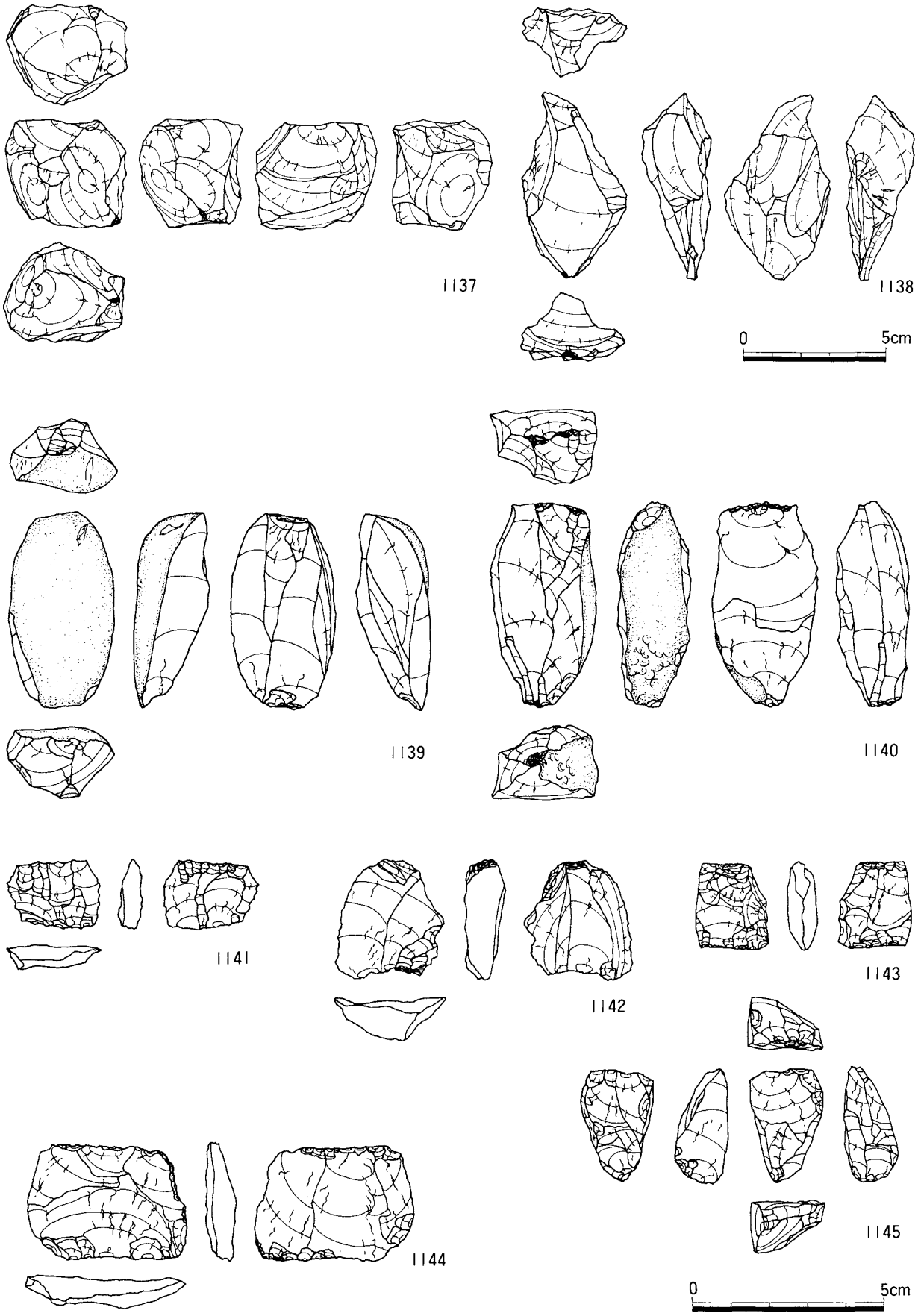
第126図　包含層遺物(30)



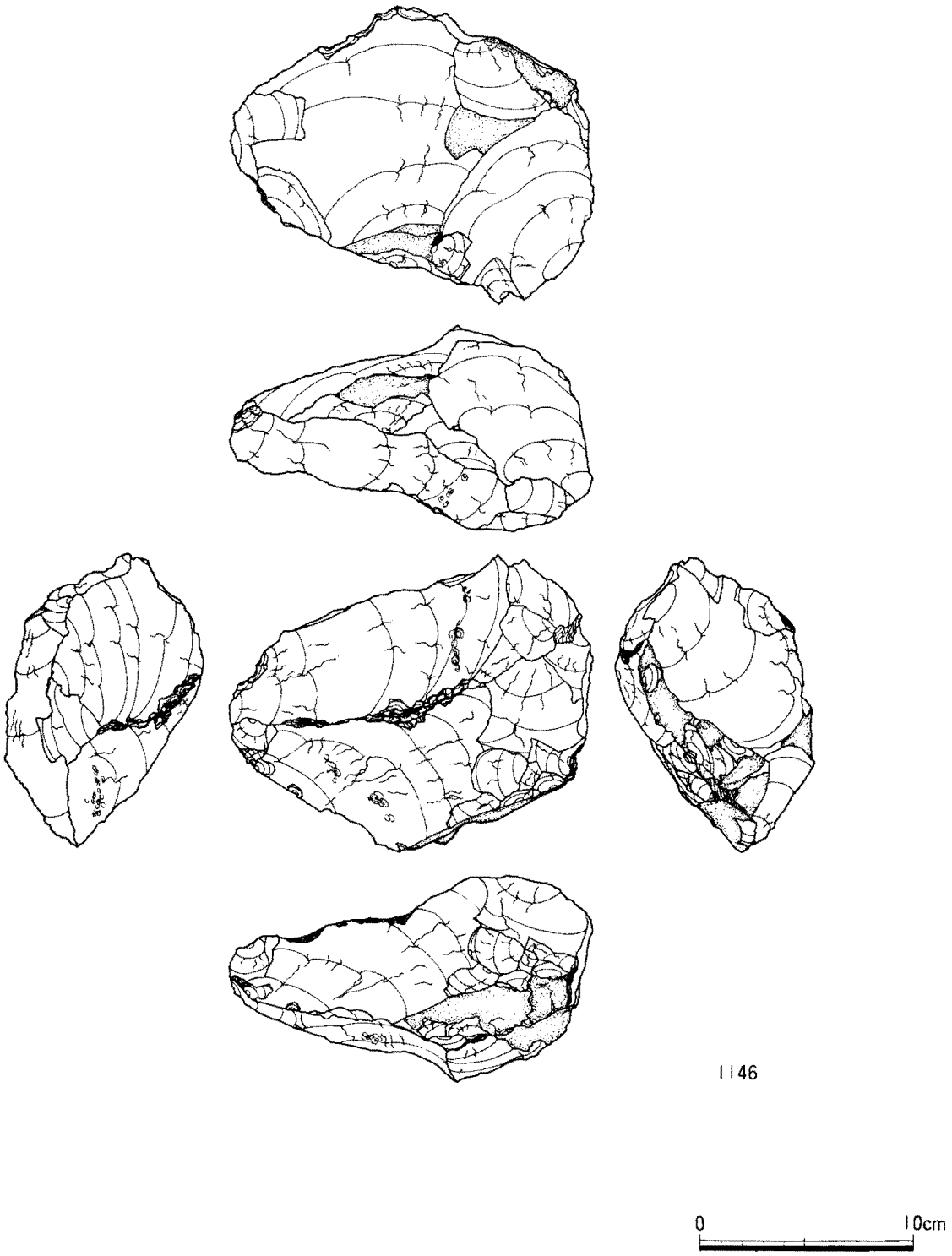
第127図　包含層遺物(31)



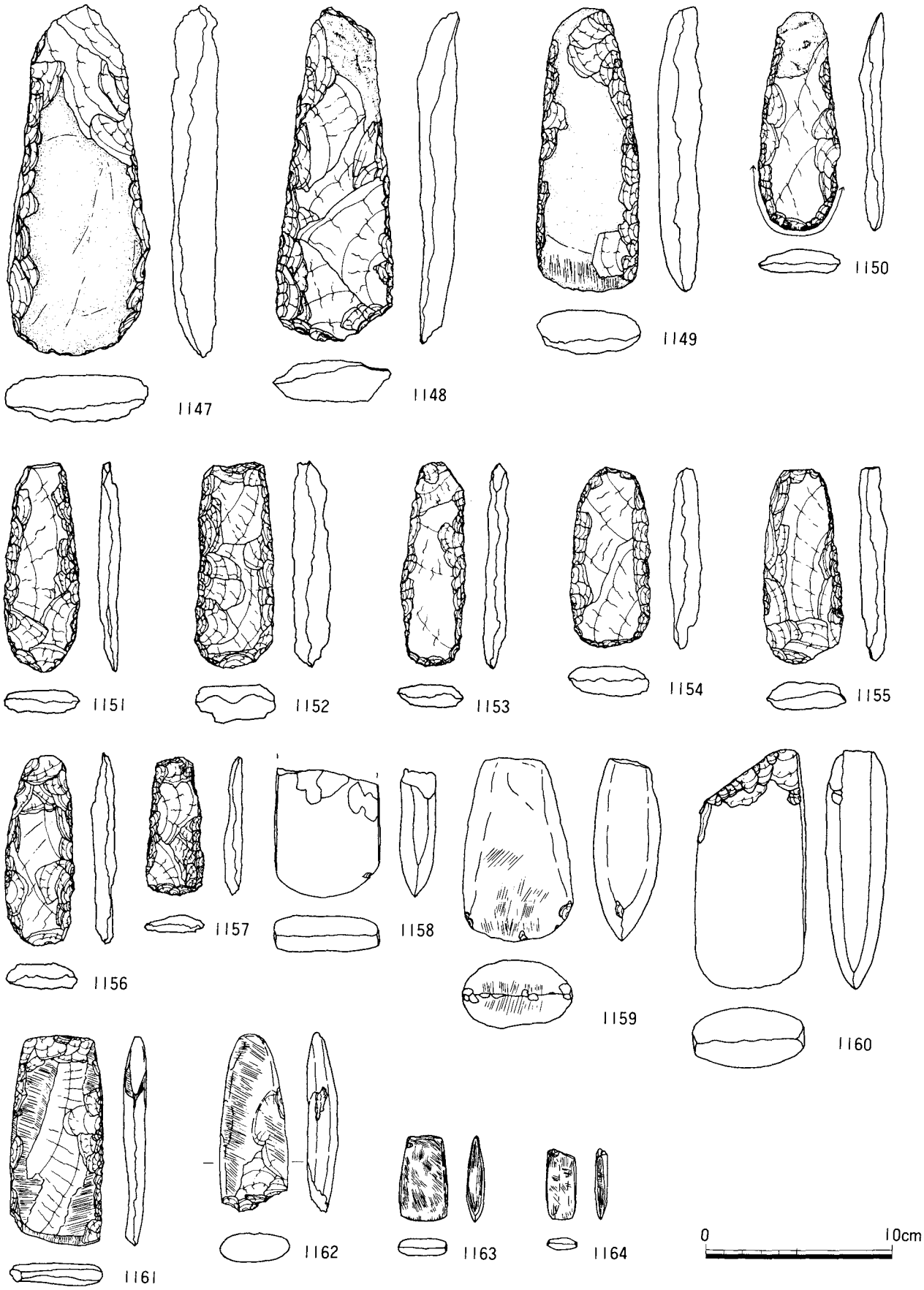
第128図　包含層遺物(32)



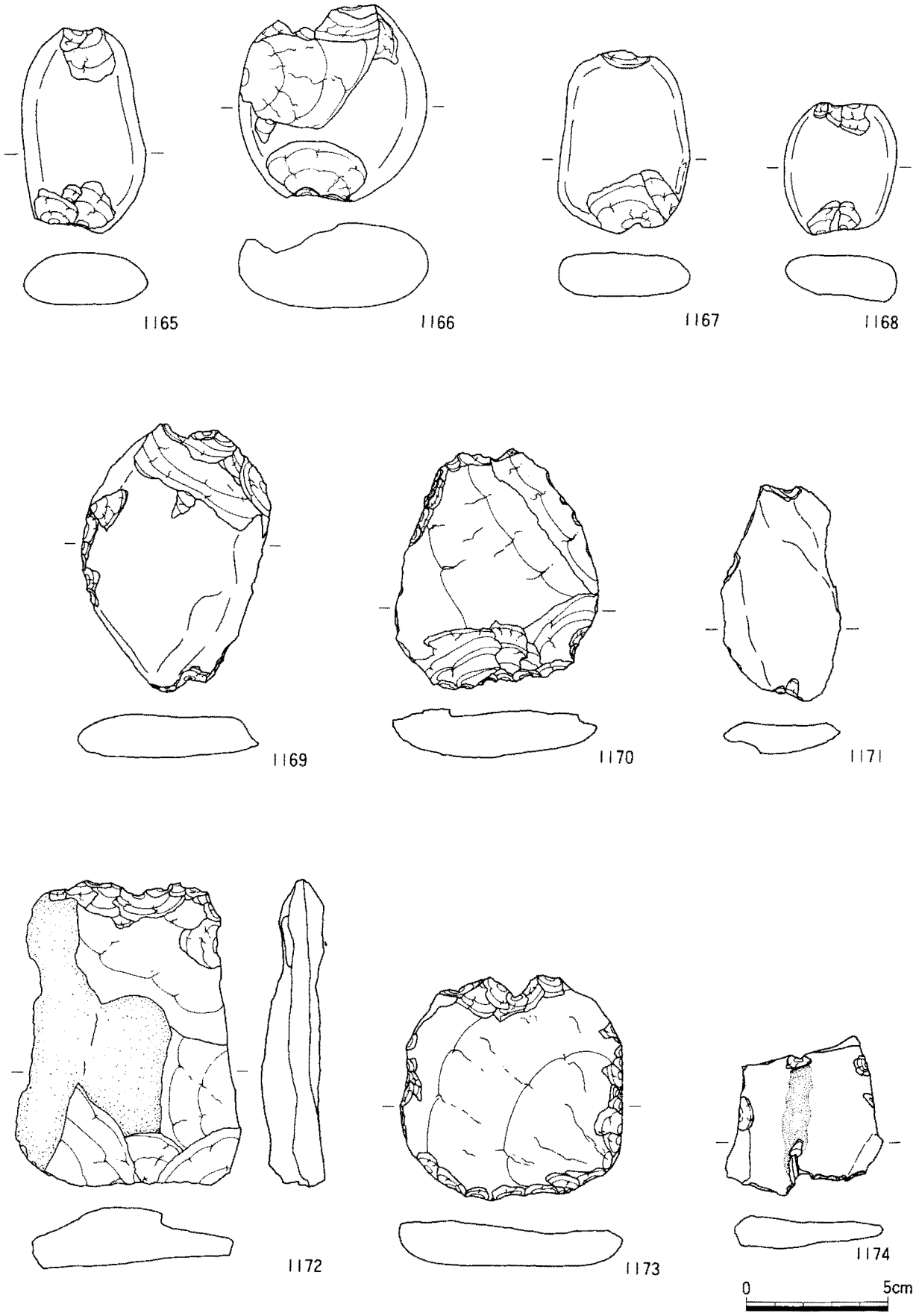
第129図　包含層遺物(33)



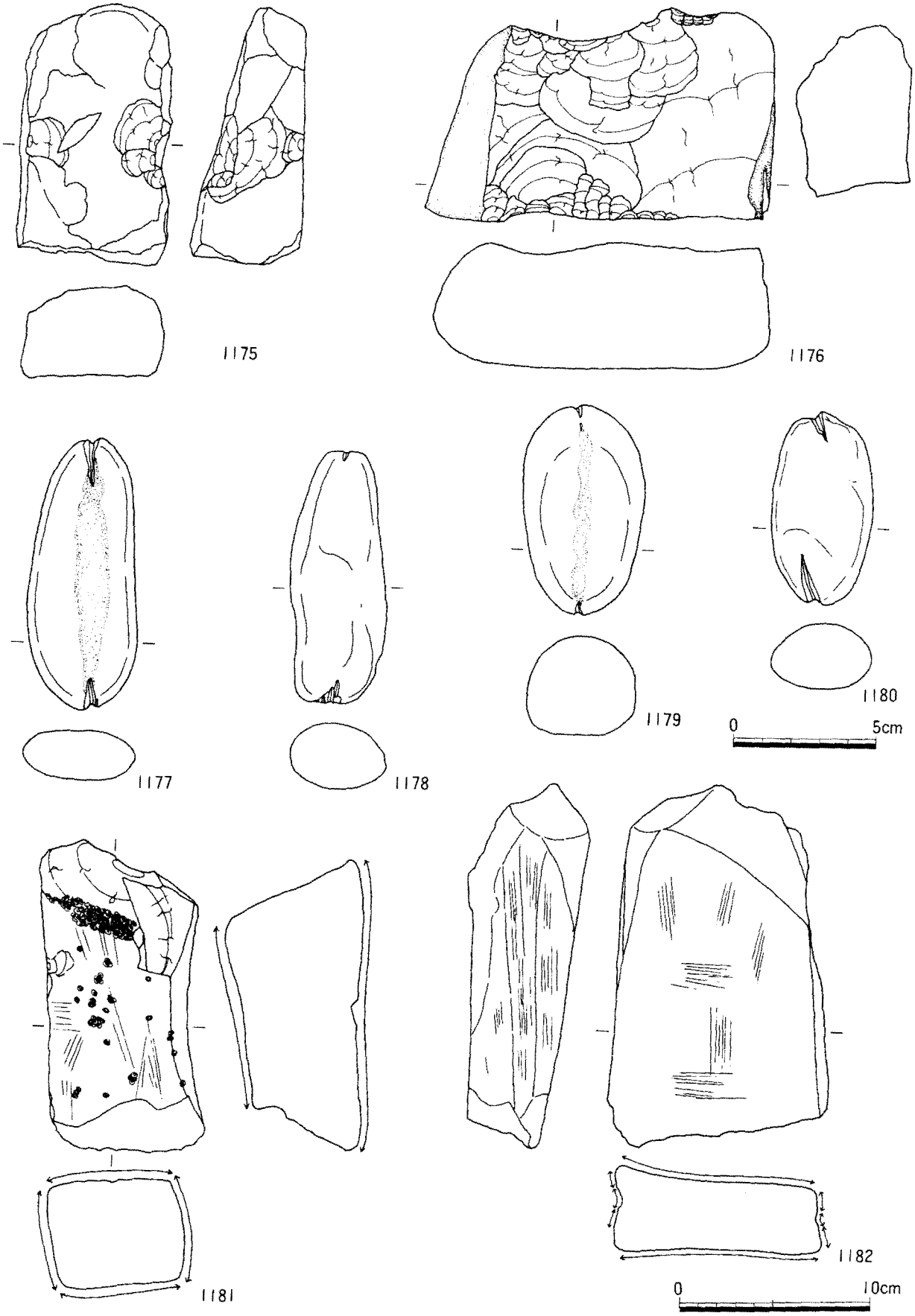
第130図　包含層遺物(34)



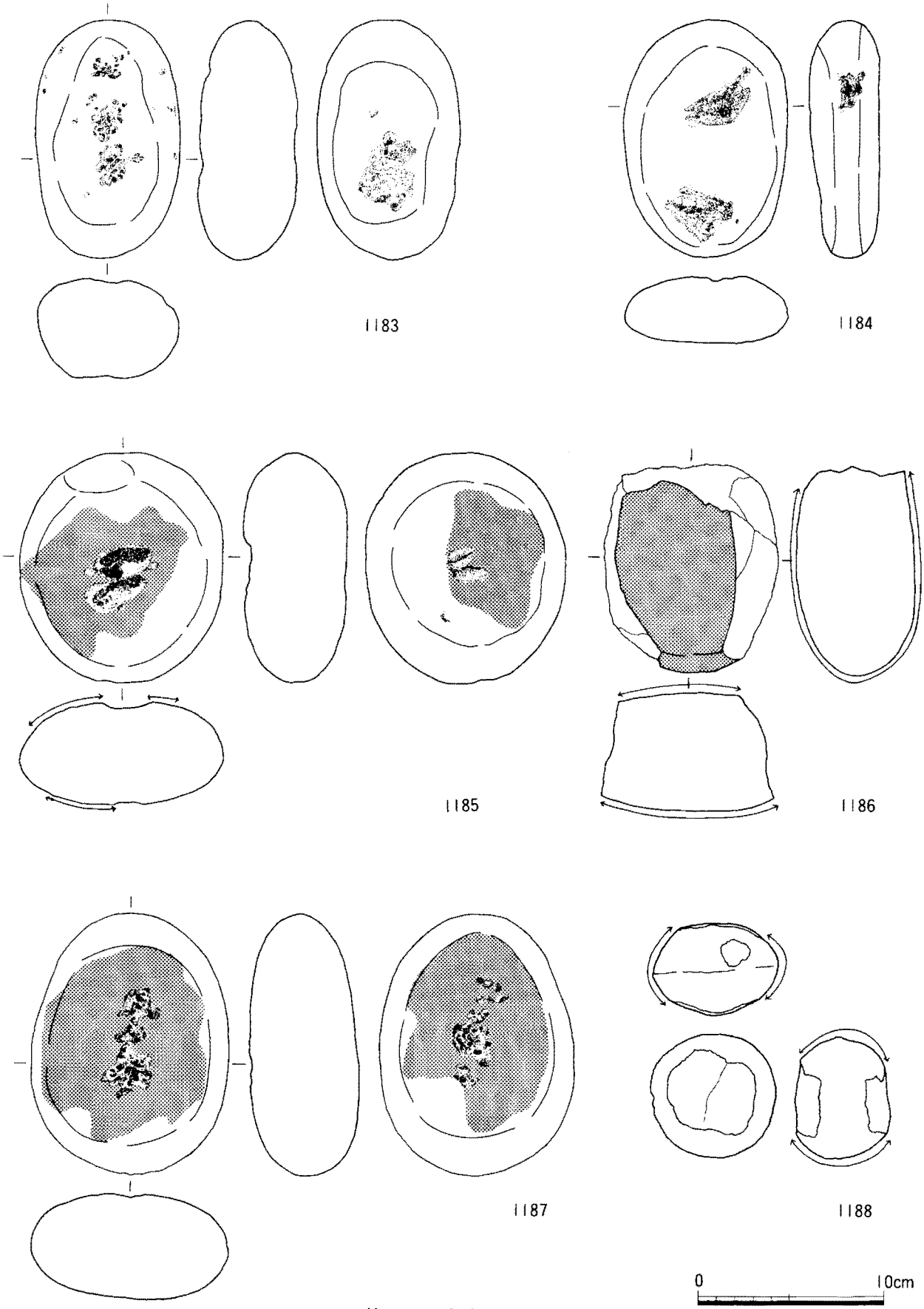
第131図　包含層遺物(35)



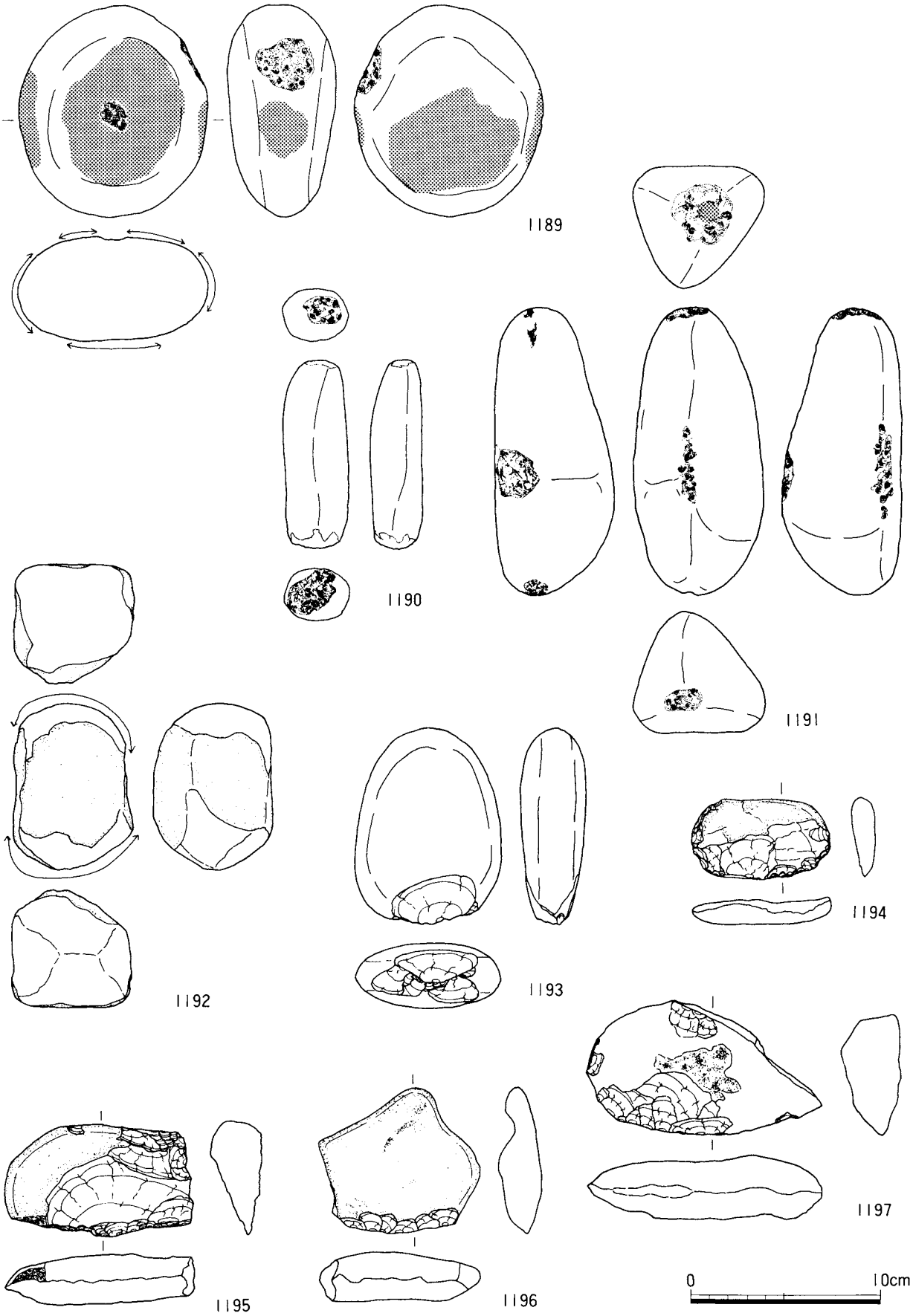
第132図　包含層遺物(36)



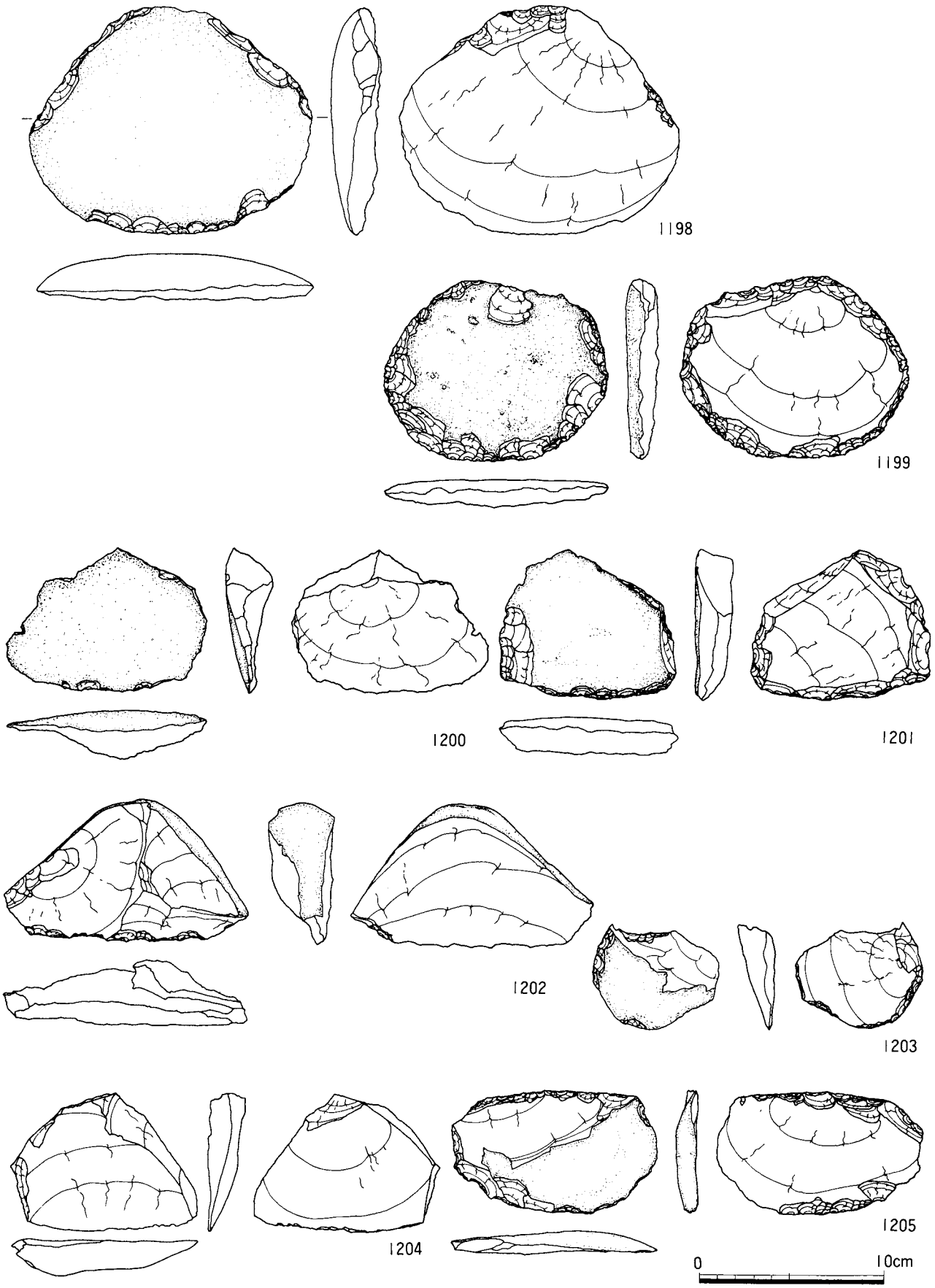
第133図　包含層遺物(37)



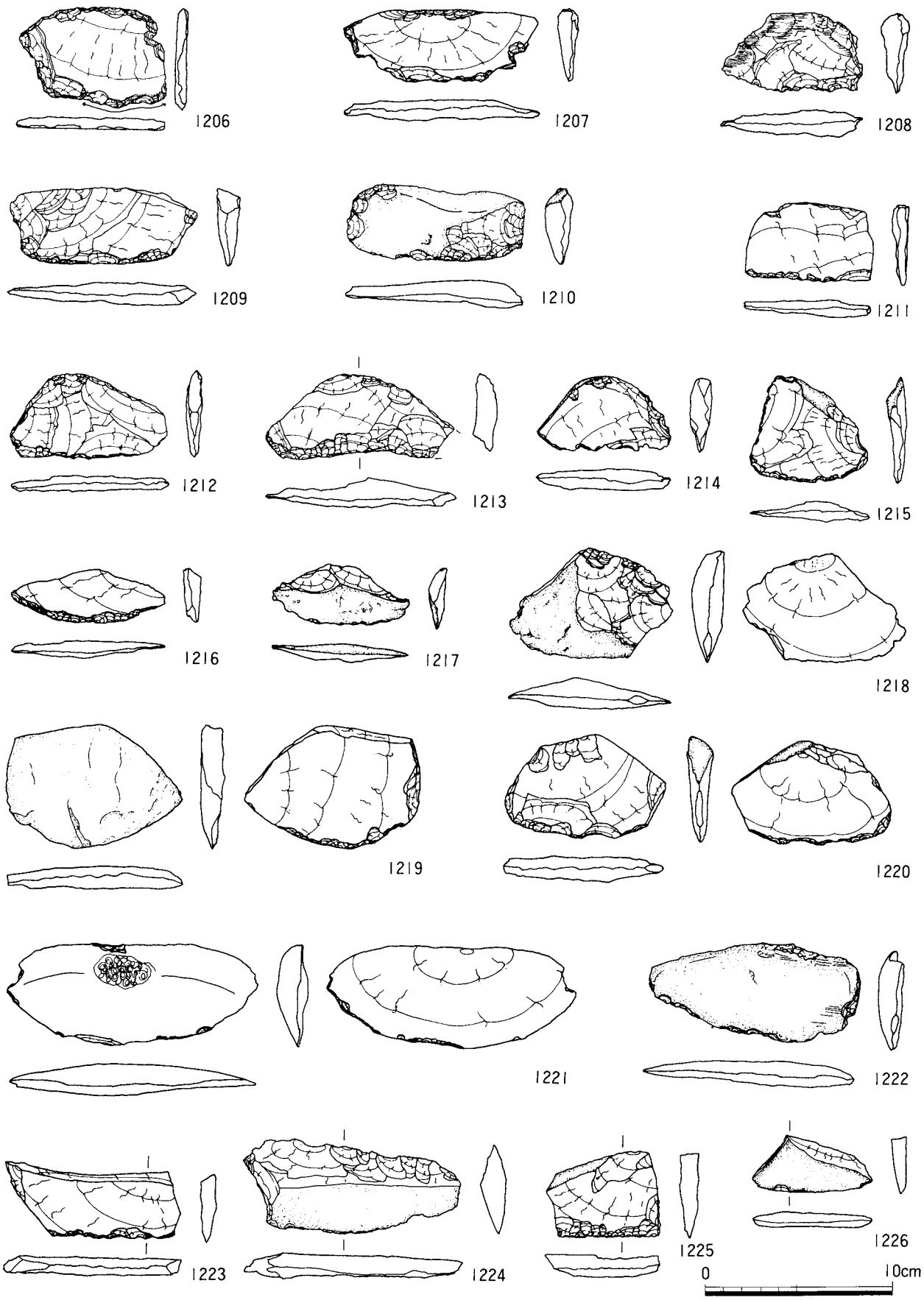
第134図　包含層遺物(38)



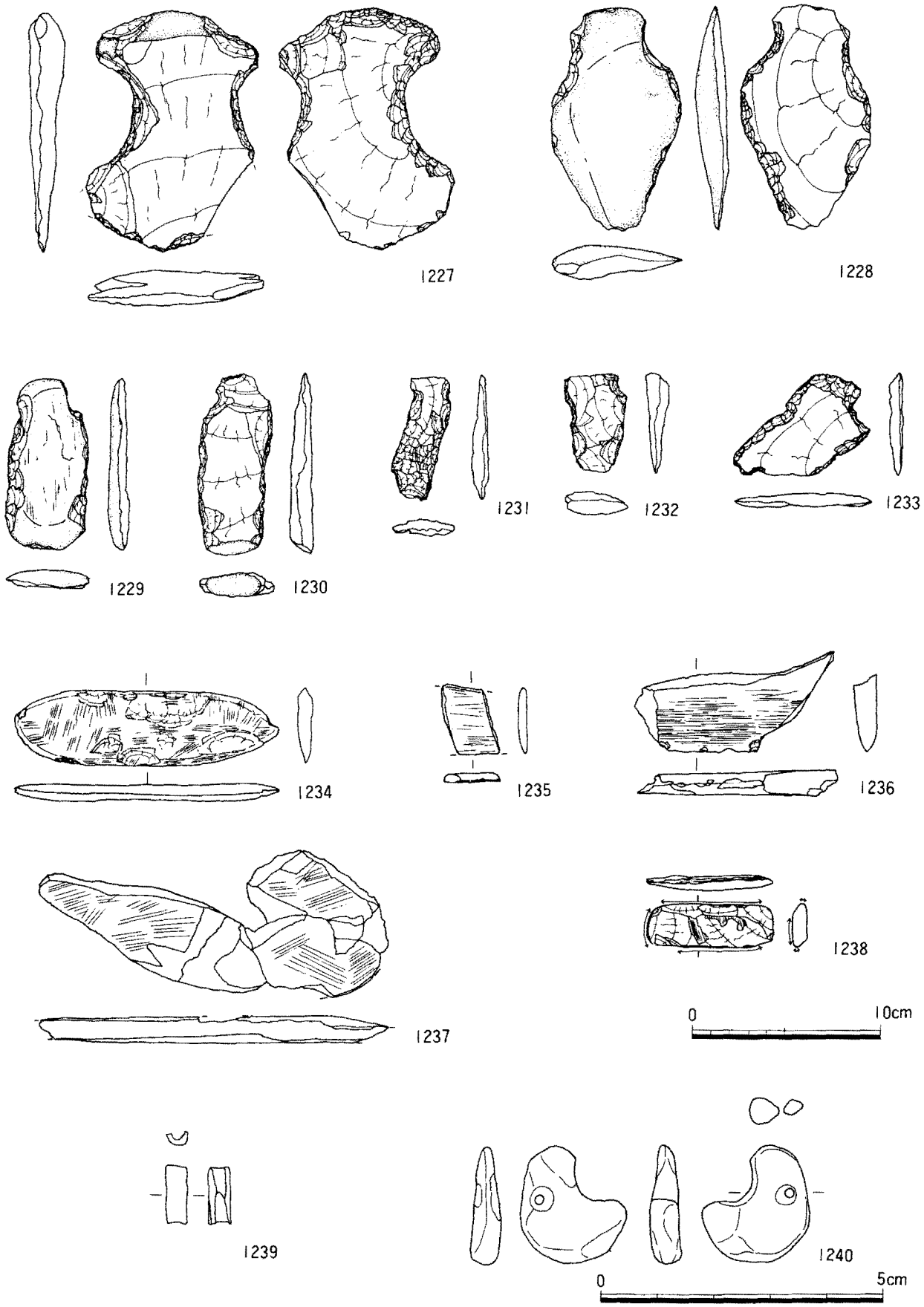
第135図　包含層遺物(39)



第136図　包含層遺物(40)



第137図　包含層遺物(41)



第138図　包含層遺物(42)

第5表　遺物観察表(1)

番号	種類	器種	時期・分類	遺構	口径	器高	底径	内面	外面	備考
1	縄文土器	深鉢　口縁部～胴部	2期	SB14	42.0	33.8		にぶい黄褐	にぶい黄褐	
2	縄文土器	深鉢　口縁部	2期	SB14	33.8	16.6		にぶい黄褐	にぶい黄褐	
3	縄文土器	深鉢　口縁部	2期	SB14	25.8	12.2		明黄褐	にぶい黄褐	
4	縄文土器	鉢	2期	SB14	7.5	6.9	4.8	にぶい黄褐	にぶい黄褐	
5	縄文土器	深鉢　口縁部	2期	SB14	30.8	5.0		浅黄	にぶい橙	
6	縄文土器	深鉢　口縁部	2期	SB14	30.3	15.9		にぶい橙	にぶい黄褐	
7	縄文土器	深鉢　胴部	2期	SB14				にぶい黄褐	にぶい黄褐	
8	縄文土器	深鉢　口縁部	2期	SB14	19.4	7.0		褐	橙	
9	縄文土器	深鉢　胴部	2期	SB14				にぶい黄褐	にぶい黄褐	
10	縄文土器	台付　脚部付根	2期	SB14				褐	にぶい褐	
11	縄文土器	台付　脚部	2期	SB14			10.7	橙	橙	
12	縄文土器	深鉢　口縁部	2期	SB14				浅黄橙	浅黄橙	
13	縄文土器	深鉢　口縁部	2期	SB14				にぶい橙	にぶい橙	
14	縄文土器	深鉢　胴部	2期	SB14				にぶい橙	明黄褐	
15	縄文土器	深鉢　胴部	2期	SB14				にぶい黄褐	にぶい黄褐	
16	縄文土器	深鉢　胴部	2期	SB14				浅黄橙	浅黄橙	
17	縄文土器	深鉢　胴部	2期	SB14				にぶい黄橙	明褐灰	
18	縄文土器	底部	2期	SB14			8.7	黄橙	橙	
28	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	SU1	34.2	18.5		黄橙	橙	
29	縄文土器	深鉢　破片	2～3期	SU1				橙	明黄褐	
30	縄文土器	深鉢　胴部	3期	SU3				明黄灰	にぶい黄橙	
31	縄文土器	深鉢　口縁部	2期	SK413				橙	橙	
32	縄文土器	深鉢　口縁部	2期	SK1185				明黄褐	灰黄褐	
33	縄文土器	深鉢　底部	2～3期	P1056			10.0	にぶい赤褐	明赤褐	底に網代痕
34	弥生土器	壺　口縁部	7期	SB27	37.0	2.6		灰黄褐	にぶい褐	
35	弥生土器	壺　口縁部	7期	SB27	13.0	4.2		浅黄橙	灰黄褐	条痕文系
36	弥生土器	壺　胴部	7期	SB27				にぶい褐		条痕文系
37	弥生土器	壺　胴部	7期	SB27				にぶい橙	明赤褐	大地系？
38	弥生土器	甕　胴部	7期	SB27				橙	橙	条痕文系
39	弥生土器	甕　胴部	7期	SB27				暗褐	黒褐	条痕文系
40	弥生土器	壺　頸部	7期	SB27				暗灰黄	黒褐	条痕文系
42	弥生土器	壺	7期	SZ1	29.5	64.5	12.2	橙	橙	
43	弥生土器	壺	7期	SZ1	13.5	26.0		黒褐	黒褐	条痕文系
44	弥生土器	壺	7期	SK381	28.0	8.8		黄褐	黄褐	条痕文系
45	弥生土器	甕　口縁部	7期	SK1189				にぶい褐	黒褐	条痕文系
46	弥生土器	甕　口縁部	7期	SK1189				灰褐	灰褐	条痕文系
47	弥生土器	壺　胴部	7期	SK1189				橙	にぶい黄橙	条痕文系
48	弥生土器	壺　胴部	7期	SK1189				明褐	明赤褐	
49	弥生土器	壺　胴部	7期	SK1189	42.0	33.8		にぶい黄橙	にぶい橙	57と同一、大地系？
50	弥生土器	壺　胴部	7期	SK1189				黄橙	黄橙	大地系
51	弥生土器	壺　胴部	7期	SK1189				にぶい黄橙	にぶい黄橙	57と同一、大地系？
52	弥生土器	壺　胴部	7期	SK1189				にぶい褐	にぶい褐	57と同一、大地系？
53	弥生土器	壺　胴部	7期	7I				灰褐	灰褐	57と同一、大地系？
54	弥生土器	壺　胴部	7期	8K				灰褐	にぶい褐	57と同一、大地系？
55	弥生土器	壺　胴部	7期	8K				にぶい橙	にぶい橙	57と同一、大地系？
56	弥生土器	壺　胴部	7期	8L				にぶい黄褐	にぶい褐	57と同一、大地系？
57	弥生土器	壺　胴部	7期	SB12				灰黄褐	にぶい橙	57と同一、大地系？
58	弥生土器	甕　口縁部	7期	SK851				黒褐	暗赤褐	条痕文系
59	弥生土器	甕　口縁部	7期	SK851				黒褐	暗赤褐	条痕文系
60	弥生土器	甕　口縁部	10期	D区SB1	21.3	8.5		橙	橙	
61	弥生土器	甕	10期	D区SB1	22.0	13.0		橙	橙	
62	弥生土器	甕　口縁部	10期	D区SB1	20.5	7.1		橙	浅黄橙	
63	弥生土器	高坏　脚部	10期	D区SB2	13.4	2.5	13.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
64	弥生土器	高坏　坏部	10期	D区SB3	27.8	3.9		浅黄橙	浅黄橙	
65	弥生土器	高坏　坏部	10期	D区SB3	26.5	8.0		にぶい黄橙	にぶい黄橙	
66	弥生土器	高坏	10期	D区SB3	27.8	20.8	15.5	橙	橙	
67	弥生土器	甕	10期	D区SB3	13.5	14.0	4.9	橙	橙	条痕文系
68	弥生土器	鉢	10期	D区SB3		6.5	3.0	浅黄橙	浅黄橙	
69	弥生土器	壺　口縁部	10期	D区SB3	18.2	5.9		橙	橙	
70	弥生土器	壺　口縁部	10期	D区SB3	10.2	6.4		赤	赤	赤彩
71	弥生土器	壺　底部	10期	D区SB3				浅黄橙	浅黄橙	赤彩
72	弥生土器	壺	10期	D区SB3		7.9	4.8	灰白	灰白	
73	弥生土器	鉢	11期	SB1	11.3	9.1	2.2	橙	にぶい橙	
74	土師器	S字甕	12期	SK1153	12.8	20.0		浅黄橙	浅黄橙	
75	須恵器	高坏	13期	SB2	12.8	12.0	9.9	暗赤褐	暗赤褐	
76	須恵器	高坏　脚部	13期	SB2		7.0	13.2	灰オリーブ	灰	
77	須恵器	甕	13期	SB2		26.2	3.0	灰白	灰白	
78	土師器	甕	13期	SB2	19.2	32.0		明黄褐	明黄褐	
79	土師器	甕	13期	SB2	12.7	4.0		灰黄	にぶい黄橙	
80	土師器	甑	13期	SB2	21.6	17.7	9.2	にぶい褐	にぶい褐	
81	土師器	甕	13期	SB2	12.6	13.5		にぶい橙	にぶい褐	
82	土師器	甕	13期	SB2	23.8	22.6		にぶい黄橙	にぶい黄橙	
83	須恵器	高坏　坏部	13期	SB3	12.4	4.0		灰	灰	
84	須恵器	高坏　脚部	13期	SB3				灰	オリーブ黒	
85	土師器	甕	13期	SB3	11.2	12.2	6.2	にぶい褐	にぶい橙	
86	土師器	坏？	13期	SB3	8.9	3.1	5.0	灰白	灰白	
87	土師器	甕　胴部	13期	SB3				灰白	浅黄橙	
88	土師器	甕　胴部	13期	SB3				灰白	にぶい黄橙	
89	土師器	甕　口縁部	13期	SB3	15.4	5.5		灰白	灰白	
90	土師器	甕	13期	SB3	12.3	16.0	6.0	橙	橙	
91	土師器	甕　口縁部	13期	SB3	14.4	4.8		橙	橙	伊勢産？

第6表　遺物観察表(2)

番号	種　類	器　種	時期・分類	遺　構	口径	器高	底径	内面	外面	備　考
92	土師器	甕	13期	SB4	16.1	30.8	5.8	にぶい橙	にぶい橙	
94	土師器	甕	13期	SB5	17.6	12.4		橙	橙	
95	須恵器	横瓶	13期	SB5				灰黄	灰白	
96	須恵器	甕　胴部	13期	SB5				灰黄	灰黄	
97	土師器	甑　口縁部	13期	SB6				暗灰黄	暗灰黄	
98	土師器	甑　把手	13期	SB6				浅黄橙	にぶい黄橙	
99	須恵器	坏身　口縁部	13期	SB7				灰	灰	
100	須恵器	坏蓋	13期	SB7	14.2	5.3		灰	灰	つまみ部径2.9cm
101	須恵器	横瓶	13期	NR1, SB7				灰白	灰白	
102	土師器	甕	13期	SB7	13.8	17.3	6.2	にぶい橙	橙	
103	土師器	甕	13期	SB7	17.7	30.4		浅黄橙	にぶい黄橙	
104	土師器	甕	13期	SB7	14.2	16.5	7.2	にぶい橙	にぶい橙	
106	須恵器	坏蓋	13期	SB8	13.9	3.8		灰白	灰白	
107	須恵器	甕　口縁部	13期	SB8, SK526	25.6	2.3		灰白	灰白	
108	土師器	甕	13期	SB8	24.6	30.9	9.0	浅黄橙	浅黄橙	
109	土師器	甕　胴部	13期	SB8				浅黄橙	にぶい黄橙	
110	土師器	甕	13期	SB8	16.5	11.4		浅黄橙	浅黄橙	
111	土師器	甑	13期	SB8	21.2	27.4	8.1	灰黄	淡黄	
112	土師器	甑	13期	SB9		19.8	8.0	にぶい橙	にぶい橙	
113	土師器	甕　口縁部	13期	SB9	14.0	4.0		にぶい黄橙	にぶい黄橙	
114	土師器	甕　底部	13期	SB9 P1		6.5	6.0	にぶい橙	にぶい褐	
115	土師器	甕　底部	13期	SB10				灰黄褐	灰黄褐	
116	土師器	甕　底部	13期	SB10		6.7	7.8	浅黄橙	にぶい橙	
117	土師器	甕　胴部	13期	SB10				暗灰黄	にぶい黄	
118	土師器	甕　胴部	13期	SB10				褐灰	灰黄	
119	土師器	甕　口縁部	13期	SB11				淡黄	淡黄	
120	土師器	甕　胴部～底部	13期	SB11		22.3	8.5	にぶい黄橙	暗灰黄	
121	須恵器	提瓶　頸部	13期	SB12				灰	灰	
122	須恵器	はそう	13期	SB12				暗灰黄	黒褐	
123	土師器	甕	13期	SB12	12.7	19.0		灰白	灰白	
124	土師器	甕　胴部	13期	SB12				浅黄橙	浅黄橙	
125	土師器	甕　胴部	13期	SB12				灰白	灰黄	
127	土師器	甕　口縁部	13期	SB13	19.2	12.1		にぶい黄橙	灰黄褐	
128	土師器	甕　口縁部	13期	SB13	14.0	7.5		灰白	灰白	
129	土師器	甕　底部	13期	SB13		4.0	7.5	灰黄褐	にぶい黄橙	
130	土師器	甕　口縁部	13期	SB13				灰白	灰白	
131	土師器	甕　口縁部	13期	SB13				浅黄	にぶい黄橙	
132	土師器	甕　口縁部	13期	SB13				浅黄	にぶい橙	
133	土師器	甕　口縁部	13期	SB13				黒褐	暗赤褐	
134	土師器	甕　胴部	13期	SB13				浅黄	にぶい黄橙	
135	土師器	甕　胴部	13期	SB13				灰黄	にぶい橙	
136	土師器	甕　口縁部	13期	SB15				灰白	灰白	
137	土師器	甕　口縁部	13期	SB17				橙	橙	
138	土師器	甕　胴部	13期	SB17				浅黄橙	浅黄橙	
139	土師器	甕　胴部	13期	SB18				灰黄褐	黒褐	
140	土師器	甕　胴部	13期	SB19 P6				淡黄	暗オリーブ褐	
141	土師器	甕　底部	13期	SB19 P4				淡黄	暗灰黄	
142	土師器	甕　胴部	13期	SB20				褐灰	暗オリーブ褐	
143	土師器	甕　胴部	13期	SB20				淡黄	灰黄褐	
144	土師器	甕　胴部	13期	SB20				灰黄	灰黄褐	
145	土師器	甕　胴部	13期	SB20				灰白	暗褐	
146	土師器	甑	13期	SB21	20.8	15.0		橙	橙	
147	土師器	甕	13期	SB21	11.4	17.0	9.8	淡橙	にぶい橙	
148	土師器	甕　胴部	13期	SB21				灰白	にぶい黄橙	
149	土師器	甕　胴部	13期	SB22				にぶい橙	灰黄褐	
150	土師器	甕　胴部	13期	SB22				灰白	橙	
151	須恵器	坏身	13期	SB23	11.1	3.6		オリーブ黒	灰オリーブ	
152	土師器	甑　口縁部	13期	SB23				灰白	にぶい黄橙	
153	須恵器	提瓶	13期	SB23, P8				灰黄	灰白	
154	土師器	甕	13期	SB23	20.0	19.6		にぶい黄橙	にぶい黄橙	
155	土師器	甕　口縁部	13期	SB23	18.0	4.7		橙	橙	
156	土師器	甕　口縁部	13期	SB23	17.5	3.7		橙	にぶい褐	
157	須恵器	坏蓋	13期	SB24	10.9	3.9		灰	灰	
158	須恵器	坏身	13期	SB24	10.0	4.3		灰	灰	
159	須恵器	坏身	13期	SB24	12.0	4.2		灰	灰	
160	須恵器	高坏　脚部	13期	SB24			11.4	灰	灰	
161	土師器	甕　口縁部	13期	SB24	22.5	3.4		橙	橙	北野型
162	土師器	甕　口縁部	13期	SB24	19.4	2.5		浅黄橙	浅黄橙	
163	土師器	甕	13期	SB24	13.0	14.1		浅黄橙	浅黄橙	
164	土師器	甕　底部	13期	SB24		3.5	6.0	にぶい褐	にぶい褐	
165	土師器	甕　胴部	13期	SB24				灰黄褐	にぶい褐	
166	土師器	甕　胴部	13期	SB24				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
167	土師器	甕　胴部	13期	SB24				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
168	須恵器	坏身	13期	SB25	9.2	3.7		灰	灰	
169	須恵器	高坏　坏部	13期	SB25	16.6	6.9		暗灰黄	灰	
170	土師器	甕	13期	SB25	25.4	22.8		にぶい黄橙	にぶい黄橙	
171	土師器	甕　胴部	13期	SB25				にぶい黄橙	暗褐	
173	須恵器	高坏	13期	SB26	12.4	9.9	9.5	灰	灰	
174	須恵器	高坏	13期	SB26	12.8	(10.0)	9.8	灰	灰	
175	須恵器	高坏　脚部	13期	SB26		7.6	11.7	黄灰	黄灰	
176	須恵器	提瓶	13期	SB24　SB26	12.0	27.9		灰	灰	

第７表　遺物観察表(3)

番号	種　類	器　種	時期・分類	遺　構	口径	器高	底径	内面	外面	備　　考
177	土師器	甕　口縁部	13期	SB26	20.0	5.5		灰白	灰白	
178	土師器	甕　口縁部	13期	SB26	15.0	24.7		にぶい黄橙	にぶい橙	
179	土師器	甕　口縁部	13期	SB26	13.3	3.9		にぶい黄橙	にぶい黄橙	
180	土師器	甕　底部	13期	SB26		12.9	8.8	黒褐	暗灰黄	
181	土師器	甕　胴部	13期	SB26				にぶい黄橙	にぶい黄橙	伊勢産？
182	土師器	甕　胴部	13期	SB26				にぶい黄橙	暗褐	
184	須恵器	坏蓋	13期	SB28	12.9	3.8		灰黄	灰黄	
185	須恵器	坏身	13期	SB28	9.7	4.0	5.2	灰白	灰白	
186	須恵器	坏身	13期	SB28	11.0	1.9		灰白	灰白	
187	土師器	甕	13期	SB28	18.0	30.8		にぶい黄橙	にぶい黄橙	
188	土師器	鉢？	13期	SB28	8.8	6.8	4.0	にぶい橙	橙	
189	土師器	甕　口縁部	13期	SB28				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
190	土師器	甕　口縁部	13期	SB28				灰白	灰白	
191	須恵器	坏蓋	14期	SK684	12.7	3.9		灰白	灰白	
192	山茶碗		第３型式	NR1		3.6	7.6	灰白	灰白	
193	山茶碗		第４型式	NR1	15.8	5.7	7.2	灰白	灰白	
194	山茶碗		第４型式	NR1		4.4	6.1	灰白	灰白	
195	山茶碗		第５型式	NR1	16.5	5.5	7.4	灰白	灰白	
196	山茶碗		第５型式	NR1	15.9	5.8	7.5	灰白	灰白	
197	小碗		第３型式	NR1	11.2	3.2	5.0	灰白	灰白	
198	小碗		第４型式	NR1	8.6	2.6	4.3	灰白	灰白	
199	小碗		第４型式	NR1	9.8	2.3	4.8	灰白	灰白	
200	小碗		第４型式	NR1	9.5	3.1	4.8	灰白	灰白	
201	小碗		第４型式	NR1	9.9	3.3	5.0	灰白	灰白	
202	小碗		第４型式	NR1	8.6	2.8	4.6	灰白	灰白	
203	小碗		第４型式	NR1	8.5	3.0	5.0	灰白	灰白	
204	小皿		第５型式	NR1	8.9	2.6	4.3	灰白	灰白	
205	小皿		第５型式	NR1	8.3	2.5	3.5	灰黄褐	灰黄褐	
206	土師質皿	土師質皿	分類不明	NR1	8.3	1.7	4.0	浅黄橙	浅黄橙	
207	子持器台		第３～４型式	NR1		4.3	3.8	灰白	灰白	
208	片口鉢		第５型式	NR1				灰白	灰白	
209	片口鉢			NR1		4.3	9.3	灰白	灰白	中津川産
210	中国磁器	白磁　碗	Ⅳ類	NR1				灰白	灰白	
211	土師質鍋	清郷鍋		NR1				黒褐	黒褐	
212	土師質鍋	清郷鍋		NR1				黒褐	黒褐	
213	土師質鍋	清郷鍋		NR1	35.5	3.1		黒褐	黒褐	
214	山茶碗		第５型式	D区SK88	16.0	5.9	8.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	浅間窯下
215	山茶碗		第５型式	D区SK88	16.2	6.1	7.5	灰白	灰白	浅間窯下
216	美濃須衛	広口壺		D区SK88		21.9	8.6	灰白	灰黄	美濃須衛
217	美濃須衛	三口鉢	12C初頭？	SU2	16.0	13.5	11.6	淡黄	にぶい黄	美濃須衛
218	山茶碗		第７型式（明和）	SB02 P2	12.8	5.0	4.4	灰白	灰白	明和
219	山茶碗		第11型式	SD4	11.6	3.6	4.7	灰白	灰白	脇之島
220	土師質皿	土師質皿	B2	SD4	10.5	2.3	4.9	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
221	古瀬戸	四耳壺	前Ⅱ期	SD4				にぶい黄橙	灰白	灰釉
222	山茶碗		第10型式	SD11	12.7	3.0	4.0	灰白	灰白	大洞東
223	山茶碗		第10型式	SD5	14.0	4.0	4.6	灰白	灰白	大洞東
224	片口鉢		第５型式	SD5	29.6	(10.3)	14.3	灰白	灰白	
225	中津川？	甕　底部		SD5他		9.5	13.9	灰白	暗赤褐	中津川？
226	打欠円盤	碗底		SD11				オリーブ黄	灰白	灰釉
227	山茶碗		第５型式	SD6	15.2	5.5	7.0	灰黄	灰黄	墨書？浅間窯下
228	山茶碗		第10型式	SD6	12.2	4.6	3.8	灰白	灰白	大洞東
229	山茶碗		第10型式	SD12	13.0	4.2	4.2	灰白	灰白	大洞東
230	山茶碗		第11型式	SD6	12.6	3.7	4.6	灰白	灰白	脇之島
231	山茶碗		第11型式	SD6	12.4	3.3	3.5	灰白	灰白	脇之島
232	山茶碗		第11型式	SD12	14.2	3.2	4.9	淡黄	淡黄	脇之島
233	古瀬戸	釜？	後Ⅲ～Ⅳ期	SD12	11.8	5.7		にぶい赤褐	にぶい赤褐	錆釉
234	古瀬戸	卸目付大皿	後Ⅳ期古	SD6				灰白	灰白	灰釉
235	中国磁器	白磁　碗	Ⅰ－４	SD12				灰黄	灰黄	
236	山茶碗		第10型式	SD7	11.0	3.5	2.6	灰白	灰白	大洞東
237	山茶碗		第11型式	SD14	10.8	3.1	4.0	灰白	灰白	脇之島
238	土師質皿	土師質皿	B3	SD14	12.6	2.2		にぶい黄橙	にぶい黄橙	
239	古瀬戸	擂鉢	後Ⅳ期新か大窯第１段階	SD14		7.7	8.5	暗赤灰	暗赤灰	
240	常滑	甕　口縁	10	SD14				暗赤褐	暗赤褐	
241	常滑	甕　口縁	5	SD14				黒褐	黒褐	
242	小皿		第11型式	SS13	8.0	1.0	4.5	灰白	灰白	脇之島
243	山茶碗		第10型式	SD13		1.2	3.7	灰黄	灰白	墨書　大洞東
244	山茶碗		第11型式	SD13	11.8	2.8	4.2	灰白	灰白	脇之島
245	山茶碗		第11型式	SD13	10.2	2.6	3.7	灰黄褐	灰黄褐	生田
246	山茶碗		第11型式	SD13	9.6	2.2	4.2	暗灰黄	暗灰黄	生田
247	山茶碗		第11型式	SD13	10.5	2.5	3.4	暗灰黄	暗灰黄	生田
248	山茶碗		第11型式	SD13	9.0	2.3	3.9	明黄褐	明黄褐	生田
249	山茶碗		第11型式	SD13	10.9	2.0	3.8	灰オリーブ	灰オリーブ	生田
250	山茶碗		第11型式	SD13	11.5	2.7	3.7	灰白	灰白	生田
251	古瀬戸	天目茶碗	後Ⅳ期新	SD13				暗褐	にぶい黄橙	
252	連房	天目茶碗	第１小期	SD13		2.3	4.6	黒	灰白	
253	古瀬戸	縁釉小皿	後Ⅲ期	SD13	11.2	3.2	6.2	にぶい橙	にぶい橙	鉄釉
254	古瀬戸	土瓶か釜	後Ⅲ～Ⅳ期	SD13	15.6	7.0		にぶい赤褐	にぶい赤褐	錆釉
255	古瀬戸	筒形容器	後Ⅳ期	SD13		8.9	12.3	淡黄	淡黄	灰釉
256	打欠円盤	碗底		SD13				灰白	灰白	灰釉
257	山茶碗		第11型式	SD18	11.7	3.4	4.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	脇之島
258	山茶碗		第11型式	SD18	12.4	3.2	4.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	脇之島

第８表　遺物観察表(4)

番号	種　類	器　種	時期・分類	遺　構	口径	器高	底径	内面	外面	備　　考
259	古瀬戸	擂鉢	後Ⅳ期古	SD18	34.6	4.0		にぶい赤褐	橙	
260	古瀬戸	釜	後Ⅲ～Ⅳ期	SD18				にぶい赤褐	にぶい赤褐	錆釉
261	土師質皿	土師質皿	C2	SD19	7.0	1.3		浅黄橙	浅黄橙	
262	土師質皿	土師質皿	B3	SD19	12.2	2.1		にぶい黄橙	にぶい黄橙	
263	山茶碗		第11型式	SD20	10.6	2.5	4.0	橙	浅黄橙	生田
264	山茶碗		第11型式	SD20	11.8	3.1	3.0	灰白	灰白	脇之島
265	片口鉢			SD21		5.2	9.0	浅黄橙	浅黄橙	中津川産
266	中濃か東濃	甕　口縁		D区SD1				褐灰	灰褐	兼山か恵那産
267	常滑	甕　口縁	6b	D区SD1				灰黄褐	にぶい褐	
268	古瀬戸	天目茶碗	後Ⅱ期	D区SD2				黒褐	黒褐	
269	古瀬戸	小鉢	後Ⅲ期	SD16	9.4	2.9	5.8	灰白	灰白	摩耗痕　灰釉
270	山茶碗		第９型式	SD16		3.0	4.5	灰白	灰白	大畑大洞新
271	山茶碗		第10型式	SD16	12.4	4.6	3.9	淡黄	淡黄	大洞東
272	山茶碗		第11型式	SD16	11.9	2.4	5.0	灰白	灰白	脇之島
273	山茶碗		第11型式	SD16	11.2	2.5	4.2	灰黄	灰黄	脇之島
274	山茶碗		第11型式	SD16	10.2	2.8	3.4	暗灰黄	暗灰黄	生田
275	山茶碗		第11型式	SD16	9.8	2.6	2.7	暗灰黄	暗灰黄	生田
276	古瀬戸	丸皿	後Ⅲ～Ⅳ期	SD16	10.4	2.5	6.2	にぶい赤褐	にぶい赤褐	鉄釉
277	古瀬戸	直縁大皿	後Ⅳ期	SD16	24.0	4.8		浅黄橙	浅黄橙	鉄釉
278	古瀬戸	鉢	後Ⅲ～Ⅳ期	SD16		3.9	12.4	灰黄褐	灰黄褐	
279	片口鉢		第６型式	SD16		2.0	9.5	灰黄	灰黄	常滑産？
280	古瀬戸	片口鉢	第７小期？	SD16	17.8	7.6		明黄褐	明黄褐	美濃産
281	片口鉢		第10型式	SD16				黒	褐灰	瀬戸産
282	片口鉢		第７型式	SD16				灰白	灰白	瀬戸産
283	古瀬戸	卸皿	後Ⅳ期新	SD16				灰白	灰白	灰釉
284	古瀬戸	仏餉具	後Ⅳ新	SD16		4.0	4.8	黒	灰白	鉄釉
285	中国磁器	青磁　碗	Ｃ類	SD16, SD20		3.0	5.7	オリーブ灰	オリーブ灰	雷文帯　龍泉窯系産
286	土師質皿	土師質皿	C1	SD16	9.2	1.4		浅黄橙	浅黄橙	
287	土師質皿	土師質皿	B2	SD16	12.5	1.6		浅黄橙	浅黄橙	
288	古瀬戸	擂鉢	後Ⅳ期新	SD16, SD20, 暗渠	32.9	12.7	10.0	暗赤褐	暗赤褐	
289	古瀬戸	擂鉢	後Ⅳ期古	SD16	25.5	4.4		浅黄橙	橙	
290	古瀬戸	擂鉢	後Ⅳ期	SD16		6.5	10.6	暗赤褐	赤褐	
291	古瀬戸	卸目付大皿	後Ⅳ期新	SD16, NR4他	43.0	13.1	17.0	灰白	灰白	鉄釉　卸目無し
292	古瀬戸	卸目付大皿	後Ⅲ期	SD16				浅黄	浅黄	灰釉
293	古瀬戸	梅瓶	中期	SD16				灰白	オリーブ黄	灰釉
294	古瀬戸	釜	後Ⅲ～Ⅳ期	SD16	12.4	7.4		にぶい赤褐	にぶい赤褐	錆釉
295	常滑	甕	６ｂ	SD16, 17	30.4	34.4		にぶい黄褐	にぶい赤褐	
296	常滑	甕	１０	SD16, SK1205他	52.2	28.8		にぶい赤褐	にぶい赤褐	
297	打欠円盤	山茶碗底？		SD16				淡黄	淡黄	第４型式
298	山茶碗		第８型式	SD17	14.4	5.2	4.8	淡黄	淡黄	大畑大洞
299	山茶碗		第８型式	SD17	12.7	4.4	3.2	淡黄	淡黄	大畑大洞
300	山茶碗		第10型式	SD17	12.8	3.6	3.4	灰白	灰白	大洞東
301	山茶碗		第10型式	SD17	13.0	3.9	4.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	大洞東
302	山茶碗		第11型式	SD17	13.1	3.3	5.2	淡黄	淡黄	脇之島
303	小皿		第８型式	SD17	8.3	1.4	3.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	大畑大洞
304	小皿		第10型式	SD17	8.4	0.8	5.2	灰白	灰白	大洞東
305	小皿		第10型式	SD17	8.5	1.0	6.3	にぶい黄橙	にぶい黄橙	大洞東
306	小皿		第10型式	SD17	8.0	0.7	5.0	灰白	灰白	大洞東
307	小皿		第11型式	SD17	7.7	1.1	4.4	灰白	灰白	脇之島
308	古瀬戸	緑釉小皿	後Ⅳ期新	SD17	9.8	2.4	4.4	浅黄橙	浅黄橙	灰釉
309	古瀬戸	擂鉢	後Ⅲ期	SD17, SD20	26.4	11.5	9.4	浅黄橙	にぶい赤褐	
310	古瀬戸	擂鉢	後Ⅳ期古	SD17	27.6	9.9	10.9	橙	橙	
311	古瀬戸	擂鉢	後Ⅳ期	SD17	27.6	10.8	10.5	灰白	極暗赤褐	
312	古瀬戸	擂鉢	後Ⅳ期	SD17			12.0	にぶい橙	にぶい橙	
313	古瀬戸	盤類	後Ⅲ期かⅣ期古	SD17		7.2	10.5	浅黄橙	浅黄橙	灰釉
314	片口鉢		第９型式？	SD17		4.0	12.2	灰白	灰白	瀬戸産
315	片口鉢		第９型式	SD17				褐灰	灰	瀬戸産
316	片口鉢	片口鉢	第５～６型式	SD17				灰白	灰白	常滑産
317	土師質皿	ろくろ土師		SD17	12.5	2.2		灰白	灰白	
318	土師質皿	土師質皿	B2	SD17	12.6	2.1		浅黄橙	浅黄橙	
319	土師質皿	土師質皿	B2～B3	SD17	12.7	2.2		灰黄褐	灰黄褐	
320	土師質皿	土師質皿	B2～B3	SD17	7.6	1.4		浅黄橙	浅黄橙	
321	土師質皿	土師質皿	B2～B3	SD17	10.2	1.8		浅黄橙	浅黄橙	
322	打欠円盤	碗底		SD17				淡黄	灰白	灰釉
331	山茶碗		第11型式	ＳＸ１	12.0	3.2	3.0	灰白	灰白	脇之島
332	常滑	甕　底部	２か３	SX1、SD6, 7		16.3	12.4	にぶい褐	にぶい褐	
333	古瀬戸	折縁深皿	中Ⅱ期	SX3				灰白	灰白	灰釉
335	常滑	甕　底部	８	SX2, SD25	39.7	24.7		赤褐	赤褐	
336	山茶碗		第10型式	SK1205	12.4	4.0	4.5	灰黄	灰黄	大洞東
337	山茶碗		第10型式	SK1205	12.3	4.3	4.4	灰白	灰白	大洞東
338	小皿		第８型式	SK1205	8.1	1.3	4.6	灰白	灰白	大畑大洞
339	小皿		第10型式	SK1205	8.6	1.2	4.0	灰白	灰白	墨書「十」大洞東
340	山茶碗		第８型式	D区SX1	12.5	4.6	4.2	淡黄	淡黄	大畑大洞
341	山茶碗		第６型式	D区SX1				灰白	灰白	卸目入　白土原
342	片口鉢		第６型式？	D区SX1				浅黄橙	にぶい赤褐	中津川産
343	小皿		第６型式	D区SX1	7.8	1.4	4.7	灰白	灰白	白土原
344	小皿		第７型式	D区SX1	8.4	1.6	5.6	灰白	灰白	明和
345	小皿		第７型式	D区SX1	8.6	1.7	4.3	浅黄橙	浅黄橙	明和
346	美濃須衛	四耳壺	13Ｃ初頭	D区SX1	10.6	9.5		淡黄	浅黄	
347	山茶碗	碗	第７型式	D区SX2	13.7	5.5	5.1	灰白	灰白	明和
348	小皿		第８型式	D区SX2	8.2	1.6	4.7	淡黄	淡黄	大畑大洞

第9表　遺物観察表(5)

番号	種　類	器　種	時期・分類	遺　構	口径	器高	底径	内面	外面	備　考
349	古瀬戸	四耳壺	後Ⅳ期	D区SX2	12.8	6.0		灰白	淡黄	灰釉
350	山茶碗		第11型式	SK794	9.5	2.5	3.0	にぶい黄橙	浅黄	生田
351	山茶碗		第11型式	SK794	9.8	2.6	2.0	淡黄	淡黄	生田
352	山茶碗		第11型式	SK794	9.8	2.6	2.4	淡黄	淡黄	生田
353	山茶碗		第11型式	SK794	9.8	2.9	4.3	浅黄橙	浅黄橙	生田
354	山茶碗		第11型式	SK794	10.0	2.5	3.8	浅黄	淡黄	生田
355	山茶碗		第11型式	SK794	9.8	2.3	3.6	淡黄	淡黄	生田
356	山茶碗		第11型式	SK794	10.6	2.8	3.6	灰白	灰白	生田
357	土師質皿		A1	SK794	8.2	1.5		にぶい黄橙	にぶい黄橙	
358	古瀬戸	片口小瓶？	後Ⅲ～Ⅳ期	SK794				にぶい赤褐	暗赤褐	鉄釉
359	古瀬戸	擂鉢	後Ⅳ期新	SK794				灰赤	暗赤褐	
361	山茶碗		第6型式	D区SK58	15.6	5.6	9.4	灰白	灰白	常滑産
362	山茶碗		第11型式	D区SK58	11.7	2.8	4.5	にぶい黄橙	にぶい黄橙	脇之島
363	山茶碗		第11型式	D区SK58		2.5	5.2	灰白	灰白	脇之島
364	山茶碗		第11型式	D区SK58		1.6	4.2	にぶい黄橙	にぶい黄橙	脇之島
365	山茶碗		第11型式	D区SK58		2.2	3.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	脇之島
366	山茶碗		第11型式	D区SK58		1.3	5.0	灰白	灰白	脇之島
367	山茶碗		第11型式	D区SK58				にぶい黄橙	にぶい黄橙	生田
368	片口鉢		第9型式	D区SK58				灰白	黄灰	瀬戸産
369	片口鉢		第10型式	D区SK58		4.2	9.4	褐灰	褐灰	瀬戸産
370	古瀬戸	擂鉢	後Ⅳ期	D区SK58		5.0	11.8	にぶい赤褐	にぶい赤褐	
371	古瀬戸	擂鉢	後Ⅳ期新か大窯第1段階	D区SK58		5.5	9.0	暗赤褐	暗赤褐	
372	古瀬戸	擂鉢	後Ⅳ期新	D区SK58		9.0		暗赤褐	暗赤褐	
373	古瀬戸	擂鉢	後Ⅳ期	D区SK58				にぶい赤褐	暗赤褐	
374	古瀬戸	擂鉢	後Ⅳ期	D区SK58		7.1	9.0	淡黄	暗赤褐	
375	古瀬戸	尊式花瓶	後Ⅲ～Ⅳ期	D区SK58		1.9		黄灰	黄灰	鉄釉
376	古瀬戸	盤類	後Ⅲ～Ⅳ古	D区SK58		6.2	16.0	浅黄橙	浅黄橙	灰釉
377	常滑	甕　底部	5～6b	D区SK58		12.3	12.2	にぶい黄褐	にぶい赤褐	
378	土師質皿	土師質皿	C2	D区SK58	9.4	1.0		浅黄橙	浅黄橙	
379	古瀬戸	仏花瓶	後期」	D区SK58			16.0	灰白	灰白	鉄釉
380	古瀬戸	大型仏花瓶	後Ⅲ期	D区SK58		5.2		灰白	黒	鉄釉
381	古瀬戸	模来型瓶子	後Ⅲ～Ⅳ古	D区SK58				灰白	黒	鉄釉
382	古瀬戸	締腰形瓶子	前Ⅳ期	D区SK58		12.0		灰白	オリーブ黄	灰釉
383	古瀬戸	四耳壺？	後Ⅳ期	D区SK58		2.5	13.7	浅黄橙	浅黄橙	灰釉
384	山茶碗		第9型式	P325	12.8	4.4	4.0	灰白	灰白	大畑大洞新
385	山茶碗		第8型式	SK357	12.5	4.6	4.2	灰白	灰白	大畑大洞
386	山茶碗		第9型式	SU4	13.0		4.3	灰白	灰白	墨書「十」？大畑大洞新
387	山茶碗		第9型式	SU4	13.0	4.5	4.3	灰白	灰白	大畑大洞新
388	山茶碗		第10型式	SU4	13.6	4.6	4.9	灰白	灰白	大洞東
389	山茶碗		第10型式	SU4	13.3	3.7	4.1	灰白	灰白	大洞東
390	山茶碗		第10型式	SU4	13.0	4.4	3.7	灰白	灰白	大洞東
391	山茶碗		第10型式	SU4	13.4	4.3	3.5	灰白	灰白	大洞東
392	山茶碗		第10型式	SU4	12.4	4.4	3.0	灰白	灰白	大洞東
393	山茶碗		第10型式	SU4	11.8	3.6	3.8	灰白	灰白	大洞東
394	小皿		第8型式	SU4	9.1	1.1	5.4	灰白	灰白	大畑大洞
395	小皿		第10型式	SU4	8.8	1.2	4.1	灰白	灰白	大洞東
396	連房	摺絵皿	第6小期	D区SK298	11.9	2.8	7.4	浅黄	浅黄	美濃産
397	連房	摺絵皿	第6小期	D区SK298	11.8	2.9	6.4	浅黄	浅黄	美濃産
398	連房	摺絵皿	第6小期	D区SK298	12.2	2.9	6.4	浅黄	浅黄	美濃産
399	連房	擂鉢	19C	D区SD20	38.0	14.7	14.2	赤褐	暗赤褐	
400	施釉土器	鍋	明治	D区SD20	29.2	11.6	20.7	橙	にぶい橙	
401	連房	緑鉢	第11小期か明治	D区SD20		15.0	18.2	灰白	灰白	
402	縄文土器	蓋	5期	NR5	20.6	7.0		赤褐	明赤褐	
403	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	NR2底	25.0	10.2		にぶい橙	にぶい褐	
404	縄文土器	深鉢　胴部	縄文中期？	3F 段丘礫直上				浅黄	にぶい黄	
405	縄文土器	深鉢　胴部	縄文中期？	3F 段丘礫直上				灰黄褐	黒褐にぶい橙	
406	縄文土器	深鉢　胴部	縄文中期？	3F 段丘礫直上		25.0	10.2	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
407	縄文土器	深鉢　胴部	縄文中期？	3F 段丘礫直上				黒褐	にぶい橙	
408	縄文土器	深鉢　口縁部	1期	NR1				にぶい橙	にぶい橙	
409	縄文土器	深鉢　胴部	1期	NR1				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
410	縄文土器	深鉢　胴部	1期	D区				にぶい赤褐	にぶい赤褐	
411	縄文土器	深鉢　胴部	1期	D区SD17				橙	橙	
412	縄文土器	深鉢　胴部	1期	D区SD18				橙	橙	
413	縄文土器	深鉢　口縁部	1期	NR1				灰白	灰白	
414	縄文土器	深鉢　口縁部	1期	NR1				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
415	縄文土器	深鉢　口縁部	1期	7J				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
416	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	6J	29.7	6.0		にぶい黄橙	にぶい黄橙	
417	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	B区				にぶい黄橙	暗灰黄	
418	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	SK486				にぶい橙	にぶい褐	
419	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	SK1030				にぶい橙	にぶい褐	
420	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				褐灰	にぶい黄橙	
421	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	6J				明赤褐	黒褐	
422	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	排土				にぶい橙	にぶい褐	
423	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				明褐灰	褐灰	
424	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	B区				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
425	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR3				にぶい橙	にぶい橙	
426	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	SK75				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
427	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	17X				にぶい黄橙	橙	
428	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1	16.0	5.0		にぶい褐	灰褐	
429	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				橙	橙	
430	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				浅黄橙	浅黄橙	

第10表　遺物観察表(6)

番号	種　類	器　種	時期・分類	遺　構	口径	器高	底径	内面	外面	備　考
431	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				灰黄褐	灰黄褐	
432	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				にぶい褐	にぶい褐	
433	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	8M				灰黄褐	黄橙	
434	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				灰褐	明褐灰	
435	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				灰褐	灰褐	
436	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1	24.0	4.6		浅黄橙	にぶい黄橙	
437	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	SD6				にぶい褐	にぶい黄褐	
438	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
439	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				にぶい褐	にぶい褐	
440	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				浅黄橙	浅黄橙	
441	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	排土				浅黄橙	浅黄橙	
442	縄文土器	浅鉢？口縁部	2～3期	2E				灰黄褐	灰黄褐	
443	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				灰黄褐	にぶい黄橙	
444	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				灰黄褐	灰黄褐	
445	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				灰褐	灰褐	
446	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				灰白	灰白	
447	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				灰褐	黒褐	
448	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1	17.5	6.6		にぶい黄橙	にぶい黄橙	
449	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1	27.8	9.6		にぶい黄橙	にぶい黄橙	
450	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				にぶい黄橙	黒褐	
451	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	1C-1D				にぶい黄橙	灰黄褐	
452	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
453	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				にぶい黄橙	にぶい橙	
454	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	NR1				褐灰	灰白	
455	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				浅黄橙	浅黄橙	
456	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	3E				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
457	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				浅黄橙	にぶい黄橙	
458	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				褐灰	灰褐	赤色顔料付着
459	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				褐灰	褐灰	赤色顔料付着
460	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				褐灰	褐灰	
461	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				灰褐	明褐灰	
462	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	2F				橙	橙	
463	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	8L				にぶい黄橙	にぶい褐	
464	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	NR1				にぶい黄褐	橙	
465	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	6H				明赤褐	にぶい褐	
466	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	SK1018				灰褐	灰褐	
467	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	NR1				にぶい褐	にぶい褐	
468	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	NR1				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
469	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	6J				明黄褐	にぶい黄橙	
470	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	2D				にぶい褐	褐灰	
471	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	NR1				黒	灰白	
472	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	NR1				褐灰	にぶい橙	
473	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	NR2				にぶい褐	にぶい橙	
474	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	NR1				にぶい褐	褐灰	
475	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	NR1				浅黄橙	灰褐	
476	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	NR1				明褐灰	にぶい褐	
477	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	NR1				にぶい橙	灰褐	
478	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	NR1				灰白	にぶい褐	
479	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	6J				にぶい橙	にぶい橙	
480	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	NR1				にぶい褐	灰黄褐	
481	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	SK326				黄灰	黄灰	
482	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	試掘坑				灰褐	黒褐	
483	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	NR1				黒褐	橙	
484	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	NR1				灰白	灰白	
485	縄文土器	深鉢　胴部	2～3期	NR1				にぶい黄褐	灰白	
486	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	NR1				にぶい黄橙	にぶい褐	
487	縄文土器	深鉢　口縁部	2～3期	7J				にぶい褐	にぶい褐	
488	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	SD5	17.5	6.6		橙	にぶい黄褐	
489	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	D区SX2	27.8	9.6		橙	橙	
490	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	NR1				灰褐	明褐灰	
491	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	NR1				浅黄橙	浅黄橙	
492	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	3G				にぶい橙	にぶい褐	
493	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	NR1				橙	にぶい褐	
494	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	NR1				灰黄褐	灰黄褐	
495	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	NR2				にぶい黄	灰黄褐	
496	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	NR1	27.8	4.6		褐灰	灰褐	
497	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	NR1				にぶい褐	黒褐	
498	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	3G				にぶい黄褐	灰黄褐	
499	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	SK262				褐灰	灰黄橙	
500	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	8I				灰褐	にぶい褐	
501	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	7I				にぶい褐	にぶい褐	
502	縄文土器	深鉢　胴部	4期	8I				にぶい黄橙	橙	
503	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	4I				にぶい黄橙	にぶい橙	
504	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	NR1				にぶい黄橙	浅黄橙	
505	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	NR1				にぶい黄褐	にぶい黄褐	
506	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	NR1				にぶい橙	にぶい橙	
507	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	NR1				明褐灰	灰褐	
508	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	NR1				明褐灰	灰褐	
509	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	3E				にぶい黄褐	にぶい黄褐	
510	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	3G				にぶい褐	灰褐	
511	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	3C				橙	にぶい黄褐	

第11表　遺物観察表(7)

番号	種　類	器　種	時期・分類	遺　構	口径	器高	底径	内面	外面	備　考
512	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	NR1				灰褐	灰褐	
513	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	SD1				明褐	明褐	
514	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	NR1				明褐灰	明褐灰	
515	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	3F				にぶい褐	にぶい褐	
516	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	SK12				にぶい黄褐	にぶい黄褐	
517	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	2H				橙	橙	
518	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	NR3	4.5	4.6		橙	浅黄橙	
519	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	1E				にぶい黄橙	灰黄褐	
520	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	NR1				褐灰	にぶい赤褐	
521	縄文土器	深鉢　口縁部	4期	NR1				にぶい橙	褐灰	
522	縄文土器	深鉢　胴部	4期	6G				にぶい黄橙	暗灰黄	
523	縄文土器	深鉢　胴部	4期	8L				赤褐	にぶい赤褐	
524	縄文土器	深鉢　胴部	4期	SK153				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
525	縄文土器	深鉢　胴部	4期	9I				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
526	縄文土器	深鉢　胴部	4期	SK1058				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
527	縄文土器	深鉢　胴部	4期	NR1				灰黄褐	灰黄褐	
528	縄文土器	深鉢　胴部	4期	SK1189				灰黄褐	灰黄褐	
529	縄文土器	深鉢　胴部	4期	6I				橙	橙	
530	縄文土器	深鉢　胴部	4期	8H				黒	灰黄褐	
531	縄文土器	深鉢　胴部	4期	8H				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
532	縄文土器	深鉢　胴部	4期	6I				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
533	縄文土器	深鉢　胴部	4期	11L				赤褐	褐	
534	縄文土器	深鉢　胴部	4期	9L				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
535	縄文土器	深鉢　胴部	4期	10M				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
536	縄文土器	注口土器	4期	NR1				にぶい黄橙	浅黄橙	
537	縄文土器	つり手土器？	4期	NR2				灰黄	灰白	
538	縄文土器	胴部	4期	NR1				褐灰	褐灰	
539	縄文土器	胴部	4期	6I				褐	灰褐	
540	縄文土器	浅鉢？口縁部	5期	NR1				黒褐	黒褐	
541	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				褐灰	にぶい黄橙	
542	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				にぶい黄橙	にぶい褐	
543	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
544	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				暗褐	黒褐	
545	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
546	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				灰黄褐	褐灰	
547	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
548	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				浅黄橙	明褐灰	
549	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
550	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				灰黄褐	灰黄褐	
551	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				灰白	灰白	
552	縄文土器	壺	5期	NR1				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
553	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				にぶい褐	黒褐	
554	縄文土器	壺	5期	4G				にぶい黄橙	にぶい橙	
555	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	2E				浅黄橙	にぶい黄橙	
556	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	2E				にぶい褐	黒褐	
557	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				灰黄褐	褐灰	
558	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				浅黄橙	にぶい黄橙	
559	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				にぶい黄橙	暗灰	
560	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	3A				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
561	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	2G				灰黄褐	にぶい黄橙	
562	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	表採				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
563	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	6D				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
564	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				にぶい黄橙	浅黄橙	
565	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	SK17				灰黄褐	灰黄褐	
566	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				にぶい褐	にぶい褐	
567	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				灰白	灰白	
568	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
569	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				褐灰	褐灰	
570	弥生土器	壺　口縁部	6期	NR1				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
571	弥生土器	壺　口縁部	6期	NR1				灰黄褐	灰黄褐	
572	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				にぶい黄橙	灰白	
573	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
574	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				明褐灰	明褐灰	
575	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
576	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
577	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	5C				にぶい橙	にぶい橙	
578	弥生土器	壺　口縁部	6期	SB8				黒褐	黒褐	
579	弥生土器	壺　口縁部	6期	NR1				灰白	灰白	
580	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				灰黄褐	にぶい黄橙	
581	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	2E	31.3	4.2		にぶい黄橙	灰黄褐	
582	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				褐灰	にぶい橙	
583	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				明褐灰	明褐灰	
584	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				明褐灰	明褐灰	
585	弥生土器	壺	6期	NR1				褐灰	明褐灰	
586	弥生土器	壺	6期	3E				にぶい橙	にぶい橙	
587	縄文土器	壺	5期	NR1				にぶい褐	灰褐	
588	縄文土器	壺	5期	SK12				明褐灰	明褐灰	
589	縄文土器	壺	5期	2F				明赤褐	橙	
590	縄文土器	壺	5期	NR1				にぶい橙	明褐灰	
591	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
592	縄文土器	浅鉢？口縁部	5期	SK12				黒	褐灰	

第12表　遺物観察表(8)

番号	種　類	器　種	時期・分類	遺　構	口径	器高	底径	内面	外面	備　考
593	縄文土器	胴部	5期	SD16				にぶい橙	黒褐	
594	縄文土器	浅鉢？口縁部	5期	2H				にぶい褐	にぶい褐	
595	縄文土器	浅鉢？口縁部	5期	NR1				にぶい褐	灰黄褐	
596	縄文土器	浅鉢？口縁部	5期	NR1				灰黄褐	灰黄褐	
597	縄文土器	浅鉢？口縁部	5期	NR1				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
598	縄文土器	浅鉢？口縁部	5期	NR1				黒褐	黒褐	
599	縄文土器	浅鉢？口縁部	5期	NR1				にぶい褐	黒褐	
600	縄文土器	壺？	5期	SK1178				灰褐	にぶい赤褐	
601	縄文土器	鉢　胴部	5期	NR1				にぶい褐	にぶい褐	赤色顔料付着
602	縄文土器	鉢　胴部	5期	11K				にぶい黄橙	にぶい褐	
603	縄文土器	鉢　胴部	5期	NR1				明褐灰	灰褐	
604	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
605	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	3H				にぶい黄橙	灰黄褐	
606	縄文土器	深鉢　口縁部	5期	NR1				にぶい黄橙	灰黄褐	
607	縄文土器	浅鉢　口縁部	5期	NR1				灰褐	灰褐	
608	縄文土器	浅鉢　口縁部	5期	NR1				にぶい黄橙	にぶい橙	
609	縄文土器	壺？口縁部	5期	NR1				灰白	灰褐	
610	縄文土器	壺？口縁部	5期	NR1				灰白	にぶい黄橙	
611	縄文土器	壺？口縁部	5期	NR1				灰白	灰白	
612	弥生土器	鉢　口縁部	5期	NR1	12.1	3.2		にぶい黄褐	にぶい黄褐	
613	縄文土器	鉢　口縁部	5期	NR1				褐灰	灰褐	
614	縄文土器	鉢　口縁部	5期	NR1				明褐灰	明褐灰	
615	縄文土器	胴部	5期	NR1				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
616	縄文土器	口縁部	5期	8I				灰白	にぶい黄橙	
617	縄文土器	口縁部	5期	9I				にぶい黄橙	橙	
618	縄文土器	深鉢　口縁部	時期不明	NR1				褐灰	黒褐	
619	縄文土器	深鉢　口縁部	時期不明	3G				灰黄褐	にぶい褐	
620	縄文土器	深鉢　口縁部	時期不明	NR1				にぶい褐	にぶい褐	
621	縄文土器	深鉢　口縁部	時期不明	NR1				にぶい橙	橙	
622	縄文土器	深鉢　底部	2～3期	NR1		4.9	8.0	にぶい橙	橙	
623	縄文土器	深鉢　底部	2～3期	NR1		8.5	4.0	明褐灰	にぶい褐	
624	縄文土器	深鉢　底部	2～3期	NR1		1.7	10.0	にぶい橙	浅黄橙	
625	縄文土器	深鉢　底部	2～3期	NR1		9.0	10.8	灰白	灰白	網代痕
626	縄文土器	深鉢　底部	2～5期	NR1		3.7	8.5	黒	にぶい橙	炭化物付着
627	縄文土器	深鉢　底部	2～5期	NR1		3.4	7.6	黒	灰白	
628	縄文土器	深鉢　底部	2～5期	NR1		3.8	9.5	灰褐	灰褐	
629	縄文土器	深鉢　底部	2～5期	NR2		3.0	10.0	橙	にぶい橙	網代痕
630	縄文土器	深鉢　底部	2～5期	NR2		4.4	12.5	にぶい橙	にぶい橙	網代痕
631	縄文土器	深鉢　底部	2～5期	SD25		3.3	10.8	浅黄橙	浅黄橙	網代痕
632	縄文土器	深鉢　底部	2～5期	NR1		2.6	13.0	にぶい褐	にぶい橙	網代痕
633	縄文土器	深鉢　底部	2～5期	3G		4.0	9.0	にぶい橙	にぶい橙	網代痕
634	縄文土器	深鉢　底部	2～5期	NR2		2.8	11.2	灰黄褐	にぶい橙	網代痕　葉脈痕
635	縄文土器	深鉢　底部	2～5期	NR2		2.1	9.5	浅黄橙	浅黄橙	網代痕
636	縄文土器	深鉢　底部	2～5期	NR1		1.7	8.9		にぶい橙	網代痕
637	縄文土器	深鉢　底部	2～5期	2E		2.9	8.6	橙	橙	網代痕
638	縄文土器	深鉢　底部	2～5期	NR1		1.3	8.5	灰白	にぶい橙	葉脈痕
639	縄文土器	深鉢　底部	2～5期	NR1		2.2	8.0	にぶい赤褐	にぶい赤褐	葉脈痕
640	縄文土器	深鉢　底部	2～5期	10J		2.0	8.4	橙	橙	網代痕
641	縄文土器	深鉢　底部	2～5期	NR1		2.5	9.6	褐灰	にぶい橙	網代痕
642	縄文土器	深鉢　底部	2～5期	NR2		2.3	10.6	灰褐	灰褐	網代痕
643	縄文土器	深鉢　底部	2～5期	NR1		2.8	8.8	明褐灰	にぶい褐	葉脈痕
644	縄文土器	深鉢　底部	2～5期	2D		1.9	11.0	灰白	灰褐	網代痕
645	縄文土器	深鉢　底部	2～5期	NR1		2.3	9.0	灰褐	にぶい褐	網代痕
646	縄文土器	深鉢　底部	2～5期	3G		2.2	6.5	にぶい黄橙	にぶい赤褐	網代痕
647	弥生土器	底部	2～5期	NR1		1.5	6.5	橙	にぶい橙	葉脈痕
648	縄文土器	深鉢　底部	2～5期	NR1		2.4	6.0	にぶい褐	にぶい橙	葉脈痕
649	縄文土器	深鉢　底部	5期	NR1		4.8	5.3	にぶい橙	にぶい橙	
650	縄文土器	深鉢　底部	5期	NR1		5.6	6.2	灰白	にぶい黄橙	
651	縄文土器	深鉢　底部	5期	2E		5.1	6.0	浅黄橙	浅黄橙	
652	土偶	頭部	2～5期	2G					灰褐	
653	土偶	頭部	2～5期	NR1					にぶい褐	
654	土偶	胴部	2～5期	NR1					灰白	
655	土偶		2～5期	NR1					にぶい橙	
656	土偶	脚部？	2～5期	10M					灰白	
657	土偶	胴か脚？	2～5期	NR1					にぶい橙	
658	土偶	手？	2～5期	NR1					灰黄褐	
659	土版		5期	NR1					灰黄褐	
660	土製品	不明	時期不明	2EⅡ				にぶい赤褐	明赤褐	
661	打欠円盤		2～3期	NR1				にぶい橙	灰白	
662	打欠円盤		2～3期	NR1				灰黄褐	黒	
663	弥生土器	壺　口縁部	6期	6I				にぶい橙	にぶい橙	
664	弥生土器	甕　口縁部	6期	NR1				明褐灰	明褐灰	
665	弥生土器	壺　口縁部	7期	SD6	14.0	22.0		橙	橙	条痕文系
666	弥生土器	壺　口縁部	7期	NR1	13.2	13.7		にぶい橙	にぶい橙	条痕文系
667	弥生土器	壺　口縁部	7期	6I	12.9	11.0		橙	橙	条痕文系
668	弥生土器	壺　頸部	7期	8H				橙	橙	条痕文系
669	弥生土器	壺　胴部～底部	7期	7I		16.6	6.2	にぶい橙	にぶい橙	条痕文系
670	弥生土器	壺　底部	7期	7I		12.5	6.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	条痕文系
671	弥生土器	壺　胴部	7期	8L				にぶい褐	にぶい褐	条痕文系
672	弥生土器	壺	7期	9I	14.0	22.0		黄橙	黄橙	
673	弥生土器	壺	7期	NR4	16.8	25.0	7.5	赤褐	赤褐	

第13表　遺物観察表(9)

番号	種　類	器　種	時期・分類	遺　構	口径	器高	底径	内面	外面	備　　考
674	弥生土器	壺	7期	SK151	19.4	22.0		明赤褐	明赤褐	
675	弥生土器	壺　口縁部	7期	2H	18.4	1.5		にぶい橙	にぶい橙	
676	弥生土器	壺　口縁部	7期	SB10	12.3	3.6		にぶい黄橙	にぶい黄橙	条痕文系
677	弥生土器	壺　口縁部	7期	SD16	13.1	2.5		橙	黄橙	
678	弥生土器	壺　口縁部	7期	3F	10.7	3.5		橙	橙	
679	弥生土器	壺　口縁部	7期	NR1	15.3	6.5		明褐灰	灰褐	756と同一？
680	弥生土器	壺　口縁部	7期	7L	11.8	6.3		黒褐	黒褐	
681	弥生土器	壺	7期	8H	13.2	10.3		橙	暗赤褐	大地系
682	弥生土器	壺　口縁部	7期	5D	15.7	6.0		灰黄	灰白	条痕文系
683	弥生土器	壺　口縁部	7期	2H	13.4	5.1		浅黄橙	にぶい橙	条痕文系
684	弥生土器	壺　口縁部	7期	2H	20.7	7.0		にぶい黄橙	にぶい橙	条痕文系
685	弥生土器	壺　口縁部	7期	NR1	10.4	4.3		にぶい橙	にぶい橙	条痕文系
686	弥生土器	壺　胴部	7期	6J				にぶい黄橙	にぶい黄橙	条痕文系
687	弥生土器	壺　底部	7期	9I		12.9	7.8	橙	橙	条痕文系
688	弥生土器	無頸壺　口縁部	7期	8K	9.5	2.6		明赤褐	明赤褐	条痕文系
689	弥生土器	無頸壺　口縁部	7期	2A	12.3	5.3		橙	橙	条痕文系
690	弥生土器	無頸壺　口縁部	7期	2H	12.7	4.0		にぶい褐	にぶい褐	条痕文系
691	弥生土器	無頸壺　口縁部	7期	2H	10.1	5.4		にぶい橙	にぶい橙	条痕文系
692	弥生土器	無頸壺　口縁部	7期	NR1	10.2	4.0		灰白	灰白	条痕文系
693	弥生土器	無頸壺　口縁部	7期	NR1	13.1	3.1		灰白	灰白	条痕文系
694	弥生土器	甕　口縁部	7期	2H	35.5	11.2		明褐	にぶい褐	条痕文系
695	弥生土器	甕　口縁部～胴部	7期	7H	29.7	21.7		褐	明赤褐	条痕文系
696	弥生土器	甕　口縁部～胴部	7期	6I	29.6	27.4		にぶい褐	褐	条痕文系
697	弥生土器	甕	7期	7I	29.6	25.6	8.0	橙	橙	条痕文系
698	弥生土器	甕	7期	2H	25.1	24.0	6.4	にぶい褐	にぶい褐	条痕文系
699	弥生土器	甕　口縁部～胴部	7期	NR1	14.0	10.0		にぶい赤褐	褐	条痕文系
700	弥生土器	甕　口縁部	7期	2H	24.7	9.4		暗赤褐	赤褐	条痕文系
701	弥生土器	甕　口縁部～胴部	7期	NR1	21.8	15.2		灰白	にぶい橙	条痕文系
702	弥生土器	甕　胴部	7期	NR1				にぶい褐	灰褐	条痕文系
703	弥生土器	甕　胴部	7期	SK851		15.5	7.4	暗褐	にぶい褐	条痕文系
704	弥生土器	甕　底部	7期	NR1		6.1	7.5	にぶい黄橙	にぶい黄橙	条痕文系
705	弥生土器	甕　底部	7期	4H		5.0	9.2	暗褐	にぶい黄橙	条痕文系、布目圧痕
706	弥生土器	甕　底部	7期	NR1		3.5	7.0	褐	褐	条痕文系、木葉圧痕
707	弥生土器	甕　底部	7期	NR1		4.2	7.5	灰黄褐	灰黄褐	
708	弥生土器	甕　底部	7期	SB9		3.4	7.6	暗褐	にぶい黄褐	条痕文系、木葉圧痕
709	弥生土器	甕　底部	7期	2H		4.4	6.9	にぶい赤褐	明赤褐	条痕文系、木葉圧痕
710	弥生土器	甕　底部	7期	NR1		3.7	7.0	灰黄褐	灰黄褐	条痕文系、布目圧痕
711	弥生土器	壺　口縁部	7期	NR1				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
712	弥生土器	壺　口縁部	7期	NR1				灰褐	灰黄褐	条痕文系
713	弥生土器	壺　口縁部	7期	NR1				灰褐	灰褐	条痕文系
714	弥生土器	壺　口縁部	7期	3D				橙	にぶい橙	
715	弥生土器	壺　口縁部	7期	6I				にぶい橙	にぶい褐	
716	弥生土器	壺　口縁部	7期	6I, 6J				橙	橙	
717	弥生土器	壺　頸部	7期	4I				橙	橙	
718	弥生土器	壺　頸部	7期	4G				橙	橙	
719	弥生土器	壺　頸部	7期	SK233				橙	橙	
720	弥生土器	壺　頸部	7期	6I, 6J				にぶい橙	にぶい橙	
721	弥生土器	壺　頸部	7期	D区SB3				橙	にぶい橙	
722	弥生土器	壺　頸部	7期	4I				橙	にぶい褐	
723	弥生土器	壺　頸部	7期	8L				橙	橙	
724	弥生土器	壺　頸部	7期	7L				にぶい橙	にぶい橙	
725	弥生土器	壺　頸部	7期	1F				にぶい橙	にぶい橙	
726	弥生土器	壺　頸部	7期	NR2				にぶい黄橙	橙	
727	弥生土器	壺　頸部	7期	SB9 P1				灰褐	灰褐	大地系
728	弥生土器	壺　頸部	7期	7I				にぶい褐	褐	大地系
729	弥生土器	壺　頸部	7期	7H				にぶい黄褐	にぶい黄褐	大地系
730	弥生土器	壺　頸部	7期	7L				にぶい黄褐	にぶい褐	大地系
731	弥生土器	壺　頸部	7期	7L				にぶい黄褐	にぶい褐	大地系
732	弥生土器	壺　口縁部	7期	SD28				にぶい黄褐	暗灰黄	大地系
733	弥生土器	壺　口縁部	7期	SD26				淡黄	にぶい黄褐	大地系
734	弥生土器	壺　口縁部	7期	NR1				にぶい黄褐	にぶい黄褐	大地系
735	弥生土器	壺　口縁部	7期	SK153				褐灰	灰黄褐	大地系
736	弥生土器	壺　口縁部	7期	2H				にぶい黄褐	にぶい黄褐	大地系
737	弥生土器	壺　口縁部	7期	NR1				灰黄褐	灰黄褐	大地系
738	弥生土器	壺　口縁部	7期	NR1				にぶい黄褐	褐灰	大地系
739	弥生土器	壺　口縁部	7期	9L				明赤褐	明赤褐	大地系
740	弥生土器	壺　口縁部	7期	2H				にぶい褐	にぶい橙	大地系
741	弥生土器	壺　口縁部	7期	2H				にぶい赤褐	にぶい赤褐	大地系
742	弥生土器	壺　口縁部	7期	NR1				灰黄褐	灰黄褐	大地系
743	弥生土器	壺　口縁部	7期	2G				暗灰黄	にぶい褐	大地系
744	弥生土器	鉢　口縁部	7期	3E				にぶい褐	にぶい褐	大地系
745	弥生土器	鉢	7期	4H				橙	橙	大地系
746	弥生土器	壺　口縁部	7期	4A				にぶい褐	にぶい褐	大地系
747	弥生土器	鉢　口縁部	7期	表採				にぶい黄褐	にぶい黄褐	大地系
748	弥生土器	鉢　口縁部	7期	NR1				灰褐	黒褐	大地系
749	弥生土器	壺　頸部	7期	2H, 3H				暗灰黄	暗灰黄	大地系
750	弥生土器	壺　胴部	7期	表採				黒褐	明赤褐	大地系
751	弥生土器	壺　頸部	7期	SK153				橙	橙	大地系
752	弥生土器	壺　頸部	7期	NR1				浅黄橙	にぶい橙	大地系
753	弥生土器	壺　頸部	7期	SK381				橙	橙	大地系
754	弥生土器		7期	表採				にぶい橙	にぶい橙	

第14表　遺物観察表(10)

番号	種　類	器　種	時期・分類	遺　構	口径	器高	底径	内面	外面	備　　考
755	弥生土器	壺　頸部	7期	NR1				褐灰	にぶい黄褐	
756	弥生土器	壺　頸部	7期	NR1				明褐灰	灰褐	679と同一？
757	弥生土器	壺　胴部	7期	8K				灰黄褐	浅黄橙	
758	弥生土器	壺　胴部	7期	7I				灰白	橙	
759	弥生土器	壺　胴部	7期	SK545				にぶい黄褐	にぶい黄褐	
760	弥生土器	壺　胴部	7期	7L				橙	橙	
761	弥生土器	壺　胴部	7期	9K				にぶい黄橙	橙	
762	弥生土器	壺　胴部	7期	7I				にぶい黄橙	橙	
763	弥生土器	壺　胴部	7期	SD28				にぶい橙	にぶい橙	
764	弥生土器	壺　胴部	7期	10L				にぶい褐	にぶい赤褐	
765	弥生土器	壺　胴部	7期	SD17				にぶい褐	にぶい橙	
766	弥生土器	甕　口縁部	7期	NR1				にぶい褐	灰褐	条痕文系
767	弥生土器	甕　口縁部	7期	NR1				明赤褐	にぶい赤褐	条痕文系
768	弥生土器	甕　口縁部	7期	8H				黒褐	黒褐	条痕文系
769	弥生土器	甕　口縁部	7期	NR1				にぶい黄橙	にぶい黄橙	条痕文系
770	弥生土器	甕　口縁部	7期	4G				明赤褐	赤褐	条痕文系
771	弥生土器	甕　口縁部	7期	SB10				にぶい黄橙	橙	条痕文系
772	弥生土器	甕　口縁部	7期	2B				明黄褐	にぶい橙	条痕文系
773	弥生土器	甕　口縁部	7期	2B				にぶい褐	灰褐	条痕文系
774	弥生土器	甕	7期	6I				明黄褐	にぶい黄橙	朝鮮無文土器類似
775	弥生土器	人面付き土器	7期	NR1					灰黄	
776	弥生土器		7期	NR1				灰黄褐	にぶい褐	
777	弥生土器	壺　胴部	8期	SU11				橙	橙	
778	弥生土器	壺　口縁部	10期	SB3	23.4	7.1		浅黄橙	浅黄橙	
779	弥生土器	壺　口縁部	10期	NR1	17.2	4.4		灰白	浅黄橙	
780	弥生土器	壺　口縁部	11期	NR1	18.1	6.0		浅黄橙	浅黄橙	
781	弥生土器	甕　口縁部	10期	D区SB1	15.6	4.0		にぶい黄褐	灰黄褐	
782	弥生土器	壺　口縁部	10期	NR1	16.0	6.9		浅黄橙	淡橙	
783	弥生土器	甕　口縁部	10期	18Z	23.6		5.0	橙	明黄褐	条痕文系、784,793と同一？
784	弥生土器	甕　底部	10期	18Z				橙	明黄褐	条痕文系、783,793と同一？
785	弥生土器	甕　口縁部	10期	3G	12.0	3.3		橙	橙	
786	弥生土器	甕　口縁部	10期	18Z	16.2	6.0		明赤褐	明赤褐	条痕文系
787	弥生土器	鉢	10期	SD18, SD17		6.9	2.3	明赤褐	にぶい赤褐	条痕文系
788	弥生土器	器台　受部	10期	SK205	17.0	3.6		橙	橙	
789	弥生土器	蓋	10期	D区		2.7	6.6	橙	橙	
790	弥生土器	蓋	10期	SH1, SH5				橙	赤	赤彩
791	弥生土器	高坏　脚部	10期	17X		5.1	9.6	灰白	灰白	
792	弥生土器	壺　胴部	10期	18Z				にぶい橙	浅黄橙	
793	弥生土器	甕　胴部	10期	18Z				橙	明黄褐	783,784と同一？
794	土師器	S字甕　口縁部	12期	NR1	19.6	2.9		灰白	灰白	
795	土師器	S字甕　口縁部	12期	3E	15.2	2.2		浅黄橙	黒褐	
796	土師器	S字甕　口縁部	12期	NR1	12.2	2.5		にぶい橙	にぶい橙	
797	土師器	S字甕　脚部	12期	NR1				灰黄褐	灰黄褐	
798	須恵器	坏蓋	13～14期	3E	13.4	3.7		黄灰	灰黄	
799	須恵器	坏蓋	13～14期	7F	13.0	4.0		淡黄	灰白	
800	須恵器	坏蓋	13～14期	NR1	12.6	3.5		灰	灰	
801	須恵器	坏蓋	13～14期	6H	11.8	4.0		灰白	灰黄	
802	須恵器	坏蓋	13～14期	NR1	14.2	4.3		灰	灰	
803	須恵器	坏蓋	13～14期	NR1	12.8	3.6		灰白	灰白	
804	須恵器	坏蓋	13～14期	NR1	14.6	3.3		灰白	灰白	つまみ部径3.7cm
805	須恵器	坏蓋	13～14期	NR1	15.5	3.4		灰白	灰白	つまみ部径4.0cm
806	須恵器	平底無台坏	13～14期	NR1	11.3	3.9	5.8	灰白	灰白	
807	須恵器	有台坏	13～14期	11K	9.3	5.1	6.4	灰黄	暗灰黄	
808	須恵器	双耳坏	13～14期	8L		3.0	8.5	灰黄	灰黄	
809	須恵器	高坏	13～14期	表採				灰白	灰白	
810	装飾付須恵器	装飾片	13～14期	3C				＝	灰黄	
811	須恵器	平瓶	13～14期	9K				灰白	灰白	
812	須恵器	壺　口縁部	13～14期	表採				灰	灰	
813	須恵器	短頸壺	13～14期	3C	9.5	4.3		灰	灰	
814	灰釉陶器	壺	14期	NR1	15.8	3.8		褐灰	褐灰	虎渓山？
815	須恵器	広口壺	13～14期	NR1	11.7	13.4	4.6	灰黄	灰白	
816	須恵器	広口壺	13～14期	NR1	13.1	17.9		灰白	灰白	
817	土師器	甕　口縁部	13期	4J	28.4			にぶい黄橙	橙	
818	土師器	甕　口縁部	13期	NR1	26.5	5.8		にぶい黄橙	にぶい黄橙	
819	土師器	甕　口縁部	13期	9L	23.5	3.1		にぶい黄橙	灰白	
820	土師器	甕　口縁部	13期	SD5	16.7	6.3		にぶい黄橙	黒	
821	土師器	甕　口縁部	13期	4I	15.6	3.6		にぶい赤褐	浅黄橙	
822	土師器	甕　口縁部	13期	4I	15.4	4.5		にぶい橙	黄褐	
823	土師器	甕　口縁部	13期	3G	14.4	10.0		橙	橙	
824	土師器	甕　口縁部	13期	NR1	15.0	5.0		浅黄橙	浅黄橙	
825	土師器	甕　口縁部	13期	7F	9.8	5.3		にぶい黄橙	にぶい黄橙	
826	土師器	甕　口縁部	13期	8H, 8I	11.7	3.0		にぶい黄橙	にぶい橙	
827	土師器	甕　口縁部	13期	4I	12.8	5.4		灰白	にぶい黄橙	
828	土師器	甕　口縁部	13期	SD19	17.9	4.0		灰白	灰白	
829	土師器	甕　口縁部	13期	SD14	18.6	3.9		にぶい橙	にぶい橙	
830	土師器	甕　口縁部	13期	11M	16.3	4.0		灰白	灰白	
831	土師器	甕　口縁部	13期	9H	13.5	5.9		にぶい黄橙	にぶい橙	
832	土師器	甕　口縁部	13期	9K	13.4	7.3		暗灰黄	灰黄褐	
833	土師器	甕　底部	13期	NR1		3.4	5.2	にぶい黄橙	にぶい橙	
834	土師器	甕　底部	13期	6D		3.2	8.8	にぶい橙	にぶい橙	
835	土師器	甕　底部	13期	NR1		2.8	4.6	にぶい黄橙	にぶい黄橙	

第15表　遺物観察表(11)

番号	種　類	器　種	時期・分類	遺　構	口径	器高	底径	内面	外面	備　　考
836	灰釉陶器	碗	14期	NR1	15.6	5.1	7.5	灰白	灰白	虎渓山？
837	灰釉陶器	碗	14期	SD4		2.0	6.6	灰白	灰白	虎渓山？
838	灰釉陶器	碗	14期	3E		1.7	6.4	灰白	灰白	虎渓山？
839	灰釉陶器	碗	14期	暗渠		2.3	7.2	灰白	灰白	虎渓山？
840	灰釉陶器	鉢	14期	2E, 2D	23.4	10.3	12.5	灰白	灰白	虎渓山？
841	灰釉陶器	壺	14期	D区SK312				灰白	灰白	虎渓山？
842	灰釉陶器	壺	14期	13M				灰白	灰白	虎渓山？
843	山茶碗		第４型式	3D	15.9	5.3	8.2	灰白	灰白	
844	山茶碗		第５型式	1E	14.5	4.9	8.2	灰白	灰黄	浅間窯下
845	山茶碗		第５型式	SB10	15.0	5.7	6.8	灰白	灰白	浅間窯下
846	山茶碗		第５型式（浅間窯下）	10M	14.5	6.1	5.5	にぶい黄橙	にぶい黄橙	浅間窯下
847	山茶碗		第５型式（浅間窯下）	3E	15.2	5.5	6.7	灰白	にぶい黄橙	浅間窯下
848	山茶碗		第５型式	10M	14.5	5.2	6.3	灰白	灰白	窯洞
849	山茶碗		第５型式	10L	14.9	5.2	6.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙	窯洞
850	山茶碗		第５型式	9M	15.2	5.7	6.2	灰白	灰白	窯洞
851	山茶碗		第５型式	2E	14.9	5.4	7.0	灰黄	灰白	窯洞
852	山茶碗		第５型式	12S	15.0	5.7	7.5	にぶい黄橙	にぶい黄橙	窯洞
853	山茶碗		第５型式	9H	13.8	6.3	6.0	灰白	にぶい黄橙	窯洞
854	山茶碗		第５型式	SK297				灰白	灰白	玉縁口縁（常滑Ｉｂ）窯洞
855	山茶碗		第８型式	SK218	13.4	4.5	4.1	灰白	灰白	大畑大洞
856	山茶碗		第８型式	9M	12.9	4.5	4.4	浅黄橙	浅黄橙	大畑大洞
857	山茶碗		第８型式	D区	13.6	4.8	4.9	灰白	灰白	大畑大洞
858	山茶碗		第９型式	SS14	13.6	4.7	4.6	灰白	灰白	大畑大洞新
859	山茶碗		第９型式	SS14	12.8	4.6	4.7	灰白	灰白	大畑大洞新
860	山茶碗		第９型式	SK564	13.6	4.4	5.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙	大畑大洞新
861	山茶碗		第９型式	C区	13.4	4.3	3.9	浅黄橙	浅黄橙	大畑大洞新
862	山茶碗		第10型式	SK814	13.1	3.9	3.8	灰白	灰白	大洞東
863	山茶碗		第10型式	D区SX3	13.2	3.6	4.2	灰白	灰白	大洞東
864	山茶碗		第10型式	D区SX3	12.7	5.3	3.2	灰白	灰白	大洞東
865	山茶碗		第10型式	D区SX3	13.3	4.4	4.6	灰白	灰白	大洞東
866	山茶碗		第10型式	10M	11.2	3.5	3.9	浅黄橙	浅黄橙	大洞東
867	山茶碗		第10型式	11L	11.8	3.1	3.5	灰白	灰白	大洞東
868	山茶碗		第11型式	SK732	11.5	2.8	4.2	灰白	灰白	脇之島
869	山茶碗		第11型式	SK172	12.2	2.9	3.2	浅黄橙	浅黄橙	脇之島
870	山茶碗		第11型式	14P	13.2	3.1	4.0	灰白	灰白	脇之島
871	山茶碗		第11型式	12O	11.7	3.0	2.8	浅黄橙	浅黄橙	脇之島
872	山茶碗		第11型式	5H	13.1	3.0	4.4	灰白	灰白	脇之島
873	山茶碗		第11型式	C区	10.2	2.7	2.6	浅黄橙	浅黄橙	生田
874	山茶碗		第11型式	C区	10.3	2.6	2.9	浅黄橙	浅黄橙	生田
875	小碗		第４型式	8H	9.0	3.0	4.8	灰白	灰白	
876	小碗		第４型式	3D	9.4	2.6	4.3	灰白	灰白	
877	小碗		第４型式	5C	9.1	2.8	4.9	灰白	灰白	
878	小碗		第４型式	3D	8.9	3.1	5.4	灰白	灰白	底磨耗
879	小碗		第４型式	14N	9.7	3.2	5.5	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
880	小碗		第４型式	2B～D	9.2	3.2	4.8	灰白	灰白	
881	小皿		第５型式	2D	8.9	2.2	4.6	灰白	灰白	浅間窯下
882	小皿		第５型式	3D	7.8	2.1	3.4	灰白	灰白	浅間窯下
883	小皿		第５型式	2D	9.1	2.3	3.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	浅間窯下
884	小皿		第５型式	5C	7.8	2.3	3.9	灰白	灰白	浅間窯下
885	小皿		第５型式	6E	8.2	2.4	4.4	浅黄橙	浅黄橙	浅間窯下
886	小皿		第５型式	10K	8.0	2.5	5.0	にぶい黄橙	灰白	
887	小皿		第５型式	D区	7.8	2.1	3.5	にぶい褐	にぶい褐	
888	小皿		第５型式	3D	8.2	2.5	3.8	灰白	灰白	
889	小皿		第５型式	3D	9.5	2.8	4.8	灰白	灰白	
890	小皿		第５型式	4C	8.6	1.8	4.9	灰白	灰白	
891	小皿		第６型式	D区	9.2	1.3	5.5	灰白	灰白	白土原
892	小皿		第６型式	SK1054	8.5	1.4	4.7	浅黄橙	浅黄橙	白土原
893	小皿		第７型式	D区	7.8	1.5	4.5	灰白	灰白	
894	小皿		第７型式	3D	8.0	1.8	4.6	浅黄橙	浅黄橙	
895	小皿		第８型式	D区SX3	8.2	1.2	4.9	灰白	灰白	大畑大洞
896	小皿		第８型式	4C	7.9	1.3	4.6	灰白	灰白	大畑大洞
897	小皿		第８型式	10K	8.5	1.2	3.2	淡黄	淡黄	大畑大洞
898	小皿		第８型式	10L	7.1	1.3	5.2	灰白	灰白	大畑大洞
899	小皿		第８型式	6I	8.2	1.2	5.5	灰白	灰白	大畑大洞
900	小皿		第８型式	SK72	9.2	1.2	5.5	灰白	灰白	大畑大洞
901	小皿		第８型式	SK1042	8.4	1.3	5.0	灰白	灰白	大畑大洞
902	小皿		第10型式	D SX05	7.8	1.1	5.0	灰白	灰白	大洞東
903	小皿		第10型式	10L	7.8	1.1	3.5	灰白	灰白	大洞東
904	小皿		第10型式	SK908	7.1	1.0	4.0	灰白	灰白	大洞東
905	小皿		第10型式	SK1018	7.3	1.1	5.2	灰白	灰白	大洞東
906	小皿		第10型式	2F	8.0	1.5	4.8	灰黄褐	灰黄褐	大洞東
907	小皿		第10型式	10K	8.2	1.3	2.2	灰白	灰白	大洞東
908	小皿		第10型式	7G	7.7	1.0	3.8	灰白	灰白	大洞東
909	小皿		第10型式	SK580	8.3	1.4	3.0	灰白	灰白	大洞東
910	小皿		第10型式	9M	7.8	1.3	3.4	灰黄	灰黄	大洞東
911	小皿		第10型式	C区	9.2	1.5	4.6	灰白	灰白	大洞東
912	小皿		第10型式	SK361	8.4	1.9	4.9	灰黄	灰黄	大洞東
913	小皿		第11型式	SK162	8.4	1.0	5.6	灰白	灰白	脇之島
914	小皿		第11型式	6K	8.4	1.4	4.8	灰白	灰白	脇之島
915	小皿		第11型式	10K	7.4	1.2	4.8	灰白	灰白	墨書？生田
916	山茶碗		第８型式	6J		3.3	5.4	浅黄橙	浅黄橙	墨書「×」大畑大洞

第16表　遺物観察表(12)

番号	種　類	器　種	時期・分類	遺　構	口径	器高	底径	内面	外面	備　　考
917	山茶碗		第８型式	3E		3.3	5.0	灰白	灰白	墨書「の？」大畑大洞
918	山茶碗		第８型式	7J		3.2	5.2	灰白	灰白	墨書「＋」？大畑大洞
919	山茶碗		第８型式	9I		2.0	4.9	淡黄	淡黄	墨書　大畑大洞
920	山茶碗		第９型式	3N		2.9	4.5	灰黄	灰黄	墨書「×」大畑大洞新
921	山茶碗		第９型式	11L		2.1	4.9	浅黄橙	浅黄橙	墨書「＋」大畑大洞新
922	山茶碗		第９型式	SS14		3.3	4.8	灰白	灰白	墨書「や？」
923	山茶碗		第10型式	11L	13.4	4.7	5.0	浅黄褐	浅黄褐	墨書　大洞東
924	山茶碗		第10型式	6J		1.0	4.0	浅黄橙	浅黄橙	墨書「×」大洞東
925	山茶碗		第10型式	11L				灰黄	灰黄	墨書　大洞東
926	山茶碗		第10型式	SK260				灰白	灰白	墨書　大洞東
927	山茶碗		第11型式	9K		2.0	3.8	浅黄褐	浅黄褐	墨書「一」　脇之島
928	小皿		第８型式	10L	8.4	1.2	4.0	灰白	灰白	墨書「×」大畑大洞
929	小皿		第10型式	SK42				灰黄	灰黄	墨書「十？」　大洞東
930	小皿		第10型式	D区SK231				灰黄	灰黄	墨書　大洞東
931	小皿		第10型式	7J	8.4	1.2	4.9	灰白	灰白	墨書「一」大洞東
932	小皿		第11型式	13O	8.0	0.9	6.0	にぶい黄橙	灰白	墨書？脇之島
933	小皿		第11型式	3N	7.8	0.9	1.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	墨書「大」脇之島
934	小皿		第11型式	11L		0.4	5.0	灰白	灰白	墨書「ノ」脇之島
935	小皿		第10型式	7J		0.9	5.8	灰白	灰白	墨書　大洞東
936	常滑		第５～６型式	SD25		5.6	12.4	灰白	にぶい黄褐	常滑産
937	片口鉢		第９～10型式	暗渠		4.7	8.8	黄灰	黄灰	瀬戸産
938	片口鉢		第６型式	6K				灰白	にぶい黄橙	
939	片口鉢		第８型式	8H				褐灰	褐灰	瀬戸産
940	片口鉢		第10型式	SD25				黒	黒	瀬戸産
941	片口鉢		第10型式	7L．9I				褐灰	黒褐	瀬戸産
942	片口鉢		第10型式	1E				褐灰	灰	瀬戸産
943	常滑		第11型式	暗渠				にぶい赤褐	にぶい赤褐	常滑産
944	古瀬戸	小坏	後Ⅲ～Ⅳ期古	6F	5.8	1.6	2.7	暗褐	浅黄橙	鉄釉
945	古瀬戸	平碗	中Ⅳ期	2G	20.0	7.8	6.2	灰白	灰白	灰釉
946	古瀬戸	平碗	後Ⅱ期	13O	17.6	5.7		灰白	にぶい褐	灰釉
947	古瀬戸	天目茶碗	後Ⅰ期	SD25	12.1	5.5		黒	浅黄褐	
948	古瀬戸	天目茶碗	後Ⅳ期新	3A	12.0	3.8		黒褐	黒褐	
949	古瀬戸	天目茶碗	後Ⅳ期新	表採	11.6	3.7		にぶい黄褐	にぶい黄褐	
950	古瀬戸	天目茶碗	後Ⅳ新	12S		3.0	3.5	黒褐	灰白	
951	古瀬戸	天目茶碗	後Ⅲ期	SK7				黒褐	黒褐	
952	古瀬戸	天目茶碗	後Ⅳ期古	7G				黒褐	黒褐	
953	古瀬戸	緑釉小皿	後Ⅲ期	9M	10.8	2.1	5.0	淡黄	淡黄	灰釉
954	連房	折縁鉄絵皿	第３～４小期	9L	10.2	2.5	6.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	美濃産
955	大窯	折縁皿	大窯第４段階前	排土	11.1	2.2	5.6	浅黄橙	浅黄橙	鉄釉　美濃産
956	古瀬戸	卸皿	中Ⅲ期	10K	15.7	3.8	8.6	灰褐	灰褐	灰釉
957	古瀬戸	卸皿	後Ⅲ期	SS14				にぶい黄褐	にぶい褐	灰釉
958	古瀬戸	卸皿	後Ⅳ期古	1E	11.6	2.7		褐灰	褐灰	灰釉
959	古瀬戸	卸皿（大）	後期	暗渠		3.3	11.8	灰褐	灰褐	灰釉
960	古瀬戸	直縁大皿？	後Ⅲ期？	暗渠		4.7	13.7	浅黄橙	浅黄橙	灰釉
961	古瀬戸	卸目付大皿	後Ⅲ～Ⅳ期	暗渠				淡黄	淡黄	灰釉
962	古瀬戸	盤類	後Ⅲ期かⅣ期古	暗渠		5.7	14.0	浅黄橙	にぶい黄橙	灰釉
963	古瀬戸	桶	後Ⅳ期	SD29		5.5	18.0	暗褐	にぶい黄橙	鉄釉
964	古瀬戸	折縁深皿	後Ⅲ期	暗渠				浅黄	浅黄	灰釉
965	古瀬戸	折縁深皿	後Ⅱ期	暗渠				灰白	灰白	灰釉
966	古瀬戸	折縁深皿	後Ⅱ期	暗渠				灰白	灰白	灰釉
967	古瀬戸	折縁深皿	後Ⅲ期	暗渠				浅黄	浅黄	灰釉
968	古瀬戸	卸目付大皿	後Ⅳ期古	暗渠				灰白	灰白	灰釉
969	古瀬戸	卸目付大皿	後Ⅳ期古	10K．10L				浅黄橙	浅黄橙	灰釉
970	古瀬戸	合子	中Ⅰ～Ⅱ期	1E				灰白	にぶい褐	鉄釉
971	古瀬戸	仏供具	中Ⅰ～Ⅱ期	C区		2.2	4.4	灰白	浅黄橙	灰釉
972	古瀬戸	仏供具	後Ⅳ期古	1D		3.1	4.3	浅黄橙	浅黄橙	鉄釉
973	古瀬戸	四耳壺	後期	暗渠	14.1	6.3		灰オリーブ	浅黄	灰釉　口縁端部ヌグイ
974	古瀬戸	四耳壺	後期	14O	14.0	6.1		灰白	淡黄	灰釉　口縁端部ヌグイ
975	古瀬戸	四耳壺	後期	B区				灰白	灰白	灰釉
976	古瀬戸	茶入	後期	暗渠	3.0	2.5		灰黄褐	黒褐	鉄釉
977	古瀬戸	茶入	後期	SK38	2.2	4.9	2.8	極暗赤褐	極暗赤褐	鉄釉
978	古瀬戸	尊式花瓶	後Ⅳ期古	暗渠				灰白	灰白	灰釉
979	古瀬戸	尊式花瓶	後Ⅳ期	7H	11.6	6.2		にぶい黄橙	黒褐	鉄釉
980	古瀬戸	花生？	後Ⅳ期新	暗渠	18.0	7.7		灰白	灰白	鉄釉
981	古瀬戸	蓋（土瓶か釜）	後Ⅲ～Ⅳ期	14N	10.5	2.7	3.3	暗赤褐	暗赤褐	錆釉
982	古瀬戸	土瓶？	後Ⅲ～Ⅳ期	8G				にぶい赤褐	にぶい赤褐	錆釉
983		十能？		SD23				にぶい赤褐	にぶい赤褐	近世
984		十能？		SK203				にぶい赤褐	にぶい赤褐	近世
985	常滑	甕　口縁部	2	10L	19.4	3.0		にぶい褐	褐	
986	常滑	甕　口縁部	5	暗渠				黒褐	黒褐	
987	常滑	甕　口縁部	6a	暗渠				暗赤褐	褐灰	
988	常滑	甕　口縁部	6b	暗渠				褐灰	褐灰	
989	常滑	甕　口縁部	6b	SK203				にぶい赤褐	にぶい赤褐	
990	常滑	甕　口縁部	6b	17X				暗灰黄	暗灰黄	
991	常滑	甕　口縁部	10	暗渠				にぶい褐	灰黄褐	
992	常滑	甕　口縁部	11	暗渠				にぶい赤褐	にぶい赤褐	259と同一
993	常滑	甕　口縁部	6b	C区	36.0	6.2		にぶい赤褐	にぶい赤褐	
994	常滑	甕	6a～6b	14．15U				黒褐	灰黄褐	矢羽陰刻
995	常滑	甕	７？	暗渠				にぶい褐	にぶい赤褐	○印
996	打欠円盤	天目茶碗底	15～17期	SK639				黒	灰白	
997	打欠円盤	碗底	15～17期	11N				浅黄	灰白	灰釉

第17表　遺物観察表(13)

番号	種　類	器　種	時期・分類	遺　構	口径	器高	底径	内面	外面	備　　考
998	打欠円盤	天目茶碗底	15～17期	10M				黒	灰白	
999	打欠円盤	天目茶碗底	15～17期	表採				黒褐	灰白	
1000	打欠円盤	碗底	15～17期	暗渠				黒	灰白	鉄釉
1001	打欠円盤	碗底	15～17期	6G				灰白	浅黄	灰釉
1002	打欠円盤	坏底	15～17期	C区				灰白	灰白	灰釉
1003	打欠円盤	碗体部	15～17期	5G				灰白	灰白	灰釉
1004	打欠円盤	碗体部	15～17期	5G				灰白	灰白	灰釉
1005	打欠円盤	碗体部	15～17期	5G				灰白	灰白	近世～明治
1006	打欠円盤	碗体部	15～17期	SK606				灰白	灰白	明治
1007	土師質皿	土師質皿	B2	11L	11.5	2.1		灰黄	灰黄	
1008	土師質皿	土師質皿	B2	SK680	12.7	2.0		浅黄橙	浅黄橙	
1009	土師質皿	土師質皿	B2	SK639	10.5	1.8		灰白	にぶい黄橙	
1010	土師質皿	土師質皿	B2～B3	C区	11.2	2.0		黄橙	黄橙	
1011	土師質皿	土師質皿	B2～B3	1E	9.3	1.3		灰白	灰白	
1012	土師質皿	土師質皿	B2～B3	6I.6J	11.3	1.9		灰白	灰白	
1013	土師質皿	土師質皿	B2～B3	SK635	13.7	2.5		にぶい黄橙	にぶい黄橙	
1014	土師質皿	土師質皿	B3	SK1120	12.3	2.1		浅黄橙	浅黄橙	
1015	土師質皿	土師質皿	B3	3F				暗灰黄	暗灰黄	
1016	土師質皿	土師質皿	C1	表採	9.1	1.7		浅黄橙	浅黄橙	
1017	土師質皿	土師質皿	C1	B2	8.3	1.4		浅黄橙	浅黄橙	
1018	土師質皿	土師質皿	C2	7G	8.0	1.4		黒	暗灰黄	
1019	土師質皿	土師質皿	C2	6K	8.0	1.6		浅黄橙	浅黄橙	
1020	土師質皿	土師質皿	C2	8H	7.2	0.9		浅黄橙	浅黄橙	
1021	土師質皿	土師質皿	C2	2F	7.7	1.6		浅黄橙	浅黄橙	
1022	土師質皿	土師質皿	C2	8I	7.3	1.4		浅黄橙	浅黄橙	
1023	土師質皿	土師質皿	C2	D区表土	8.0	1.2		橙	橙	
1024	土師質皿	土師質皿	C2	D区 SX3	8.9	1.7		灰白	灰白	
1025	土師質皿	土師質皿	C2	4F	10.0	2.5		灰白	灰白	
1026	土師質皿	土師質皿	C2	13M	11.0	2.6		浅黄橙	浅黄橙	
1027	土師質鍋	清郷鍋	14期	3H	30.0	4.7		黒褐	黒褐	
1028	土師質鍋	伊勢型鍋	15～17期	3D	28.0	8.7		褐灰	黒褐	
1029	土師質鍋	内耳鍋	15～17期	5J	28.8	11.2		にぶい黄橙	にぶい黄褐	
1030	土師質鍋	伊勢型鍋	15～17期	1F				にぶい橙	橙	
1031	土師質鍋	伊勢型鍋	15～17期	SK481				浅黄橙	浅黄橙	
1032	土師質鍋	伊勢型鍋	15～17期	3G				灰白	灰白	
1033	土師質鍋	伊勢型鍋	15～17期	12N				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
1034	土師質鍋	伊勢型鍋	15～17期	8L				にぶい橙	暗褐	
1035	土師質鍋	取手	15～17期	1F				黒	灰褐	
1036	土師質鍋	羽釜	15～17期	8H				浅黄橙	灰白	
1038	陶丸		15～17期	5D					灰白	
1039	土師質土器		時期不明	NR1				にぶい褐	にぶい褐	
1040	土師質土器		時期不明	NR1	36.7	4.0		にぶい赤褐	明赤褐	
1041	中国磁器	白磁　碗	Ⅰ－５Ｂ	5D	15.1	4.6		浅黄	浅黄	蓮弁
1042	中国磁器	青磁　碗		5A	16.0	4.1		灰オリーブ	灰オリーブ	産地不明
1043	中国磁器	白磁　皿	Ｄ群	3E	8.8	1.8		灰白	灰白	
1044	中国磁器	白磁　皿	Ｄ群	14P	9.7	1.6		灰白	灰白	
1045	中国磁器	白磁　皿	Ｄ群	12O		1.6	3.5	灰白	灰白	
1046	中国磁器	白磁　碗	Ⅱ類	SK1178		2.0	5.8	灰白	灰白	
1047	中国磁器	白磁　碗	Ⅳ類	5D		2.0	7.1	灰白	灰白	Ⅳ類
1048	中国磁器	白磁　碗	Ⅴ類	C区		2.4	4.7	灰白	灰白	Ⅴ類
1049	中国磁器	青磁　碗	Ｃ類	2F				オリーブ灰	オリーブ灰	雷文帯　龍泉窯系産
1050	中国磁器	青磁　碗	Ⅰ－５類	1E				オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯系産
1051	中国磁器	青磁　碗	Ⅲ類	12N				緑灰	緑灰	龍泉窯系産
1052	中国磁器	青磁　皿	Ⅰ－２類	7J				オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯系産
1053	中国磁器	青磁　坏		1E				暗オリーブ灰	暗オリーブ灰	龍泉窯系産
1054	中国磁器	青磁　盤		表採				オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯系産
1055	中国磁器	白磁　碗	Ⅱ類	SK229				灰白	灰白	
1056	中国磁器	白磁　碗	Ⅴ類	SK12				灰白	灰白	
1057	中国磁器	青磁　碗	Ⅰ－２か３類	17X				灰オリーブ	灰オリーブ	龍泉窯系産
1058	中国磁器	白磁　碗	Ⅴ類	12T				灰白	灰白	
1059	中国磁器	白磁　碗	Ⅳ類	5H				灰白	灰白	
1060	中国磁器	白磁　碗	Ⅳ類	SB10				灰白	灰白	
1061	中国磁器	青白磁　皿		3C				灰白	灰白	
1062	土錘		15～17期	1E	4.3	1.5			にぶい褐	8.3g
1063	土錘		15～17期	3F	3.9	1.5			にぶい黄橙	7.9g
1064	土錘		15～17期	8I	4.3	1.6			褐灰	8.8g
1065	土錘		15～17期	NR1	4.4	1.5			浅黄褐	8.5g
1066	土錘		15～17期	排土	4.1	2.4			にぶい黄橙	25.3g
1067	土錘		15～17期	1J	4.7	2.3			灰黄褐	27.6g
1068	土錘		15～17期	NR1	6.4	2.3			にぶい黄橙	30.4g
1069	土錘		15～17期	11N	3.7	2.5			黒褐	鉄釉、28.8g

第18表　遺物観察表(14)

番号	種　類	器　種	石　材	遺　構	全長mm	全幅mm	全厚mm	重量g
19	石器	石鏃	下呂石	SB14	14.0	14.0	3.5	0.5
20	石器	石鏃	チャート	SB14	13.0	16.0	2.5	0.5
21	石器	石鏃	下呂石	SB14	24.0	21.0	2	0.8
22	石器	UF	メノウ	SB14	44.0	29.5	16	23.1
23	石器	石錘	砂岩	SB14	43.0	38.0	13.9	32
24	石器	打欠石錘	安山岩	SB14	49.4	35.8	10.6	30.8
25	石器	UF	メノウ	SB14	46.0	36.0	14	19.3
26	石器	剥片石器	泥岩	SB14	92.0	73.0	17	134.6
27	石器	UF	黒曜石	SB16	45.0	36.0	9	11.2
41	石器	石鏃	下呂石	SB27	43.5	24.0	1.5	10.1
93	石器	砥石	凝灰岩	SB4	121.5	86.5	54	620
105	石器	磨・凹石類	安山岩	SB7	114.0	90.0	79	1120
126	石器	叩石	砂岩	SB12	112.0	49.0	35	286
172	石器	砥石	凝灰岩	SB25	114.0	61.0	29	129
183	石器	砥石	凝灰岩	SB26	168.0	96.0	48	719
330	石器	砥石	凝灰岩	SD17	41.0	34.0	16	27.4
334	石器	砥石	凝灰岩	SX3	67.0	43.0	15	70.7
360	石器	砥石	凝灰岩	D区 SB1	42.0	36.0	17	31.1
1081	石器	石鏃	下呂石	NR1	15.0	10.0	3	0.3
1082	石器	石鏃	下呂石	NR1	24.0	9.0	3	0.5
1083	石器	石鏃	黒曜石	排土	27.0	19.0	3.6	1.2
1084	石器	石鏃	下呂石	NR1	16.9	12.6	3.3	0.6
1085	石器	石鏃	チャート	3D	(20.5)	15.5	4.5	1.2
1086	石器	石鏃	チャート	3H	32.0	16.0	5	1.5
1087	石器	石鏃	下呂石	NR1	17.0	13.0	2.5	0.5
1088	石器	石鏃	下呂石	7H	18.0	12.5	3.2	0.6
1089	石器	石鏃	チャート	NR1	22.5	18.0	5	1.7
1090	石器	石鏃	サヌカイト	NR1	17.0	11.7	3.6	0.5
1091	石器	石鏃	下呂石	3E	11.0	11.0	1.9	0.1
1092	石器	石鏃	チャート	NR1	13.0	20.0	3	0.7
1093	石器	石鏃	チャート	表採	22.5	18.0	6	2
1094	石器	石鏃	下呂石	1E	14.8	11.3	2.3	0.3
1095	石器	石鏃	下呂石	NR1	29.5	(17.5)	5.4	2.2
1096	石器	石鏃	下呂石	NR1	21.3	17.0	4.2	1.3
1097	石器	石鏃	下呂石	NR1	33.0	18.0	6.8	2.9
1098	石器	石鏃	下呂石	1E	17.7	11.5	3.4	0.5
1099	石器	石鏃	下呂石	2D	(35.5)	13.0	6	2
1100	石器	石鏃	チャート	NR1	(19.5)	(16.0)	6.5	1.6
1101	石器	石鏃	チャート	排土	(23.0)	14.0	5.5	1.5
1102	石器	石鏃	チャート	1D～1E	26.9	15.6	4.5	1.3
1103	石器	石鏃	下呂石	NR1	21.0	15.5	5	1.4
1104	石器	石鏃	下呂石	NR1	23.0	12.0	4.5	1.2
1105	石器	石鏃	チャート	NR1	26.0	18.5	5	2
1106	石器	石鏃	下呂石	1F	34.0	23.0	9	1.2
1107	石器	石鏃	サヌカイト	NR1	22.7	17.4	4	1.4
1108	石器	石錐	チャート	SB7	30.1	17.5	6.2	2.3
1109	石器	石錐	チャート	NR1	27.0	16.3	4.6	1.7
1110	石器	石錐	チャート	NR1	23.3	11.8	7.5	1.8
1111	石器	石錐	チャート	NR1	29.7	8.7	5.6	1.5
1112	石器	削器	下呂石	NR1	42.0	46.0	13.5	22.6
1113	石器	削器	下呂石	NR1	53.0	58.5	13.5	30
1114	石器	削器	安山岩	2G	127.0	37.5	18	74.5
1115	石器	削器	下呂石	16X	61.0	33.0	15	31.4
1116	石器	削器	安山岩	NR1	40.0	(60.0)	17.5	31.5
1117	石器	削器	下呂石	2B～D	44.5	60.5	16.5	33.9
1118	石器	削器	チャート	1F	31.0	39.0	10	10.9
1119	石器	削器	下呂石	NR1	55.0	37.0	10	15.4
1120	石器	削器	サヌカイト	NR1	98.0	56.0	19	69.3
1121	石器	削器	下呂石	1E～D	93.0	60.0	23	124.8
1122	石器	削器	下呂石	SD4	67.0	40.0	12	32.6
1123	石器	削器	下呂石	SD6	47.0	38.0	11	16.6
1124	石器	削器	チャート	SD6	57.0	69.0	21	86.8
1125	石器	削器	下呂石	SD5	48.0	72.0	16	52.8
1126	石器	ヘラ形石器	下呂石	NR1	40.5	22.6	11.3	7.3
1127	石器	ヘラ形石器	チャート	3G	38.6	27.4	8.1	8.6
1128	石器	ヘラ形石器	チャート	NR1	40.5	20.3	11.1	10.5
1129	石器	ヘラ形石器	下呂石	3A	55.4	29.4	18.3	20.7
1130	石器	ヘラ形石器	下呂石	2H	36.8	21.0	10.5	10
1131	石器	ヘラ形石器	チャート	SB3	35.5	20.0	10.3	7.1
1132	石器	抉り入りUF	泥岩	6J	53.0	36.0	5	9
1133	石器	抉り入りUF	下呂石	2E	32.0	35.0	7	6.4
1134	石器	異形石器	下呂石	NR1	19.5	13.0	3.5	0.6
1135	石器	ピエス	下呂石	NR1	39.0	36.0	22	33.6

第19表　遺物観察表(15)

番号	種　類	器　種	石　材	遺　構	全長mm	全幅mm	全厚mm	重量g
1136	石器	石核	下呂石	NR1	46.0	37.0	16.5	19.3
1137	石器	石核	下呂石	NR1	38.0	43.0	35	73.9
1138	石器	石核	下呂石	NR1	65.0	37.0	24	34.2
1139	石器	ピエス	下呂石	2E	51.0	28.5	20	29.7
1140	石器	ピエス	下呂石	1CD	54.0	29.0	19.5	35
1141	石器	石核	下呂石	NR1	18.0	25.0	6	3
1142	石器	石核	下呂石	8H	31.5	29.0	11	8.8
1143	石器	石核	下呂石	2H	23.0	19.0	8	4.4
1144	石器	ピエス	下呂石	2F	42.0	30.5	7.9	9.9
1145	石器	石核	下呂石	1F	30.7	18.7	14	7.2
1146	石器	石核	下呂石	SS02	168.0	112.0	76	1350
1147	石器	打製石斧	泥岩	NR1	195.0	73.4	22.3	477.6
1148	石器	打製石斧	泥岩	NR1	180.0	62.7	21	278.8
1149	石器	打製石斧	泥岩	NR1	150.7	54.4	22.5	253
1150	石器	打製石斧	泥岩	NR1	113.0	43.0	11.5	69.3
1151	石器	打製石斧	泥岩	NR1	111.1	40.0	11.8	65.6
1152	石器	打製石斧	泥岩	NR1	109.0	40.8	19.8	126.3
1153	石器	打製石斧	泥岩	4I	109.5	32.8	10.9	58
1154	石器	打製石斧	泥岩	SD17	97.0	41.5	16.3	92
1155	石器	打製石斧	泥岩	NR1	104.0	41.8	14.6	81.9
1156	石器	打製石斧	泥岩	SD17	102.0	36.8	12.3	60.8
1157	石器	打製石斧	泥岩	17X	73.0	31.0	9.5	26.3
1158	石器	磨製石斧	結晶片岩	7L	(67.9)	55.5	18.1	133.7
1159	石器	磨製石斧	ひん岩	10K	97.2	58.2	35.4	291.4
1160	石器	磨製石斧	凝灰岩	SD16	131.5	59.2	33.1	402.8
1161	石器	磨製石斧	凝灰岩	SB10	115.0	48.7	11	104.3
1162	石器	磨製石斧	泥岩	NR1	95.2	35.9	16	92.1
1163	石器	磨製石斧	結晶片岩	8I	45.3	24.8	8.7	19.1
1164	石器	磨製石斧	泥岩	1D	38.1	15.6	6	6.8
1165	石器	石錘	砂岩	SB26	53.0	31.8	13.5	35.9
1166	石器	石錘	砂岩	排土	51.2	50.2	22.1	74.5
1167	石器	石錘	泥岩	NR1	48.0	33.9	11.5	31.4
1168	石器	石錘	凝灰岩	NR1	34.1	28.8	11.8	18
1169	石器	石錘	泥岩	13M	71.0	48.0	11.2	54
1170	石器	石錘	泥岩	4E	61.2	55.8	11.4	53.3
1171	石器	石錘	泥岩	NR2	66.0	31.0	8.5	18
1172	石器	石錘	砂岩	14T	79.5	58.3	14.7	89.7
1173	石器	石錘	凝灰岩	6E	59.0	60.0	11	52.4
1174	石器	石錘	泥岩	SB8	42.0	41.0	9	16.5
1175	石器	石錘	砂岩	2D	69.0	40.5	24	113.9
1176	石器	石錘	砂岩	NR1	91.6	55.5	34.3	240
1177	石器	石錘	凝灰岩	3G	69.8	28.6	11.5	40.2
1178	石器	石錘	泥岩	排土	66.5	24.7	17.3	43.9
1179	石器	石錘	泥岩	SK59	54.8	32.1	26	72.4
1180	石器	石錘	安山岩	19Z	50.2	26.4	16.7	31.4
1181	石器	砥石	砂岩	NR1	163.0	79.0	78	1380
1182	石器	砥石	砂岩	NR1	190.0	112.0	62	1530
1183	石器	磨・凹石類	濃飛流紋岩	2E	127.2	77.0	54.2	779
1184	石器	磨・凹石類	凝灰岩	3D	125.9	87.1	36.3	527
1185	石器	磨・凹石類	濃飛流紋岩	NR1	102.4	102.7	58	81.7
1186	石器	磨・凹石類	花崗岩	SB1	(115.0)	(94.0)	64	995
1187	石器	磨・凹石類	砂岩	NR1	138.8	104.3	56	1268
1188	石器	磨・凹石類	チャート	NR1	66.0	67.0	50	299
1189	石器	磨・凹石類	礫岩	NR1	110.0	102.0	54	864
1190	石器	磨・凹石類	砂岩	SD20	100.0	35.0	30	152
1191	石器	磨・凹石類	砂岩	NR1	154.0	70.0	64	796
1192	石器	磨・凹石類	チャート	3G	89.0	62.0	63	524
1193	石器	礫器	濃飛流紋岩	1E	103.0	78.0	35	394
1194	石器	礫石器	泥岩	9L	72.0	41.7	11.7	56
1195	石器	礫石器	凝灰岩	NR2	96.8	57.8	27.1	225.5
1196	石器	礫石器	砂岩	NR1	78.0	85.0	23	178.8
1197	石器	礫石器	砂岩	3F	122.9	68.3	31.3	305.8
1198	石器	粗製剥片石器	砂岩	SD18	150.5	128.0	25.5	578.4
1199	石器	粗製剥片石器	凝灰岩	3D	121.5	97.5	17.1	246.6
1200	石器	粗製剥片石器	砂岩	1E	107.0	76.0	25.3	138.2
1201	石器	粗製剥片石器	泥岩	SD25	79.0	95.0	20	196.3
1202	石器	粗製剥片石器	泥岩	NR2	131.5	75.8	34.3	282.1
1203	石器	粗製剥片石器	泥岩	SK12	56.0	68.0	20	56.5
1204	石器	粗製剥片石器	泥岩	NR1	102.0	75.0	18.6	108.6
1205	石器	粗製剥片石器	泥岩	NR1	108.3	65.9	10.4	100.1
1206	石器	粗製剥片石器	泥岩	9K	77.3	50.1	6	40.4
1207	石器	粗製剥片石器	泥岩	1F	102.8	37.1	8.9	40.1
1208	石器	粗製剥片石器	泥岩	NR1	73.8	42.0	13.9	39

第20表　遺物観察表(16)

番号	種　類	器　種	石　材	遺　構	全長mm	全幅mm	全厚mm	重量g
1209	石器	粗製剥片石器	泥岩	NR1	98.6	39.2	11.1	46.7
1210	石器	粗製剥片石器	泥岩	NR1	93.3	36.6	12.7	59.4
1211	石器	粗製剥片石器	泥岩	SK74	67.7	40.3	7.5	26.1
1212	石器	粗製剥片石器	泥岩	7L	83.0	45.0	9	33.3
1213	石器	粗製剥片石器	泥岩	NR1	103.0	41.6	13.7	58.2
1214	石器	粗製剥片石器	泥岩	1F	71.0	40.0	12	31.8
1215	石器	粗製剥片石器	泥岩	3G	63.0	57.0	11	25.4
1216	石器	粗製剥片石器	泥岩	NR1	80.8	26.6	8.8	17
1217	石器	粗製剥片石器	泥岩	2H	72.2	30.1	7.4	14.1
1218	石器	粗製剥片石器	泥岩	1F	83.8	58.0	15.3	67.7
1219	石器	粗製剥片石器	泥岩	NR1	92.0	63.0	11.2	80.2
1220	石器	粗製剥片石器	泥岩	NR1	85.2	56.4	12.8	70.5
1221	石器	粗製剥片石器	泥岩	3E	132.3	52.8	16	123.4
1222	石器	粗製剥片石器	泥岩	2F	111.3	51.8	12.6	83.6
1223	石器	粗製剥片石器	泥岩	11M	90.0	34.0	8.2	43.5
1224	石器	粗製剥片石器	泥岩	NR1	116.0	51.0	14	77.6
1225	石器	粗製剥片石器	泥岩	NR1	46.0	60.0	12	40.5
1226	石器	粗製剥片石器	泥岩	NR1	31.0	63.0	8	14.9
1227	石器	有肩扇形石器	泥岩	NR1	87.2	126.7	16.4	186.5
1228	石器	有肩扇形石器	泥岩	NR1	115.3	67.0	16.3	130.8
1229	石器	靴形石器	泥岩	7L	89.9	40.9	9.4	50.7
1230	石器	靴形石器	泥岩	NR1	94.9	33.6	11	55.5
1231	石器	靴形石器	泥岩	19Y	64.5	22.3	7.9	12.4
1232	石器	靴形石器	泥岩	NR1	51.0	32.0	11.8	18.7
1233	石器	靴形石器	泥岩	NR1	54.0	72.0	7	21.1
1234	石器	石包丁	泥岩	SB24	137.8	38.8	7.5	77.1
1235	石器	石包丁	泥岩	3D	(23.5)	34.3	4.1	6.7
1236	石器	石包丁	泥岩	NR1	(106.7)	40.0	11.3	73.5
1237	石器	用途不明磨製石製品	泥岩	NR1	(184.0)	(77.0)	14	188.5
1238	石器	磨製石器未製品	泥岩	NR1	67	23	7	16.3
1239	石器	管玉	緑色岩	NR2	10	4	2.5	0.1
1240	石器	勾玉	結晶片岩	SK74	19	21	5.7	3.4

第21表　遺物観察表(17)

番号	種　類	器　種	分類・時期	遺　構	縦外径mm	横外径mm	縦内径mm	横内径mm	重さｇ	備　考
323	渡来銭		開元通宝	SD17	23.16	23.74	19.98	20.42	2.6g	桃山時代
324	渡来銭		聖宋元宝	SD17	23.23	23.47	18.08	18.10	3.3g	
325	銭貨		永楽通宝	SD17	25.12	25.34	20.78	20.62	2.9g	桃山時代
326	渡来銭		皇宋通宝	SD17	23.81	23.07	18.96	16.71	2.2g	
327	渡来銭		祥符元宝	SD17	24.71	23.62	19.06	18.87	2.2g	
328	渡来銭		治平元宝	SD17	24.25	23.75	19.46	19.81	2.6g	
329	渡来銭		元豊通宝	SD17	25.13	24.82	18.81	18.13	1.7g	
1075	渡来銭		開元通宝	2G	22.87	22.86	17.46	17.90	2.6g	
1076	渡来銭		皇宋通宝？	SK311					1.0g	欠損
1077	渡来銭		熙寧元宝	SD6					1.2g	欠損
1078	渡来銭		熙寧元宝？	SD18					1.3g	欠損
1079	渡来銭		元豊通宝	6K	24.07	24.10	17.34	17.54	2.9g	
1080	渡来銭		元豊通宝	SX1					2.0g	欠損

第22表　遺物観察表(18)

番　号	種　類	時　期	遺　構	全長mm	全幅mm	全厚mm	重量g
1070	鉄鏃	12～13期	NR2	5.7	3.2	0.3	14.5g
1071	和釘	14～17期	SK59	9.8	0.4	0.4	6.1g
1072	和釘	14～17期	SK467	7.3	0.4	0.3	4.3g
1073	和釘	14～17期	SK107	3.7	0.2	0.4	1.4g
1074	和釘	14～17期	SK431	4.0	0.5	0.6	4.8g

第５章　自然科学的手法による報告・検討

第１節　野笹遺跡出土石器の使用痕分析

原田　幹（愛知県教育委員会）

１．はじめに

野笹遺跡から出土した石器の機能を推定するために、金属顕微鏡を用いた使用痕分析を実施した。石庖丁、削器、有肩扇状石器、粗製剥片石器等主に弥生時代に属すとみられる資料を対象に、任意に抽出した16点の試料について分析を実施した結果、７点の試料から使用痕あるいはその可能性のある痕跡を検出した。以下、分析結果の概要について記述していきたい。

２．分析の方法

使用痕分析は対象物との接触によって石器表面に生じた様々な変化を手掛かりに石器の機能を推定するもので、体系的な使用実験に基づく使用痕の解釈は実験使用痕分析と呼ばれる。本分析はいわゆる高倍率法と呼ばれる観察法を用い、ポリッシュ（使用痕光沢）、線状痕等の観察により得られた情報をもとに石器の使用部位、操作方法、加工対象物など石器の機能について考察するものである。
使用痕の観察には落射照明付金属顕微鏡（オリンパス製ＢＸ30Ｍ）を使用し、100倍、200倍、500倍の各倍率で観察を行った。観察は主にポリッシュ（使用痕光沢）、線状痕を対象とし、肉眼及びルーペによる微小剥離痕の観察も補助的に扱っている。各試料の観察にあたっては主に刃部を中心としてポリッシュ等使用痕の有無を確認し、使用痕が確認された試料についてはポリッシュの特徴、分布範囲、線状痕の有無や方向等必要な情報を記録し、写真撮影を行った。ポリッシュの分類、同定については東北大学使用痕研究チームによる分類（梶原・阿子島 1981）、御堂島正による分類（御堂島1988）を参考に、筆者が砂岩、サヌカイト、下呂石、チャートを用いて実施した実験データと比較対照している。

３．分析結果の概要

＜石庖丁＞

1234　完形品であるが、穿孔されていない。刃部は両刃である。使用痕は石器の片面のみで観察された。ポリッシュは非常に滑らかで明るい表面を特徴とし、ドーム状のパッチは島状に散在している。ポリッシュタイプはＡ、Ｂタイプに分類され、対象物は水分を含んだイネ科草本植物と推定される。ポリッシュは石器の刃部中央から左辺にかけて分布している。左側では器面内側に大きく侵入しており、背部に近い部分でも分布が認められる。対象物の接触は刃部及び器面左側の内部でも頻繁に繰り返されたことが推定される。以上の観察結果は、石器を右手で保持し対象物を親指や手の甲で石器の間に挟み込み、刃部を上方にはねあげるように摘み取る使用方法、いわゆる「穂摘み」により理解できる。

1236　破片資料であり全形は不明。刃部は両刃である。使用痕は石器の片面で観察された。ポリッシュはＡ、Ｂタイプで、非常に明るく滑らかな光沢が島状に分布している。対象物は水分を含んだイネ科草本植物と推定される。破片資料であり光沢の詳細な分布は復元できないが、1234と同様に摘み取る使用法が想定される。なお、刃部付近で光沢が弱くなる部分がみられるが、これは刃部の研ぎ直しにより古いポリッシュが消失している可能性が考えられる。

＜有肩扇状石器＞

1227・1228の２点について観察を行ったが、ポリッシュ等は検出できなかった。石器表面はやや風化しており、この影響により使用痕か消失している可能性もある。

＜粗製剥片石器＞

1218　刃部の両面で表裏対象にポリッシュが形成されている。ポリッシュは明るく滑らかなＡタイプ、Ｂタイプのポリッシュである。光沢表面にピット、線状痕が認められ、刃部と平行するものが支配的である。被対象物は水分を含んだイネ科草本植物と推定され、石器の操作方法は刃部と平行方向の運動 cut と推定される。なお、光沢の分布範囲は刃部縁辺に限定され、器面内側への侵入度は最大でも５㎜以内である。これは茎を1本ずつ刈り取るような厚みのない部位を対象とした場合に近い使用痕の分布である。

1198　石器表面はやや風化しており、ポリッシュの検出は部分的である。ポリッシュは刃部の両面に形成されている。ポリッシュは明るく滑らかなＡタイプのポリッシュが主で、光沢表面にピット、線状痕が認められる。線状痕は刃部と平行するものが支配的である。被対象物は水分を含んだイネ科草本植物と推定され、石器の操作方法は刃部と平行方向の運動 cut と推定される。1218と比べるとポリッシュは器面内側へ大きく侵入している。これは被対象物が厚みのあるものの場合の実験データに近いものである。

1200　剥離面側の刃部縁辺に微細な光沢が観察される。光沢部はやや明るく、微細な粒状のパッチは刃部と直行する方向に連接しているようにもみえる。ポリッシュはＦタイプに類似するが、あまりに微弱であるため使用痕であるかは不明としたい。

1204・1221・1223～1226についても分析を実施しているが、ポリッシュ等の使用痕は認められなかった。

＜削器＞

1124　刃部の縁辺に沿って微弱なポリッシュが観察される。刃部の表裏両面にみられるが、裏面（Ｂ面）の方が顕著である。光沢の強い部分では微細な凸凹をもつポリッシュが刃部と直行方向に形成され同方向の溝状の線状痕を伴っている。Ｅタイプのポリッシュと類似しており、分布範囲は刃部の縁辺に限定される。以上の観察結果から、石器の機能は刃部を立てて掻き取る scrape で、主に裏面が対象物と接触するように用いられたと推定される。対象物は皮・肉などが想定される。

1120　刃部縁辺において微弱な光沢が観察された。刃部両面に分布しており、ポリッシュの微細な凸凹は刃部と平行方向に発達しているようにみえる。被対象物は不明であるが、刃部と平行方向の操作が推定される。

4．まとめ

分析の結果使用痕が確認できた試料のうち4点は、イネ科草本植物の切断と関係するものであった。これは収穫作業を含む植物の切断具としての機能、すなわち農具としての性格が想定されるが、その使用方法は器種、形態によって異なっている。最後に各器種の機能についてまとめておきたい。

磨製石庖丁2点はいずれも摘み取る作業との関係が強い使用痕が観察され、弥生時代の収穫方法として想定されている「穂摘み」具として理解することができる。しかし、野笹遺跡をはじめ東海地方における弥生遺跡ではこれら磨製の穂摘み具は決して主体的な器種ではなく、むしろ打製石器、本報告では有肩扇状石器や粗製剥片石器として扱われている石器が主要な役割を担っていたと考えられている。粗製剥片石器1198ではイネ科草本植物による使用痕が検出されているが、その機能は刃部と平行方向に操作されるcutであること、使用痕の形成範囲から根株など厚みのある部位への使用が想定されるなど、磨製石庖丁等の穂摘み具とは機能的に異なる。むしろ大型磨製石庖丁の機能と共通するもので（原田1998・1999)、根株の刈り取りや除草などの作業との関係が想定される。一方、小型品の1218はイネ科草本植物のcutを機能としつつも、使用痕の形成範囲は刃縁の狭い範囲に限定されており、あまり厚みのない部分への使用が想定され、あるいは「穂刈り」に用いられた収穫具の可能性も考えられる。この点については、石器の使用頻度が少ないことも考えられ、もう少し統計的なデータがとれる試料の検討が必要である。

参考文献

阿子島香 1989 『石器の使用痕』考古学ライブラリー56　ニュー・サイエンス社

梶原洋・阿子島香 1981 「頁岩製石器の実験使用痕研究―ポリッシュを中心とした機能推定の試み―」『考古学雑誌』第67巻第1号　日本考古学会

佐野康雄 1993 「弥生時代における石器群の様相についての一考察」『尾崎遺跡』（財)岐阜県文化財保護センター

斎野裕彦 1993・1994 「弥生時代の大型直縁刃石器（上・下)」『大阪府立弥生文化博物館研究報告』第2集・第3集

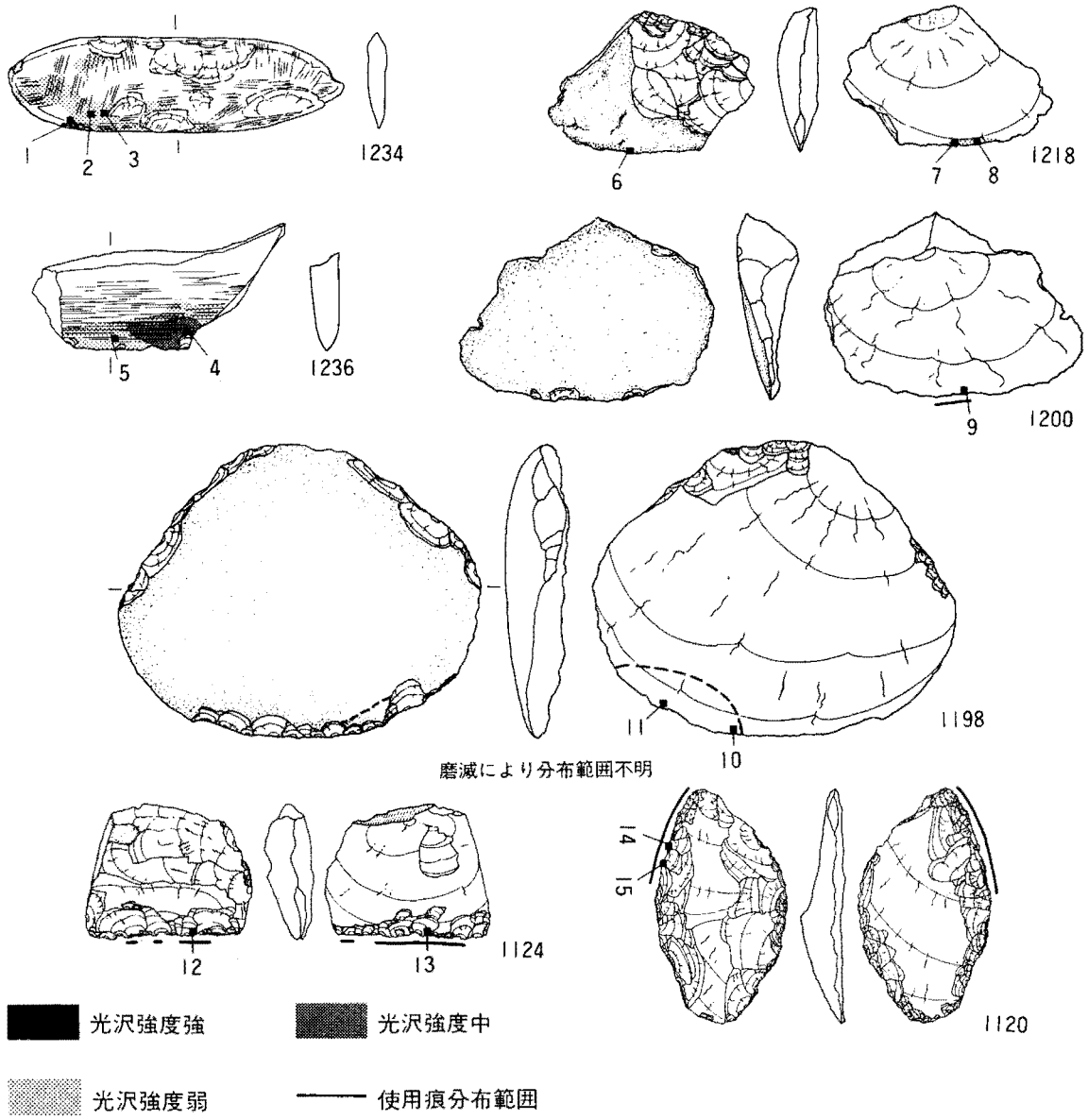
原田　幹 1998 「朝日遺跡出土の石庖丁をめぐって―石器使用痕からみた尾張地域における石製収穫具の問題―」『貞末尭司先生古稀記念論集 文明の考古学』

原田幹 1999 「門間沼遺跡出土粗製剥片石器の使用痕分析」『門間沼遺跡』 愛知県埋蔵文化財センター

松山　聡 1992 「石庖丁の使用痕」『大阪文化財研究』第3号 （財)大阪文化財センター

御堂島正 1988 「使用痕と石材―チャート、サヌカイト、凝灰岩に形成されるポリッシュ」『考古学雑誌』第74 日本考古学会

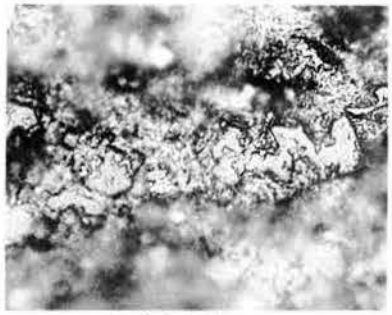
御堂島正 1989 「有肩扇状石器の使用痕分析」『古代文化』41―3 （財)古代学協会

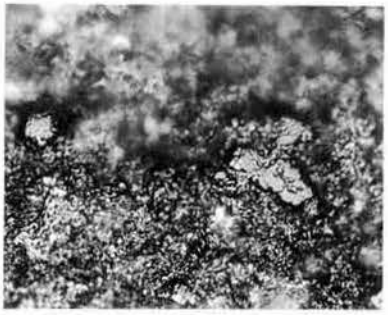


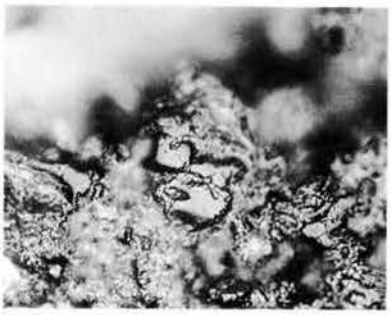
第139図　使用痕分布図・写真位置図(S＝1/3)

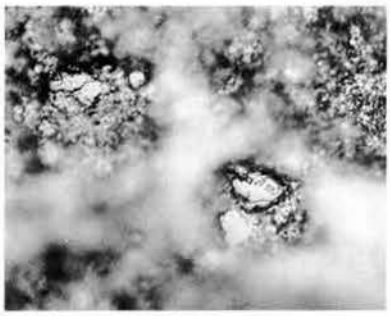
第23表　使用痕分析結果一覧表

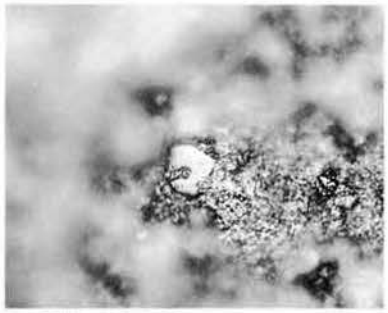
番号	器　種	石　材	部位	ポリッシュ	線状痕	特　徴	備　考
1124	削器	チャート	AB	EF	直行	微細な凸凹、溝状の線状痕	
1120	削器	サヌカイト	AB	F？	平行	未分化な微細なポリッシュ	
1234	石庖丁	泥岩	A	AB	斜行	明るく滑らか、島状の光沢	
1236	石庖丁	泥岩	B	AB		明るく滑らか、島状の光沢	
1227	有肩扇状石器	泥岩		—			
1228	有肩扇状石器	泥岩		—			
1198	粗製剥片石器	砂岩	AB	AB	平行	明るく滑らかな光沢	器面やや風化
1199	粗製剥片石器	凝灰岩		—			
1200	粗製剥片石器	砂岩	B	？		きわめて微細な光沢	
1204	粗製剥片石器	泥岩		—			
1221	粗製剥片石器	泥岩		—			
1223	粗製剥片石器	泥岩		—			
1218	粗製剥片石器	泥岩	AB	AB	平行	明るく滑らかな光沢	
1224	粗製剥片石器	泥岩		—			
1225	粗製剥片石器	泥岩		—			
1226	粗製剥片石器	泥岩		—			


1　1234　B・Aタイプ

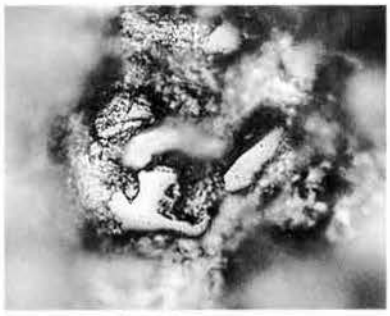

2　1234　Bタイプ


3　1236　Bタイプ


4　1236　Bタイプ


5　1236　Bタイプ

6　1218　Bタイプ


7　1218　Aタイプ

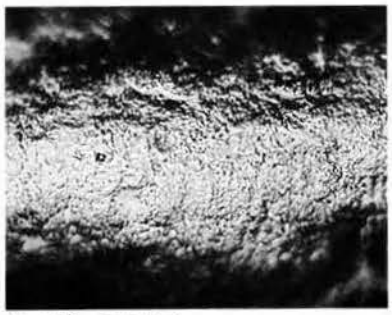
8　1218　Aタイプ

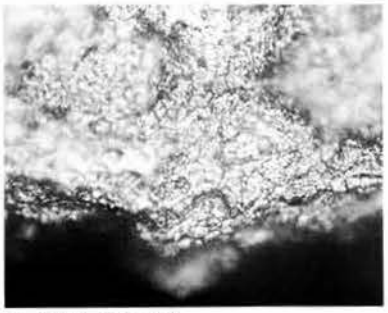
9　1200　Fタイプ？

10　1198　Aタイプ

11　1198　Aタイプ

12　1124　F・Eタイプ


13　1124　Eタイプ


14　1120　Fタイプ

15　1120　Fタイプ

第140図　使用痕顕微鏡写真

100ミクロン

第2節　縄文中期砂層堆積物の粒度組成

菱田　量・藤根　久（パレオ・ラボ）

1．はじめに

野笹遺跡は、木曽川右岸の美濃加茂市野笹地内に所在する遺跡である。遺跡は、低位段丘面群に位置し現木曽川河床より約20m程度高い場所に位置する。

トレンチ調査において基底の砂礫層の上位に縄文中期後半の砂層が約1.5m程度堆積し、この砂層の上部には厚さ約10cm前後の淡黒色土壌が見られた。ここでは、砂層と淡黒色土壌の粒度分析を行い、両者の堆積環境について比較検討した。

2．試料と方法

試料は、砂層と上部にみられた淡黒色砂質土壌である。これらの試料は、恒温乾燥器内110℃で乾燥した後、1／2ϕ（ファイ）間隔の－3.0～4.5ϕ標準フルイを重ね合わせてフルイ分けした。各フルイ残渣は、電子天秤を用いて重量を測定し、重量％を算出した。

各試料は、Friedman（1961、1967）の積率法により、平均粒径（Mean）、淘汰度（標準偏差S.D.；Standard Deviation）、歪度（Skewness）、尖度（Kurtosis）を算出した。計算式は以下の通りである。

平均粒径（Mean）…　$x\phi=(\Sigma fixi)/100$

淘汰度（S.D.）　…　$\sigma\phi=\sqrt{(\Sigma(fi(xi-x\phi)^2/100))}$

歪度（Skewness）…　$\alpha\phi=(\Sigma fi(xi-x\phi)^3)/100(\sigma\phi)^3$

尖度（Kurtosis）…　$\beta\phi=(\Sigma fi(xi-x\phi)^4)/100(\sigma\phi)^4$

fi：各粒度階の重量％　xi：各粒度階の中央粒径値（ファイ尺度）

分析結果は、すべてϕ（ファイ）尺度で表示している。ファイ尺度は、粒径d㎜の粒子は$\phi=-\log 2d$となり、粒径1㎜が0ϕに相当する。これより粒径が半減するごとにϕの値は1ずつ増え、粒径が倍になるほど1ずつ減る。0ϕを基準に正（＋）の値が大きいほど細粒で、負（－）の値が大きいほど粗粒になる。また、統計指標値のうち、平均粒径は粒度分布全体を代表する値である。淘汰度は粒子のそろいの程度を表し、値が0に近いほど粒径がよくそろっていることを示す。歪度は、粒度分布のかたよりを表し、0を対称に正ほどモードが平均より粗粒の方にかたより、逆に負は細粒の方に偏していることを示す。尖度は粒度分布曲線の山の尖り方を表し、値の大きいものは突出した曲線を、小さいものは偏平な曲線を表す。

堆積物中の砕屑粒子の粒径区分は、－6.0ϕ（64㎜）～－2.0ϕ（4㎜）が中礫、－2.0ϕ（4㎜）～－1.0ϕ（2㎜）が細礫、－1.0ϕ（2㎜）～4.0ϕ（0.0625㎜）が砂、4.0ϕ～8.0ϕ（0.0039㎜）がシルト、8.0ϕ未満のものが粘土である（地学団体研究会・新版地学事典編集委員会、1996）。

3．結果

第24表に粒度分析による統計値の結果を示す。また、粒度分布のヒストグラムと累積曲線を第141図に示した。また、第142図にFriedman（1961、1967）の積率法により平均粒径、淘汰度、歪度、尖

度を示した。

第24表　粒度分析による統計値（φ単位）

試料	平均粒径(mm)	淘汰度	歪　度	尖　度
A（砂）	2.566(0.169)	0.857	0.799	3.086
B（黒色帯）	2.366(0.194)	0.728	1.094	4.590

各試料の粒度分布を見ると、いずれも単峰性（unimodal）分布を示し、2.5φにピークを形成している。淘汰度は、黒色帯の試料Ａにおいて大きく、すなわち粒子のそろいの程度は低い。歪度は、試料Ｂにおいて大きくより粗い方に偏っている。尖度は、試料Ｂが大きくより尖っている。こうした結果は、4.0φ以下の粒子含有量は、試料Ｂでは低いものの、黒色帯の試料Ａでは高いためである。

上杉（1972）は、全国各地の海岸地域から採取した風成あるいは海成堆積物の検討を行い、平均粒径と歪度により風成と海成に区分できることを示した。横軸に平均粒径、縦軸に歪度とした上杉（1972）の環境区分図にプロットすると、ここで示した試料は風成領域にプロットされる。

こうしたことから、両試料は類似した粒度特性を示し、いずれも風成的要因により形成された堆積物であると推定される。

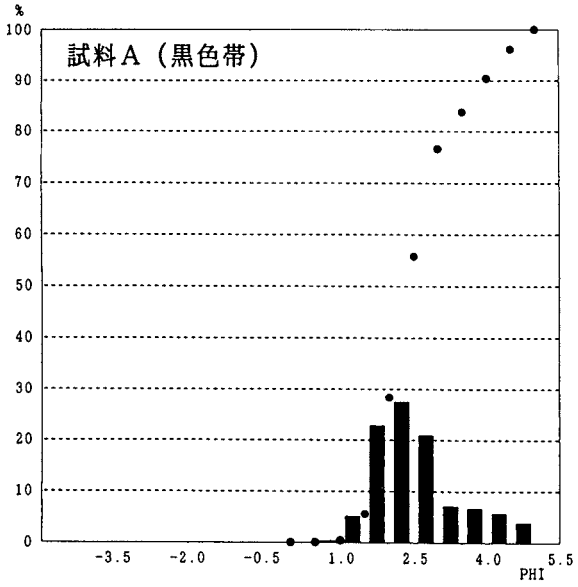
引用・参考文献

地学団体研究会・新版地学事典編集委員会 編（1996）『新版 地学事典』、平凡社、p.1443

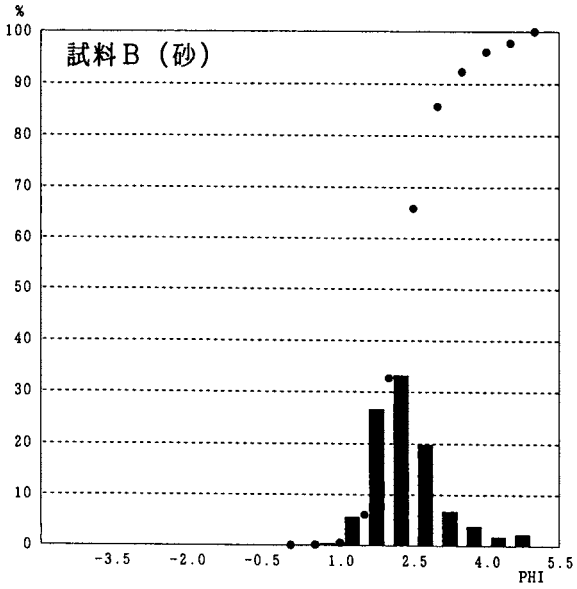
Friedman, G.H.(1961)Distinction between dune, beash and river sands from the textural characteristics. Jour. Sed. Petrol.31, 514-529.

Friedman, G.H.(1967) Dynamic processes and statistical parameters compared for size frequency distribution of beach and river sands. Jour. Sed. Petrol. 37, 327-354.

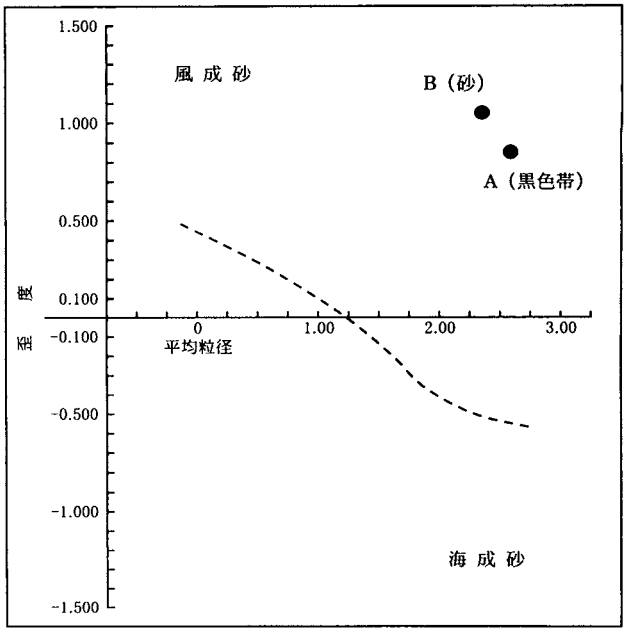
上杉　陽（1972）粒径頻度分布からみた風成砂・海成砂の諸特徴、第四紀研究11、2、49-60.



第140図　使用痕写真ビニル袋



第141図　粒度分布のヒストグラムと積算頻度曲線



第142図　歪度と平均粒径による環境区分
（上杉、1972の図2を引用）

第３節　野笹遺跡のプラント・オパール

鈴木　茂（パレオ・ラボ）

１．はじめに

プラント・オパールについては藤原（1976）や藤原・佐々木（1978）など、イネを中心としたイネ科植物の形態分類の研究が進められている。また、土壌中より検出されるイネのプラント・オパール個数から稲作の有無および稲作地の広がりについての検討も行われている（藤原、1984）。こうした研究成果から近年、このプラント・オパール分析を用いて稲作の検証が各地・各遺跡で行われている。野笹遺跡の水路跡の埋積土において耕作土ではないかと思われる土壌層が認められている。以下にはこれら土壌層について行ったプラント・オパール分析結果を示し、野笹遺跡における稲作について検討した。

２．試料と分析方法

プラント・オパール分析は15世紀頃の耕作土と推測されている土壌試料４点について行った。図１のプラント・オパール分布図左側に地質柱状図と試料採取層準を示したが、各試料はおおむね灰褐色～淡黒褐色のシルト混じりの砂である。試料１の上位は客土で、黒褐色のレキ混じりの砂や粘土質の砂である。試料４の下位は土壌的な黒色砂で、さらに下位は12世紀と考えられているこの水路（NR-1：大溝）の基底にあたる。プラント・オパール分析はこれら４試料について以下のような手順にしたがって行った。

秤量した試料を乾燥後再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約１ｇ（秤量）をトールビーカーにとり、約0.02ｇのガラスビーズ（直径約40μm）を加える。これに30％の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により細かな粒子（10μm以下）を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作成し、検鏡した。同定および計数は機動細胞珪酸体についてガラスビーズが300個に達するまで行った。

３．分析結果

同定・計数された各分類群のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料１ｇ当りの各プラント・オパール個数を求め（第25表）、それらの分布を第143図に示した。以下に分析結果を示すが、各分類群のプラント・オパール個数は試料１ｇ当りの検出個数である。

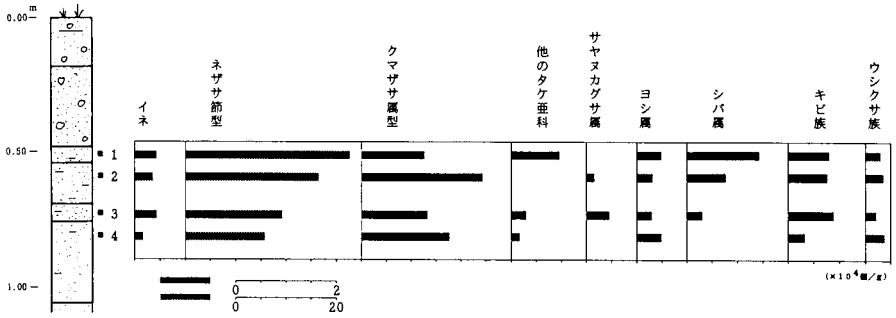
検鏡の結果、全試料からイネのプラント・オパールが大量に検出され、少ない試料４でも16,000個である。イネ以外ではネザサ節型が多く、最下部試料4が157,000個で上位に向かい急増している。シバ属も同様の傾向を示し、試料１では約14,000個とシバ属としては非常に多く検出されている。ウシクサ族は30,000個前後と安定した出現を示し、キビ族は試料４を除き8,000個前後で、キビ族としては多く得られている。その他、ヨシ属やサヤヌカグサ属などが検出されている。

４．稲作について

前述したように、全試料よりイネのプラント・オパールが多く検出された。検出個数の目安として

第25表　試料１ｇ当りのプラント・オパール個数

試料番号	イネ（個/ｇ）	ネザサ節型（個/ｇ）	クマザサ属型（個/ｇ）	他のタケ亜科（個/ｇ）	サヤヌカグサ属（個/ｇ）	ヨシ属（個/ｇ）	シバ属（個/ｇ）	キビ族（個/ｇ）	ウシクサ族（個/ｇ）	不明（個/ｇ）
1	42,900	327,000	12,700	9,500	0	4,800	14,300	7,900	28,600	28,600
2	34,800	263,100	24,200	7,600	1,500	3,000	7,600	7,600	34,800	19,700
3	42,200	190,800	13,100	2,900	4,400	2,900	2,900	8,700	20,400	24,800
4	16,000	157,000	17,600	1,600	0	4,800	0	3,200	36,800	20,800



第143図　野笹遺跡のプラント・オパール分布図

水田址の検証例を示すと、福岡市の板付北遺跡では、イネのプラント・オパールが試料１ｇ当り5,000個以上という高密度で検出された地点から推定された水田址の分布範囲と、実際の発掘調査とよく対応する結果が得られている（藤原　1984)。この調査例から稲作の検証としてこの5,000個を目安に、プラント・オパールの産出状態や遺構の状況をふまえて判断されている。こうしたことから野笹遺跡における稲作について、その可能性は高いと検出個数からは判断される。今後できるのあれば遺構や遺物による確認作業が望まれる。なお、全試料から比較的多く検出されているキビ族については稲作にともなう雑草類（タイヌビエ・エノコログサなど）に由来するものと推測される。

５．遺跡周辺のイネ科植物

ネザサ節型のササ類（ケネザサ(ミヤコネザサ)、ゴキダケなど）については日のあたる開けたところでの生育が予想され、稲作地？や住居周辺など古代人の活動により広がった開けたところに生育していたのであろう。また、ウシクサ族（ススキ、チガヤなど）やシバ属も同様なところに分布しており、これらがつくる草地的景観が15世紀頃に急速に広がったと推測される。

ヨシ属（ヨシ、ツルヨシなど）やサヤヌカグサ属（アシカキ、サヤヌカグサなど）については稲作地？やその周辺に存在が予想される溝や水路周辺に生育していたのであろう。

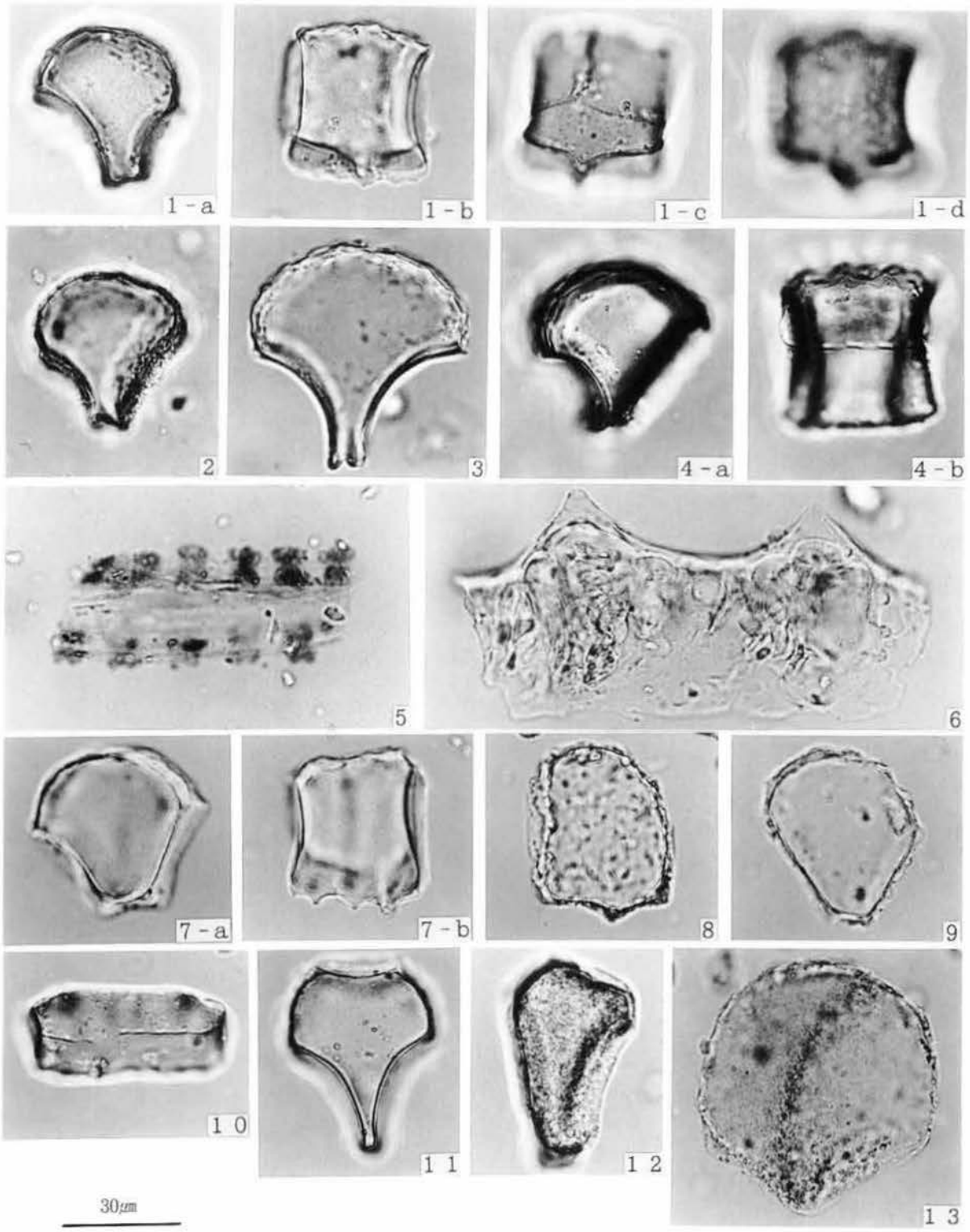
チマキザサやチシマザサといったクマザサ属型のササ類は主に森林の下草的存在で生育していたとみられ、遺跡周辺に存在が予想される森林の林下に多く生育していたと推測される。

引用文献

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)―数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法―、考古学と自然科学、9、p.15-29.

藤原宏志（1984）プラント・オパール分析法とその応用―先史時代の水田址探査―、考古学ジャーナル、227、p.2-7.

藤原宏志・佐々木彰（1978）プラント・オパール分析法の基礎的研究(2)―イネ（Oryza）属植物における機動細胞珪酸体の形状―、考古学と自然科学、11、p.9-20.



第144図　野笹遺跡のプラント・オパール

1～4：イネ（1-a, 2, 3, 4-a：断面、1-b, 4-b：側面、1-c：表面、1-d：裏面）
1：No.3、2：No.1、3：No.2、4：No.4
5：イネ型単細胞珪酸体列　No.2
6：イネ穎破片　No.2
7：ネザサ節型（a：断面、b：側面）　No.3
8：クマザサ属型（断面）　No.2
9：その他のタケ亜科（断面）　No.2
10：キビ族（側面）　No.3
11：シバ属（断面）　No.2
12：ウシクサ族（断面）　No.2
13：ヨシ属（断面）　No.1

第４節　カマド石に使用された軟質岩石

今村美智子・藤根　久（パレオ・ラボ）

１．はじめに

野笹遺跡では、住居のカマド石として、一般的にサバ石と呼ばれる軟質の岩石が利用されている。ここでは、これらのカマド石の石材について偏光顕微鏡による観察を行い、岩石学的特徴について記載した。なお、比較試料として周辺域から採取した岩石も同様に調べた。

２．試料と方法

検討した岩石試料は、住居跡（SB18、SB20、SB23）から採取したカマド石３試料、比較検討試料として採取した遺跡近傍の木曽川河床岩石１試料、可児市大森山崎地域の崖から採取した岩石１試料、可児市広見瀬田地域の崖から採取した岩石１試料である。各岩石試料は、次の手順に従って偏光顕微鏡観察用の薄片を作成した。

(1)試料は、始めに岩石カッターなどで整形し、恒温乾燥機により乾燥し、全体にエポキシ系樹脂を含浸させ固化処理を行った。スライドグラスに接着し平面を作成した後、同様にしてその平面の固化処理を行った。(2)さらに、研磨機およびガラス板を用いて研磨し、平面を作成した後スライドグラスに接着した。(3)その後、精密岩石薄片作製機を用いて切断し、ガラス板などを用いて研磨し、厚さ0.02㎜前後の薄片を作製する。仕上げとして、研磨剤を含ませた布板上で琢磨し、コーティング剤を塗布した。

３．結果

［SB18カマド石；第145図-1•2］

安山岩質の粗粒凝灰岩である。安山岩質岩片は粒径0.5～１㎜前後から構成され、最大粒径1.5㎜である。安山岩質岩片の周囲には、幅約50ミクロン前後の淡褐色沸石類が取り巻いている。遊離鉱物の斜方輝石が含まれ、少量の角閃石類も含まれる。

［SB20カマド石；第145図-3•4］

安山岩質の粗粒凝灰岩である。安山岩質岩片は粒径0.5㎜前後から構成され、最大粒径２㎜である。安山岩質岩片の周囲には、幅約50ミクロン前後の淡褐色沸石類が取り巻いている。遊離鉱物の斜方輝石が含まれ、少量の角閃石類も含まれる。

［SB23カマド石；第145図-5•6］

安山岩質の粗粒凝灰岩である。安山岩質岩片は粒径0.5㎜前後から構成され、最大粒径4.5㎜である。安山岩質岩片の周囲には、幅約50ミクロン前後の淡褐色沸石類が取り巻いているものも見られるが、不明瞭なものも見られる。遊離鉱物の斜方輝石が含まれ、少量の角閃石類も含まれる。

［木曽川河床の岩石；第146図-1•2］

安山岩質の粗粒凝灰岩である。安山岩質岩片は粒径0.5㎜前後から構成され、最大粒径１㎜である。安山岩質岩片の周囲には、幅約50ミクロン前後の淡褐色沸石類が取り巻いている。遊離鉱物の斜方輝石が含まれ、少量の角閃石類も含まれる。

［大森山崎地域の崖岩石；第146図-3•4］

300～700ミクロンのガラス質軽石片や細粒ガラス片から構成される粗粒軽石凝灰岩である。ガラス以外では、100～300ミクロンの石英粒、300ミクロン前後の斜長石、安山岩質岩片などが含まれる。

［広見瀬田地域の崖岩石；第146図-5•6］

約0.3～1.5㎜の石英、角閃石類、深成岩類、砂岩や泥岩などの堆積岩類、安山岩質岩片、斜長石から構成される粗粒凝灰岩質砂岩である。その他では雲母類も含まれている。

４．考察

検討したカマド石（サバ石）は、偏光顕微鏡観察から安山岩質岩片から構成される粗粒凝灰岩である。一方、木曽川河床の岩石は、同様の粗粒凝灰岩であるが、大森山崎地域の崖から採取した岩石が粗粒軽石凝灰岩、広見瀬田地域の崖から採取した岩石が粗粒凝灰岩質砂岩であった。これら比較試料との検討から、住居カマドに使用された岩石は、近傍の木曽川河床においても容易に採取できる岩石であることが分かった。

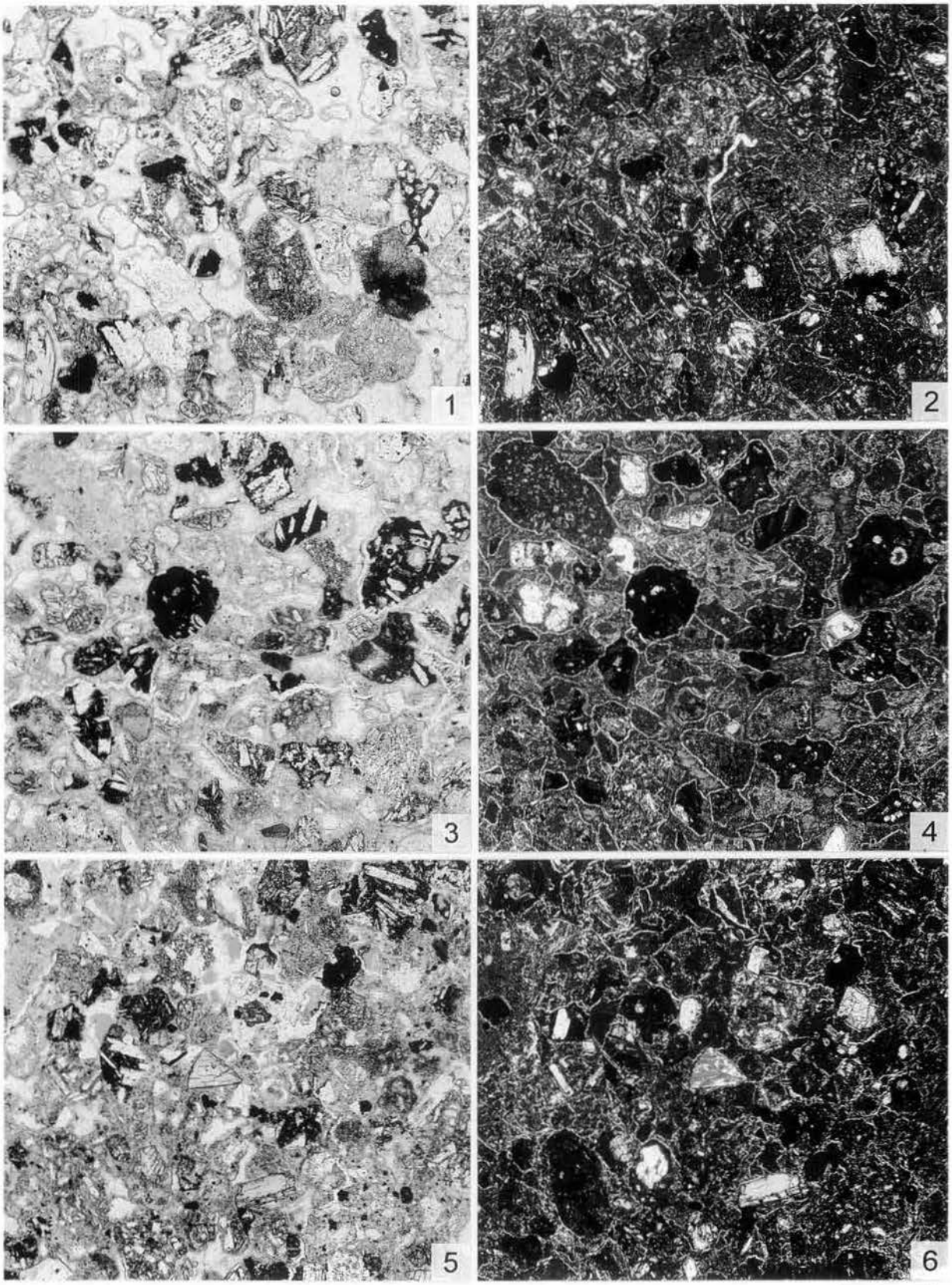
周辺地域では、前期中新統（約2330～1630万年前）の瑞浪層群が分布しており、下位から蜂屋累層・中村累層・平牧累層からなる（吉田・脇田、1999)。蜂屋累層は、瑞浪層群の最下部を占める累層で、流紋岩・安山岩・玄武岩の火砕岩および溶岩（砕屑岩類を伴う）からなり、美濃加茂市・兼山町・可児市に分布する。中村累層は、砂岩・泥岩・礫岩および凝灰岩（亜炭層を挟む）からなり、可児盆地に広く分布する。平牧累層（生俵累層）は、泥岩（礫岩・砂岩を伴う）からなり、瑞浪市周辺に分布する（山田・脇田、1990)。

比較試料として採取した試料は、いずれも中村累層に相当する層準であるが、カマド石の特徴は木曽川河床において採取した試料が良く類似している。

引用文献

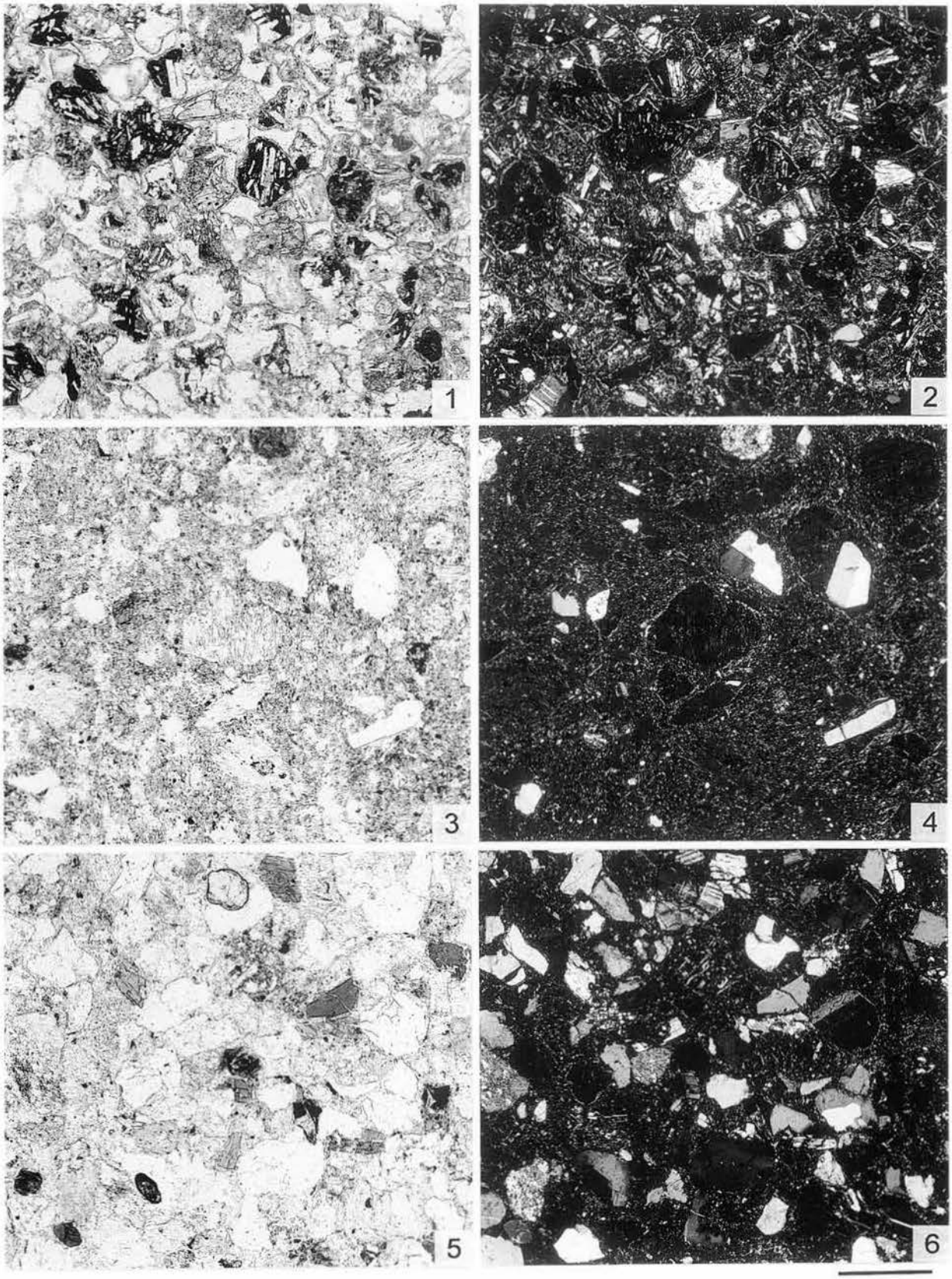
吉田史郎・脇田浩二（1999）岐阜地域の地質、地域地質研究報告（５万分の１地質図幅)、地質調査所、p.71

山田直利・脇田浩二（1990）飯田、20万分の１地質図、地質調査所



第145図　カマド石の偏光顕微鏡写真（スケール；0.5㎜）

1．SB18カマド石（開放ニコル）　2．同左（直交ニコル）
3．SB20カマド石（開放ニコル）　4．同左（直交ニコル）
5．SB23カマド石（開放ニコル）　6．同左（直交ニコル）



第146図　比較岩石の偏光顕微鏡写真（スケール；0.5㎜）

1．木曽川河床岩石（開放ニコル）　2．同左（直交ニコル）
3．可児市大森山崎崖の岩石（開放ニコル）　4．同左（直交ニコル）
5．可児市広見瀬田崖の岩石（開放ニコル）　6．同左（直交ニコル）

第5節　弥生土器の胎土材料

藤根　久・今村美智子（パレオ・ラボ）

1．はじめに

野笹遺跡は、美濃加茂市野笹町地内の低位段丘上に位置する縄文時代あるいは弥生時代などの遺構・遺物が検出される遺跡である。調査では、弥生時代後期山中期の住居跡が検出され、壷や高坏がまとまって出土した。

ここでは、これら土器の胎土材料を検討するために、薄片を作成し偏光顕微鏡による観察を行った。

2．試料と方法

検討した試料は、弥生時代初頭の壷棺墓1試料と弥生時代後期（山中期）の壷・高坏8試料である（第26表）。

第26表　胎土材料の検討した土器

番号	器　種	出土地点	遺物No.	時　代	備　考
1	大型壷	壷棺墓	42	弥生中期初頭	
2	甕	D区SB3	67	弥生後期(山中期)	
3	パレス壷口縁	D区SB3	69	弥生後期(山中期)	赤色顔料分析
4	鉢	D区SB3	68	弥生後期(山中期)	
5	広口壷？	D区SB3	72	弥生後期(山中期)	
6	赤色長頸壷口縁	D区SB3	70	弥生後期(山中期)	赤色顔料分析
7	高 坏	D区SB3	65	弥生後期(山中期)	
8	高 坏(完形)	D区SB3	66	弥生後期(山中期)	
9	赤色長頸壷胴部	D区SB3	71	弥生後期(山中期)	赤色顔料分析

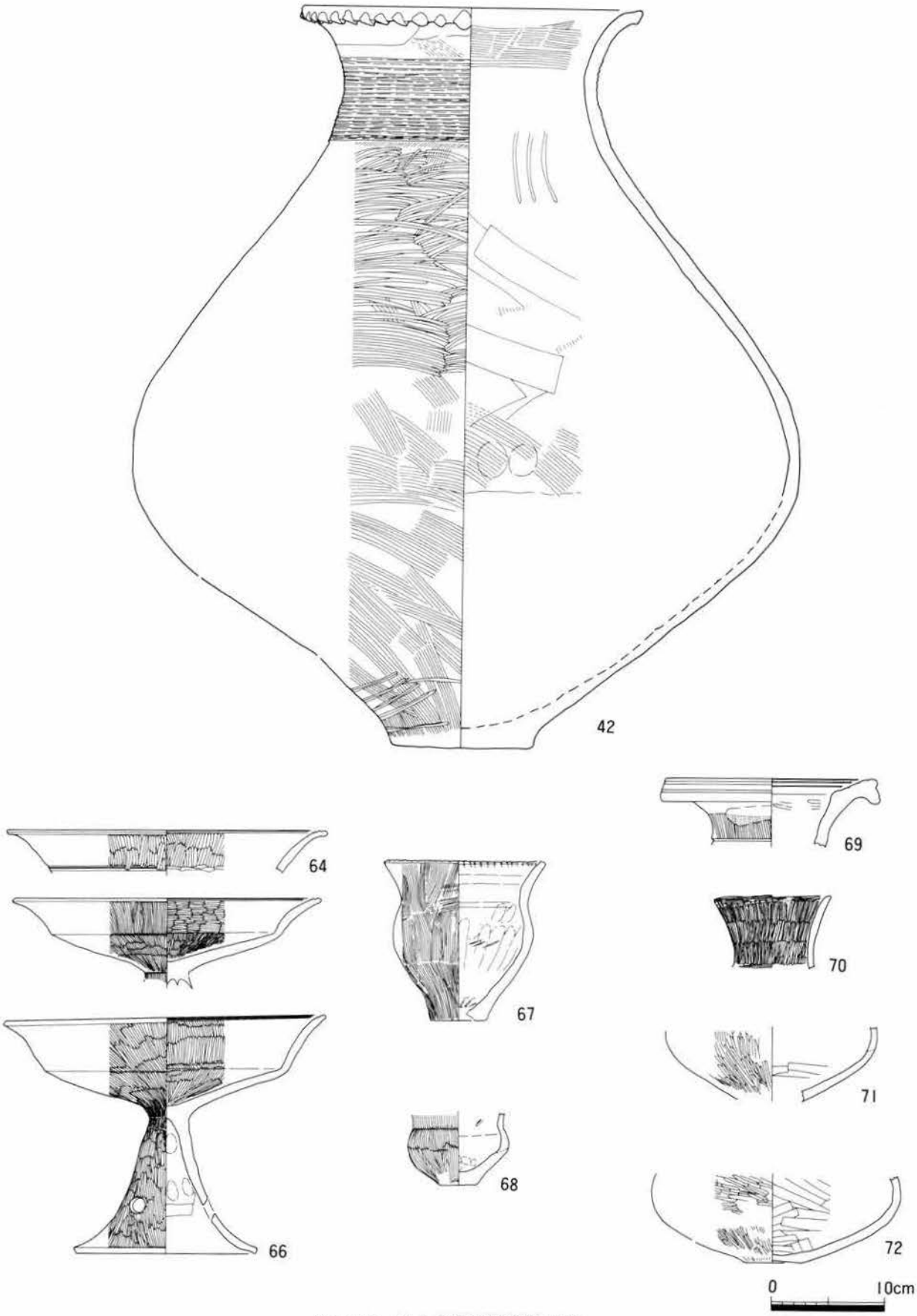
ここでは、土器胎土の特徴を最大限に引き出すために、薄片を作成し、偏光顕微鏡による観察による方法を行った。各胎土は、次の手順に従って偏光顕微鏡観察用の薄片（プレパラート）を作成した。

(1)試料は、始めに岩石カッターなどで整形し、恒温乾燥機により乾燥した。全体にエポキシ系樹脂を含浸させ固化処理を行った。これをスライドグラスに接着し平面を作成した後、同様にしてその平面の固化処理を行った。

(2)さらに、研磨機およびガラス板を用いて研磨し、平面を作成した後スライドグラスに接着した。

(3)その後、精密岩石薄片作製機を用いて切断し、ガラス板などを用いて研磨し、厚さ0.02mm前後の薄片を作成した。仕上げとして、研磨剤を含ませた布板上で琢磨し、コーティング剤を塗布した。

各薄片試料は、偏光顕微鏡下300倍で分類群ごとに同定・計数する。同定・計数は、100μm格子目盛を用いて任意の位置における約50μm(0.05mm)以上の鉱物や複合鉱物類（岩石片）あるいは微化石類（50μm前後)を対象とし、微化石類と石英・長石類以外の粒子が約100個以上になるまで行った。また、



第147図　胎土分析試料採取土器

この計数とは別に薄片全面について、微化石類（珪藻化石、骨針化石、胞子化石）や大型粒子などの特徴についても観察・記載した。

なお、赤色顔料は、赤色顔料分析を参照されたい。

3．分類群の記載

細礫～砂サイズ以下の粒子を偏光顕微鏡により同定する場合、粒子が細粒であるため同定が困難である場合が多い。特に、岩石片については、岩石片中に含まれる鉱物数がきわめて少ないため、岩石名を決定することが事実上不可能である場合が多い。ここでは岩石名を付けず、岩石片を構成する鉱物や構造的な特徴に基づいて分類する（菱田ほか、1993）。なお、胎土の特徴を抽出するために、鉱物や岩石片以外の生物起源の粒子（微化石類）も同時に計数した。ここで採用した各分類群の記載とその特徴などは以下の通りである。なお、各鉱物の光学的性質についてはその記述を省略する。

［骨針化石］

海綿動物の骨格を形成する小さな珪質、石灰質の骨片で、細い管状や針状などを呈する。海綿動物は、多くは海産であるが、淡水産としても日本において23種ほどが知られ、湖や池あるいは川の水底に横たわる木や貝殻などに付着して生育する。

［珪藻化石］

珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、その大きさは10～数百μm程度である。珪藻は海水域から淡水域に広く分布し、個々の種類によって特定の生息環境をもつ。最近では、小杉（1988）や安藤（1990）によって環境指標種群が設定され、具体的な環境復原が行われている。ここでは、種あるいは属が同定できるものについて珪藻化石（淡水種）と分類し、同定できないものは珪藻化石（？）とした。なお、各胎土中の珪藻化石の詳細については、計数外の特徴とともに記載した。

［植物珪酸体化石］

植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、大きさは種類によっても異なり、主に約10～50μm前後である。一般的にプラント・オパールとも呼ばれ、イネ科草本、スゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在することが知られている。ファン型や亜鈴型あるいは棒状などがあるが、ここでは大型のファン型と棒状を対象とした。

［胞子化石］

胞子状粒子は、珪酸質と思われる直径10～30μm程度の小型無色透明の球状粒子である。これらは、水成堆積中で多く見られるが、土壌中にも含まれる。

［石英・長石類］

石英あるいは長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち後述する双晶などのように光学的に特徴をもたないものは石英と区別するのが困難である場合が多く一括して扱う。なお、石英・長石類（雲母）は、黄色などの細粒雲母類が包含される石英または長石類である。

［長石類］

長石は大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶（主として平行な縞）を示すものと累帯構造（同心円状の縞）を示すものに細分される（これらの縞は組成の違いを反映している）。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの（パーサイト構造）と格子状構造（微斜長石構造）を示す

ものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶(微文象構造という)である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶(斑晶)の斜長石にみられることが多い。パーサイト構造を示すカリ長石はカコウ岩などのSiO_2%の多い深成岩や低温でできた泥質・砂質の変成岩などに産する。

ミルメカイトあるいは文象岩は火成岩が固結する過程の晩期に生じると考えられている。これら以外の斜長石は、火成岩、堆積岩、変成岩に普通に産する。

［雲母類］

一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で風化すると金色から白色になる。形は板状で、へき開（規則正しい割れ目）にそって板状には剥がれ易い。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。カコウ岩などのSiO_2%の多い火成岩に普遍的に産し、泥質、砂質の変成岩および堆積岩にも含まれる。なお、雲母類のみが複合した粒子を複合雲母類とした。

［輝石類］

主として斜方輝石と単斜輝石とがある。斜方輝石（主に紫蘇輝石）は、肉眼的にビールびんのような淡褐色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。SiO_2%が少ない深成岩、SiO_2%が中間あるいは少ない火山岩、ホルンフェルスなどのような高温で生じた変成岩に産する。単斜輝石（主に普通輝石）は、肉眼的に緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主としてSiO_2%が中間から少ない火山岩によく見られ、SiO_2%の最も少ない火成岩や変成岩中にも含まれる。

［角閃石］

主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は細長く平たい長柱状である。閃緑岩のようなSiO_2%が中間的な深成岩をはじめ火成岩や変成岩などに産する。

［ガラス］

透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄くて湾曲したガラス（バブル・ウォール型）や小さな泡をたくさんもつガラス（軽石型）などがある。主に火山の噴火により噴出された噴出物と考える。なお、濁ガラスは、非晶質でやや濁りのあるガラスで、火山岩類などにも見られる。

［複合鉱物類］

構成する鉱物が石英あるいは長石以外に重鉱物を伴う粒子で、雲母類を伴う粒子は複合鉱物類（含雲母類)、輝石類を伴う粒子を複合鉱物類（含輝石類)、角閃石類を伴う粒子を複合鉱物類（角閃石類）とした。

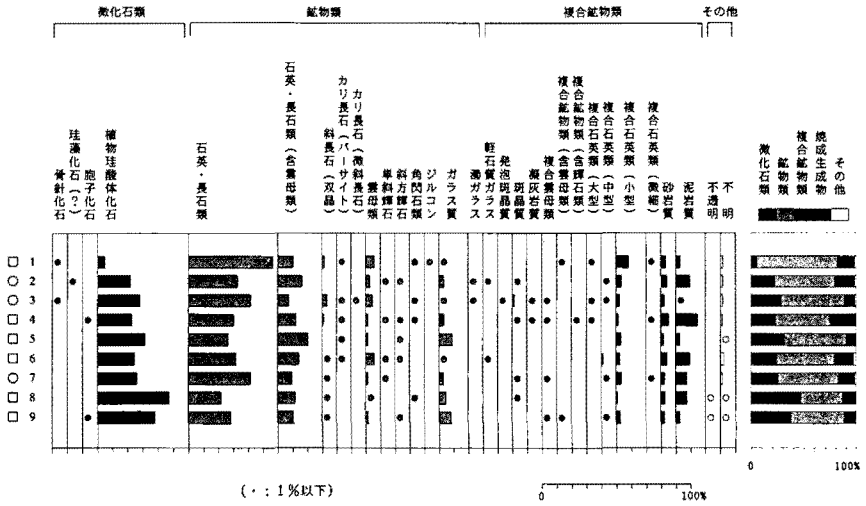
［斑晶質・完晶質］

斑晶質は斑晶（鉱物の結晶）状の部分と石基状のガラス質の部分が明瞭に確認できるものをいう。完晶質は、ほとんどが結晶からなり石基の部分が見られないか、ごくわずかのものをいう。発泡斑晶質は、石基状のガラス質の部分に発泡した穴を伴うものである。これらの斑晶質、完晶質の粒子は主として玄武岩、安山岩、デイサイト、流紋岩などの火山岩類を起源とする可能性が高い。

［凝灰岩質］

非晶質でモザイックな文様構造を示し、石英・長石類やガラスなどが含まれるものをいう。火山砕屑物が固化したもので、起源となる火山によって鉱物組成が変化する。

［複合石英類］



第148図　胎土中の粒子組成図(全分類群を基数とした百分率で表示)

[粘土の区分(試料番号左)]

○：淡水成粘土(淡水種珪藻化石などの出現)　□：水成粘土(骨針化石の出現)

第27表　胎土中の粒子一覧表

分類群	1	2	3	4	5	6	7	8	9
微化石類									
骨斜化石	2	—	3	—	—	—	—	—	—
珪藻化石（？）	—	2	—	—	—	—	—	—	—
胞子化石	—	—	—	1	—	—	—	—	1
植物珪酸体化石	15	59	113	59	87	63	92	176	136
鉱物類									
石英・長石類	176	90	170	79	74	83	148	82	103
石英・長石類（含雲母類）	32	44	30	32	57	37	35	44	39
斜長石（双晶）	6	—	14	3	—	2	1	1	1
カリ長石（パーサイト）	2	—	3	1	1	1	—	—	—
カリ長石（微斜長石）	—	—	1	—	—	—	—	—	—
雲母類	18	8	20	5	5	16	6	1	7
単斜輝石	—	1	—	2	—	1	1	—	—
斜方輝石	—	1	—	1	1	1	—	—	1
角閃石類	2	—	1	1	—	—	—	1	—
ジルコン	1	—	—	—	—	—	—	—	—
ガラス質	1	9	4	9	26	2	12	19	31
泥ガラス	—	1	1	—	—	—	—	—	—
複合鉱物類									
軽石質ガラス	—	2	—	—	—	1	—	—	—
発泡斑晶質	—	—	3	—	—	—	—	—	—
斑晶質	—	1	7	2	—	—	1	1	—
凝灰岩質	—	—	2	1	—	—	—	—	—
複合雲母類	—	—	1	1	—	—	1	—	1
複合鉱物類（含雲母類）	1	—	—	—	—	—	—	—	1
複合鉱物類（含輝石類）	—	—	—	1	—	—	—	—	—
複合石英類（大型）	1	—	1	1	—	—	—	—	—
複合石英類（中型）	—	1	2	—	—	3	1	—	3
複合石英類（小型）	26	10	10	4	9	7	14	4	11
複合石英類（微細）	2	—	—	1	—	—	1	—	—
砂岩質	10	11	9	14	6	11	10	11	9
泥岩質	10	26	4	38	8	25	27	29	10
その他									
不透明	—	—	—	—	—	—	—	1	1
不明	5	4	6	3	2	6	5	2	3
総ポイント数	310	270	405	259	276	259	355	372	358

第28表　弥生土器胎土の粘土と砂粒の特徴

試料	器種	粘土			砂粒組成					赤彩顔料
		分類	起源	特徴	粒度（μm）	最大粒径	分類	（）は極端な場合、［ ］は稀）	砂粒表面付着珪藻	
1	大型壷	○	淡水成	植物珪酸体化石極少	50～200, 1mm前後	2.1mm	A	深成岩類〉堆積岩類	なし	
2	甕	○	淡水成		200～800	1.6mm	B_1	堆積岩類〉テフラ、凝灰岩類	なし	
3	パレス壷口縁	△	水成		200～600	2.1mm	B_2	堆積岩類〉凝灰岩類〉深成岩類、火山岩類、テフラ	なし	ベンガラ
4	鉢	△	水成		150～500	2.7mm	B_1	堆積岩類〉凝灰岩類、深成岩類、テフラ	なし	
5	広口壷？	△	水成		150～500	700μm	B_1	堆積岩類〉テフラ、［凝灰岩類、深成岩類］	なし	
6	赤色長頸壷口縁	△	水成		120～500	2.0mm	B_1	堆積岩類〉凝灰岩類、テフラ、［深成岩類］	なし	ベンガラ
7	高坏	○	淡水成		150～500	2.9mm	B_1	堆積岩類〉テフラ、凝灰岩類、［深成岩類］	なし	
8	高坏（完形）	△	水成	植物珪酸体化石多産	150～500	2.0mm	B_2	堆積岩類〉凝灰岩類〉テフラ、深成岩類、［火山岩類］	なし	
9	赤色長頸壷胴部	△	水成	植物珪酸体化石多産	150～500	800μm	B_2	堆積岩類〉火山岩類、テフラ、凝灰岩類、［深成岩類］	なし	ベンガラ

複合石英類は石英の集合している粒子で、基質(マトリックス)の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は粗粒なものから細粒なものまで様々である。ここでは、便宜的に個々の石英粒子の粒径が約0.01mm未満のものを微細、0.01～0.05mmのものを小型、0.05～0.1mmのものを中型、0.1mm以上のものを大型と分類した。また、等粒で小型の長石あるいは石英が複合した粒子は、複合石英類（等粒）として分類した。この複合石英類（等粒）は、ホルンフェルスなどで見られる粒子と考える。

［砂岩質・泥岩質］

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、それらの間に基質の部分をもつもので、含まれる粒子の大きさが約0.06mm以上のものを砂岩質とし、約0.06mm未満のものを泥岩質とする。

［不透明・不明］

下方ポーラーのみ、直交ポーラーのいずれにおいても不透明なものや、変質して鉱物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明とする。

4．各胎土の特徴および計数の結果

胎土中の粒子組成は、任意の位置での粒子を分類群別に計数した（第27表)。また、計数されない微化石類や鉱物・岩石片を記載するために、プレパラート全面を精査・観察した。以下では、粒度分布や0.1mm前後以上の鉱物・岩石片の砂粒組成あるいは計数も含めた微化石類などの記載を示す。なお、不等号は、概略の量比を示し、二重不等号は極端に多い場合を示す。

No.1：50～100μmと1mm前後の粗粒子が多い（最大粒径2.1mm)。石英・長石類〉複合石英類（大型)》雲母類、複合石英類（微細)、角閃石類、カリ長石(パーサイト)、複合鉱物類(含角閃石類)、ガラス、ジルコン、ざくろ石、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石極少

No.2：200～800μmが多い（最大粒径1.6mm)。石英・長石類〉砂岩質〉複合石英類（微細)、ガラス、斑晶質、凝灰岩質、単斜輝石、珪藻化石(淡水種 *Diploneis* 属、陸域指標種群 *Hantzschia amphioxys*)、胞子化石、植物珪酸体化石、植物遺体

No.3：200～600μmが多い（最大粒径2.1mm)。石英・長石類〉複合石英類（微細)〉複合石英類、斑晶質、斜長石(双晶)、カリ長石（パーサイト)、雲母類、ガラス、凝灰岩質、単斜輝石、斜方輝石、珪藻化石（沼沢湿地付着生指標種群 *Stauroneis phoenicenteron*)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石

No.4：150～500μmが多い（最大粒径2.7mm)。石英・長石類〉複合石英類（微細)》砂岩質、複合石英類、ガラス、単斜輝石、斜方輝石、角閃石類、ジルコン、凝灰岩質、珪藻化石（陸域指標種群 *Hantzschia amphioxys*)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石

No.5：150～500μmが多い（最大粒径700μm)。石英・長石類〉複合石英類（微細)、複合石英類、ガラス、砂岩質、単斜輝石、ジルコン、角閃石類、凝灰岩質、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石、植物遺体

No.6：120～500μmが多い（最大粒径3.6mm)。石英・長石類〉複合石英類（微細)、砂岩質、ガラス、斑晶質、凝灰岩質、泥岩質、単斜輝石、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石、植物遺体

No.7：150～500μmが多い（最大粒径2.9mm)。石英・長石類〉複合石英類（微細)、砂岩質、雲母類、凝灰岩質、ガラス、単斜輝石、珪藻化石（淡水種 *Eunotia biareofera*)、骨針化石、植物珪酸体化石

No.8：150～500μmが多い（最大粒径2㎜）。石英・長石類〉複合石英類（微細）》砂岩質、凝灰岩質、斑晶質、ガラス、角閃石類、単斜輝石、ジルコン、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石多産
No.9：150～500μmが多い（最大粒径800μm）。石英・長石類〉砂岩質〉複合石英類（微細）、斑晶質、ガラス、斜方輝石、凝灰岩質、複合石英類、角閃石類、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石多産

5．化石による材料粘土の分類

検討した胎土中には、その薄片全面の観察から、珪藻化石や骨針化石などが検出された。これら微化石類の大きさは、珪藻化石が10～数100μm（実際観察される珪藻化石は大きいもので150μm程度）、骨針化石が10～100μm前後である（植物珪酸体化石が10～50μm前後）。一方、砕屑性堆積物の粒度は、粘土が約3.9μm以下、シルトが約3.9～62.5μm、砂が62.5μm～2㎜である（地学団体研究会・地学事典編集委員会編、1981）。このことから、植物珪酸体化石を除いた微化石類は輪胎土の材料となる粘土中に含まれるものと考えられ、粘土の起源を知るのに有効な指標になると考える。なお、植物珪酸体化石は、堆積物中に含まれていること、製作場では灰質が多く混入する可能性が高いなど、他の微化石類のように粘土の起源を指標する可能性は低いと思われる。

検討した土器胎土は、微化石類により、a)淡水成粘土を用いた胎土、b)水成粘土を用いた胎土、に分類された。以下では、分類される胎土についてその特徴を述べる。

a）淡水成粘土を用いた胎土（No.2、No.3、No.7）

この胎土は、淡水種珪藻化石のDiploneis属や*Stauroneis phoenicenteron*あるいは*Eunotia biareofera*が含まれていた。なお、骨針化石も含まれていた。

b）水成粘土を用いた胎土（No.1、No.4、No.5、No.6、No.8、No.9）

これらの胎土中には、水成環境で生育する骨針化石が含まれていた。なお、胞子化石も含まれていた。

6．砂粒組成による分類

ここで設定した複合鉱物類は、構成する鉱物種や構造的特徴から設定した分類群であるが、地域を特徴づける源岩とは直接対比できない。このため、各胎土中の鉱物、岩石粒子の岩石学的特徴は、地質学的状況に一義的に対応しない。

ここでは、比較的大型の砂粒について起源岩石の推定を行った（第148図）。岩石の推定は、泥岩質や砂岩質あるいは複合石英類（微細）が堆積岩類、複合石英類（大型）や複合鉱物類（含輝石類・含角閃石類・含雲母類）が深成岩類、凝灰岩質が凝灰岩類、斑晶質が火山岩類、ガラスがテフラ（火山噴出物）である。その結果、第28表のように起源岩石が推定された。

全体的に、深成岩類を主体として堆積岩類を伴うA群と堆積岩類を主体として凝灰岩類や火山岩類あるいは深成岩類を伴うB群に分類された。なお、B群は、深成岩類や凝灰岩類を伴うB_1群、B_1群の組成に火山岩類を伴うB_2群、に分類された。

７．考察

ここでは土器胎土材料を粘土と砂粒に分けて検討した。それによると材料粘土は淡水成粘土と水成粘土に分類された。ただし、胎土中に含まれていた珪藻化石や骨針化石は少ない。

砂粒組成では、推定起源岩石の構成により深成岩類を主体としたＡ群と堆積岩類を主体としたＢ群に分類された。

№１の大型壷では、混和されている砂粒が大型のものが多く、深成岩類を主体として堆積岩類を伴う組成を示す。この砂粒組成は、Ｂ群に分類された砂粒が木曽川の砂粒組成に類似するのに対し、火山岩類や凝灰岩類を伴わない点において異なる。ただし、花崗岩類などを基盤とする地域の砂粒組成と考えられるが、その具体的な地域については言及できない。粘土は、骨針化石を含むことから水成粘土を利用しているが、他の土器胎土と比較してイネ科植物の葉身に形成される植物珪酸体化石が極端に少ない。

一方、弥生後期の壷や鉢あるいは高杯では、混和されている砂粒は、150～500前後の砂粒から構成され、含まれる珪藻化石や骨針化石は少ないものの淡水成粘土あるいは水成粘土である。砂粒では、火山岩類を伴わないB_1群と火山岩類を伴うB_2群に細分されるが、出現頻度に違いは見られるものの、組成としては大きな違いはないと考える。なお、テフラ起源のガラスは、№５広口壷？や№９の長頸壷では比較的多く含まれている。材料的に見ると、製作域において、これらガラスからなるテフラが分布する地域であることが推定される。

大垣市荒尾南遺跡の弥生前期あるいは中期土器胎土中には、砂粒表面において珪藻化石が密集して付着する様子が観察され、当時の河川砂が利用された証拠と推定されている（古橋・藤根、1998）。ここで検討した土器胎土中には、比較的大型の砂粒が含まれるが、こうした砂粒表面において珪藻化石が密集付着する様子は観察されなかった。このことから、これらの砂粒は、地層砂などの砂質物を採取・利用したものと予想される。

引用文献

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用、東北地理、42、2、73-88.

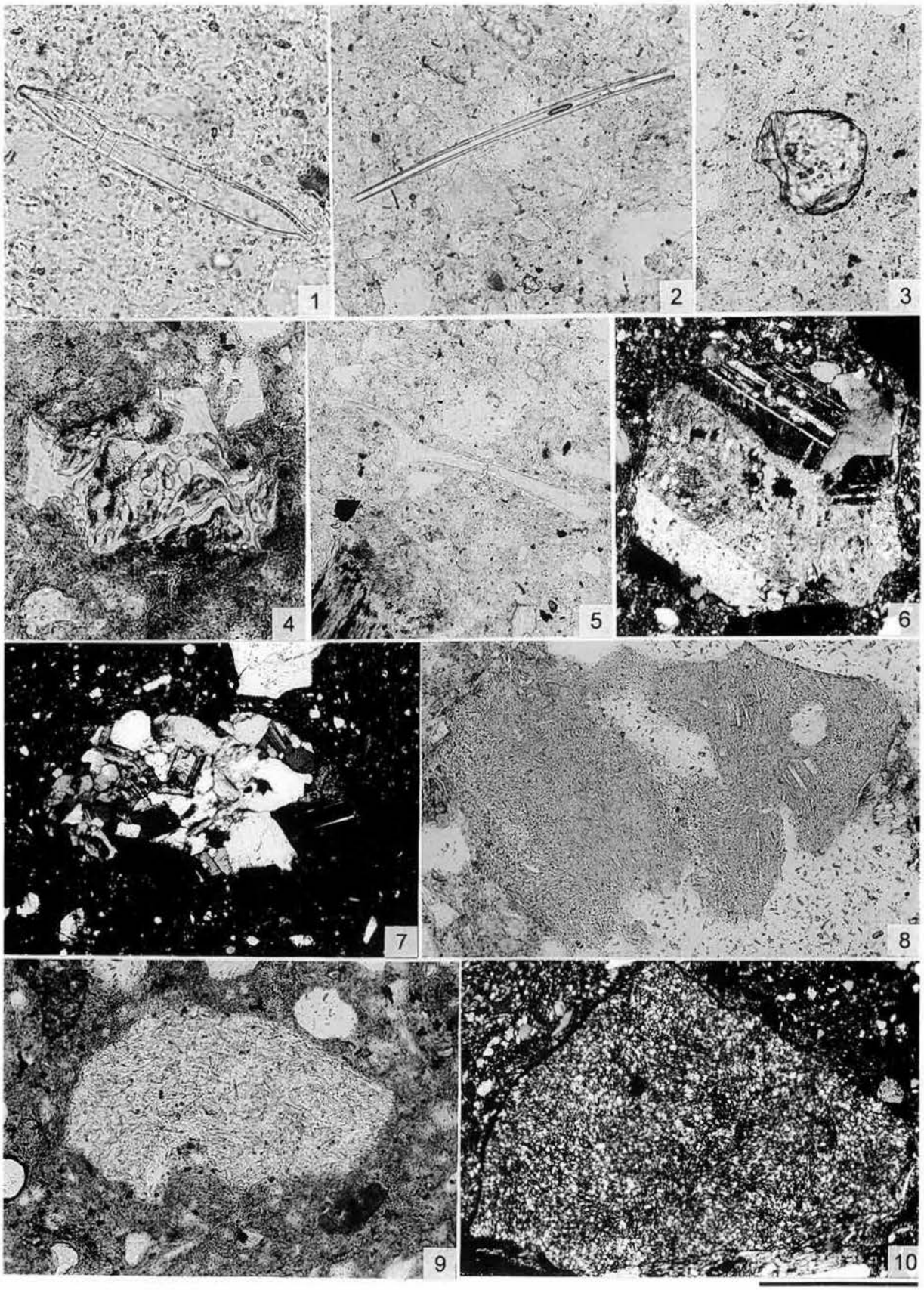
地学団体研究会・地学事典編集委員会編（1981）『増補改訂 地学事典』、平凡社、p.1612

菱田　量・車崎正彦・松本　完・藤根　久（1993）岩石学的方法に基づく胎土分析について―弥生時代後期の土器を例にして―、日本文化財科学会第10回大会研究発表要旨集、34-35.

古橋美智子・藤根　久（1998）荒尾南遺跡出土弥生および古墳時代土器の胎土材料、岐阜県文化財保護センター調査報告書「荒尾南遺跡」、p.98-104.

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用、第四紀研究、27、1-20.

車崎正彦・松本　完・藤根　久・菱田　量・古橋美智子（1996）(39)土器胎土の材料―粘土の起源を心中に―



第149図　土器胎土中の粒子顕微鏡写真（スケール;1:40μm、2～4:100μm、5、7、8:200μm、6:1mm、9:400μm）

1．珪藻化石（*Hantzschia amphioxys*）　2．骨針化石　No.4　3．ざくろ石　No.1
4．軽石型ガラス　No.6　5．ガラス　No.4　6．複合鉱物類（含雲母類）　No.1
7．複合鉱物類（含輝石類）　No.1　8．凝灰岩質　No.3　9．斑晶質　No.8　10．複合石英類（微細）　No.1

第６節　表面および山茶碗皿内側に付着する赤色物

宮野義則・藤根　久（パレオ・ラボ）

１．試料と方法

野笹遺跡では、赤色顔料が塗布された弥生土器や赤色物が付着した15世紀山茶碗皿が出土している。ここでは、この赤色顔料や赤色物の成分を調べるため、蛍光Ｘ線分析計を用いて定性分析した。

試料は、15世紀山茶碗皿内側に付着した赤色物１試料、赤色顔料が塗布された弥生後期（山中期）のパレス壷１試料および長頸壷２試料である。測定試料は、赤色部分にセロハン粘着テープを貼りつけて採取した。

分析装置は、セイコー電子工業㈱製のエネルギー分散型蛍光Ｘ線分析計SEA-2001L、Ｘ線発生部の管球はロジウム(Rh)ターゲット、ベリリウム(Be)窓、Ｘ線検出器はSi(Li)半導体検出器である。測定条件は、測定時間300秒、照射径10㎜、電流30μm、電圧50kＶ、試料室内は真空である。

２．結果

第150図に山茶碗皿内側に付着した赤色物と弥生後期の長頸壷（SB4 No.７）の蛍光Ｘ線スペクトル図を示す。また、第29表には、各試料の赤色物から検出された元素および同定結果を示す。

測定の結果、鉄（Fe）とケイ素（Si）が高率で検出され、アルミニウム（Al）、イオウ（S）、カリウム（K）、カルシウム（Ca）、チタン（Ti）、マンガン（Mn）などが検出された。このうち赤色物に由来する元素は鉄（Fe）であり、その他の元素は胎土などに由来する元素である。なお、ロジウム(Rh)のピークはＸ線発生部の管球に由来するものであり、赤色物に含まれる元素とは関係がない。

第29表　赤色物または赤色顔料から検出された元素

［元素記号］Al;アルミニウム，Si;ケイ素，S;イオウ，K;カリウム，Ca;カルシウム，Ti;チタン，Mn;マンガン，Fe；鉄，Zn;亜鉛

No.	試　料	遺物No.	時　代	赤色顔料に関係する元素		赤色顔料の同定	その他検出された元素
				鉄（Fe）	イオウ（S）		
1	山茶碗皿内側	394	15世紀	○	○	ベンガラ	Al,Si,S,K,Ca,Ti
2	パレス壷外側	69	弥生後期（山中期）	○	○	ベンガラ	Al,Si,K,Ca,Ti,Mn,Zn
3	長頸壷外側	70	弥生後期（山中期）	○	○	ベンガラ	Al,Si,K,Ca,Ti,Mn,Zn
4	長頸壷外側	71	弥生後期（山中期）	○	○	ベンガラ	Al,Si,K,Ca,Ti,Mn,Zn

３．考察

弥生後期のパレス壷と長頸壷の表面に塗布された赤色顔料は、いずれも蛍光Ｘ線分析により鉄（Fe）からなる２本のピークが高率で検出された。このことから、これら赤色顔料は、酸化鉄を成分とするベンガラと推定される。

一方、山茶碗皿の内側に付着する赤色物は、蛍光Ｘ線分析により鉄（Fe）からなる２本のピークが高率で検出された。一般的に土壌中において５～10％程度含まれるが、残存する付着部分は赤味を呈すること、一般的に多くの赤色顔料に付随して検出されるイオウ（S）が認められることから、赤色顔料としてのベンガラと考える。

一般的に、赤色顔料として水銀朱（HgS）、ベンガラ（Fe_2O_3）などが知られている（市毛、1984）が、ベンガラ（Fe_2O_3）は赤色の由来となる主成分元素が鉄（Fe）であるものを言う。古代においては、鉄分に富んだ土壌（例えば褐鉄鉱など）を焼いて作られたと考えられている（山崎、1987）。また、天然の赤鉄鉱などの鉄鉱石を採取して製造した可能性も考えられる。近世においては、硫化鉄（磁鉄鉱：FeS、黄鉄鉱FeS_2）が風化して形成された緑礬（りょくばん、硫化鉄（$FeSO_4,7H_2O$））を原材料とし、これを焼焙してベンガラを生産していたことが知られている（北野、1994）。なお、最近の研究では、縄文時代や弥生時代の赤色漆に用いられた赤色顔料中に珪藻化石が見られることから、水成環境下で生成した酸化鉄であることも分かってきた（岡田、1997）。

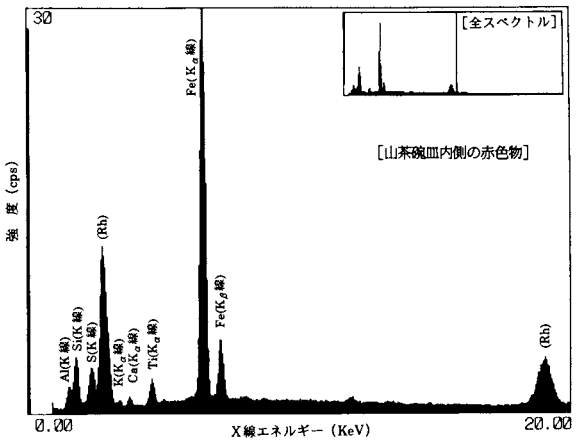
引用文献

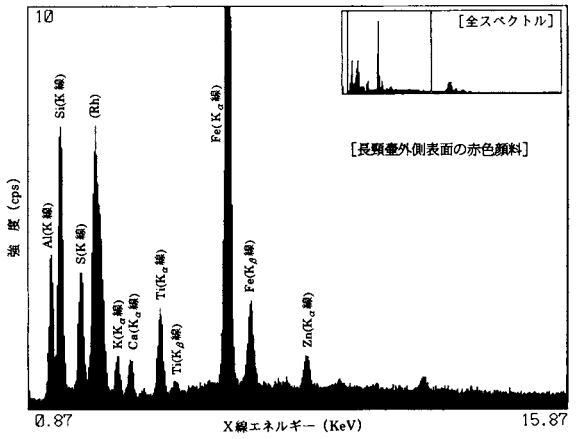
市毛　勲（1984）増補 朱の考古学、第２版、考古学選書12、雄山閣出版、p.324

北野信彦（1994）近世出土漆器資料の保存処理に関する問題点Ⅱ―文献史料から見た赤色系漆に使用するベンガラの製法について―、古文化財の科学、39、p.93-102.

岡田文男（1997）パイプ状ベンガラ粒子の復元、日本文化財科学会、第14回大会研究発表要旨集、p.38-39.

山崎一雄（1987）古文化財の科学、思文閣出版、p.352.





第150図　赤色物の蛍光Ｘ線スペクトル図

［元素記号］

Al;アルミニウム,Si;ケイ素,P;リン,S;イオウ,K;カリウム,Ca;カルシウム,Ti;チタン,Fe;鉄,Zn;亜鉛,(Rh);ロジウム(X線管球ターゲット)

第７節　野笹遺跡出土サヌカイト製遺物、下呂石製遺物および黒曜石製遺物の原材産地分析

藁科　哲男　（京都大学原子炉実験所）

はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光Ｘ線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石遺物の石材産地推定を行っている[1, 2, 3]。地質時代に自然の力で移動した岩石の出発露頭を元素分析で求めるとき、岩石と露頭原石の組成が一致すれば、その露頭から流れた岩石であると言うことは、自然法則に従って流れたルートを証明できる。産地分析では『石器とある産地の原石が一致したからと言って、そこの産地のものと言い切れないが、一致しなかった場合そこの産地のものでないと言い切れる』が大原則である。人が移動させた石器の組成とＡ産地原石の組成が一致したからと言って、産地と出土遺跡の間に地質的関連性がないため、移動ルートが自然の法則に従って証明できず、その石器がＡ産地の原石と決定することができない。従って、石器原材と産地原石が一致したことが、直ちに考古学の資料とならない、確かにＡ産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、Ｂ、Ｃ、Ｄの産地でないとの証拠がないために、Ａ産地だと言い切れない。Ａ産地と一致しなかった場合、結果は考古学の資料として非常に有用である。それは石器に関してはＡ産地と交流がなかったと言い切れる。考古学は、様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの素材があり一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する重要な結果である。地質など自然科学の場合は、自然科学的方法（物理・化学的方法）に従って、産地を特定するが、分析装置を使用すれば科学的分析と誤解している科学者がみられるが、装置は物差しにすぎず、得られた結果を自然の法則に従って処理し産地を特定しなければならない。考古学者は考古学を基準にして、例えば産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する。または原産地地方との交流が石器以外の他の遺物で証明されているなどの条件を考えて、石器の石質と一致する最も近い産地の原石を肉眼観察を基準にして推測する。この結果が信用される場合は、石質の一致よりも、産地との交流を推測しても考古学条件に無理がないためである。これは、遺跡から500km以上離れた産地の石材が石器と一致しても、遠距離の産地を言わず、近くの一致した産地しか言わないことから分かる。従って、実際に遠距離から伝播した原材でも、近くの産地のものとして処理している。日本中の産地の石材を観察すると、とても肉眼観察で産地を特定することはできないと思う。また地質学者に聞いても、とても肉眼観察で産地など特定できないと言う人が多い。石器原材の岩石名、産出産地を述べる場合客観的なデータに基づいて決定した結果を記さなければ、報告書全体が正確さを欠くように思われる。黒曜石、サヌカイトなどの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行い、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して産地を推定する。この際多変量解析の手

法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。蛍光X線分析法は試料を破壊せずに分析することができて、かつ、試料調整が単純、測定の操作も簡単である。石器のような古代人の日用品で多数の試料を分析しなければ遺跡の正しい性格が分からないという場合にはことさら有利な分析法である。今回分析した遺物は岐阜県に位置する野笹遺跡出土の縄文時代中期後葉～弥生時代の黒曜石製石器、石片60個、下呂石製石器、石片200個、サヌカイト製石器、石片50個の合計310個について産地分析の結果が得られたので報告する。

黒曜石、サヌカイト原石の分析

黒曜石、サヌカイト両原石の自然面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X線分析装置によって元素分析を行う。分析元素はAl、Si、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの12元素をそれぞれ分析した。

塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。

黒曜石原石

黒曜石は、Ca／K、Ti／K、Mn／Zr、Fe／Zr、Rb／Zr、Sr／Zr、Y／Zr、Nb／Zrの比量を産地を区別する指標としてそれぞれ用いる。黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に黒曜石の原産地は分布する。調査を終えた原産地を第151図に示す。黒曜石原産地のほとんどすべてがつくされている。元素組成によってこれら原石を分類し第30表～第34表に示す。この原石群に原石産地は不明の遺物で作った遺物群を加えると170個の原石群になる。中信高原地域の黒曜石産地の中で、霧ケ峰群は、長野県下諏訪町金明水、星ヶ塔、星ヶ台の地点より採取した原石でもって作られた群で、同町観音沢の露頭の原石も、霧ケ峰群に一致する元素組成を示した。和田峠地域原産の原石は、星ヶ塔の西方の山に位置する旧和田峠トンネルを中心にした数百メートルの範囲より採取され、これらを元素組成で分類すると、和田峠第一、第二、第三、第四、第五、第六の各群に分かたれる。和田峠第一、第三群に分類された原石は旧トンネル付近より北側の地点より採取され、和田峠第二群のものは、トンネルの南側の原石に多くみられる。和田峠第四群は男女倉側の新トンネルの入り口、また、和田峠第五、第六群は男女倉側新トンネル入り口左側で、和田峠第一、第三の両群の産地とは逆の方向である。男女倉原産地の原石は男女倉群にまとまり組成は和田峠第五群に似る。鷹山、星糞峠の黒曜石の中に和田峠第一群に属する物が多数みられる。麦草峠群は大石川の上流および麦草峠より採取された原石で作られた。これら中信高原の原産地は、元素組成で和田峠、霧ヶ峰、男女倉、麦草峠の各地域に区別される。伊豆箱根地方の原産地は笛塚、畑宿、鍛冶屋、上多賀、柏峠西の各地にあり、良質の石材は、畑宿、柏峠西で斑晶の多いやや石質の悪いものは鍛冶屋、上多賀の両原産地でみられる。笛塚産のものはピッチストーン様で、石器原材としては良くないであろう。伊豆諸島の神津島原産地は砂糠崎、長浜、沢尻湾、恩馳島の各地点から黒曜石が採取され、これら原石から神津島第一群および第二群の原石群にまとめられる。浅間山の大窪沢の黒曜石は貝殻状剥離せず石器の原材料としては不適当ではあるが、考古学者の間でしばしば話題に上るため大窪沢群として遺物と比較した。また、北陸地方では、富山県の魚津、石川県の比那、福井県の三里山、安島の各原産地が調査されていて、比那、魚津産黒曜石が石器原材

として使用されている。山陰地方の原産地は隠岐島の久見、津井、加茂に代表され石器原材としては小さすぎる豆粒大の黒曜石の露頭が福浦地区にある。また、兵庫、鳥取の県境の雨滝地区から発見されている黒曜石は微小で石器原材としては使用できない。九州北部地方では佐賀県の腰岳地域および大分県の姫島地域の観音崎、両瀬の両地区は黒曜石の有名な原産地で、姫島地域ではガラス質安山岩もみられ、これについても分析を行なった。また、長崎県、壱岐島も君ケ浦、久喜ノ辻、角川、貝畑など地点から黒曜石が採取できる。西北九州地域で似た組成を示す黒曜石の原石群は、腰岳、古里第一、松浦第一の各群（腰岳系と仮称する）および淀姫、中町第一、古里第三、松浦第四の各群（淀姫系と仮称する）などである。また、古里第二群原石と肉眼的および成分的に似た原石は嬉野町松尾地区でも採取でき、この原石は姫島産乳灰色黒曜石と同色調をしているが、組成によって姫島産の黒曜石と容易に区別できる。もし似た組成の原石で遺物が作られたとき、この遺物は複数の原産地に帰属され原石産地を特定できない場合がある。たとえ遺物の原石産地がこれら腰岳系、淀姫系の原石群の中の一群および古里第二群のみに帰属されても、この遺物の原石産地は腰岳系、淀姫系および古里第二群の原石を産出する複数の地点を考えなければならない。角礫の黒曜石の原産地は腰岳および淀姫で、円礫は松浦、中町、古里（第二群は角礫）の各産地で産出していることから、似た組成の原石産地の区別は遺物の自然面から円礫か角礫かを判断すれば原石産地の判定に有用な情報となる。また、九州中部地域の塚瀬と小国の原産地は隣接し、黒曜石の生成マグマは同質と推測され両産地は区別できない。また、熊本県の南関、轟、冠ケ岳の各産地原石はローム化した阿蘇の火砕流の層の中に含まれる最大で親指大の黒曜石で、非常に広範囲な地域から採取される原石である。

サヌカイト原石

サヌカイトでは、K／Ca、Ti／Ca、Mn／Sr、Fe／Sr、Rb／Sr、Y／Sr、Zr／Sr、Nb／Srの比量を指標として用いる。サヌカイトの原産地は、西日本に集中してみられ、石材として良質な原石の産地および質は良くないが考古学者の間で使用されたのではないかと話題に上る産地、および玄武岩、ガラス質安山岩など、合わせて32ヶ所の調査を終えている。第152図にサヌカイトの原産地の地点を示す。このうち、金山・五色台地域では、その中の多く地点からは良質のサヌカトおよびガラス質安山岩が多量に産出し、かつそれらは数ヶの群に分かれる。近年、丸亀市の双子山の南嶺から産出するサヌカイト原石で双子山群を確立し、またガラス質安山岩は細石器時代に使用された原材で善通寺市の大麻山南からも産出している。これらの原石を良質の原石を産出する産地および原石産地不明の遺物を元素組成で分類すると90個の原石群に分類でき、その結果を第35表～第37表に示した。香川県内の石器原材の産地では金山・五色台地域のサヌカイト原石を分類すると、金山西群、金山東群、国分寺群、蓮光寺群、白峰群、法印谷群の６個の群、城山群および双子山群に、またガラス質安山岩は金山奥池・五色台地区産は五色台群の単群に、大麻山南産は大麻山南第一、二群の２群にそれぞれ分類され区別が可能なことを明らかにした。金山・五色台地域産のサヌカイト原石の諸群にほとんど一致する元素組成を示すサヌカイト原石が淡路島の岩屋原産地の堆積層から円礫状で採取される。これら岩屋のものを分類すると、全体の約２／３が第38表に示す割合で金山・五色台地域の諸群に一致し、これらが金山・五色台地域から流れ着いたことがわかる。淡路島中部地域の原産地である西路山地区および大崩地区からは、岩屋第一群に一致する原石がそれぞれ92％および88％と群を作らない数個の原石とがみられ、金山・五色台地域の諸群に一致するものはみられなかった。和泉・岸和田原産

地からも全体の約１％であるが金山東群に一致する原石が採取される（第39表）。また和歌山市梅原原産地からは、金山原産地の原石に一致する原石はみられない（第40表）。仮に、遺物が岩屋、和泉・岸和田原産地などの原石で作られている場合には、産地分析の手続きは複雑になる。その遺跡から10個以上の遺物を分析し、第38表、第39表のそれぞれの群に帰属される頻度分布を求め、確率論による期待値と比較して確認しなければならない。二上山群を作った原石は奈良県北葛城郡当麻町に位置する二上山を中心にした広い地域から採取された。この二上山群と組成の類似する原石は和泉・岸和田の原産地から６％の割合で採取されることから、一遺跡10個以上の遺物を分析し、第39表のそれぞれの群に帰属される頻度分布をもとめて、和泉・岸和田原産地の原石が使用されたかどうか判断しなければならない。

結果と考察

遺跡から出土した石器、石片は、風化のためサヌカイト製は表面が白っぽく変色し、新鮮な部分と異なった元素組成になっている可能性が考えられる。このため遺物の測定面の風化した部分に、圧縮空気によってアルミナ粉末を吹きつけ風化層を取り除き新鮮面を出して測定を行った。一方黒曜石製のものは風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。産地分析で水和層の影響は、軽い元素の分析ほど大きいと考えられるが、影響はほとんど見られない。Ca／K、Ti／Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行った場合、また除かずに産地分析を行った場合同定される原産地に差はない。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやや不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。

今回分析した野笹遺跡から出土した黒曜石製石器、下呂石製石器および安山岩・サヌカイト製石器の分析結果を第41表～第50表に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するために数理統計の手法を用いている。一例をあげると試料番号65927番の遺物ではRb／Zrの値は1.129で、霧ヶ峰群の［平均値］±［標準偏差値］は、1.076±0.047である。遺物と原石群の差を標準偏差値（σ）を基準にして考えると遺物は原石群から1.1σ離れている。ところで霧ヶ峰原産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から±1.1σのずれより大きいものが27個ある。すなわち、この遺物が霧ヶ峰群の原石から作られていたと仮定しても、1.1σ以上離れる確率は27％であると言える。だから、霧ヶ峰群の平均値から1.1σしか離れていないときには、この遺物が霧ヶ峰群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を佐賀県腰岳産地の原石に比較すると、腰岳群の平均値からの隔たりは、約6.6σである。これを確率の言葉で表現すると、腰岳群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から6.6σ以上離れている確率は、一千万分の一であると言える。このように、一千万個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、腰岳群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は霧ヶ峰群に27％で帰属され、信頼限界の0.1％を満たしていることから霧ヶ峰産原石が使用されいると同定され、さらに腰岳群に対しては十万分の一％の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1％に満たないことから腰岳産原石でないと同定される」。遺物が一ヶ所の産地（霧ヶ峰産地）と一致したからと言って、例え霧ヶ峰群と腰岳群の原石は成分が異なっていても、分析し

ている試料は原石でなく遺物でさらに分析誤差が大きくなる不定形（非破壊分析）であることから、他の産地に一致しないとは言えない、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地（霧ヶ峰群）に一致したと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表１の170個すべての原石群について行い、低い確率で帰属された原石群を消していくことにより、はじめて霧ヶ峰産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRb／Zrといった唯１ヶの変量だけでなく、前述した８ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならならい。例えばＡ原産地のＡ群で、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、Ａ群の石材で作られた遺物であれば、Ａ群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しずれている場合には、この試料はＡ群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行うホテリングのＴ^{2}検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する[4, 5]。産地の同定結果は１個の遺物に対して、黒曜石製では170個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、これら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる、すなわち、長野県の霧ヶ峰産原石と判定された遺物について、北朝鮮の会寧遺跡で使用された原石と同じ組成の原石とか信州和田峠産の原石の可能性を考える必要がない結果で、下呂石、安山岩質遺物についても同じ方法で統計処理を行っていて、高い確率で同定された産地のみの結果を第51表～第62表に記入した。原石群を作った原石試料は直径３cm以上であるが、多数の試料を処理するために、小さな遺物試料の分析に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。このため、得られた遺物の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには原石群の元素組成のバラツキの範囲を越て大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている0.1％に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石産地（確率）の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離Ｄ^{2}の値を記した。この遺物については、記入されたＤ^{2}の値が原石群の中で最も小さなＤ^{2}値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ていると言えるため、推定確率は低いが、そこの原石産地と考えてほぼ間違いないと判断されたものである。今回分析した59個の黒曜石遺物の中の54個には霧ヶ峰産黒曜石が使用され、産地が特定できなかった４個の中の分析番号65911、65912、65932番の遺物は肉眼観察で風化層が厚く、風化の影響で産地が特定できなかったと推測した。また分析値65957番の黒曜石遺物については、Zrが小さく観測されていることから、遺物試料の厚さが薄すぎるために産地が特定できなかったと推測した。また分析番号65948は珪素以外の元素は分析限界以下で、純粋な石英と思われ、色から推測して煙水晶と推測した。次に分析した下呂石製遺物で比較的風化が軽いと思われる黒色の下呂石製遺物100個を水洗のみの完全非破壊で産地分析を行った結果は、78％が一回の分析で信頼限界0.1％に達し、0.1％に達しなかった遺物でも、遺物の分析場所を変えながら複数回分析すれば0.1％以上を示す確率がみられると思われるために、風化の軽い場合は完全な非破壊分析で同定されることが判明した。しかし、エアーブラシ処理により風化層を除いた場合に比べて同定確率がかなり低くなっているのは、第43表～第49表の比較から、風化によりK／Ca比が大きくなる方向に変位するこ

とが大きく影響しているらしい。風化がかなり進行した表面が白っぽい遺物では、非破壊で同定できたものは20個中４個で20％に落ちる。分析した安山岩製遺物50個を第50表を組成で分類し、似た組成の遺物で群を作った、また、似た組成が少ないもの、および１個だけのものは場所を変えながら複数回分析し、合計30個以上を目標に分析を行った。野笹遺跡の安山岩で野笹No.216他群、野笹No.271他群、野笹No.282他群、野笹No.289他群、野笹No.262群、野笹No.295群、の６個の遺物群を作り第35表～第37表に加え、他の遺跡で同じ組成の原石が使用されている可能性を調べ、これら遺物群の使用圏を求める。今回分析した安山岩製遺物の中の、サヌカイト製遺物では二上山産と同定された遺物は15個で、この二上山群と組成の類似する原石は和泉・岸和田の原産地から６％の割合で採取されることから、多数の遺物を分析し、第39表のそれぞれの群に帰属される頻度分布をもとめて、和泉・岸和田原産地の原石が使用されたかどうか判断しなければならない。二上山群に同定された15個を和泉・岸和田原産地から採取する確率は0.06を15回累乗する（0.0615）＝1×10－18で千兆の十倍分の一％、で零％に近い確率になりこれら二上山産に同定された遺物は和泉・岸和田原産地から採取されたものでないと結論され、奈良県二上山原産地から伝搬した原石を使用したと言える。分析番号66214番は大阪府の向出遺跡で使用されている向出No.49遺物群に同定された。また向出遺跡では、下呂石製の遺物が使用されていることが本研究で明らかになっていて、向出No.49遺物群が野笹遺跡で使用された結果は、東海地方との交易が推測されていた結果と矛盾しない。今後、東海、北陸地方の分析遺跡数を増やすことにより、野笹諸群の使用圏を求めることができる。

参考文献

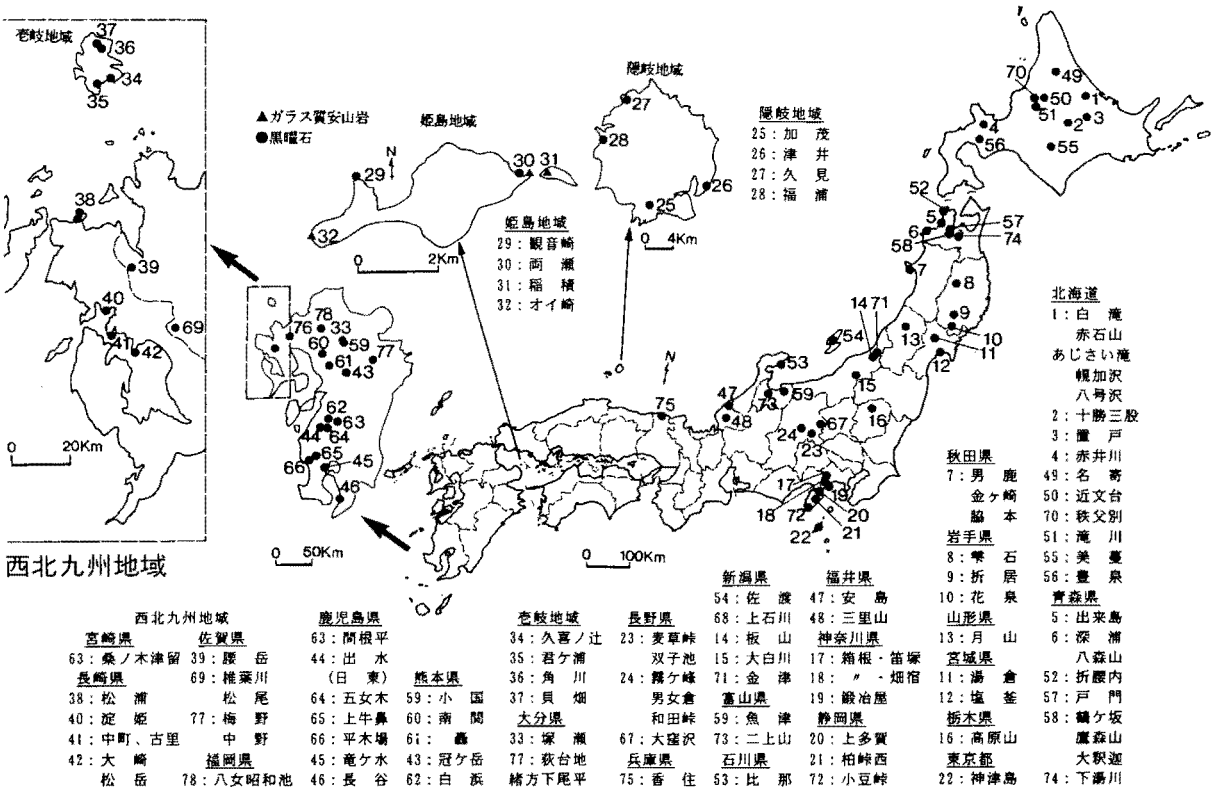
1)　藁科哲男・東村武信(1975)、蛍光Ｘ線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(Ⅱ)、考古学と自然科学、8:61-69

2)　藁科哲男・東村武信・鎌木義昌(1977)、(1978)、蛍光Ｘ線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(Ⅲ)、(Ⅳ)、考古学と自然科学、10、11:53-81:33-47

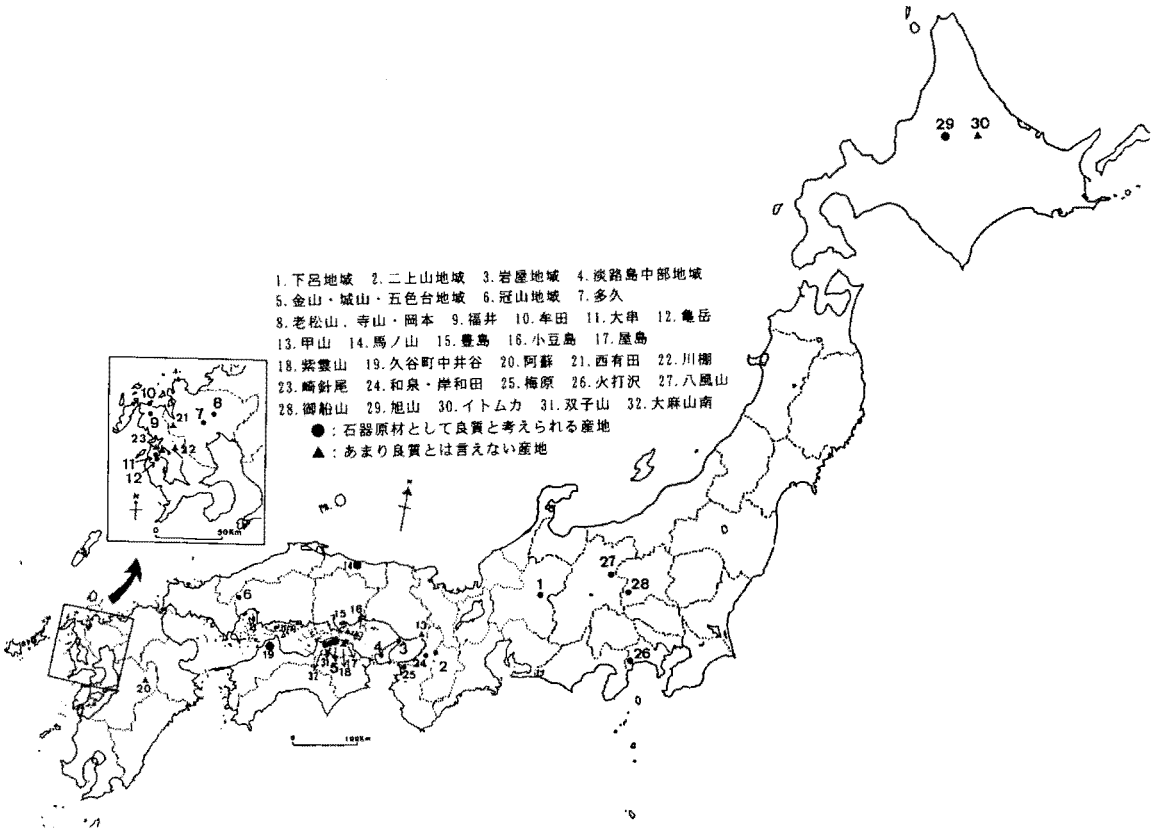
3)　藁科哲男・東村武信(1983)、石器原材の産地分析、考古学と自然科学、16:59-89

4)　東村武信(1976)、産地推定における統計的手法、考古学と自然科学、9:77-90

5)　東村武信(1980)、考古学と物理化学、学生社



第151図　黒曜石原産地



第152図　サヌカイト及びサヌカイト様岩石の原産地

第30表　各黒耀石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(1)

原産地		原石群名	分析個数	Ca／K	Ti／K	Mn／Zr	Fe／Zr	Rb／Zr	Sr／Zr	Y／Zr	Nb／Zr	Al／K	Si／K
				元素比									
北海道		名寄第一	114	0.478±0.011	0.121±0.005	0.035±0.007	2.041±0.063	0.614±0.032	0.574±0.022	0.120±0.017	0.024±0.016	0.033±0.002	0.451±0.010
		〃 第二	35	0.309±0.015	0.103±0.005	0.021±0.006	1.774±0.055	0.696±0.044	0.265±0.011	0.301±0.022	0.026±0.020	0.028±0.007	0.394±0.010
	白滝地区	赤石山	130	0.173±0.014	0.061±0.003	0.079±0.013	2.714±0.148	1.340±0.059	0.283±0.019	0.341±0.030	0.073±0.026	0.028±0.002	0.374±0.010
		八号沢	30	0.138±0.010	0.022±0.002	0.105±0.017	3.123±0.127	1.846±0.065	0.105±0.019	0.475±0.045	0.076±0.046	0.027±0.008	0.359±0.042
		幌加沢	23	0.139±0.009	0.023±0.001	0.099±0.015	2.975±0.102	1.794±0.077	0.104±0.010	0.470±0.037	0.103±0.027	0.027±0.002	0.369±0.007
		あじさい滝	29	0.142±0.010	0.023±0.001	0.101±0.014	3.038±0.125	1.787±0.076	0.115±0.015	0.457±0.035	0.076±0.044	0.027±0.005	0.365±0.011
		近文台第一	30	0.819±0.013	0.165±0.006	0.081±0.010	3.266±0.117	0.604±0.031	0.941±0.030	0.165±0.020	0.039±0.016	0.039±0.002	0.457±0.008
		〃 第二	107	0.517±0.011	0.099±0.005	0.067±0.090	2.773±0.097	0.812±0.037	0.818±0.034	0.197±0.024	0.041±0.019	0.035±0.002	0.442±0.009
		〃 第三	17	0.514±0.012	0.098±0.005	0.066±0.014	2.765±0.125	0.814±0.068	0.815±0.042	0.199±0.039	0.078±0.008	0.034±0.002	0.443±0.011
		秩父別第一	51	0.249±0.013	0.122±0.006	0.078±0.011	1.614±0.068	0.995±0.037	0.458±0.023	0.235±0.024	0.023±0.021	0.022±0.004	0.334±0.013
		〃 第二	25	0.506±0.016	0.098±0.005	0.070±0.011	2.750±0.099	0.805±0.042	0.808±0.032	0.197±0.026	0.027±0.016	0.027±0.003	0.371±0.010
		滝川第一	31	0.253±0.018	0.122±0.006	0.077±0.009	1.613±0.090	1.017±0.045	0.459±0.025	0.233±0.029	0.038±0.018	0.025±0.003	0.370±0.023
		〃 第二	15	0.510±0.015	0.098±0.005	0.068±0.009	2.740±0.072	0.802±0.019	0.812±0.019	0.192±0.026	0.032±0.023	0.030±0.004	0.393±0.031
		置戸	65	0.326±0.008	0.128±0.005	0.045±0.008	1.813±0.062	0.824±0.034	0.454±0.020	0.179±0.023	0.044±0.020	0.030±0.002	0.412±0.010
	十勝	十勝三股	50	0.256±0.018	0.074±0.005	0.068±0.010	2.281±0.087	1.097±0.055	0.434±0.023	0.334±0.029	0.064±0.025	0.029±0.002	0.396±0.013
		美蔓第一	41	0.499±0.020	0.124±0.007	0.052±0.010	2.635±0.181	0.802±0.061	0.707±0.044	0.199±0.029	0.039±0.023	0.033±0.002	0.442±0.015
		〃 第二	28	0.593±0.036	0.144±0.012	0.056±0.010	3.028±0.251	0.762±0.040	0.764±0.051	0.197±0.026	0.038±0.022	0.034±0.002	0.449±0.009
		赤井川第一	50	0.254±0.029	0.070±0.004	0.086±0.010	2.213±0.104	0.969±0.060	0.428±0.021	0.249±0.024	0.058±0.023	0.027±0.002	0.371±0.009
		〃 第二	30	0.258±0.065	0.072±0.002	0.080±0.010	2.207±0.083	0.970±0.045	0.436±0.026	0.245±0.021	0.021±0.029	0.025±0.007	0.371±0.007
		豊泉第一	75	0.473±0.019	0.148±0.007	0.060±0.015	1.764±0.072	0.438±0.027	0.607±0.028	0.157±0.020	0.025±0.017	0.032±0.002	0.469±0.013
		〃 第二	40	0.377±0.009	0.133±0.006	0.055±0.008	1.723±0.066	0.516±0.019	0.513±0.018	0.177±0.016	0.007±0.015	0.030±0.005	0.431±0.010
青森県		折腰内	35	0.190±0.015	0.075±0.003	0.040±0.008	1.575±0.066	1.241±0.046	0.318±0.014	0.141±0.033	0.076±0.021	0.024±0.002	0.348±0.010
		出来島	27	0.346±0.022	0.132±0.007	0.231±0.019	2.268±0.085	0.865±0.044	1.106±0.056	0.399±0.038	0.179±0.031	0.038±0.003	0.499±0.013
	深浦	六角沢	36	0.080±0.008	0.097±0.011	0.013±0.002	0.697±0.021	0.128±0.008	0.002±0.002	0.064±0.007	0.035±0.004	0.026±0.002	0.379±0.010
		八森山	41	0.077±0.005	0.098±0.003	0.013±0.002	0.701±0.018	0.134±0.005	0.002±0.002	0.070±0.005	0.034±0.006	0.027±0.005	0.384±0.009
	青森市	戸門第一	28	0.250±0.024	0.069±0.003	0.068±0.012	2.358±0.257	1.168±0.062	0.521±0.063	0.277±0.065	0.076±0.025	0.026±0.002	0.362±0.015
		〃 第二	28	0.084±0.006	0.104±0.004	0.013±0.002	0.691±0.021	0.123±0.006	0.002±0.002	0.069±0.010	0.033±0.005	0.025±0.002	0.369±0.007
		鶴ケ坂	33	0.344±0.017	0.132±0.007	0.232±0.023	2.261±0.143	0.861±0.052	1.081±0.060	0.390±0.039	0.186±0.037	0.037±0.002	0.496±0.018
		鷹森山	47	0.252±0.017	0.068±0.009	0.079±0.033	2.548±0.131	1.149±0.069	0.568±0.108	0.288±0.037	0.049±0.036	0.028±0.005	0.383±0.018
		下湯川	36	9.673±0.479	2.703±0.149	3.267±0.217	21.648±1.500	0.090±0.021	1.708±0.102	0.155±0.015	0.169±0.031	0.053±0.042	0.858±0.088
		大釈迦	67	0.253±0.016	0.067±0.008	0.077±0.029	2.519±0.148	1.147±0.065	0.558±0.087	0.286±0.035	0.047±0.040	0.028±0.003	0.385±0.018
秋田県	男鹿	金ケ崎	43	0.294±0.009	0.087±0.004	0.220±0.018	1.644±0.081	1.493±0.081	0.930±0.043	0.287±0.039	0.098±0.040	0.029±0.002	0.368±0.008
		脇本	45	0.295±0.008	0.087±0.004	0.219±0.017	1.671±0.077	1.503±0.072	0.930±0.054	0.286±0.045	0.108±0.034	0.028±0.006	0.367±0.009

第31表　各黒耀石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(2)

原産地	原石群名	分析個数	Ca／K	Ti／K	Mn／Zr	Fe／Zr	Rb／Zr	Sr／Zr	Y／Zr	Nb／Zr	Al／K	Si／K
			元素比									
山形県	月山	44	0.285±0.021	0.123±0.007	0.182±0.016	1.906±0.096	0.966±0.069	1.022±0.071	0.276±0.036	0.119±0.033	0.033±0.002	0.443±0.014
	寒河江	48	0.385±0.008	0.116±0.005	0.049±0.017	1.806±0.054	0.580±0.025	0.441±0.023	0.212±0.020	0.056±0.015	0.033±0.003	0.460±0.010
岩手県	雫石	25	0.636±0.033	0.187±0.012	0.052±0.007	1.764±0.061	0.305±0.016	0.431±0.021	0.209±0.016	0.045±0.014	0.041±0.003	0.594±0.014
	折居	22	0.615±0.055	0.180±0.016	0.058±0.007	1.751±0.062	0.306±0.033	0.421±0.051	0.228±0.079	0.045±0.011	0.041±0.005	0.594±0.055
	花泉	30	0.596±0.046	0.177±0.018	0.056±0.008	1.742±0.072	0.314±0.019	0.420±0.025	0.220±0.016	0.044±0.013	0.041±0.003	0.586±0.030
宮城県	湯倉	21	2.174±0.068	0.349±0.017	0.057±0.005	2.544±0.149	0.116±0.009	0.658±0.024	0.138±0.015	0.020±0.013	0.073±0.003	0.956±0.040
	塩釜	37	4.828±0.395	1.630±0.104	0.178±0.017	11.362±1.150	0.168±0.018	1.298±0.063	0.155±0.016	0.037±0.018	0.077±0.002	0.720±0.032
栃木県	高原山	40	0.738±0.067	0.200±0.010	0.044±0.007	2.016±0.110	0.381±0.025	0.502±0.028	0.190±0.017	0.023±0.014	0.036±0.002	0.516±0.012
東京都	神津島第一津	56	0.381±0.014	0.136±0.005	0.102±0.011	1.729±0.079	0.471±0.027	0.689±0.037	0.247±0.021	0.090±0.026	0.036±0.003	0.504±0.012
	〃 第二津	23	0.317±0.016	0.120±0.008	0.114±0.014	1.833±0.069	0.615±0.039	0.656±0.050	0.303±0.034	0.107±0.026	0.033±0.002	0.471±0.009
	長根	40	0.318±0.020	0.120±0.005	0.118±0.014	1.805±0.096	0.614±0.036	0.664±0.045	0.291±0.029	0.093±0.039	0.034±0.006	0.476±0.012
神奈川県	箱根・笛塚	30	6.765±0.254	2.219±0.057	0.228±0.019	9.282±0.622	0.048±0.017	1.757±0.061	0.252±0.017	0.025±0.019	0.140±0.008	1.528±0.046
	〃・畑宿	41	2.056±0.064	0.669±0.019	0.076±0.007	2.912±0.104	0.062±0.007	0.680±0.029	0.202±0.011	0.011±0.010	0.080±0.005	1.126±0.031
	鍛冶屋	31	1.663±0.071	0.381±0.019	0.056±0.007	2.139±0.097	0.073±0.008	0.629±0.025	0.154±0.009	0.011±0.009	0.067±0.005	0.904±0.020
静岡県	上多賀	31	1.329±0.078	0.294±0.018	0.041±0.006	1.697±0.068	0.087±0.009	0.551±0.023	0.138±0.011	0.010±0.009	0.059±0.004	0.856±0.018
	柏峠西	35	1.213±0.164	0.314±0.028	0.031±0.004	1.699±0.167	0.113±0.007	0.391±0.022	0.143±0.007	0.009±0.009	0.047±0.004	0.663±0.020
	小豆峠	40	0.110±0.008	0.052±0.004	0.297±0.038	3.211±0.319	0.829±0.089	0.154±0.030	0.547±0.054	0.087±0.057	0.025±0.014	0.429±0.016
富山県	魚津	12	0.278±0.013	0.065±0.004	0.064±0.008	2.084±0.095	0.906±0.057	0.641±0.046	0.194±0.014	0.102±0.021	0.027±0.002	0.372±0.009
	高岡市 二上山第一	36	0.319±0.017	0.113±0.006	0.040±0.008	1.720±0.080	0.740±0.052	0.665±0.029	0.121±0.026	0.047±0.031	0.015±0.014	0.392±0.018
	〃 第二	40	0.710±0.017	0.202±0.008	0.054±0.011	1.994±0.152	0.413±0.028	0.840±0.050	0.118±0.025	0.051±0.031	0.020±0.020	0.599±0.024
	〃 第三	45	0.441±0.052	0.108±0.014	0.079±0.021	2.251±0.138	0.794±0.155	1.222±0.088	0.127±0.041	0.067±0.053	0.015±0.014	0.412±0.025
長野県	鷲ケ峰	171	0.138±0.009	0.066±0.003	0.104±0.011	1.339±0.057	1.076±0.047	0.360±0.023	0.275±0.030	0.112±0.023	0.026±0.002	0.361±0.013
	和田峠第一	143	0.167±0.028	0.049±0.008	0.117±0.011	1.346±0.085	1.853±0.124	0.112±0.056	0.409±0.048	0.139±0.026	0.025±0.002	0.355±0.016
	〃 第二	17	0.146±0.003	0.032±0.003	0.151±0.010	1.461±0.039	2.449±0.135	0.036±0.012	0.517±0.044	0.186±0.025	0.027±0.002	0.368±0.007
	〃 第三	62	0.248±0.048	0.064±0.012	0.114±0.011	1.520±0.182	1.673±0.140	0.274±0.104	0.374±0.048	0.122±0.024	0.025±0.003	0.348±0.017
	〃 第四	37	0.144±0.017	0.063±0.004	0.094±0.009	1.373±0.085	1.311±0.037	0.206±0.030	0.263±0.038	0.090±0.022	0.023±0.002	0.331±0.019
	〃 第五	47	0.176±0.019	0.075±0.010	0.073±0.011	1.282±0.086	1.053±0.196	0.275±0.058	0.184±0.042	0.066±0.023	0.021±0.002	0.306±0.013
	〃 第六	53	0.156±0.011	0.055±0.005	0.095±0.012	1.333±0.064	1.523±0.093	0.134±0.031	0.279±0.039	0.010±0.017	0.021±0.002	0.313±0.012
	鷹山・和田	53	0.138±0.004	0.042±0.002	0.123±0.010	1.259±0.041	1.978±0.067	0.045±0.010	0.442±0.039	0.142±0.022	0.026±0.002	0.360±0.010
	男女倉	119	0.223±0.026	0.102±0.010	0.059±0.008	1.169±0.081	0.701±0.109	0.409±0.052	0.128±0.024	0.053±0.017	0.026±0.002	0.354±0.008
	麦草峠	68	0.263±0.020	0.138±0.011	0.049±0.008	1.403±0.069	0.532±0.048	0.764±0.031	0.101±0.018	0.056±0.016	0.029±0.002	0.401±0.017
	双子池	83	0.252±0.027	0.129±0.007	0.059±0.010	1.630±0.179	0.669±0.052	0.802±0.058	0.111±0.024	0.037±0.032	0.027±0.007	0.401±0.011
	大窪沢	42	1.481±0.117	0.466±0.021	0.042±0.006	2.005±0.135	0.182±0.011	0.841±0.044	0.105±0.010	0.009±0.008	0.033±0.005	0.459±0.012

第32表　各黒耀石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(3)

原産地	原石群名	分析個数	Ca／K	Ti／K	Mn／Zr	Fe／Zr	Rb／Zr	Sr／Zr	Y／Zr	Nb／Zr	Al／K	Si／K
新潟県	佐渡第一	34	0.228±0.013	0.078±0.006	0.020±0.005	1.492±0.079	0.821±0.047	0.288±0.018	0.142±0.018	0.049±0.017	0.024±0.004	0.338±0.013
	〃 第二	12	0.263±0.032	0.097±0.018	0.020±0.006	1.501±0.053	0.717±0.106	0.326±0.029	0.091±0.022	0.046±0.015	0.026±0.002	0.338±0.009
	上石川	45	0.321±0.007	0.070±0.003	0.069±0.011	2.051±0.070	0.981±0.042	0.773±0.034	0.182±0.023	0.038±0.027	0.026±0.007	0.359±0.009
	板山	44	0.232±0.011	0.068±0.003	0.169±0.017	2.178±0.110	1.772±0.098	0.772±0.046	0.374±0.047	0.154±0.034	0.027±0.002	0.359±0.009
	大白川	22	0.569±0.012	0.142±0.007	0.033±0.005	1.608±0.049	0.261±0.012	0.332±0.011	0.150±0.015	0.033±0.011	0.036±0.003	0.491±0.014
	金津	46	0.331±0.011	0.097±0.037	0.030±0.007	1.711±0.066	0.618±0.027	0.283±0.012	0.181±0.016	0.035±0.018	0.027±0.009	0.402±0.012
	羽根川	55	0.163±0.019	0.053±0.005	0.099±0.011	1.354±0.058	1.615±0.063	0.084±0.012	0.309±0.036	0.100±0.028	0.023±0.007	0.340±0.030
石川県	比那	17	0.370±0.014	0.087±0.004	0.060±0.009	2.699±0.167	0.639±0.028	0.534±0.023	0.172±0.028	0.052±0.018	0.032±0.002	0.396±0.017
福井県	安島	21	0.407±0.007	0.123±0.005	0.038±0.006	1.628±0.051	0.643±0.041	0.675±0.030	0.113±0.020	0.061±0.016	0.032±0.002	0.450±0.010
	三里山	21	0.350±0.018	0.123±0.008	0.036±0.006	1.561±0.081	0.608±0.031	0.798±0.039	0.069±0.020	0.062±0.013	0.028±0.002	0.381±0.008
島根県	加茂	20	0.166±0.006	0.093±0.008	0.014±0.003	0.899±0.031	0.278±0.017	0.009±0.003	0.061±0.015	0.154±0.018	0.020±0.001	0.249±0.016
	津井	30	0.161±0.008	0.132±0.182	0.015±0.003	0.940±0.041	0.301±0.014	0.015±0.005	0.060±0.013	0.144±0.008	0.020±0.002	0.244±0.008
	久見	31	0.145±0.006	0.061±0.003	0.021±0.004	0.980±0.023	0.386±0.011	0.007±0.003	0.109±0.013	0.238±0.011	0.023±0.002	0.315±0.006
福岡県	八女昭和溜池	68	0.261±0.010	0.211±0.007	0.033±0.003	0.798±0.027	0.326±0.013	0.283±0.015	0.071±0.009	0.034±0.008	0.024±0.006	0.279±0.009
佐賀県	中野第一群	39	0.267±0.007	0.087±0.003	0.027±0.005	1.619±0.083	0.628±0.028	0.348±0.015	0.103±0.018	0.075±0.018	0.023±0.007	0.321±0.011
	〃 第二群	40	0.345±0.007	0.104±0.003	0.027±0.005	1.535±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	0.328±0.008
	梅野	39	0.657±0.014	0.202±0.006	0.071±0.013	4.239±0.205	1.046±0.065	1.269±0.058	0.104±0.032	0.380±0.047	0.028±0.005	0.345±0.009
	腰岳	26	0.214±0.015	0.029±0.001	0.076±0.012	2.694±0.110	1.686±0.085	0.441±0.030	0.293±0.039	0.257±0.029	0.027±0.002	0.356±0.008
	椎葉川	59	0.414±0.009	0.071±0.003	0.101±0.017	2.947±0.142	1.253±0.081	2.015±0.099	0.147±0.035	0.255±0.040	0.030±0.007	0.388±0.009
	松尾第一群	40	0.600±0.067	0.153±0.029	0.125±0.018	4.692±0.369	1.170±0.114	2.023±0.122	0.171±0.032	0.255±0.037	0.032±0.003	0.376±0.008
	〃 第二群	40	0.953±0.027	0.307±0.010	0.126±0.013	6.666±0.342	0.856±0.070	1.907±0.119	0.147±0.029	0.194±0.028	0.033±0.008	0.383±0.010
長崎県 壱岐島	久喜ノ辻	37	0.172±0.009	0.066±0.002	0.030±0.005	1.176±0.043	0.385±0.012	0.011±0.004	0.135±0.018	0.354±0.014	0.023±0.002	0.276±0.007
	君ケ瀬	28	0.174±0.007	0.065±0.002	0.033±0.006	1.174±0.035	0.389±0.012	0.013±0.005	0.129±0.014	0.356±0.012	0.023±0.003	0.275±0.008
	角川	28	0.146±0.009	0.038±0.002	0.059±0.009	1.691±0.100	1.726±0.085	0.035±0.008	0.344±0.040	0.717±0.047	0.023±0.002	0.338±0.010
	貝畑	49	0.135±0.010	0.037±0.002	0.056±0.009	1.746±0.073	1.834±0.064	0.022±0.013	0.334±0.046	0.714±0.040	0.021±0.009	0.339±0.015
長崎県	松浦第一	23	0.218±0.010	0.029±0.002	0.085±0.013	2.692±0.125	1.674±0.064	0.439±0.027	0.284±0.047	0.266±0.028	0.027±0.002	0.359±0.012
	〃 第二	17	0.176±0.016	0.030±0.004	0.062±0.022	2.364±0.389	1.607±0.245	0.308±0.074	0.277±0.056	0.210±0.050	0.026±0.002	0.361±0.010
	〃 第三	16	0.245±0.019	0.060±0.006	0.045±0.012	1.975±0.240	0.878±0.099	0.421±0.081	0.130±0.030	0.145±0.023	0.026±0.002	0.358±0.013
	〃 第四	22	0.287±0.019	0.067±0.004	0.044±0.007	1.906±0.106	0.765±0.074	0.484±0.034	0.115±0.023	0.117±0.018	0.028±0.001	0.367±0.007
	淀姫	44	0.334±0.014	0.080±0.004	0.044±0.009	1.744±0.069	0.533±0.030	0.485±0.039	0.094±0.022	0.119±0.017	0.027±0.002	0.353±0.011
	中町第一	25	0.248±0.017	0.058±0.008	0.057±0.007	1.884±0.085	0.832±0.092	0.403±0.026	0.112±0.021	0.152±0.017	0.026±0.002	0.363±0.007
	〃 第二	17	0.327±0.030	0.080±0.017	0.045±0.007	1.832±0.074	0.653±0.088	0.488±0.030	0.090±0.030	0.093±0.023	0.027±0.002	0.358±0.012
	古里第一	40	0.192±0.020	0.027±0.003	0.080±0.016	2.699±0.215	1.780±0.164	0.413±0.065	0.312±0.056	0.259±0.040	0.027±0.002	0.358±0.008
	〃 第二	22	0.414±0.012	0.073±0.006	0.102±0.015	2.898±0.204	1.221±0.094	1.951±0.124	0.133±0.047	0.261±0.034	0.031±0.002	0.383±0.010
	〃 第三	19	0.257±0.035	0.062±0.009	0.054±0.009	1.939±0.131	0.812±0.113	0.436±0.052	0.101±0.029	0.145±0.037	0.028±0.002	0.364±0.011
	松岳	43	0.941±0.009	0.054±0.005	0.040±0.008	1.686±0.114	0.833±0.058	0.251±0.025	0.192±0.032	0.124±0.039	0.018±0.011	0.331±0.017
	大崎	25	0.161±0.011	0.051±0.002	0.037±0.006	1.718±0.056	0.948±0.030	0.179±0.018	0.191±0.026	0.137±0.019	0.024±0.002	0.340±0.006

第33表　各黒耀石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(4)

原産地	原石群名	分析個数	Ca／K	Ti／K	Mn／Zr	Fe／Zr	Rb／Zr	Sr／Zr	Y／Zr	Nb／Zr	Al／K	Si／K
大分県 姫島地域	観音崎	41	0.216±0.017	0.045±0.003	0.428±0.057	6.897±0.806	1.829±0.220	1.572±0.180	0.325±0.088	0.622±0.099	0.035±0.002	0.418±0.011
	両瀬第一	33	0.221±0.021	0.045±0.003	0.450±0.061	7.248±0.668	1.917±0.194	1.660±0.173	0.355±0.057	0.669±0.105	0.035±0.002	0.419±0.009
	＊〃 第二	32	0.634±0.047	0.140±0.013	0.194±0.026	4.399±0.322	0.614±0.077	3.162±0.189	0.144±0.031	0.240±0.041	0.038±0.002	0.451±0.011
	＊〃 第三	10	1.013±0.140	0.211±0.026	0.126±0.016	3.491±0.231	0.305±0.067	4.002±0.174	0.109±0.021	0.137±0.028	0.040±0.004	0.471±0.017
	＊オイ崎	29	1.074±0.110	0.224±0.024	0.122±0.012	3.460±0.301	0.286±0.048	4.010±0.197	0.101±0.022	0.133±0.025	0.040±0.003	0.469±0.014
	＊桶穴	25	0.653±0.066	0.141±0.016	0.189±0.030	4.398±0.425	0.605±0.096	3.234±0.264	0.151±0.033	0.245±0.050	0.037±0.002	0.448±0.015
	塚瀬	30	0.313±0.023	0.127±0.009	0.065±0.010	1.489±0.124	0.600±0.051	0.686±0.082	0.175±0.018	0.102±0.020	0.028±0.002	0.371±0.009
	荻台地	50	1.615±0.042	0.670±0.013	0.096±0.008	5.509±0.269	0.284±0.031	1.526±0.053	0.097±0.016	0.032±0.018	0.032±0.005	0.310±0.011
	緒方下尾平	64	0.482±0.036	0.286±0.015	0.051±0.008	1.361±0.095	0.303±0.019	0.712±0.043	0.089±0.018	0.055±0.021	0.012±0.010	0.288±0.016
熊本県	小国	30	0.317±0.023	0.127±0.005	0.063±0.007	1.441±0.070	0.611±0.032	0.703±0.044	0.175±0.233	0.097±0.017	0.023±0.002	0.320±0.007
	南関	30	0.261±0.016	0.214±0.007	0.034±0.003	0.788±0.033	0.326±0.012	0.278±0.015	0.069±0.012	0.031±0.009	0.021±0.002	0.243±0.008
	轟	44	0.258±0.009	0.214±0.006	0.033±0.005	0.794±0.078	0.329±0.017	0.275±0.010	0.066±0.011	0.033±0.009	0.020±0.003	0.243±0.008
	冠ケ岳	21	0.261±0.012	0.211±0.008	0.032±0.003	0.780±0.038	0.324±0.011	0.279±0.017	0.064±0.011	0.037±0.006	0.025±0.002	0.277±0.009
	一ノ宮滝室	32	1.381±0.013	0.641±0.009	0.100±0.006	6.845±0.178	0.316±0.022	1.319±0.039	0.099±0.013	0.038±0.014	0.021±0.008	0.227±0.006
	一ノ宮坂梨	63	1.597±0.098	0.732±0.046	0.097±0.008	6.690±0.314	0.282±0.022	1.316±0.051	0.102±0.013	0.037±0.015	0.024±0.011	0.257±0.021
	箱石峠	84	0.791±0.082	0.279±0.009	0.045±0.005	1.208±0.023	0.279±0.018	0.811±0.046	0.046±0.012	0.029±0.014	0.031±0.009	0.366±0.033
	大柿	53	1.542±0.125	0.670±0.033	0.089±0.010	4.894±0.474	0.279±0.028	1.432±0.089	0.094±0.013	0.027±0.016	0.031±0.008	0.312±0.011
	白浜	78	0.208±0.021	0.101±0.009	0.024±0.006	1.382±0.086	1.021±0.099	0.351±0.037	0.162±0.027	0.027±0.022	0.022±0.007	0.317±0.009
宮崎県	桑ノ木津留											
	〃 第一群	47	0.207±0.015	0.094±0.006	0.070±0.009	1.521±0.075	1.080±0.048	0.418±0.020	0.266±0.034	0.063±0.024	0.020±0.003	0.314±0.011
	〃 第二群	33	0.261±0.015	0.094±0.006	0.066±0.010	1.743±0.095	1.242±0.060	0.753±0.039	0.205±0.029	0.047±0.036	0.022±0.002	0.323±0.019
	霧島	36	35.158±1.118	5.001±0.175	0.041±0.002	0.038±0.002	0.009±0.004	0.155±0.005	0.035±0.019	0.000±0.000	0.035±0.019	0.446±0.022
鹿児島県	間根ケ平											
	〃 第一群	45	0.186±0.010	0.083±0.005	0.047±0.008	1.611±0.079	0.948±0.055	0.340±0.032	0.281±0.031	0.041±0.032	0.022±0.008	0.358±0.014
	〃 第二群	45	0.247±0.018	0.106±0.006	0.047±0.008	1.488±0.074	0.768±0.034	0.428±0.049	0.235±0.020	0.039±0.027	0.024±0.008	0.378±0.013
	〃 第三群	42	0.584±0.012	0.176±0.005	0.037±0.007	1.484±0.097	0.449±0.031	0.675±0.049	0.143±0.023	0.036±0.022	0.023±0.014	0.390±0.019
	日東	42	0.262±0.018	0.143±0.006	0.022±0.004	1.178±0.040	0.712±0.028	0.408±0.025	0.100±0.018	0.029±0.013	0.019±0.001	0.275±0.006
	五女木	37	0.266±0.021	0.140±0.006	0.019±0.003	1.170±0.064	0.705±0.027	0.405±0.021	0.108±0.015	0.028±0.013	0.019±0.001	0.275±0.006
	上牛鼻	41	1.629±0.098	0.804±0.037	0.053±0.006	3.342±0.215	0.188±0.013	1.105±0.056	0.087±0.009	0.022±0.009	0.036±0.002	0.391±0.011
	平木場	34	1.944±0.054	0.912±0.028	0.062±0.005	3.975±0.182	0.184±0.011	1.266±0.049	0.093±0.010	0.021±0.010	0.038±0.003	0.408±0.010
	竜ケ水	28	0.514±0.032	0.167±0.008	0.063±0.009	1.524±0.079	0.619±0.038	0.719±0.054	0.115±0.019	0.082±0.016	0.037±0.003	0.523±0.009
	長谷	30	0.553±0.032	0.137±0.006	0.065±0.010	1.815±0.062	0.644±0.028	0.553±0.029	0.146±0.021	0.066±0.020	0.037±0.003	0.524±0.012
台湾	台東山脈	37	0.510±0.010	0.198±0.007	0.038±0.007	1.862±0.079	0.353±0.019	0.519±0.017	0.123±0.012	0.024±0.017	0.029±0.007	0.407±0.010
ロシア	カムチャッカ	72	0.473±0.012	0.166±0.007	0.046±0.007	1.572±0.059	0.199±0.011	0.497±0.016	0.126±0.011	0.009±0.014	0.039±0.010	0.460±0.030

第34表　各黒耀石の原産地における黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値(5)

原産地	原石群名	分析個数	Ca／K	Ti／K	Mn／Zr	Fe／Zr	Rb／Zr	Sr／Zr	Y／Zr	Nb／Zr	Al／K	Si／K
北海道	HS1遺物群	67	0.241±0.021	0.107±0.005	0.018±0.006	1.296±0.077	0.430±0.016	0.153±0.009	0.140±0.015	0.008±0.013	0.018±0.012	0.325±0.042
	HS2遺物群	60	0.453±0.011	0.135±0.008	0.041±0.008	1.765±0.075	0.448±0.021	0.419±0.019	0.130±0.015	0.015±0.019	0.034±0.010	0.500±0.015
	FR1遺物群	51	0.643±0.012	0.124±0.008	0.052±0.007	2.547±0.143	0.530±0.032	0.689±0.032	0.156±0.015	0.004±0.008	0.029±0.011	0.407±0.047
	FR2遺物群	59	0.535±0.061	0.106±0.012	0.053±0.009	2.545±0.138	0.557±0.051	0.685±0.029	0.165±0.021	0.016±0.022	0.027±0.009	0.373±0.043
	FR3遺物群	37	0.380±0.037	0.084±0.007	0.052±0.009	2.548±0.145	0.586±0.056	0.681±0.033	0.164±0.021	0.017±0.023	0.023±0.006	0.292±0.037
	FR4遺物群	44	0.261±0.043	0.074±0.010	0.051±0.008	2.500±0.117	0.639±0.057	0.679±0.032	0.155±0.021	0.009±0.017	0.018±0.008	0.258±0.036
	FH1遺物群	32	0.898±0.032	0.221±0.007	0.054±0.006	2.540±0.101	0.426±0.018	0.802±0.023	0.109±0.013	0.017±0.021	0.037±0.003	0.447±0.011
	KT1遺物群	56	1.103±0.050	0.146±0.007	0.081±0.008	2.942±0.133	0.314±0.053	0.775±0.082	0.133±0.016	0.019±0.021	0.043±0.007	0.516±0.015
	KT2遺物群	38	0.959±0.027	0.154±0.005	0.085±0.010	2.882±0.092	0.542±0.028	1.111±0.040	0.107±0.015	0.012±0.016	0.042±0.008	0.519±0.010
	KS1遺物群	32	0.275±0.007	0.107±0.005	0.047±0.010	1.751±0.051	0.836±0.038	0.468±0.021	0.180±0.019	0.023±0.028	0.025±0.007	0.345±0.010
	KS2遺物群	62	0.244±0.011	0.070±0.004	0.056±0.013	1.749±0.168	1.080±0.108	0.424±0.036	0.327±0.042	0.037±0.031	0.023±0.011	0.379±0.011
秋田県	KN遺物群	107	0.351±0.011	0.121±0.006	0.053±0.007	1.581±0.071	0.347±0.020	0.219±0.014	0.216±0.015	0.054±0.017	0.029±0.011	0.475±0.040
	TB遺物群	60	0.252±0.014	0.113±0.007	0.124±0.015	1.805±0.088	0.875±0.056	0.663±0.038	0.272±0.029	0.083±0.037	0.026±0.008	0.378±0.021
岩手県	AI1遺物群	41	1.519±0.026	0.277±0.010	0.078±0.006	2.849±0.073	0.167±0.010	0.526±0.017	0.251±0.013	0.009±0.012	0.058±0.017	0.929±0.024
	AI2遺物群	61	3.141±0.074	0.552±0.021	0.080±0.008	2.752±0.062	0.094±0.009	0.716±0.019	0.242±0.011	0.008±0.014	0.083±0.029	1.353±0.049
	AI3遺物群	61	0.950±0.013	0.215±0.004	0.117±0.009	4.306±0.100	0.114±0.008	0.909±0.028	0.248±0.012	0.014±0.016	0.028±0.006	0.360±0.009
	AI4遺物群	122	1.850±0.059	0.474±0.025	0.067±0.007	2.055±0.077	0.083±0.006	0.531±0.030	0.177±0.010	0.011±0.013	0.064±0.025	1.061±0.105
	AI5遺物群	122	3.167±0.092	0.696±0.027	0.101±0.009	3.787±0.108	0.114±0.010	0.892±0.026	0.241±0.012	0.006±0.012	0.091±0.020	1.234±0.052
	FS遺物群	45	2.727±0.090	0.097±0.029	0.053±0.007	1.791±0.083	0.327±0.019	0.453±0.024	0.207±0.018	0.029±0.027	0.017±0.011	0.339±0.011
	SD遺物群	48	2.900±0.050	0.0741 0.016	0.118±0.010	3.922±0.077	0.117±0.012	0.906±0.026	0.246±0.013	0.008±0.017	0.083±0.013	1.195±0.029
長野県	NK遺物群	57	0.566±0.019	0.163±0.007	0.086±0.011	1.822±0.084	0.467±0.031	1.691±0.064	0.102±0.021	0.041±0.028	0.038±0.003	0.500±0.014
青森県	HY遺物群	31	0.238±0.011	0.131±0.006	0.048±0.008	1.636±0.066	0.418±0.028	1.441±0.015	0.482±0.024	0.029±0.028	0.020±0.015	0.481±0.068
	SN1遺物群	33	0.287±0.006	0.087±0.004	0.033±0.005	1.597±0.037	0.244±0.011	0.258±0.011	0.281±0.012	0.009±0.012	0.021±0.006	0.329±0.006
	SN2遺物群	29	0.209±0.006	0.116±0.006	0.076±0.008	1.571±0.082	0.716±0.035	0.292±0.017	0.264±0.029	0.028±0.030	0.023±0.009	0.383±0.015
鹿児島県	K1遺物群	40	0.363±0.010	0.098±0.004	0.056±0.011	1.937±0.060	1.028±0.041	0.538±0.026	0.189±0.025	0.032±0.032	0.029±0.010	0.451±0.010
	UT遺物群	46	0.297±0.013	0.107±0.005	0.053±0.010	1.638±0.104	1.012±0.056	0.736±0.039	0.168±0.027	0.034±0.028	0.024±0.011	0.390±0.014
	SG遺物群	48	1.668±0.034	0.778±0.038	0.082±0.010	4.106±0.222	0.202±0.014	0.699±0.025	0.133±0.013	0.015±0.019	0.027±0.021	0.553±0.033
	OK遺物群	32	1.371±0.074	0.687±0.025	0.061±0.008	3.109±0.161	0.202±0.012	0.579±0.027	0.122±0.014	0.009±0.014	0.027±0.018	0.518±0.021
北朝鮮	会寧城外遺跡遺物群	70	0.135±0.012	0.062±0.006	0.017±0.003	1.118±0.051	0.585±0.036	0.068±0.019	0.150±0.022	0.372±0.035	0.025±0.004	0.319±0.012
ロシア	イリスタヤ遺跡遺物群	26	18.888±2.100	6.088±0.868	0.293±0.032	27.963±2.608	0.055±0.017	2.716±0.162	0.163±0.019	0.036±0.030	0.173±0.029	1.674±0.240
標準試料	JG－1*	127	0.755±0.010	0.202±0.005	0.076±0.011	3.759±0.111	0.993±0.036	1.331±0.046	0.251±0.027	0.105±0.017	0.028±0.002	0.342±0.004

平均値±標準偏差値、　*：ガラス質安山岩　　NK遺物群：中ッ原遺跡、HY遺物群：日和山遺跡、SN遺物群：三内丸山遺跡出土、KN遺物群：此掛沢遺跡、HS遺物群：北進遺跡、
KI遺物群：桐木遺跡、UT遺物群：内屋敷遺跡、AI遺物群：相ノ沢遺跡、FS遺物群：房ノ沢遺跡、SD遺物群：下舘銅屋遺跡、
FR遺物群：東醍郷1，2遺跡、FH遺物群：東9線8遺跡、KT遺物群：北区1遺跡、KS遺物群：キウス4遺跡A地区
SG遺物群：志風頭遺跡、OK遺物群：奥名野遺跡、TB遺物群：戸平川遺跡出土などの産地不明の原石群

a)：Ando,A., Kurasawa,H., Ohmori,T. & Takeda,E.(1974). 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal Vol.8, 175-192.

第35表　各サヌカイトの原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(1)

原産地	原石群名	分析個数	K／Ca	Ti／Ca	Mn／Sr	Fe／Sr	Rb／Sr	Y／Sr	Zr／Sr	Nb／Sr	Al／Ca	Si／Ca
北海道	イトムカ	46	0.359±0.020	0.430±0.014	0.081±0.006	5.884±0.223	0.166±0.011	0.120±0.013	0.883±0.030	0.015±0.013	0.013±0.001	0.137±0.007
	旭山	80	0.351±0.011	0.288±0.010	0.089±0.005	5.064±0.140	0.174±0.011	0.096±0.009	0.903±0.029	0.015±0.012	0.015±0.001	0.141±0.005
群馬県	荒船山	43	0.194±0.070	0.360±0.028	0.129±0.014	9.205±1.153	0.080±0.034	0.085±0.014	0.458±0.082	0.009±0.010	0.013±0.021	0.123±0.032
長野県	八風山	46	0.274±0.028	0.324±0.010	0.090±0.008	4.905±0.505	0.104±0.009	0.100±0.009	0.581±0.033	0.012±0.009	0.018±0.002	0.168±0.014
神奈川県	火打沢	40	0.092±0.005	0.285±0.009	0.166±0.009	12.406±0.332	0.023±0.006	0.111±0.008	0.483±0.023	0.005±0.007	0.012±0.001	0.012±0.001
岐阜県	下呂	93	1.576±0.055	0.227±0.011	0.038±0.004	0.766±0.025	0.277±0.020	0.031±0.013	0.504±0.024	0.035±0.009	0.052±0.003	0.660±0.025
奈良県	二上山	51	0.288±0.010	0.215±0.006	0.071±0.006	4.629±0.270	0.202±0.012	0.066±0.009	0.620±0.022	0.024±0.010	0.019±0.001	0.144±0.005
大阪府	和泉	26	0.494±0.023	0.325±0.025	0.056±0.004	4.060±0.148	0.296±0.021	0.065±0.010	0.706±0.025	0.038±0.010	0.023±0.001	0.194±0.009
兵庫県	岩屋第一	28	0.616±0.021	0.254±0.012	0.057±0.005	3.610±0.189	0.365±0.019	0.056±0.012	0.846±0.026	0.027±0.017	0.018±0.001	0.186±0.007
	〃 第二	24	0.535±0.020	0.263±0.005	0.053±0.005	3.438±0.103	0.340±0.015	0.042±0.012	1.069±0.030	0.026±0.014	0.017±0.001	0.173±0.008
	甲山	22	0.300±0.017	0.154±0.005	0.056±0.007	3.350±0.261	0.130±0.012	0.061±0.033	0.574±0.021	0.012±0.007	0.018±0.001	0.159±0.008
香川県	五色台 国分寺	28	0.457±0.011	0.251±0.007	0.053±0.005	3.574±0.122	0.311±0.019	0.043±0.016	0.970±0.033	0.038±0.015	0.015±0.001	0.149±0.005
	五色台 蓮光寺	18	0.459±0.012	0.249±0.008	0.053±0.005	3.518±0.129	0.308±0.019	0.043±0.015	0.972±0.037	0.034±0.009	0.016±0.001	0.150±0.004
	五色台 白峰	51	0.534±0.015	0.262±0.005	0.053±0.005	3.376±0.108	0.340±0.014	0.040±0.016	1.071±0.051	0.032±0.011	0.017±0.001	0.173±0.007
	五色台 法印谷	25	0.397±0.009	0.239±0.004	0.069±0.005	4.619±0.127	0.277±0.012	0.059±0.011	1.145±0.029	0.031±0.013	0.015±0.001	0.130±0.004
	金山 金山東	24	0.488±0.012	0.222±0.004	0.079±0.005	4.617±0.126	0.316±0.017	0.057±0.011	1.186±0.033	0.020±0.015	0.017±0.001	0.155±0.005
	金山 〃 西	19	0.406±0.009	0.216±0.005	0.082±0.005	4.808±0.125	0.292±0.017	0.064±0.011	1.059±0.025	0.020±0.011	0.015±0.001	0.133±0.006
	城山	63	0.402±0.011	0.216±0.006	0.079±0.006	4.741±0.138	0.289±0.014	0.068±0.016	1.065±0.026	0.021±0.014	0.013±0.001	0.116±0.003
	双子山	54	0.350±0.007	0.233±0.005	0.074±0.006	4.898±0.169	0.261±0.012	0.061±0.014	1.093±0.035	0.023±0.016	0.011±0.002	0.105±0.004
	*五色台	63	0.869±0.048	0.120±0.006	0.023±0.005	2.294±0.114	0.484±0.026	0.006±0.011	0.705±0.044	0.043±0.011	0.039±0.003	0.459±0.028
	*大麻山南第一	39	0.705±0.069	0.146±0.008	0.040±0.008	2.837±0.189	0.473±0.050	0.023±0.015	0.941±0.052	0.028±0.021	0.020±0.002	0.251±0.024
	*〃 第二	34	1.006±0.032	0.119±0.005	0.032±0.007	2.396±0.099	0.693±0.027	0.014±0.026	0.768±0.027	0.031±0.023	0.027±0.002	0.350±0.012
愛媛県	中井谷	40	0.458±0.041	0.374±0.007	0.073±0.009	5.160±0.157	0.393±0.022	0.108±0.017	1.473±0.051	0.037±0.021	0.020±0.008	0.219±0.009
鳥取県	馬ノ山	23	0.188±0.007	0.178±0.006	0.011±0.001	0.916±0.033	0.032±0.002	0.001±0.002	0.177±0.009	0.004±0.002	0.015±0.001	0.111±0.005
広島県	冠山 冠高原	60	0.651±0.021	0.485±0.014	0.046±0.004	3.322±0.104	0.174±0.009	0.029±0.009	0.462±0.017	0.185±0.010	0.025±0.002	0.241±0.008
	冠山 半蔵	45	0.277±0.010	0.345±0.008	0.019±0.002	1.604±0.057	0.039±0.015	0.008±0.006	0.368±0.012	0.026±0.006	0.019±0.001	0.171±0.006
	冠山 冠山東	29	0.323±0.019	0.363±0.031	0.019±0.001	1.607±0.060	0.059±0.009	0.003±0.005	0.399±0.043	0.025±0.009	0.021±0.001	0.171±0.006
	冠山 飯山	25	1.116±0.061	0.472±0.022	0.037±0.005	2.228±0.080	0.245±0.011	0.023±0.009	0.524±0.014	0.246±0.013	0.038±0.003	0.391±0.021

第36表　各サヌカイトの原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(2)

原産地	原石群名	分析個数	K／Ca	Ti／Ca	Mn／Sr	Fe／Sr	Rb／Sr	Y／Sr	Zr／Sr	Nb／Sr	Al／Ca	Si／Ca
			元素比									
福岡県	八女市 昭和池第一	50	1.825±0.041	0.644±0.024	0.053±0.007	2.125±0.063	0.453±0.019	0.107±0.017	1.477±0.049	0.044±0.022	0.050±0.003	0.500±0.012
	〃 第二	50	1.592±0.066	0.609±0.020	0.061±0.005	3.075±0.123	0.534±0.039	0.111±0.020	1.671±0.134	0.049±0.012	0.042±0.003	0.419±0.014
	〃 第三	50	3.144±0.069	0.724±0.036	0.073±0.009	2.919±0.099	0.925±0.048	0.181±0.026	2.820±0.114	0.072±0.020	0.074±0.026	0.817±0.040
	〃 第四	50	1.922±0.108	0.681±0.050	0.064±0.005	3.023±0.103	0.607±0.033	0.122±0.017	1.887±0.098	0.050±0.015	0.050±0.004	0.499±0.018
佐賀県	多久第一	53	0.831±0.047	0.404±0.013	0.056±0.007	4.718±0.225	0.510±0.037	0.062±0.019	0.850±0.033	0.222±0.018	0.016±0.003	0.201±0.011
	〃 第二	23	0.834±0.055	0.396±0.016	0.065±0.010	5.342±0.317	0.566±0.047	0.081±0.028	0.866±0.046	0.242±0.023	0.016±0.005	0.202±0.014
	〃 第三	8	1.097±0.232	0.350±0.028	0.065±0.014	4.498±0.903	0.701±0.084	0.084±0.025	0.828±0.052	0.239±0.019	0.021±0.003	0.263±0.046
	梅野	42	1.287±0.051	0.340±0.013	0.058±0.010	3.643±0.225	0.784±0.030	0.081±0.022	0.824±0.033	0.265±0.032	0.038±0.009	0.458±0.050
	老松山	62	0.705±0.034	0.314±0.011	0.067±0.009	5.323±0.244	0.543±0.036	0.075±0.021	0.691±0.034	0.208±0.023	0.014±0.002	0.174±0.007
	寺山・岡本	30	0.629±0.043	0.310±0.010	0.070±0.008	5.600±0.323	0.489±0.029	0.066±0.017	0.644±0.032	0.192±0.018	0.013±0.001	0.157±0.010
	西有田	17	0.453±0.019	0.331±0.005	0.098±0.010	7.489±0.249	0.307±0.024	0.081±0.015	0.568±0.023	0.106±0.010	0.023±0.002	0.237±0.016
	松尾転釜	47	0.717±0.036	0.410±0.012	0.081±0.006	5.312±0.241	0.383±0.024	0.094±0.013	0.810±0.039	0.095±0.023	0.028±0.027	0.291±0.014
	松尾第二	40	0.970±0.032	0.330±0.009	0.066±0.007	3.683±0.122	0.431±0.021	0.077±0.016	0.554±0.023	0.110±0.021	0.034±0.003	0.377±0.012
	椎葉崖第一	42	0.822±0.027	0.369±0.010	0.065±0.007	3.888±0.236	0.392±0.021	0.076±0.018	0.540±0.049	0.089±0.020	0.027±0.009	0.330±0.013
	〃 第二	41	0.675±0.016	0.390±0.010	0.073±0.007	4.666±0.218	0.346±0.021	0.078±0.012	0.582±0.065	0.087±0.013	0.024±0.007	0.280±0.011
	〃 第三	12	0.538±0.011	0.401±0.007	0.076±0.010	5.271±0.189	0.296±0.019	0.075±0.015	0.587±0.024	0.075±0.009	0.022±0.002	0.227±0.009
	〃 第四	37	0.744±0.014	0.409±0.010	0.080±0.010	5.176±0.202	0.399±0.020	0.092±0.015	0.807±0.027	0.096±0.023	0.029±0.003	0.302±0.010
長崎県	大串	28	1.111±0.118	0.140±0.009	0.055±0.020	1.650±0.236	0.236±0.043	0.041±0.027	0.486±0.038	0.082±0.022	0.050±0.006	0.607±0.059
	亀岳	19	1.072±0.042	0.144±0.008	0.041±0.006	1.776±0.152	0.233±0.014	0.015±0.013	0.497±0.018	0.065±0.015	0.049±0.003	0.587±0.018
	牟田第一	30	0.784±0.092	0.345±0.026	0.069±0.008	4.561±0.236	0.875±0.132	0.220±0.028	0.727±0.053	0.299±0.039	0.015±0.003	0.188±0.021
	〃 第二	13	0.594±0.048	0.328±0.013	0.088±0.010	7.759±0.411	1.114±0.104	0.348±0.031	0.989±0.071	0.496±0.041	0.012±0.001	0.144±0.010
	川棚第一	59	0.498±0.030	0.302±0.011	0.067±0.005	4.225±0.181	0.220±0.018	0.076±0.010	0.814±0.048	0.035±0.012	0.012±0.002	0.133±0.008
	〃 第二	9	0.406±0.048	0.265±0.027	0.071±0.004	48543±0.374	0.203±0.029	0.081±0.012	0.714±0.048	0.034±0.017	0.011±0.001	0.109±0.011
	福井第一	15	0.630±0.012	0.329±0.005	0.090±0.011	7.531±0.315	1.211±0.040	0.365±0.035	1.028±0.047	0.534±0.033	0.013±0.001	0.154±0.003
	〃 第二	25	0.512±0.014	0.317±0.008	0.084±0.011	7.157±0.312	0.941±0.037	0.301±0.027	0.874±0.043	0.431±0.033	0.011±0.002	0.126±0.004
	崎針尾第一	68	0.382±0.026	0.252±0.023	0.052±0.006	4.106±0.227	0.160±0.018	0.057±0.009	0.434±0.039	0.056±0.011	0.010±0.001	0.107±0.007
	〃 第二	14	0.599±0.115	0.373±0.045	0.073±0.014	5.167±0.749	0.320±0.058	0.077±0.016	0.650±0.084	0.086±0.027	0.015±0.002	0.163±0.031
	駒崎鼻	42	0.642±0.071	0.310±0.010	0.070±0.008	5.529±0.354	0.498±0.051	0.081±0.015	0.656±0.039	0.200±0.028	0.022±0.006	0.246±0.023
熊本県	阿蘇第一	15	2.006±0.258	0.646±0.052	0.064±0.011	2.085±0.320	0.481±0.068	0.106±0.028	1.647±0.197	0.063±0.012	0.057±0.010	0.597±0.099
	〃 第二	14	0.993±0.198	0.514±0.070	0.061±0.008	3.087±0.441	0.299±0.066	0.064±0.013	1.043±0.182	0.038±0.013	0.032±0.005	0.293±0.041
	菊池	42	0.678±0.057	0.458±0.020	0.062±0.005	3.457±0.206	0.194±0.018	0.072±0.009	0.728±0.054	0.025±0.010	0.019±0.002	0.185±0.015
	JG－1 *)	56	1.327±0.021	0.266±0.006	0.058±0.006	2.817±0.074	0.756±0.015	0.183±0.024	0.762±0.033	0.078±0.014	0.036±0.003	0.448±0.011

平均値±標準偏差値、＊：ガラス質安山岩　a)：Ando.A., Kurasawa.H., Ohmori,T. & Takeda.E.(1974). 1974 compilation of data on the GSJ geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal Vol.8 175-192.

第37表　原石産地不明の組成の似た遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地	原石群名	分析個数	K／Ca	Ti／Ca	Mn／Sr	Fe／Sr	Rb／Sr	Y／Sr	Zr／Sr	Nb／Sr	Al／Ca	Si／Ca
			元素比									
北海道	頭無川遺物群	35	0.352±0.029	0.291±0.021	0.094±0.012	5.376±0.721	0.170±0.015	0.103±0.016	0.874±0.101	0.018±0.011	0.017±0.021	0.156±0.090
石川県	酒見遺物群	39	0.476±0.016	0.596±0.012	0.097±0.053	5.229±0.168	0.160±0.010	0.110±0.015	1.282±0.033	0.031±0.008	0.025±0.017	0.228±0.075
岐阜県	野笹No.261他群	56	0.632±0.032	0.393±0.013	0.045±0.005	2.234±0.070	0.170±0.009	0.046±0.012	1.030±0.041	0.029±0.006	0.022±0.002	0.213±0.010
	野笹No.271他群	35	0.407±0.010	0.304±0.005	0.040±0.005	1.882±0.041	0.089±0.005	0.033±0.005	0.671±0.030	0.023±0.005	0.018±0.002	0.177±0.006
	野笹No.282他群	33	0.799±0.009	0.512±0.010	0.050±0.005	2.540±0.096	0.221±0.014	0.077±0.011	1.213±0.039	0.034±0.007	0.026±0.002	0.240±0.009
	野笹No.289他群	32	3.515±0.134	1.068±0.047	0.149±0.023	6.620±0.453	0.617±0.041	0.210±0.032	1.330±0.067	0.158±0.027	0.167±0.015	2.525±0.081
	野笹No.262群	40	0.384±0.004	0.318±0.006	0.057±0.005	2.356±0.068	0.102±0.007	0.051±0.007	0.651±0.022	0.022±0.005	0.017±0.002	0.161±0.004
	野笹No.295群	32	3.584±0.178	1.077±0.058	0.075±0.016	3.775±0.153	0.441±0.024	0.197±0.019	1.118±0.053	0.150±0.028	0.183±0.019	2.989±0.159
愛知県	朝日No.7群	35	0.334±0.004	0.362±0.005	0.067±0.009	3.895±0.150	0.082±0.005	0.044±0.007	0.758±0.044	0.027±0.009	0.017±0.002	0.147±0.010
	朝日No.15群	35	1.016±0.022	0.582±0.012	0.043±0.005	4.187±0.141	0.477±0.019	0.089±0.020	1.722±0.058	0.058±0.026	0.032±0.009	0.557±0.021
大阪府	向出No.6群	30	0.236±0.003	0.189±0.003	0.075±0.005	4.966±0.089	0.194±0.010	0.063±0.011	0.588±0.019	0.010±0.011	0.015±0.001	0.127±0.002
	向出No.49群	30	0.310±0.003	0.203±0.003	0.052±0.004	3.734±0.074	0.228±0.016	0.059±0.010	0.610±0.021	0.011±0.012	0.017±0.001	0.147±0.002
	中社No.62群	30	0.333±0.003	0.229±0.003	0.066±0.004	4.363±0.080	0.212±0.014	0.066±0.011	0.618±0.019	0.010±0.011	0.017±0.001	0.142±0.002
	中社No.82群	30	0.340±0.003	0.226±0.003	0.065±0.005	4.305±0.085	0.208±0.010	0.069±0.009	0.628±0.015	0.010±0.010	0.016±0.001	0.136±0.002
	中社No.86群	30	2.638±0.057	0.949±0.026	0.025±0.008	4.536±0.105	0.624±0.019	0.139±0.027	1.425±0.050	0.059±0.019	0.097±0.033	1.903±0.055
	中社No.89群	30	0.600±0.005	0.287±0.004	0.046±0.004	3.077±0.060	0.363±0.014	0.048±0.012	1.088±0.022	0.022±0.016	0.028±0.002	0.256±0.004
	中社No.104群	30	0.133±0.002	0.117±0.002	0.095±0.006	6.365±0.098	0.112±0.007	0.044±0.010	0.328±0.020	0.009±0.009	0.011±0.001	0.102±0.002
	鬼虎No.16群	33	0.361±0.004	0.253±0.004	0.053±0.007	3.105±0.070	0.238±0.106	0.063±0.014	0.684±0.025	0.027±0.008	0.018±0.001	0.170±0.004
	鬼虎No.17群	33	0.372±0.004	0.250±0.004	0.049±0.007	2.987±0.060	0.241±0.010	0.056±0.009	0.675±0.024	0.023±0.008	0.018±0.001	0.176±0.005
島根県	平田遺物群	70	0.211±0.006	0.296±0.007	0.092±0.014	7.108±0.245	0.098±0.011	0.071±0.012	0.552±0.038	0.021±0.008	0.013±0.001	0.118±0.005
香川県	六ツ目遺物群	30	0.307±0.004	0.258±0.005	0.067±0.005	4.736±0.096	0.235±0.010	0.058±0.014	0.840±0.023	0.030±0.013	0.016±0.005	0.133±0.004
	庵の谷遺物群	60	0.684±0.012	0.248±0.006	0.066±0.012	4.139±0.128	0.429±0.019	0.077±0.022	1.178±0.040	0.058±0.013	0.025±0.002	0.262±0.007
高知県	松ノ木遺物群	37	0.610±0.017	0.223±0.004	0.797±0.005	4.528±0.120	0.325±0.016	0.063±0.017	1.151±0.028	0.019±0.014	0.024±0.002	0.193±0.006

注：向出遺跡、中ノ社遺跡、六ツ目遺跡、松ノ木遺跡、朝日遺跡、鬼虎川遺跡、野笹No.262、295群の遺物群の分析個数は１個の遺物の分析場所を変えて分析した回数をあらわす。
平田遺跡、庵の谷遺跡、野笹遺跡の遺物群の分析個数はそれぞれ２、３個の遺物の分析場所を変えて分析した回数をあらわす。

第38表　岩屋原産地からのサヌカイト原石66個の分類結果

原石群名	個数	百分率	他原産地および他原石群との関係
岩屋第一群	20個	30%	淡路島、岸和田、和歌山に出現
第二群	22	33	白峰群に一致
第三群	6	9	法印谷群に一致
〃	5	8	国分寺群に一致
〃	4	6	蓮光寺群に一致
〃	3	5	金山東群に一致
〃	2	3	和泉群に一致
〃	4	6	不明（どこの原石群にも属さない）

第39表　和泉・岸和田原産地からのサヌカイト原石72個の分類結果

原石群名	個数	百分率	他原産地および他原石群との関係
岩屋第一群	12個	17%	淡路島、岸和田、和歌山に出現
和　泉　群	9	13	淡路島、岸和田、和歌山に出現
岩屋第二群	6	8	白峰群に一致
	4	6	二上山群に一致
	1	1	法印谷群に一致
	1	1	金山東群に一致
	39	54	不明（どこの原石群にも属さない）

第40表　和歌山市梅原原産地からのサヌカイト原石21個の分類結果

原石群名	個数	百分率	他原産地および他原石群との関係
和　泉　群	10個	48%	淡路島、岸和田、和歌山に出現
岩屋第一群	1	5	淡路島、岸和田、和歌山に出現
岩屋第二群	10	48	不明（どこの原石群にも属さない）

第41表　野笹遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果(1)

分析番号	元素比									
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
65908	0.159	0.070	0.094	1.270	1.021	0.374	0.315	0.118	0.026	0.351
65909	0.162	0.068	0.112	1.424	1.068	0.341	0.280	0.059	0.028	0.355
65910	0.159	0.073	0.124	1.299	1.068	0.419	0.253	0.108	0.022	0.334
65911	0.100	0.052	0.102	1.232	1.172	0.380	0.244	0.100	0.016	0.241
65912	0.175	0.037	0.110	1.257	1.447	0.405	0.327	0.074	0.010	0.164
65913	0.141	0.066	0.063	1.196	1.004	0.342	0.207	0.145	0.020	0.322
65914	0.140	0.064	0.083	1.292	1.198	0.404	0.297	0.121	0.021	0.315
65915	0.161	0.074	0.120	1.257	1.018	0.357	0.273	0.129	0.021	0.333
65916	0.147	0.072	0.109	1.184	1.002	0.360	0.296	0.079	0.023	0.342
65917	0.155	0.069	0.110	1.297	1.025	0.341	0.288	0.090	0.022	0.330
65918	0.169	0.066	0.108	1.347	1.065	0.337	0.282	0.088	0.026	0.338
65919	0.117	0.062	0.082	1.361	1.142	0.366	0.296	0.116	0.022	0.269
65920	0.162	0.069	0.086	1.205	0.985	0.379	0.311	0.127	0.020	0.297
65921	0.146	0.064	0.145	1.450	1.030	0.334	0.308	0.125	0.026	0.367
65922	0.162	0.065	0.094	1.298	0.978	0.360	0.352	0.103	0.022	0.339
65923	0.145	0.069	0.106	1.383	1.094	0.407	0.305	0.064	0.026	0.361
65924	0.145	0.073	0.089	1.348	1.048	0.343	0.302	0.135	0.024	0.361
65925	0.151	0.066	0.111	1.491	1.077	0.351	0.296	0.108	0.021	0.345
65926	0.167	0.073	0.111	1.371	1.032	0.333	0.289	0.098	0.027	0.356
65927	0.140	0.069	0.122	1.403	1.129	0.380	0.283	0.126	0.025	0.346
65928	0.165	0.073	0.117	1.359	1.093	0.379	0.241	0.110	0.018	0.321
65929	0.158	0.074	0.105	1.552	1.140	0.419	0.288	0.120	0.028	0.342
65930	0.145	0.066	0.111	1.311	1.041	0.352	0.299	0.060	0.024	0.329
65931	0.161	0.064	0.100	1.282	1.019	0.375	0.283	0.136	0.027	0.341
65932	0.080	0.035	0.091	1.139	1.421	0.353	0.284	0.084	0.014	0.181
65933	0.162	0.069	0.092	1.313	1.079	0.374	0.290	0.155	0.024	0.339
65934	0.150	0.069	0.100	1.373	1.041	0.343	0.273	0.068	0.026	0.339
65935	0.167	0.070	0.120	1.198	1.016	0.324	0.295	0.092	0.021	0.338
65936	0.148	0.065	0.124	1.412	1.049	0.373	0.291	0.121	0.025	0.348
65937	0.147	0.070	0.090	1.381	1.057	0.426	0.328	0.065	0.023	0.336
65938	0.160	0.067	0.110	1.266	1.075	0.341	0.257	0.088	0.021	0.344
65939	0.152	0.065	0.127	1.453	1.106	0.367	0.299	0.173	0.020	0.349
65940	0.164	0.069	0.108	1.345	1.038	0.352	0.218	0.107	0.026	0.355
65941	0.161	0.068	0.108	1.320	1.043	0.358	0.246	0.047	0.023	0.363
65942	0.141	0.066	0.091	1.342	1.084	0.363	0.307	0.142	0.023	0.330
65943	0.168	0.060	0.119	1.341	1.019	0.351	0.290	0.080	0.023	0.369
65944	0.164	0.072	0.124	1.309	0.945	0.340	0.330	0.145	0.025	0.353
65945	0.151	0.065	0.092	1.293	0.988	0.322	0.259	0.071	0.026	0.350
65946	0.167	0.066	0.101	1.371	1.128	0.374	0.318	0.096	0.021	0.350
65947	0.162	0.069	0.096	1.285	1.097	0.419	0.347	0.084	0.023	0.353
65948										
65949	0.158	0.069	0.118	1.368	1.061	0.326	0.282	0.114	0.023	0.343
65950	0.154	0.065	0.123	1.337	1.051	0.364	0.268	0.134	0.027	0.338
65951	0.153	0.071	0.084	1.325	1.103	0.367	0.338	0.069	0.028	0.359
65952	0.136	0.068	0.144	1.567	1.149	0.378	0.267	0.105	0.023	0.336
65953	0.155	0.069	0.112	1.328	1.043	0.381	0.348	0.089	0.025	0.334
65954	0.173	0.067	0.101	1.347	1.117	0.371	0.322	0.096	0.021	0.352
65955	0.154	0.067	0.098	1.257	0.923	0.326	0.276	0.113	0.025	0.340
65956	0.158	0.068	0.119	1.257	1.094	0.338	0.254	0.145	0.024	0.348

第42表　野笹遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果(2)

分析番号	元素比									
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
65957	0.158	0.070	0.164	1.617	1.227	0.381	0.312	0.157	0.025	0.341
65958	0.170	0.066	0.100	1.387	1.094	0.375	0.224	0.063	0.022	0.321
65959	0.163	0.061	0.123	1.407	1.069	0.367	0.311	0.080	0.025	0.345
65960	0.152	0.068	0.096	1.399	0.933	0.362	0.289	0.077	0.020	0.346
65961	0.151	0.064	0.108	1.342	1.072	0.356	0.293	0.146	0.022	0.346
65962	0.141	0.070	0.089	1.191	1.029	0.385	0.238	0.094	0.025	0.318
65963	0.167	0.064	0.110	1.307	1.044	0.382	0.293	0.130	0.026	0.371
65964	0.170	0.065	0.108	1.435	1.063	0.363	0.309	0.159	0.022	0.344
65965	0.162	0.066	0.088	1.264	1.018	0.347	0.277	0.101	0.020	0.349
65966	0.158	0.068	0.091	1.173	0.979	0.330	0.312	0.088	0.023	0.336
JG-1	0.791	0.206	0.094	4.090	1.095	1.394	0.316	0.064	0.025	0.299

JG-1：標準試料-Ando,A.,Kurasawa,H.,Ohmori,T.& Takeda,E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal, Vol.8 175-192 (1974)

第43表　野笹遺跡遺跡出土下呂石製剥片の非破壊の元素比分析結果(1)

分析番号	元素比									
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
65968	1.623	0.246	0.038	0.681	0.266	0.047	0.568	0.035	0.041	0.687
65969	1.631	0.244	0.038	0.669	0.267	0.039	0.513	0.034	0.063	0.655
65970	1.512	0.221	0.046	0.550	0.290	0.058	0.536	0.028	0.053	0.633
65971	1.617	0.236	0.033	0.683	0.285	0.031	0.535	0.030	0.047	0.658
65972	1.641	0.230	0.052	0.661	0.291	0.033	0.556	0.034	0.058	0.662
65973	1.497	0.211	0.039	0.671	0.287	0.035	0.520	0.040	0.044	0.642
65974	1.545	0.230	0.048	0.615	0.277	0.039	0.542	0.037	0.051	0.642
65975	1.723	0.211	0.043	0.658	0.269	0.041	0.529	0.022	0.046	0.708
65976	1.559	0.227	0.038	0.700	0.301	0.050	0.603	0.032	0.052	0.653
65977	1.587	0.217	0.034	0.608	0.293	0.019	0.511	0.028	0.042	0.666
65978	1.516	0.226	0.036	0.633	0.284	0.023	0.502	0.027	0.044	0.678
65979	1.568	0.233	0.041	0.622	0.258	0.009	0.540	0.043	0.046	0.659
65980	1.664	0.215	0.033	0.610	0.248	0.031	0.520	0.042	0.047	0.642
65981	1.753	0.236	0.040	0.664	0.288	0.013	0.509	0.023	0.051	0.689
65982	1.647	0.237	0.041	0.660	0.281	0.034	0.501	0.045	0.057	0.675
65983	1.596	0.199	0.037	0.619	0.282	0.052	0.486	0.036	0.052	0.651
65984	1.608	0.248	0.029	0.712	0.293	0.042	0.531	0.043	0.048	0.651
65985	1.699	0.234	0.035	0.620	0.286	0.032	0.529	0.039	0.056	0.719
65986	1.633	0.268	0.027	0.696	0.274	0.012	0.589	0.048	0.038	0.646
65987	1.711	0.249	0.037	0.615	0.286	0.049	0.494	0.039	0.047	0.680
65988	1.542	0.252	0.033	0.619	0.257	0.044	0.537	0.042	0.044	0.636
65989	1.621	0.247	0.040	0.672	0.281	0.039	0.542	0.031	0.046	0.648
65990	1.515	0.225	0.039	0.655	0.265	0.046	0.537	0.037	0.043	0.608
65991	1.545	0.223	0.029	0.621	0.295	0.019	0.551	0.024	0.045	0.624
65992	2.225	0.196	0.031	0.569	0.285	0.018	0.544	0.027	0.046	0.606
65993	1.572	0.239	0.043	0.723	0.272	0.058	0.541	0.040	0.048	0.641
65994	1.591	0.218	0.040	0.639	0.278	0.031	0.562	0.035	0.043	0.652
65995	1.512	0.221	0.028	0.634	0.265	0.035	0.585	0.033	0.045	0.615
65996	1.516	0.220	0.044	0.678	0.279	0.040	0.553	0.069	0.054	0.643
65997	1.511	0.216	0.035	0.581	0.259	0.046	0.532	0.032	0.046	0.648
65998	1.635	0.231	0.029	0.547	0.284	0.037	0.535	0.032	0.044	0.642
65999	1.674	0.271	0.044	0.721	0.268	0.020	0.527	0.038	0.044	0.693
66000	1.625	0.247	0.044	0.664	0.266	0.000	0.550	0.030	0.042	0.641
66001	1.586	0.228	0.039	0.667	0.266	0.046	0.471	0.030	0.057	0.677
66002	1.691	0.227	0.035	0.637	0.284	0.059	0.564	0.034	0.063	0.708
66003	1.574	0.222	0.045	0.747	0.288	0.034	0.471	0.031	0.052	0.696
66004	1.601	0.242	0.031	0.662	0.286	0.041	0.542	0.030	0.049	0.650
66005	1.476	0.227	0.044	0.630	0.296	0.034	0.497	0.041	0.049	0.601
66006	1.535	0.210	0.039	0.617	0.298	0.050	0.448	0.056	0.048	0.621
66007	1.533	0.226	0.028	0.645	0.295	0.040	0.533	0.028	0.043	0.579
66008	1.570	0.258	0.046	0.690	0.278	0.065	0.573	0.050	0.046	0.673
66009	1.640	0.259	0.023	0.665	0.273	0.037	0.533	0.042	0.039	0.653
66010	1.574	0.196	0.040	0.557	0.283	0.046	0.513	0.038	0.042	0.628
66011	1.738	0.255	0.042	0.744	0.307	0.046	0.505	0.026	0.052	0.705
66012	1.656	0.216	0.050	0.652	0.269	0.048	0.508	0.044	0.050	0.666
66013	1.616	0.236	0.042	0.720	0.292	0.040	0.535	0.030	0.051	0.672
66014	2.471	0.226	0.051	0.716	0.271	0.050	0.510	0.032	0.055	0.700
66015	1.505	0.205	0.037	0.662	0.273	0.039	0.546	0.030	0.059	0.646
66016	1.543	0.231	0.029	0.583	0.271	0.032	0.533	0.036	0.047	0.617
66017	1.634	0.230	0.035	0.604	0.269	0.055	0.564	0.038	0.055	0.670

第44表　野笹遺跡遺跡出土下呂石製剥片の非破壊の元素比分析結果(2)

分析番号	元素比									
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
66018	1.592	0.228	0.047	0.709	0.280	0.027	0.520	0.028	0.049	0.693
66019	1.596	0.235	0.037	0.619	0.295	0.033	0.496	0.037	0.053	0.651
66020	1.566	0.211	0.036	0.618	0.325	0.037	0.565	0.056	0.048	0.646
66021	1.602	0.244	0.037	0.663	0.272	0.039	0.601	0.036	0.044	0.678
66022	1.607	0.235	0.031	0.600	0.262	0.006	0.559	0.038	0.042	0.629
66023	1.552	0.212	0.034	0.619	0.267	0.008	0.514	0.043	0.053	0.675
66024	1.657	0.230	0.052	0.752	0.282	0.024	0.538	0.036	0.024	0.667
66025	1.481	0.191	0.040	0.606	0.282	0.035	0.574	0.040	0.044	0.600
66026	1.502	0.214	0.049	0.646	0.294	0.029	0.474	0.038	0.048	0.624
66027	1.687	0.235	0.038	0.736	0.306	0.044	0.529	0.051	0.056	0.697
66028	1.570	0.211	0.036	0.620	0.284	0.031	0.480	0.042	0.055	0.647
66029	1.575	0.213	0.024	0.551	0.291	0.053	0.550	0.042	0.045	0.631
66030	1.552	0.226	0.048	0.611	0.298	0.051	0.562	0.032	0.045	0.617
66031	1.582	0.215	0.043	0.643	0.297	0.030	0.546	0.042	0.043	0.604
66032	1.479	0.226	0.040	0.714	0.304	0.045	0.513	0.023	0.039	0.605
66033	1.523	0.214	0.025	0.643	0.308	0.043	0.560	0.027	0.053	0.644
66034	1.557	0.190	0.052	0.608	0.305	0.021	0.490	0.030	0.035	0.648
66035	1.725	0.232	0.032	0.595	0.259	0.029	0.517	0.036	0.049	0.702
66036	1.650	0.238	0.046	0.642	0.272	0.023	0.560	0.049	0.042	0.682
66037	1.734	0.253	0.036	0.686	0.275	0.037	0.534	0.032	0.052	0.692
66038	1.511	0.203	0.034	0.570	0.284	0.050	0.571	0.035	0.052	0.635
66039	1.654	0.239	0.047	0.695	0.275	0.039	0.534	0.021	0.050	0.688
66040	1.621	0.215	0.035	0.624	0.313	0.000	0.495	0.039	0.050	0.700
66041	1.637	0.233	0.035	0.631	0.272	0.021	0.547	0.026	0.051	0.678
66042	1.614	0.219	0.045	0.655	0.268	0.045	0.550	0.043	0.052	0.663
66043	1.563	0.234	0.041	0.706	0.288	0.036	0.476	0.062	0.045	0.671
66044	1.589	0.228	0.041	0.718	0.282	0.045	0.517	0.034	0.057	0.695
66045	1.644	0.238	0.039	0.674	0.293	0.040	0.540	0.050	0.049	0.664
66046	1.694	0.235	0.032	0.659	0.290	0.047	0.490	0.035	0.052	0.707
66047	1.652	0.223	0.042	0.819	0.300	0.023	0.501	0.026	0.059	0.676
66048	1.566	0.215	0.029	0.611	0.295	0.035	0.541	0.047	0.056	0.626
66049	1.583	0.230	0.044	0.668	0.290	0.028	0.484	0.022	0.050	0.652
66050	1.624	0.248	0.035	0.675	0.274	0.058	0.496	0.053	0.048	0.681
66051	1.524	0.209	0.026	0.544	0.298	0.044	0.477	0.042	0.050	0.604
66052	1.602	0.225	0.033	0.670	0.289	0.038	0.451	0.049	0.053	0.671
66053	1.767	0.256	0.034	0.633	0.290	0.019	0.497	0.044	0.051	0.700
66054	1.515	0.221	0.043	0.672	0.296	0.049	0.535	0.039	0.045	0.659
66055	1.707	0.255	0.045	0.638	0.269	0.047	0.517	0.037	0.048	0.667
66056	1.556	0.233	0.029	0.679	0.294	0.032	0.478	0.028	0.045	0.644
66057	1.758	0.252	0.034	0.637	0.272	0.027	0.477	0.031	0.054	0.722
66058	1.630	0.221	0.033	0.629	0.286	0.034	0.488	0.030	0.053	0.871
66059	2.203	0.232	0.037	0.605	0.318	0.032	0.553	0.040	0.043	0.722
66060	1.752	0.223	0.043	0.727	0.301	0.036	0.546	0.036	0.051	0.692
66061	1.542	0.220	0.045	0.611	0.301	0.029	0.489	0.038	0.047	0.579
66062	1.562	0.216	0.030	0.574	0.267	0.044	0.509	0.042	0.041	0.611
66063	1.597	0.225	0.053	0.650	0.283	0.054	0.573	0.034	0.063	0.680
66064	1.571	0.232	0.040	0.636	0.307	0.038	0.509	0.033	0.032	0.603
66065	1.595	0.225	0.027	0.658	0.285	0.015	0.537	0.041	0.051	0.620
66066	1.664	0.234	0.040	0.599	0.300	0.054	0.467	0.044	0.053	0.690
66067	1.555	0.210	0.031	0.617	0.269	0.044	0.548	0.042	0.047	0.651

第45表　野笹遺跡遺跡出土下呂石製剥片の非破壊の元素比分析結果(3)

分析番号	元素比									
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
66068	1.504	0.197	0.046	0.541	0.269	0.041	0.506	0.021	0.043	0.651
66069	1.717	0.228	0.037	0.589	0.271	0.036	0.548	0.023	0.050	0.681
66070	2.090	0.192	0.042	0.587	0.288	0.032	0.554	0.026	0.043	0.605
66071	1.550	0.223	0.041	0.607	0.291	0.019	0.488	0.025	0.041	0.624
66072	1.498	0.214	0.040	0.530	0.279	0.020	0.473	0.033	0.046	0.614
66073	1.739	0.209	0.035	0.522	0.279	0.040	0.502	0.031	0.050	0.676
66074	1.621	0.238	0.038	0.719	0.291	0.029	0.548	0.023	0.047	0.656
66075	1.592	0.206	0.037	0.581	0.292	0.040	0.538	0.044	0.051	0.676
66076	1.573	0.214	0.030	0.549	0.280	0.033	0.530	0.052	0.048	0.639
66077	1.613	0.227	0.039	0.582	0.285	0.036	0.569	0.029	0.046	0.645
66078	1.565	0.213	0.031	0.535	0.265	0.021	0.526	0.041	0.049	0.658
66079	1.629	0.222	0.032	0.603	0.261	0.053	0.513	0.041	0.051	0.639
66080	1.591	0.218	0.040	0.520	0.279	0.022	0.505	0.029	0.053	0.627
66081	1.518	0.202	0.049	0.634	0.302	0.040	0.510	0.034	0.044	0.618
66082	1.587	0.235	0.043	0.651	0.286	0.053	0.490	0.048	0.049	0.667
66083	1.482	0.194	0.048	0.565	0.282	0.036	0.526	0.036	0.038	0.605
66084	2.724	0.197	0.033	0.512	0.315	0.039	0.537	0.037	0.059	0.661
66085	1.568	0.186	0.046	0.546	0.295	0.035	0.499	0.022	0.052	0.692
66086	1.799	0.227	0.047	0.629	0.319	0.042	0.588	0.042	0.053	0.716
66087	1.536	0.193	0.036	0.541	0.285	0.037	0.468	0.048	0.041	0.664
JG-1	1.314	0.297	0.060	2.711	0.723	0.196	0.721	0.033	0.034	0.438

第46表　野笹遺跡遺跡出土下呂石製剥片のエアーブラシ処理後の元素比分析結果(1)

分析番号	元素比									
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
65968	1.453	0.219	0.037	0.711	0.273	0.036	0.556	0.035	0.042	0.632
65969	1.458	0.230	0.028	0.687	0.268	0.044	0.529	0.030	0.045	0.603
65970	1.419	0.197	0.039	0.705	0.270	0.037	0.569	0.033	0.041	0.601
65971	1.470	0.212	0.039	0.688	0.295	0.042	0.513	0.028	0.049	0.583
65972	1.477	0.240	0.032	0.694	0.261	0.022	0.519	0.037	0.048	0.625
65973	1.420	0.221	0.036	0.679	0.262	0.021	0.514	0.033	0.045	0.576
65974	1.482	0.228	0.048	0.661	0.273	0.047	0.500	0.031	0.052	0.639
65975	1.429	0.211	0.037	0.715	0.275	0.017	0.507	0.037	0.044	0.594
65976	1.426	0.205	0.037	0.667	0.282	0.051	0.484	0.037	0.041	0.582
65977	1.507	0.237	0.031	0.676	0.297	0.024	0.560	0.021	0.050	0.613
65978	1.448	0.216	0.040	0.662	0.285	0.040	0.459	0.029	0.046	0.638
65979	1.465	0.235	0.032	0.645	0.252	0.050	0.517	0.025	0.049	0.573
65980	1.535	0.239	0.037	0.716	0.281	0.000	0.526	0.036	0.042	0.578
65981	1.507	0.242	0.049	0.720	0.256	0.028	0.537	0.027	0.046	0.620
65982	1.522	0.237	0.045	0.706	0.273	0.049	0.540	0.038	0.057	0.622
65983	1.471	0.223	0.029	0.713	0.300	0.055	0.604	0.036	0.051	0.615
65984	1.467	0.209	0.046	0.758	0.285	0.058	0.547	0.038	0.047	0.641
65985	1.475	0.221	0.040	0.683	0.288	0.042	0.541	0.043	0.049	0.580
65986	1.500	0.239	0.039	0.694	0.279	0.028	0.529	0.029	0.060	0.641
65987	1.456	0.218	0.040	0.735	0.287	0.011	0.529	0.025	0.054	0.609
65988	1.466	0.221	0.051	0.740	0.270	0.024	0.534	0.034	0.045	0.618
65989	1.453	0.241	0.047	0.725	0.286	0.046	0.534	0.035	0.039	0.610
65990	1.436	0.214	0.038	0.698	0.269	0.026	0.563	0.044	0.048	0.594
65991	1.457	0.229	0.045	0.695	0.289	0.051	0.550	0.037	0.042	0.576
65992	1.648	0.237	0.044	0.718	0.275	0.039	0.522	0.043	0.048	0.604
65993	1.497	0.222	0.054	0.730	0.293	0.047	0.541	0.026	0.050	0.658
65994	1.470	0.224	0.036	0.690	0.269	0.044	0.530	0.028	0.046	0.588
65995	1.447	0.214	0.032	0.689	0.273	0.000	0.549	0.032	0.048	0.594
65996	1.468	0.223	0.034	0.697	0.282	0.039	0.558	0.035	0.046	0.620
65997	1.447	0.238	0.053	0.721	0.291	0.000	0.569	0.046	0.036	0.592
65998	1.502	0.228	0.042	0.671	0.260	0.000	0.530	0.045	0.043	0.617
65999	1.461	0.213	0.028	0.656	0.263	0.037	0.505	0.020	0.041	0.589
66000	1.481	0.250	0.032	0.686	0.281	0.032	0.525	0.034	0.047	0.589
66001	1.451	0.237	0.034	0.672	0.268	0.039	0.555	0.026	0.042	0.574
66002	1.532	0.230	0.048	0.674	0.261	0.062	0.498	0.031	0.050	0.641
66003	1.457	0.227	0.043	0.698	0.265	0.043	0.528	0.043	0.045	0.580
66004	1.484	0.244	0.032	0.675	0.286	0.032	0.514	0.025	0.042	0.563
66005	1.462	0.224	0.040	0.745	0.272	0.037	0.505	0.026	0.054	0.610
66006	1.438	0.220	0.039	0.752	0.289	0.011	0.484	0.046	0.046	0.610
66007	1.441	0.218	0.035	0.697	0.261	0.035	0.479	0.036	0.048	0.589
66008	1.496	0.221	0.040	0.676	0.284	0.027	0.550	0.032	0.052	0.637
66009	1.443	0.216	0.044	0.696	0.253	0.009	0.540	0.034	0.045	0.602
66010	1.440	0.225	0.036	0.680	0.271	0.025	0.532	0.037	0.046	0.604
66011	1.434	0.213	0.034	0.693	0.274	0.036	0.547	0.034	0.044	0.639
66012	1.569	0.221	0.054	0.726	0.285	0.057	0.521	0.039	0.048	0.691
66013	1.477	0.205	0.035	0.736	0.284	0.040	0.542	0.030	0.047	0.657
66014	1.648	0.236	0.041	0.717	0.271	0.043	0.508	0.039	0.045	0.613
66015	1.416	0.219	0.031	0.704	0.299	0.043	0.544	0.042	0.042	0.584
66016	1.468	0.234	0.028	0.697	0.267	0.043	0.536	0.032	0.044	0.601
66017	1.509	0.235	0.047	0.669	0.270	0.040	0.466	0.022	0.050	0.635

第47表　野笹遺跡遺跡出土下呂石製剥片のエアーブラシ処理後の元素比分析結果(2)

分析番号	元素比									
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
66018	1.512	0.228	0.037	0.696	0.287	0.041	0.493	0.029	0.053	0.605
66019	1.537	0.212	0.024	0.699	0.281	0.039	0.518	0.025	0.049	0.658
66020	1.365	0.218	0.044	0.660	0.271	0.058	0.539	0.051	0.045	0.587
66021	1.600	0.217	0.028	0.677	0.277	0.048	0.528	0.028	0.037	0.639
66022	1.477	0.215	0.025	0.695	0.280	0.031	0.548	0.036	0.044	0.605
66023	1.522	0.232	0.050	0.708	0.296	0.028	0.494	0.037	0.053	0.651
66024	1.450	0.209	0.042	0.724	0.281	0.036	0.534	0.029	0.063	0.615
66025	1.492	0.217	0.038	0.704	0.282	0.040	0.485	0.038	0.047	0.604
66026	1.482	0.224	0.042	0.680	0.275	0.032	0.478	0.035	0.047	0.589
66027	1.467	0.211	0.051	0.737	0.283	0.040	0.535	0.041	0.047	0.629
66028	1.471	0.222	0.039	0.689	0.288	0.037	0.515	0.044	0.047	0.584
66029	1.501	0.219	0.030	0.660	0.273	0.038	0.525	0.047	0.046	0.580
66030	1.515	0.222	0.030	0.672	0.282	0.046	0.513	0.027	0.039	0.626
66031	1.504	0.224	0.032	0.711	0.277	0.025	0.529	0.048	0.051	0.622
66032	1.440	0.209	0.036	0.697	0.282	0.047	0.524	0.032	0.052	0.640
66033	1.470	0.221	0.033	0.702	0.282	0.055	0.515	0.018	0.048	0.605
66034	1.473	0.231	0.045	0.720	0.284	0.011	0.527	0.031	0.046	0.616
66035	1.440	0.215	0.053	0.703	0.285	0.035	0.528	0.035	0.048	0.578
66036	1.474	0.222	0.051	0.711	0.282	0.059	0.556	0.027	0.051	0.604
66037	1.462	0.219	0.036	0.706	0.282	0.046	0.607	0.028	0.037	0.608
66038	1.468	0.216	0.032	0.686	0.281	0.047	0.486	0.026	0.048	0.603
66039	1.491	0.246	0.050	0.731	0.260	0.059	0.536	0.031	0.045	0.617
66040	1.480	0.213	0.050	0.706	0.266	0.041	0.540	0.032	0.052	0.638
66041	1.546	0.232	0.045	0.672	0.260	0.045	0.532	0.039	0.049	0.633
66042	1.526	0.217	0.049	0.727	0.282	0.054	0.485	0.019	0.044	0.611
66043	1.448	0.220	0.035	0.681	0.291	0.032	0.462	0.034	0.040	0.616
66044	1.451	0.211	0.037	0.680	0.280	0.035	0.557	0.030	0.045	0.577
66045	1.484	0.235	0.032	0.711	0.296	0.034	0.531	0.020	0.045	0.578
66046	1.483	0.230	0.038	0.673	0.281	0.046	0.552	0.035	0.046	0.607
66047	1.503	0.212	0.056	0.700	0.312	0.035	0.467	0.025	0.050	0.624
66048	1.528	0.211	0.040	0.738	0.293	0.046	0.528	0.036	0.041	0.617
66049	1.472	0.209	0.032	0.690	0.283	0.036	0.494	0.029	0.044	0.622
66050	1.468	0.211	0.039	0.667	0.285	0.039	0.559	0.029	0.052	0.600
66051	1.389	0.207	0.049	0.725	0.271	0.044	0.505	0.044	0.053	0.592
66052	1.459	0.212	0.037	0.709	0.286	0.043	0.484	0.035	0.052	0.594
66053	1.500	0.233	0.041	0.703	0.307	0.041	0.505	0.038	0.050	0.602
66054	1.492	0.215	0.038	0.711	0.284	0.042	0.530	0.024	0.043	0.613
66055	1.477	0.232	0.035	0.709	0.287	0.067	0.523	0.031	0.055	0.595
66056	1.452	0.222	0.037	0.687	0.274	0.037	0.503	0.048	0.044	0.632
66057	1.462	0.221	0.049	0.715	0.284	0.037	0.493	0.025	0.044	0.611
66058	1.516	0.220	0.037	0.661	0.276	0.040	0.518	0.033	0.043	0.619
66059	1.468	0.205	0.039	0.688	0.282	0.057	0.488	0.056	0.037	0.596
66060	1.502	0.212	0.027	0.701	0.273	0.038	0.543	0.035	0.046	0.620
66061	1.514	0.231	0.030	0.676	0.271	0.038	0.532	0.032	0.047	0.598
66062	1.428	0.222	0.049	0.690	0.263	0.028	0.479	0.036	0.042	0.584
66063	1.472	0.222	0.031	0.715	0.280	0.039	0.481	0.035	0.054	0.634
66064	1.491	0.227	0.040	0.757	0.287	0.063	0.555	0.058	0.052	0.647
66065	1.528	0.231	0.040	0.665	0.267	0.021	0.539	0.040	0.042	0.583
66066	1.489	0.217	0.041	0.669	0.274	0.037	0.473	0.034	0.043	0.622
66067	1.463	0.217	0.033	0.682	0.282	0.031	0.512	0.024	0.038	0.588

第48表　野笹遺跡遺跡出土下呂石製剥片のエアーブラシ処理後の元素比分析結果(3)

分析番号	元素比									
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
66068	1.484	0.218	0.023	0.670	0.289	0.035	0.472	0.028	0.047	0.641
66069	1.556	0.225	0.035	0.652	0.287	0.033	0.490	0.036	0.044	0.586
66070	1.603	0.213	0.040	0.693	0.283	0.047	0.503	0.039	0.040	0.592
66071	1.494	0.220	0.045	0.677	0.278	0.047	0.517	0.038	0.049	0.652
66072	1.448	0.214	0.036	0.635	0.284	0.033	0.510	0.037	0.043	0.586
66073	1.485	0.220	0.034	0.664	0.262	0.020	0.513	0.025	0.039	0.595
66074	1.496	0.212	0.036	0.711	0.309	0.053	0.511	0.033	0.051	0.640
66075	1.524	0.220	0.051	0.695	0.280	0.059	0.523	0.024	0.053	0.623
66076	1.493	0.216	0.032	0.656	0.284	0.044	0.537	0.038	0.046	0.589
66077	1.494	0.219	0.041	0.688	0.297	0.017	0.548	0.033	0.042	0.606
66078	1.439	0.217	0.036	0.681	0.275	0.043	0.527	0.040	0.045	0.604
66079	1.460	0.229	0.039	0.682	0.299	0.037	0.583	0.036	0.043	0.602
66080	1.498	0.215	0.037	0.708	0.279	0.043	0.512	0.039	0.045	0.657
66081	1.452	0.210	0.029	0.690	0.274	0.031	0.572	0.050	0.043	0.601
66082	1.496	0.230	0.041	0.687	0.281	0.034	0.561	0.036	0.055	0.648
66083	1.479	0.210	0.043	0.687	0.279	0.021	0.513	0.034	0.046	0.619
66084	1.724	0.221	0.026	0.659	0.271	0.050	0.508	0.029	0.055	0.621
66085	1.433	0.203	0.043	0.708	0.280	0.050	0.532	0.041	0.049	0.620
66086	1.684	0.243	0.051	0.658	0.301	0.065	0.495	0.041	0.052	0.701
66087	1.441	0.236	0.048	0.650	0.283	0.022	0.519	0.037	0.046	0.580
66088	1.452	0.219	0.037	0.690	0.261	0.007	0.555	0.043	0.048	0.605
66089	1.487	0.226	0.038	0.705	0.265	0.048	0.508	0.027	0.044	0.627
66090	1.456	0.215	0.043	0.728	0.300	0.050	0.514	0.031	0.042	0.615
66091	1.541	0.213	0.036	0.732	0.294	0.022	0.525	0.027	0.037	0.619
66092	1.466	0.220	0.030	0.677	0.282	0.044	0.543	0.035	0.052	0.646
66093	1.516	0.219	0.048	0.747	0.278	0.031	0.532	0.024	0.052	0.651
66094	1.489	0.216	0.033	0.676	0.268	0.038	0.506	0.035	0.050	0.623
66095	1.506	0.200	0.042	0.705	0.272	0.046	0.513	0.033	0.051	0.635
66096	1.436	0.231	0.035	0.709	0.275	0.043	0.578	0.043	0.046	0.599
66097	1.515	0.241	0.043	0.713	0.299	0.051	0.500	0.038	0.044	0.638
66098	1.479	0.225	0.050	0.722	0.290	0.060	0.498	0.021	0.043	0.610
66099	1.459	0.212	0.043	0.726	0.289	0.034	0.555	0.028	0.047	0.612
66100	1.454	0.215	0.033	0.707	0.264	0.026	0.557	0.030	0.054	0.602
66101	1.464	0.214	0.044	0.641	0.287	0.038	0.563	0.043	0.048	0.608
66102	1.432	0.212	0.039	0.714	0.279	0.044	0.493	0.044	0.047	0.624
66103	1.481	0.212	0.043	0.682	0.286	0.034	0.496	0.032	0.042	0.628
66104	1.455	0.221	0.042	0.681	0.265	0.038	0.524	0.033	0.045	0.600
66105	1.461	0.229	0.038	0.705	0.319	0.038	0.536	0.037	0.039	0.591
66106	1.464	0.213	0.041	0.735	0.295	0.022	0.499	0.036	0.048	0.605
66107	1.468	0.233	0.033	0.692	0.271	0.041	0.473	0.043	0.050	0.610
66108	1.473	0.231	0.038	0.699	0.287	0.038	0.551	0.045	0.050	0.642
66109	1.438	0.226	0.040	0.701	0.272	0.034	0.508	0.047	0.051	0.656
66110	1.418	0.206	0.030	0.647	0.263	0.033	0.561	0.030	0.049	0.587
66111	1.474	0.228	0.046	0.721	0.275	0.037	0.534	0.034	0.047	0.615
66112	1.496	0.223	0.037	0.680	0.275	0.030	0.500	0.034	0.043	0.618
66113	1.510	0.214	0.036	0.684	0.287	0.028	0.559	0.044	0.047	0.632
66114	1.516	0.225	0.040	0.677	0.283	0.028	0.532	0.045	0.041	0.608
66115	1.419	0.234	0.038	0.687	0.288	0.040	0.492	0.025	0.045	0.610
66116	1.503	0.231	0.050	0.663	0.274	0.035	0.503	0.045	0.052	0.632
66117	1.450	0.221	0.033	0.716	0.303	0.030	0.541	0.023	0.048	0.583

第49表　野笹遺跡遺跡出土下呂石製剥片のエアーブラシ処理後の元素比分析結果(4)

分析番号	元素比									
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
66118	1.452	0.209	0.033	0.675	0.267	0.031	0.529	0.040	0.040	0.599
66119	1.455	0.208	0.030	0.709	0.291	0.035	0.516	0.035	0.044	0.598
66120	1.467	0.207	0.040	0.684	0.285	0.039	0.485	0.039	0.042	0.592
66121	1.461	0.216	0.038	0.685	0.295	0.028	0.593	0.047	0.047	0.591
66122	1.491	0.228	0.043	0.727	0.280	0.027	0.569	0.054	0.049	0.652
66123	1.460	0.236	0.038	0.686	0.276	0.040	0.533	0.030	0.045	0.596
66124	1.435	0.213	0.050	0.699	0.281	0.012	0.551	0.042	0.044	0.624
66125	1.468	0.204	0.047	0.679	0.288	0.047	0.518	0.027	0.045	0.634
66126	1.431	0.212	0.039	0.678	0.262	0.033	0.562	0.022	0.043	0.584
66127	1.463	0.197	0.040	0.735	0.286	0.020	0.482	0.033	0.053	0.647
66128	1.448	0.204	0.036	0.710	0.294	0.049	0.553	0.026	0.043	0.620
66129	1.506	0.225	0.033	0.666	0.281	0.045	0.499	0.037	0.048	0.634
66130	1.678	0.220	0.036	0.680	0.300	0.036	0.506	0.029	0.048	0.599
66131	1.439	0.232	0.039	0.669	0.279	0.016	0.564	0.041	0.045	0.596
66132	1.493	0.213	0.035	0.715	0.276	0.030	0.497	0.032	0.049	0.628
66133	1.470	0.230	0.040	0.761	0.313	0.036	0.535	0.041	0.052	0.661
66134	1.481	0.236	0.040	0.678	0.293	0.051	0.560	0.041	0.042	0.593
66135	1.508	0.240	0.031	0.673	0.305	0.034	0.556	0.067	0.052	0.626
66136	1.466	0.221	0.038	0.702	0.263	0.013	0.562	0.019	0.052	0.607
66137	1.506	0.225	0.044	0.698	0.292	0.034	0.531	0.037	0.043	0.621
66138	1.482	0.220	0.037	0.688	0.297	0.045	0.515	0.038	0.050	0.615
66139	1.457	0.236	0.033	0.656	0.270	0.038	0.520	0.030	0.041	0.580
66140	1.514	0.217	0.037	0.687	0.288	0.045	0.551	0.040	0.047	0.560
66141	1.520	0.225	0.039	0.706	0.288	0.031	0.528	0.050	0.047	0.638
66142	1.536	0.210	0.035	0.697	0.266	0.012	0.566	0.032	0.043	0.604
66143	1.466	0.208	0.041	0.658	0.268	0.046	0.470	0.020	0.039	0.582
66144	1.487	0.207	0.052	0.718	0.281	0.029	0.497	0.031	0.045	0.626
66145	1.403	0.212	0.034	0.655	0.278	0.015	0.516	0.036	0.039	0.572
66146	1.459	0.215	0.040	0.652	0.289	0.043	0.509	0.037	0.040	0.568
66147	1.862	0.205	0.039	0.697	0.303	0.058	0.540	0.037	0.051	0.614
66148	1.544	0.218	0.033	0.716	0.298	0.026	0.522	0.032	0.053	0.635
66149	1.462	0.232	0.039	0.671	0.278	0.022	0.511	0.048	0.044	0.591
66150	1.487	0.218	0.039	0.757	0.284	0.048	0.550	0.029	0.056	0.614
66151	1.461	0.206	0.039	0.695	0.274	0.042	0.499	0.035	0.052	0.594
66152	1.481	0.222	0.043	0.711	0.276	0.025	0.515	0.036	0.045	0.609
66153	1.545	0.225	0.043	0.717	0.274	0.043	0.517	0.035	0.041	0.613
66154	1.481	0.239	0.048	0.766	0.303	0.058	0.521	0.019	0.048	0.645
66155	1.470	0.216	0.041	0.694	0.282	0.042	0.520	0.032	0.044	0.596
66156	1.492	0.214	0.042	0.685	0.275	0.063	0.570	0.025	0.040	0.585
66157	1.485	0.226	0.039	0.688	0.281	0.018	0.518	0.037	0.043	0.612
66158	1.445	0.223	0.035	0.705	0.270	0.019	0.510	0.034	0.037	0.635
66159	1.606	0.227	0.034	0.708	0.284	0.036	0.544	0.056	0.048	0.622
66160	1.468	0.230	0.034	0.671	0.278	0.022	0.511	0.029	0.047	0.619
66161	1.435	0.217	0.030	0.701	0.280	0.009	0.529	0.039	0.049	0.603
66162	1.479	0.234	0.051	0.673	0.305	0.042	0.522	0.021	0.057	0.635
66163	1.421	0.216	0.031	0.658	0.281	0.039	0.488	0.030	0.043	0.563
66164	1.465	0.229	0.039	0.673	0.278	0.053	0.516	0.035	0.045	0.629
66165	1.453	0.204	0.036	0.696	0.289	0.040	0.501	0.044	0.046	0.616
66166	1.488	0.212	0.032	0.686	0.269	0.027	0.487	0.034	0.044	0.612
66167	1.461	0.226	0.030	0.670	0.266	0.037	0.579	0.051	0.046	0.622
JG-1	1.314	0.297	0.060	2.711	0.723	0.196	0.721	0.033	0.034	0.438

第50表　野笹遺跡遺跡出土安山岩製遺物の元素比分析結果

分析番号	元素比									
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
66168	0.583	0.370	0.044	2.253	0.173	0.037	0.959	0.027	0.022	0.196
66169	0.383	0.314	0.053	2.347	0.094	0.050	0.665	0.016	0.017	0.170
66170	0.610	0.378	0.042	2.186	0.178	0.064	1.051	0.036	0.022	0.210
66171	0.650	0.420	0.046	2.218	0.174	0.034	0.996	0.028	0.021	0.225
66172	0.641	0.383	0.043	2.163	0.158	0.039	1.021	0.016	0.022	0.214
66173	0.620	0.379	0.047	2.197	0.164	0.022	1.072	0.040	0.023	0.210
66174	0.626	0.379	0.045	2.333	0.170	0.037	1.035	0.031	0.020	0.215
66175	0.609	0.391	0.049	2.209	0.168	0.035	0.993	0.025	0.021	0.207
66176	0.630	0.387	0.044	2.251	0.146	0.038	1.032	0.036	0.021	0.211
66177	0.615	0.380	0.044	2.286	0.158	0.039	1.015	0.035	0.021	0.216
66178	0.419	0.310	0.042	1.817	0.097	0.041	0.734	0.025	0.020	0.187
66179	0.632	0.404	0.052	2.266	0.174	0.051	1.027	0.030	0.022	0.209
66180	0.683	0.393	0.040	2.034	0.178	0.063	1.117	0.026	0.023	0.230
66181	0.388	0.309	0.034	1.847	0.087	0.029	0.621	0.033	0.017	0.173
66182	0.405	0.311	0.044	1.822	0.086	0.041	0.693	0.024	0.016	0.168
66183	0.660	0.412	0.054	2.292	0.167	0.043	1.031	0.034	0.019	0.214
66184	0.611	0.382	0.051	2.256	0.168	0.042	1.003	0.026	0.024	0.213
66185	2.431	1.479	0.026	3.260	0.222	0.083	0.889	0.023	0.102	1.292
66186	0.667	0.408	0.052	2.289	0.176	0.052	1.097	0.030	0.022	0.232
66187	0.609	0.384	0.041	2.199	0.169	0.035	1.022	0.024	0.020	0.207
66188	0.284	0.228	0.063	4.186	0.201	0.063	0.649	0.012	0.013	0.122
66189	0.807	0.520	0.045	2.429	0.218	0.088	1.161	0.029	0.026	0.243
66190	0.799	0.528	0.059	2.472	0.201	0.081	1.234	0.048	0.025	0.241
66191	0.268	0.220	0.070	4.516	0.207	0.090	0.699	0.024	0.013	0.124
66192	0.394	0.294	0.045	1.939	0.091	0.030	0.636	0.020	0.018	0.174
66193	0.279	0.227	0.070	4.466	0.212	0.074	0.677	0.033	0.013	0.122
66194	3.796	1.574	0.068	8.452	1.334	0.243	2.778	0.159	0.085	1.219
66195	0.267	0.215	0.077	4.627	0.212	0.072	0.640	0.023	0.013	0.131
66196	3.216	1.038	0.166	6.347	0.550	0.225	1.354	0.184	0.175	2.722
66197	3.853	1.189	0.171	7.265	0.668	0.220	1.433	0.143	0.211	2.794
66198	3.930	1.822	0.077	7.681	1.018	0.262	1.969	0.180	0.105	1.284
66199	0.404	0.310	0.036	1.852	0.092	0.029	0.652	0.022	0.017	0.171
66200	0.274	0.233	0.080	4.470	0.206	0.087	0.728	0.025	0.013	0.118
66201	0.787	0.494	0.053	2.528	0.217	0.084	1.196	0.038	0.022	0.226
66202	3.848	1.177	0.069	3.581	0.446	0.204	1.113	0.131	0.170	3.017
66203	0.596	0.389	0.051	2.276	0.180	0.062	1.048	0.027	0.019	0.205
66204	0.279	0.228	0.073	4.262	0.219	0.046	0.610	0.022	0.016	0.130
66205	0.264	0.229	0.087	4.289	0.204	0.062	0.627	0.019	0.016	0.129
66206	0.814	0.519	0.056	2.506	0.227	0.076	1.195	0.040	0.030	0.246
66207	0.270	0.225	0.085	4.258	0.225	0.090	0.642	0.017	0.014	0.129
66208	0.272	0.227	0.069	4.448	0.221	0.078	0.704	0.018	0.015	0.130
66209	0.292	0.224	0.074	4.339	0.204	0.065	0.655	0.029	0.013	0.126
66210	0.275	0.233	0.088	4.316	0.214	0.061	0.650	0.023	0.015	0.130
66211	0.276	0.222	0.069	4.445	0.234	0.083	0.626	0.023	0.015	0.126
66212	0.777	0.508	0.046	2.729	0.230	0.080	1.143	0.028	0.022	0.242
66213	1.471	0.217	0.051	0.706	0.296	0.049	0.549	0.050	0.053	0.621
66214	0.310	0.202	0.053	3.732	0.207	0.064	0.653	0.034	0.016	0.136
66215	0.278	0.228	0.061	4.465	0.202	0.065	0.702	0.033	0.015	0.133
66216	0.269	0.214	0.075	4.601	0.217	0.072	0.658	0.021	0.013	0.129
66217	0.275	0.226	0.064	4.436	0.206	0.058	0.604	0.021	0.015	0.142
JG-1	1.314	0.297	0.060	2.711	0.723	0.196	0.721	0.033	0.034	0.438

第51表　野笹遺跡出土の黒曜石石器、剥片の原材産地推定結果（縄文時代中期後葉～弥生時代）（1）

分析番号	試料番号，出土地区・層位，石材	原石産地（確率）	判定	備考
65908	1，排土　，黒曜石	霧ヶ峰(28%)	霧ヶ峰	
65909	2，11L　，黒曜石	霧ヶ峰(1.2%)	霧ヶ峰	
65910	3，2HⅡ　，黒曜石	霧ヶ峰(1.5%)	霧ヶ峰	
65911	4，NR1，3E　，黒曜石	焼け？　風化層厚い		
65912	5，NR1，3E　，黒曜石	焼け？　風化層厚い		
65913	6，NR1，4DS　，黒曜石	霧ヶ峰(0.3%)	霧ヶ峰	
65914	7，D区　，黒曜石	霧ヶ峰(2.6%)	霧ヶ峰	
65915	8，7HⅡ　，黒曜石	霧ヶ峰(7.7%)	霧ヶ峰	
65916	9，NR1，3ES　，黒曜石	霧ヶ峰(11%)	霧ヶ峰	
65917	11，3E　，黒曜石	霧ヶ峰(54%)	霧ヶ峰	
65918	12，NR1，4D　，黒曜石	霧ヶ峰(1.5%)	霧ヶ峰	
65919	13，NR4　，黒曜石	霧ヶ峰(14%)	霧ヶ峰	
65920	14，排土　，黒曜石	霧ヶ峰(2.8%)	霧ヶ峰	
65921	15，7HⅡ　，黒曜石	霧ヶ峰(0.2%)	霧ヶ峰	
65922	16，6J　，黒曜石	霧ヶ峰(2.9%)	霧ヶ峰	
65923	17，9L　，黒曜石	霧ヶ峰(27%)	霧ヶ峰	
65924	18，3E　，黒曜石	霧ヶ峰(20%)	霧ヶ峰	
65925	19，6IⅡ　，黒曜石	霧ヶ峰(4.8%)	霧ヶ峰	
65926	20，SD16　，黒曜石	霧ヶ峰(1.3%)	霧ヶ峰	
65927	21，2EⅡ　，黒曜石	霧ヶ峰(70%)	霧ヶ峰	
65928	22，6J　，黒曜石	霧ヶ峰(10%)	霧ヶ峰	
65929	23，NR1，5DS　，黒曜石	霧ヶ峰(0.1%)	霧ヶ峰	
65930	24，5A　，黒曜石	霧ヶ峰(56%)	霧ヶ峰	
65931	25，2EⅡ　，黒曜石	霧ヶ峰(16%)	霧ヶ峰	
65932	26，10Ⅱ　，黒曜石	焼け？　風化層厚い		
65933	27，SX01　，黒曜石	霧ヶ峰(14%)	霧ヶ峰	
65934	28，2HⅡ　，黒曜石	霧ヶ峰(35%)	霧ヶ峰	
65935	29，NR1，3EB　，黒曜石	霧ヶ峰(0.2%)	霧ヶ峰	
65936	30，SK296　，黒曜石	霧ヶ峰(51%)	霧ヶ峰	
65937	31，NR2　，黒曜石	霧ヶ峰(0.5%)	霧ヶ峰	

第52表　野笹遺跡出土の黒曜石石器、剥片の原材産地推定結果（縄文時代中期後葉～弥生時代）（2）

分析番号	試料番号，出土地区・層位，石材	原石産地（確率）	判定	備考
65938	32，6IJ　，黒曜石	霧ヶ峰(10%)	霧ヶ峰	
65939	33，SD16　，黒曜石	霧ヶ峰(2.4%)	霧ヶ峰	
65940	34，6IJ　，黒曜石	霧ヶ峰(10%)	霧ヶ峰	
65941	35，NR1，4DB　，黒曜石	霧ヶ峰(4.3%)	霧ヶ峰	
65942	36，3H　，黒曜石	霧ヶ峰(76%)	霧ヶ峰	
65943	37，NR1，2ES　，黒曜石	霧ヶ峰(0.2%)	霧ヶ峰	
65944	38，3E　，黒曜石	霧ヶ峰(0.1%)	霧ヶ峰	
65945	39，4G　，黒曜石	霧ヶ峰(12%)	霧ヶ峰	
65946	40，NR2，3H　，黒曜石	霧ヶ峰(5%)	霧ヶ峰	
65947	41，3F　，黒曜石	霧ヶ峰(1.5%)	霧ヶ峰	
65948	42，8H　，黒曜石	煙水晶？		
65949	43，NR1，3ES　，黒曜石	霧ヶ峰(8.4%)	霧ヶ峰	
65950	44，SD6　，黒曜石	霧ヶ峰(46%)	霧ヶ峰	
65951	45，10L　，黒曜石	霧ヶ峰(7.3%)	霧ヶ峰	
65952	46，10L　，黒曜石	霧ヶ峰(0.4%)	霧ヶ峰	
65953	47，2E　，黒曜石	霧ヶ峰(21%)	霧ヶ峰	
65954	48，2E　，黒曜石	霧ヶ峰(1.1%)	霧ヶ峰	
65955	49，3E　，黒曜石	霧ヶ峰(8.1%)	霧ヶ峰	
65956	50，3E　，黒曜石	霧ヶ峰(1.9%)	霧ヶ峰	
65957	51，NR1，1ES　，黒曜石	風化層厚い		
65958	52，SK393　，黒曜石	霧ヶ峰(0.5%)	霧ヶ峰	
65959	53，3E　，黒曜石	霧ヶ峰(1.3%)	霧ヶ峰	
65960	54，NR1，1ES　，黒曜石	霧ヶ峰(0.1%)	霧ヶ峰	
65961	55，SK567　，黒曜石	霧ヶ峰(55%)	霧ヶ峰	
65962	56，3E　，黒曜石	霧ヶ峰(4%)	霧ヶ峰	
65963	57，9L　，黒曜石	霧ヶ峰(7%)	霧ヶ峰	
65964	58，1F　，黒曜石	霧ヶ峰(0.2%)	霧ヶ峰	
65965	59，NR1，1ES　，黒曜石	霧ヶ峰(18%)	霧ヶ峰	
65966	60，3D　，黒曜石	霧ヶ峰(6.7%)	霧ヶ峰	

第53表　野笹遺跡出土の下呂石（黒）石片の原材産地推定結果（縄文時代中期後葉～弥生時代）（1）

分析番号	試料番号，出土地区・層位，石材	原石産地（確率） 水洗のみ非破壊風化層あり	原石産地（確率） エアーブラン処理風化層除く	判定	備考
65968	61，2FⅡ　，下呂石(黒)	下呂(52%)	下呂(61%)	下呂	
65969	62，8M　，下呂石(黒)	下呂(61%)	下呂(68%)	下呂	
65970	63，NR1，2E　，下呂石(黒)		下呂(1%)	下呂	
65971	64，6K　，下呂石(黒)	下呂(70%)	下呂(22%)	下呂	
65972	65，3E　，下呂石(黒)	下呂(0.3%)	下呂(77%)	下呂	
65973	66，2EⅡ　，下呂石(黒)	下呂(16%)	下呂(45%)	下呂	
65974	67，排土　，下呂石(黒)	下呂(0.2%)	下呂(21%)	下呂	
65975	68，3D　，下呂石(黒)		下呂(33%)	下呂	
65976	69，2GⅡ　，下呂石(黒)	下呂(2.6%)	下呂(2.8%)	下呂	
65977	70，NR3　，下呂石(黒)	下呂(0.1%)	下呂(29%)	下呂	
65978	71，NR1，5DS　，下呂石(黒)	下呂(17%)	下呂(14%)	下呂	
65979	72，2GⅡ　，下呂石(黒)	下呂(0.8%)	下呂(10%)	下呂	
65980	73，NR1，1D　，下呂石(黒)		下呂(51%)	下呂	
65981	74，SD13　，下呂石(黒)	下呂(0.1%)	下呂(37%)	下呂	
65982	75，4D　，下呂石(黒)	下呂(14%)	下呂(88%)	下呂	
65983	76，4E　，下呂石(黒)		下呂(2.2%)	下呂	
65984	77，SD04　，下呂石(黒)	下呂(63%)	下呂(0.9%)	下呂	
65985	78，NR1，3E　，下呂石(黒)	下呂(0.1%)	下呂(27%)	下呂	
65986	79，SD13　，下呂石(黒)	下呂(3.2%)	下呂(99%)	下呂	
65987	80，3D　，下呂石(黒)	下呂(0.1%)	下呂(13%)	下呂	
65988	81，NR1，4D　，下呂石(黒)	下呂(0.9%)	下呂(17%)	下呂	
65989	82，3DⅡ　，下呂石(黒)	下呂(63%)	下呂(56%)	下呂	
65990	83，NR2，3H　，下呂石(黒)	下呂(27%)	下呂(19%)	下呂	
65991	84，NR1，1ES　，下呂石(黒)	下呂(0.7%)	下呂(26%)	下呂	
65992	85，NR1，2DB　，下呂石(黒)		下呂(49%)	下呂	
65993	86，6F　，下呂石(黒)	下呂(71%)	下呂(4.8%)	下呂	
65994	87，NR1，1ES　，下呂石(黒)	下呂(0.9%)	下呂(81%)	下呂	
65995	88，3E　，下呂石(黒)	下呂(3.1%)	下呂(15%)	下呂	
65996	89，排土　，下呂石(黒)	下呂(0.1%)	下呂(70%)	下呂	
65997	90，SK76　，下呂石(黒)	下呂(1.4%)		下呂	

第54表　野笹遺跡出土の下呂石（黒）石片の原材産地推定結果（縄文時代中期後葉～弥生時代）（2）

分析番号	試料番号，出土地区・層位，石材	原石産地（確率） 水洗のみ非破壊風化層あり	原石産地（確率） エアーブラン処理風化層除く	判定	備考
65998	91，NR1，1ES　，下呂石(黒)		下呂(14%)	下呂	
65999	92，7HⅡ　，下呂石(黒)	下呂(6.4%)	下呂(14%)	下呂	
66000	93，4G　，下呂石(黒)	下呂(3%)	下呂(75%)	下呂	
66001	94，10L　，下呂石(黒)	下呂(34%)	下呂(59%)	下呂	
66002	95，3E　，下呂石(黒)	下呂(0.1%)	下呂(14%)	下呂	
66003	96，8HⅡ　，下呂石(黒)	下呂(13%)	下呂(53%)	下呂	
66004	97，暗渠　，下呂石(黒)	下呂(55%)	下呂(72%)	下呂	
66005	98，NR1，3ES　，下呂石(黒)	下呂(0.7%)	下呂(32%)	下呂	
66006	99，排土　，下呂石(黒)		下呂(7%)	下呂	
66007	100，NR1，3ES　，下呂石(黒)	下呂(16%)	下呂(33%)	下呂	
66008	101，7J　，下呂石(黒)	下呂(2.6%)	下呂(49%)	下呂	
66009	102，2HⅡ　，下呂石(黒)	下呂(11%)	下呂(13%)	下呂	
66010	103，1D～2D　，下呂石(黒)		下呂(72%)	下呂	
66011	104，8L　，下呂石(黒)	下呂(0.4%)	下呂(38%)	下呂	
66012	105，NR1，2ES　，下呂石(黒)	下呂(0.1%)	下呂(4.2%)	下呂	
66013	106，SB031　，下呂石(黒)	下呂(54%)	下呂(6.2%)	下呂	
66014	107，排土　，下呂石(黒)		下呂(52%)	下呂	
66015	108，NR2，2E　，下呂石(黒)	下呂(5.5%)	下呂(10%)	下呂	
66016	109，NR1，1EB　，下呂石(黒)	下呂(0.1%)	下呂(77%)	下呂	
66017	110，4E　，下呂石(黒)	下呂(0.1%)	下呂(29%)	下呂	
66018	111，暗渠　，下呂石(黒)	下呂(42%)	下呂(92%)	下呂	
66019	112，NR1，4ES　，下呂石(黒)	下呂(1.4%)	下呂(17%)	下呂	
66020	113，NR1，4DB　，下呂石(黒)		下呂(0.1%)	下呂	
66021	114，NR1，4C　，下呂石(黒)	下呂(13%)	下呂(16%)	下呂	
66022	115，NR1，5DS　，下呂石(黒)	下呂(0.1%)	下呂(41%)	下呂	
66023	116，NR1，2ES　，下呂石(黒)	下呂(0.4%)	下呂(56%)	下呂	
66024	117，7L　，下呂石(黒)	下呂(1.1%)	下呂(18%)	下呂	
66025	118，NR1，3ES　，下呂石(黒)		下呂(64%)	下呂	
66026	119，NR1　，下呂石(黒)	下呂(1.2%)	下呂(70%)	下呂	
66027	120，4H　，下呂石(黒)	下呂(1.8%)	下呂(5%)	下呂	

第55表　野笹遺跡出土の下呂石(黒)石片の原材産地推定結果(縄文時代中期後葉～弥生時代)(3)

分析番号	試料番号，出土地区・層位，石材	原石産地(確率) 水洗のみ非破壊風化層あり	原石産地(確率) エアーブラシ処理風化層除く	判定	備考
66028	121, 1Dベルト　，下呂石(黒)	下呂(0.2%)	下呂(55%)	下呂	
66029	122, NR1, 3ES　，下呂石(黒)		下呂(17%)	下呂	
66030	123, NR1, 5D　，下呂石(黒)		下呂(60%)	下呂	
66031	124, NR1, 5DS　，下呂石(黒)	下呂(0.2%)	下呂(74%)	下呂	
66032	125, 排土　，下呂石(黒)	下呂(31%)	下呂(21%)	下呂	
66033	126, NR1, 5D　，下呂石(黒)	下呂(0.3%)	下呂(26%)	下呂	
66034	127, NR1, 1ES　，下呂石(黒)		下呂(55%)	下呂	
66035	128, 4DⅡ　，下呂石(黒)		下呂(7.2%)	下呂	
66036	129, 3C　，下呂石(黒)	下呂(0.4%)	下呂(5.7%)	下呂	
66037	130, SD13　，下呂石(黒)	下呂(7.2%)	下呂(5.2%)	下呂	
66038	131, NR1, 1ES　，下呂石(黒)		下呂(38%)	下呂	
66039	132, NR1, 2ES　，下呂石(黒)	下呂(12%)	下呂(20%)	下呂	
66040	133, NR1, 3E　，下呂石(黒)		下呂(9.9%)	下呂	
66041	134, 2D～3D　，下呂石(黒)	下呂(2.8%)	下呂(39%)	下呂	
66042	135, NR1, 5DS　，下呂石(黒)	下呂(0.8%)	下呂(5.5%)	下呂	
66043	136, 3H　，下呂石(黒)	下呂(4.6%)	下呂(30%)	下呂	
66044	137, 3HⅡ　，下呂石(黒)	下呂(78%)	下呂(18%)	下呂	
66045	138, SD13　，下呂石(黒)	下呂(7.2%)	下呂(54%)	下呂	
66046	139, 2HⅡ　，下呂石(黒)	下呂(3.4%)	下呂(58%)	下呂	
66047	140, 6IJ　，下呂石(黒)		下呂(0.2%)	下呂	
66048	141, NR1, 3ES　，下呂石(黒)	下呂(0.1%)	下呂(12%)	下呂	
66049	142, 8HⅡ　，下呂石(黒)	下呂(24%)	下呂(36%)	下呂	
66050	143, 7H　，下呂石(黒)	下呂(4.4%)	下呂(7.3%)	下呂	
66051	144, 排土　，下呂石(黒)		下呂(1.3%)	下呂	
66052	145, 2E　，下呂石(黒)	下呂(3.7%)	下呂(35%)	下呂	
66053	146, NR1, 3E　，下呂石(黒)	下呂(0.1%)	下呂(49%)	下呂	
66054	147, 1EⅡ　，下呂石(黒)	下呂(9.5%)	下呂(41%)	下呂	
66055	148, 4C　，下呂石(黒)	下呂(0.7%)	下呂(34%)	下呂	
66056	149, 2FⅡ　，下呂石(黒)	下呂(54%)	下呂(33%)	下呂	
66057	150, 2GⅡ　，下呂石(黒)	下呂(0.1%)	下呂(33%)	下呂	

第56表　野笹遺跡出土の下呂石(黒)石片の原材産地推定結果(縄文時代中期後葉～弥生時代)(4)

分析番号	試料番号，出土地区・層位，石材	原石産地(確率) 水洗のみ非破壊風化層あり	原石産地(確率) エアーブラシ処理風化層除く	判定	備考
66058	151, 4E　，下呂石(黒)	下呂(1.7%)	下呂(54%)	下呂	
66059	152, 3F　，下呂石(黒)		下呂(0.2%)	下呂	
66060	153, 2GⅡ　，下呂石(黒)	下呂(0.1%)	下呂(37%)	下呂	
66061	154, NR1, 4D　，下呂石(黒)	下呂(0.1%)	下呂(93%)	下呂	
66062	155, NR1, 1ES　，下呂石(黒)		下呂(17%)	下呂	
66063	156, 2E　，下呂石(黒)	下呂(0.1%)	下呂(53%)	下呂	
66064	157, 4E　，下呂石(黒)	下呂(2.2%)	下呂(1.1%)	下呂	
66065	158, 排土　，下呂石(黒)	下呂(13%)	下呂(62%)	下呂	
66066	159, 3E　，下呂石(黒)		下呂(36%)	下呂	
66067	160, NR1, 1ES　，下呂石(黒)	下呂(0.1%)	下呂(61%)	下呂	

第57表　野笹遺跡出土の下呂石石器(エアーブラシ)の原材産地推定結果(縄文時代中期後葉～弥生時代)(1)

分析番号	試料番号，出土地区・層位，石材	原石産地(確率) 水洗のみ非破壊風化層あり	原石産地(確率) エアーブラシ処理風化層除く	判定	備考
66068	161, NR1, 1ES　，下呂石		下呂(15%)	下呂	
66069	162, NR1, 2ES　，下呂石		下呂(35%)	下呂	
66070	163, 2EDベルト　，下呂石		下呂(10%)	下呂	
66071	164, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(0.3%)	下呂(29%)	下呂	
66072	165, 0D-1Dベルト　，下呂石		下呂(3.5%)	下呂	
66073	166, NR1, 2ES　，下呂石		下呂(46%)	下呂	
66074	167, 9L　，下呂石	下呂(26%)	下呂(5.9%)	下呂	
66075	168, NR1, 1ES　，下呂石		下呂(7.1%)	下呂	
66076	169, NR1, 1ES　，下呂石		下呂(14%)	下呂	
66077	170, NR1, 1ES　，下呂石		下呂(20%)	下呂	
66078	171, NR1, 1ES　，下呂石		下呂(31%)	下呂	
66079	172, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(0.1%)	下呂(9.8%)	下呂	
66080	173, NR1, 1ES　，下呂石		下呂(59%)	下呂	
66081	174, NR1, 1ES　，下呂石		下呂(5.4%)	下呂	
66082	175, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(3%)	下呂(71%)	下呂	
66083	176, NR1, 1ES　，下呂石		下呂(30%)	下呂	
66084	177, NR1, 1ES　，下呂石		下呂(0.2%)	下呂	
66085	178, NR1, 1ES　，下呂石		下呂(2.8%)	下呂	
66086	179, NR1, 1DS　，下呂石		下呂(0.1%)	下呂	
66087	180, NR1, 1E　，下呂石		下呂(6%)	下呂	

第58表　野笹遺跡出土の下呂石片(エアーブラシ)の原材産地推定結果(縄文時代中期後葉～弥生時代)(2)

分析番号	試料番号，出土地区・層位，石材	原石産地(確率)	判定	備考
66088	181, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(23%)	下呂	
66089	182, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(76%)	下呂	
66090	183, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(12%)	下呂	
66091	184, NR1, 2ES　，下呂石	下呂(11%)	下呂	
66092	185, NR1, 2ES　，下呂石	下呂(47%)	下呂	
66093	186, 排土　，下呂石	下呂(9.3%)	下呂	
66094	187, NR1, 2ES　，下呂石	下呂(58%)	下呂	
66095	188, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(4.8%)	下呂	
66096	189, NR1, 1DS　，下呂石	下呂(37%)	下呂	
66097	190, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(61%)	下呂	
66098	191, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(9.7%)	下呂	
66099	192, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(10%)	下呂	
66100	193, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(35%)	下呂	
66101	194, NR1, 1E　，下呂石	下呂(0.2%)	下呂	
66102	195, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(18%)	下呂	
66103	196, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(33%)	下呂	
66104	197, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(58%)	下呂	
66105	198, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(7.3%)	下呂	
66106	199, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(20%)	下呂	
66107	200, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(30%)	下呂	
66108	201, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(63%)	下呂	
66109	202, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(46%)	下呂	
66110	203, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(2.4%)	下呂	
66111	204, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(80%)	下呂	
66112	205, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(90%)	下呂	
66113	206, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(17%)	下呂	
66114	207, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(50%)	下呂	
66115	208, NR1, 1E　，下呂石	下呂(41%)	下呂	
66116	209, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(14%)	下呂	
66117	210, NR1, 1ES　，下呂石	下呂(16%)	下呂	

第59表　野笹遺跡出土の下呂石石片（エアーブラシ）の原材産地推定結果（縄文時代中期後葉～弥生時代）(3)

分析番号	試料番号，出土地区・層位，石材	原石産地（確率）	判定	備考
66118	211，NR1，1ES　，下呂石	下呂(25%)	下呂	
66119	212，NR1，1ES　，下呂石	下呂(22%)	下呂	
66120	213，NR1，2ES　，下呂石	下呂(14%)	下呂	
66121	214，NR1，2ES　，下呂石	下呂(1.4%)	下呂	
66122	215，NR1，1ES　，下呂石	下呂(22%)	下呂	
66123	216，NR1，1ES　，下呂石	下呂(90%)	下呂	
66124	217，NR1，1ES　，下呂石	下呂(3%)	下呂	
66125	218，NR1，2ES　，下呂石	下呂(2.2%)	下呂	
66126	219，NR1，1ES　，下呂石	下呂(8.1%)	下呂	
66127	220，NR1，1ES　，下呂石	下呂(1.9%)	下呂	
66128	221，9L　，下呂石	下呂(2.5%)	下呂	
66129	222，NR1，2ES　，下呂石	下呂(56%)	下呂	
66130	223，NR1，2ES　，下呂石	下呂(1.1%)	下呂	
66131	224，6IJ　，下呂石	下呂(22%)	下呂	
66132	225，8M　，下呂石	下呂(55%)	下呂	
66133	226，NR1，2E　，下呂石	下呂(7.3%)	下呂	
66134	227，NR1，1ES　，下呂石	下呂(19%)	下呂	
66135	228，NR1，1ES　，下呂石	下呂(0.1%)	下呂	
66136	229，NR1，2ES　，下呂石	下呂(11%)	下呂	
66137	230，NR1，2ES　，下呂石	下呂(67%)	下呂	
66138	231，NR1，1ES　，下呂石	下呂(38%)	下呂	
66139	232，NR1，1ES　，下呂石	下呂(51%)	下呂	
66140	233，NR1，1ES　，下呂石	下呂(26%)	下呂	
66141	234，NR1，2ES　，下呂石	下呂(58%)	下呂	
66142	235，NR1，1ES　，下呂石	下呂(7%)	下呂	
66143	236，NR1，1ES　，下呂石	下呂(4.3%)	下呂	
66144	237，NR1，4D　，下呂石	下呂(5.9%)	下呂	
66145	238，NR1，1DS　，下呂石	下呂(10%)	下呂	
66146	239，NR1，1E　，下呂石	下呂(6.6%)	下呂	
66147	240，NR1，2ES　，下呂石	下呂(D2＝90)	下呂？	

第60表　野笹遺跡出土の下呂石石片（エアーブラシ）の原材産地推定結果（縄文時代中期後葉～弥生時代）(4)

分析番号	試料番号，出土地区・層位，石材	原石産地（確率）	判定	備考
66148	241，NR1，1ES　，下呂石	下呂(34%)	下呂	
66149	242，NR1，1ES　，下呂石	下呂(34%)	下呂	
66150	243，NR1，1DS　，下呂石	下呂(10%)	下呂	
66151	244，NR1，1ES　，下呂石	下呂(23%)	下呂	
66152	245，NR1，2ES　，下呂石	下呂(84%)	下呂	
66153	246，NR1，1ES　，下呂石	下呂(84%)	下呂	
66154	247，1D，C，B　，下呂石	下呂(1.6%)	下呂	
66155	248，NR1，1ES　，下呂石	下呂(57%)	下呂	
66156	249，NR1，2ES　，下呂石	下呂(2.5%)	下呂	
66157	250，NR1，1ES　，下呂石	下呂(87%)	下呂	
66158	251，SB03　，下呂石	下呂(75%)	下呂	
66159	252，NR1，2E　，下呂石	下呂(16%)	下呂	
66160	253，NR1，2ES　，下呂石	下呂(82%)	下呂	
66161	254，NR1，1ES　，下呂石	下呂(34%)	下呂	
66162	255，NR1，2ES　，下呂石	下呂(4%)	下呂	
66163	256，NR1，1ES　，下呂石	下呂(16%)	下呂	
66164	257，NR1，2ES　，下呂石	下呂(47%)	下呂	
66165	258，NR1，2ES　，下呂石	下呂(7.7%)	下呂	
66166	259，NR1，2ES　，下呂石	下呂(46%)	下呂	
66167	260，NR1，3DS　，下呂石	下呂(6.2%)	下呂	

第61表　野笹遺跡出土の安山岩石器の原材産地推定結果（縄文時代中期後葉～弥生時代）(1)

分析番号	試料番号，出土地区・層位，石材	原石産地（確率）	判定	備考
66168	261，NR1，2E　，安山岩	野笹No.261他群(62%)	野笹No.261他群	
66169	262，NR1，3E　，安山岩	野笹No.262他群(81%)	野笹No.262他群	
66170	263，NR1，1ES　，安山岩	野笹No.261他群(54%)	野笹No.261他群	
66171	264，NR1，3DB　，安山岩	野笹No.261他群(41%)	野笹No.261他群	
66172	265，NR1，1ES　，安山岩	野笹No.261他群(33%)	野笹No.261他群	
66173	266，NR1，2E　，安山岩	野笹No.261他群(36%)	野笹No.261他群	
66174	267，NR1，2ES　，安山岩	野笹No.261他群(75%)	野笹No.261他群	
66175	268，NR1，3DB　，安山岩	野笹No.261他群(81%)	野笹No.261他群	
66176	269，NR1，2E　，安山岩	野笹No.261他群(42%)	野笹No.261他群	
66177	270，5A　，安山岩	野笹No.261他群(95%)	野笹No.261他群	
66178	271，2EⅡ　，安山岩	野笹No.271他群(65%)	野笹No.271他群	
66179	272，NR1，1ES　，安山岩	野笹No.261他群(95%)	野笹No.261他群	
66180	273，2B～2D　，安山岩	野笹No.261他群(22%)	野笹No.261他群	
66181	274，6IⅡ　，安山岩	野笹No.271他群(31%)	野笹No.271他群	
66182	275，NR1，5CB　，安山岩	野笹No.271他群(59%)	野笹No.271他群	
66183	276，SD14C　，安山岩	野笹No.261他群(56%)	野笹No.261他群	
66184	277，SB26　，安山岩	野笹No.261他群(90%)	野笹No.261他群	
66185	278，3E　，安山岩			
66186	279，NR1，盛土　，安山岩	野笹No.261他群(81%)	野笹No.261他群	
66187	280，NR1，3ES　，安山岩	野笹No.261他群(87%)	野笹No.261他群	
66188	281，SK08　，安山岩	二上山(38%)	二上山	
66189	282，8I　，安山岩	野笹No.282他群(83%)	野笹No.282他群	
66190	283，NR1，5D　，安山岩	野笹No.282他群(28%)	野笹No.282他群	
66191	284，NR1，1ES　，安山岩	二上山(3%)	二上山	
66192	285，NR2，1E　，安山岩	野笹No.271他群(62%)	野笹No.271他群	
66193	286，NR1，1ES　，安山岩	二上山(27%)	二上山	
66194	287，NR1，1ES　，安山岩			
66195	288，排土　，安山岩	二上山(35%)	二上山	
66196	289，NR1，1EB　，安山岩	野笹No.289他群(30%)	野笹No.289他群	
66197	290，2EⅡ　，安山岩	野笹No.289他群(30%)	野笹No.289他群	

第62表　野笹遺跡出土の安山岩石器の原材産地推定結果（縄文時代中期後葉～弥生時代）(2)

分析番号	試料番号，出土地区・層位，石材	原石産地（確率）	判定	備考
66198	291，11N　，安山岩			
66199	292，NR1，3E　，安山岩	野笹No.271他群(92%)	野笹No.271他群	
66200	293，2H　，安山岩	二上山(0.2%)	二上山	
66201	294，1EⅡ　，安山岩	野笹No.282他群(84%)	野笹No.282他群	
66202	295，1EⅡ　，安山岩	野笹No.295群(84%)	野笹No.295群	
66203	296，4H　，安山岩	野笹No.261他群(58%)	野笹No.261他群	
66204	297，SK12　，安山岩	二上山(56%)	二上山	
66205	298，2EⅡ　，安山岩	二上山(0.7%)	二上山	
66206	299，8LM　，安山岩	野笹No.282他群(65%)	野笹No.282他群	
66207	300，NR1，1ES　，安山岩	二上山(0.3%)	二上山	
66208	301，NR1，2E　，安山岩	二上山(5.9%)	二上山	
66209	302，NR1，1ES　，安山岩	二上山(15%)	二上山	
66210	303，2B～2D　，安山岩	二上山(1.9%)	二上山	
66211	304，NR1，1ES　，安山岩	二上山(22%)	二上山	
66212	305，NR1，3D　，安山岩	野笹No.282他群(24%)	野笹No.282他群	
66213	306，1EⅡ　，安山岩	下呂(0.7%)	下呂	
66214	307，SB08　，安山岩	向出No.49(30%)	向出No.49遺物群	
66215	308，NR1，2E　，安山岩	二上山(2.8%)	二上山	
66216	309，NR1，1ES　，安山岩	二上山(23%)	二上山	
66217	310，排土　，安山岩	二上山(95%)	二上山	

注意：近年産地分析を行う所が多くなりましたが、判定根拠が曖昧にも関わらず結果のみを報告される場合があます。本報告では日本における各遺跡の産地分析の判定基準を一定にして、産地分析を行っていますが、判定基準の異なる研究方法（土器様式の基準も研究方法で異なるように）にも関わらず、似た産地名のために同じ結果のように思われるが、全く関係（相互チェックなし）ありません。本研究結果に連続させるには本研究法で再分析が必要です。本報告の分析結果を考古学資料とする場合には常に同じ基準で判定されている結果で古代交流圏などを考察をする必要があります。

第6章　考察とまとめ

1．地形と環境

完新世に形成された段丘

今回の調査で、本遺跡が立地するＬ４の段丘の段丘礫層の直上から縄文土器が４点出土した（第３章)。これらの縄文土器は時期を特定するのは困難であるが、縄文時代中期頃のものである可能性が高い。

また、本遺跡のＬ４面上で出土した遺物すべてを確認すると、１期とした縄文時代中期後半の遺物（408～410）がもっとも古いもので、それより古い遺物は確認されていない。

さらに、第３図の地形区分と遺跡の分布を見るとＬ４面上に立地する遺跡は、すべて弥生時代以降のものばかりで、縄文時代やそれより古い遺跡の存在は報告されていない。

これらのことから、Ｌ４の段丘は、縄文時代の始めにはまだ段丘化しておらず、河川として機能していたことがわかった。そして、１期の縄文時代中期後半頃にようやく人間が生活可能な状態になったものと考えられる。そのため、美濃加茂盆地内の５面の低位段丘の内、低い方の２面の段丘（Ｌ４、Ｌ５）は完新世に形成されたものとわかった。

従来、河岸段丘の形成は、完新世よりも古い時代と考えられていたが、埋蔵文化財の調査が盛んに行われてきた結果、完新世に形成された段丘の存在もわかってきた。同様な例として、岐阜県の旧徳山村の遺跡群や（岐阜県文化財保護センター　2000)、新潟県の奥三面遺跡群（新潟県朝日村教育委員会　1996）で、下部の段丘からは縄文時代の遺跡が発見され、それより上部の段丘で旧石器時代の遺跡が発見されている例が報告されている。

風成堆積

地山層の観察や粒度組成（第５章第２節）の結果から、地山とした砂層の上部は、風による堆積であることがわかった。これまで内陸部での風成堆積層の報告はほとんどされていない。しかし、現在の河川を同じ視点で観察すると、小規模な河川でも、場所によっては風によると思われる砂の堆積が普通に確認できる。したがって、大規模な河川の周囲では、風成堆積層は、普通に存在するものと考えられる。

これまで、我々は内陸部の段丘上の遺跡の調査では、有機分を含まない砂層が出現すると、これは昔の河川による水成堆積だからこれより下に遺跡は存在しないと考えてきた。しかし、風成堆積が内陸部でも起こりうるということであれば、これ以上下には遺跡は存在しないという地山面の確定により慎重な態度が必要になってくるだろう。

今回の調査で、Ｄ区のＳＤ21は、覆土の色が地山と酷似していたため、検出が困難であった。このような現象も砂質土の開けた地形の遺跡では、風成堆積によって容易に起こりうるものだという認識が必要になってくる。

なお、現木曽川の河床を見ると大きな礫や第三紀の岩盤が露出していて、その風景に見慣れた目には本遺跡の２ｍにおよぶ砂の堆積が異常なように思える。しかし、現河川はダムができたために砂が流されて現在のような状態になっただけであり、自然な河川の状態では大量な砂の堆積が存在したのである。昭和初期のこの地域の写真を見たり、今渡ダムが完成する以前の木曽川の様子を知っている

方に聞くと、砂丘状の地形がこの近辺の木曽川の河原に存在していたことがわかる。

2．遺構と遺物の変遷

各期ごとの遺構と遺物の変遷を概観してみたい。

1～3期

遺構は、住居跡と、自然流路（ＮＲ１下層）が検出されている。住居跡は一つは時期不明であるが、もう1軒は2期のもので、流路についても出土する土器は2期のものがほとんどである。遺物全体で見ても2期に一つのピークが見られる。

4～5期

この期は、遺物は見られるが、遺構は確実にこの期になるというものは確認されていない。土器は自然流路（ＮＲ１上層、ＮＲ３、ＮＲ５）を中心にまとまった出方をしている。この期は、集落は近くに存在し、調査地内は採集地として利用されていたものと考えられる。1000本以上の打製石斧が出土し、しかも完形のものより欠損品の方が大量に出土していることがこのことを裏付けていると思われる。

6期～11期

6期の終わり～8期のはじめに一つのピークが見られる。特に7期の遺物が最も多く出土している。遺構も松菊里型類似の住居や壺棺墓という特殊なものが見つかっており、当時この地域の拠点的な集落の一つがここに存在していたものと思われる。

9期という空白期の後、10～11期にもう一つのピークがある。特にＤ区の西端で住居跡が集中して検出され、当時の集落がここにあったものと考えられる。遺物は、遺構から良好な一括資料が出土しているが、包含層等からの出土量は少ない。

12～14期

13期の特に6世紀末～7世紀に遺構と遺物が集中する。遺構は住居跡がＡ・Ｂ・Ｃ区で23軒集中して検出され、当時大規模な集落がここに存在したことがわかった。この集落は、6世紀末に突然出現し、8世紀まで続かずに終わってしまう。そのため、この集落の成立には、政治的な力が働いていた可能性がある。

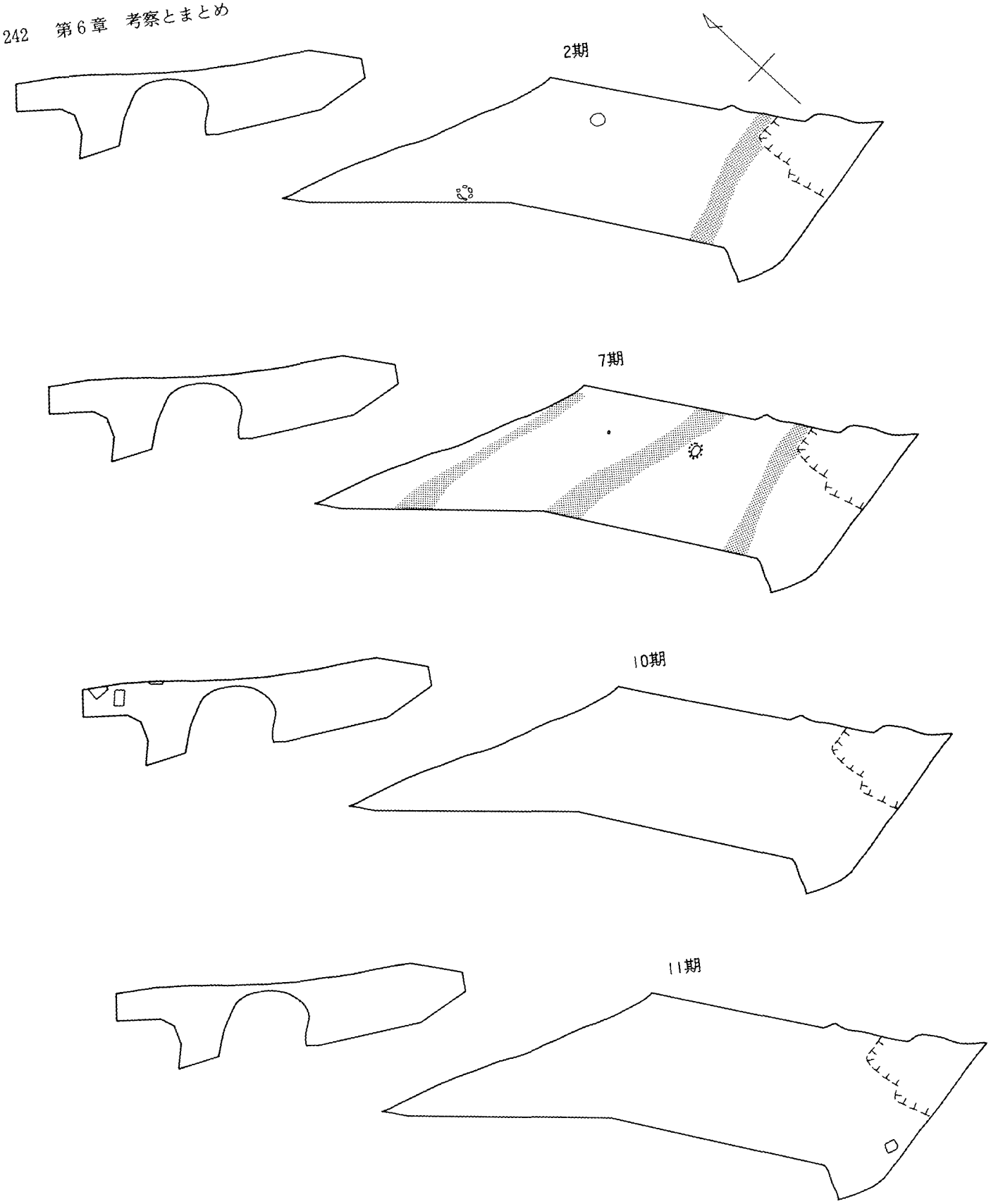
住居はどれも北側の側壁中央に竈を持つ。そして、若干の例外を除いて、竈を持つ側壁が、Ａ・Ｂ・Ｃ区とＤ区の境にある段丘崖とほぼ平行となっており、段丘崖が、住居を造る際の何らかの規制となっていた可能性がある。また、下の段丘に住居が重なり合うほど密集しているのに対し、上の段丘にはこの時代の住居が全くなかった。その理由としては、下の段丘は、段丘崖から飲料水の確保が容易であることや、計画的な集落の立地であった可能性などが考えられる。

本遺跡の南東には、赤池古墳群と呼ばれる後期古墳の群集墳があり、集落域と墓域という関係であった可能性が高い。

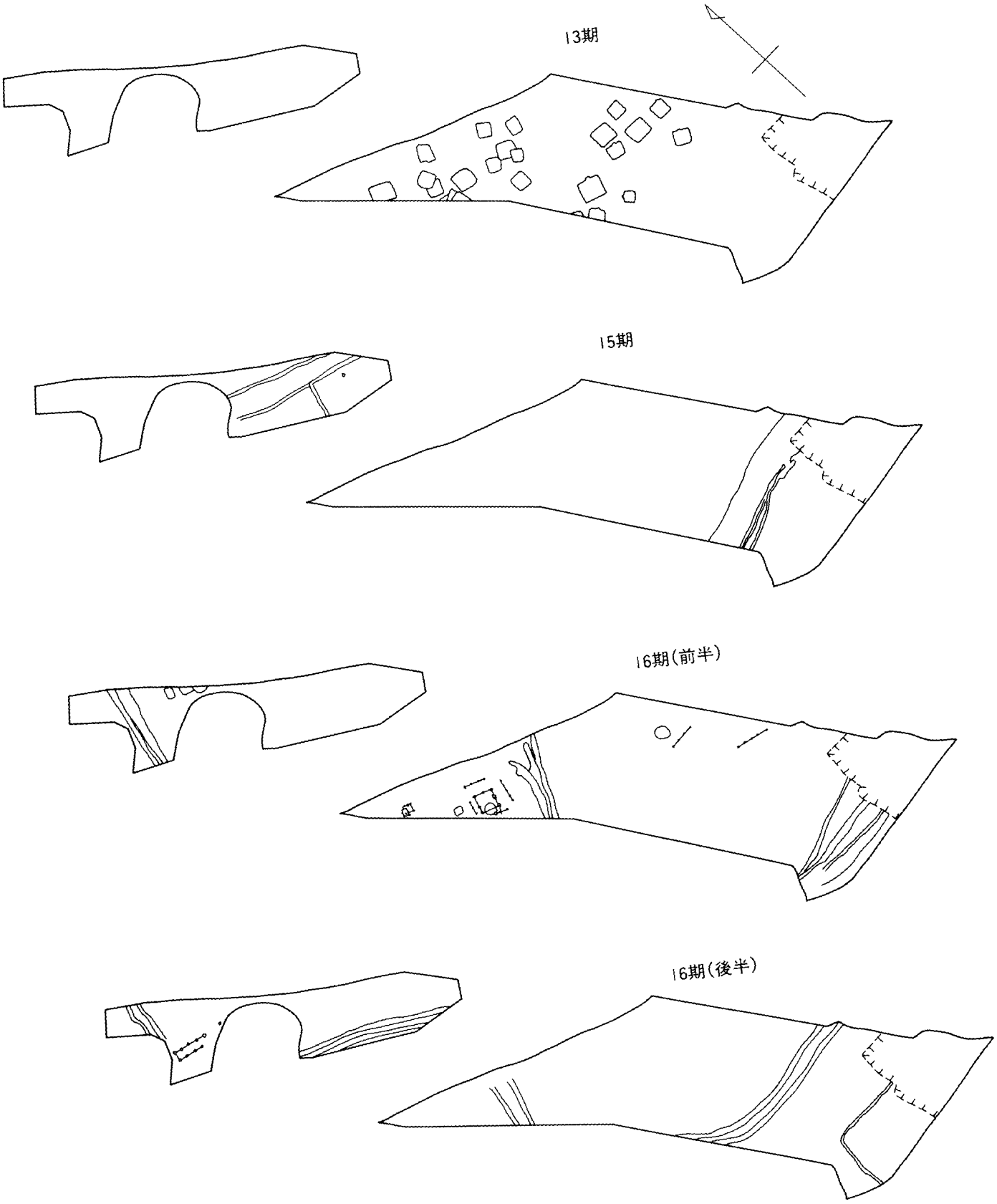
15期

この期では、敷石遺構のある大溝（ＳＲ１）が特筆される。これだけの大規模な施設を作っているので、何らかの建物が付近にあったと思われるが、この遺構と対応するものは明確にはわからなかった。おそらくＳＲ１の周辺にあるピット群に、対応する遺構があるものと思われる。

ＳＲ１は長くは使用されず意図的に埋められ、後は水田利用していた可能性が高いことが土層観察



第153図　遺構変遷図(1)



第154図　遺構変遷図(2)

や、プラント・オパール分析から明らかになった。その時期は12世紀頃と推定される。12世紀は全国的に台地の大規模な土地開発が始まった時期であり、ＳＲ１はこの開発により消滅したものと思われる。

Ｄ区ＳＤ５が屋敷の区画溝である可能性が高いことはすでに述べた。この区画溝と、ＳＤ６、ＳＤ８は東西方向に平行にのびているため、道路遺構である可能性が高い。仮に道路であるとすると道路幅は約６ｍとなり、かなり大規模な道路となる。ここでは可能性を指摘するだけにとどめたいが、今後、付近の調査で同様な類例の増加が期待される。

16期

この期のものと思われる遺構は多く、遺構の切り合いから、前期と後期の２時期に分けた。前期は、Ａ・Ｂ・Ｃ区の西側に建物があったと考えられるが、全容は不明である。しかしＳＤ16、ＳＤ17の遺物の量と質から屋敷跡が存在した可能性が高い。他にもＤ区の西側、Ａ・Ｂ・Ｃ区の中央北側にＳＸやＳＡ、ピット群等の遺構が検出されており、何らかの建物があった可能性がある。

後期の遺構としたものは、道路遺構である。切り合いから他の16期の遺構より新しいが、埋土から出土する遺物から16期よりも新しくはならないと思われる。検出された道路遺構を遺跡全体で見ると、一部調査区外に出ていて不明だが、上の段丘から下の段丘へと一続きになった道路にみえる。

17期

中世の遺物が、質、量ともに大量に出土しているのに対し、近世の遺物はほとんど出土していないのが今回の調査の特徴の一つである。このことから、この期以降は調査区内は居住域としてではなく、耕作地として使われたと考えられる。大量に検出された芋穴と思われる土坑の存在も、このことを裏付けていると思われる。

調査区内を通る市道の下から検出された暗渠により、この道路は明治期に造られたものとわかった。従って、現代の調査区付近の土地利用の形態は、明治時代以降大きく変化していないものと思われる。

３．石器をめぐる諸問題

石器組成から見た特徴

今回の調査で出土した石器は、特殊な組成をしている。それは打製石斧や下呂石の石核の出土量が膨大であるということである。これらの石器はＮＲ１からの出土がほとんどであった。ここから出土している土器から、時期は縄文時代晩期から弥生時代中期初頭と考えられ、その当時ＮＲ１は、不要物の投棄場になっていた可能性がある。

打製石斧の出土量が多く、しかも折損品の割合が完形のものよりも多いことから、ここで採集や簡単な栽培がなされていたと考えられる。また、石材が木曽川で容易に採取できることも出土量が多い理由の一つであろう。

下呂石の円礫の石核が多いことは、この地が下呂石の二次的な産地として機能しており、木曽川の畔にある遺跡という特徴を表していると思われる。

ただし、大きな河川の畔の遺跡としては、石錘の出土量がさほど多くない。

下呂石について

下呂石の円礫の石核に両極につぶれが見られるものが多かったことから、小さな円礫から石器に利用できる剥片を何とか採取しようという苦心が伺われる。そして若干ではあるが、下呂石の露頭近く

で採取したと思われる石核の存在とその石の質が良好であったことは、近くで下呂石がたくさん拾えるにもかかわらず、良質な石材を確保するために露頭やその近くで採取された石核も入手していたことを表していると思われる。

下呂石は円礫の方が風化が激しく、露頭近くで採取したと思われるものはあまり風化していなかった。そのため、下呂石でも露頭によって石材の質に差があることが予想されたが、藁科氏による蛍光X線分析（第5章第7節）では両者を明瞭に区別できるような差が見られなかった。このことから、二つの下呂石に風化の差が見られたのは、空気中にさらされるようになってからの時間差（数万年のオーダーと思われる）が考えられる。

弥生時代の石器について

今回の調査で出土した石器はほとんどのものが包含層や谷から出ているので、時代が特定できないものがほとんどであるが、弥生時代の石器と考えられるものが多く出土している。粗製剥片石器、有肩扇状石器、靴形石器、磨製石包丁等がそれに当たる。粗製剥片石器はその名称の問題点が指摘されているが、この石器があまり定型化されておらず、使用形態も使用痕分析で明らかになりつつあるがまだはっきりとわかっていないことが多いので、愛知県朝日遺跡の報告（愛知県埋蔵文化財センター 1993）にならい、この石器の形状からこの名称で報告した。佐野（1993）が同市内の尾崎遺跡の報告の中で「小型直縁刃石器」としたものは、これに含まれると思われる。この石器に特に注目するのは、まず第一に磨製石包丁の出土量が少ない東海地方では、この石器が収穫具として利用されていたと考えられることである。

そして第二に、佐野も指摘しているように、この石器が打製石斧や剥片と区別が困難で、見逃されやすい可能性を持っていることである。この地域の弥生時代の遺跡ではこの石器は普通に出土するものと考えられ、この石器を正確に抽出していくことはこの地域の弥生時代の生業を考える上で重要と思われる。

4．自然化学分析から

竈石の石材について

本調査で検出した竈は、ほとんどが「サバ」と呼ばれる軟質な凝灰質砂岩を使用していた。特に竈の両袖の上に水平に置く「天井石」はすべてこの石材であった。これは「天井石」は薄く平たいことが要求されるため、柔らかく加工しやすいこの石が用いられたものと思われる。この石材は第3紀前期中新統の瑞浪層群の堆積岩と思われ、美濃加茂市から可児市、瑞浪市にかけて分布するものである。本遺跡のすぐ下の木曽川にもこの露頭が存在するが、明治期には可児市ではこの石で竈を作り流通していたという。そのため、本遺跡で使用されている軟質岩石がどこから持ち込まれたかを特定するために、本遺跡の竈石と周辺域から採取した岩石を偏光顕微鏡による観察を試みた（第5章第4節）。結果は本遺跡から最も近い木曽川河床から採取したものがもっともよく類似していた。本遺跡では近くの木曽川からこの石を持ち込んで竈石としていたものと思われる。

本遺跡から2km北西にある尾崎遺跡でも竈の「天井石」に同様の軟質岩石が利用されていたことがわかっている（岐阜県文化財保護センター 1993）。対岸の宮之脇遺跡群や牧野小山遺跡でも竈の袖石にサバ石が用いられているという報告がある（可児市教育委員会 1994、岐阜県文化財保護センター 1998）。しかし3km北にある佐口遺跡では竈に石を使用していないことが報告されている（岐阜

県文化財保護センター　1999)。これらのことから、当時竈に使用した石材については木曽川近辺で見られるものの、広範囲に流通していないことが伺われる。

石器石材の産地分析について

本遺跡から出土した石器の石材について産地分析を試みた（第5章第7節)。その結果、黒曜石はすべて霧ヶ峰産であった。同様の分析を、藤橋村（旧徳山村）戸入村平遺跡で行った結果（藁科1994）では、霧ヶ峰産のものがほとんどであったが出土量は、本遺跡に比べて少なかった。このことから、霧ヶ峰に近い本遺跡はより遠い戸入村平遺跡に比べて黒曜石が多く入ってきていることがわかる。また、戸入村平遺跡では、神津島や伊豆半島柏峠産の黒曜石もあり、複数の産地の黒曜石が入ってきていたが、本遺跡では霧ヶ峰の一カ所だけであった。

下呂石、サヌカイト類では、下呂石の他にも、二上山産のサヌカイトも入ってきていることがわかった。そのほかの安山岩類では、産地がこれまで特定されていない6つの野笹遺物群ができた。これらの安山岩は円礫の表皮を残しており、下呂石やサヌカイトほど緻密ではない岩石で、同じ木曽川で採集されたものと想定していた。この結果から木曽川流域にこの石材の産地があるか、円礫として遺跡に持ち込まれたかの二つの可能性が考えられる。なお、肉眼観察ではこの野笹遺物群とされた安山岩を用いた石器の量はあまり多くないと思われる。

安山岩の内、一点が大阪府の向出遺跡で使用された向出No.49遺物群に同定された。この遺跡では下呂石製の遺物も使用されているということなので、交易の一つの経路が明らかになったといえる。

5．おわりに

土器群について

本調査で一番の成果となったのは、各時代の土器が大量に出土したことである。特に、縄文時代中期後葉、弥生時代中期初頭・後期、6～7世紀、中世の土器群は、かなりまとまったものであり、この地域の基準資料となるものも含んでいる。しかし、著者の力量不足と他にそれらをまとめるのにふさわしい研究者がたくさんいるので、ここでは報告するにとどめたい。

キーワードは「河岸段丘」と「木曽川」

この遺跡から見つかった溝や自然流路等の水源は、段丘崖からの湧き水と考えられる。これらはすべて東から西に流れており、埋没礫堆によると思われる微地形に影響されていると考えられる。こうした湧き水は木曽川本流や他の河川と比べて水量が安定しており利用しやすいものであったであろう。本調査で見つかった遺構の立地はどの時代のものも段丘崖からの湧水と関係があると思われる。

弥生時代初頭の東海最古といってよい遠賀川土器が、濃尾平野の低地でなく内陸部に入った本遺跡から見つかった。この土器が入ってきた経路は陸路の可能性もあるが、木曽川の水上交通による可能性の方が高いと思われる。また、中世後期の遺構からは、海産巻貝のアカニシの貝殻が何点も見つかっている。貝の同定をお願いした日本貝類学会会員の後藤常明氏によると、アカニシは内湾に生息する貝で、大型なことから食用にされるという。貝殻には焼けた跡があるものの、焼いた後か生きたまま本遺跡に持ち込んだかはわからないが、この貝の運搬も木曽川の水上交通に関係するであろう。

そのほか、この遺跡の特徴の一つである下呂石の石核や打製石斧の量の多さも石材の供給源の木曽川とは切っても切れない関係がある。

このように、本遺跡の特徴を語るキーワードは、「河岸段丘」と「木曽川」である。

引 用 文 献

愛知県埋蔵文化財センター（1993）朝日遺跡Ⅳ

愛知県埋蔵文化財センター（1994）朝日遺跡Ⅴ

泉　拓良（1988）咲畑・醍醐式土器様式、縄文土器大観３　中期Ⅱ、小学館

泉　拓良（1988）船元・里木式土器様式、縄文土器大観３　中期Ⅱ、小学館

泉　拓良（1989）縁帯文土器様式、縄文土器大観４　後期・晩期・続縄文、小学館

泉　拓良・山崎純男（1989）突帯文系土器様式、縄文土器大観４　後期・晩期・続縄文、小学館

井川祥子（1997）15世紀後半から16世紀前葉の土師器皿
　　―中濃地域を中心として―、美濃の考古学 第２号

内堀信雄・井川祥子（1996）美濃における古代土師器煮炊具の様相、第４回東海考古学フォーラム
　　「鍋と甕そのデザイン」、東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会

小野木　学（1997）第２節 遺構・遺物概要、堀田城之内遺跡、岐阜県文化財保護センター第30集

小野木　学（1997）美濃地方における中世前期の土師器皿の様相、美濃の考古学 第２号

小野正敏（1985）出土陶磁よりみた15・16世紀における画期の素描、MUSEUM No.416

可児市教育委員会（1994）川合遺跡群

神村　透（1985）石製耕作具、弥生文化の研究 第５巻 道具と技術Ⅰ、雄山閣

岐阜県文化財保護センター（1993）尾崎遺跡

岐阜県文化財保護センター（1994）仲迫間遺跡

岐阜県文化財保護センター（1998）牧野小山遺跡　Ｃ地点

岐阜県文化財保護センター（1999）佐口遺跡調査概要、岐阜県新発見考古速報1999
　　―平成11年度岐阜県発掘調査報告会―

岐阜県文化財保護センター（2000）上原遺跡Ⅱ

佐野康雄（1993）弥生時代における石器群の様相についての一考察、尾崎遺跡
　　（財）岐阜県文化財保護センター

佐野康雄（1997）岐阜県の石器組成の変遷、農耕開始期の石器組成４
　　中部・近畿、国立歴史民俗博物館

鹿野勘次（1990）美濃加茂周辺地域の第四系、岐阜県地学教育26

末木　健（1988）曽利式土器様式、縄文土器大観３　中期Ⅱ、小学館

鈴木保彦・山本暉久（1988）加曽利Ｅ式土器様式、縄文土器大観２　中期Ⅰ、小学館

関　道明・木村一朗（1969）美濃加茂盆地の段丘、特に中位段丘とその堆積物、名古屋地学25

関市教育委員会（1984）重竹遺跡―その３―東海北陸自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

玉田芳英（1989）中津・福田ＫⅡ式土器様式、縄文土器大観４　後期・晩期・続縄文、小学館

中島栄一・渡辺朋和（1989）浮線網状文土器様式、縄文土器大観４　後期・晩期・続縄文、小学館

中島庄一（1989）称名寺式土器様式、縄文土器大観４　後期・晩期・続縄文、小学館

中野晴久（1994）赤羽・中野「生産地における編年について」、全国シンポジウム「中世常滑焼をお
　　って」資料集、日本福祉大学知多半島総合研究所

西田泰民（1989）堀之内・加曽利Ｂ式土器様式、縄文土器大観４　後期・晩期・続縄文、小学館
野口哲也（1993）突帯文土器、第１回東海考古学フォーラム・豊橋大会 突帯文土器から条痕文土器へ
第１回東海考古学フォーラム・豊橋大会実行委員会
藤沢良祐（1986）瀬戸大窯発掘調査報告書、瀬戸市歴史民族博物館研究紀要Ｖ
藤沢良祐（1994）山茶碗研究の現状と課題、研究紀要第３号、三重県埋蔵文化財センター
藤沢良祐（1996）中世瀬戸窯の動態、古瀬戸をめぐる中世陶器の世界～その生産と流通～資料集
瀬戸市教育委員会、（財）瀬戸市埋蔵文化財センター
三上徹也（1988）唐草文系土器様式、縄文土器大観３　中期Ⅱ、小学館
南　久和（1989）北陸晩期土器様式、縄文土器大観４　後期・晩期・続縄文、小学館
水谷　敬・原　賢仁（1983）美濃加茂盆地の段丘巡検コース、岐阜地理22
横田賢次郎・森田　勉（1978）太宰府出土の輸入陶磁器について
―形式分類と編年を中心にして―、九州歴史資料館研究論集　4
藁科哲男（1994）藤橋村徳山地区遺跡出土のサヌカイト、黒曜石製遺物の原材産地分析、
戸入村平遺跡、（財）岐阜県文化財保護センター

図　　版

調査前（南東から）

調査前（北西から）

D区調査前（東から）

D区調査前（西から）

表土剥ぎ（A区）

風　景

発掘風景（NR1）

平成8年度現地説明会

図版 2

A 区

C 区

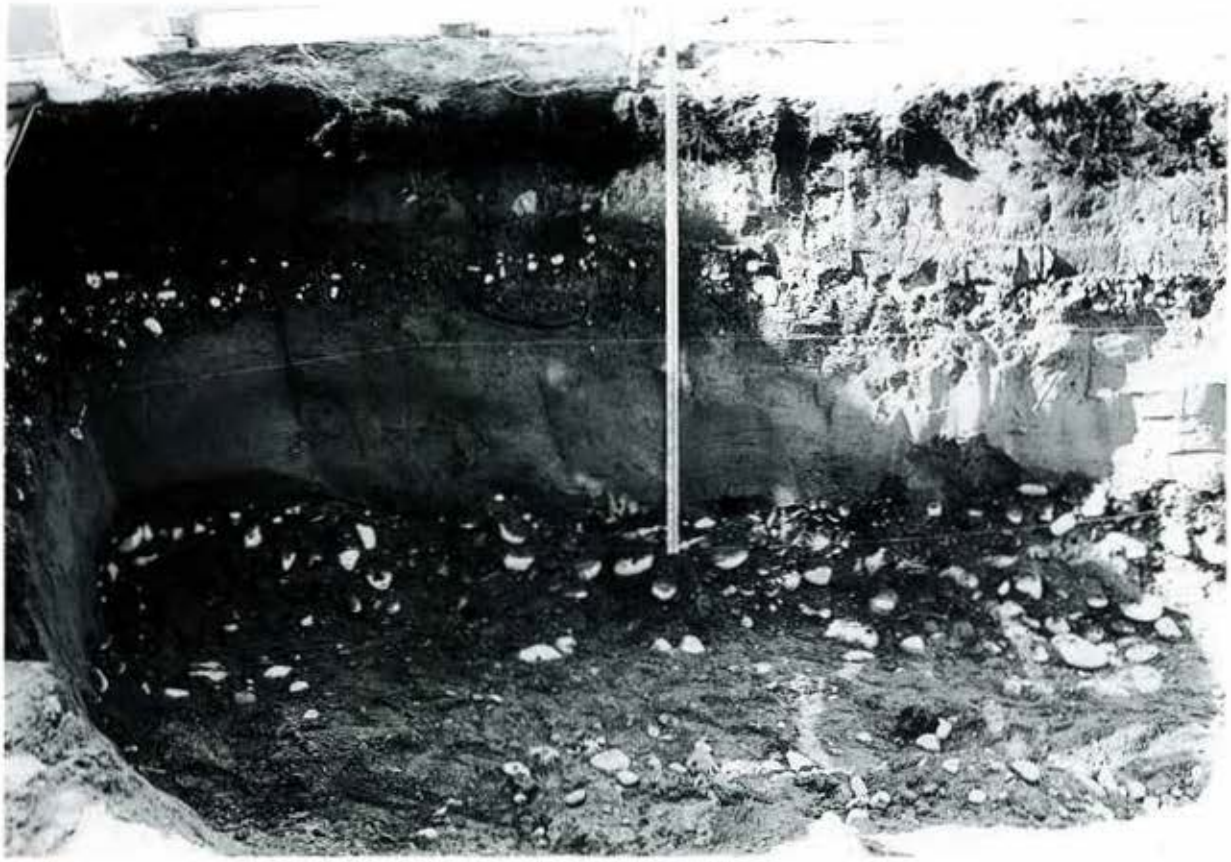
B区 東

B区 西

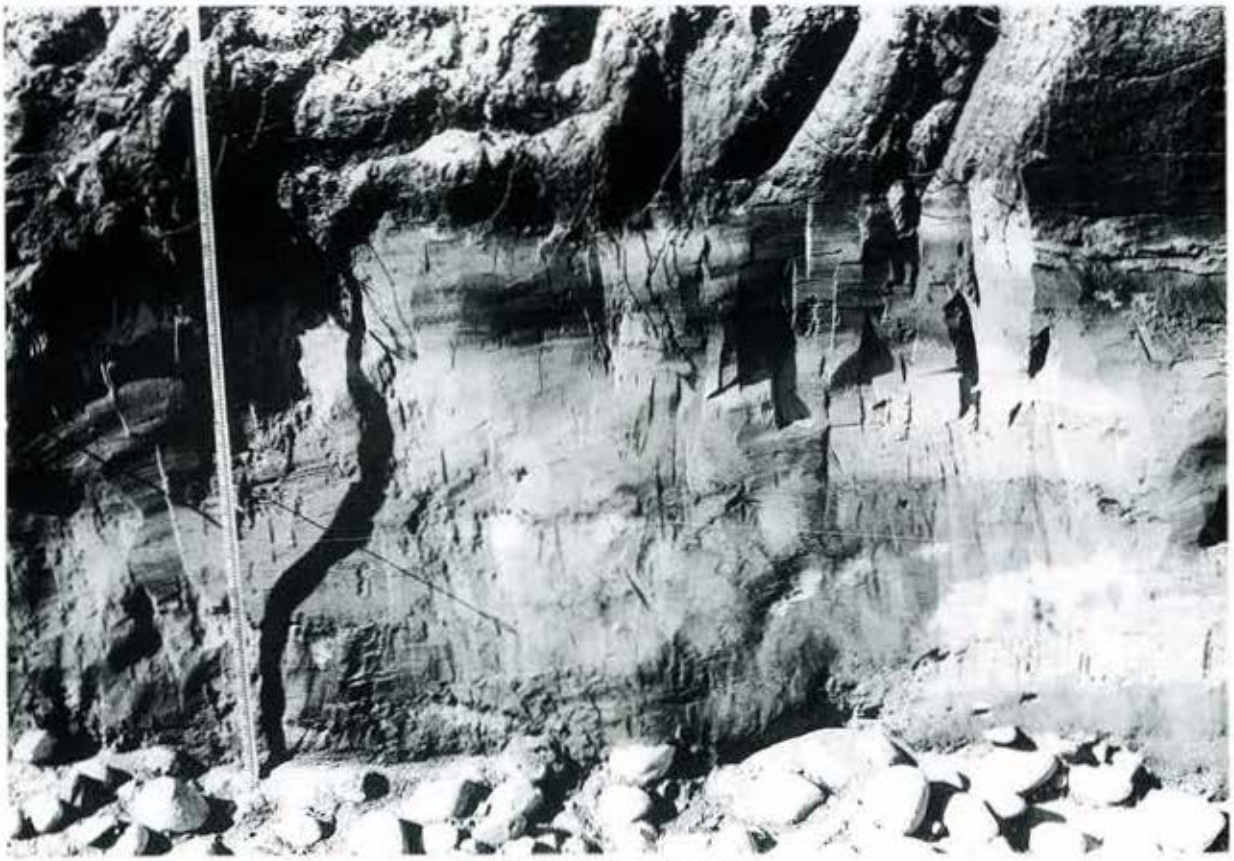
図版 4

D区　東

D区　西

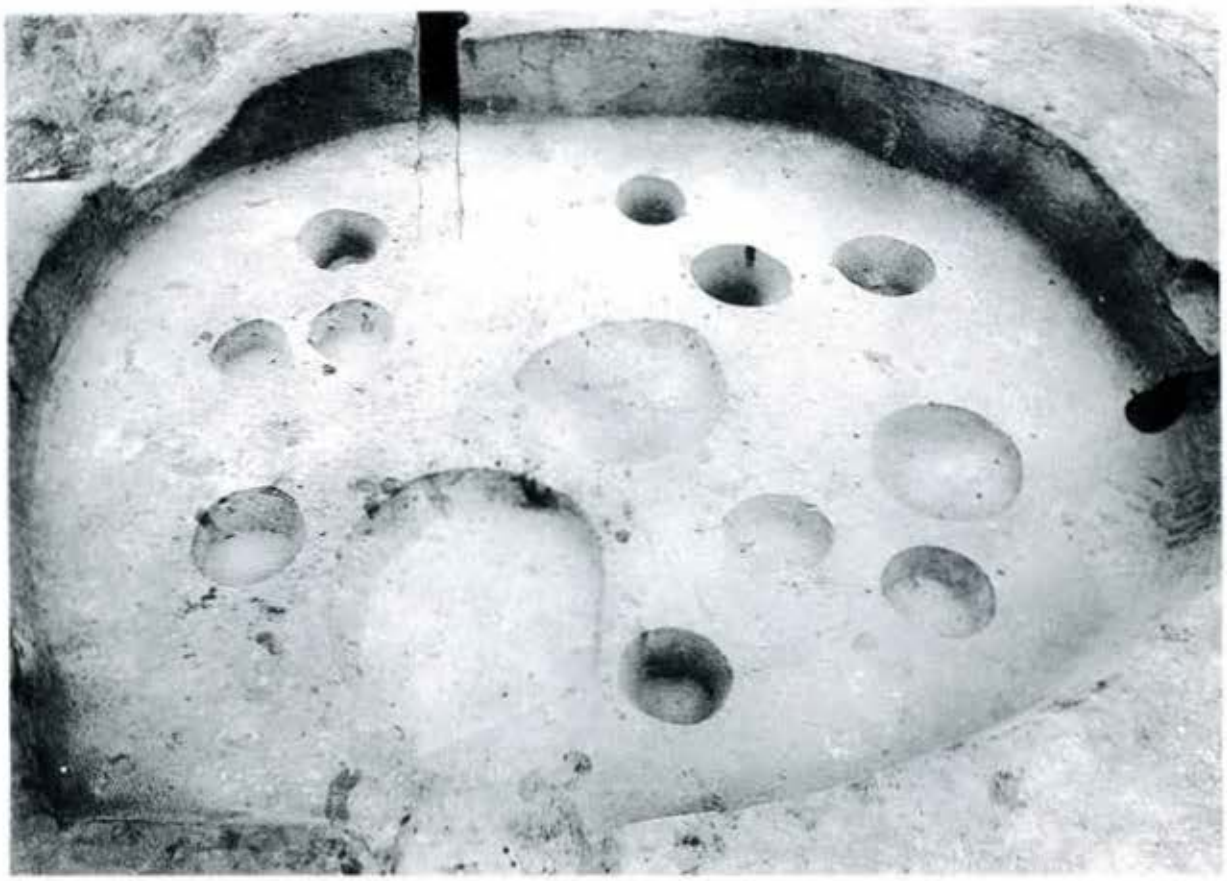


トレンチ土層　礫堆



トレンチ土層　段丘礫層

図版 6



SB14

鉢(4) 出土状況

SB16

SU1

土偶出土状況

SB27 東

SB27 南

SZ1 東

SZ1 西

SZ1 南

SZ1 北

SK381

P851

図版 8

SB1 南

SB1 西

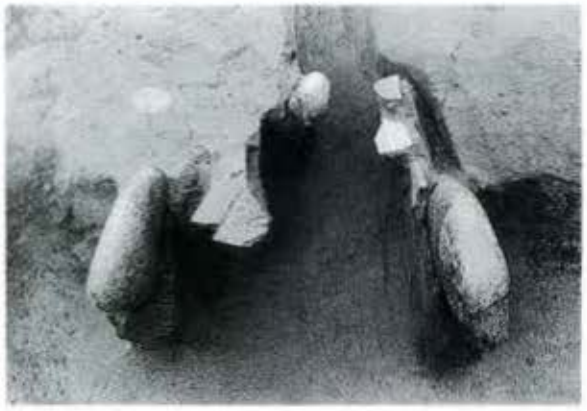
SB2

SB3

SB4

SB4 カマド

SB5



SB5 カマド

SB6

SB7　カマド

SB7・25

SB8

SB9

SB10

SB11

SB12

図版 10

SB12　P1

SB13

SB15

SB17・18・22

SB19

SB20

SB20　カマド

SB21

SB23

SB24

SB24　カマド

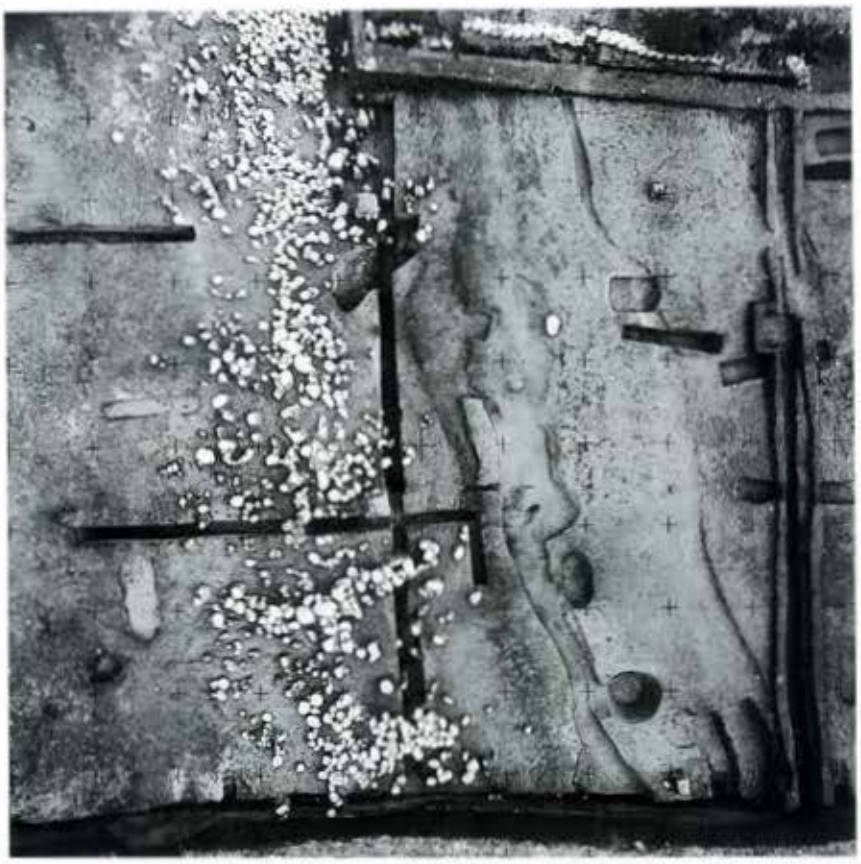
SB26

SB28

D区SB1

D区SB2

D区SB3



SR1 東

SR1 西

SR1　堰1　上流から

SR1　堰1　下流から

SR1　堰1　断面　右が上流

SR1（C区）　SW1-S、SW1-H

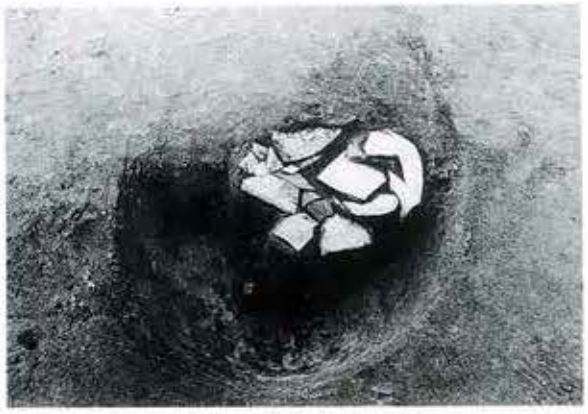
SR1　堰2　下流から

SR1　堰2　上流から

SR1　堰2　南から

SR1　下流部

図版 14



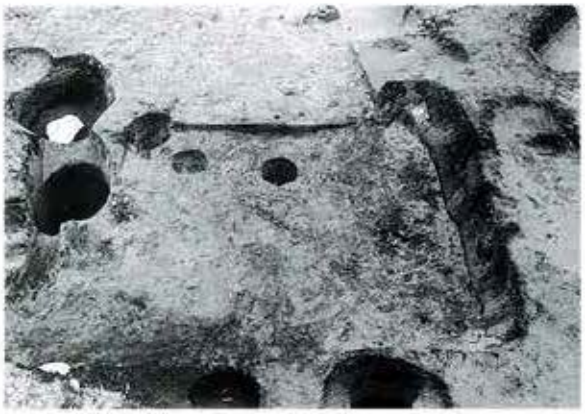
D区P88

SU2

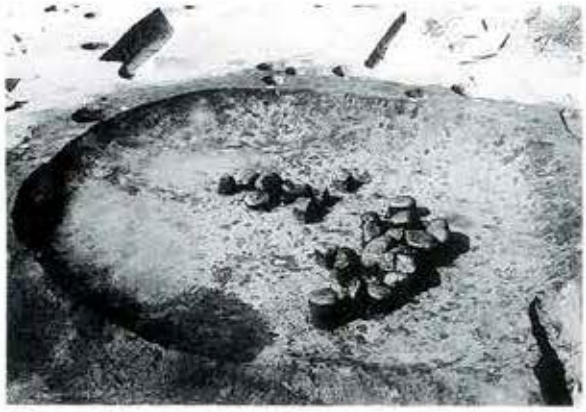
D区SH1

D区SA1・2

SX1



SX2



SX3

D区SK58

P357

P1205

P325

SK794

SU4　土器出土状況

SU4

SU4　海産貝（アカニシ）出土状況

アカニシ（原生標本(左)とSU4出土(右)）

SD4

SD7

SD8

SD13

SD6、SD5

SD14・19

SD17、SD16（南から）

SD16・17

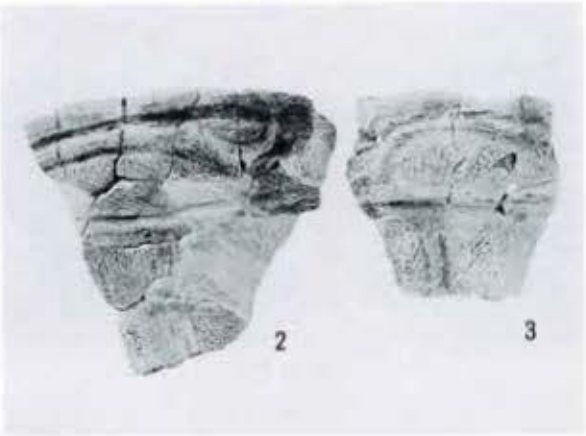
D区SD5

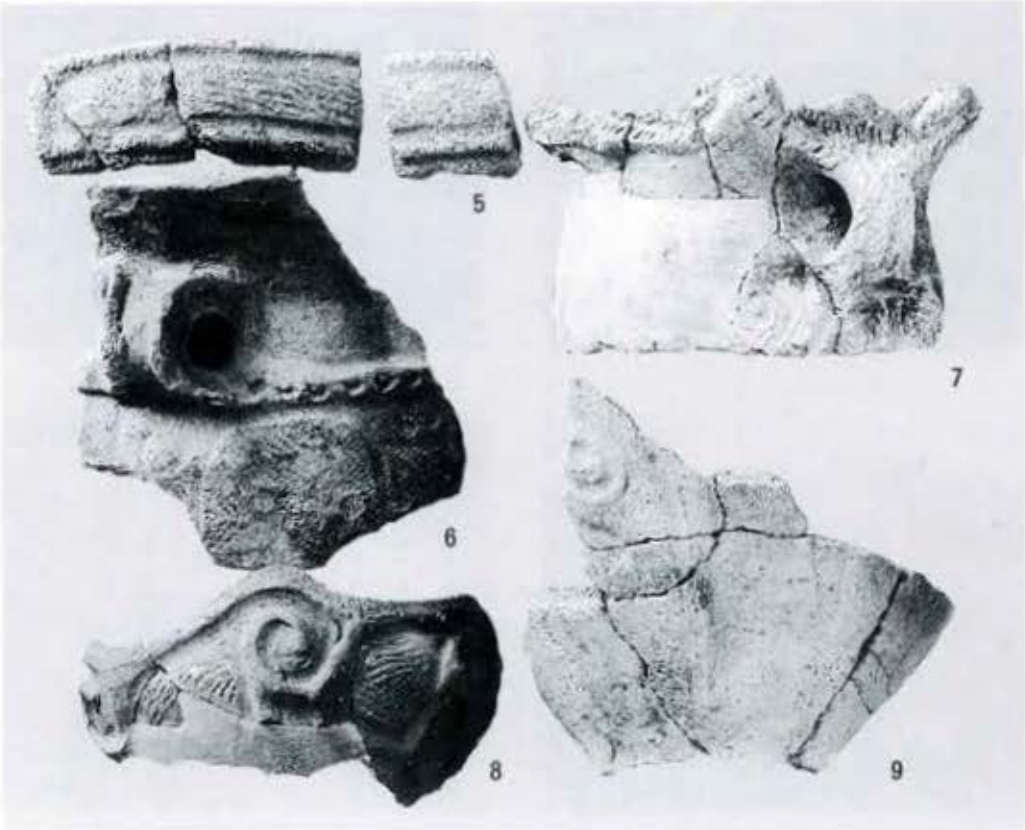
D区SD15・17

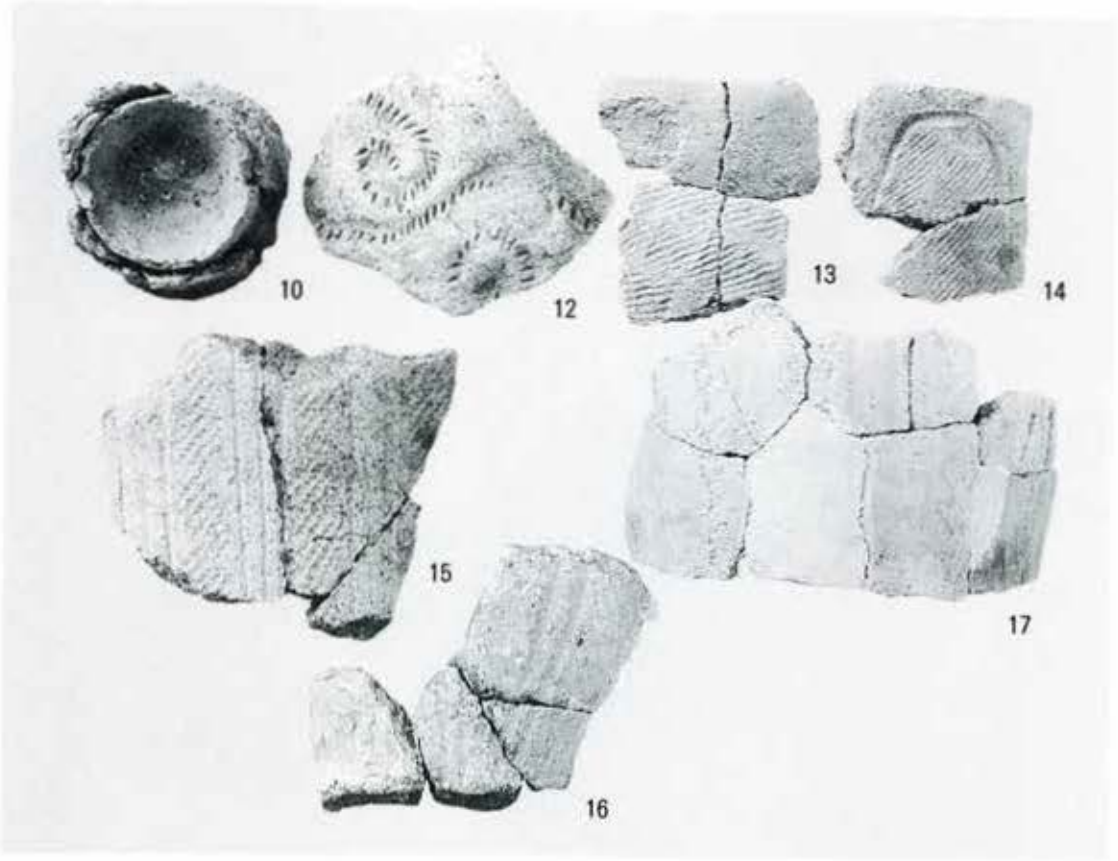
D区SD2・3・5・8・6

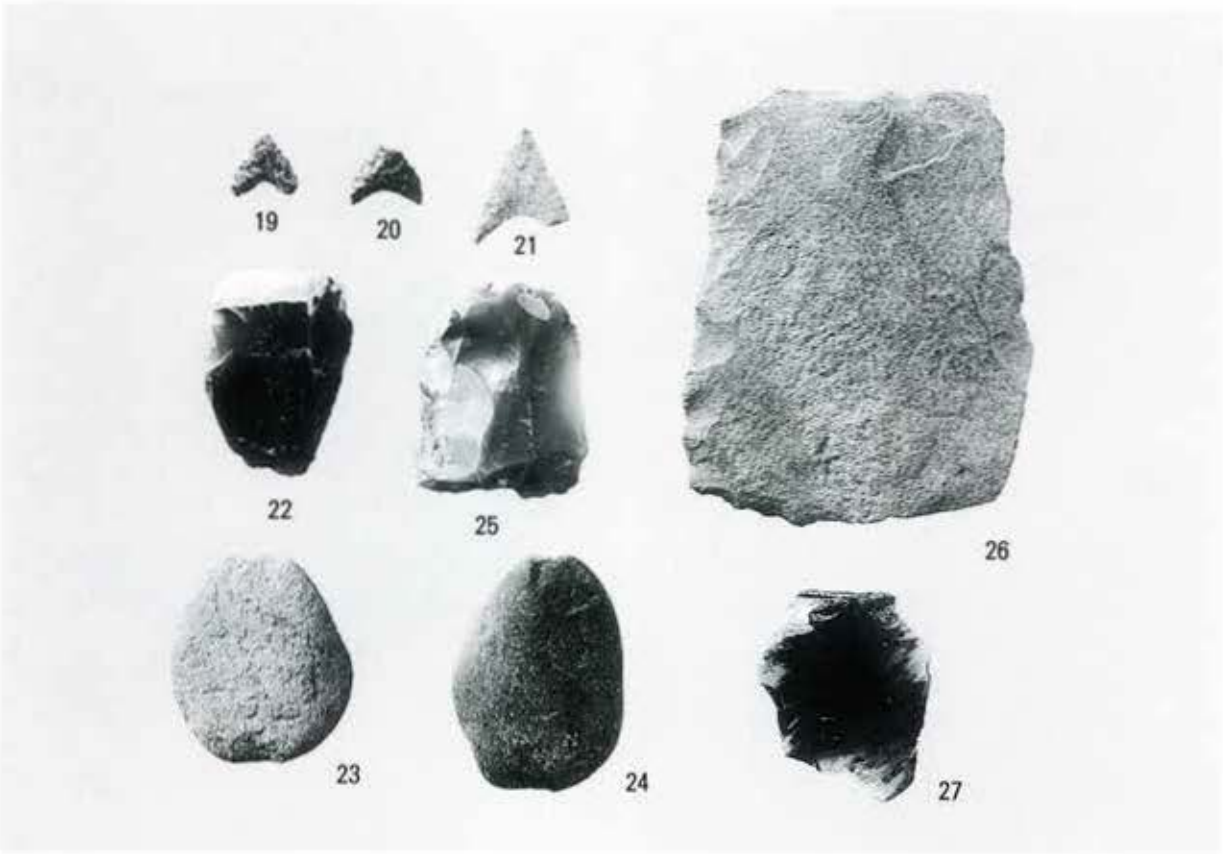
D区SD18・21

図版 18

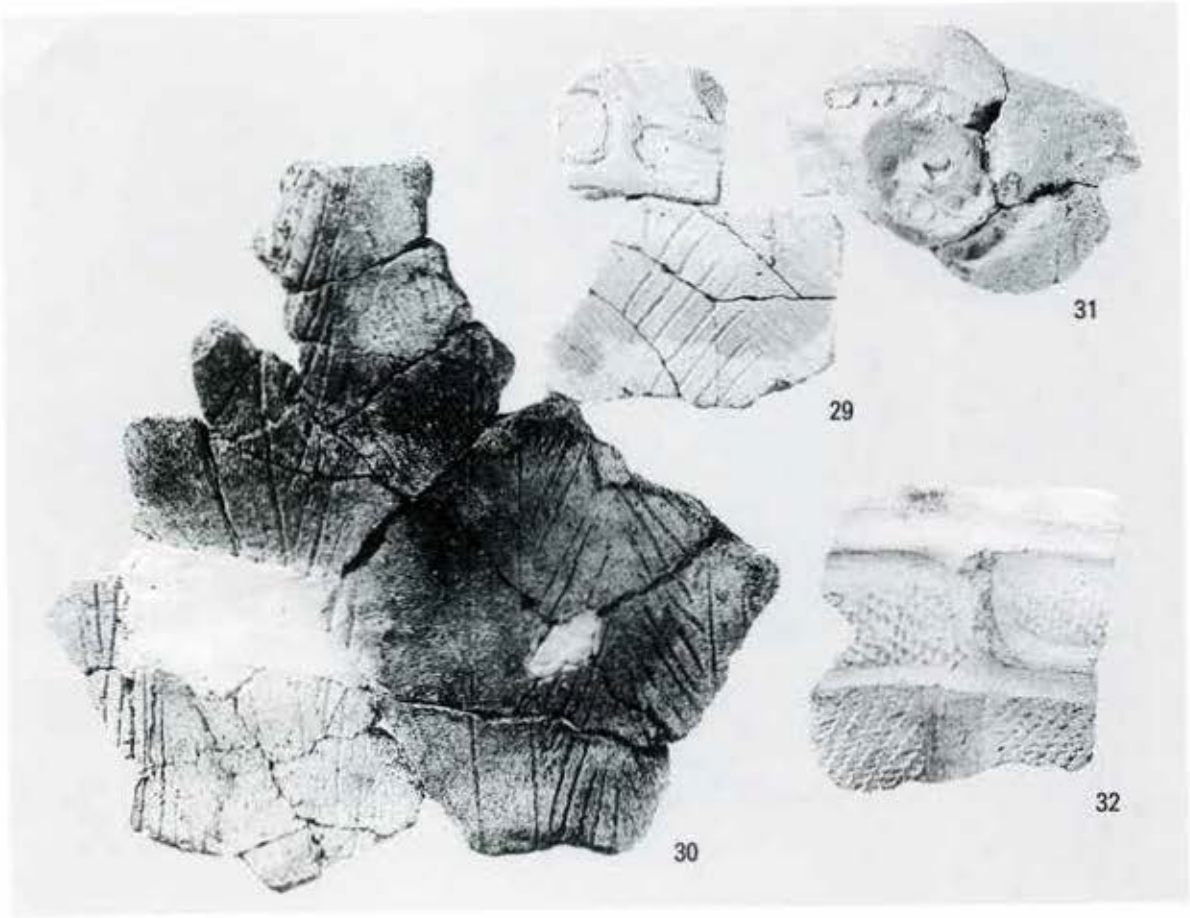


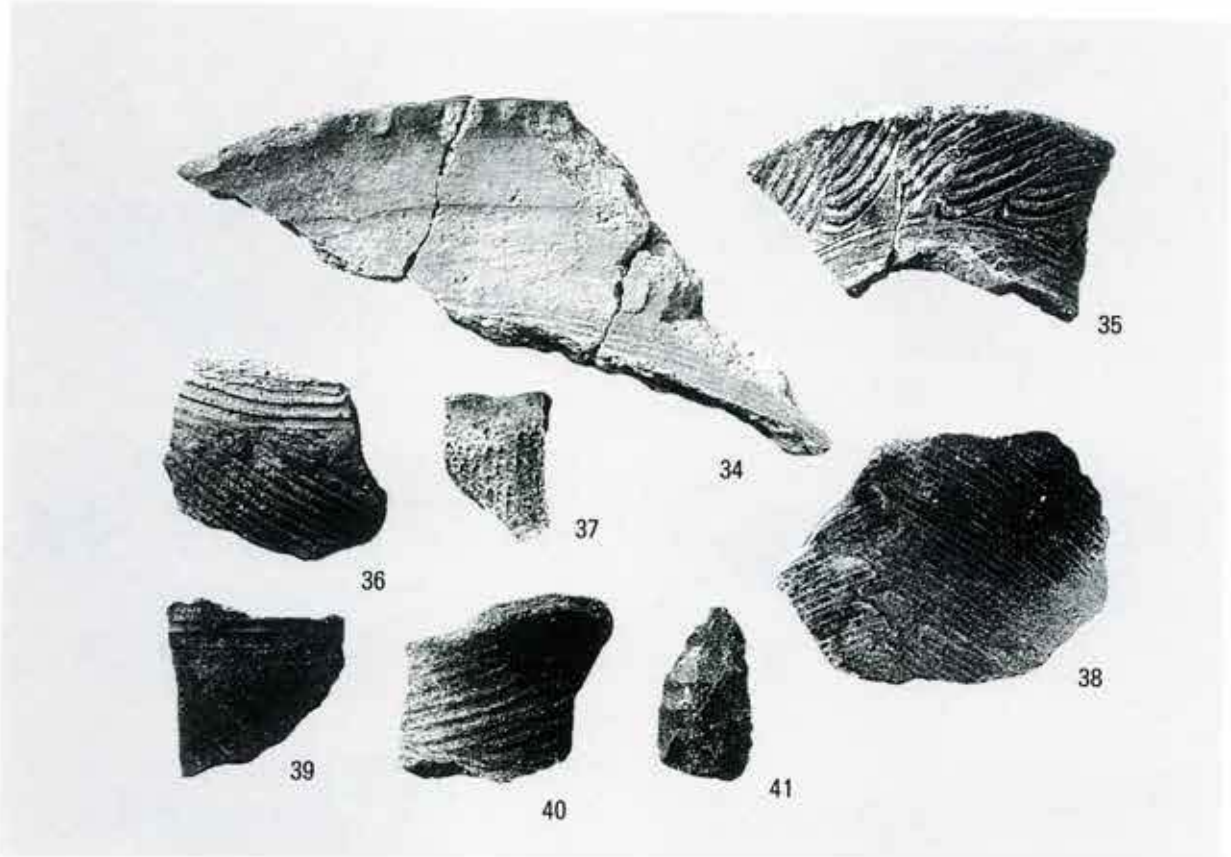



10
12
13
14
15
16
17

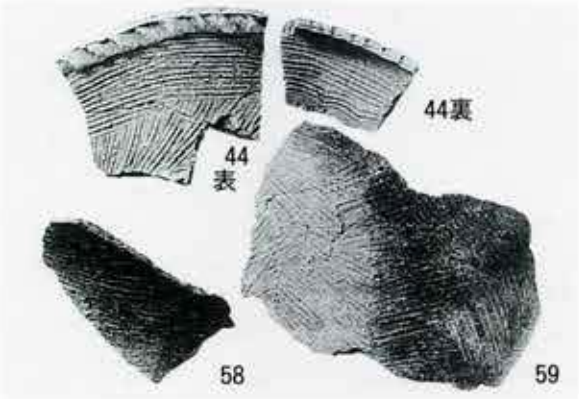

19
20
21
22
25
26
23
24
27

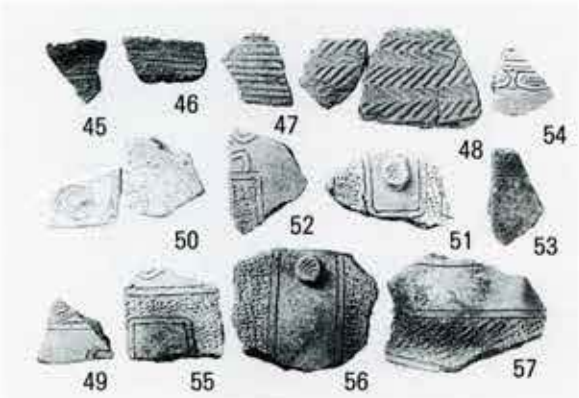
図版 20

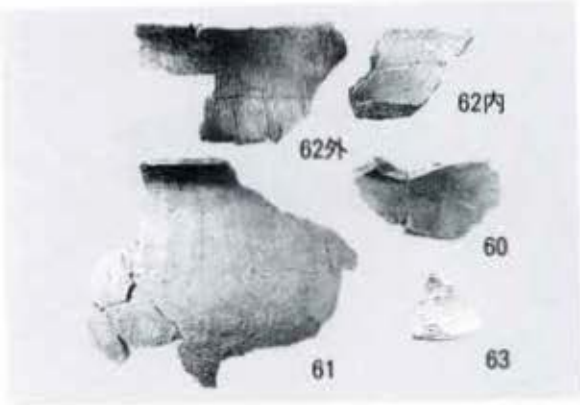



35
34
36
37
38
39
40
41

43

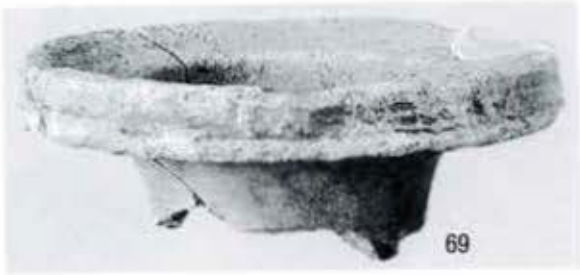

44裏
44
表
58
59


45
46
47
48
54
50
52
51
53
49
55
56
57


62内
62外
60
61
63

68

65

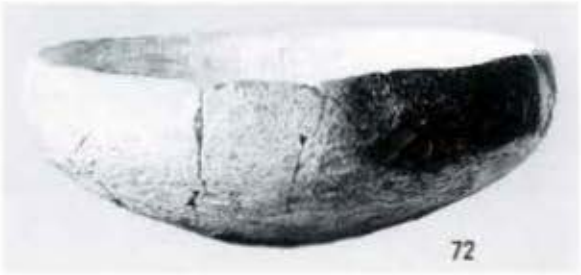

69

66

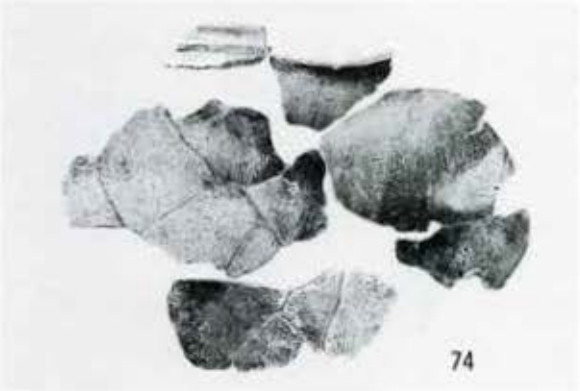
70

71

67


72

73


74

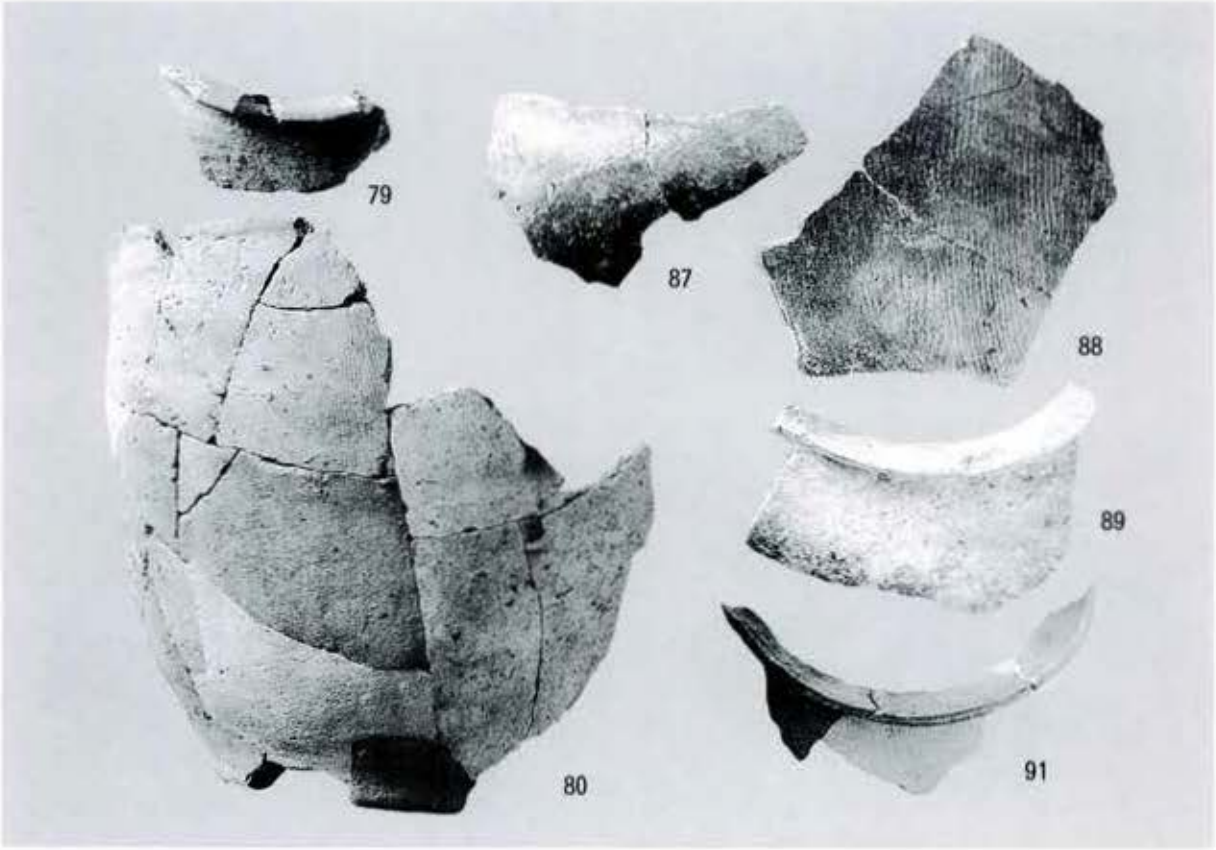
75

76

77

78

81


79
87
88
89
80
91

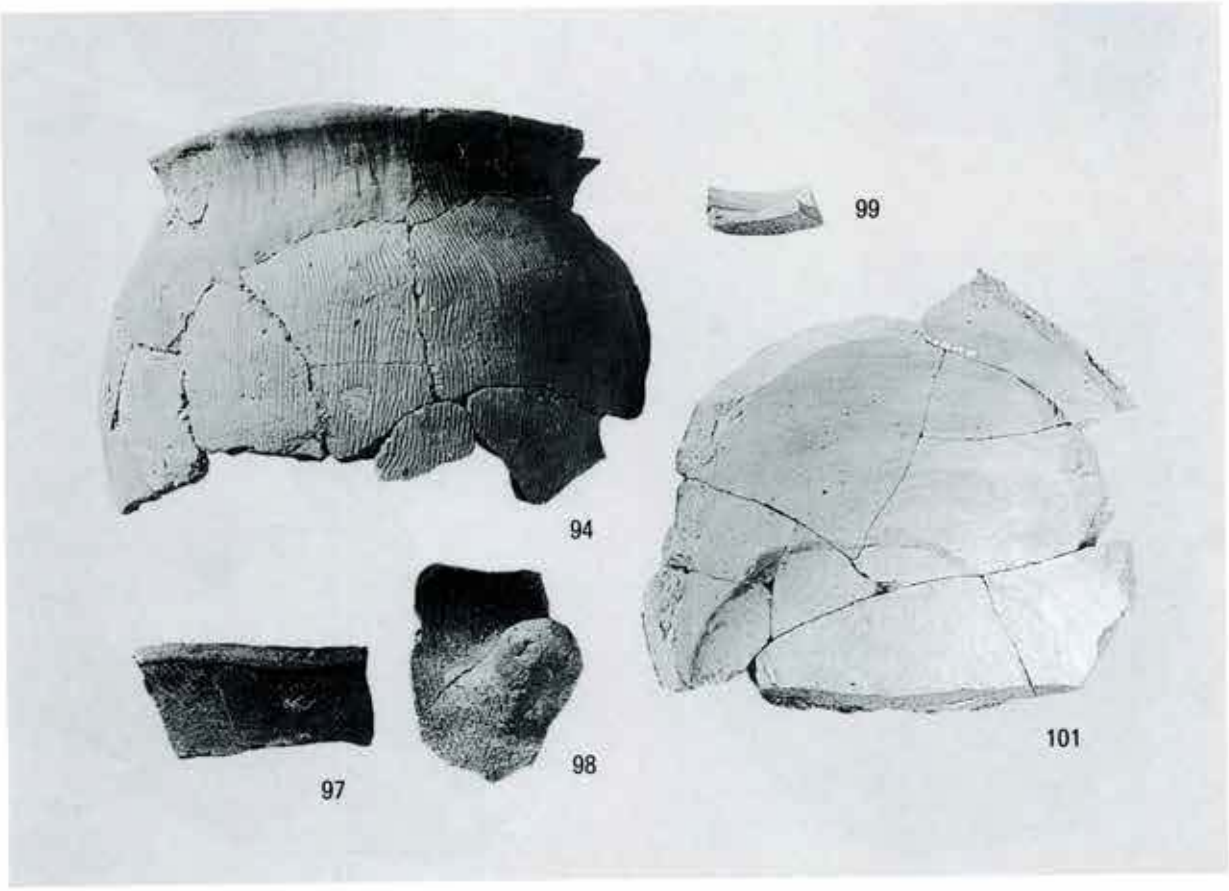
82

85

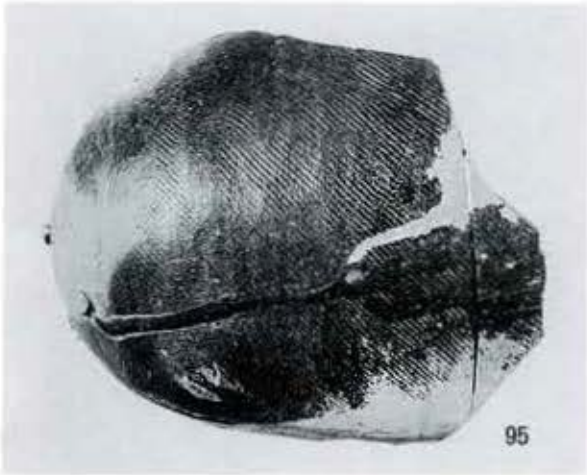
86

92

90

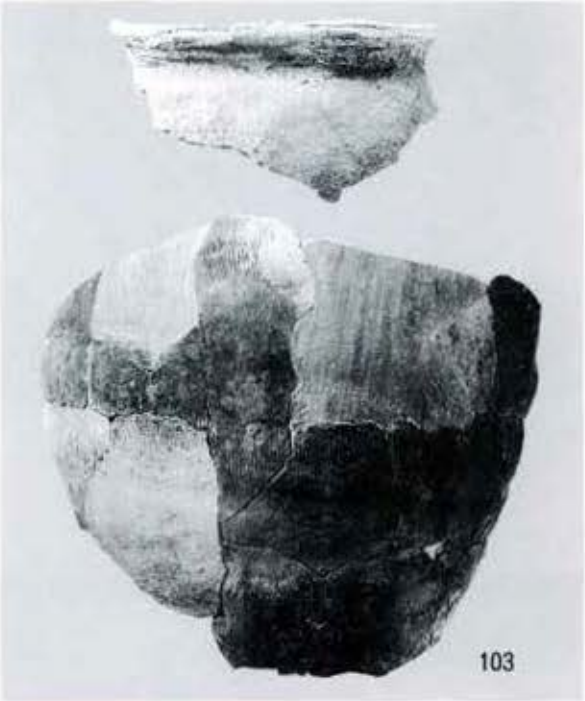

99
94
101
98
97

図版 26

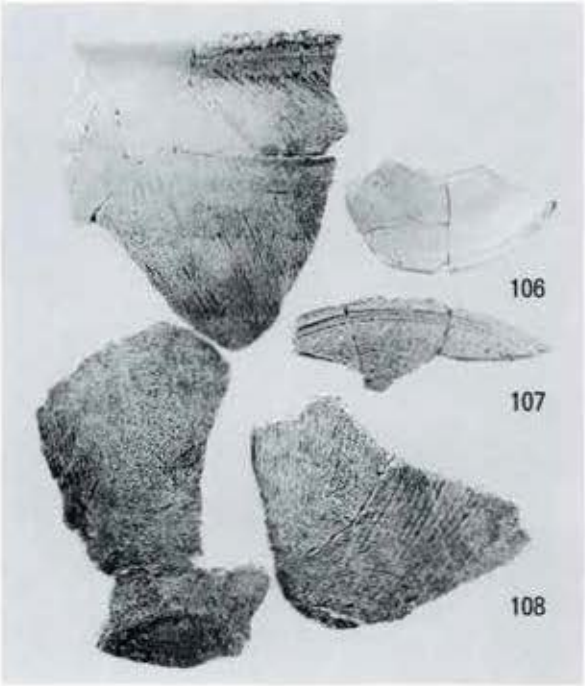

95

100

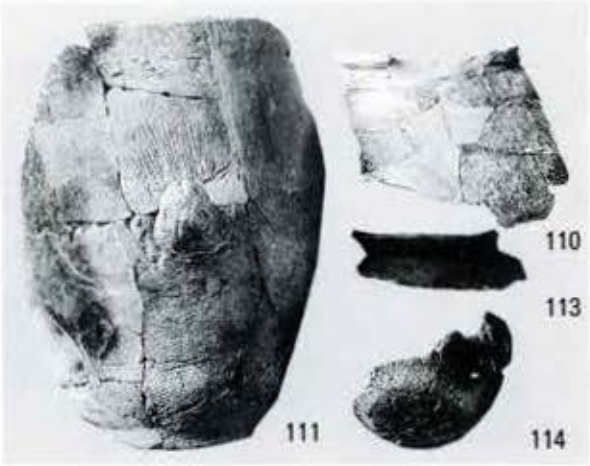
96


103

102

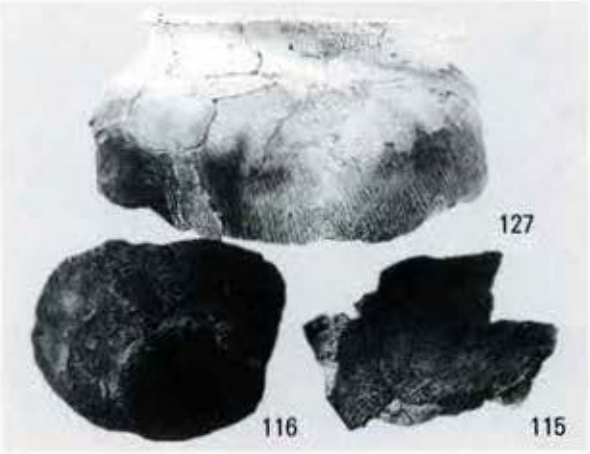

106
107
108

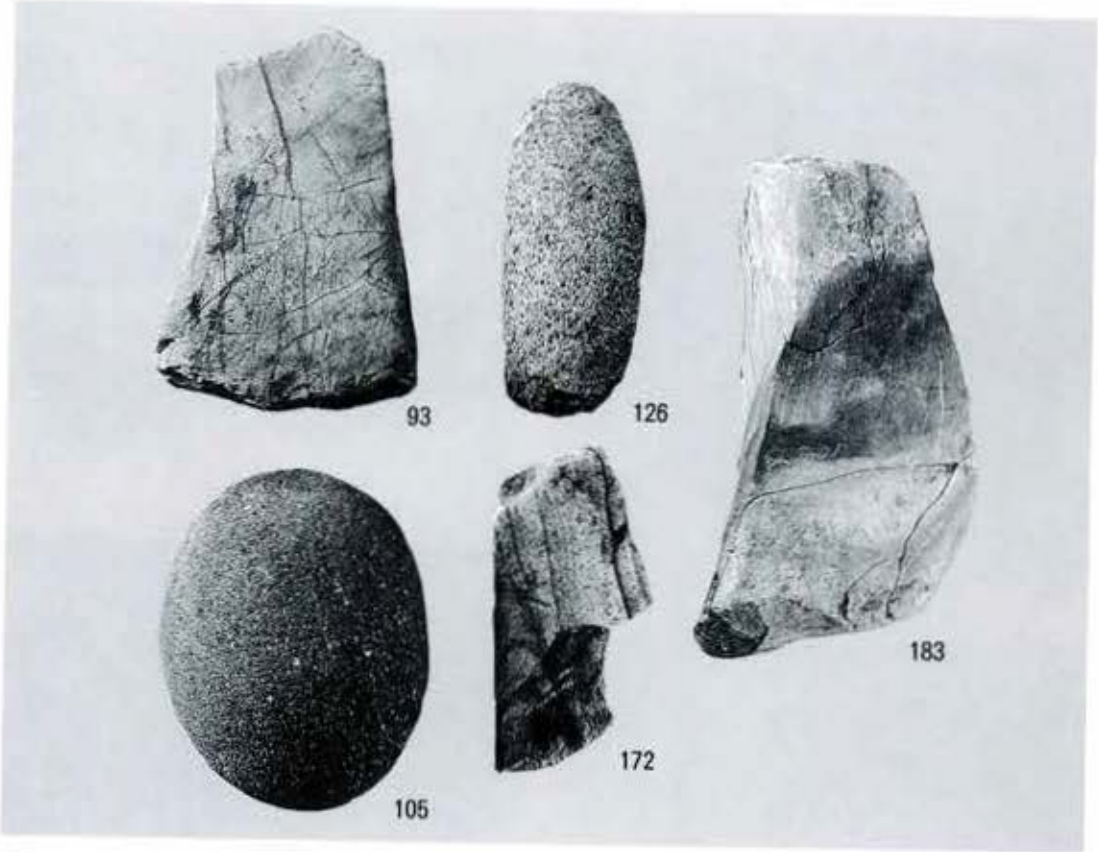
104

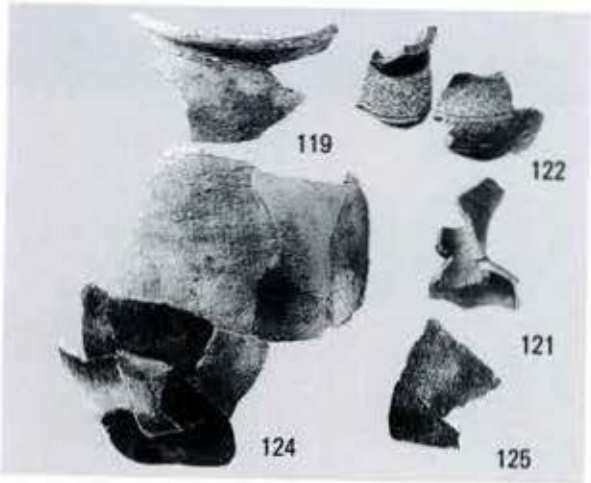

110
113
111
114

109

112

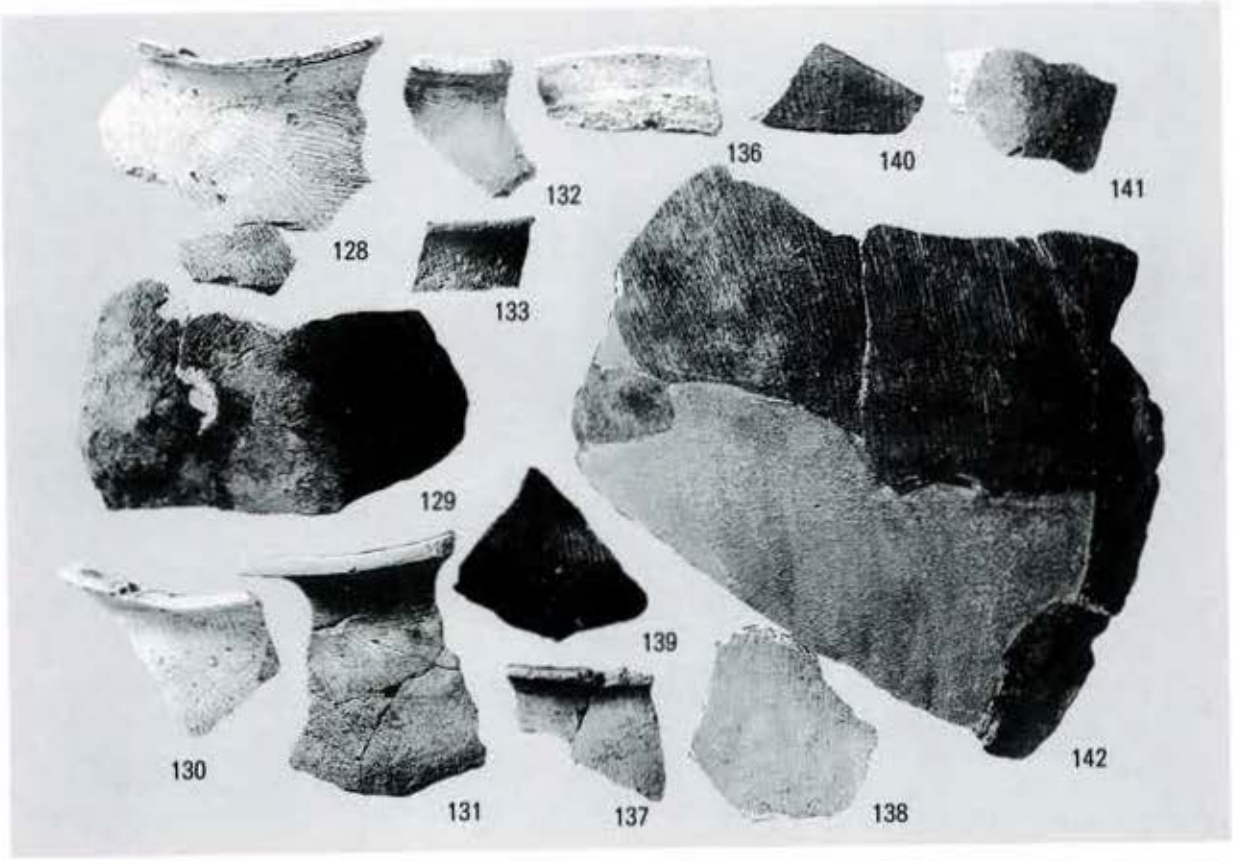

127
116
115

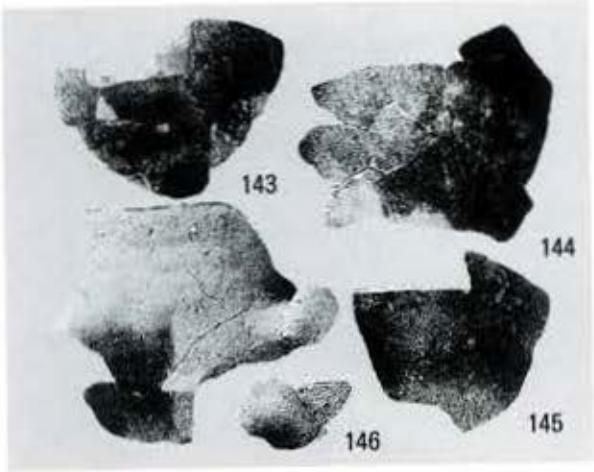

93
126
183
105
172


119
122
121
124
125

120

123

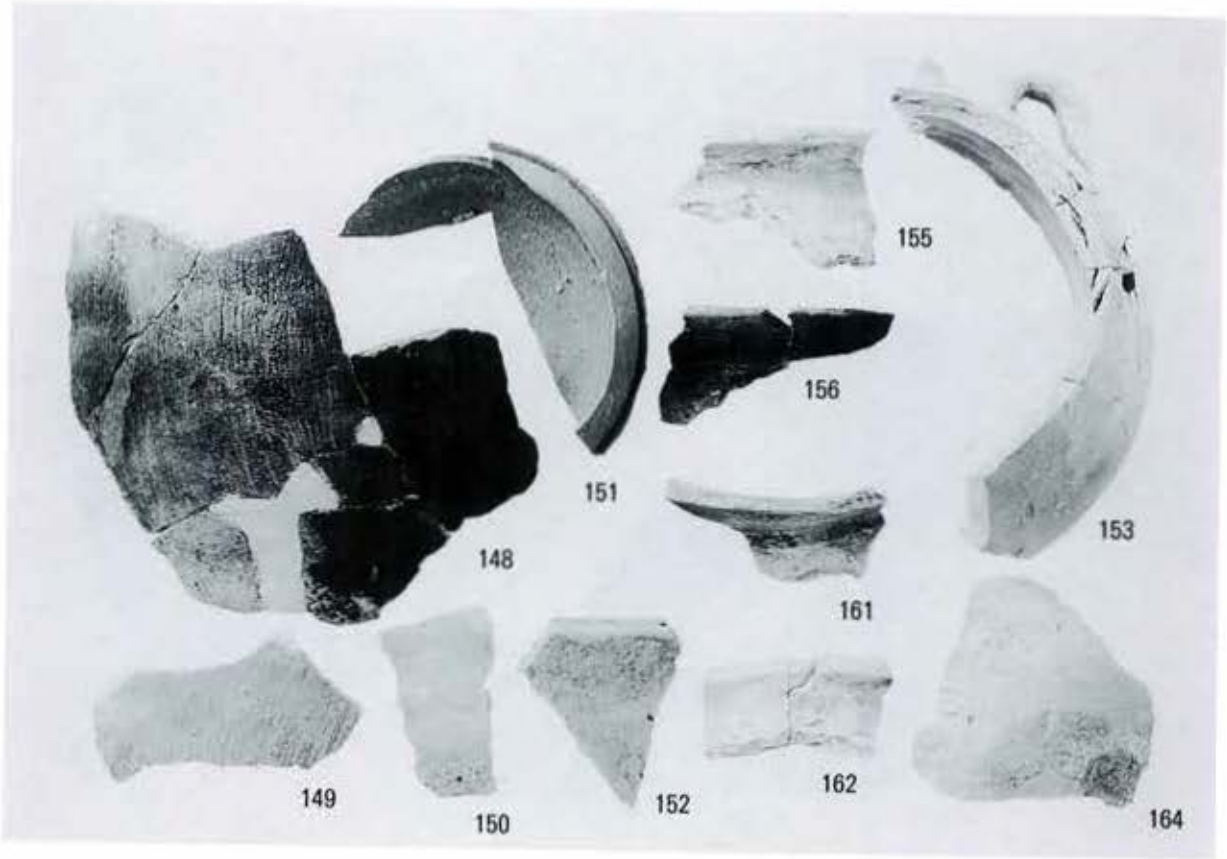

128
132
136
140
141
133
129
139
130
131
137
138
142


143
144
146
145

154

147

図版 30



166

170

167

169

176側面

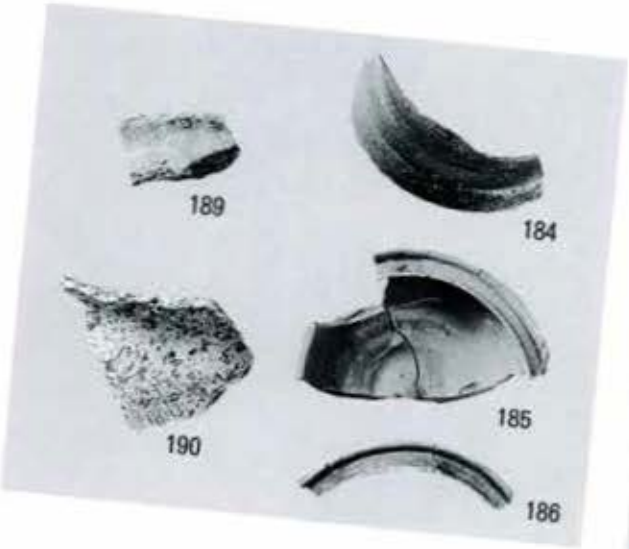
176正面

173

187

177
179
181
178
180

188


189
184
190
185
186

191

193

217

214
215

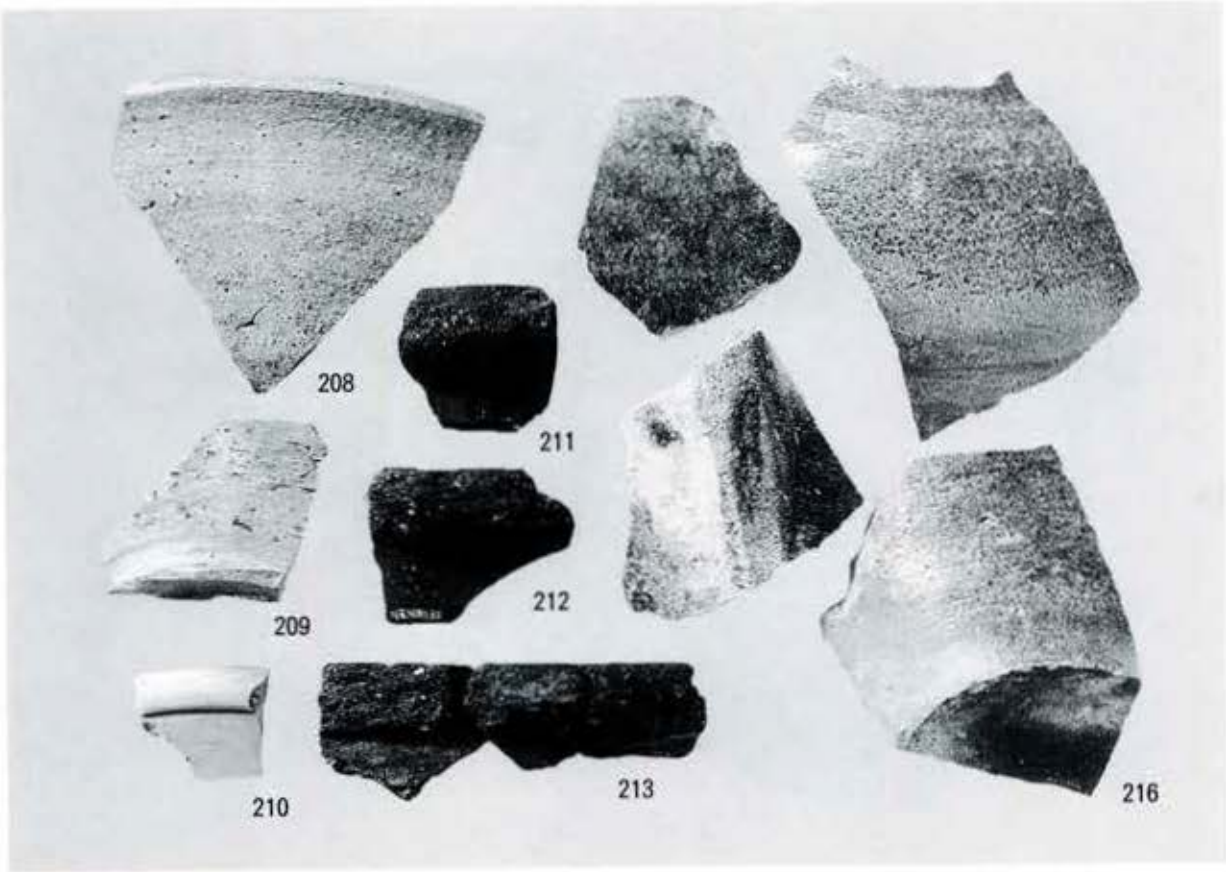
198

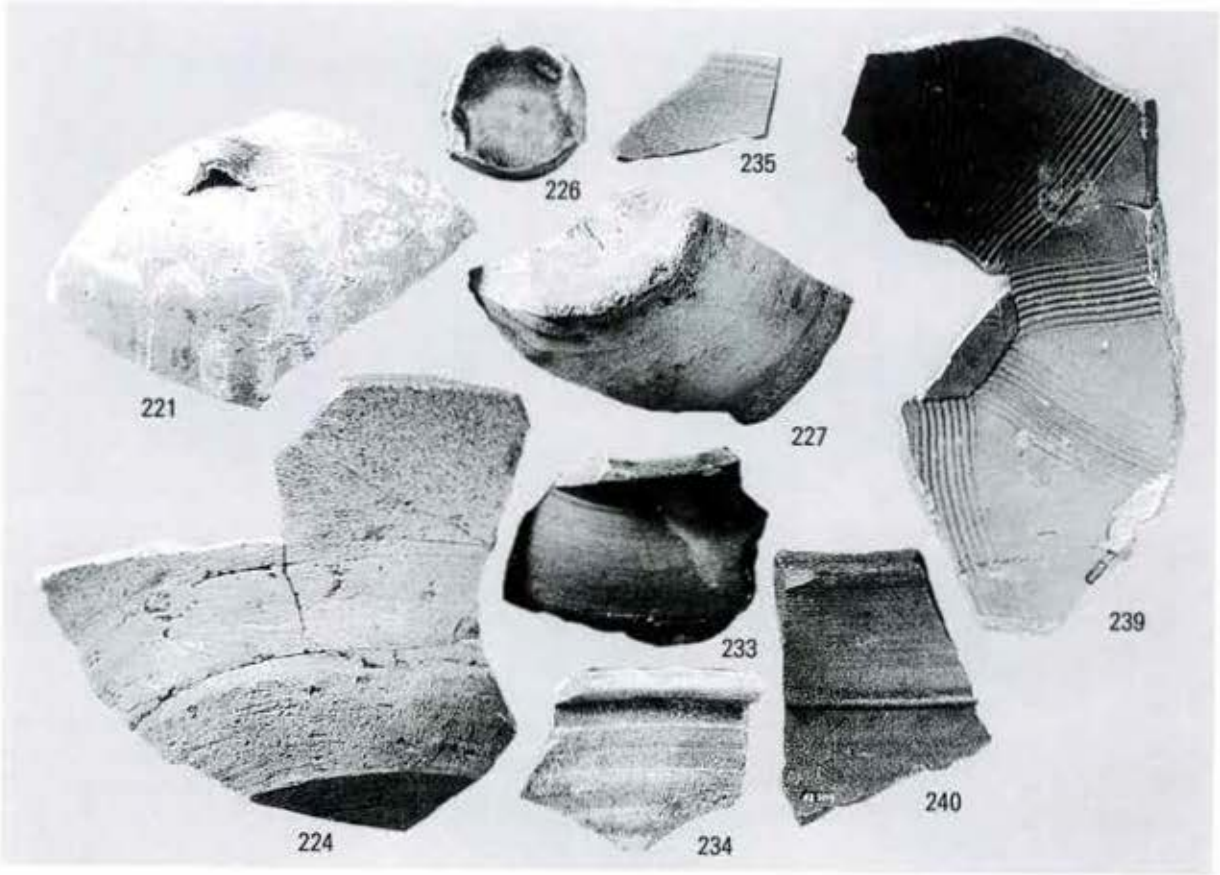
201

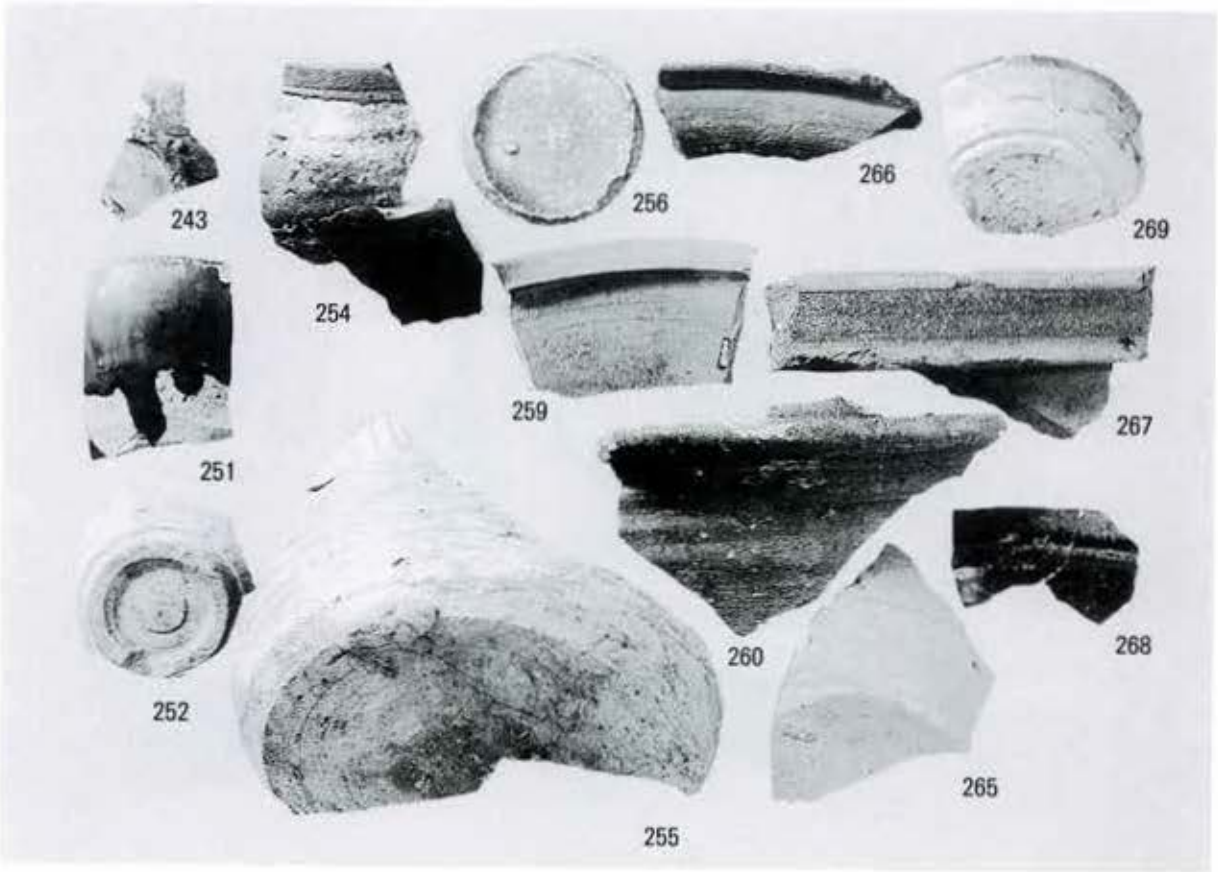
207

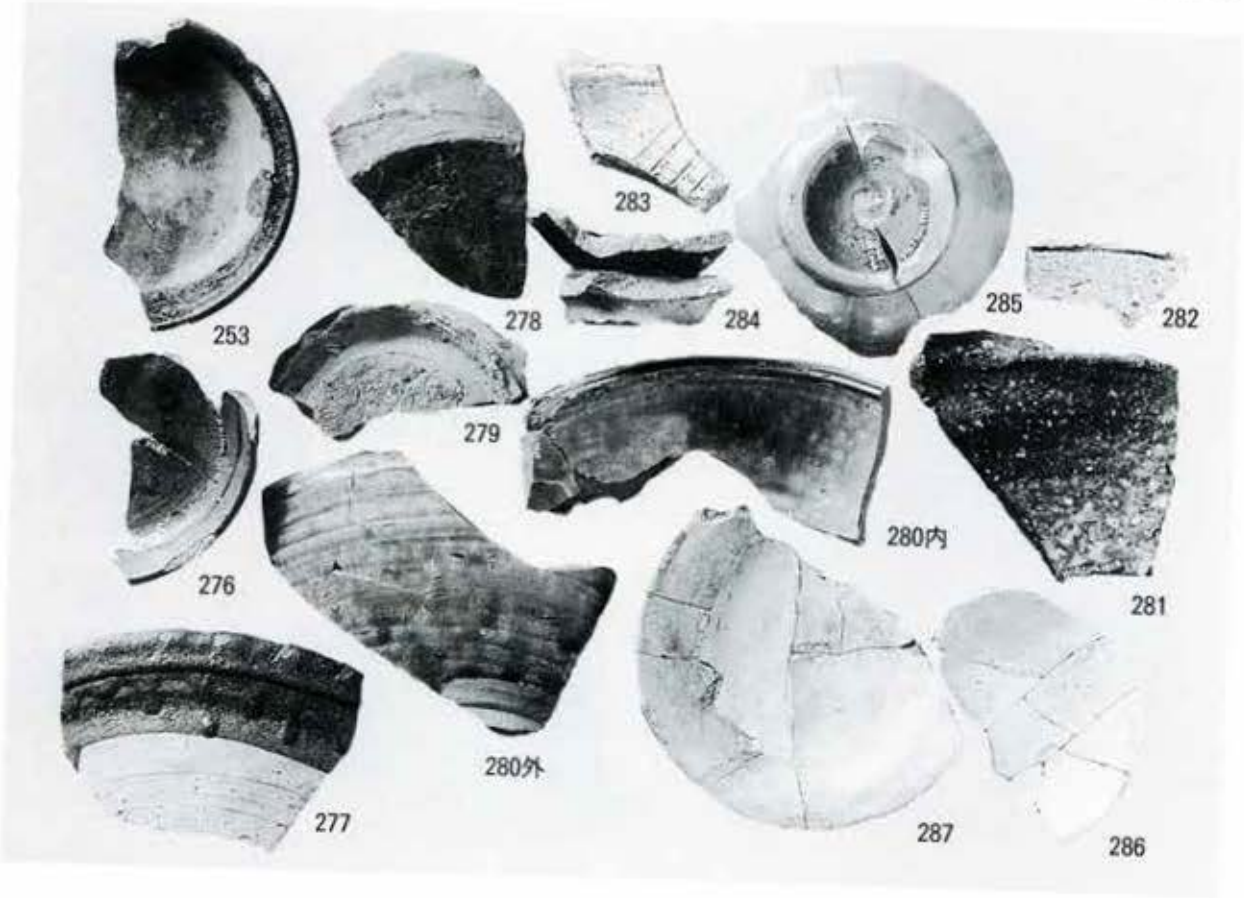
200

205

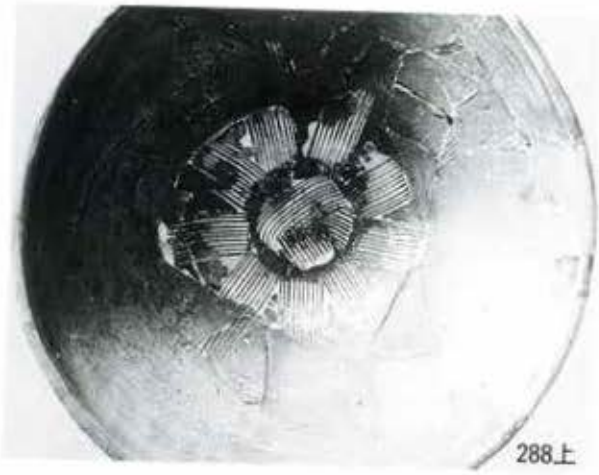

208
211
209
212
210
213
216


226
235
221
227
239
233
240
224
234


243
256
266
269
254
259
267
251
260
268
252
265
255


253
278
283
284
285
282
279
276
280内
281
280外
277
287
286

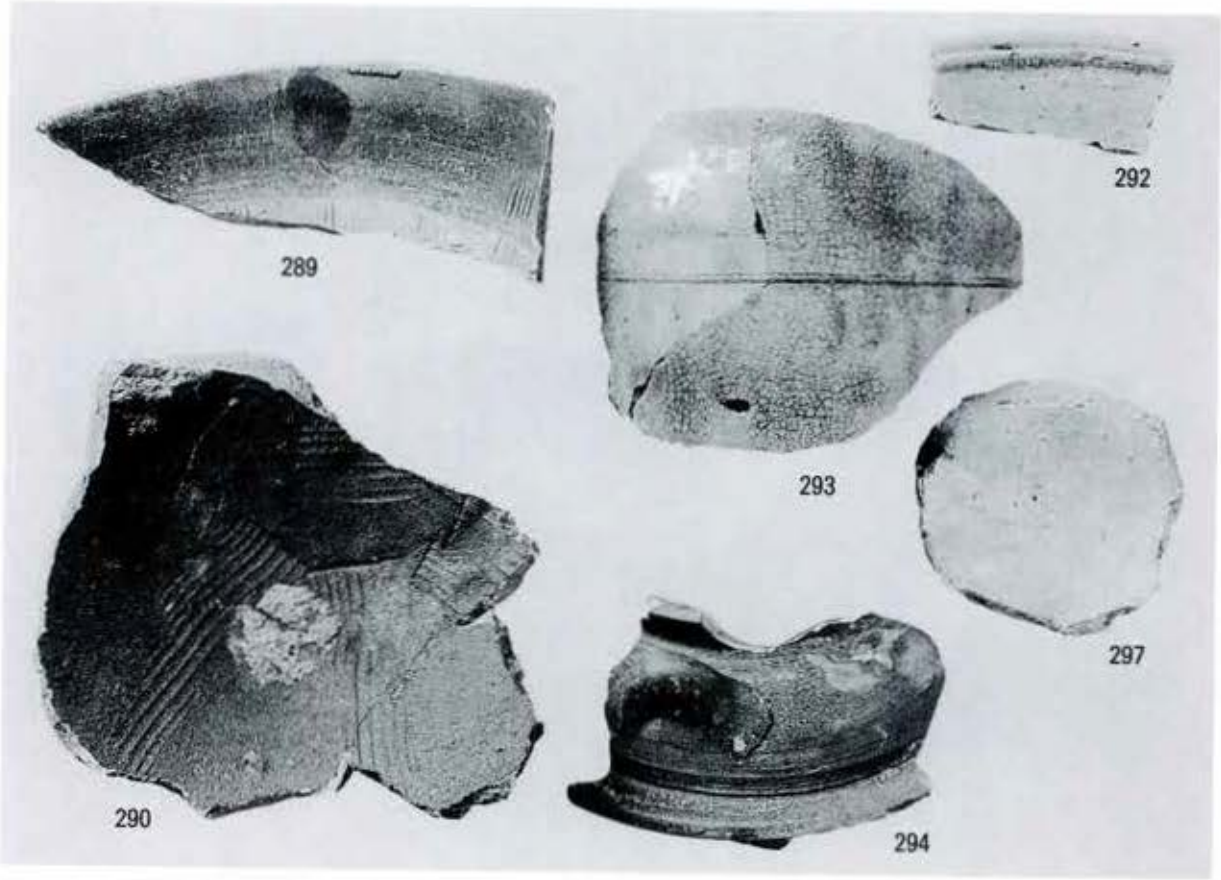
242


288上

291上から

288

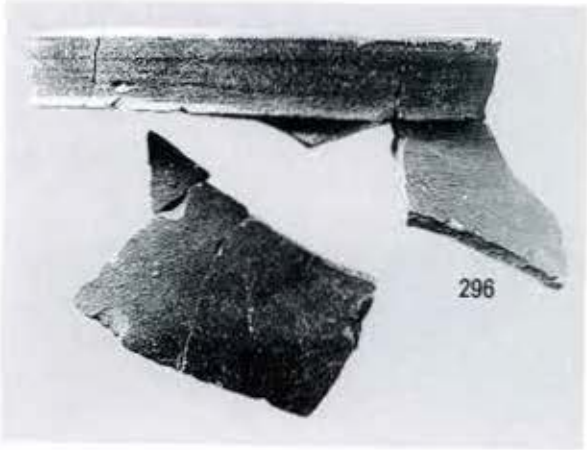
291

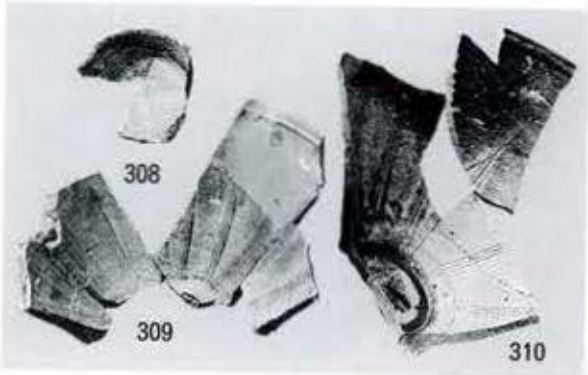

289
292
293
290
297
294

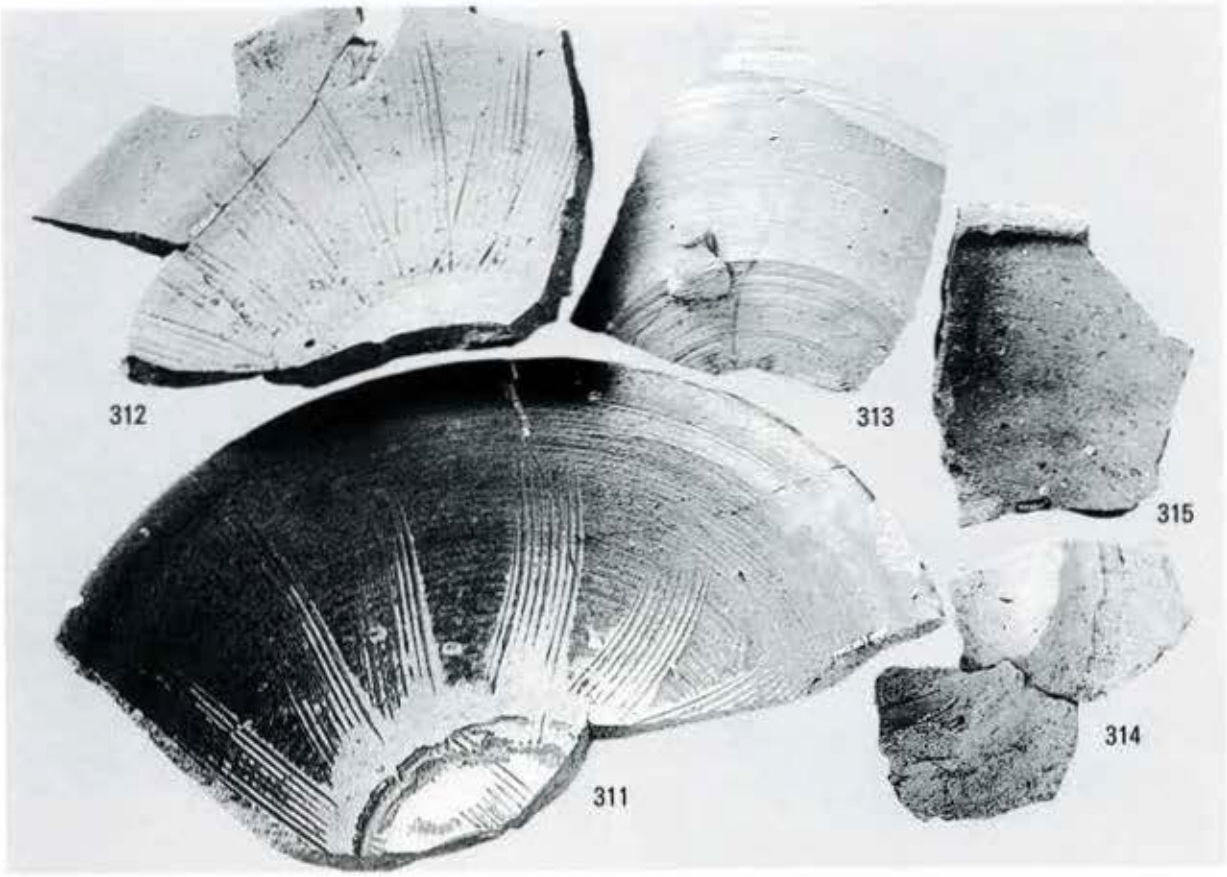
295

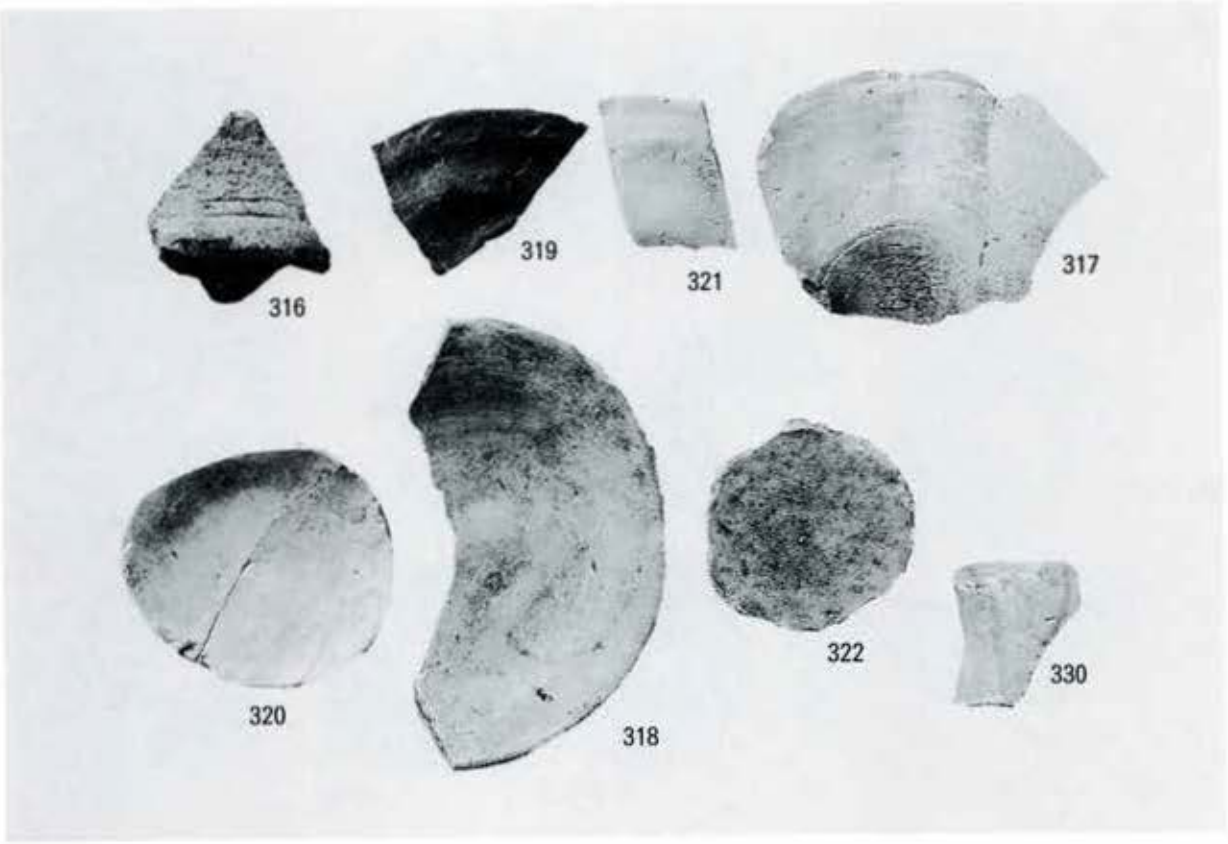
306

307


296


308
309
310


312
313
315
311
314


316
319
321
317
320
318
322
330

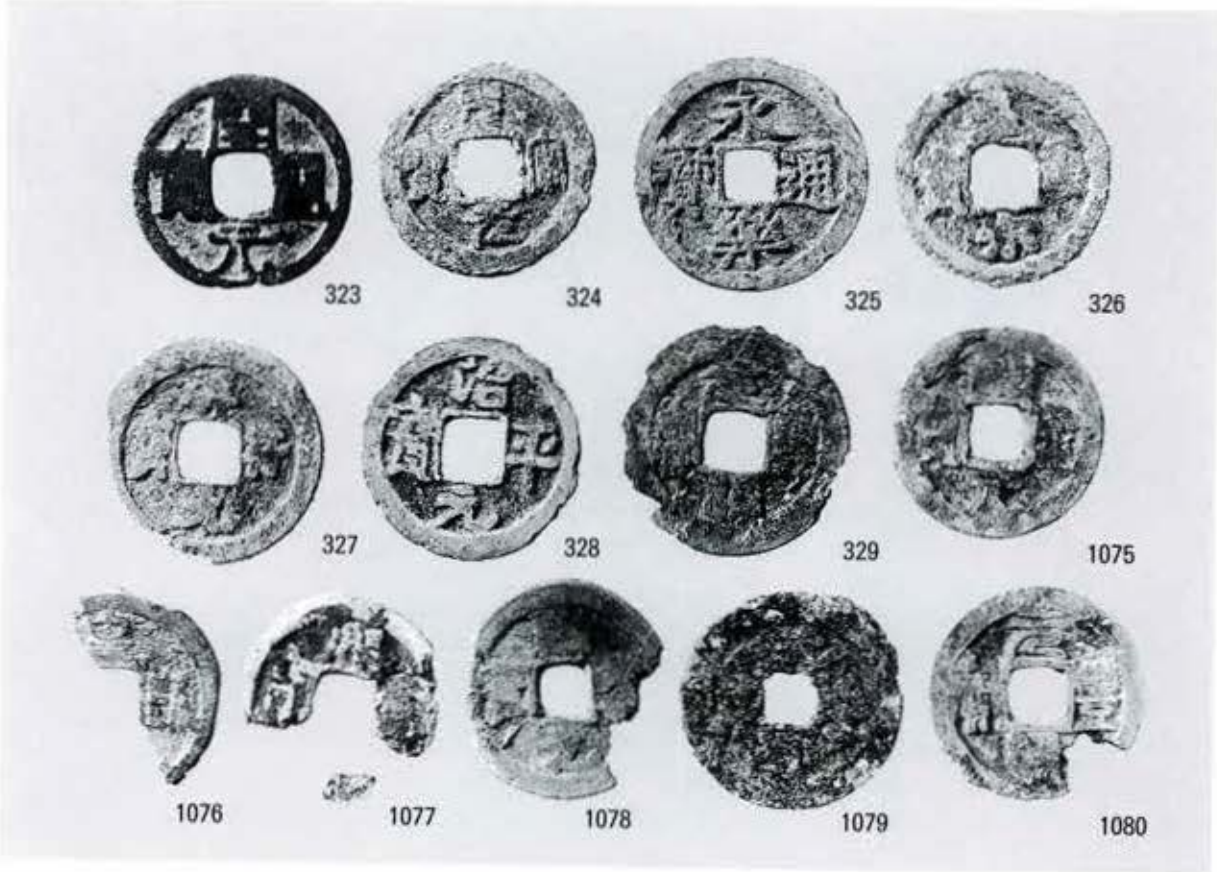
335

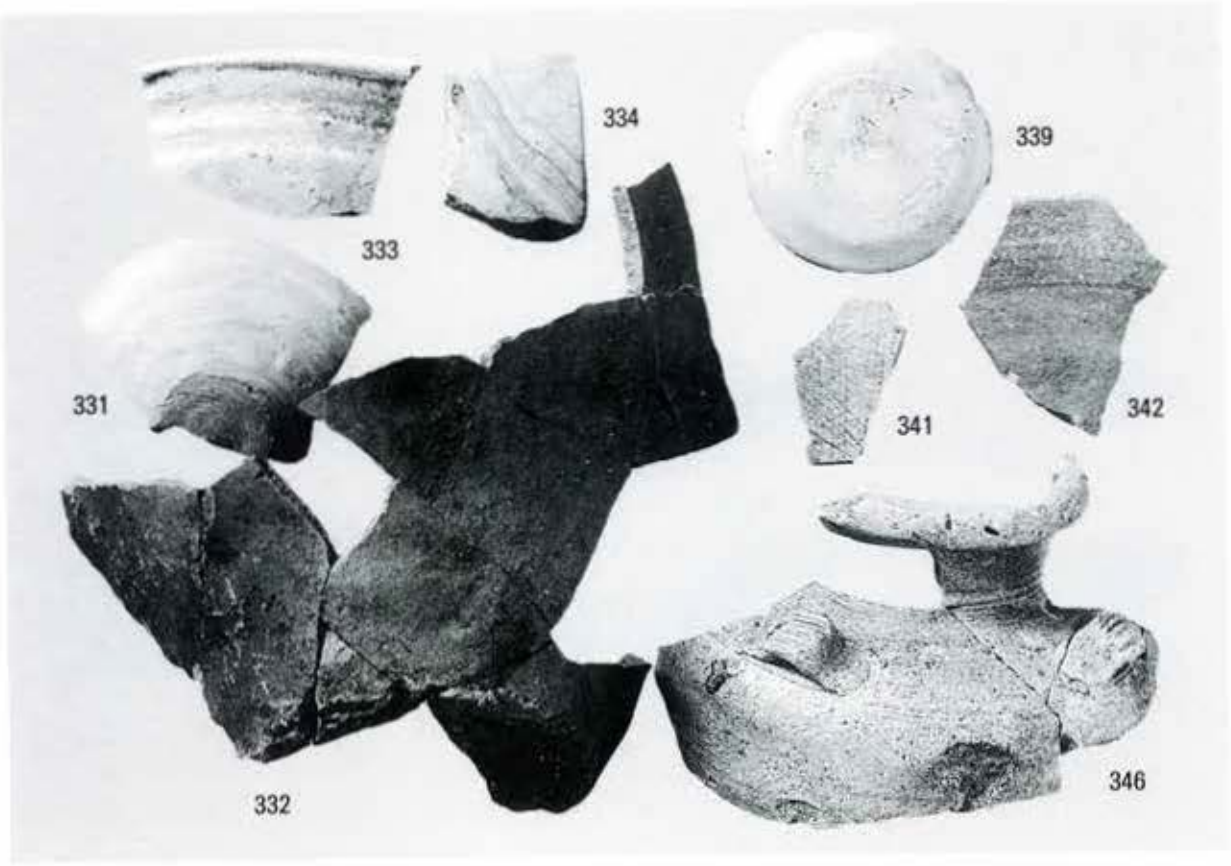
339

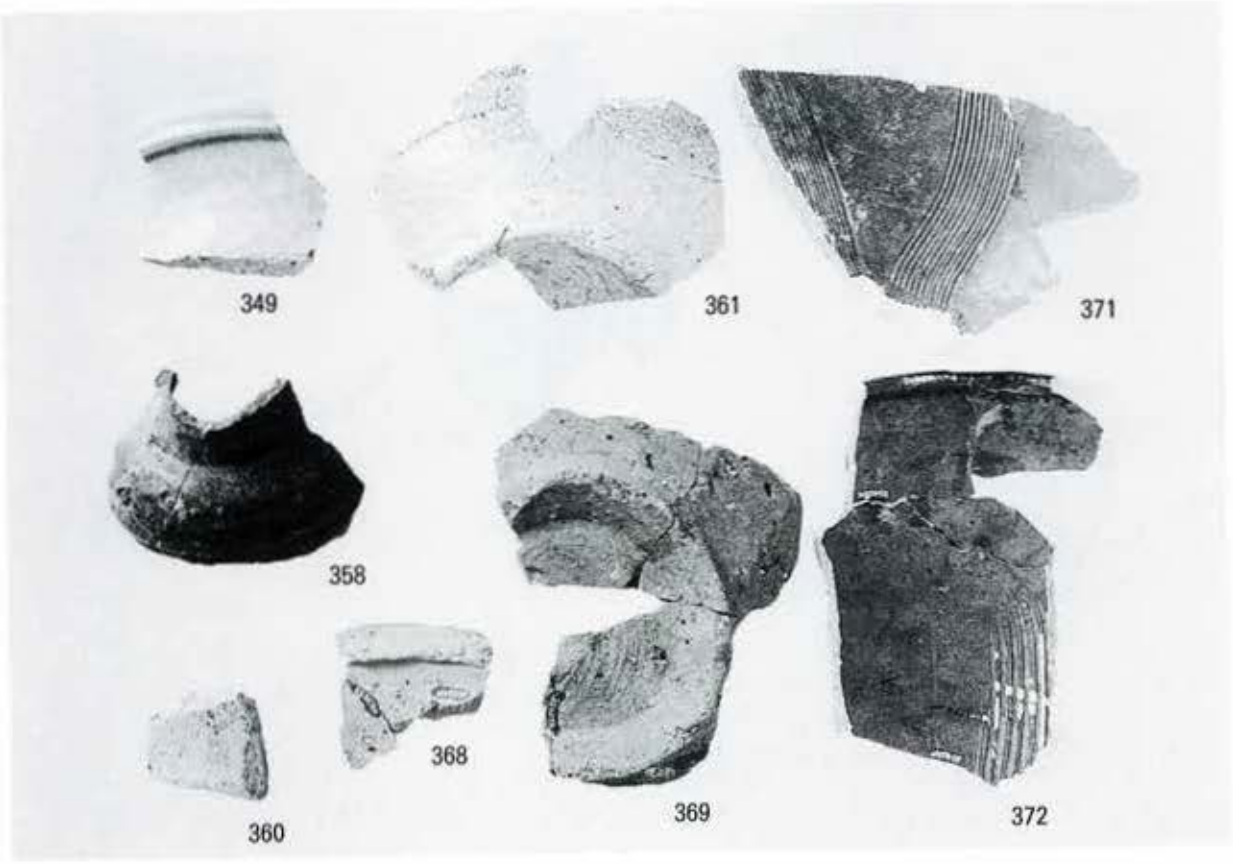
338

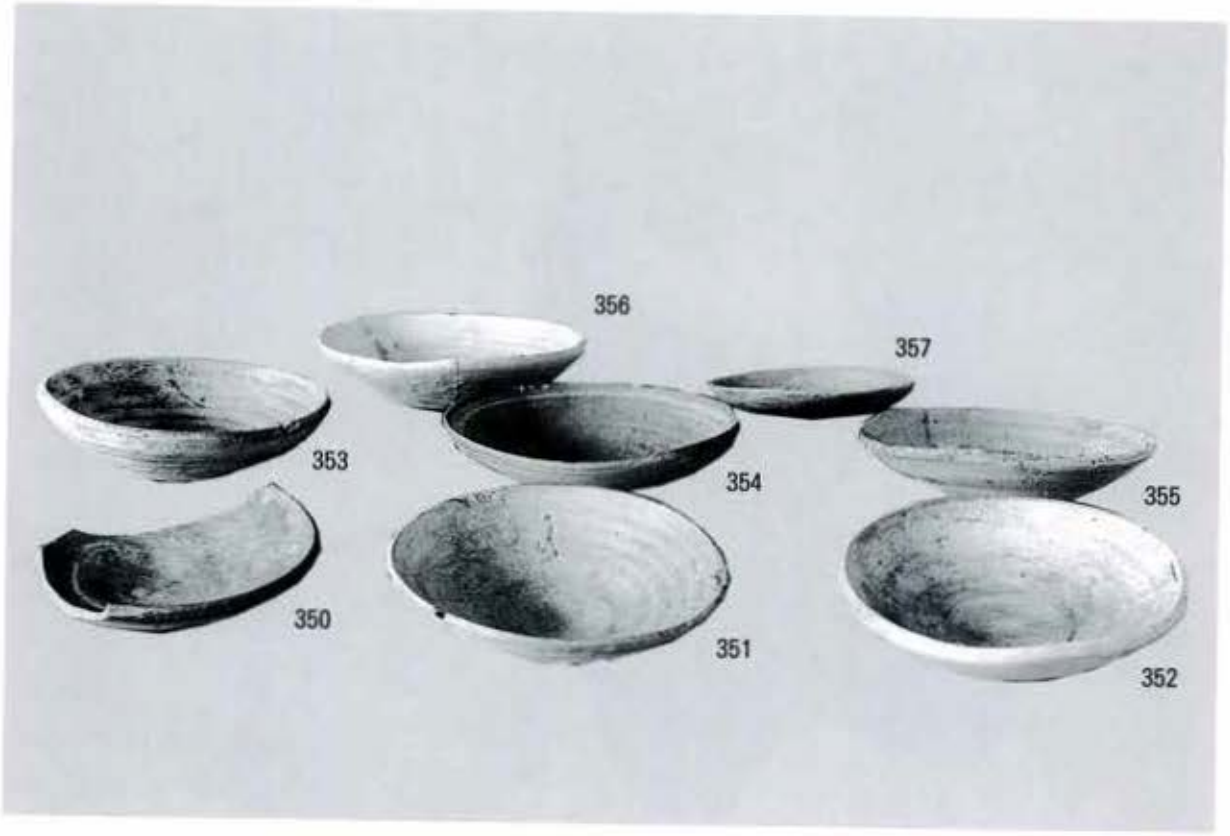
339底

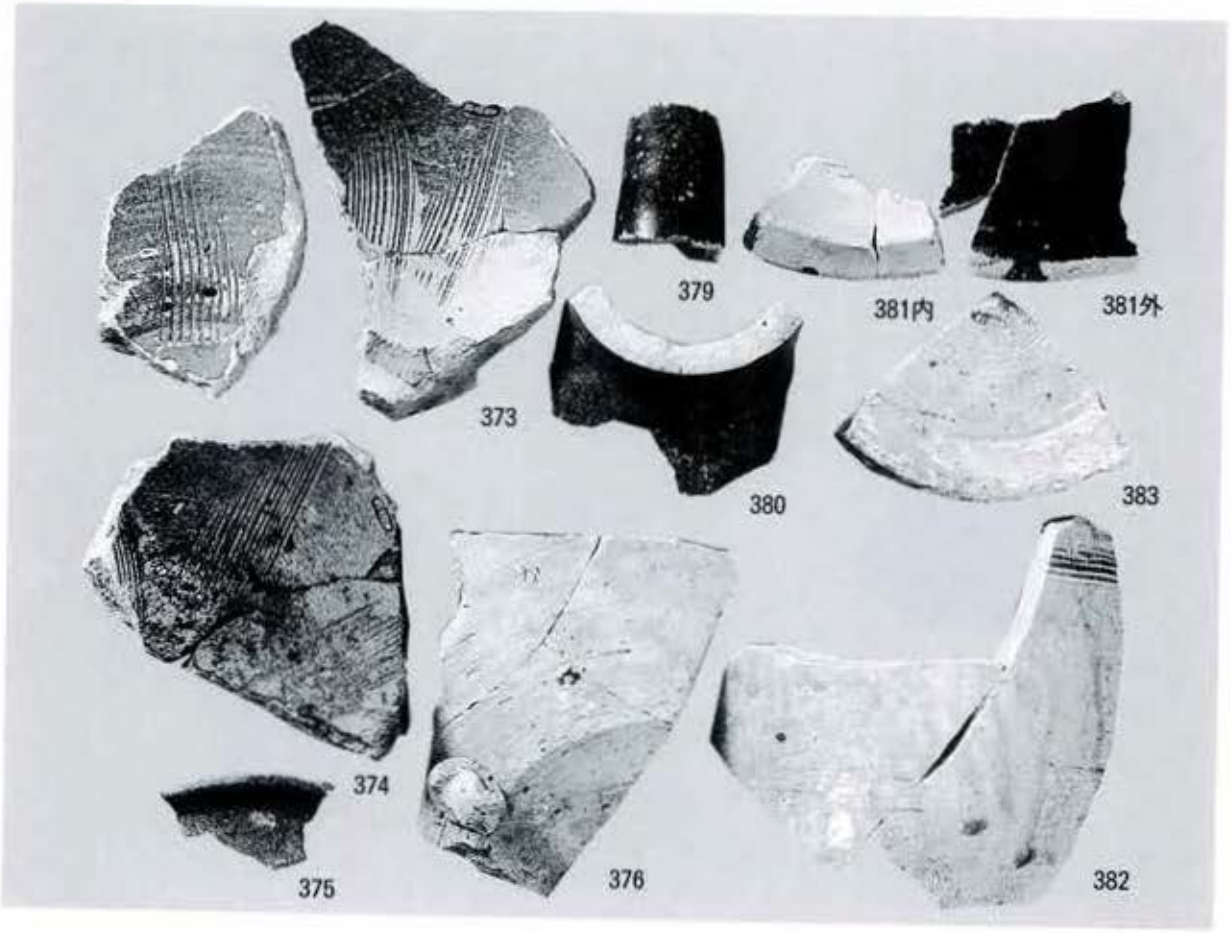
345




334
339
333
331
341
342
332
346

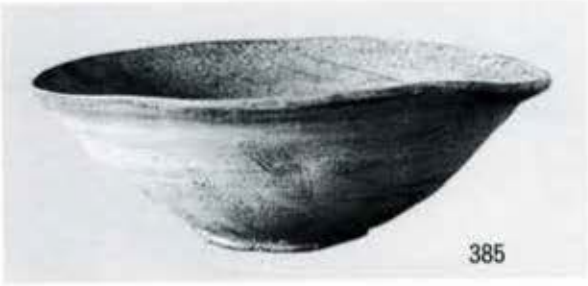

349
361
371
358
368
360
369
372


356
357
353
354
355
350
351
352

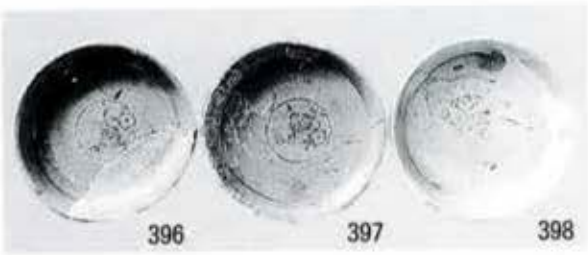

379
381内
381外
373
380
383
374
375
376
382

347

402表


385

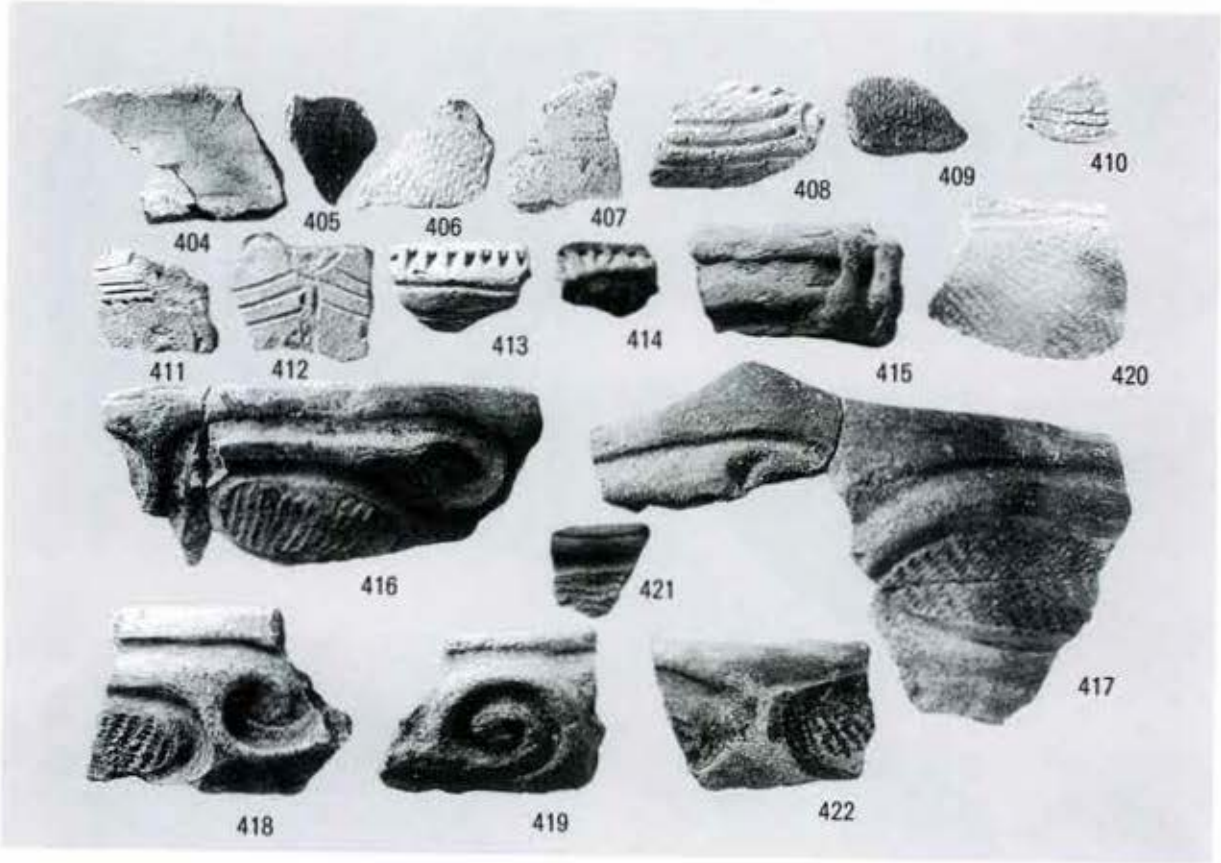
402裏

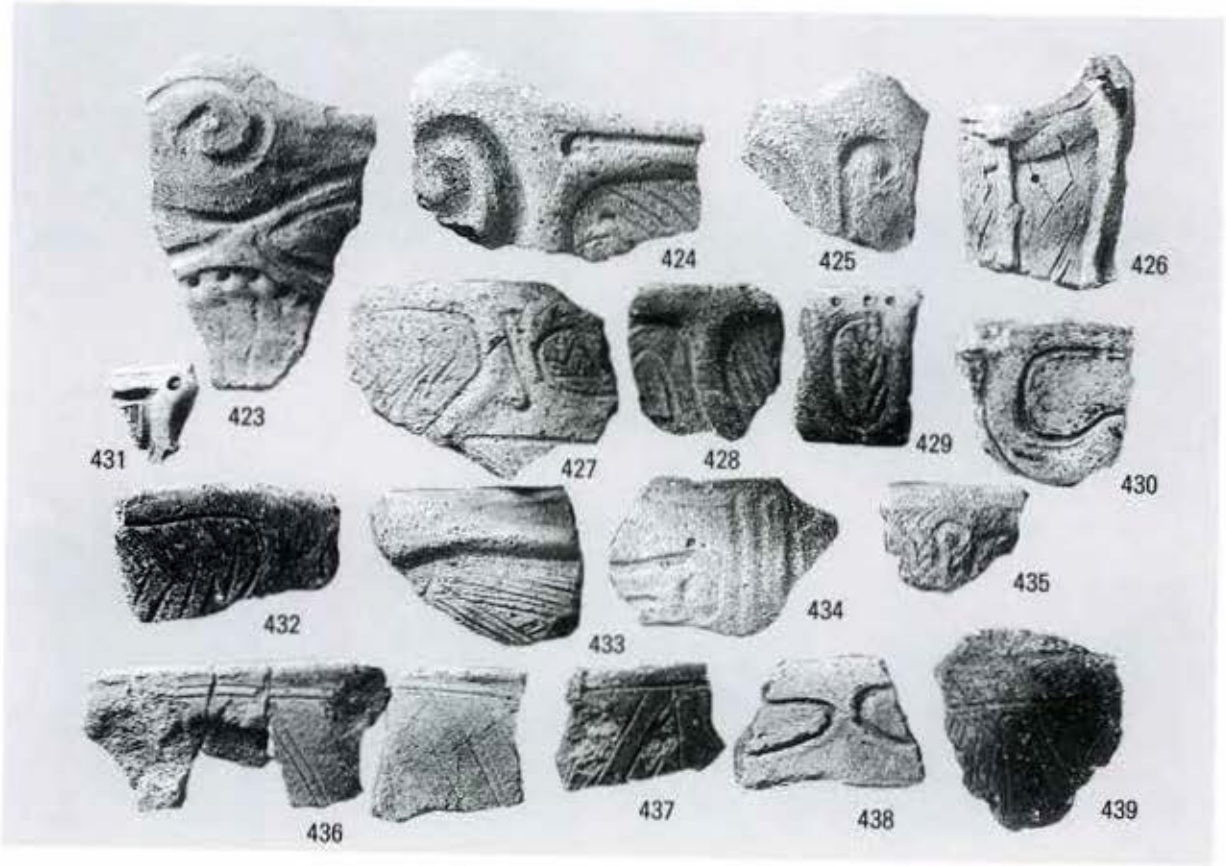

396 397 398

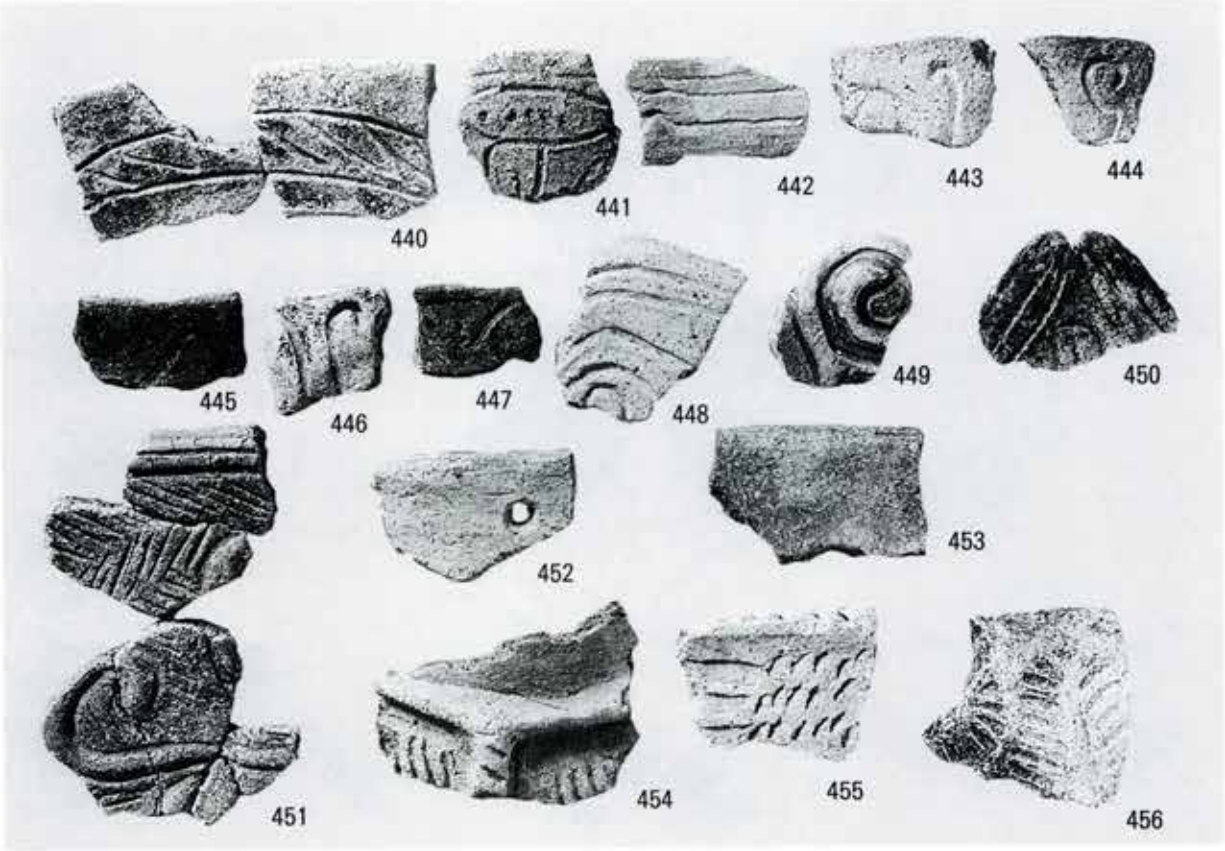
399

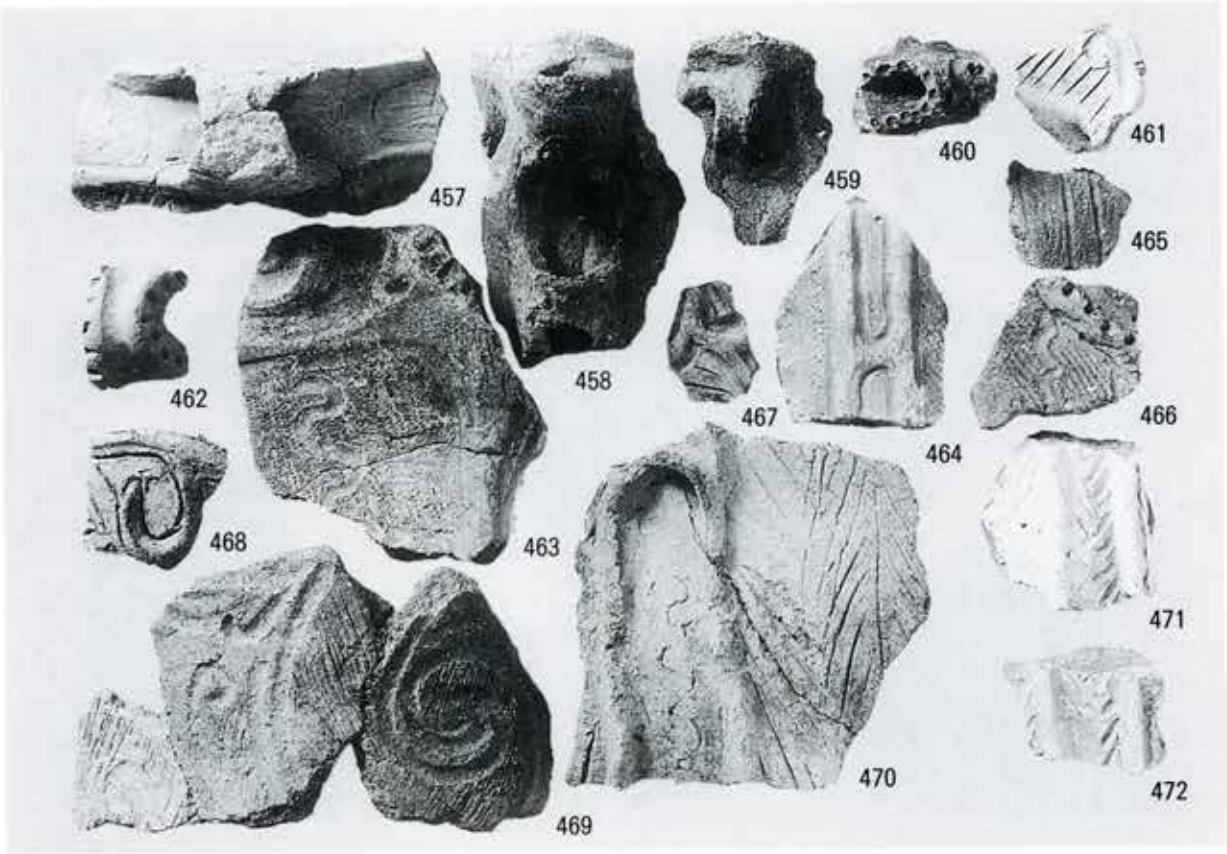
400

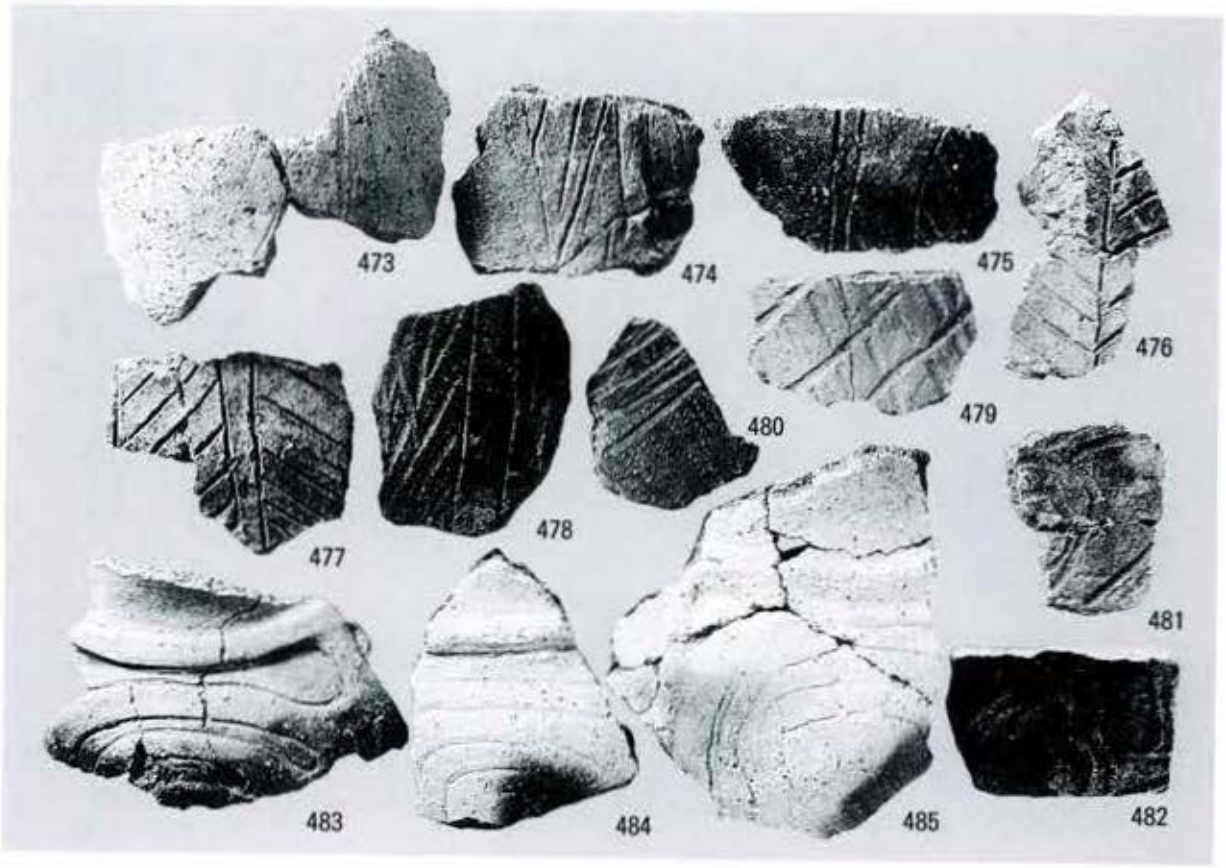
403

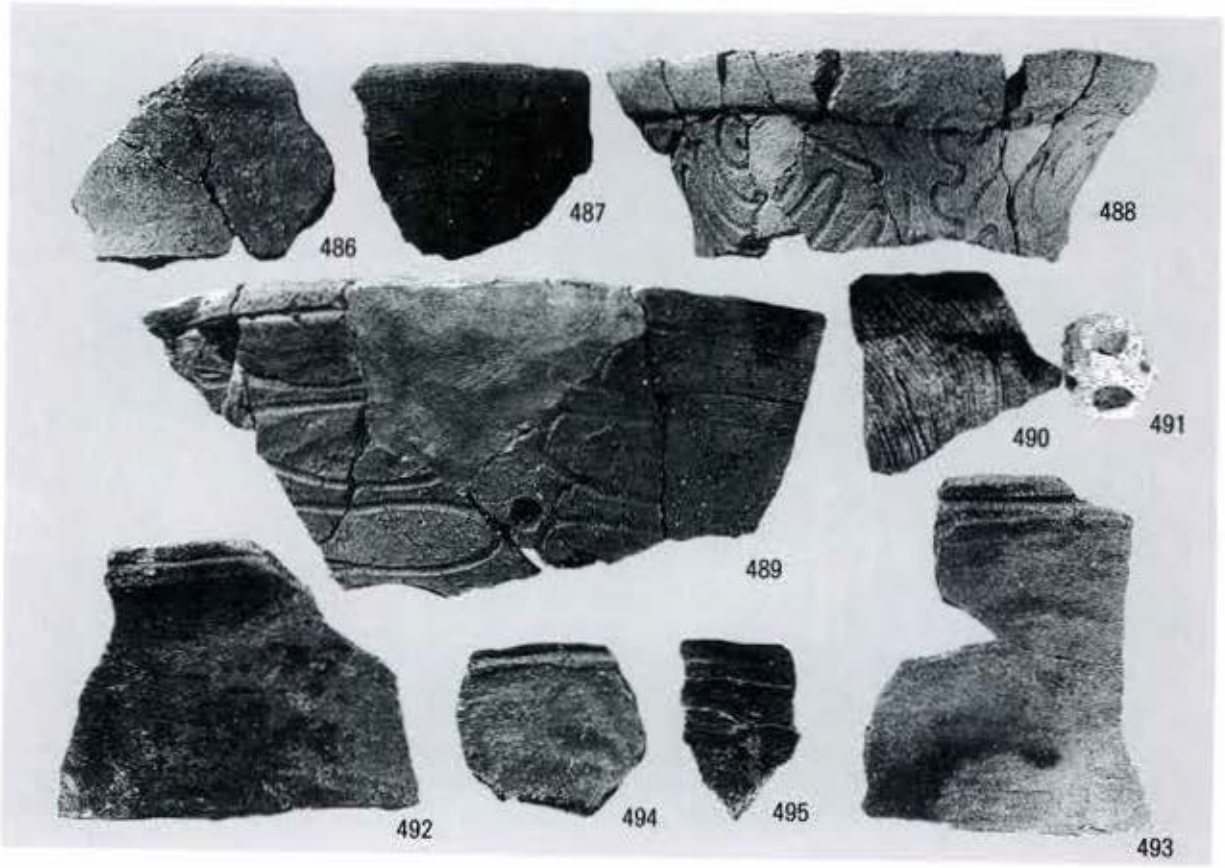

404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
420
416
421
417
418
419
422

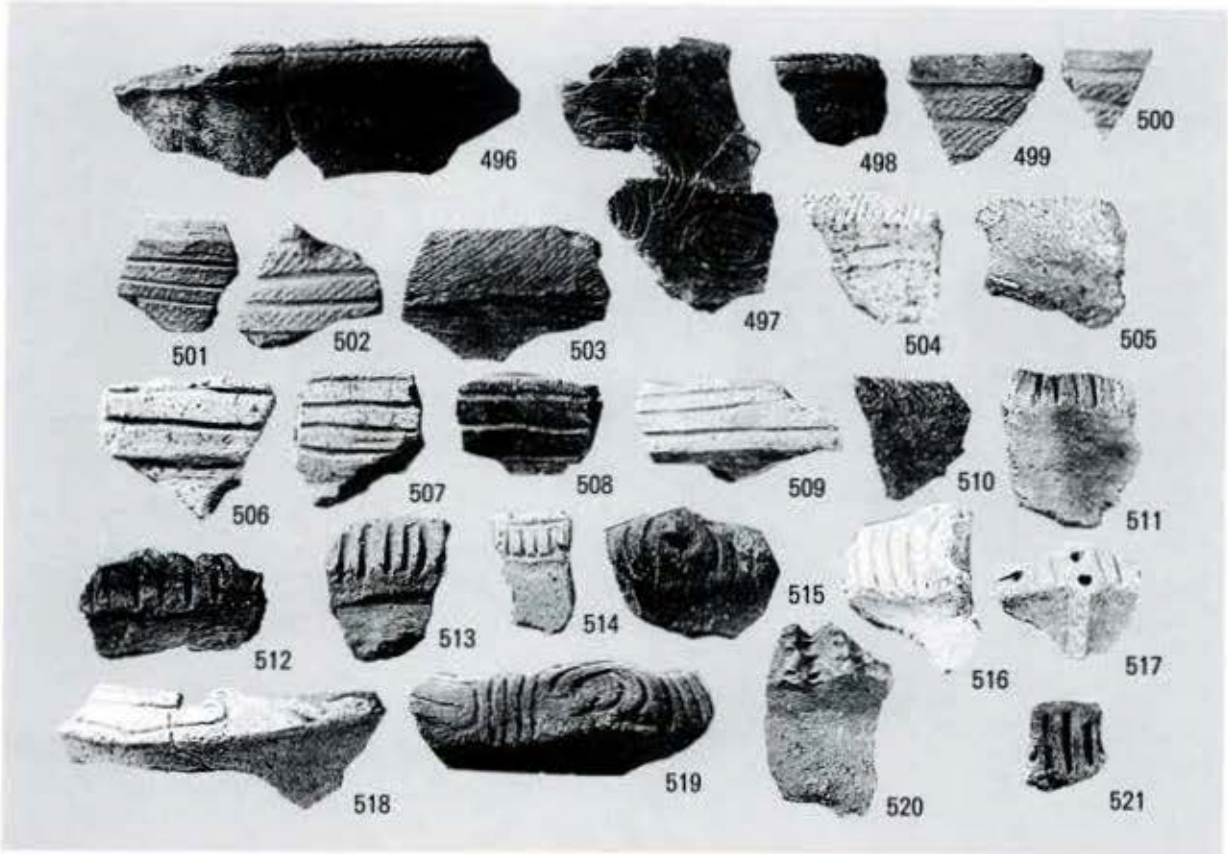

423
424
425
426
431
427
428
429
430
432
433
434
435
436
437
438
439

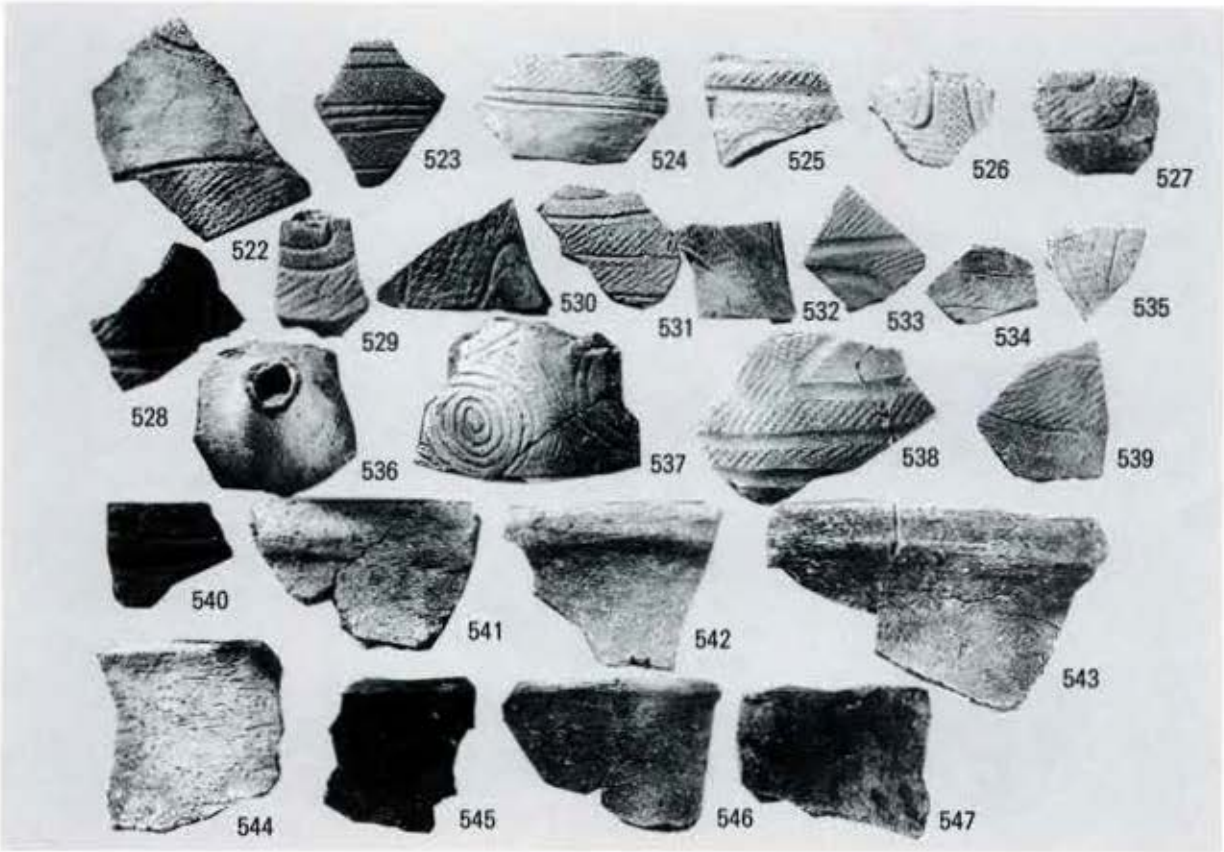

440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456

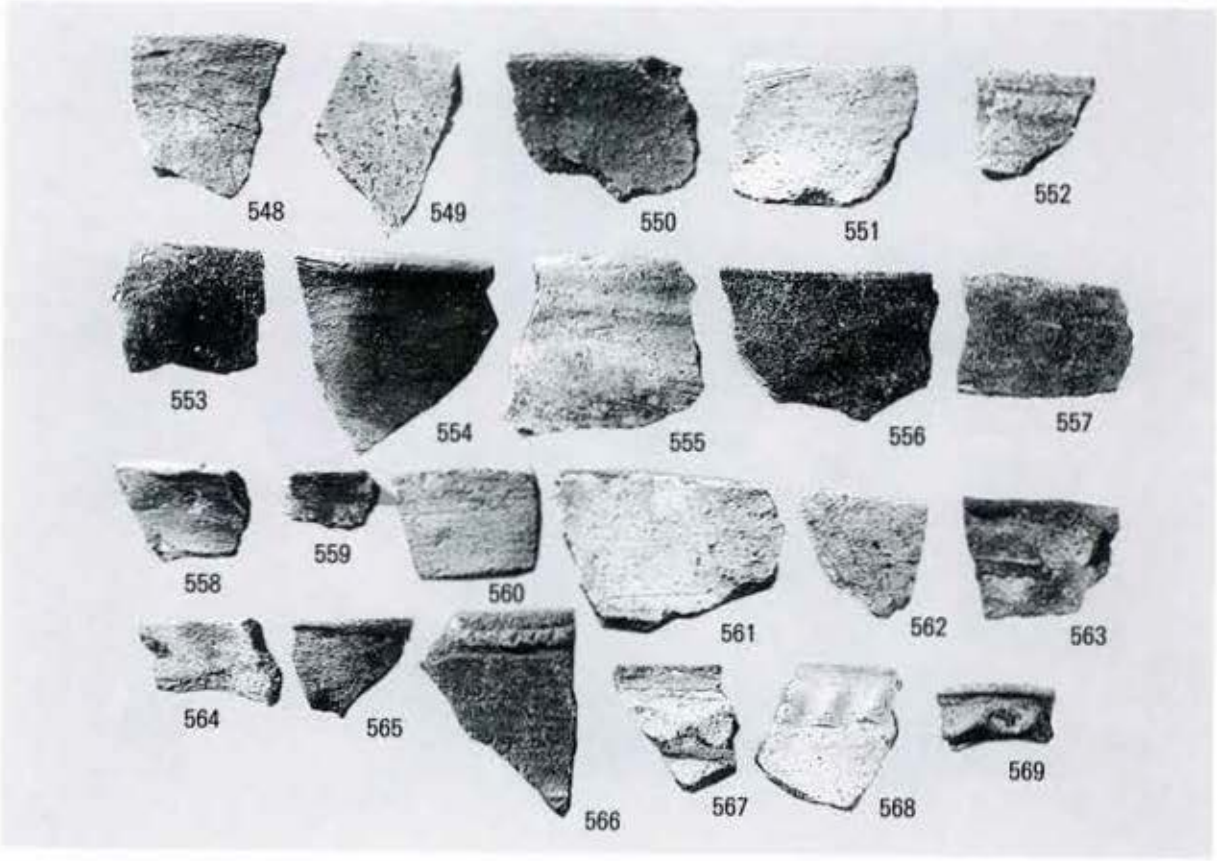

457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472

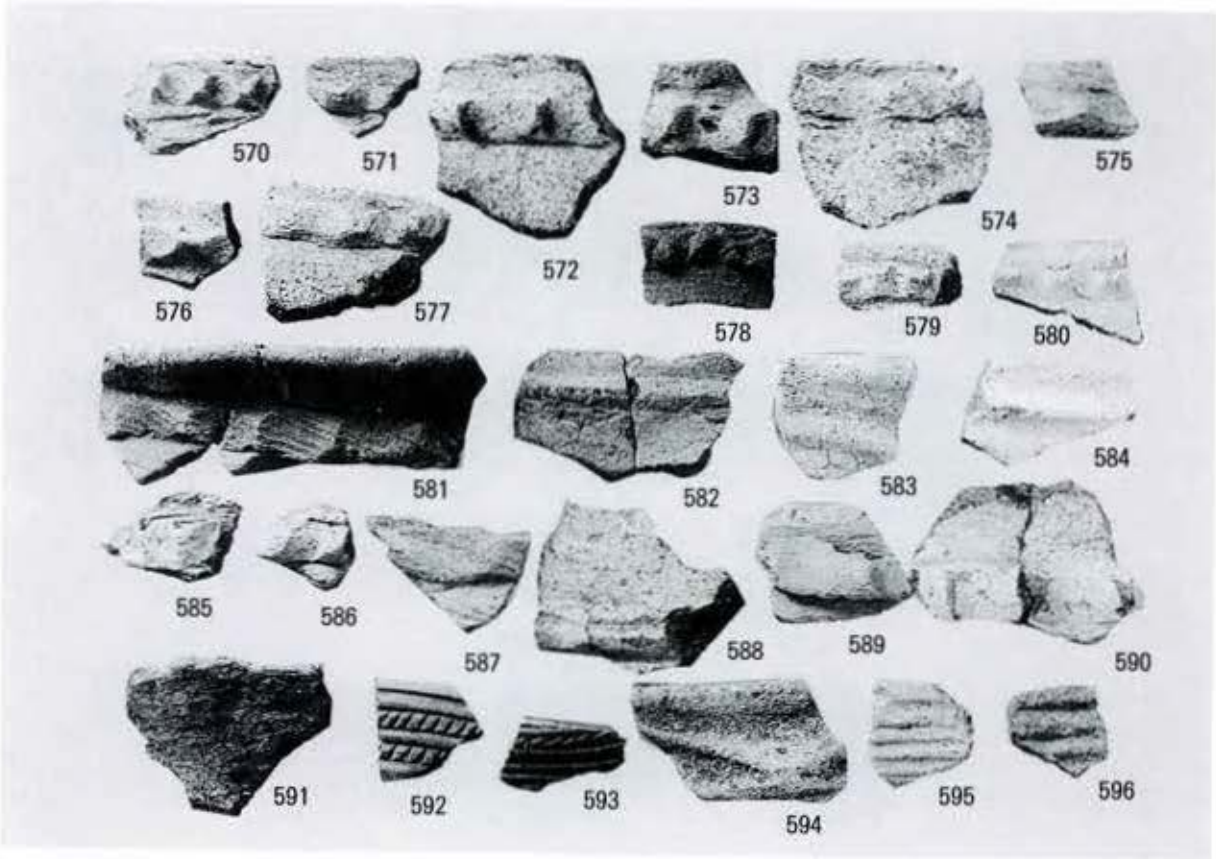

473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485

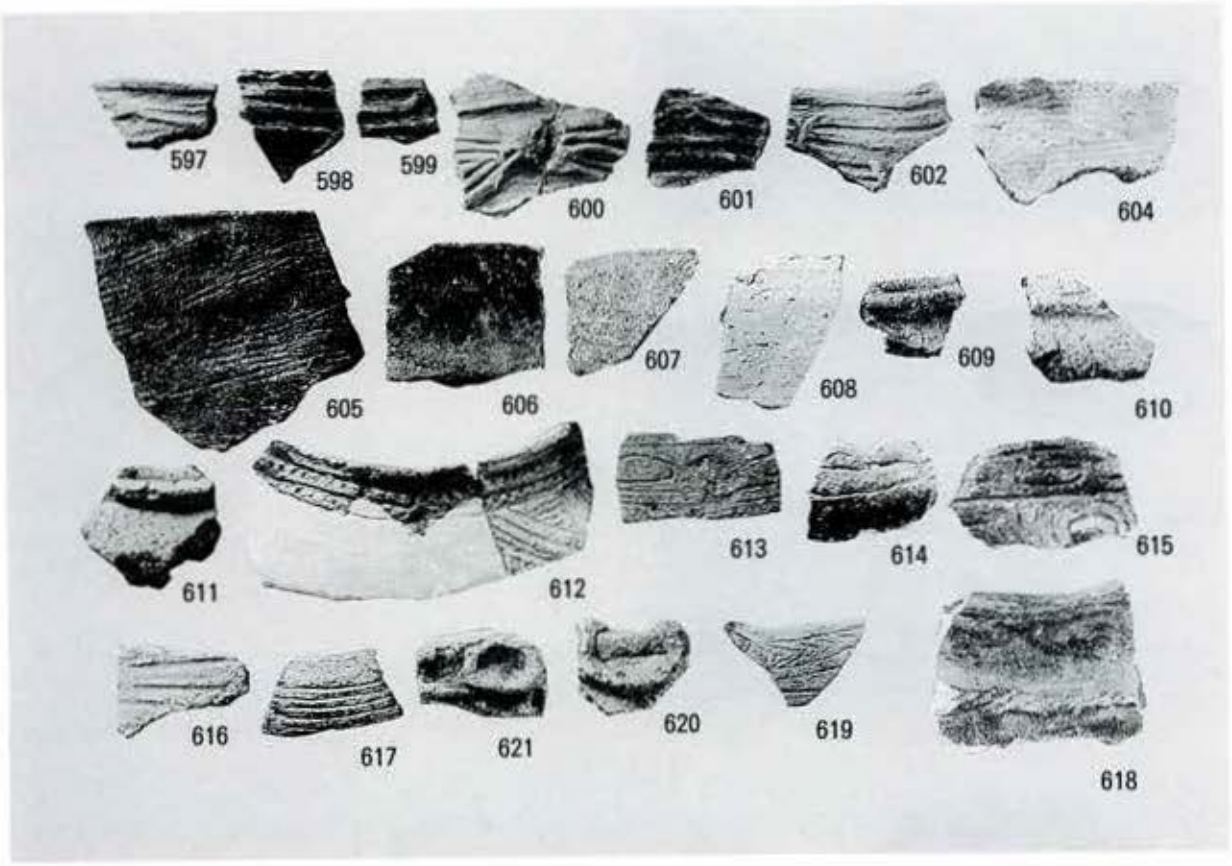

486
487
488
489
490
491
492
493
494
495

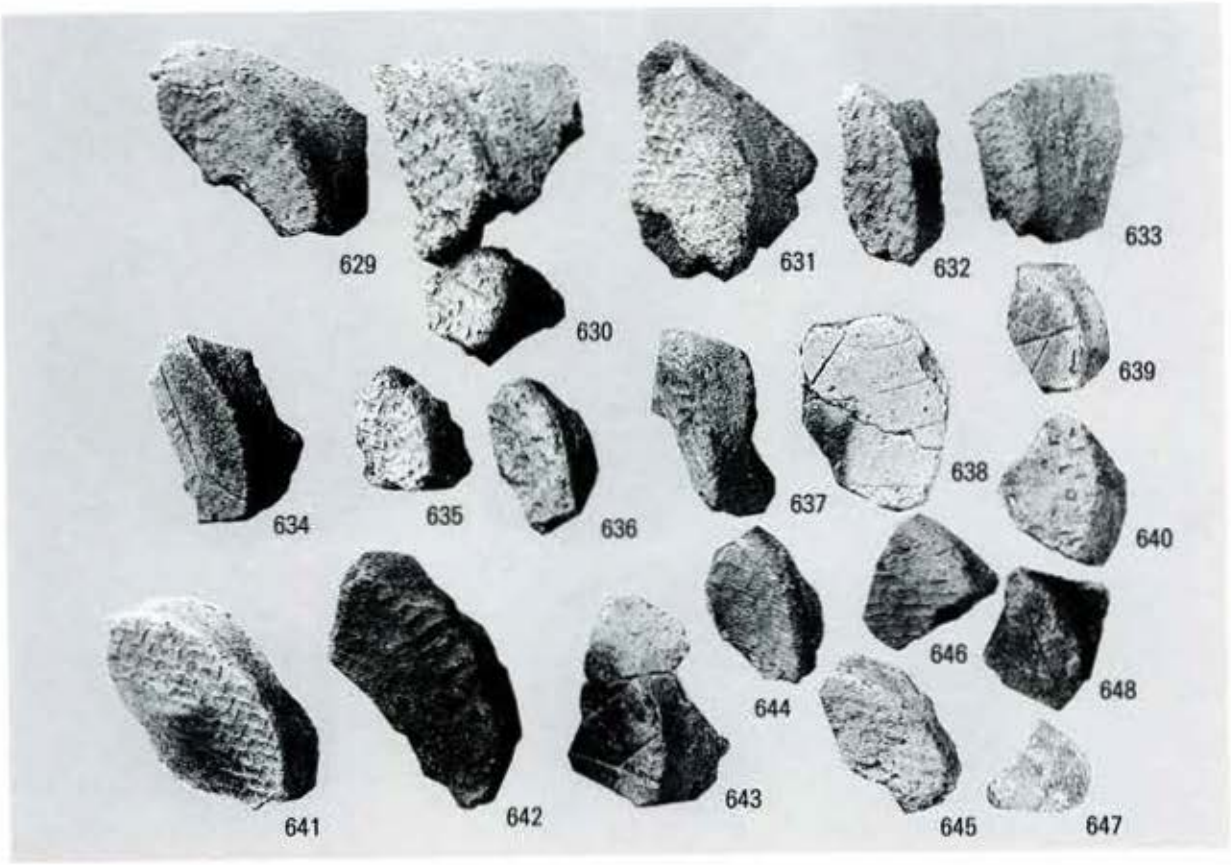

496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521


522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547

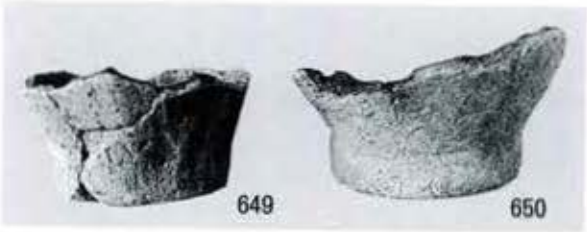

548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569


570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596

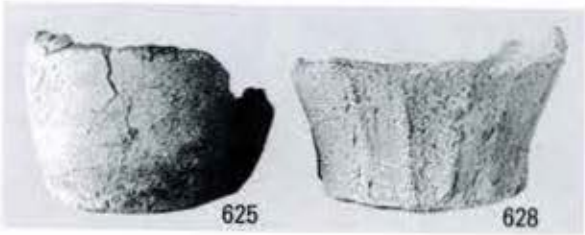

597
598
599
600
601
602
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
621
620
619
618

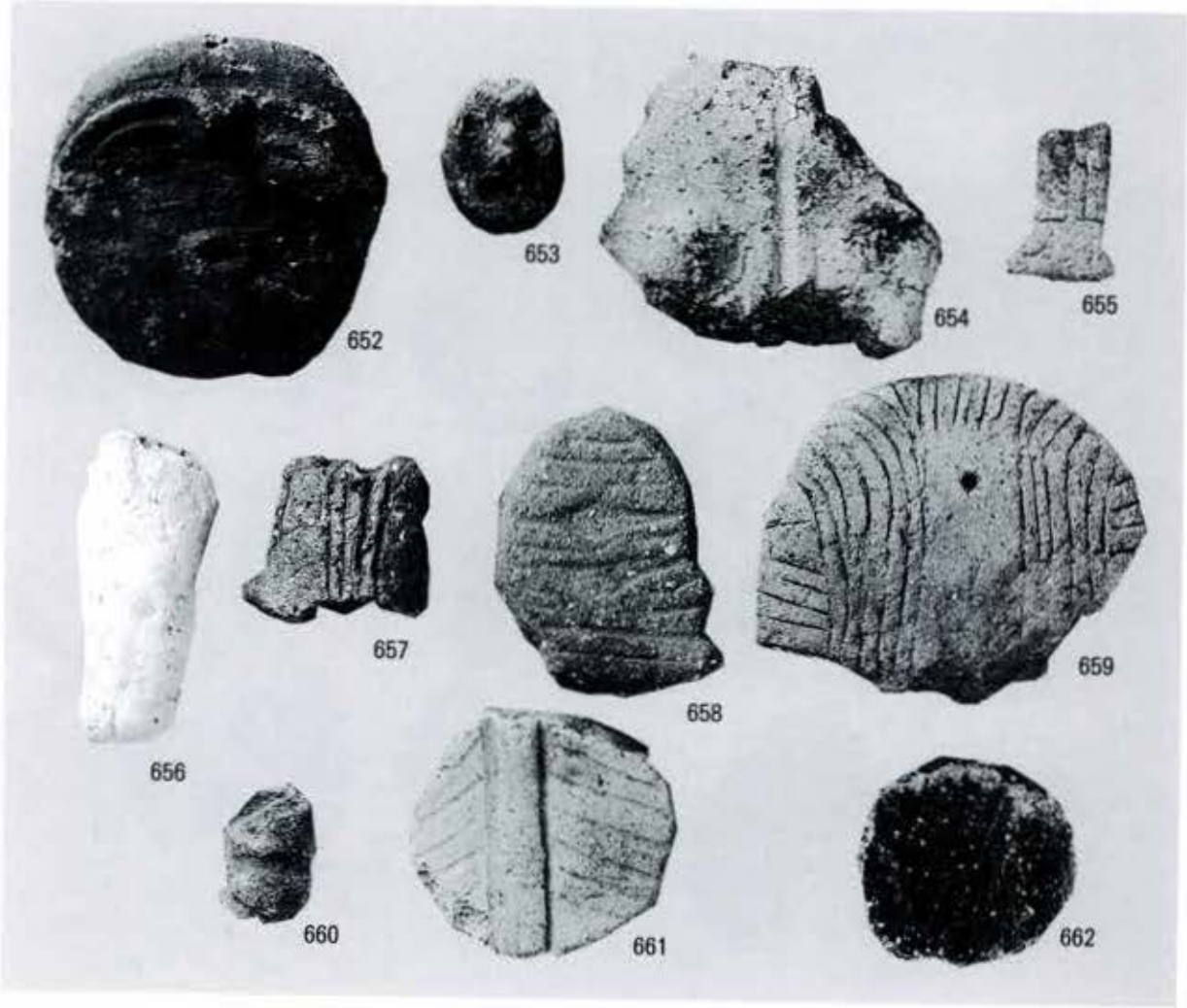

629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648

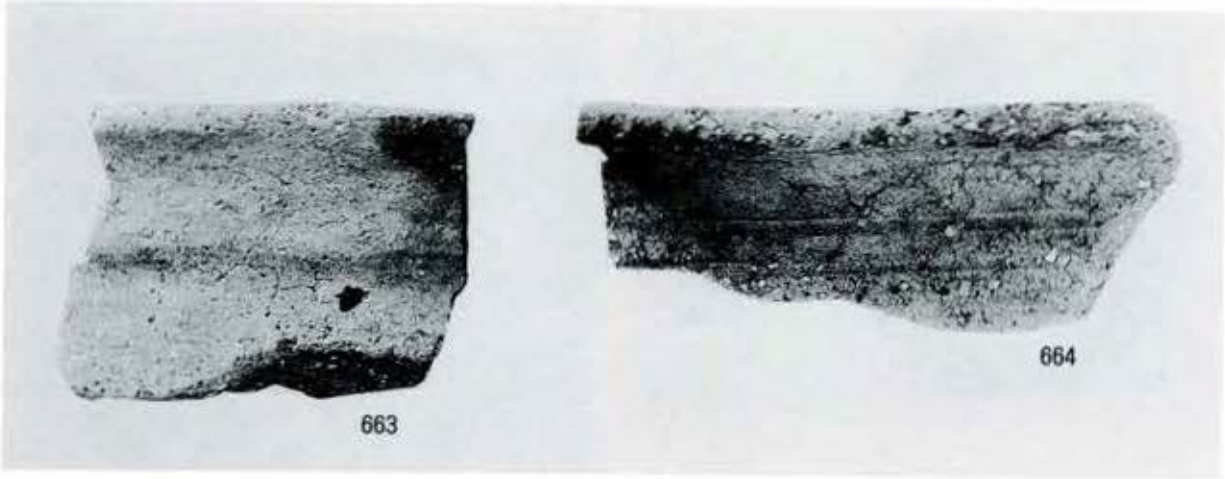
図版 48


649
650

623
627


625
628


652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662


663
664

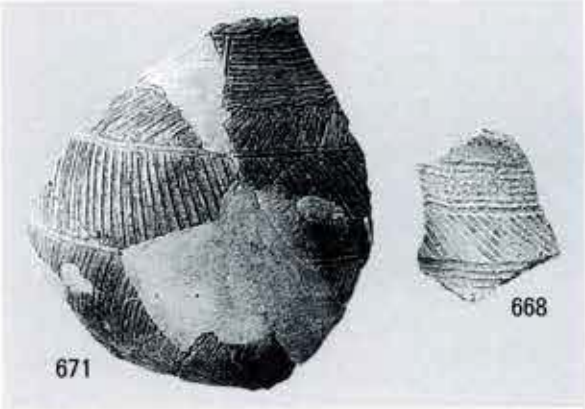
665

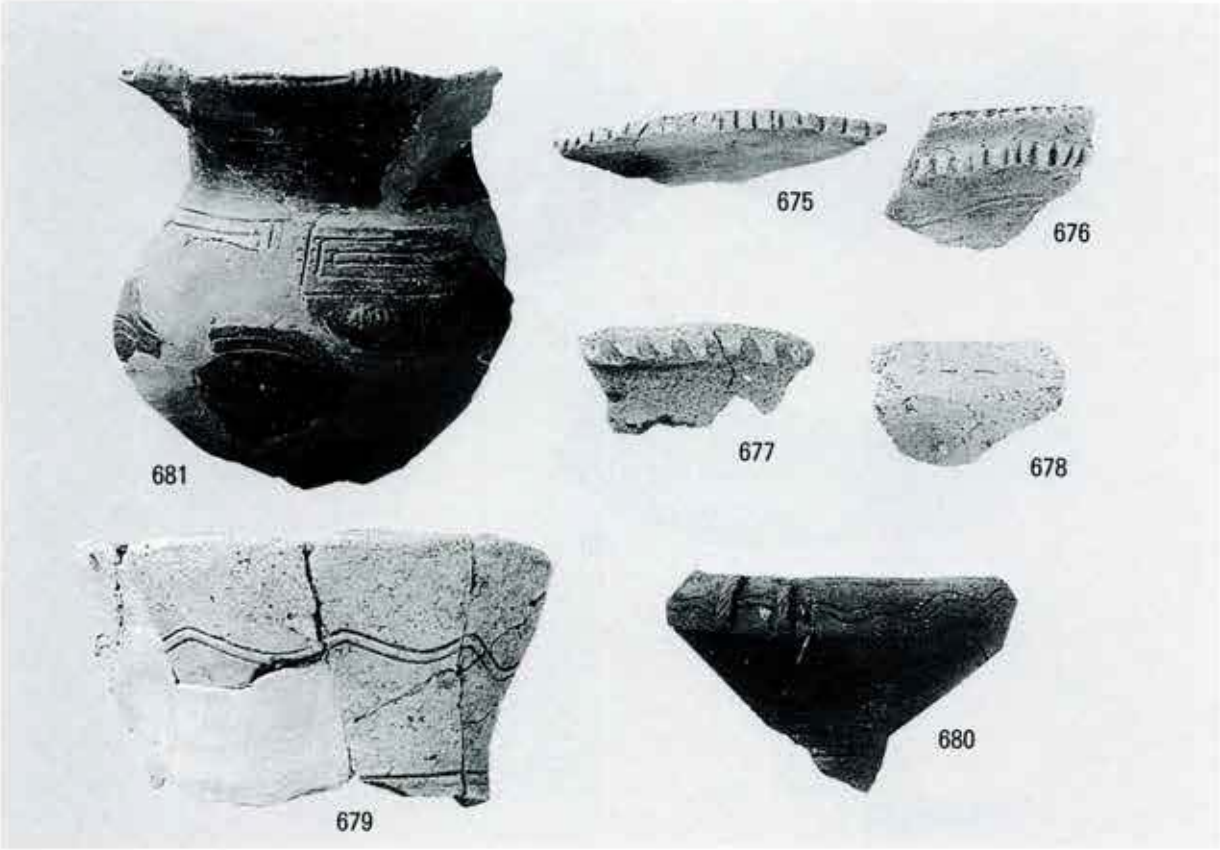
667

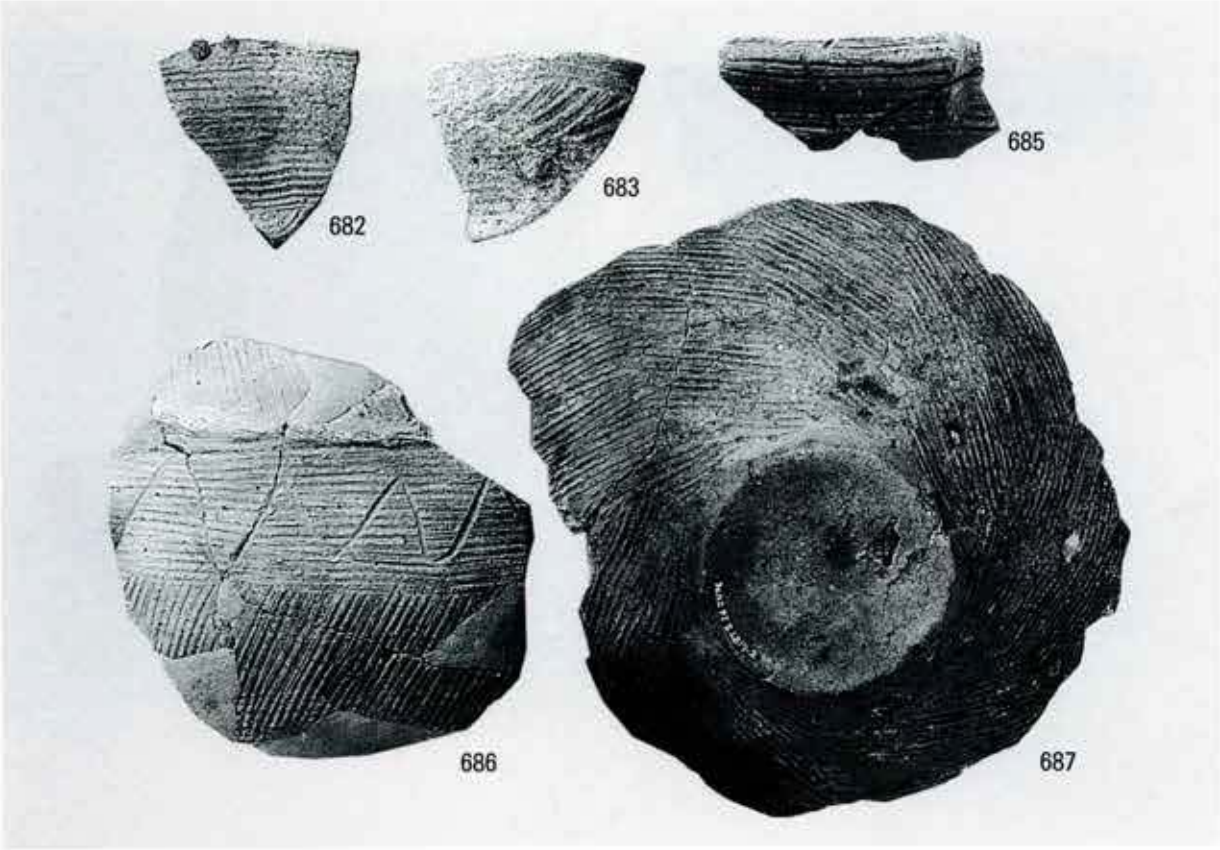
666

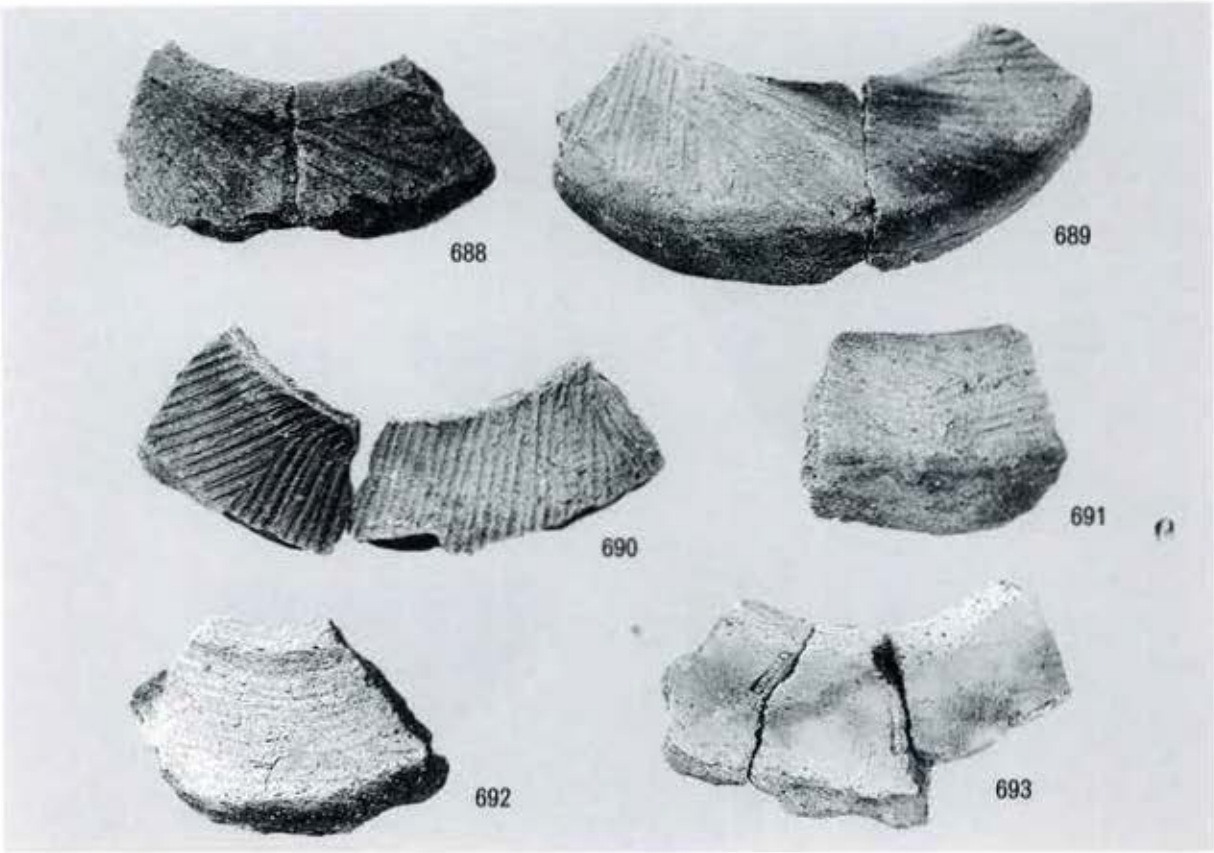
669
670

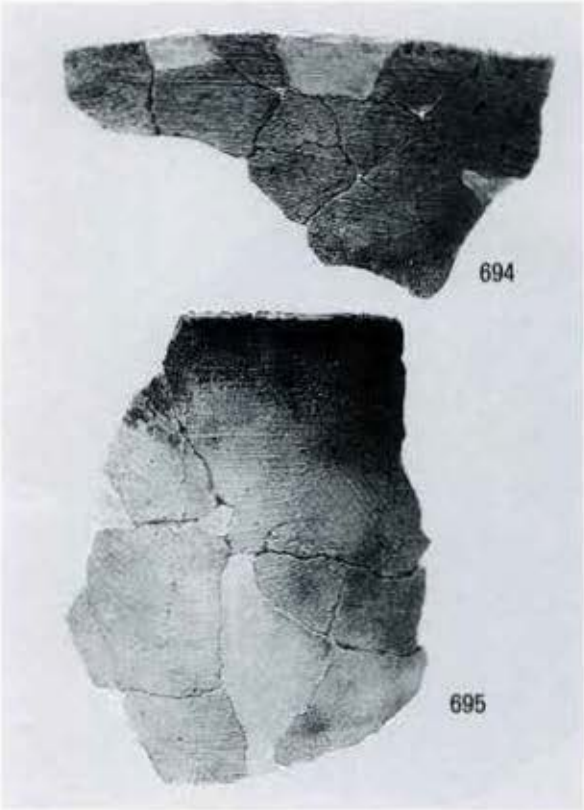
図版 50




675
676
677
678
679
680
681


682
683
685
686
687


688
689
690
691
692
693


694
695

696

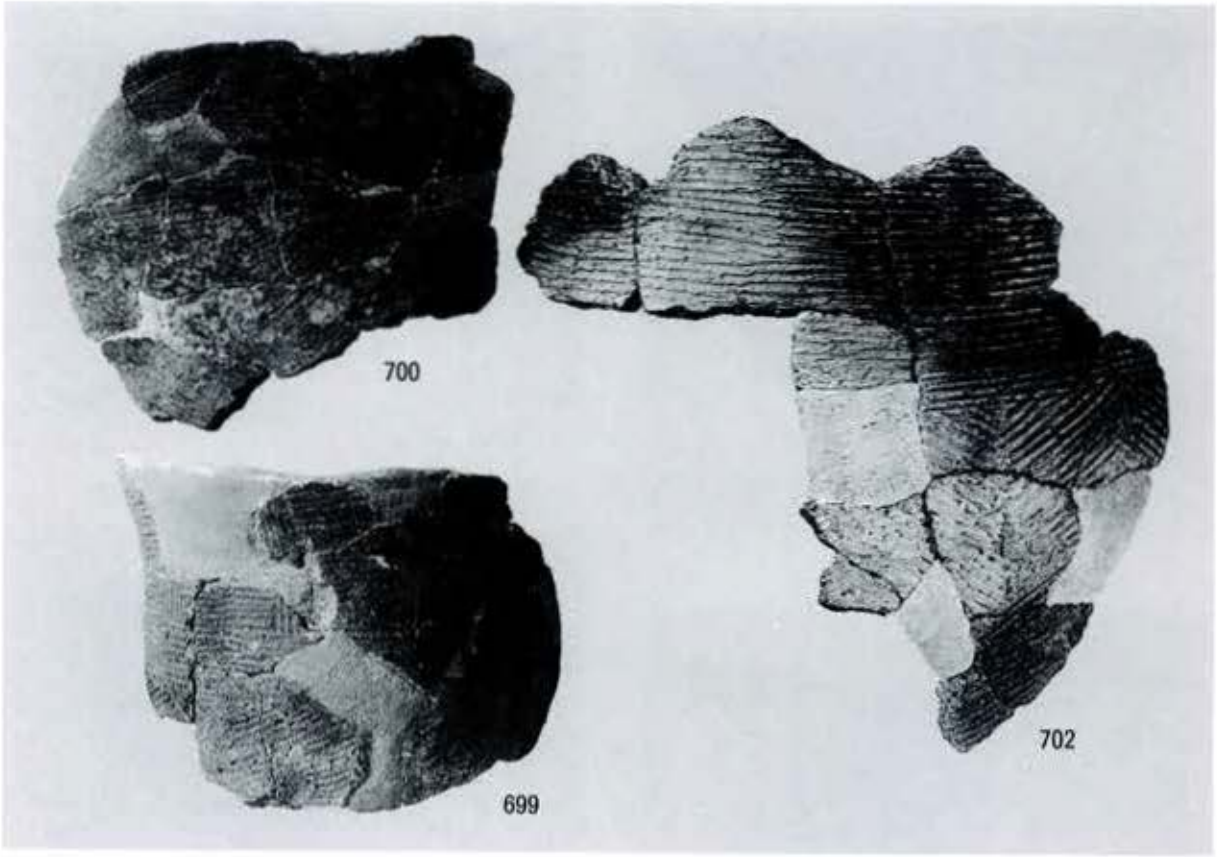
697

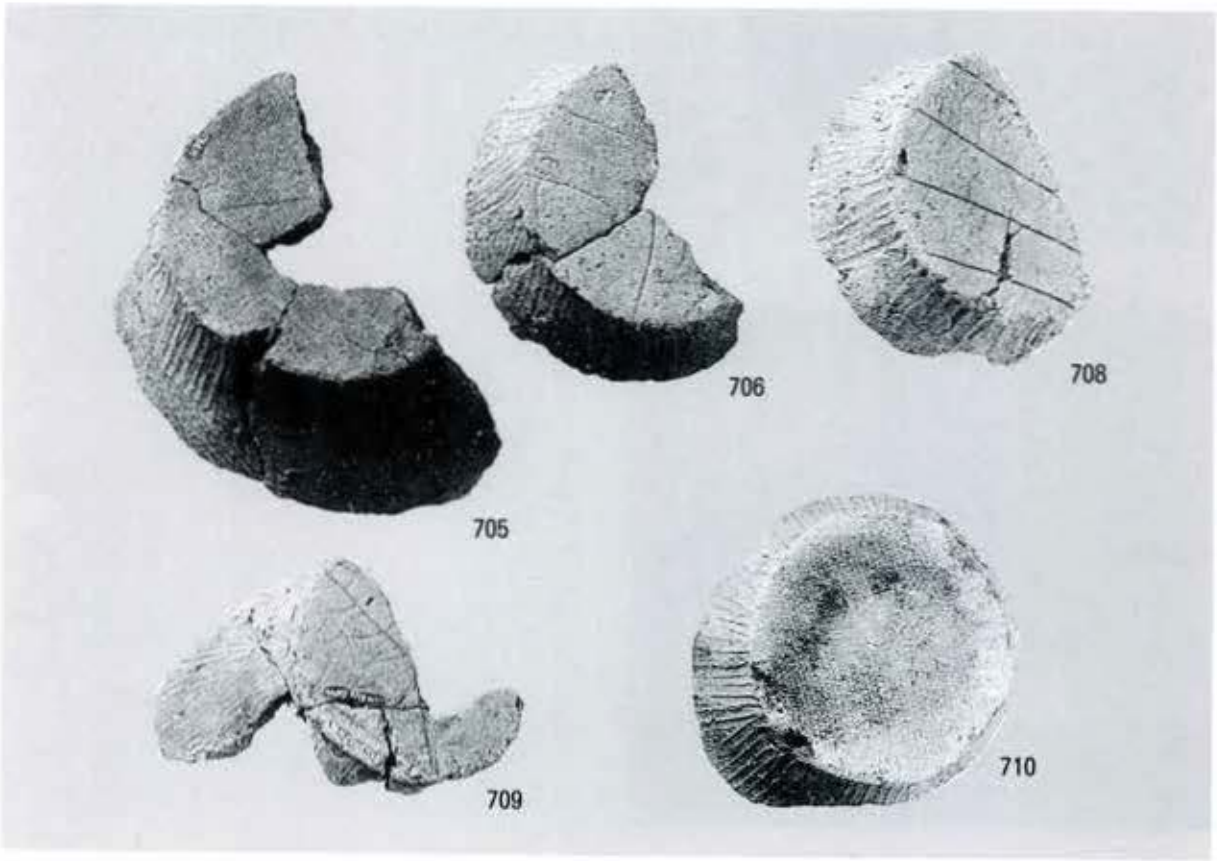
701

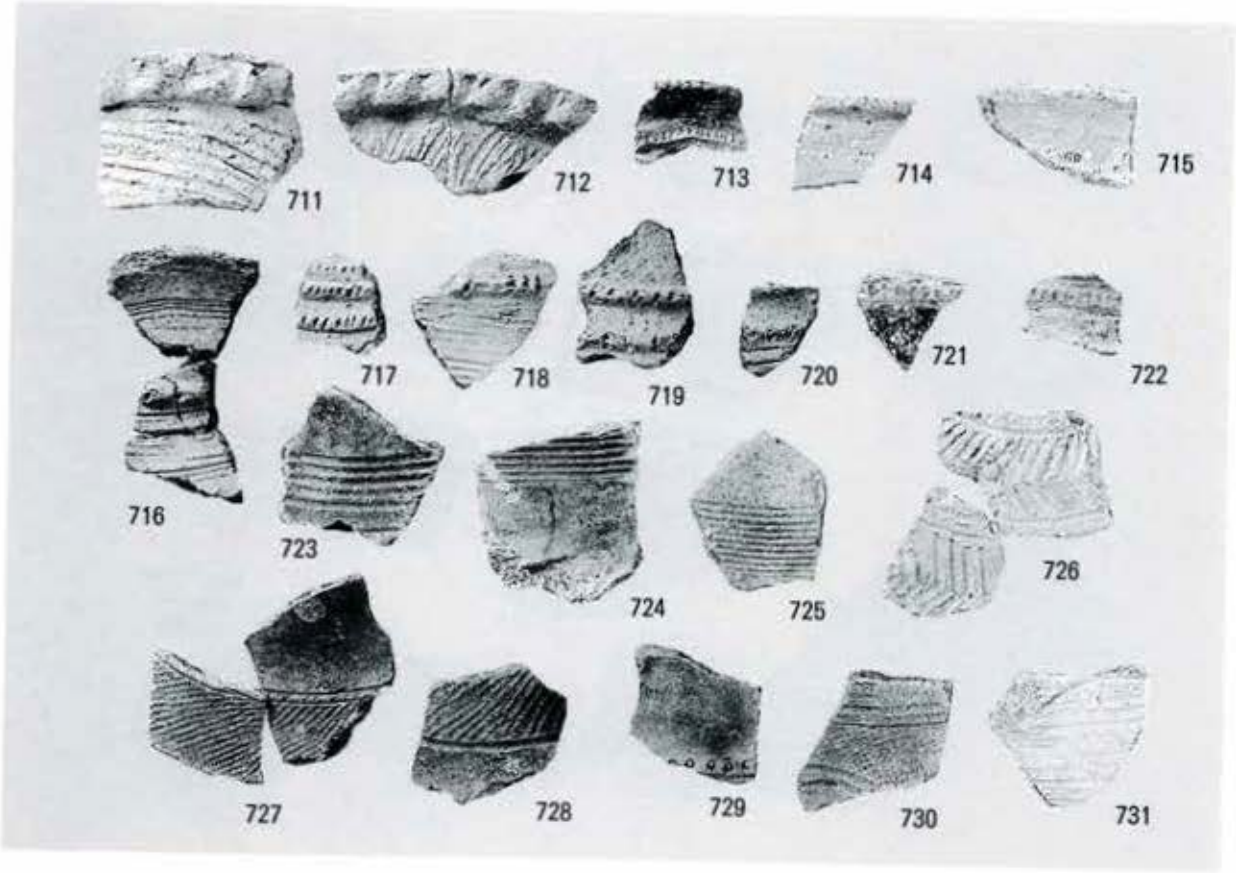
698

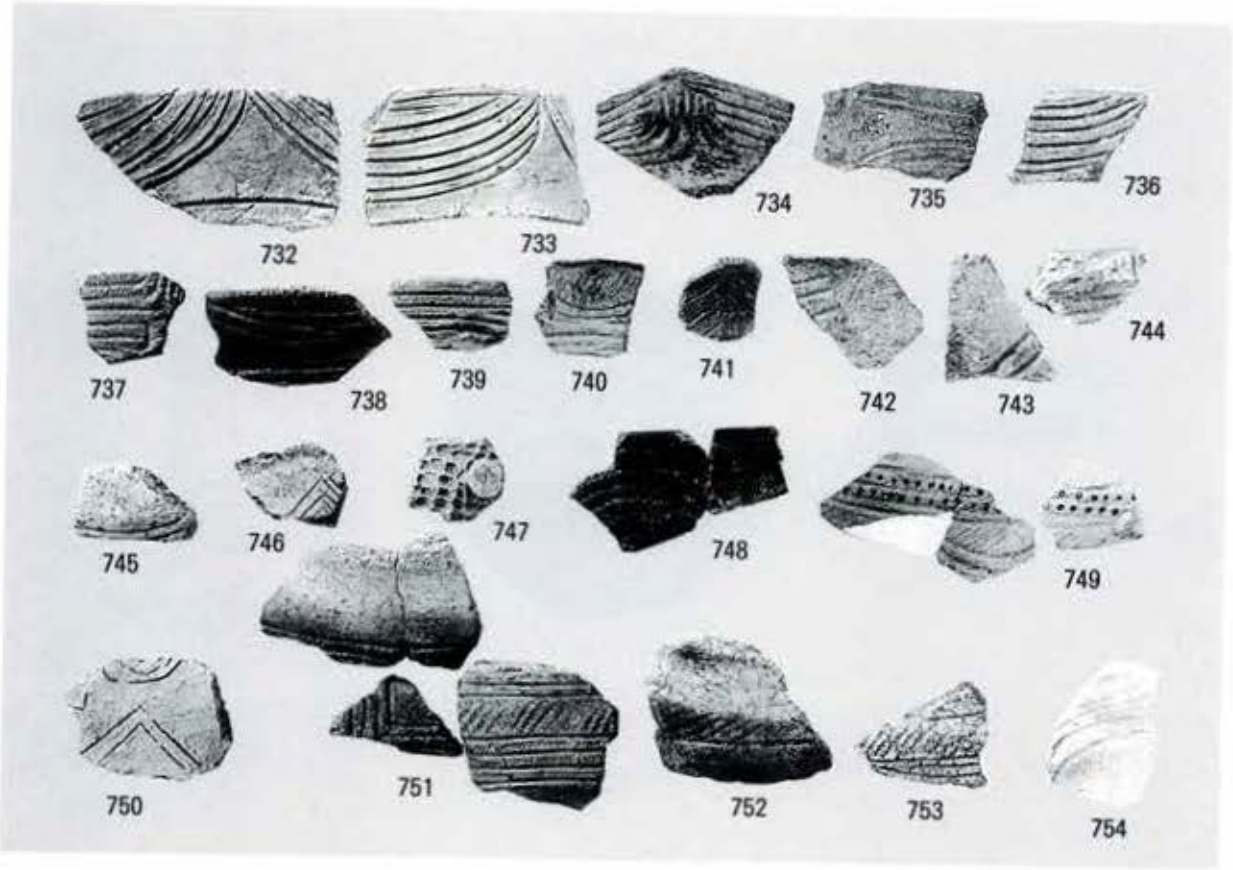
703

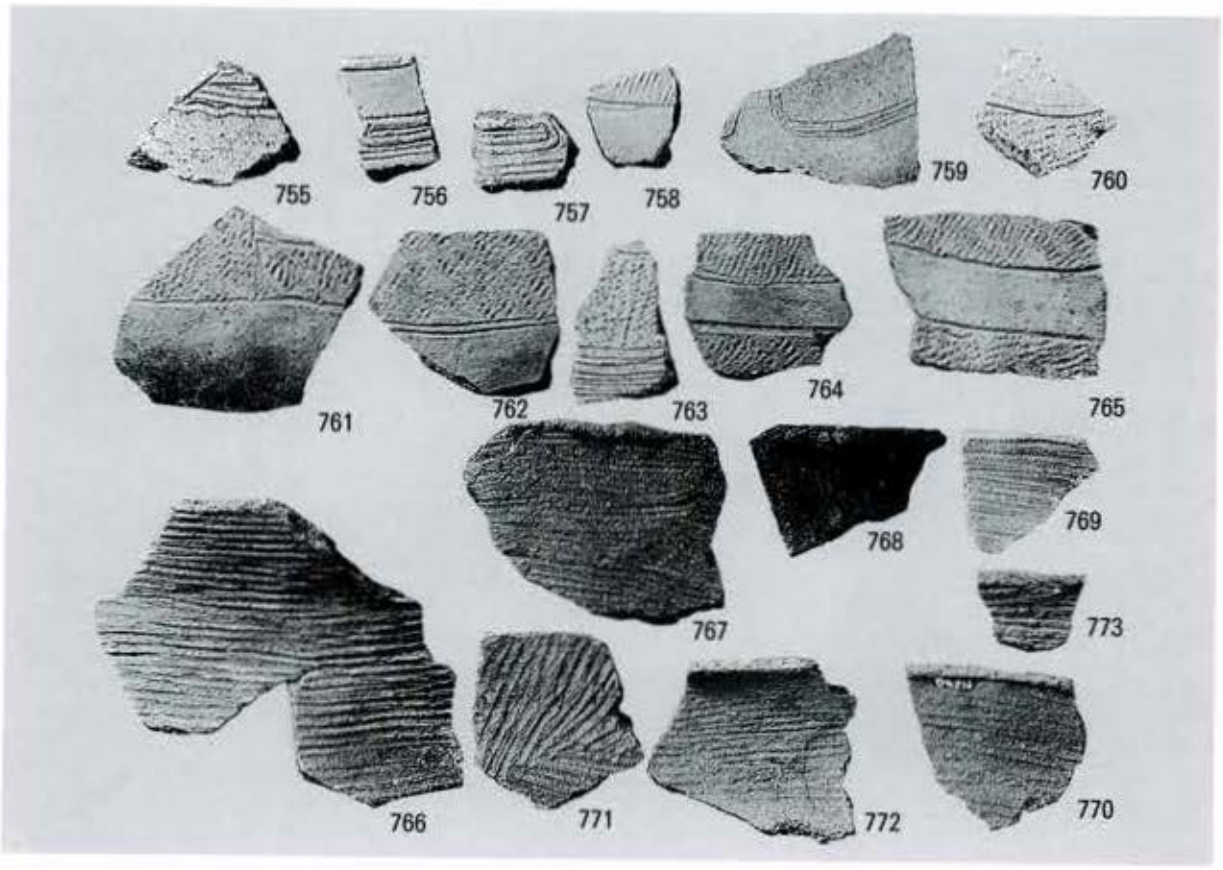
698底


700
699
702

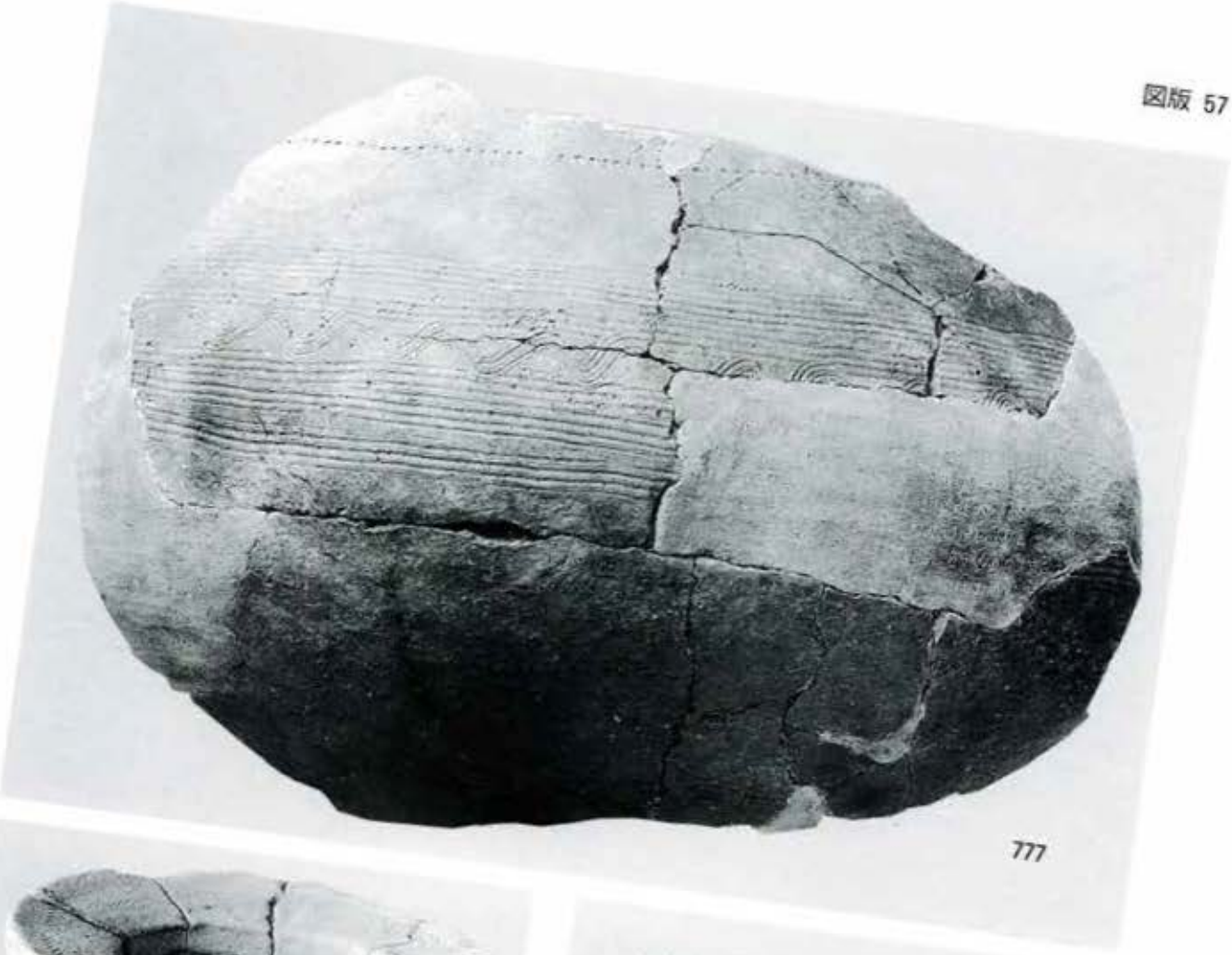

706
708
705
709
710


711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
730
731


732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754


755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773

774
775
776



777

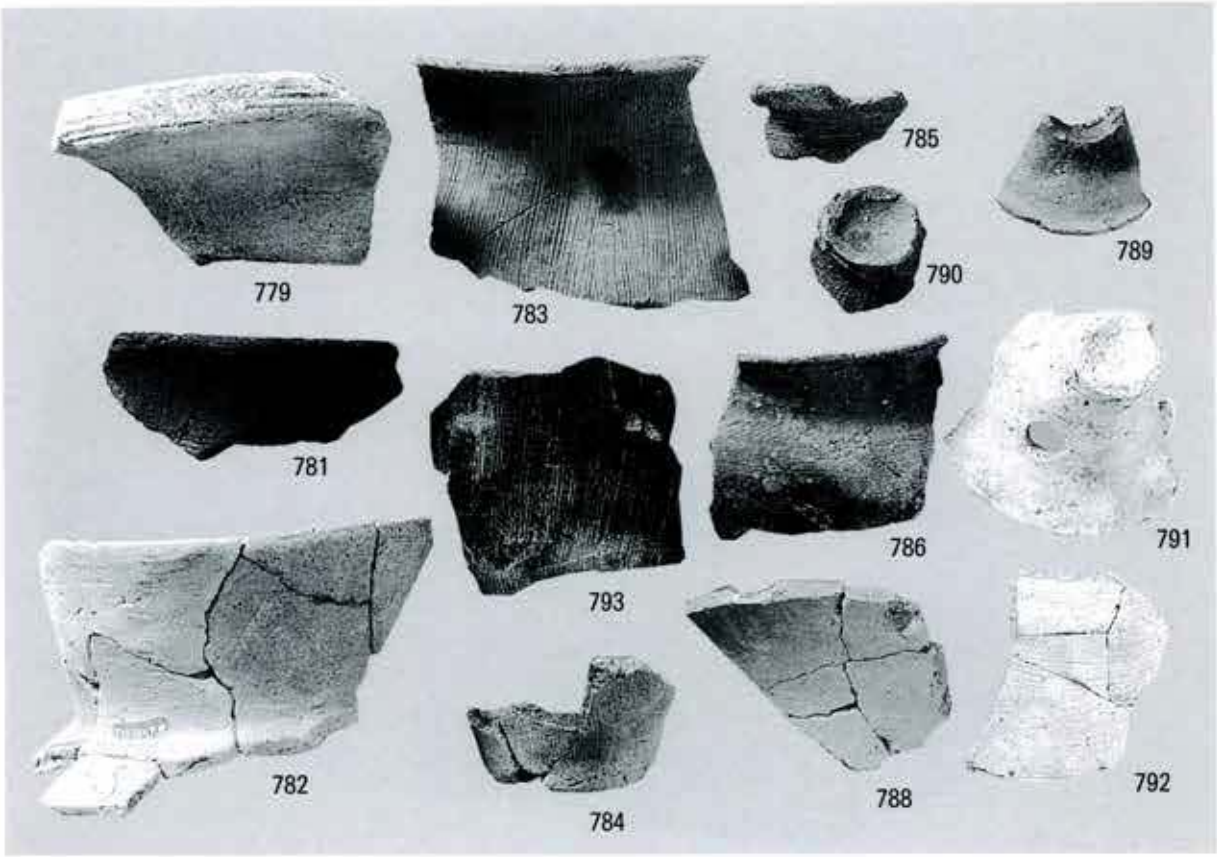
780

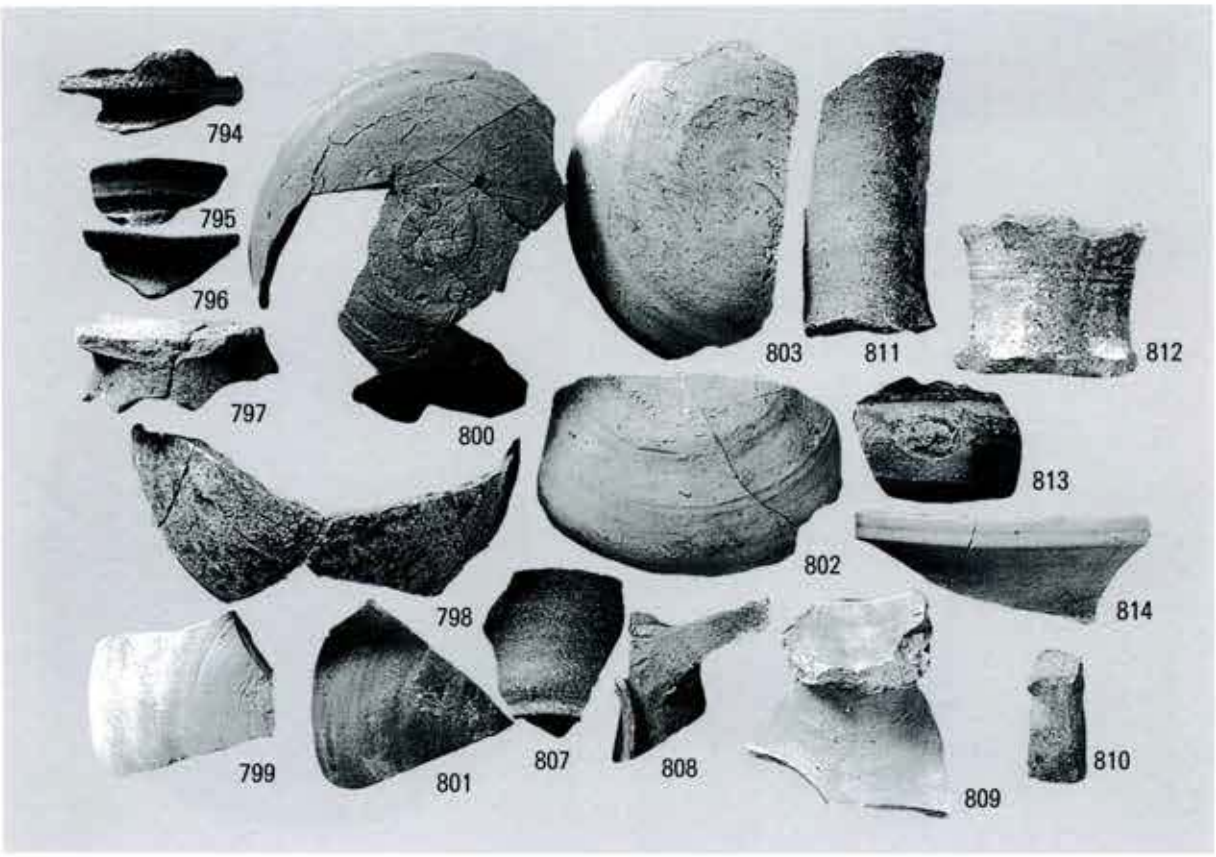
778

787

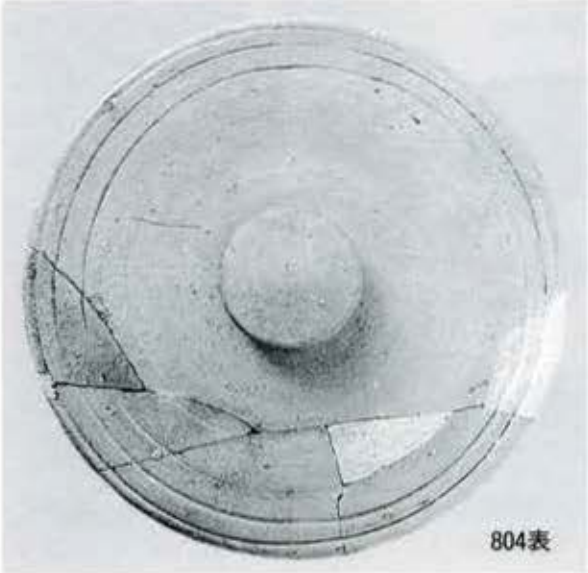
787底

図版 58

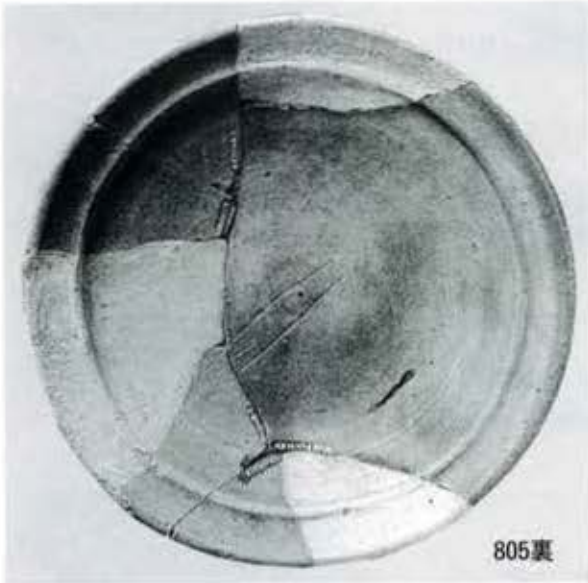

779
783
785
790
789
781
793
786
791
782
784
788
792


794
795
796
797
800
803
811
812
813
802
814
798
799
801
807
808
809
810

804


804表

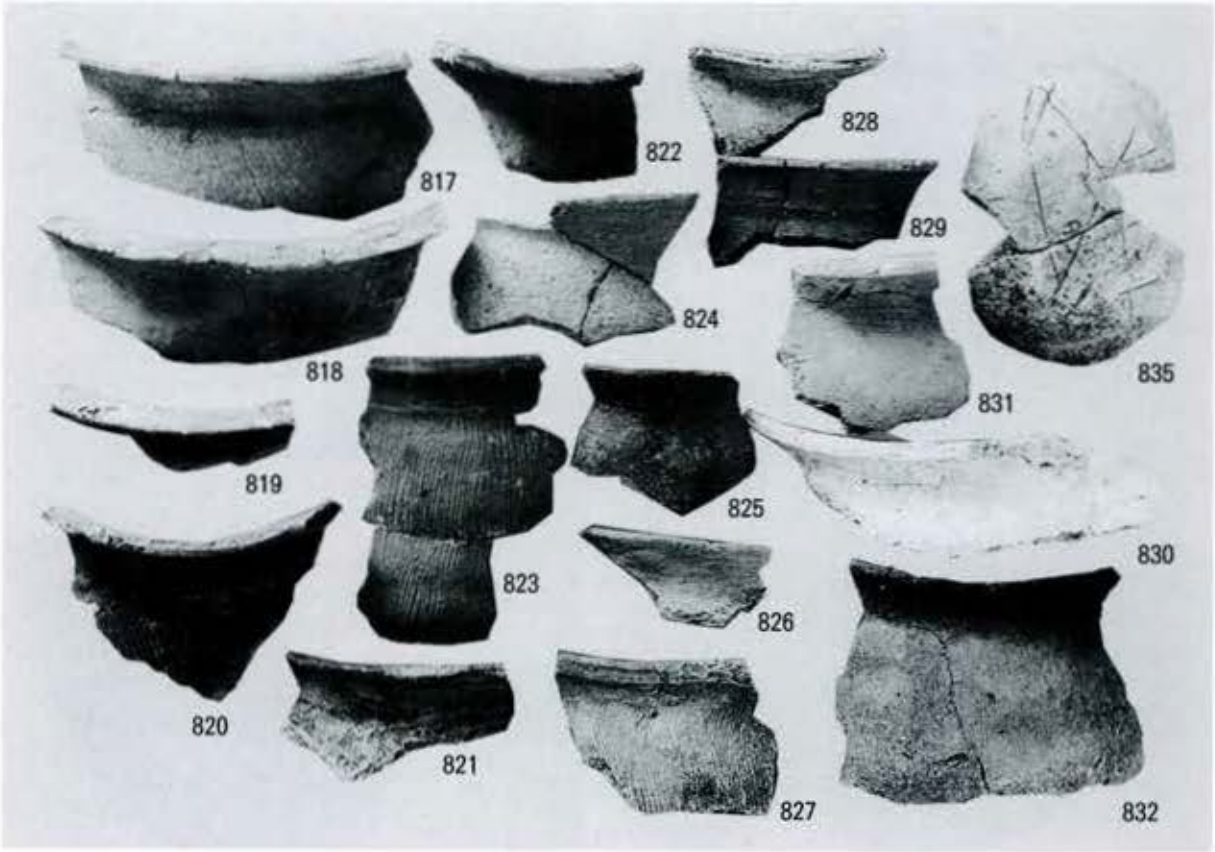
805


805裏

806

815

816


817
818
819
820
821
822
823
824
825
826
827
828
829
830
831
832
835

836

870

875

843

871

893

856

872

900

867

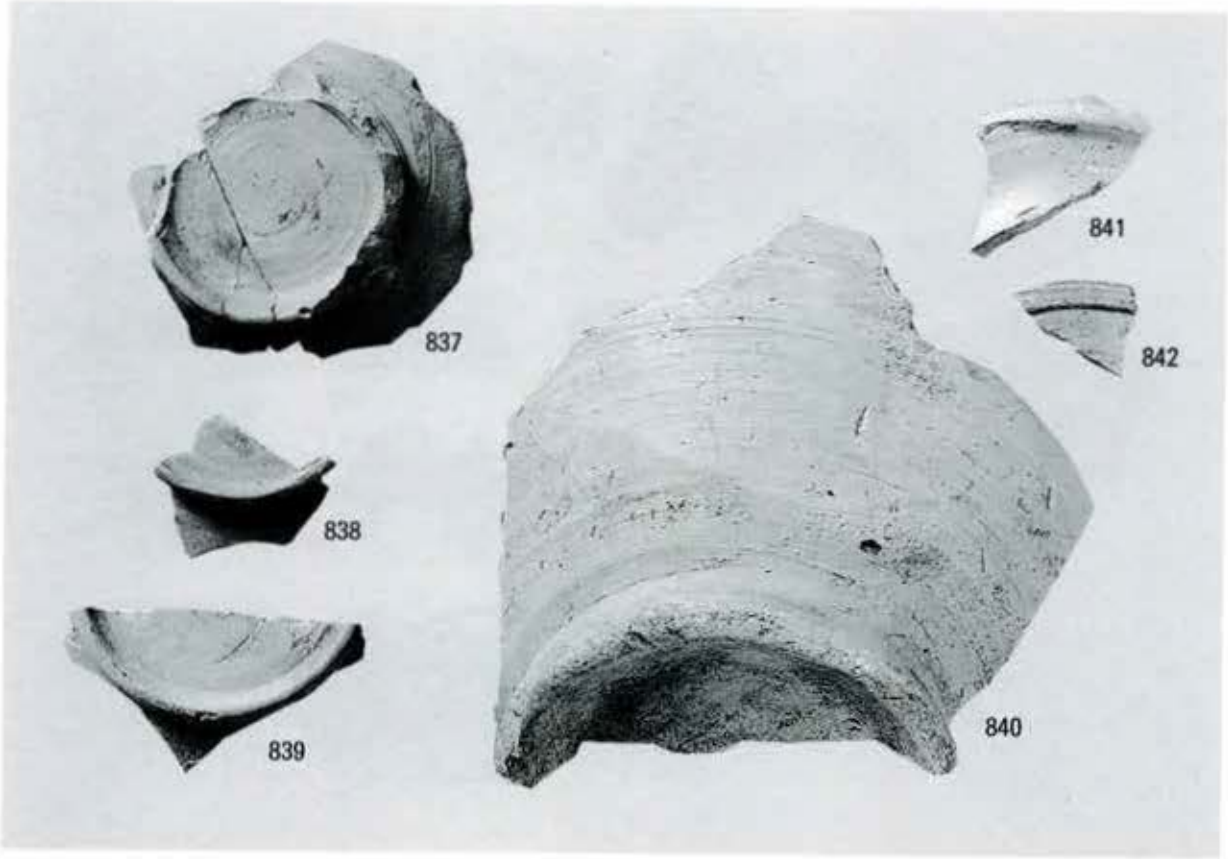
873

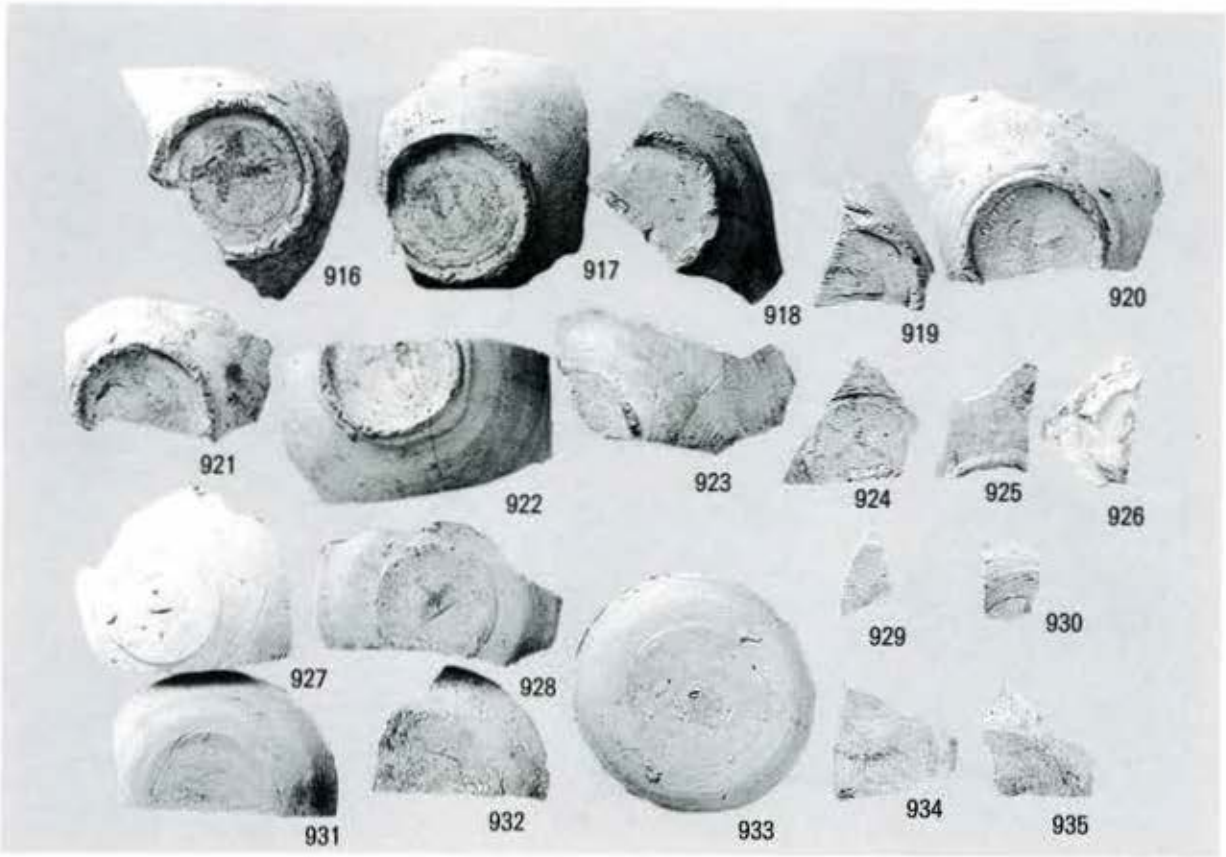
933

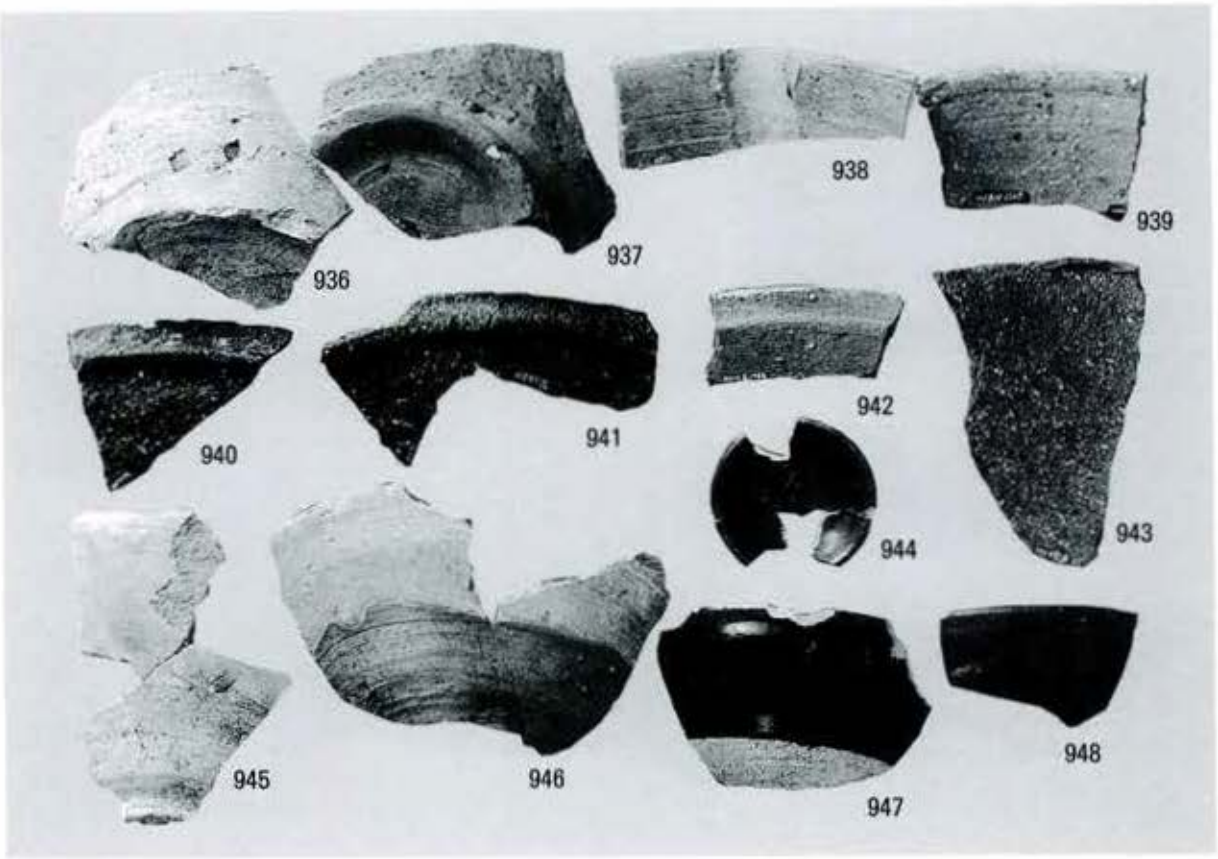
869

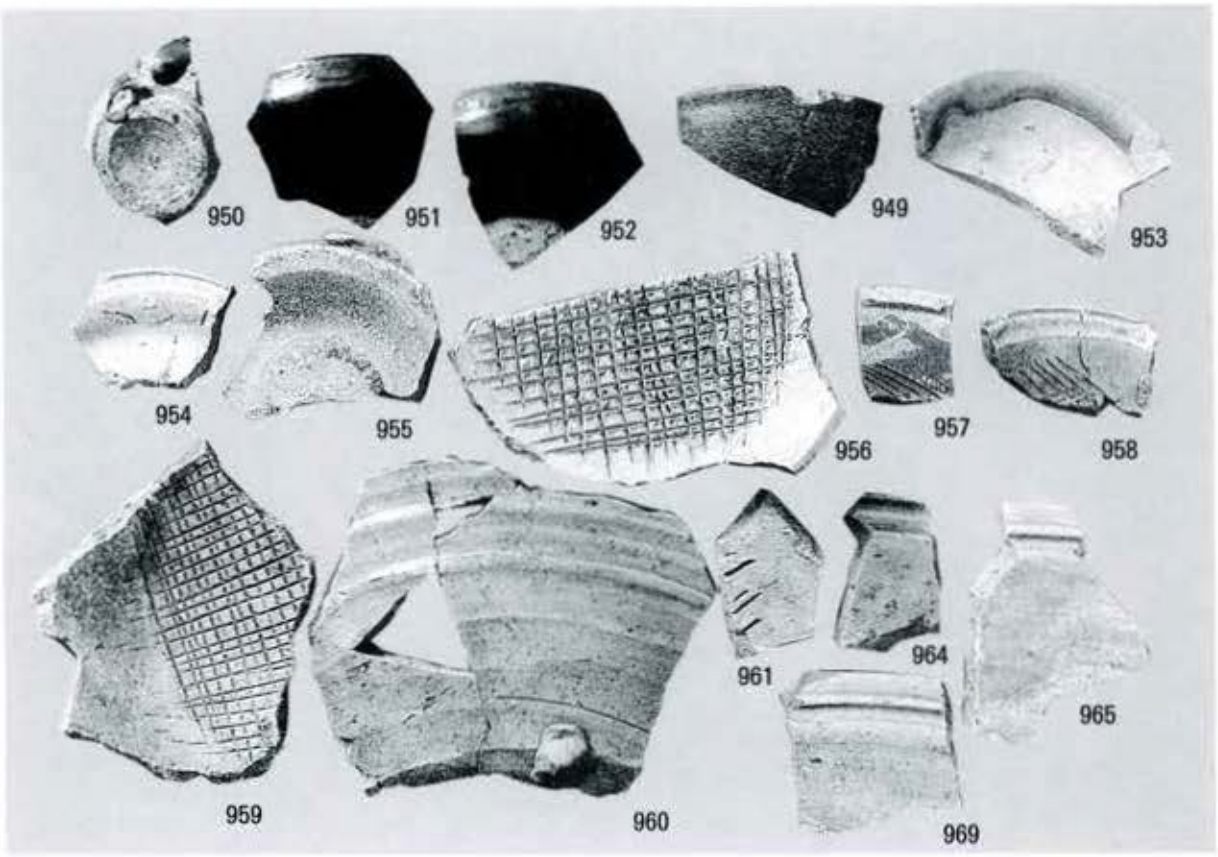
874

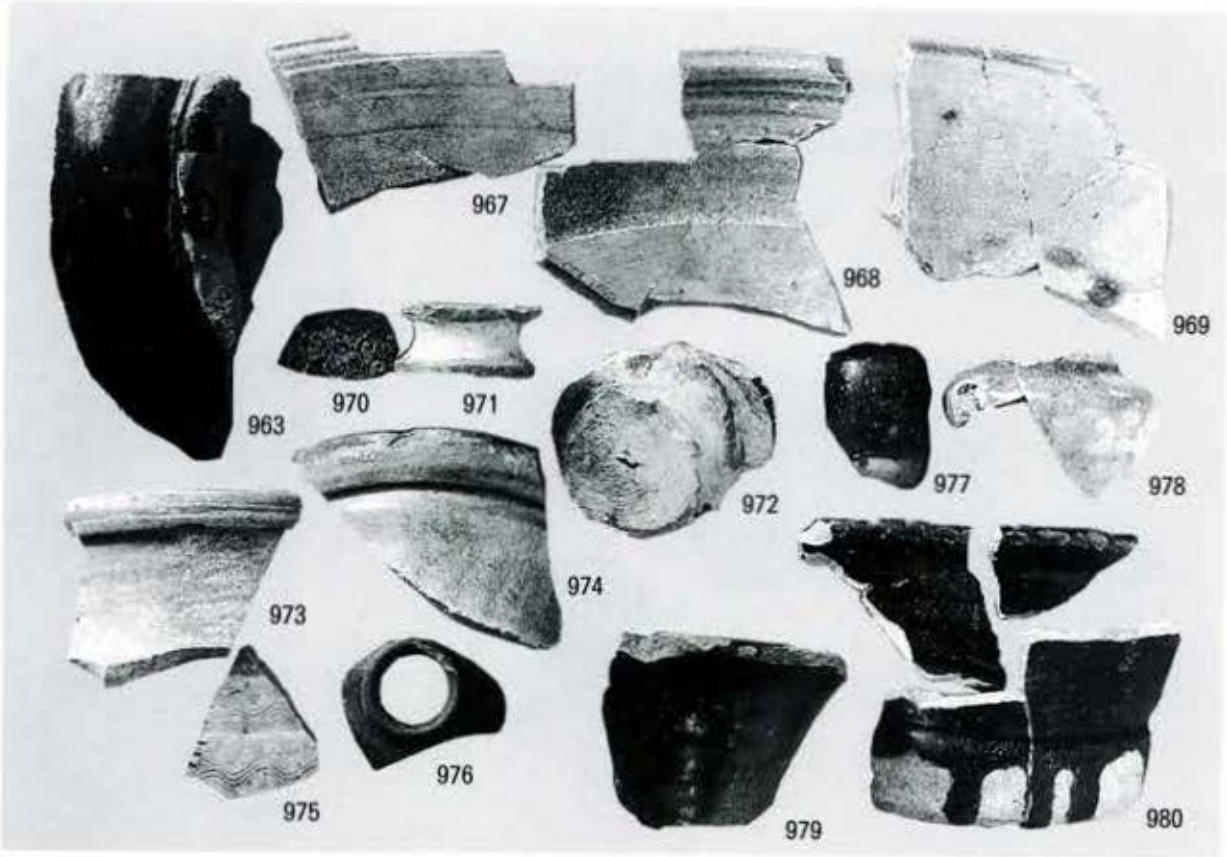
981

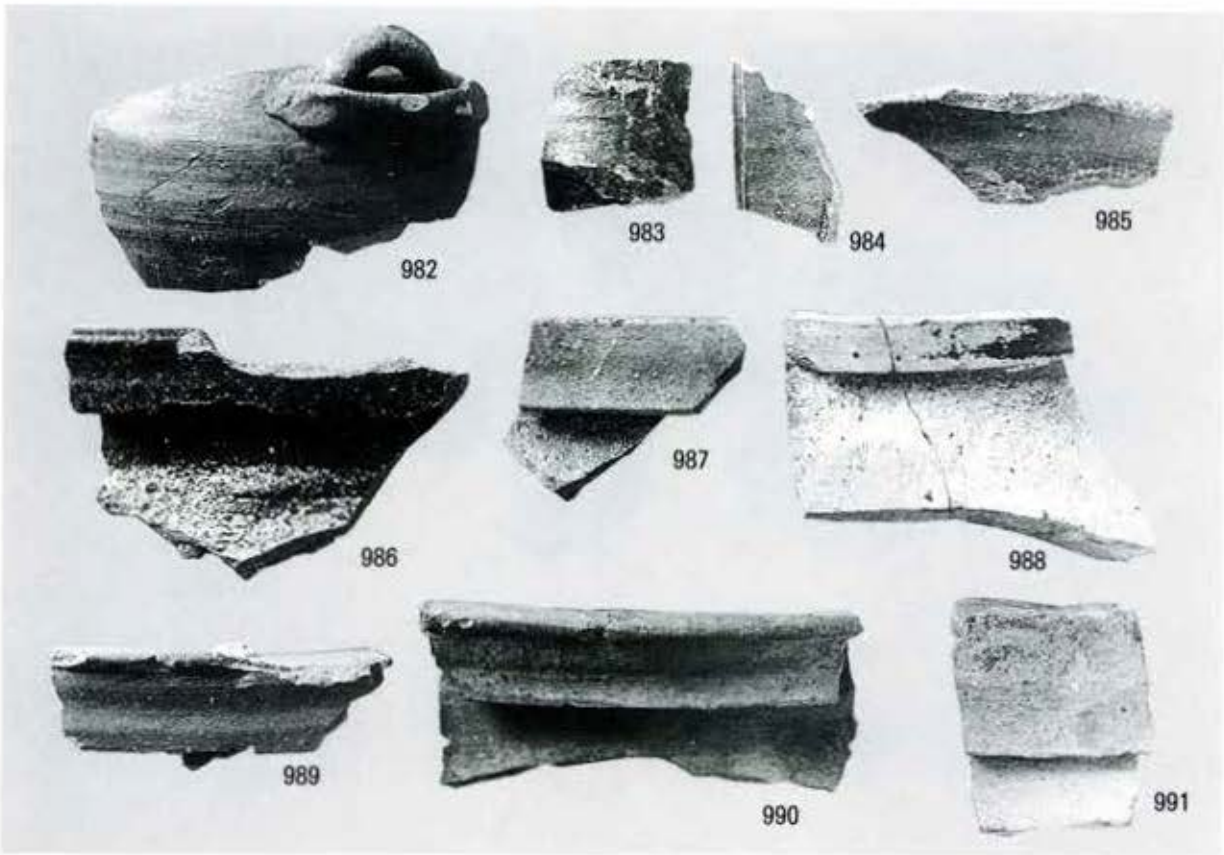

837
838
839
840
841
842


916
917
918
919
920
921
922
923
924
925
926
927
928
929
930
931
932
933
934
935

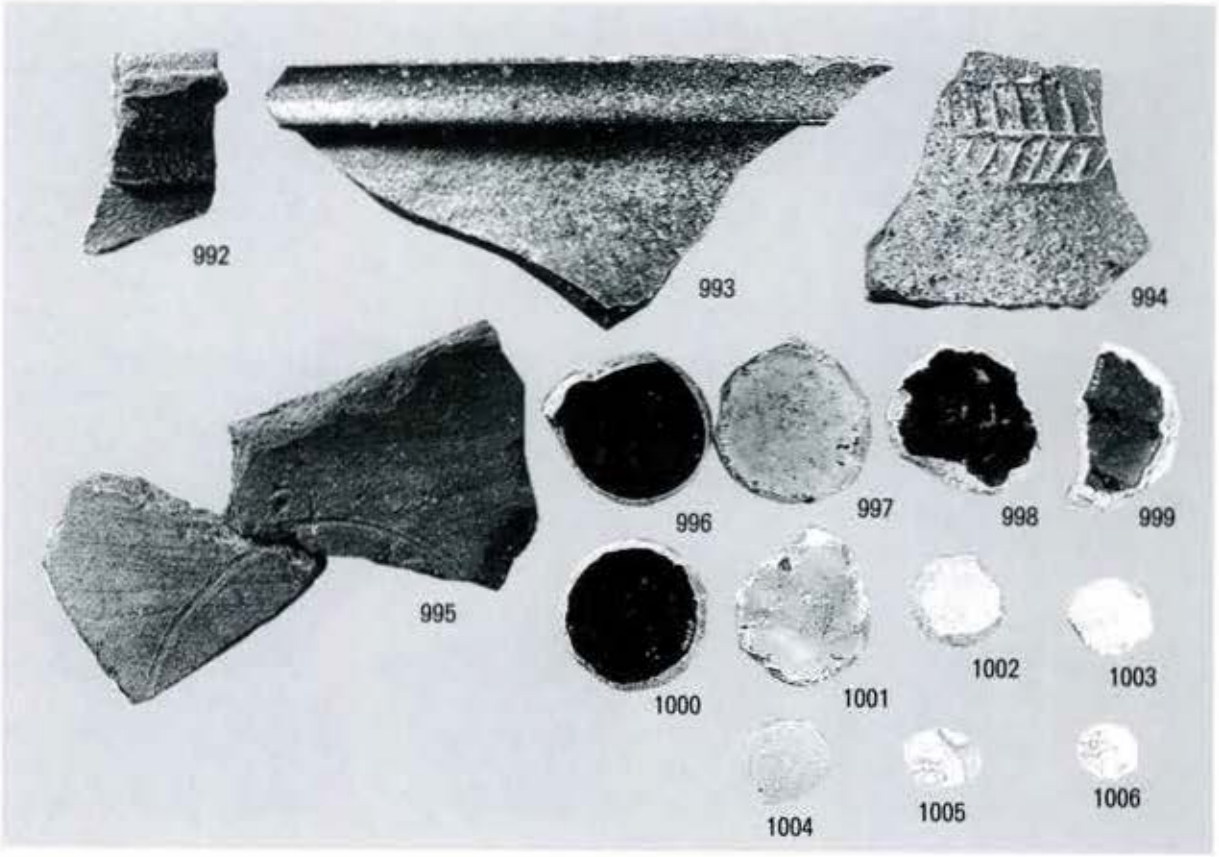

936
937
938
939
940
941
942
943
944
945
946
947
948

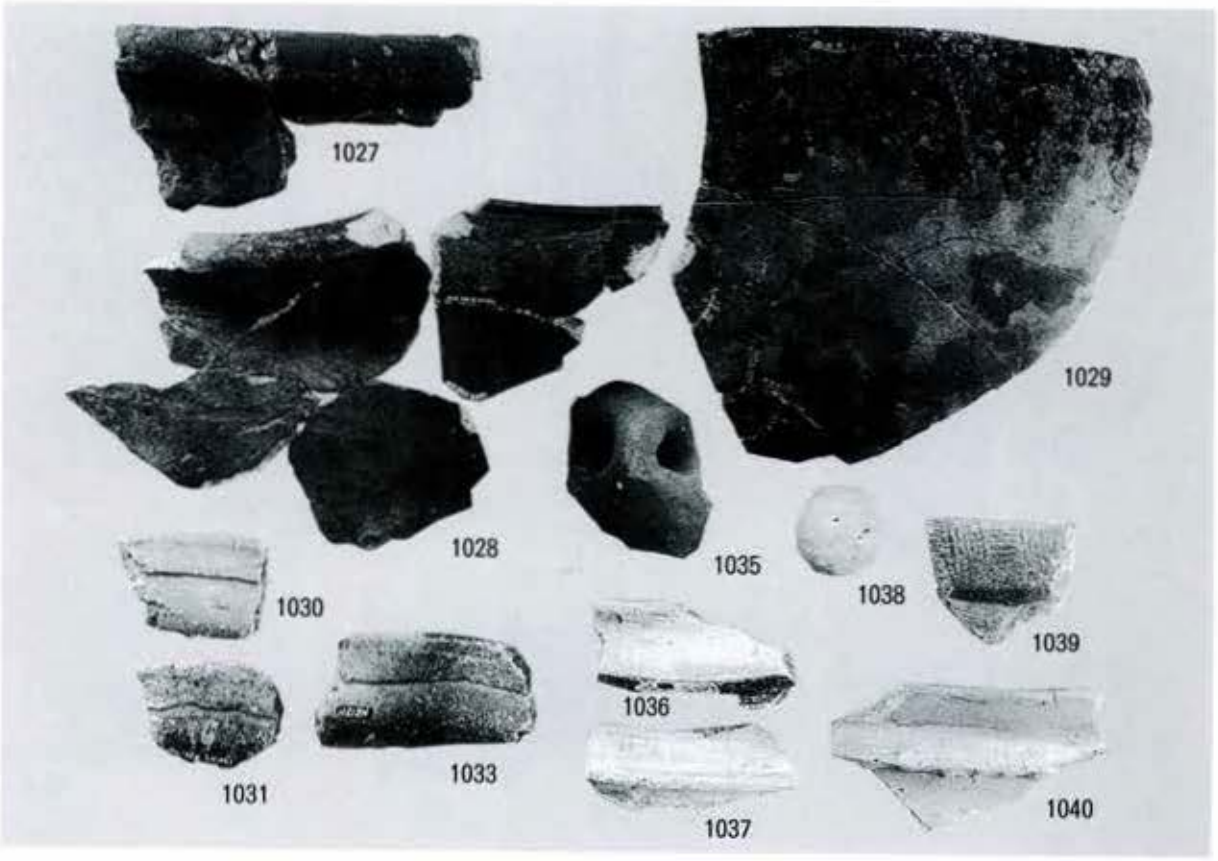

950
951
952
949
953
954
955
956
957
958
959
960
961
964
965
969

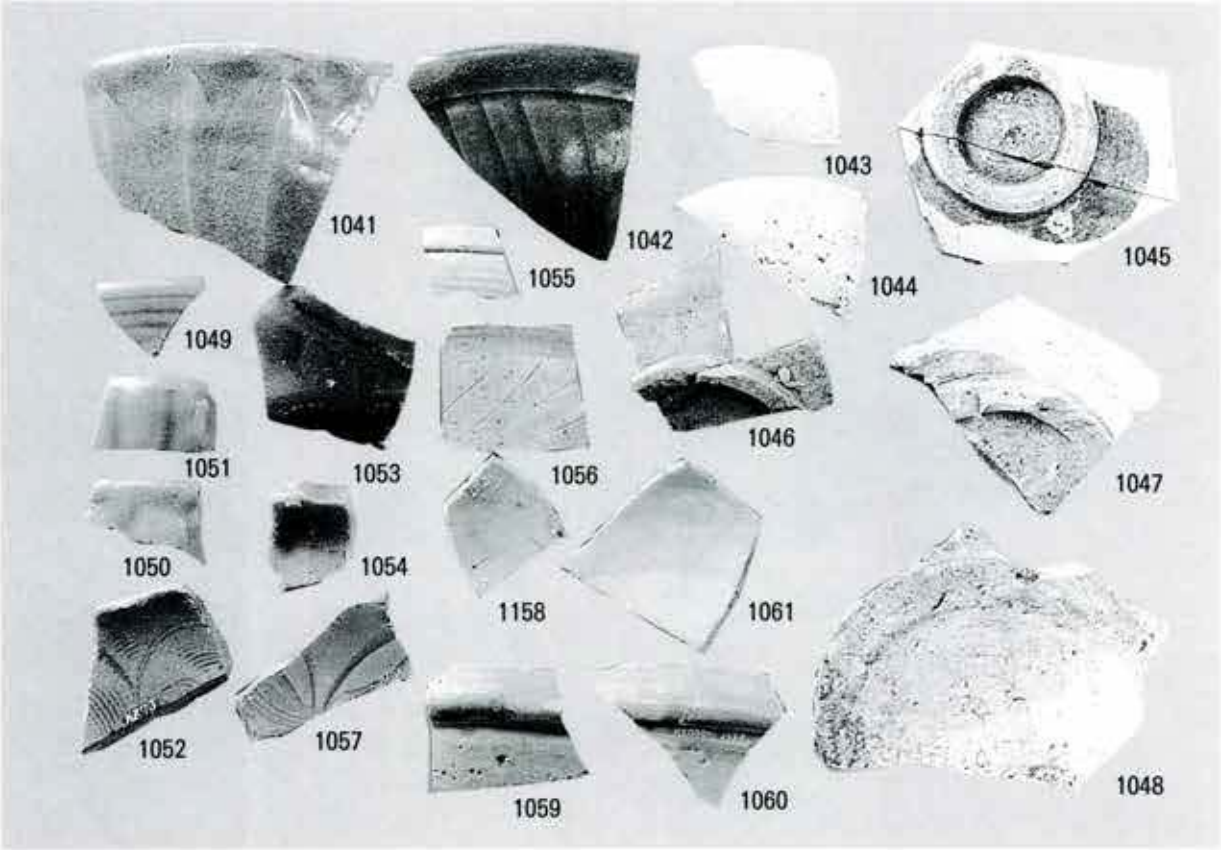

963
967
968
969
970
971
972
973
974
975
976
977
978
979
980

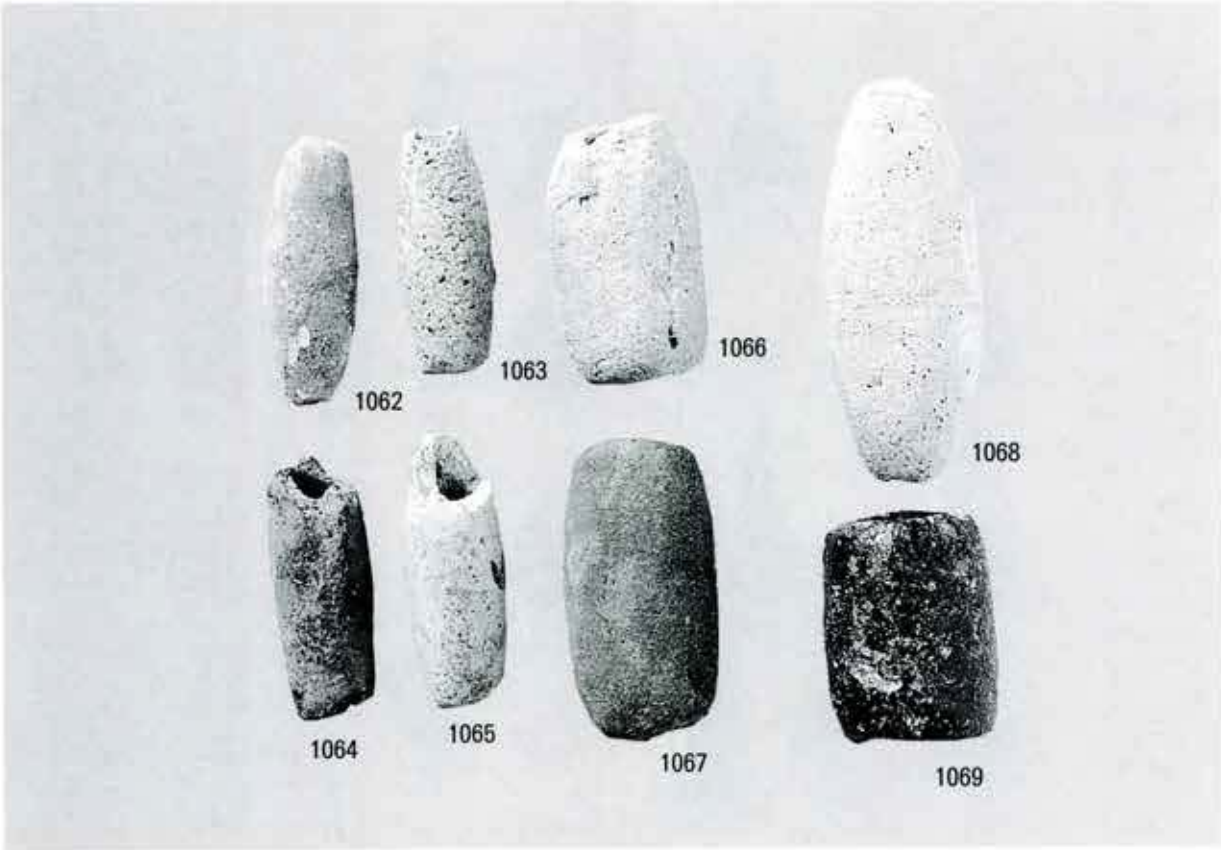

982
983
984
985
986
987
988
989
990
991

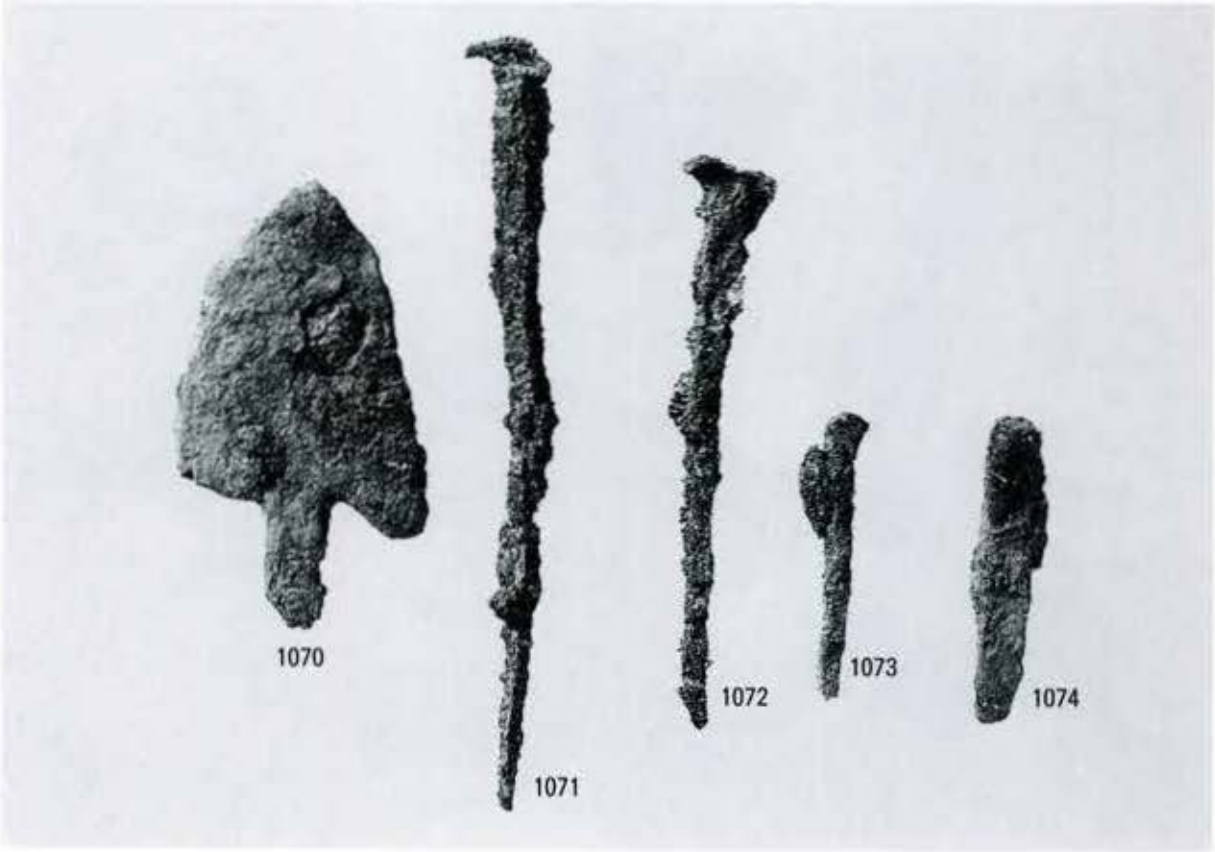
図版 64

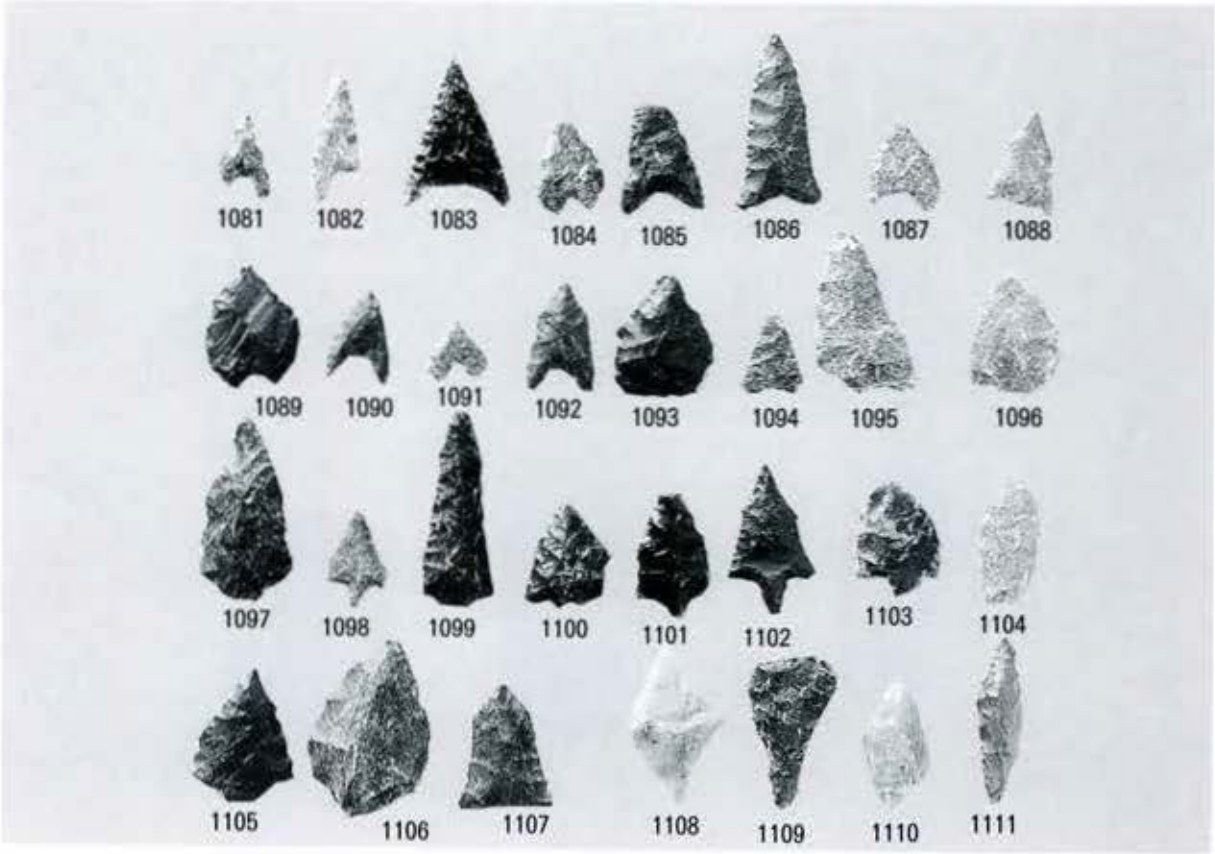

992
993
994
995
996
997
998
999
1000
1001
1002
1003
1004
1005
1006

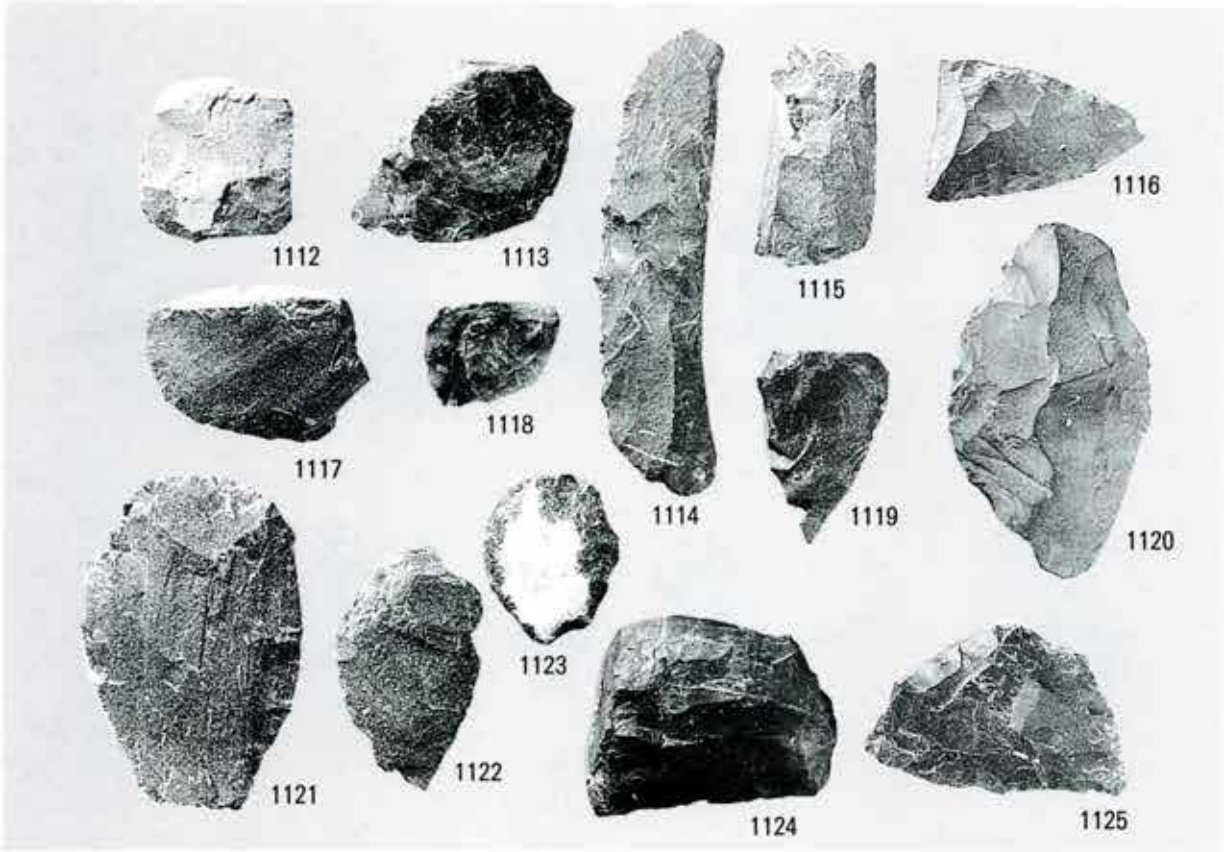

1027
1028
1029
1030
1031
1033
1035
1036
1037
1038
1039
1040

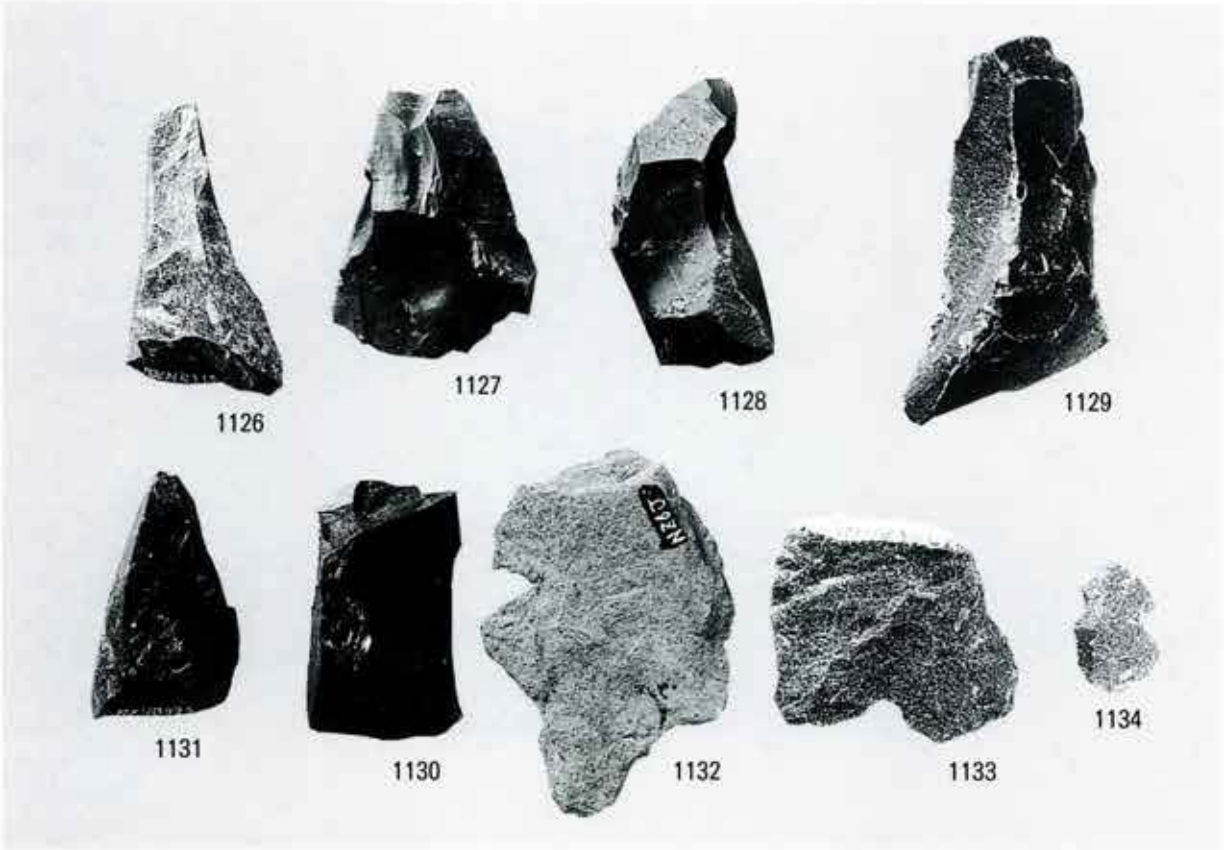

1041
1042
1043
1045
1055
1044
1049
1046
1051
1053
1056
1047
1050
1054
1158
1061
1052
1057
1059
1060
1048


1062
1063
1066
1068
1064
1065
1067
1069

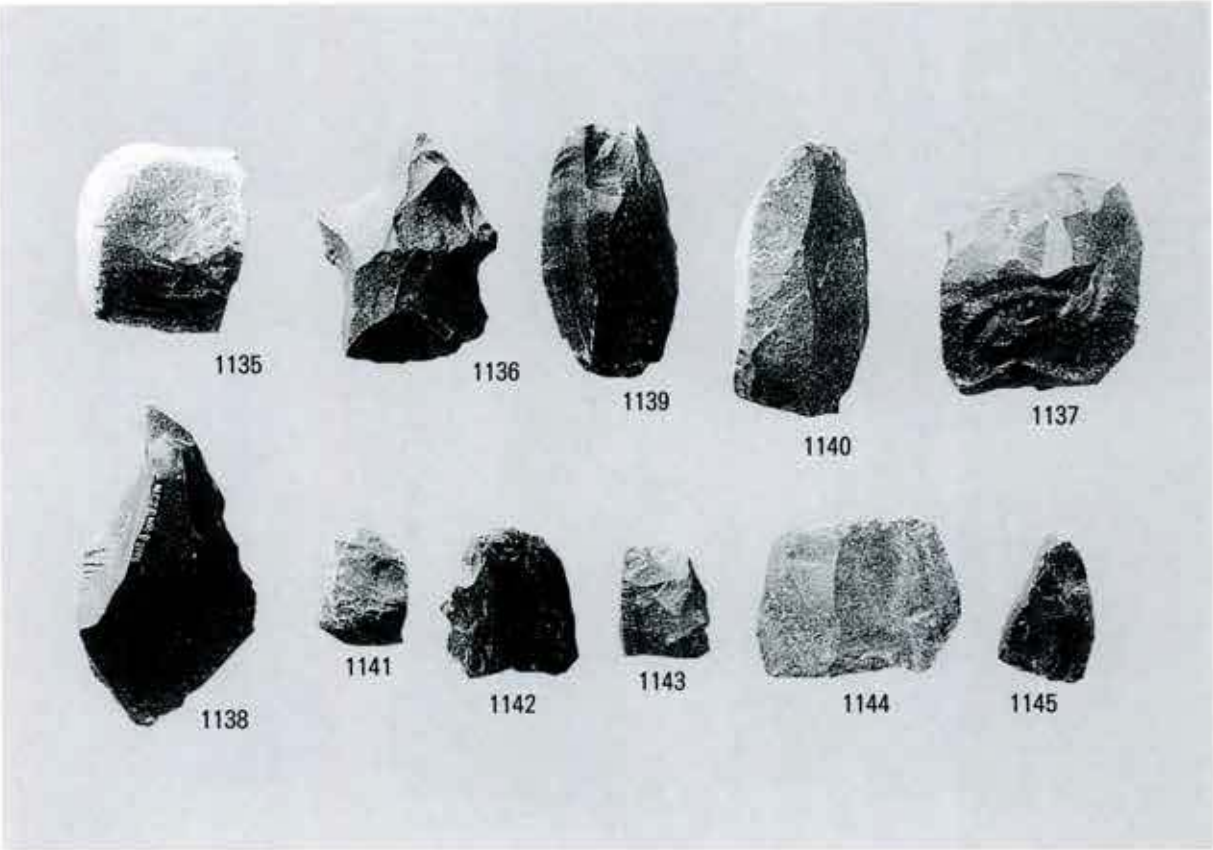

1070
1071
1072
1073
1074

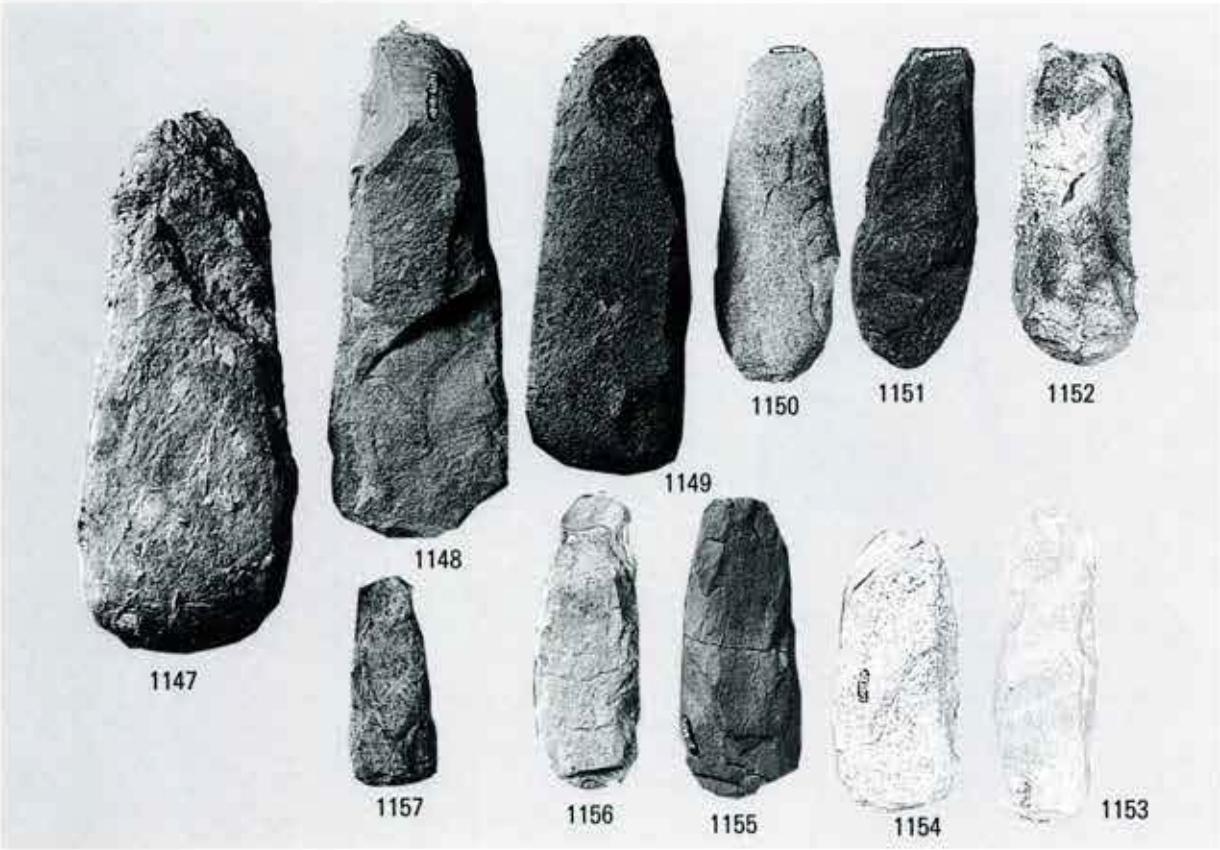

1081
1082
1083
1084
1085
1086
1087
1088
1089
1090
1091
1092
1093
1094
1095
1096
1097
1098
1099
1100
1101
1102
1103
1104
1105
1106
1107
1108
1109
1110
1111

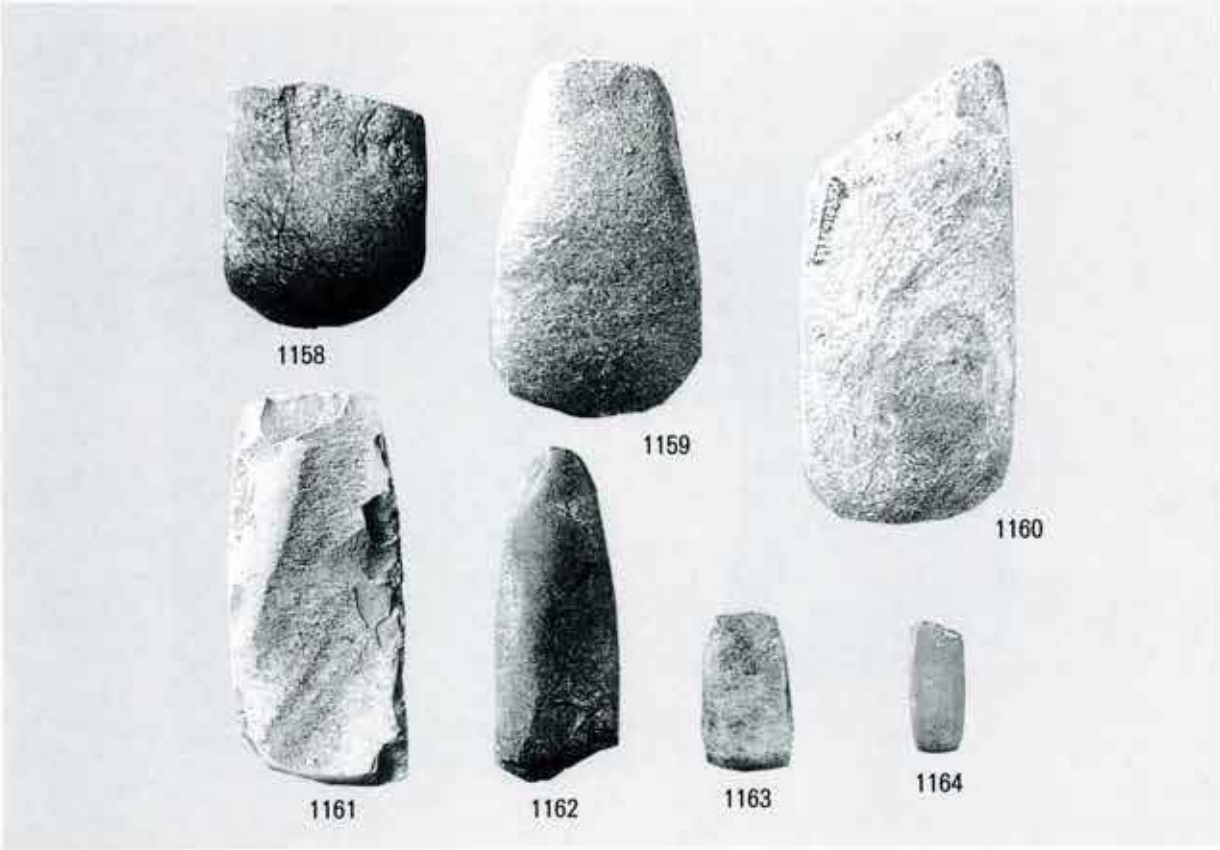

1112
1113
1114
1115
1116
1117
1118
1119
1120
1121
1122
1123
1124
1125

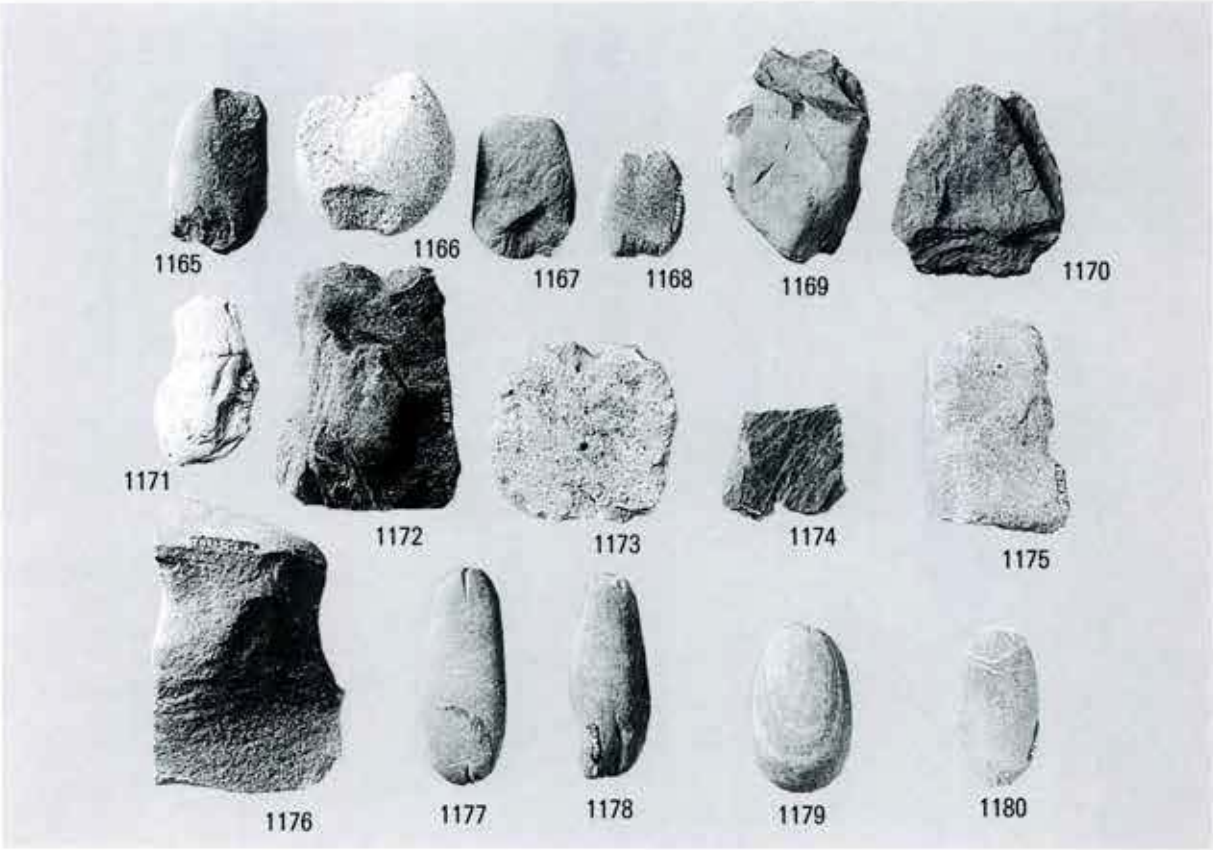

1126
1127
1128
1129
1130
1131
1132
1133
1134

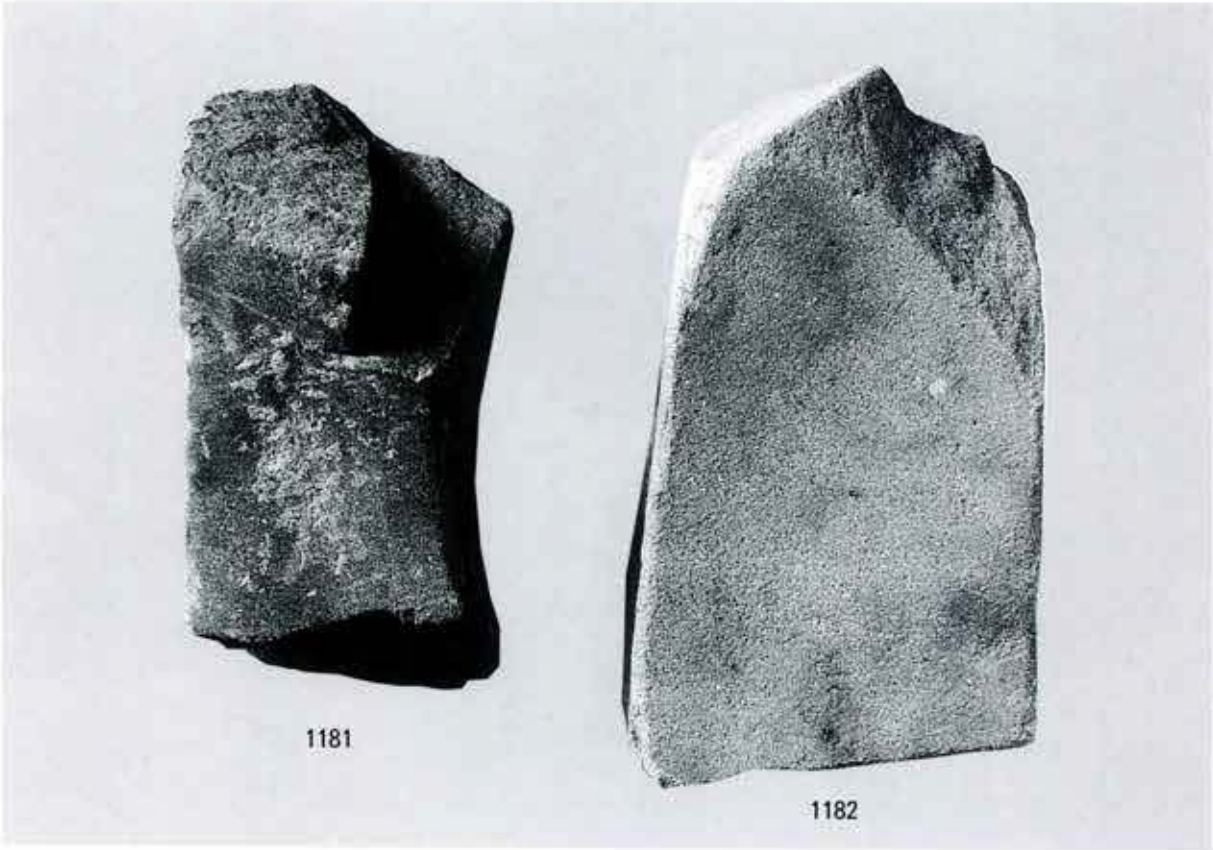
図版 68

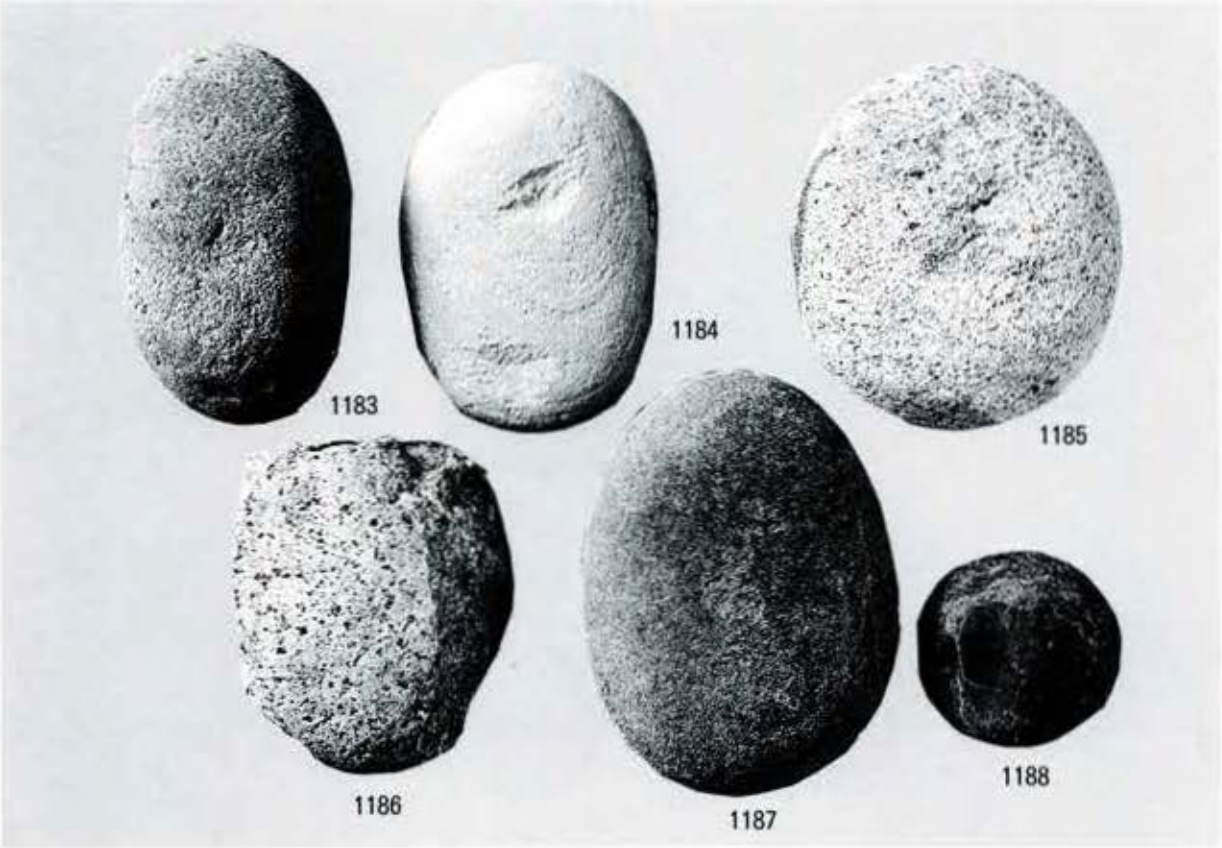


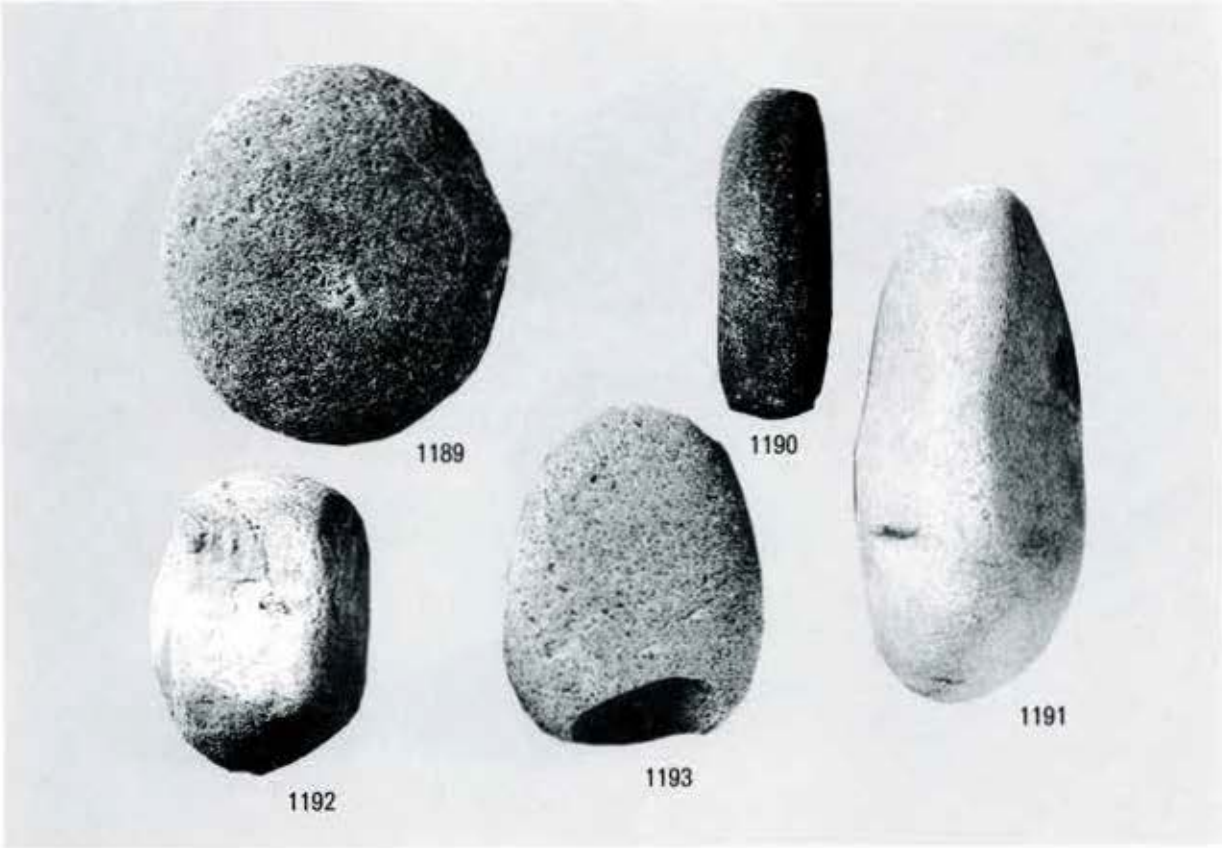

1147
1148
1149
1150
1151
1152
1153
1154
1155
1156
1157

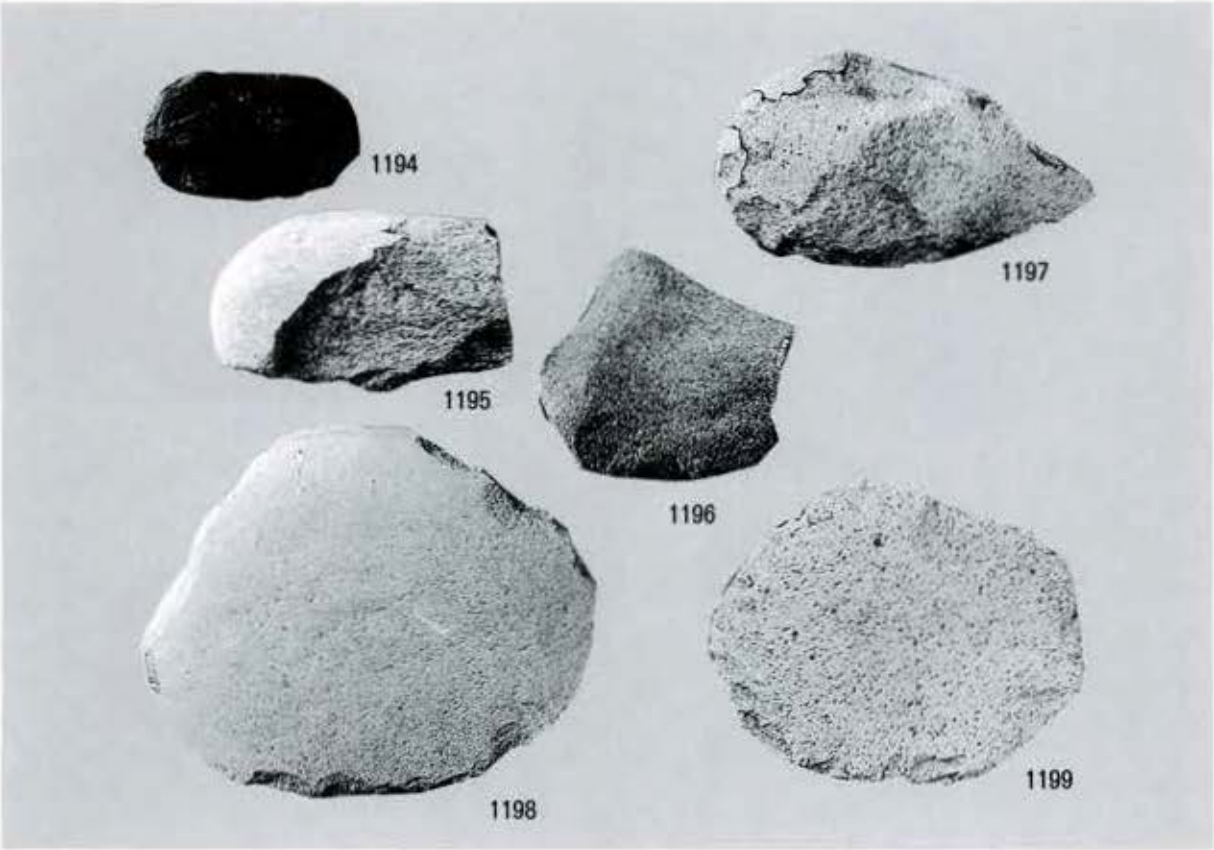

1158
1159
1160
1161
1162
1163
1164

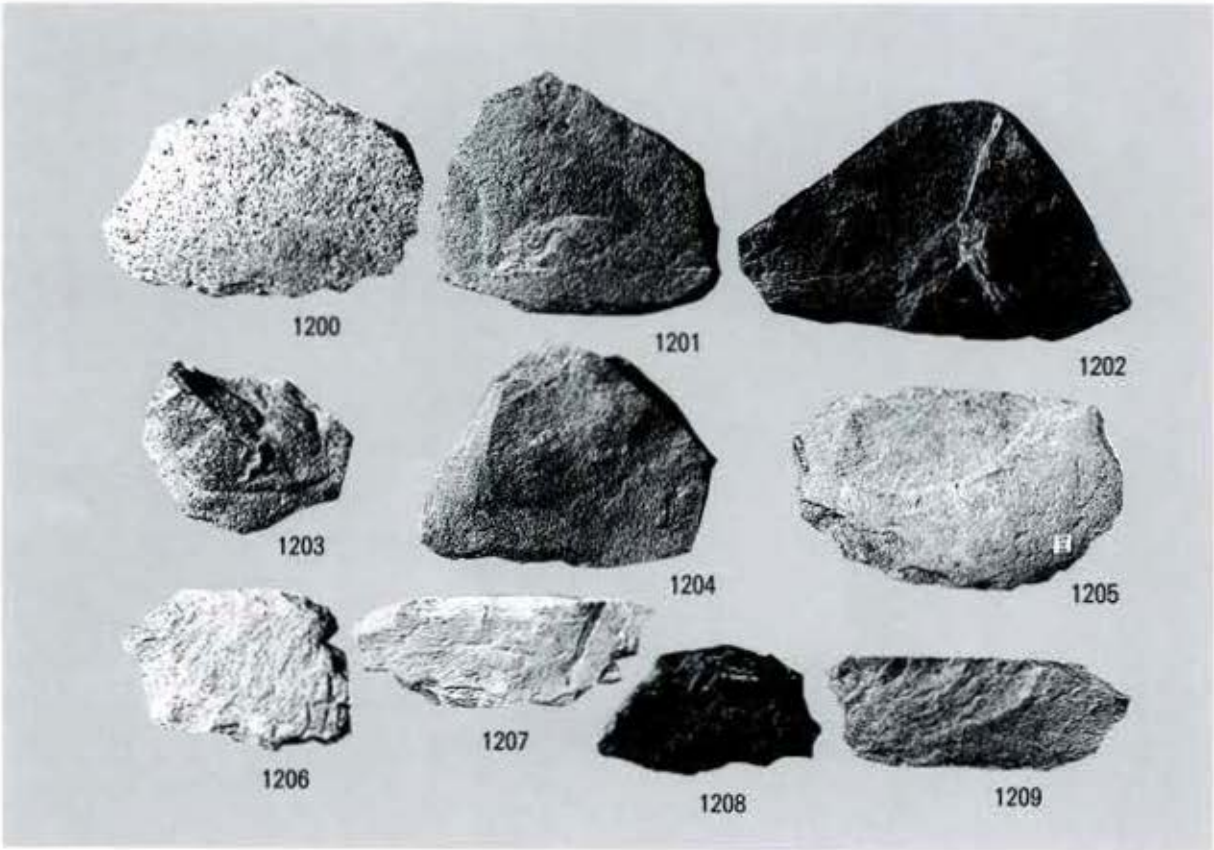

1165
1166
1167
1168
1169
1170
1171
1172
1173
1174
1175
1176
1177
1178
1179
1180

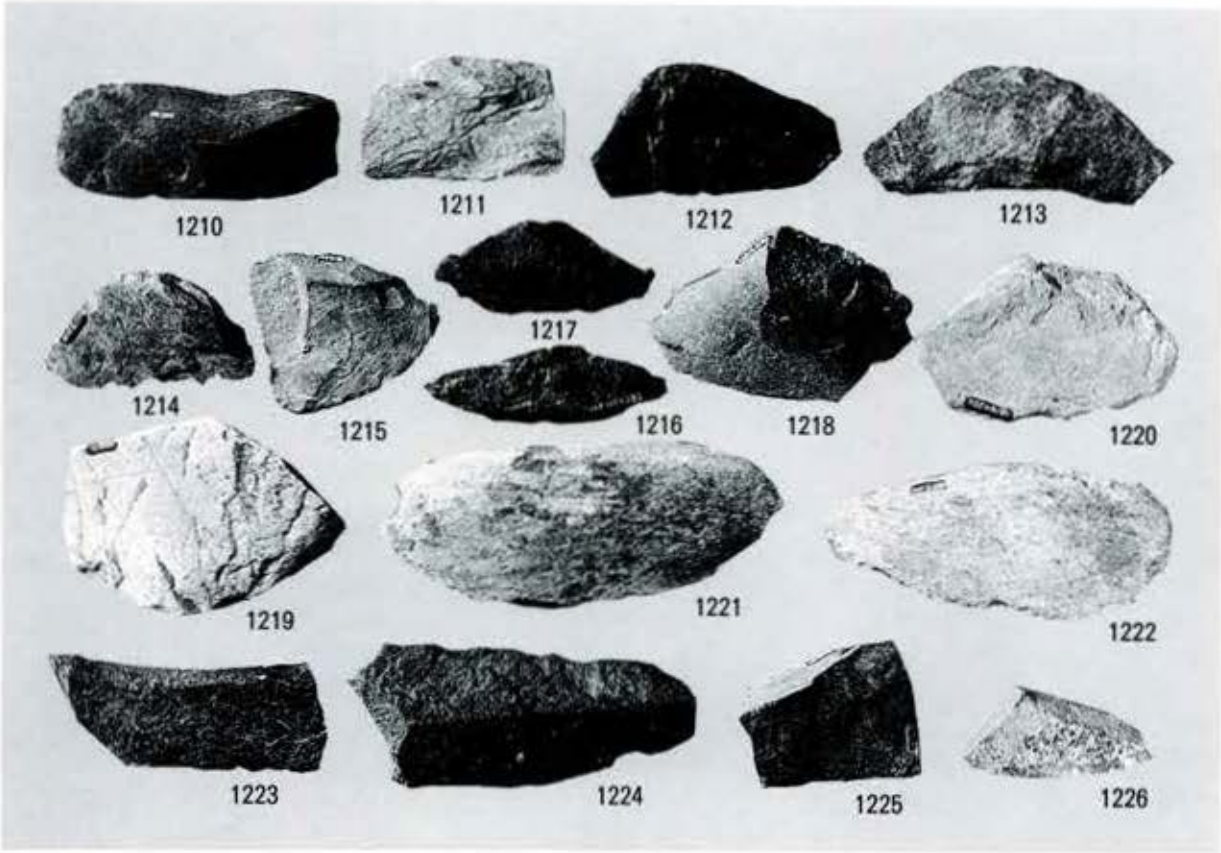

1181
1182

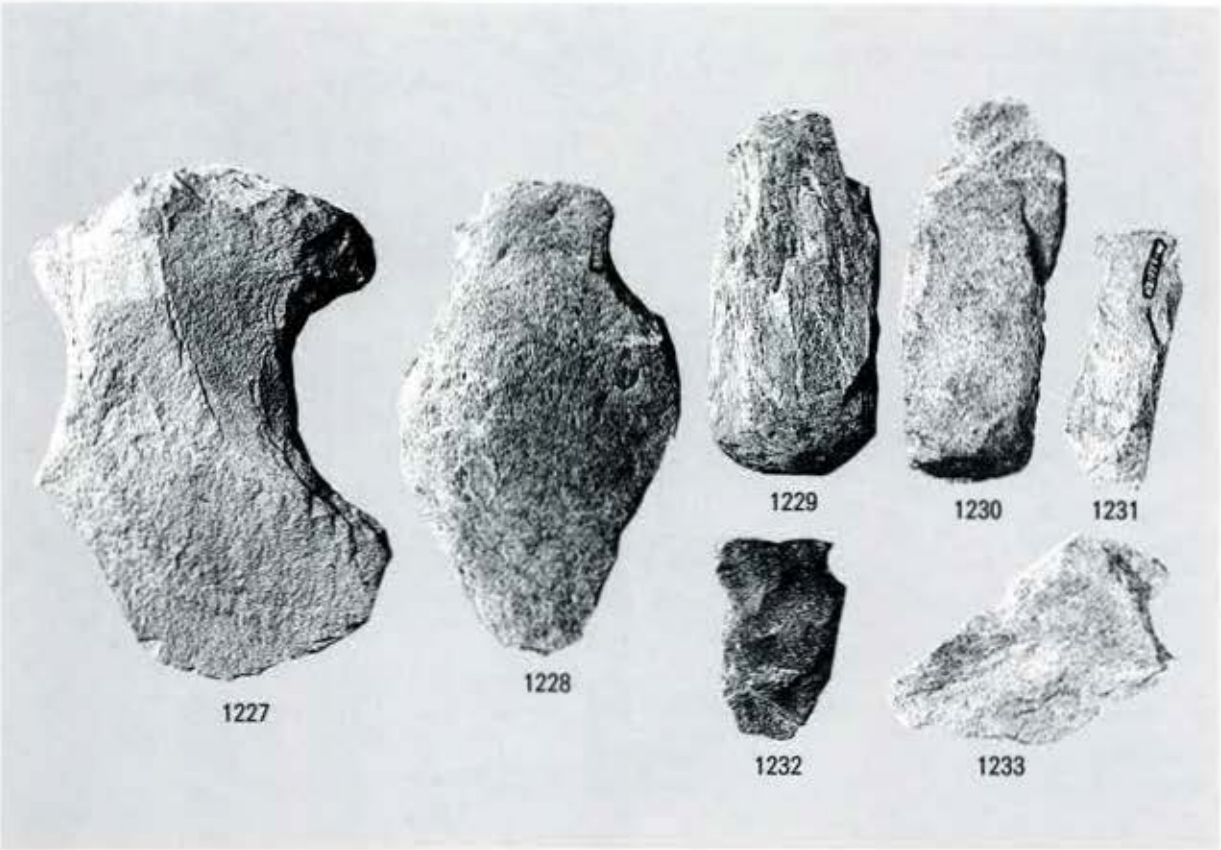

1183
1184
1185
1186
1187
1188

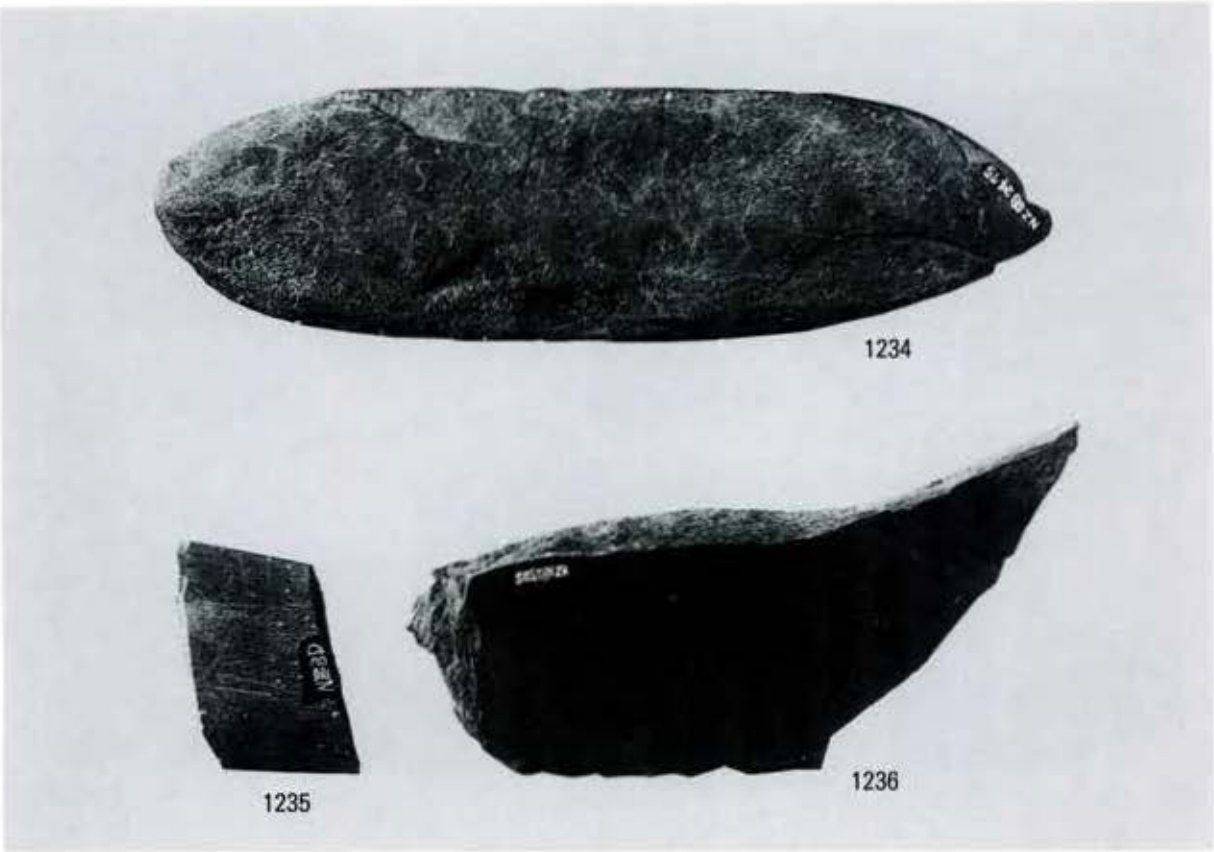

1189
1190
1191
1192
1193


1194
1197
1195
1196
1198
1199


1200
1201
1202
1203
1204
1205
1206
1207
1208
1209


1210
1211
1212
1213
1214
1215
1217
1216
1218
1220
1219
1221
1222
1223
1224
1225
1226

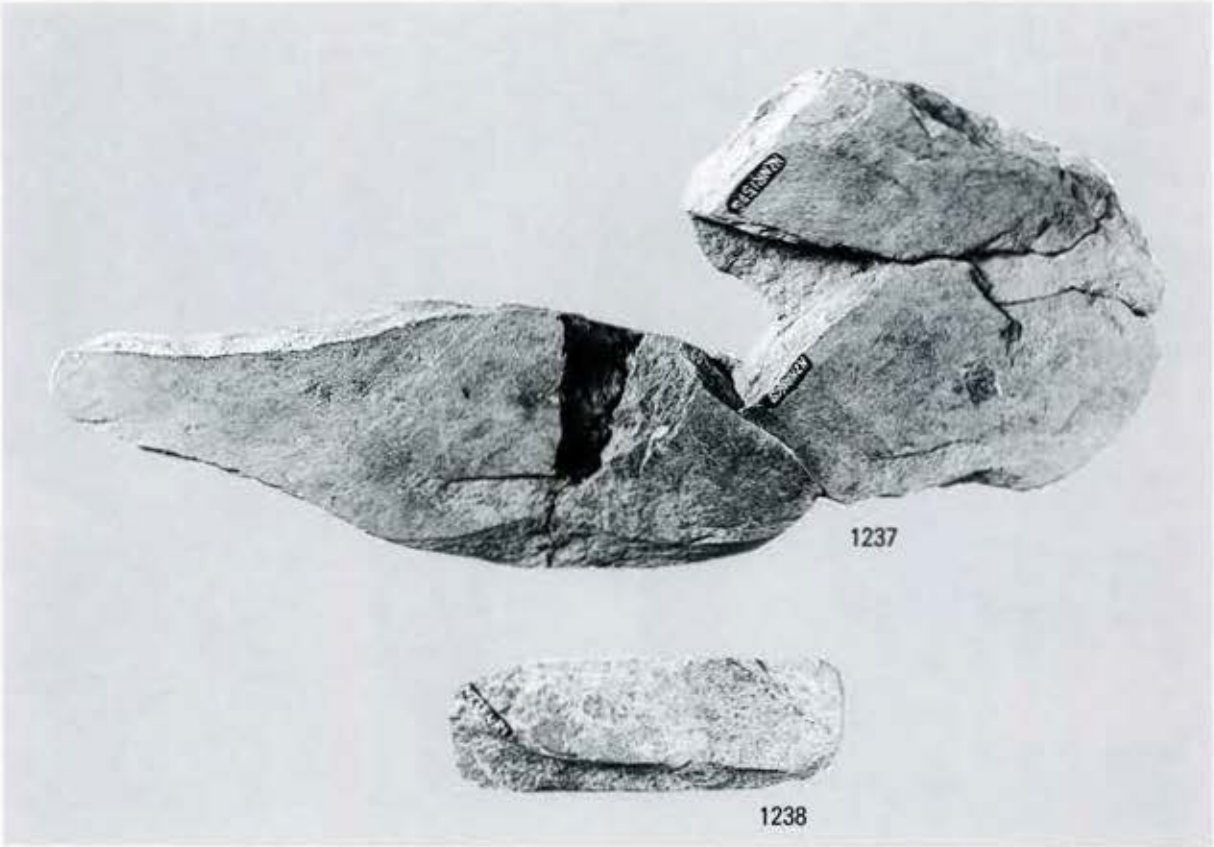

1227
1228
1229
1230
1231
1232
1233



1234

1235

1236

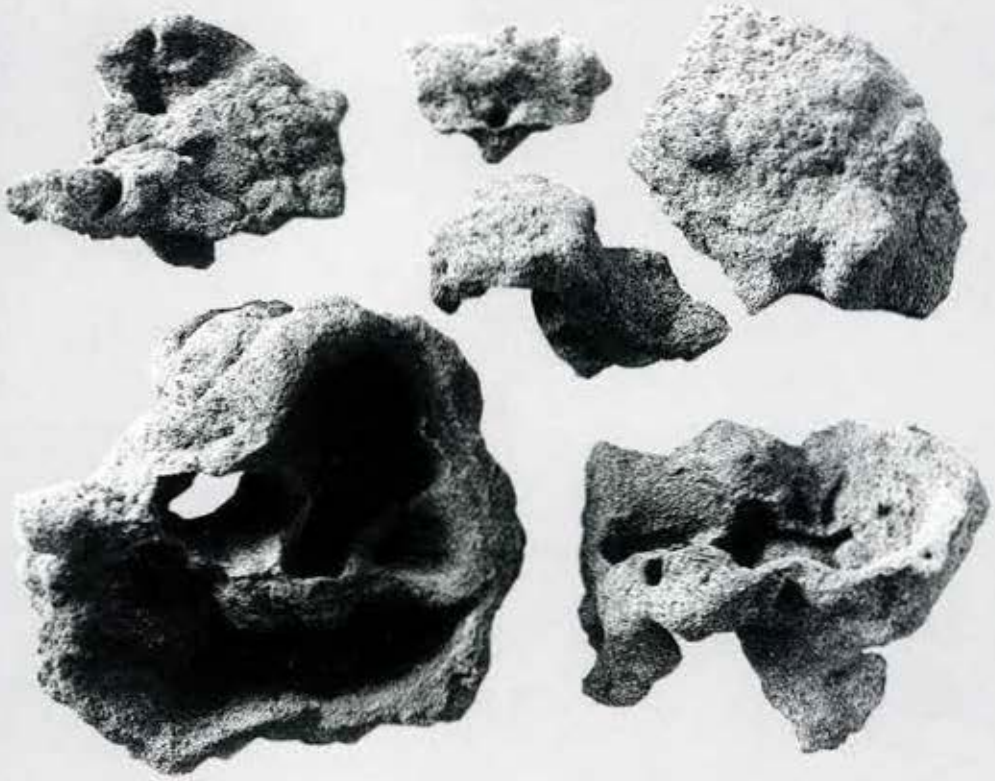


1237

1238

1239

1240



褐鉄鉱

報 告 書 抄 録

ふ り が な	のざさいせき いち
書　　名	野笹遺跡 I
副 書 名	一般国道 248 号道路改良工事に伴う緊急発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター　調査報告書
シリーズ番号	第　66　集
編 集 者 名	千藤克彦、藪科哲男、原田　幹、藤根　久、菱田　量、山形秀樹、今村美智子、宮野義則、鈴木　茂
編 集 機 関	財団法人　岐阜県文化財保護センター
所　在　地	〒502-0003　岐阜県岐阜市三田洞東 1 丁目26番地の 1 ＴＥＬ　058-237-8550
発行年月日	西暦2000年12月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間 調査面積	調査原因
野笹遺跡	岐阜県美濃加茂市野笹町	21211	08845	35° 26′ 36″	137° 02′ 34″	19960514 ～ 19980130 7,500㎡	一般国道248号道路改良工事に伴う

所収遺跡名	種別	時　代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項
野笹遺跡	集落	縄文時代 弥生時代 古墳時代 中　世	住居跡　2軒 住居跡　5軒 壺棺墓　1基 住居跡　24軒 杭群　1基 敷石遺構 掘立建物跡　5軒 溝 柵列　13	縄文土器、石器 弥生土器、石器 土師器 須恵器 灰釉陶器 山茶碗、土師質皿 古瀬戸陶器 中国磁器	土偶、土版出土 東海最古の遠賀川土器 人面付き土器 松菊里型類似住居跡

岐阜県文化財保護センター調査報告書　第66集

野　笹　遺　跡　I

2000年12月25日

編集・発行　財団法人　岐阜県文化財保護センター
岐阜県岐阜市三田洞東１－26－１
印　　刷　舟　橋　印　刷　株　式　会　社